CBETA電子佛典集成

CBETA Chinese Electronic Tripitaka Collection

eBook

B32n0173

元亨釋書

師鍊著

財團法人 佛教電子佛典基金會

目次

- 編輯說明
- 章節目次
  - 原書目錄
  - 表
  - 傳智一之一
    - 目次
    - 菩提達磨
    - 釋慧灌
    - 釋智藏
    - 釋道昭
    - 釋善無畏
    - 釋慈訓
    - 釋鑑真
    - 釋最澄
    - 釋空海
  - 傳智一之二
    - 目次
    - 釋榮西
  - 慧解二之一
    - 釋義淵
    - 釋道慈
    - 釋智光
    - 釋良辨
    - 釋善珠姓
    - 釋明詮
    - 釋明一
    - 釋慈寶
    - 釋善謝
    - 釋慈雲
    - 釋勝悟
    - 釋善議
    - 釋安澄
    - 釋光意
    - 釋常樓

    - 釋常騰
    - 釋品慧
    - 釋道證
    - 釋奉實
    - 釋勤操
    - 釋護命
    - 釋道雄
    - 釋安慧
    - 釋義真
    - 釋圓澄
  - 慧解二之二
    - 目次
    - 釋守印
    - 釋實慧
    - 釋明福
    - 釋延祥
    - 釋長訓
    - 釋實敏
    - 釋源仁
    - 釋真濟
    - 釋圓仁
    - 釋常曉
    - 釋宗睿
    - 釋道昌
    - 釋真雅
    - 釋隆海
    - 釋遍昭
    - 釋圓珍
  - 慧解二之三
    - 目次
    - 釋益信
    - 釋聖寶
    - 釋寬朝
    - 釋仁海
    - 釋德一
    - 釋藥智
    - 釋安然
    - 釋玄昭

- 釋增利
- 釋延儛
- 釋壹和
- 釋禪喜
- 釋良源
- 釋仲算
- 釋法藏
- 釋千觀
- 釋真義
- 釋勸修
- 釋源信
- 釋覺運
- 釋覺超
- 釋慶祚
- 釋實因
- 釋院源
- 釋明尊
- 釋明算
- 釋慶耀

- 慧解二之四
  - 目次
  - 釋安海
  - 釋主恩
  - 釋桓舜
  - 釋永觀
  - 釋寬印
  - 釋皇慶
  - 釋延殷
  - 釋大圓
  - 釋宗範
  - 釋延義
  - 釋永緣
  - 釋覺鋐
  - 釋源空
  - 釋明遍
  - 釋貞慶
  - 釋高辨
- 淨禪三之一

- 目次
- 釋義空
- 釋覺阿
- 釋道元
- 釋榮朝
- 釋法心
- 釋覺心
- 釋道隆
- 釋普寧
- 釋了然
- 釋普門
- 釋德儉

- 淨禪三之二
  - 目次
  - 釋辯圓
- 淨禪三之三
  - 目次
  - 釋祖元
  - 釋正念
  - 釋一寧
  - 釋湛照
  - 釋道海
  - 釋昭元
  - 釋慧曉
  - 釋順空
  - 釋祖圓
- 感進四之一
  - 目次
  - 釋義覺
  - 釋道寧
  - 釋道藏
  - 釋定慧
  - 釋祚蓮
  - 釋實忠
  - 釋報恩
  - 釋玄賓
  - 釋慧勝
  - 釋道公

- 釋法勢
- 釋貞崇
- 釋寬忠
- 釋證如
- 釋智泉
- 釋延鎮
- 釋成尊
- 釋源心
- 釋滿米
- 釋日藏
- 釋峰延
- 釋藏緣
- 釋成意
- 釋安願
- 釋長圓
- 釋心譽
- 釋覺助
- 釋平願
- 釋真遠
- 釋光空
- 釋妙尊
- 釋珍蓮
- 釋雲淨
- 釋信誓
- 釋恩融
- 釋靜安
- 釋慧達
- 釋延昌
- 釋尋禪
- 釋源泉
- 釋見佛

感進四之二

- 目次
- 釋相應
- 釋行教
- 釋教圓
- 釋義照
- 釋行巡

- 釋觀賢
- 釋成典
- 釋增命
- 釋尊意
- 釋泰舜
- 釋明達
- 釋淨藏
- 釋修入
- 釋圓賀
- 釋公伊
- 釋濟源
- 釋陽生
- 釋增賀
- 釋寬空
- 釋範俊
- 釋信覺
- 釋勝覺

◦ 感進四之三

- 目次
- 釋理滿
- 釋真興
- 釋慶圓
- 釋餘慶
- 釋睿實
- 釋定照
- 釋性空
- 釋平忍
- 釋蓮防
- 釋寂源
- 釋勝算
- 釋行圓
- 釋良忍
- 釋寂禪
- 釋行空
- 釋蓮長
- 釋以圓
- 釋教真
- 釋經源

- 釋慶日
- 釋覺勝
- 釋佛蓮
- 釋維範
- 釋暹覺
- 釋琳賀
- 釋戒深
- 釋圓久
- 釋行仙
- 釋性信
- 釋覺法
- 釋基燈
- 釋叡好
- 釋仁鏡
- 釋良算
- 釋玄常
- 釋清海
- 釋重怡

- 感進四之四
  - 目次
  - 釋行尊
  - 釋延朗
  - 釋慶圓
  - 釋常觀
  - 釋性蓮
  - 釋齊遠
  - 釋廣恩
  - 釋蓮藏
  - 釋持法
  - 釋法蓮
- 忍行五
  - 釋賢憬
  - 釋仁耀
  - 釋慧亮
  - 釋證空
  - 釋長明
  - 釋文豪
  - 釋延救

- 釋仙命
- 釋信敬
- 釋蓮照
- 釋應照
- 釋春朝
- 釋永助
- 釋叡效

- 明戒六
  - 目次
  - 釋普照
  - 釋法進
  - 釋如寶
  - 釋道忠
  - 釋豐安
  - 釋明祐
  - 釋實範
  - 釋俊芿
  - 釋叡尊
  - 釋忍性
- 擅興七
  - 目次
  - 釋行基
  - 釋慶俊
  - 釋真紹
  - 釋觀喜
  - 釋最仙
  - 釋勝道
  - 釋恒寂
  - 釋真然
  - 釋祈親
  - 釋蓮入
  - 釋道寂
  - 釋豐然
  - 釋壹演
  - 釋慈信
  - 釋行圓
  - 源算
  - 釋光勝

    - 釋文覺
    - 釋重源
- 方應八
    - 目次
    - 聖德太子
    - 役小角
    - 釋泰澄
    - 釋菩提
    - 釋佛哲
    - 伏見翁
    - 釋善仲
    - 釋開成
    - 釋教待
- 力遊九
    - 目次
    - 釋曇慧
    - 釋慧便
    - 釋慧聰
    - 釋慧慈
    - 釋觀勒
    - 釋僧隆
    - 釋慧彌
    - 釋曇微
    - 釋福亮
    - 釋神睿
    - 釋道璿
    - 釋道榮
    - 釋慧濟
    - 釋僧旻
    - 釋慧隱
    - 釋智通
    - 釋智鳳
    - 釋淨達
    - 釋行善
    - 釋玄昉
    - 釋行賀
    - 釋永忠
    - 釋圓行

        - 釋慧運
        - 釋慧萼
        - 釋真如
        - 釋裔然
        - 釋寂昭
        - 釋成尋
    - 願雜十之一
        - 古德一
            - 釋豐國
            - 釋德齊
            - 釋德積
            - 釋慧妙
            - 釋道顯
            - 釋道信
            - 釋法員
            - 釋弘曜
            - 釋慧忠
            - 釋行表
            - 釋仁秀
            - 釋澄睿
            - 釋慈恒
            - 釋壽遠
            - 釋守寵
            - 釋道詮
            - 釋承俊
            - 釋良真
    - 願雜十之二
        - 目次
        - 王臣二
            - 聖武皇帝
            - 貞觀皇帝
            - 寬平皇帝
            - 寬和皇帝
            - 蘇稻目
            - 蘇馬子
            - 司馬達
            - 大織冠鎌足
            - 尚書右丞和真綱

        - 右僕射藤良相
        - 讚州刺史高公輔
        - 羽林次將藤義孝
        - 殿中監高良臣
        - 黃門侍郎源顯基
        - 鎮守府將軍平維茂
        - 別駕射水親元
        - 中散大夫橘守輔
        - 房州刺史源親元
        - 尚書右丞平時範
        - 左僕射源俊房
        - 算學博士善為康
        - 吏部侍郎藤敦光
        - 諫議大夫平實親
        - 羽林中郎源雅通
        - 越中太守藤仲遠
        - 越後州刺史紀躬高
        - 高元帥平時賴
    - 士庶三
        - 藥延
        - 感世
        - 睿嶽有攝圓法師
        - 乘蓮
        - 惟高
        - 藤井久任
        - 野敦末
        - 秦武元
        - 興福寺莊嚴院實覺法師
        - 源傳
        - 清信俊
        - 江親通
        - 西音
        - 王良門
        - 修覺
- 願雜十之三
    - 目次
    - 尼女四
        - 善信尼

        - 法明尼
        - 都藍尼
        - 皇太后光明子
        - 舍利尼
        - 如意尼
        - 如藏尼
        - 皇太后歡子
        - 野州刺史高敦遠之妻藤氏
        - 女藤氏
        - 特進藤經實妻
        - 釋妙尼
        - 願西尼
        - 妙法尼
        - 藤兼澄女
    - 神仙五
        - 皇太神宮
        - 白山明神
        - 丹生明神
        - 新羅明神
        - 天滿大自在天神
        - 法道仙人
        - 久米
        - 釋陽勝
        - 釋窺仙
        - 都良香
        - 藤太主
        - 生馬仙
        - 釋法空
- 願雜十之四
    - 目次
    - 靈恆六
        - 釋轉乘
        - 釋海蓮
        - 釋慧增
        - 釋賴真
        - 釋春命
        - 釋蓮尊
        - 釋明蓮

        - 釋妙達
        - 釋道命
        - 釋源尊
        - 釋常照
        - 釋阿清
        - 釋藏滿
        - 釋圓能
        - 釋道乘
        - 釋圓善
        - 釋安珍
        - 釋無空
        - 釋講仙
    - 度摠論
- 資治表一
    - 前文
    - 欽明皇帝
    - 敏達皇帝
    - 用明皇帝
    - 崇峻皇帝
    - 推古皇帝
    - 舒明皇帝
    - 皇極皇帝
- 資治表二
    - 孝德皇帝
    - 齊明皇帝
    - 天智皇帝
    - 天武皇帝
    - 持統皇帝
    - 文武皇帝
    - 元明皇帝
- 資治表三
    - 元正皇帝
    - 聖武皇帝
    - 孝謙皇帝
    - 廢帝
- 資治表四
    - 高野皇帝
    - 光仁皇帝

    - 桓武皇帝
    - 大同皇帝
    - 弘仁皇帝
    - 天長皇帝
    - 承和皇帝
  - 資治表五
    - 仁壽皇帝
    - 貞觀皇帝
    - 元慶皇帝
    - 仁和皇帝
    - 寬平皇帝
    - 昌泰皇帝
    - 承平皇帝
  - 資治表六
    - 天曆皇帝
    - 安和皇帝
    - 天祿皇帝
    - 寬和皇帝
    - 永延皇帝
    - 長和皇帝
    - 寬仁皇帝
    - 長曆皇帝
    - 永承皇帝
    - 延久皇帝
    - 承保皇帝
  - 資治表七
    - 寬治皇帝
    - 天仁皇帝
    - 天治皇帝
    - 康治皇帝
    - 保元皇帝
    - 平治皇帝
    - 仁安皇帝
    - 嘉應皇帝
    - 養和皇帝
    - 元曆皇帝
    - 正治皇帝
    - 建曆皇帝

- 志一
  - 目次
  - 學修志一
  - 度受志二
  - 諸宗志三
  - 會儀志四
  - 封職志五
- 志二
  - 目次
  - 寺像志六
    - 前文
    - 向原寺者
    - 四天王寺者
    - 元興寺者
    - 大安寺者
    - 頂法寺者
    - 和州禪林寺者
    - 播州犬寺者
    - 崇福寺者
    - 興福寺者
    - 若州神願寺者
    - 長谷寺者
    - 東大寺者
    - 石山寺者
    - 和州葛木尼寺彌勒銅像者
    - 遠州鵜田寺藥師像者
    - 招提寺者
    - 西大寺者
    - 粉河寺者
    - 高尾神護寺者
    - 紀州那賀郡慈氏寺大殿中像已成
    - 和州村崗寺三像者
    - 勝尾寺講堂觀自在像者
    - 鞍馬寺者
    - 清水寺者
    - 睿山山王院千手觀音像者
    - 園城寺者
    - 貞觀寺者

        - 感應寺者
        - 書寫山圓教寺如意輪像者
        - 蟹滿寺者
    - 志三
        - 目次
        - 音藝志七
            - 前文
            - 經師者
            - 聲明者
            - 唱道者
            - 念佛者
        - 拾異志八
            - 前文
            - 山背大兄王
            - 榮常
            - 諦鏡
            - 大傅藤永手
            - 大君氏
            - 飛鳥貞成
            - 賀陽良藤
            - 粟田錄事
            - 諾樂京女
            - 大安寺側女
            - 賈盤嶋
            - 蓼原村盲女
            - 熊野村比邱
            - 總州太守藤時重
            - 江諸世
            - 慧勝
            - 藤常行
            - 仲算童
            - 役夫賀能
            - 德滿
            - 大峯比丘
    - 志四
        - 目次
        - 黜爭志九
        - 序說志十

    - 附
        - 略例
        - 智通論
        - 化疏
    - 人名索引
- 卷目次
    - 1
    - 2
    - 3
    - 4
    - 5
    - 6
    - 7
    - 8
    - 9
    - 10
    - 11
    - 12
    - 13
    - 14
    - 15
    - 16
    - 17
    - 18
    - 19
    - 20
    - 21
    - 22
    - 23
    - 24
    - 25
    - 26
    - 27
    - 28
    - 29
    - 30
- 贊助資訊

編輯說明

- 本電子書以「CBETA 電子佛典集成 Version 2025.R3」為資料來源。
- 漢字呈現以 Unicode 3.0 為基礎，不在此範圍的字則採用組字式表達。
- 梵文悉曇字及蘭札字均採用羅馬轉寫字，如無轉寫字則提供字型圖檔。
- CBETA 對底本所做的修訂用字以紅色字元表示（黑白色系版本則無顏色差別）。
- 若有發現任何問題，歡迎來函 service@cbeta.org 回報。
- 版權所有，歡迎自由流通，但禁止營利使用。

(470)〔元亨釋書〕

(大日本國延文庚子六月有　旨入毘盧大藏海藏禪院寓居比丘單況等謹募眾緣恭為今上皇帝祝延　聖壽文武官僚資崇　祿位國泰民安命工鏤梓興大藏經印板共行一部計三十卷耑貞治三年甲辰正月　　日謹題)

元亨釋書目錄

濟北沙門　師錬撰

卷第一
傳智一之一
南天竺菩提達磨
高麗慧灌
吳國智藏
元興寺道昭
北天竺善無畏
興福寺慈訓
唐國鑑真
延曆寺叡澄
金剛峯空海
卷第二
傳智一之二
建仁寺榮西
慧解二之一
龍門寺義淵
大安寺道慈
元興寺智光
東大寺良辨
善珠法師
元興寺明詮
東大寺明一
元興寺慈寶
梵福山善謝
普光寺慈雲
勝悟法師
善議法師
安澄法師

光意法師
秋篠寺常樓
常騰法師
品慧法師
道證法師
奉實法師
石淵寺勤操
元興寺護命
海印寺道雄
延曆寺安慧
延曆寺義真
延曆寺圓澄
卷第三
慧解二之二
守印法師
東寺實慧
興福寺明福
延祥法師
長訓法師
實敏法師
源仁法師
睿山光定
高尾峯真濟
延曆寺圓仁
法琳寺常曉
禪林寺宗睿
法輪寺道昌
貞觀寺真雅
隆海法師
元慶寺遍昭
延曆寺圓珍
卷第四
慧解二之三
圓成寺益信
醍醐寺聖寶
遍照寺寬朝
醍醐寺仁海
築波山德一

睿山藥智
睿山安然
睿山玄昭
興福寺增利
醍醐寺延敞
興福寺壹和
睿山禪喜
延曆寺良源
興福寺仲算
東大寺法藏
金龍寺千觀
興福寺真義
園城寺勸修
慧心院源信
檀那院覺運
睿山覺超
園城寺慶祚
睿山實因
延曆寺院源
園城寺明尊
高野山明算
三井慶耀
卷第五
慧解二之四
睿山安海
興福寺主恩
睿山桓舜
禪林寺永觀
睿山寬印
睿山皇慶
醐醍寺延殷
觀勝寺大圓
三井宗範
延義法師
興福寺永緣
傳法院覺鍐
大谷寺源空
高野山明遍

笠置山貞慶
栂尾寺高辨
卷第六
淨禪三之一
唐國義空
睿山覺阿
永平寺道元
長樂寺榮朝
松島寺法心
鷲峯覺心
宋國道隆
宋國普寧
淨妙寺了然
東福寺普門
南禪寺德儉
卷第七
淨禪三之二
慧日山辯圓
卷第八
淨禪三之三
宋國祖元
宋正念
宋子曇
宋一寧
三聖寺湛照
禪興寺道海
圓覺寺昭元
東福寺慧曉
東福寺順空
南禪寺祖圓
卷第九
感進四之一
百濟國義覺
百濟道寧
百濟道藏
多武峯定慧
藥師寺祚蓮
東大寺實忠

吉野山報恩
湯川寺玄賓
大安寺慧勝
天王寺道公
睿山法勢
貞崇法師
寬忠法師
勝尾寺證如
智泉法師
清水寺延鎮
成尊法師
延曆寺源心
金剛山滿米
東寺日藏
鞍馬寺峯延
白山藏緣
睿山成意
興福寺安願
睿山長圓
心譽法師
三井覺助
平願法師
睿山真遠
金勝寺光空
石山寺妙尊
三井珍蓮
雲淨法師
信誓法師
恩融法師
比良山靜安
藥師寺慧達
延曆寺延昌
延曆寺尋禪
延曆寺源泉
松島寺見佛
卷第十
感進四之二
無動寺相應

大安寺行教
教圓法師
義照法師
勝尾寺行巡
醍醐寺觀賢
仁和寺成典
延曆寺增命
延曆寺尊意
泰舜法師
睿山明達
雲居寺淨藏
睿山修入
圓賀法師
三井公伊
藥師寺濟源
延曆寺陽生
多武峯增賀
仁和寺寬空
範俊法師
信覺法師
醍醐寺勝覺
卷第十一
感進四之三
理滿法師
睿山睿桓
子嶋寺真興
延曆寺慶囿
延曆寺餘慶
睿實法師
一乘院定照
書寫山性空
睿山平忍
睿山蓮防
勝林院寂源
修學院勝算
三井行圓
大原山良忍
石塔寺寂禪

行空法師
蓮長法師
楞嚴院以圓
睿山教真
小田原經源
兔原慶日
覺勝法師
國上山佛蓮
高野山維範
安部山暹覺
高野山琳賀
賢林寺戒深
南星峯圓久
行仙法師
仁和寺性信
仁和寺覺法
基燈法師
睿山叡好
愛太子山仁鏡
藥嶽算
雪彥山玄常
超勝寺清海
鞍馬寺重怡
卷第十二
感進四之四
園城寺行尊
敢福寺延朗
安部山慶圓
三輪山常觀
性蓮法師
三井寺齊遠
海部峯廣恩
蓮藏法師
持法法師
法蓮法師
忍行五
興福寺賢憬
仁耀法師

睿山慧亮
三井證空
戶隱山長明
釋迦院文豪
慈光寺延救
無動寺仙命
楞嚴院信敬
蓮照法師
那智山應照
春朝法師
修禪寺永助
三井叡効
卷第十三
明戒六
東大寺普照
唐國法進
唐如寶
道忠法師
豐安法師
東大寺明祐
中川寺實範
泉涌寺俊芿
西大寺睿尊
極樂寺忍性
卷第十四
檀興七
菅原寺行基
愛宕山慶俊
禪林寺真紹
觀喜法師
最仙法師
補陀落寺勝道
恒寂法師
高野山真然
高野山祈親
蓮入法師
眉間寺道寂
谷汲寺豐然

相應寺壹演
山崎寺慈信
行願寺行圓
良峯寺源算
六波羅蜜寺光勝
神護寺文覺
東大寺重源
卷第十五
方應八
聖德太子
役小角
越知山泰澄
南天竺菩提
林邑國佛哲
伏見翁
勝尾山善仲
彌勒寺開成
園城寺教待
卷第十六
力遊九
百濟國曇慧
高麗國慧便
百濟慧聰
高麗慧慈
百濟觀勒
高麗僧隆
百濟慧彌
高麗曇微
吳國福亮
唐國神睿
唐道璿
唐道榮
慧濟法師
僧旻法師
慧隱法師
智通法師
智鳳法師
淨達法師

行善法師
興福寺玄昉
行賀法師
梵釋寺永忠
靈巖寺圓行
安祥寺慧運
唐補陀落寺慧萼
真如法師
裔然法師
宋吳門寺寂昭
宋傳法院成尋
願雜十之一
古德一
豐國
德齊
德積
慧妙
道顯
道信
法員
弘曜
慧忠
行表
仁秀
澄睿
慈垣
壽遠
守寵
道論
承俊
良真
卷第十七
願雜十之二
王臣二
聖武皇帝
貞觀皇帝
寬平皇帝
寬和皇帝

蘇稻目
蘇馬子
司馬達等
大織冠鎌足
尚書右丞和真綱
右僕射藤良相
讚州刺史高公輔
羽林次將藤義孝
殿中監高良臣
黃門侍郎源顯基
將軍平維茂
別駕射親元
中散大夫橘守輔
房州刺史源親元
尚書右丞平時範
左僕射源俊房
算博士善為康
史部侍郎藤敦光
諫議大夫平實親
羽林中郎源雅通
越中太守藤仲遠
越後太守紀躬高
副元帥平時賴
士庶三
藥延
感世
尋寂
乘蓮
惟高
藤井久任
野敦末
秦武元
願西
源傳
清信俊
江親通
西音
壬良門

修覺
卷第十八
願雜十之三
尼女四
善信
法明
都藍
皇后光明子
舍利
如意
如藏
皇后歡子
高敦遠妻
藤敦光女
藤經實妻
釋妙
願西
妙法
藤兼澄女
神仙五
皇太神宮
白山明神
丹生明神
新羅明神
天滿大自在天神
法道
久米
陽勝
窺仙
都良香
藤太主
生馬仙
法空
卷第十九
願雜十之四
靈恠六
轉乘
海蓮

慧增
賴真
春命
蓮尊
明蓮
妙達
道命
源尊
常照
阿清
藏滿
圓能
道乘
圓善
安珍
無空
講仙
度摠論
卷第二十
資治表一(起欽明至皇極合七君)
卷第二十一
資治表二(起孝德至元明合七君)
卷第二十二
資治表三(起元正至廢帝合四君)
卷第二十三
資治表四(起高野至承和合七君)
卷第二十四
資治表五(起仁壽至承平合七君)
卷第二十五
資治表六(起天曆至承保合十一君)
卷第二十六
資治表七(起寬治盡建曆合十二君)
卷第二十七
志一
學修一
度受二
諸宗三
會儀四

封職五
卷第二十八
志二
寺像六
向原寺
四天王寺
元興寺
大安寺
頂法寺
禪林寺
犬寺
崇福寺
興福寺
神願寺
長谷寺
東大寺
石山寺
葛木像
鵜田寺
招提寺
西大寺
粉河寺
神護寺
慈氏像
村崗像
勝尾像
鞍馬寺
清水寺
山王像
園城寺
貞觀寺
感應寺
圓教像
蟹滿寺
卷第二十九
志三
音藝七
經師

聲明
唱導
念佛
拾異八
山背大兄王
榮常
諦鏡
太傅藤永手
大君氏
飛鳥貞成
賀陽良藤
粟田錄事
諾樂京女
大安寺側女
賈盤島
蓼原村盲女
熊野村比丘
總州大守藤時重
江諸世
慧勝
藤常行
仲算童
役夫賀能
德滿
大峯比丘
卷第三十
志四
黜爭九
序說十
略例(附)
智通論(附)

元亨釋書目錄　終

上元亨釋書表

臣僧(師鍊)言。竊以聖明之代必有著述其來者尚矣。昔者漢武之雄略也子長纂史記焉。宋仁之寬厚也永叔修唐書焉。二作之高出諸史

之上者無乃二主文思之化乎。我金仙氏之道雖方外塵表之詮至有撰編者靡不繇旃矣。嘉祥之創梁也逢高祖之仁裕矣。西明之續唐也遭太宗之緝熙矣。及天壽之成端拱也皆泰平之標幟矣。伏惟皇帝陛下道出震德重離稟上聖之姿膺中興之運。街談衢話復延天之至和。祖業宗勳授唐虞之淳化。(師鍊)生無為之清世屬空門之斐文。僧史才踈耻刪手於照默。宗記氣儒謝透爪於永安。寔緇田之稗稊禪林之樸揪者也。陛下邁五君之德而鍾五君之譽(師鍊)乏五子之才而成五子之事。熟念明時時繁矣。昌世世多矣。然當聖代。而茲書出焉。豈我君文思之賸化而大平之餘標乎。今夫隋珠趙璧照乘夜光久棄捐于路傍矣。有一夫掇拾磨拭繅藉襲藏。玉若有知寧不怡哉。其夫不自珍捧獻于一人。其人又雖威重豈無動喜容乎。蓋諸師之高德不啻珠璧。七百餘年不有通傳可謂棄捐矣。(師鍊)匹夫之頑闇也。視斯散落弗能無掇襲。如是至寶不敢私蓄敬上陛下弗為僭越耳。林下蔬笋酸餡雕蟲乞降中書得受官校。若有可采入大藏行天下。於戲璵璠之玩弄王者之事也。匹夫唯輸貢而已。然則此書之流播陛下之任也。觸撼[黃*充]纊伏待斧鑕(師鍊)誠惶誠懼頓首頓首謹言
元亨二年八月十六日臣僧(師鍊)上表
元亨釋書卷第一

濟北沙門　師鍊撰

傳智一之一
　南天竺菩提達磨
高麗慧灌
　吳國智藏
元興寺道昭
　北天竺善無畏
興福寺慈訓
　唐國鑑真
延曆寺最澄
　金剛峯空海

菩提達磨者。南印度香至王第三子也。蕭梁普通元年庚子來支那。與武帝說第一義。帝不契。乃渡江入魏居嵩山少林寺。經九白歸天竺。其後八十有六年。吾推古二十有一歲癸酉遊此方。推古女主委政太子豐聰。十有二月朔太子過和之片崗。於時達磨作飢人貌。弊服襤縷而臥路傍。眼有異光其體甚香。太子見之令問姓名。磨不對。太子作和歌問之。磨便以和歌酬之。其歌詞共在國史之推古紀

也。太子與飲食亦脫衣付而曰。乞快安寢。言已歸宮遣人看之。使者復言。飢人既殂。太子悲慟命駕馳赴死所。親率臣僚封樹焉。居數日太子語侍臣曰。鄉葬餓者非凡必真人也。使使開壙。而所賜之衣在棺上餘無所有。太子便取其衣且自服之。時人曰。惟聖知聖信之矣哉。其太子之所築墓今尚在焉。俗呼其地號達磨墳。磨之事迹詳見寶林傳燈唐僧傳等書。

贊曰。至人之應世也雖不可測焉。然儀相之矯異遷化之偶合屢寄齒牙之不誣者昭晰矣。夫斯土佛種萌芽之初三草猶未穊。二木亦蔽芾。豈天香之所堪昌昌乎哉。惟時機之生酸也。宜乎吾祖之作餒顏乎。至有印足跡者為後世屈蟠三千里之苗根也。若夫葱嶺逢宋雲。魏帝啟墓空遺隻履。片崗謁太子。官使見槨只留故衣。吾祖真身。楞伽所謂譬如意去石壁無礙之者乎。斯方異域合符者何哉。爾後五百七十有七年建久之間心宗勃興。寬元以降祖風發越。

王臣雷同士庶響合。憑茲視之雖饉于時不苟來也。

釋慧灌。高麗國人。入隋受嘉祥吉藏三論之旨。推古三十有三年乙酉春正月本國貢來。勑住元興寺。其夏天下大旱。詔灌祈雨。灌著青衣講三論。大雨便下。上大悅擢為僧正。後於內州創井上寺。弘三論宗。

釋智藏。吳國人。福亮法師俗時子也。謁嘉祥受三論微旨。入此土居法隆寺。盛唱空宗。白鳳元年為僧正。道慈。智光。皆藏之徒也。

贊曰。騰蘭來漢。漢人始得耳真乘焉。然其道渾朴無宗派之稱矣。羅什入關之後三論之宗聿煽。諸家之割分皆殿之矣。我欽明之聖統海藩不替於貢。曇慧。道深。偕計來儀。此時佛法草昧誘導惟微。灌公因三韓勾麗之賓起無畏提婆之唱。夏旱降大雨於天下。時渴灑甘露於井上。藏公尋來系嗣繩繩。嗚呼三論也為兩朝宗旨之先登。異焉耳乎哉。或曰。曹魏嘉平二年中天竺曇摩伽羅至洛陽出戒本。子何稱三論為宗之始乎。曰。魏之前比丘出家只剪髮而受三歸而已。迦羅見東土之缺僧儀始行四分戒本。羯磨法是又沙門之通儀也。不必立為宗也。以故其後承稟不續。至李唐南山道宣建律宗遠取迦羅為祖耳矣。雖儀法起於魏而宗趣成於唐。予之前言者宗派也。

釋道昭。世姓船氏。內州丹北郡人也。居元興寺有戒行譽。白雉四年癸丑五月奉勑從遣唐使小山長丹泛海。緇侶同志者道嚴等一十有三人。到長安謁三藏玄奘。即高宗永徽四歲也。藏謂諸徒曰。此子多度人矣。汝等莫以外域輕之。加意誘誨。又告曰。我往西天食絕路又無人家殆入死地。偶一沙門以梨子與我。我啖之氣力復生漸達竺土。其沙門者汝前身也。故吾憐汝耳。一日藏語曰。經論文博勞

多功少。我有禪宗其旨微妙。汝承此法可傳東徼。昭欣愜修習早得悟解。又指見相州隆化寺慧滿禪師。滿委曲開示謂曰。先師僧那曰。昔達磨以楞迦經付二祖曰。吾觀震旦所有經唯此四卷可以印心。業成辭藏。藏以佛舍利經論及相宗章疏付之。亦與一錨子曰。我自天竺持來。煑物治疾必有神効故我贈汝。昭捧承而出。至登州眾人多病。昭試以錨烹粥或煎水與之。病者無不愈。解纜發舶。風波俄惡船不進留滯七日夜。一舡皆曰。海神之所為也。卜曰海神要物。船人謀曰。恐錨子也。昭曰。三藏靈器遠從佛國不可失也。諸人白曰。寧一錨子博眾命乎。昭不得已以錨入海。應時風止波恬歸帆如飛還本邦。又止元興寺切諭導。此土始聞八五三二之旨。又遊諸州事行化。國人崇之。後於元興寺東南隅別營禪苑。從昭學禪者多矣。昭禪坐之間或三日一起。或七日一飡。或暮夜兩牙放光讀經。文武四年三月澡浴淨衣趺坐繩床。光明盈室。語門人曰。汝等見光耶。諸徒曰見。昭曰。莫妄言莫妄言。後夜光透壁照庭松良久其光指西而去。昭乃逝。年七十二。門弟子思其兩牙放光欲收之。而先為鬼神取去。闍毘後欲取其骨暴風忽來骨灰共失。本朝火葬始於昭昭唱導外勤利濟。路傍穿井諸渡儲船。山州宇治之大橋昭之創造也。昭傳來經籍若干藏禪院。元明帝移都平城。昭之徒奏於新京建禪院。所謂平城右京禪院也。經書又藏於此。

贊曰。時者難得而易失。古猶病諸。昭公不嬰斯患。豈乘夙誓而來與。駕萬里之濤瀾預三藏之受授。是不難之遇也。片帆歸來大施門開。四遠爭赴互相摧排。方今和州之境平城之土併為唯識之區宇。踰六百之星霜矣。亦不失之長也。加之挾以心宗旁構禪房。雖乏貽厥靈異已彰。昔[牛*句]尸喪舍利未分一牙早既被得鬼神。師之寂迹逼亞世尊。善哉名稱扶桑之暾。

釋善無畏者。甘露飯王之裔也。唐開元四年丙辰至長安。玄宗預夢真儀。洎入對與夢無異。大悅館西明寺崇為教主二十有三年示滅。塔龍門之西山。吾元正帝養老之間來此土。時機未稔利導無聞。只延曆二十四年內侍宣曰。昔天竺上人雖垂降臨不勤請受徒遷壑舟。遂令真言祕法絕而無傳云。言無畏也。畏之事迹備見宋高僧傳。

贊曰。聖人之隱顯猶月之印水也。有水即顯無水即隱。只恐無水月元不隱。若人無水而謂月隱者非也。當無畏之遊化此方有水此人無水。方之有水雖遺蹤人之無水不承接。是以授受不繼記纂亦滅。是所以我痛絕也。僅因內侍之宣勑得綴大士之軌躅。奚夫斯人而寡斯跡乎。然延曆大同之間。密教宣頒。其後諸子爭馳稛載而歸。昔會昌之虐焰彼國此宗不振。漸更五季至竟殄泯矣。獨吾日域光暉益燦。其不苟來也我與達磨併案焉。

論曰。達磨無畏二師雖涉吾境當時無承稟。茲書可系力遊何傳智之有。又養老元年者當開元五年也。宋高僧傳無畏篇無他遊塔龍門亦可疑矣。曰。達磨之贊不云乎。其印迹者為後世之苗根也。無畏吾無間然矣。二師共大法之始祖也。彼唐宋諸師有紀述者天竺數百年前諸祖皆盡收列焉。況此二師雖隔系授適蹈本土。豈於力遊乎。又子何謾議無畏哉。雜華曰。一念普觀無量劫無去無來亦無住。達磨之八十六年無畏之同時皆一念也。贊之所謂齊水月也。哀哉子之有劫而無水也。無畏者聖人也。豈以一化迹拘去來乎。世言。無畏齎毘舍那經入我國時。乏資稟藏和之久米寺而去。後七十年空海遭靈感得此經。若無畏不將來此邦爭有此經乎。猶言先有持來誰人。乞明告我。嗚呼無畏之事子休聽瑩焉。

釋慈訓。世姓船氏內州人。初事興福寺良敏。玄昉二師學相宗。後偕審祥法師踰海入唐。謁賢首國師法藏稟華嚴深旨。歸來付良辨建賢首宗。稱德帝貴之賜食邑天平勝寶四年為僧都。寶字元年為興福寺主務。此職自訓始。寶龜八年化。

贊曰。予求訓祥事而不得。雖搜索之不至惜乎古記之殘缺也。所以是吾大恐而此書之作也。適見國史受封戶又荐歷任僧官故立傳焉。然辨公稟二師其道大振焉。我見諸師之踰渤澥者咸得所著焉。可謂好擇矣。就中昭通之謁三藏也訓祥之親賢首也可謂的受。二師之有辨也深山大澤之所由生也。

釋鑑真。世姓淳于氏。唐國揚州江陽縣人。齊辯士髡之後也。年十四從父入寺見佛像有出塵志。父知其不可羈絆。付大雲寺智滿為沙彌神龍元年隨道岸律師受菩薩戒景龍二年於實際寺登壇受具足戒。遊二京究三藏又廻江淮教授戒律吾天平五年榮叡。普照等。隨遣唐大使丹墀廣成入唐留學。天寶元年真於揚州大明寺開律講。叡照等預肆席。一日作禮曰。佛法東流日域而乏教授人。昔吾聖德太子記曰。我後二百年異域人興真教。今當其期。願事東遊真曰。我聞南嶽思公生和國弘佛法。太子事我知之。又聞日本長屋王崇敬三寶。製千袈裟緣各繡一偈曰。山川異域風月一天遠寄淨侶誓結勝緣就舶便施此土一千沙門。我思是等事彼方必有淨信人。而滄浪渺焉跋涉惟難彼土若緣稔我豈辭勞劬。二年十有二月真與二弟祥彥。道興及叡照等。竝徒屬八十餘人同泛溟。猛風忽起船舶簸蕩。中夜舟人見四神著金甲立舳艫。以故無沒溺之愁。然眾人恐嶮厄求淹留。真不得已。其後又發。或漂日南或赴龍宮。真本志確乎不拔。遂以天寶十二年冬乘副使伴古舶放洋。天平勝寶六年甲午正月十有二日著大宰府。四月入京。勅正議大夫安宿王迎羅城門。乃館東大寺天竺婆羅門僧菩提。唐道璿。共來慰問。王公士庶奔波作禮。真表獻將來佛舍利三千粒。阿育王塔樣銅支提。止觀玄義。文句。菩提子三

斗。晉王右軍真行書一卷聖武上皇遣正議大夫真吉備傳宣曰。朕造東大寺已十年。此土未有戒壇願師營之。真敬承詔。上皇大悅受菩薩戒。皇帝皇太后太子公卿以下同受者四百三十餘人。乃於大殿西構戒壇院天下至今資羯磨焉。又勑賜皇子開府儀同田部舊宅。真成寶坊號招提寺。本朝戒法此時方熾。天平寶字二年賜號大和尚。七年五月六日結跏趺坐向西而化。壽七十七。預言寂日至此無舛。葬斂之時香氣滿山谷。真在唐裁衲袈裟一千。布伽梨二千施五臺諸沙門又寫三大藏。初本朝大藏經論多烏焉之誤。及真之至勑加整勘。真流日南國時暑毒入眼患之失明。而大藏文句多所暗誦。數下雌黃。又諸藥物此方不知真偽。勑真辨之。真以鼻別之一無錯誤。度人授戒凡四萬餘人。

贊曰。開士之赴化過武夫之臨敵者遠矣。彼毛羽矢石竿木干戈卒驅封豕陣張長蛇猶一戲場耳。故入死地出活機。立功名策勳業者武夫之勇也。真公陷蛇鳥海流蜒獠鄉。瘴霧傷睛而不悔。颶風簸舟而不惶。再四躓奮又起。布教異域揄揚真理。使此下凡之軀貌習彼大仙之威儀毗尼之軌雖厄中微六百餘年風範可傳。古云。仁者必有勇。勇者不必仁。是又開士之悲所以過而遠乎。

釋最澄。世姓三津氏。近州滋賀郡人也。其先東漢獻帝之孫。國亡竄民間。吾應神之曆遙慕王化而至。上憐其王孫賜滋賀地為采邑。父百枝富內外學。里閭敬之。嘗愁無嗣祈眾神。既而詣睿嶽左麓神祠。其地景趣幽邃。百枝結草廬饗香華。求子期七日。至第四曉得靈夢。其妻乃娠。草廬今之神宮院也。神護景雲元年生澄焉。時親族陳盛饍慶新產。澄稍長語其時果肴種色無一差。隣里嗟異。七歲受學聰明絕倫。十二投行表法師出家。習唯識旁博探經論。得華嚴經。起信論等疏。夙智所撼。以不見台教為恨。適於南京寫得玄義。文句。止觀。四教義。維摩經疏等。是鑑真之帶來者也。畜思所遇優柔飫厭乃能講演。然介懷於無師承也。是以跂踰海之志。延曆二十有一年賜入唐求法詔。反以朞月不許淹留。蓋愛材也。二十有三年秋七月從遣唐使菅清公浮溟渤著明州界。乃德宗貞元二十年也。九月赴台州至天台山國清寺。道邃法師一見器許。邃者荊溪上足。智者七世之的孫也。邃授所傳一心三觀之旨曰。弘道在人人能持道。吾道化行今其時哉。并付菩薩三聚大戒。澄就寫天台教門疏記。又見佛隴寺行滿座主。滿又然公高弟。語澄曰。昔智者大師告門人曰。我滅後二百餘歲我法傳東國祖讖不虛子其人也。乃以荊溪以上諸籍祕頤傾倒而付曰。汝持此法文為海東傳燈之始祖。二十有一年如越州龍興寺遇順曉阿闍梨受三部灌頂密教。及得陀羅尼經書。印契圖樣。灌頂器物。曉闍梨付法書曰。昔開元朝大三藏婆羅門國王子善無畏從佛國大那爛陀寺傳大法輪。至大唐國轉付傳法弟

子義林。是國師大阿闍梨年一百三歲見今在新羅國轉大法輪。又付大唐弟子順曉。亦是鎮國道場大德阿闍梨。復付日本國供奉大德弟子最澄轉大法輪。最澄是第四付屬。唐貞元二十一年四月十九日書令佛法永永不絕。阿闍梨沙門順曉錄付最澄。又於唐興縣逢沙門翛然得達磨一派牛頂山法。蓋本師表公傳璿師北秀禪而付于澄。以故尋求禪要。及謁然公悅懌投契。夏五月乘大使藤賀能舶著長州。即延曆二十有四年乙酉也。秋入洛城。便表上西土所得天台密宗諸教文曰。沙門最澄言。竊以六爻探賾猶局生滅之鄉。百物正名未涉真如之境。豈若隨他權教之開三乘機路。隨自實教之示一乘道場哉。然則妙法難傳流其道者聖帝。圓教難說演其義者天台。伏惟陛下出震承圖登極膺運。東夷之鄉化歸德於先年。北蕃之來朝賀正於每歲。於是萬機之暇一乘惟懷。冀得圓宗垂為大訓。由斯妙圓極教應聖代而流傳。祕密真宗感皇緣而格止。最澄奉使求法遠蹈靈蹤。台嶺越疆躬寫教迹。所獲經論疏記二百三十餘部并五百卷。又金字法華金剛般若等經智者大師禪鎮白角如意等隨表奉進。不任誠懇戰慄之至。奉表以聞。帝大悅勑曰。大唐受法供奉最澄闍梨傳來天台諸典籍流布天下。宜為七寺書寫七通。即給禁中上紙付國子祭酒和弘世監寫。又詔道證。守遵。修圓。勤操。慈蘊。慈寬等碩師。於野寺天台院令受學新寫天台教文又勑和弘世宣詔曰。真言祕教未傳此方。最澄阿闍梨幸得此法立為國師。九月一日勑於清瀧峰高雄道場起都會大壇撰諸寺智行兼備者受灌頂三摩耶道證。修圓。勤操。正能。延秀。廣圓等。同預者八人。野公岑守奉勑撿校法事。是本朝密灌之始也。弘仁六年秋八月因和氏請於大安寺塔中院闡揚妙法。於是乎諸寺碩德會集法筵摧三乘之矛盾準一乘之權衡。諸師伏膺。始父百枝語曰。我昔祈神祠得汝。神貺未報。汝其代之。澄乃詣神宮院勤修。經數日香爐灰中得舍利。大如麻子。頃刻灰裏出金鏤器大菊花許。即盛舍利。宛似舊物。弘仁五年春詣宇佐八幡神宮講妙法華。講竟神託曰。不受法味久歷歲華。今聽微言何以報德。我有法衣願表嘲達乃啟齋殿推出紫衣二領。神官巫祝各相謂曰。我等未嘗見如斯靈感也。其一鬱多羅其二袷衣。今尚在山院。蓋澄赴唐詣祠立誓故闢此講也。又於賀春神宮寺講妙經。是時豐前州田河郡吏等錄瑞雲狀寄之。澄固封告義真曰。非吾滅後不得開緘。寂後門弟子等披閱其文曰今月十八日未時紫雲光耀起賀春嶺覆法筵之庭。村民悉見敬異。又是澄泛海時宿田河郡賀春山下。夢梵僧來前袒衣露身。左肩似人右肩如石。言之曰。我是賀春明神也。和尚慈悲救吾業道之身。我當加助求法晝夜守護欲知我實海中急難現光為驗。澄明旦眺山右邊崩巖草木不生宛如夢中半身。心異焉。又海中風浪果有光曜。是以思神之不浪也。而建法華院自創講席。乃神宮院也。

開講之後。其右巖之地漸生草木年年滋茂。鄉邑嘆異。六年東州置經之時。信州大山寺正智預上野千部幹緣。便寫二百部駄而發。忽馬不食加鞭笞不能動已而逾信宿殆廢行裝時陬訪大神託曰。我欲受澄師勸緣而未由也。故示此異耳。今我助送此經預幹功之一耳。言已眾馬皆囓。州界艱嶮吾國之蜀道也。本是駑駘疾如驥騄。智等嘆神言之不食矣。初延暦四年秋七月澄上叡山縛草舍讀法華。金光明等諸大乘經。乃發五種大願。時年十九。七年於山頂創一字名曰一乘止觀院。(今之中堂所謂延暦寺也)自刻等身藥師佛像安之。又思山中無大藏令諸弟子繕寫亦告平城七大寺乞加助。大安寺聞寂及東州化主道忠等見義勇為速闕其功。十有七年立十講法會。二十有五年奏加新天台法華宗。時大乘四家。華嚴。法相。三論。律也。及此竝為五宗。澄又慨念。此方學佛者六。除法相三論外。華嚴。毗尼。成實。俱舍。纔有名而已。是依無受業者也。一宗若廢眾善多替。非所以資政化興教法也。便奏每年簡渥外加度者十二人。五宗各二。俱舍成實各一。制可。沙門勝虞。永忠等。奉表賀謝。弘仁十年三月奏乞建圓宗大乘戒壇。其條四科。帝降表南京諸寺詳定建否。沙門護命抗表斥之。東大寺景深著迷方示正論摘二十八失。平城諸剎毀唇紛羅。十有一年春二月澄述顯戒論三卷表進。博引大乘戒證。又作顯戒緣起反詰二十八失。其詞激切著明。上又降其書於南寺。南寺諸師無敢問議者。澄有願造六塔婆置六千部經王。東州三所。中國二所。西邦一所。今叡山東西兩塔者中國之二所也。其東方行化之時見信州嶮絕。長坂數十里殆于百折。一日行程纔宿半山。逆旅無館行客多虞。澄募緣置廣濟。廣極二院。羈人多受其賜。初延暦十有六年以智行譽上供奉列。勅近州租充山厨供。二十有一年和弘世弟真綱請於高雄寺唱天台妙義。亦延善議。勤操等十餘師為和者。上勅禮部侍郎和入鹿隨喜慰問。其從唐歸。台州刺史陸淳。明州太守鄭審。則共與公據印署讚美。又東州經塔會。上野綠野寺豫場者九萬人。下野大慈寺五萬人。東民嚮化如斯。所過諸州類之。弘仁十有三年春二月賜宸書傳燈大法師位記。夏六月四日於中道院右脇而寂。年五十有六。臨亡曰。吾生平口無麁言手不笞罰。門弟子等各乞則之。亦遺誡六篇皆勸警徒也。其日江東道俗相語。睿山北峯有奇雲恐有以耳。後聞遷化哽咽稱異。十有一日右僕射藤冬嗣捧圓戒允許之詔來山中。蓋慰初七也。冬十有一月上製哭澄上人詩六韻降于山一時公卿才子和宸韵送山。王臣遺愛如之。澄博物兼知陰陽。工巧。醫方等。又得人者多矣。義真。圓澄。光定。圓仁等神足者二十餘輩。又名卿鉅公十數人。右僕射藤冬嗣。太中大夫伴國道。國子祭酒和弘世。朝請大夫和真綱其選也。生平撰述。註法華經十二卷。註金光明經五卷。註仁王經。註無量義經

各三卷。天台靈應集。守護國界章。摠持章各十卷。法華輔照。付法緣起。長講願文各三卷。照權實鏡。決權實論。依憑集。內證佛法相承血脈譜。六千部法華銘各一卷。十有四年春二月賜寺額。配紀元曰延曆遵先皇之崇建也。貞觀八年秋七月勅謚傳教大師。

贊曰。或言。人能弘道非道弘人。苟無其人道不傳乎。勝寶之間。鑑真挾台宗章疏而來。時無偉器函藏而已。傳教卯金刀子鋒鋩銛如。志慕搜索早見其書不憑師訓便開講鋪。逮跨蒼波登銀地滿舟載歸。何其駛乎。故能亘六百之祀安三千之徒。彌久彌昌。寧弘道之其人歟。予曰。子之論未盡耳矣。夫台教者荊溪可謂之全備矣。蓋然公遭天寶至德之亂世抱窮愁困厄之著意。覃思宗旨供翰疏記。而後台學光賁矣。傳教應智者之懸讖受妙樂之備文。是正承稟而已非習學之群也。是以負笈未期傳水器歸。宜乎為叡峰性具之高祖乎。彼真師者自來。毗尼之大匠未聞台嶺之的嗣。況在荊溪纂述之先。豈旁派缺典之善為紹系之謂乎。嗚呼教之授受有數耳矣。

釋空海。世姓佐伯氏。讚州多度郡人。父田公。母阿刀氏。夢梵僧入懷而有身。在胎十二月。寶龜五年生焉。母思其夢小字曰貴物。年十二外舅朝散大夫阿刀大足教世典學文翰。十八上大學。雖讀儒書志在佛經。偶逢沙門勤操受虛空藏求聞持法。未薙染而事修練。甫冠歲就操落髮。受沙彌十戒。研究三論。時操在泉州槙尾山寺。初名教海。後自改如空。延曆十有四年登東大寺壇受具足戒。又改空海。乃於佛前誓曰。三乘十二部經我心有疑未能決擇。三世十方一切諸佛願垂加祐示我正法。夢中一人告曰。有大經卷名大毗盧遮那神變加持。是真祕要也。寤後問此經無知者。往來諸所懇誠尋求。適於和州高市郡久米道場東塔下得此經。披卷看閱疑滯居多。自茲志遠遊。二十有三年夏五月從遣唐使金紫光祿大夫藤賀能汎渤澥。秋八月著衡州界乃德宗貞元二十年也。冬十有二月到長安城。勅館宣陽坊官舍。二十有一年又勅居西明寺永忠法師故院。海周遊城中諸剎擇求明師謁青龍寺東塔院內供奉慧果阿闍梨。乃不空大廣智三歲之高弟也。果見而喜曰。我先知汝來相待者久矣。顧諸徒曰。是沙門者第三地菩薩也。夏六月入大悲胎藏大曼荼羅投花花著中臺。果嗟嘆以為大器。即沐五部灌頂之誓水。秋七月入金剛界大曼荼羅。八月授傳法阿闍梨位灌頂。是日海設五百僧齋。果與金剛頂等諸密經并圖畫曼荼羅及諸道具曰。昔大毗盧舍那世尊以祕密真言印。付金剛薩埵。薩埵傳龍猛菩薩。展轉至大廣智。智為三朝灌頂國師。亦付我。汝有祕密大根器。故我兩部大法祕密印信皆悉授汝。宜以此金剛乘教及三藏所付供養什物歸本土傳布國界。然則四海安泰萬民豐樂。是亦報佛恩酬師德也。又一日語曰。瑜伽者密藏也。儀軌圖器諸深祕之者。見行經書或遺而不載。假使間見祕記不

藉調造子亦不委。便召供奉畫工李真等十餘人圖胎金諸曼荼羅一十鋪。又令供奉鑄工楊忠信等新造道具一十五事。又集二十餘輩經生寫金剛頂等諸祕經皆并付之。海又逢罽賓般若三藏。三藏曰。我少年入道經歷五天。常誓傳燈來遊此間。亦欲泛海游化東域。時緣不熟我志已矣。今與汝所譯華嚴六波羅蜜經及梵夾。汝其持去通我夙志。則出經夾付之。元和元年秋八月歸。乃大同改元丙戌也。勑令流通傳來密乘。弘仁帝勑於宮中會諸宗碩師各唱所習。海立即身成佛之義。諸家爭折之。海辯論精審。上語海曰。義雖玄極朕思見證。海即入五藏三摩地觀。忽於頂上涌五佛寶冠放五色光明威容赫如也。上離御榻作禮。群臣皆起拜。時三論之俊道昌。唯識之髦源仁。華嚴之英道雄。天台之傑圓澄等皆竪降旗。十有三年大同太上皇入壇灌頂。帝者密灌於此始焉。海已大興密教。勑述所業。海則毗盧遮那經及菩提心論著十住心論品藻諸宗。第一異生羝羊心。第二愚童持齋心。第三嬰童無畏心。第四唯蘊無我心。第五拔業因種心。第六他緣大乘心。第七覺心不生心。第八如實一道心。第九極無自性心。第十祕密莊嚴心。蹸次配抵。佗家之者或有問議。然東密之者至今取法。初海得操師求聞持法乃躋阿州大瀧之嶽修供。時天晴朗忽寶劒落座前。又往土州室戶崎誦修如上。至五更明星飛入口。已而得聞持悉地。爾來身心勇健堪任頭陀。被葛而經冬。絕膳而過夏。精進苦行朝懺莫悔。天長元年大旱。春三月勑海於神泉苑修請雨經法。時守敏法師奏曰。守敏世壽法臘共邁于海。先承詔為適宜。乃詔敏。敏以七日為期。散朝陰雲厚布都下暗如夜雷鳴雨灑舉朝感異。勑見雨之所霑。唯東西京而已。亦詔海。過七日不雨。海入三摩提見之。守敏呪諸龍入一瓶。海奏延二日。告諸徒曰。池中有龍號善女。阿耨達池龍王之族也。此龍現形必得悉地。時金龍出。長九尺許。弟子真雅。實慧。真曉。真然等七人得見。餘不觀。海奏事。勑和真綱以幣物供神龍。散日重雲震雷大注膏雨。池水盈溢至火壇之畔。霖沛三日天下皆洽。勑加優賞。內州有一寺。其地元龍池。龍移他處池又涸。寺眾苦無水。海點一所加持。清泉忽沸因號龍泉寺嘗修不動使者法。海身出火燄。或入水想觀。室內成池。其神異多類之。初弘仁七年遊紀州相勝攸。上高野山創金剛峯寺。十有四年正月勑以東寺賜海建灌頂院。海准青龍寺法式每歲二序行灌頂事。乃置慧果所付健陀國袈裟及念珠為寺鎮。天長二年勑改高尾神願寺名神護國祚真言寺賜海。承和元年海奏乞准唐國內道場置真言院於宮中。勑以勘解由司廳為曼荼羅道場。每年正月後七日息災增益修法至今不絕。二年正月奏置試度三人。毗盧遮那經業金剛頂經業。聲明業各一人。初弘仁十有一年上賜宸奎傳燈大法師位記天長之始為僧都。承和二年海在金剛峯寺。三月二十一日結

跏趺坐作毗盧印泊然入定。先七日共諸弟子念彌勒寶號。至此日瞑目氣絕。蓋持定身待龍華也。年六十二門人為七七忌。其間鬚髮生身體暖。經五句諸徒剃髮整衣斂全身疊石造壇立率兜波其上。定後四日上勑內舍人弔喪及贈賻。太上皇降弔書曰。真言洪匠。密教宗師。邦家憑其護持。動植荷其德惠。豈圖崦嵫未逼無常遽侵。速馳草書弔慰大定。海在豆州桂谷山寺以指向空寫大般若經。至魔事品字畫忽現空中。自此工筆翰。能五筆一時書。或書水上墨不亂壞。奉勑書大內南門諸額。又書應天門額。已挂之仰見。應字上點缺之。海乃擲筆補之毫無差邪王臣伏其妙。撰述尤多。祕府論。三教指歸。性靈集等家家誦習。傳來佛舍利八十粒。梵夾三。經疏二百一十六部四百六十一卷。諸曼荼羅寶器道具不遑具記。延喜二十有一年冬十月賜謚弘法大師。

贊曰。有非常之志建非常之事。不是強為天機之所使也。纔見登壇具戒則能對佛立誓。是天機之所使與。故踰鯨波之嶮危得龍樹之深祕。故國山川雲行雨施。若夫宮中之紺宇建護國之儀。頂上之寶冠證成佛之義者。又非天機之所及而已。昔飲光尊者正受雞足。千歲之下少有人繼。瞻彼南山籌室有侐。疑是同一三昧乎。唯其缺金襴伽梨之為異耳矣。

元亨釋書卷第一　終

元亨釋書卷第二

濟北沙門　師錬撰

傳智一之二
　建仁寺榮西
慧解二之一
　龍門寺義淵
　大安寺道慈
　元興寺智光
　東大寺良辨
　善珠法師
　元興寺明詮
　東大寺明一
　元興寺慈寶
　梵福山善謝
　普光寺慈雲
　勝悟法師
　善議法師
　安澄法師
　光意法師
　秋篠寺常樓
　常騰法師
　品慧法師
　道證法師
　奉實法師
　石淵寺勤操
　元興寺護命
　海印寺道雄
　延曆寺安慧
　延曆寺義真
　延曆寺圓澄

釋榮西號明菴。備之中州吉備津宮人。其先賀陽氏。薩州刺史貞政曾 孫也。母田氏。懷孕八月而誕。母無困惱永治元年四月二十日明星出時也。隣人曰。傳聞不滿期而有產者不利其父母焉。母聞之不乳三日。兒又不呱。有沙門陽嚴往來賀家。以事告其父。父大嗔曰。兒已死乎。對曰。猶活也。嚴誡婦家鞠育。甫此始澣浴。八歲

從父讀俱舍頌。聰敏邁群兒。十一師事郡之安養寺靜心。心者嘗於三井寺與西父同業。以故就焉。十四落髮登叡山戒壇。十七心亡。遺言曰。汝尚幼故不授密法。我歿汝其役法兄千命乎。十八命授虛空藏求聞持法。自此精進屢見靈感。十九赴上都。從叡山有辯學台教。應保二年天下疫。西患恃怙罹災歸本邦省覲。又就命稟灌頂。伯耆大山有基好啟密乘之肆。西璽足依之。盡得其蘊。又還本山重受顯意法師密灌。仁安三年夏四月乘商舶泛瀛海著宋國明州界。乃孝宗乾道四年也。五月發四明赴丹丘。適與本國重源遇。相伴登台嶺秋九月共源理歸檄。以所得天台新章疏三十餘部六十卷呈座主明雲。明雲見疏加嘆。西又以宋地台宗酬酢之言及彼地名德書文與雲。雲曰。汝於支那揄揚台教亦我國之法華也。西又跂大志。欲重入支那達於印度拜牟尼八塔為滅罪之要於是乎門下侍郎平賴盛與西厚。聞西之西遊常遏行裝。以故未遑發。文治之元平氏凋殛。侍郎尋亦卒。遂以三年夏重入宋域徑趨行在謁知府按撫侍郎表奏過竺之事。于時朝議報曰。北蕃強大西域皆隸。關塞不通何行之有。西素志不果鬱鬱若亡。舶主促還。放洋三日逆風俄起反溫州瑞安縣。西謂我未究奔馳風濤豈激我乎。乃下舶與十數輩又向赤城。時虛菴敞禪師住萬年寺。黃龍八世之嫡孫也。初戊子之行。明州廣慧寺知賓之者問曰。子之國有禪乎。對曰。我邦台教始祖傳教大師傳三宗而歸方今台密正熾禪滅者久矣。西承乏之者也。恨祖意之不全矣。故航海來欲補禪門之缺。不知得麼。知客又英衲也。頗多發益。而西縻于損友其秋早歸。夙志勉勵直至虛菴菴問曰。傳聞日本密教甚盛。端倪宗趣一句如何。對曰。初發心時。即成正覺。不動生死。而至涅槃。菴慰誘曰。如子言興我宗一般。西自此盡心鑽仰。親炙者數歲。淳熙之末菴移天童西亦行補助多矣。紹熙二年秋辭菴。菴付僧伽梨書曰。日本國千光院大法師宿有靈骨洪持此法。不遠萬里入我炎宋探賾宗旨。乾道戊子遊天台。見山川勝妙生大歡喜。至石橋焚香煎茶禮住世五百大羅漢。尋反本國。夢境恰恰。二十年雖音問不繼。而山中耆宿歷歷記其事。今又再遊此方相從老僧。宿契不淺志操可貴不得不示法旨。昔釋迦老子將圓寂以正法眼藏涅槃妙心付屬摩訶迦葉。二十八傳而至達磨。六傳而至曹溪。又六傳而至臨際。八傳而至黃龍。又八傳而至予。今以付汝。汝當護持。佩此祖師歸國布化。開示眾生繼正法命。又達磨始傳衣而來以為法信。至六祖止不傳。汝為外國人故我授此衣為法信。則乃祖。耳。先是在萬年日。敞語曰。菩薩戒禪門一大事也。汝航海來問禪於我。因而付之。及應器。坐具。寶缾拄杖。白拂。其圖迦文已下二十八祖。達磨以來至虛菴嫡嫡相承不括橫枝五十三世系連明覈。西趨出到奉國軍。(今改慶元府。)乘揚三綱船著平戶島葦浦。本朝建久二年辛亥

也。戶部侍郎清貫創小院延之。秋八月八始行禪規纔十數輩。不幾海眾滿堂。遂入王都倡禪道。初己酉歲有能忍者。聞宋國宗門盛。遣其徒附舶扣問育王佛照光禪師。照憐異域之信種慰誘甚切。寄以法衣及賛達磨像。忍詫光之慰寄謾唱禪宗。已乏師承亦無戒檢。都下鄙之。迄西演心宗。搢紳士庶欲混忍而擯。又筑前宮崎有良辯者。嫉西之禪行誘叡山講徒訴朝竄逐。六年詔藤相國召西府裏以主當令仲資徵問。尚書左丞宗賴預聞。西排斥偽黨舉唱真乘。詞辯渙然冠纓聳聽。西曰。我禪門者非特今始有之。昔叡山傳教大師嘗製內證佛法相承血脉一卷。其初乃我達磨西來之禪法也。彼良辯昏愚無知引台徒誣我。禪宗若非傳教亦非。傳教若非台教不立。台教不立台徒豈拒我乎。甚矣其徒之闇其祖意也。于時台宗有識之者以西言為善因是。叡眾輔西禪化。西又與忍抗辯宗義往反數番。忍杜口而退。以故西之道行盛于都城。西示眾曰。我此禪宗。單傳心印不立文字。教外別傳。直指人心。見性成佛。其證散在諸經論中。今且出一二以諭汝等。華嚴曰。初發心時便成正覺淨名曰。心淨佛土淨。楞伽曰。如來清淨禪。大般若曰。第一義無有文字。法華曰。唯佛與佛乃能究盡諸法實相。又曰。諸法寂滅相。不可以言宣。涅槃曰。如來常住無有變易。毗盧遮那經曰。我覺本不生。出過語言道。解節經曰。自證無相法。離言說四事。文殊問經曰。此法不思議。離於心意識。占察經曰。一實境界者。謂眾生心體。從本以來不生不滅自性清淨。起信論曰。離言說相離心緣相。智度論曰。般若波羅蜜。實法不顛倒。念想觀已除。言語法亦滅。是等文繁今出少分耳。又曰。此事只在行住坐臥處。添一絲毫也不得。減一絲毫也不得。便恁麼會去更不費些兒氣力。纔作奇特玄玅商量已無交涉。所以動則生死之本。靜則昏沉之鄉。動靜雙忘顢頇佛性。摠不恁麼畢竟如何。若是旨外明宗終不言中取則。直下便見撩起便行。箭已離絃無返迴勢。千聖也摸[打- 丁+索]不著。或未到此田地切忌麁心大膽一向掠虛到臘月三十日摠不著。又曰。古人所謂大事未明如喪考妣。釋迦老人為一大事因緣故出現於世。且道大事又作麼生明。直須當人大悟一回親到方開自家口說自家話。若也未悟。縱說得五千四十八卷盛水不漏也只是法身量邊事於是大事遠之遠矣。試舉古人悟處。自家商量看如羅山和尚一日問石霜和尚曰起滅。不停時如何。霜曰。直須寒灰枯木去。山不契。卻往巖頭和尚處如前問。頭喝曰。是誰起滅。山言下忽然大悟。且道悟箇什麼。他古人念此在茲。十二時中綿密做工夫。直是以悟為則。發一問決擇此事。尊宿應病與藥。唯以病去藥除全體輕清為驗。後學不達本源強分優劣曰。石霜是死語巖頭是活語。如此見解買草鞋行脚始得。不領鈎頭意錯認定盤星。所謂師子咬人狂狗逐塊也。西少形短。同學

嘲曰。子雖才辯身體卑矮。稠人之中廣眾之時恐人不貴子也。西應聲曰。虞舜王赤縣。晏嬰相齊國。皆未聞長也。同學羞澁。西雖辯一時心實恥之。便以所受求聞持法期一百日精祈。始入壇時於堂前柱刻身長。過期倚柱長前四寸餘。戊子歲上台山見青龍於石橋。感羅漢於餅峯。因而供茶異花現盞中。又返明州詣阿育王山見舍利放光。西在萬年三門兩廊缺焉。西捨三百萬舉二役。先二百餘祀中天那蘭陀寺三藏室利跋陀羅之所造也。寺之主者及大眾皆曰。梵語室利此曰吉祥。西公上字義相近。西天東域前後比德名義合符為不徒耳。又修觀音院大慈寺智者塔院。及天童山千佛寶閣。建久三年於香推神宮側搆建久報恩寺。始行菩薩大戒布薩。六年創聖福寺于筑之博多。此春分天台山菩提樹栽東大寺。初西在台嶺。取道遼法師所栽菩提樹枝付商船種筑紫香椎神祠。建久元年也。西以謂。吾邦未有此樹。先移一枝于本土以驗我傳法中興之効。若樹枯槁吾道不作。蓋菩提樹者如來成道之靈木也。世尊滅後一百年師子國王受佛記共佛舍利得南枝盛金甕移殖。南宋之始求那跋陀羅始栽廣府。其後遂師分台峯。是以西為法信寄來。逮東大寺復勅以此木移焉。元久始西又取台枝栽建仁東北隅。兩處茂盛垂蔭數畝。至今繁焉。天下分栽。建仁二年金吾大將軍源賴家施地于王城之東營大禪苑。三年六月尚書省箚置台密禪三宗。西即而搆真言止觀二院于寺。元久二年春三月幾甸大風。都人謠言。比來西師新唱禪要。其徒衣服異製。加梨博幅。直裰大袖。行道之時多含颱風。今巽二作災恐基於西乎。巷謳甚喧達天聽。詔有司驅西出都西聞勅下語徒曰。今日吉日是吾法成之秋也。汝等早往堀川買寺材。諸徒匿笑。既而官使至。西曰。風者天地之氣非人之所作也。其神曰飛廉。豈西之能乎。不干於西者明矣。若又有人能作風者其人尤靈不為凡矣。明主不漫加放逐。審詳兩端西之不出都者必也。官使奏西言。上曰。此比丘言詣微。重勅曰。無所羨乎。西因而陳營搆。依之建仁上為官寺得有司監護。建永元年秋九月勅主東大寺幹事。寺罹治承寇火修營未竟以西德望朝廷有此授。不踰四載大殿層塔凡當有之所悉備足。去承元二年洛東法勝寺九層大塔災。勅門下侍郎藤公經監修造。豫周二州充其費。三年秋八月猶未成一級。朝議以西之幹東大蠱付以塔事。西不得辭。其落亦如東大之歲。初平侍郎奏賜紫衣。建保元年擢僧正。初良辯謗西。一夕夢西自宋國歸齎白米普種諸州。覺後改悔稱揚歸降。間有誹者。辯曰。勿言西公非汝等毀譽境界。三年西在相州龜谷營壽福寺。一日辭源僕射實朝。僕射曰。師已老寺未成何事行乎。對曰。我欲入王城取滅耳。僕射曰至人出沒豈擇地乎。對曰。都人初聞宗門疑信胥半。我當唱末後句顯煥王都耳。即命駕歸京。夏示微疾。六月晦布薩次告眾曰。孟秋單五吾之

終也。都下喧傳至宸扆。到期上遣中使問候。西對宮使曰。已近。而姿儀壯健。諸弟子傍聽潛怕。晡時坐椅安祥而逝。中使未還宮於塗聞路人譁稱見瑞虹于寺上。實七月五日也。年七十五。臘六十三。西知見廣大三閲大藏以法道之寄為己任。故顯密之教多。所補弼。至於宗門雖斑斑見于前皆乏貽厥。今之學者推西為始祖。嘗曰。我沒五十年禪宗大興於世。文應弘長以降爾于慧日隆于巨福。皆如西之言。二師又領建仁。可謂奇中矣。生平著述興禪護國論三卷。一代經論摠釋。日本佛法中興願文。不二門論。三部經開題等各一卷密部甚多不盡記。
贊曰。仲尼沒而千有餘載。縫掖之者幾許乎。只周濂溪獨擅興繼之美矣。建仁去叡峯者殆于四百年。其奮激之志發于妙齡也。見夫因攀牛山之横枝得受龍峰之正派。豈所謂尋樵子徑到葛公家者乎。初志雖補傳教之遺意。後世皆推禪門之大祖。因茲而言所以過周氏為不鮮矣。加之求法之跡瀛海再留印文。興福之光和宋共殘輪奐。嗚乎壯乎哉。

慧解二之一

釋義淵。世姓阿氏。和州高市郡人。其父無子祈觀自在像。一夕聞兒呱出見之。柴籬上有一包香氣芬郁。開而見之小兒也。父母喜而收養。不數日而長。天智帝聞之同皇子鞠育崗本宮。後出家從智凰學唯識。又入唐稟智周法師相宗之訣。周者慈恩基公之上首也。歸朝盛倡相宗。受其業者。行基。道慈。玄昉。良辨。宣教。隆尊等也。又勤營建。龍蓋寺。龍門寺。龍福寺。皆淵之構造也。大寶三年為僧正。神龜五年十月寂。勅禮部監護喪事。
贊曰。淵公其駕願力而來者乎。不啻其誕育之異也。口化之迹博而遠矣。昉之胤雖不盈十世。而今之言相者咸教之裔也。非駕願力豈其爾乎。
釋道慈。姓額田氏。和州添下郡人也。事吳智藏稟三論學。大寶元年入唐請益。于時武后長安之始也。蹈勝地尋明師。經律論多涉獵。益究三論之旨。養老元年歸。盛唱空宗。天平九年冬十月啟最勝會於大極殿。其儀同元日。勅慈為講師。初元年將新大官寺。下勅覓伽藍營造之宏規。時無委者。慈奏曰。臣在唐時偷圖西明寺。心中誓念。若歸本土柄道福願規模之。今陛下之叡志臣之先抱也。即上之。上大悅。詔慈為造寺監護而居焉。又勅賜封戶及扶翼童子。其封詔曰。法師遠涉蒼波覊異聞於絕域。遐游赤縣研妙機於碩師。參跡象龍振英秦漢戒珠如滿月慧水似巨瀛。宜施食封五十戶。

十六年十月滅。年七十餘。慈在唐逢密者得虛空藏求聞持法。慈傳善議。議傳勤操。操傳空海云。
贊曰。最勝會者宮中法事之第一也。偉哉其儀同元日焉。於以應見吾聖武大帝歸崇之專壹矣。雖南梁孝武。北齊文宣不能軼耳。慈公高踞主席。其人可識。況天平之間英俊森列乎。
釋智光。內州人。共禮光止元興寺。得智藏三論之深旨。藏之室中推二人為神足。有靈叡者受于二光。今之三論家皆叡之胤也。禮暮年禁語音。智間焉。渾無所答數歲。禮逝。智嘆曰。禮者少年之莫逆也。近歲持不語思精修也。而不知受生何處。祈念三二月。一夕夢至禮所嚴麗光潔。智問。此處何乎。對曰。極樂界。子以懇志且來此也。然非子居。早出去。智曰。若是安養亦我夙樂。偶至斯何須歸乎。禮曰。子無行業。不可居。智曰。我生平見子行無過我。近只持不語耳。又言我乎。禮曰。我洽見經論頗委淨業。往生資粮無加觀想。是以絕言語謝人事。四威儀中專觀彌陀相好及淨土莊嚴。積功累德今生樂邦。我若不絕言語不謝人事不謝人事不至純想子今詰我乎智曰然則乞受訣。禮曰。子盍問彌陀智即共禮詣佛所。莊嚴光色又過禮所。智頭面作禮白佛言。何等是往生正修業。佛告智言。觀如來相好及淨土莊嚴。智曰今見此界廣博嚴飾心眼不及。況又如來相好豈凡慮之所堪乎。於是彌陀便擧右手。智見掌中現小淨土嚴飾具足。智覺命工圖佛掌淨土常自觀之。其後吉祥而逝。其圖見在元興寺。世爭摸寫。
贊曰。二光者三論之翹楚也。智昔落節于行基今考終始過而能改者也。善哉君子之道矣而已。其掌中淨土者夢中之遺澤乎。
釋良辨。(【考】辨下文或作辯)姓百濟氏。近州志賀里人。(或曰相州)其母祈觀音像而得。二歲時母桑焉。置兒於樹陰忽大鷲落捉兒而去。母悲望趁鷲而往不歸家。初南京義淵詣春日神祠。見鷲鳥于野將小兒也。鷲見人而避。淵收而歸。甫五歲就學。聞一知十。稍長。淵誨以相宗。又從慈訓法師受華嚴奧旨。訓共審祥親稟於賢首故辨為賢首的孫也。詶祥不振。至辨大昌。聖武帝加敬崇。東大寺大像辨之勸化也。天平五年建金鐘寺。寶字四年為僧正。寶龜四年閏十一月十六日卒。始母尋兒跋涉山川。經三十餘歲而不遭。不得已而赴故里。乘舟泝淀河。舟中人相語曰。世有奇事。南都東大寺良辨法師年纔三十余。學超倫輩。擢為帝師。昔義淵僧正見鷲弄兒取而育。漸長大成此國器母聞之疑是我兒。乃往南京潛尋。東大比丘語此事。比丘曰。辨公高貴。嫗之言似瀆德。吾不欲聞。嫗若實母伺其出書事于簡置路傍。母如教。辨如春日祠留輿視簡。乃問之。母告實。辨曰。我師義淵舉我實如嫗言。我亦思見母未由也。今偶相逢。我甚嘉之。然生平有驗乎。母泣曰。我昔無子祈觀音像產公。

以故刻一寸一分大悲小像挂兒頸。鷲捉兒時像猶在焉。不知公稚時有諸。辨嗚咽而言。我七歲淵公授觀音小像曰。我得汝時此像懸汝頸。恐汝父母付之乎。汝不知父母。惟像惟見焉。我自爾奉持未嘗離體。然則嫗者實我母也。自褚中出像呈母母見像宛如也。母又知辨之真子也。辨便奉母歸舍院側竭哺養焉。

贊曰。相者謂余曰。辨師之事世皆以為異也。我宗不爾。何以故。世之所以異之者偏計執也。殊不知依佗起也。又辨之所以立者豈非圓成乎。余曰。子之論未盡耳。我見辨之遭捉已是入法界品也。相者曰。何也。余曰。法界之中以童兒婦人為知識也。因此而言。靈鳥者其善介良媒哉。儒者尚曰。禽獸夷狄皆人也。況事事無礙乎。何足怪焉。相者絕倒。適以一時之餘論綴于此矣。

釋善珠姓。安部氏。京兆人。或曰。太皇后藤宮子之蘗子也。少魯鈍。而以此為恥學唯識宗習因明論昏窒不通勵志無撓。時毒暑頭腫如熟瓜鬢髮盡落。珠之勤業率類之。以故博該三藏。延曆十六年正月侍皇太子病事在資治表。其年四月化。歲七十五。

釋明詮。十許歲離家入元興寺學相宗。性不敏志抱屈。乃欲出他之。適雨降。憩殿陛。見簷溜落階。其石皆窪。忽猛省曰。至柔穿至堅漸積之為也。我雖昏愚豈可息乎。便還房勵所業。晝夜不懈寢食齊舍。自此得高譽於南方。貞觀六年任僧都。十年五月十六日卒。年六十。

贊曰。學貴勤勵不在鈍利。苟無激志道不至也。珠公頭如熟瓜心邁堅石。繫髻刺股皆不及矣。是其所以該三藏粹唯識也。我今合詮以為後世負笈者之標式矣。

釋明一。姓和仁氏。居東大寺宣揚真教。學者多依。晚置後房。時人曰。蒼蔔雖凋尚含四照之色芝蘭半落亦送十步之芳。歲七十一化。延曆十七年也。

釋慈寶。姓朝戶氏。和州平郡人。從元興寺勝悟學法相宗。悟稱其敏慧。晚設婉閨學者雖優才頗患之。弘仁十年十一月卒。壽六十二。

贊曰。釋氏之所以異世俗者不立閨閤也。苟有繫戀豈為梵法乎。多智禪定而不斷婬皆成魔屬。是楞嚴會上嚴誡之佛勑也。一也雖防慈恩之初不慎羅什之末。吾徒之大慝也。此書何系列邪。十步之芳四照之色棄其緩收其急。世人又取於泥日乎。人皆小疵匿大德。一獨大疵猶不匿。豈德大而不容匿乎。所以是予合寶而不削也。

釋善謝。姓不破氏。美州不破郡人。從理教法師稟法相。漸通六宗。桓武帝擢置僧職。晚入梵福山修安養業。延曆二十三年五月終于梵福。歲八十一。

釋慈雲。姓長尾氏。平安城人。景雲四年得度。學業優贍。講無性攝論等。為普光寺講師。生徒多趨宿德推之。寂年四十九。大同二年也。
釋勝悟。姓凡直氏。阿州板野郡人也。受業於尊應。應者神睿之高弟也。道業清高洞明經威。姿儀可見言語有味。護命。慈寶。泰演等。皆出其門。世稱得人焉。弘仁二年六月卒。年八十。
釋善議。姓慧賀氏。內州錦織郡人。奉道慈受三論之學。又蹈滄浪入唐請益。當時學徒推博於議。歲八十四滅。弘仁三年也。
釋安澄。姓身人氏。波州舡井郡人。善議之上足也。大啟空宗兼學密教。與勤操結誓。以弘法為己任。為人敏給議論絕倫。唯西大寺泰演時為匹敵弘仁五年三月卒。年五十二。
釋光意。姓河內氏。內州石川郡人。容姿閑雅音韻清亮。每臨講席道俗傾聽。大同年中為最勝會座主。有擧問辨如流。暮年齋食不緩。弘仁五年三月終于本鄉。壽七十八。
釋常樓。姓秦氏。洛京人。幼隨善珠出家。天資聰明日誦萬言。兼有外學。年二十受具戒。闡揚真教廣化四眾。延曆末勅住秋篠寺。弘仁五年十月逝。年七十四
釋常騰。姓高橋氏。京兆人也。道業純淑博究經論。決擇義理決獨步一時。嘗著諸經注釋合六十三卷。學者傳誦。弘仁六年九月卒。年七十六。
釋品慧。姓大原氏。平安城人也。十四離家。二十試所習射甲科。乃受具足戒。每逢論義推為雄豪。年六十八為維摩講師。壽七十五亡弘仁九年也。
釋道證。姓百濟氏。阿州人。學業精粹。弘仁之初當選任大宰府講師。任中供俸專給佛事不儲畜。人貴之七年十一月寂。年六十一。
釋奉實。姓荒田氏。尾州人也。天性踈通心地清朗。紹隆像化闡揚玄風。年及八十始學密宗。耽味而忘寢食。恨得之晚矣。年八十四亡。弘仁十一年也。
贊曰。延曆弘仁者王化之流暢乎。諸師生清世研真乘。各以所業東說西唱。令後人想見當時之風流儀狀焉。嗚呼延弘之間者夫二諦之全盛乎。
釋勤操。姓秦氏。和州高市郡人。父母無子詣駕龍寺玉像祈之。母夢明星入懷則有娠。天平寶字二年生。十二歲禮大安寺信靈為師。後就善議法師稟三論之學。神護景雲四年勅於宮中及山階寺度一千僧。操時霑覃渥。義學之名播一時。弘仁中於大極殿講最勝王經。講已勅更於紫震殿集諸宗碩德各竪義。以操為座主。操尊三論為君父。斥法相為臣子。詞義贍博。於是相宗夙將陣亂旗靡。上賞辯論加僧都兼管東大寺幹事。天長帝又擢之主西寺幹事。初操居大安

寺。隣房有榮好者。養老母於寺側。一童為役。昔者七大寺不騰庫煙。廨院備飯。到午時駕車入寺巡僧坊行之。每人四升。好受之分為四焉。一分奉母。一分與童。一分施行丐。一分自喫。先令童送母食。待童返問曰。我母食不。對曰。然。然後下箸。不爾不啖。率以為常。操與好善。常見之貴好之篤孝。一日童受飯忍泣。聲漏于壁。操怪呼童問曰。爰為哭。對曰。我有二嘆一者我師今朝俄亡。生平甚窶。何以供喪。二者師母不賜。分於師飯。師已殂矣。母何所活。思此二事我淚不禁。操聞憐焉。告曰。你莫愁也。我與你營好之葬。又好母老羸。恐聞好死迷悶氣絕。你早送飯不差時候。慎而莫語也。童喜送飯如常。母不知也。操其夜與童潛葬好于野。不令眾知。蓋訝好之母有聞也。使童謂人曰。我師佗之。次日操分飯猶好之為也。而送好母。童又得一分。其後母問曰。好久不來何乎。童曰。我師每欲赴堂高賓俄來故止耳。母常問童互語慰答。翌歲操有大賓。急辦供。童過午不送飯。童又被酒而睡。客退操覺童而問。童曰。我托醉而未送。操促之。便以飯與母。日已傾。母曰。衰矣哉老婦乎以為日已旰。而好或怠也今猶午時也。童聞言好事。午醉半醒不覺而淚下。母恠問。童卒爾曰。媼豈不聞乎去歲某月某日我師已寂。思媼之悲痛未容易言而已。母聞之慟絕不起。童悔未由也。童泣語操曰。我若真子雖賓鬧不忘母矣。若又禁酒豈有蹉口乎。媼之逝也我之過矣。操大嘆。乃共同志七人葬好母於石淵寺後。操及七人反寺。操語而曰。我替榮好養其母。養未艾命已斷。未足酬好焉。我欲薦冥福而補養。我等八人分法華八卷。逢媼忌各講一卷為追薦。公等許不。七人皆諾。便設四日二座講席修之。名曰法華八講會。于時延曆十五年也。每歲不缺。諸寺名曰石淵八講。相効修焉。十講三十講相次而出。皆基於操也。天長四年五月七日終西寺北院。年七十。夏四十七。

釋護命。姓秦氏。美州各務郡人。五歲入吉野山宴坐數年歸省父母父母留居郡之山田寺。十五依元興寺萬耀。十七得度。從同寺勝虞學唯識。白月入山修虛空藏法。黑月歸寺誦習。嘗於普光寺講唯識論疏。忽頂上得舍利。又喫飯口中感舍利。弘仁七年任僧都。上表辭讓。上不許。屏居山田寺。天長四年為僧正。承和元年九月十一日終元興寺小塔院。年八十五。時善守法師來問疾。親逢音樂響天薰香盈室云。

釋道雄。姓佐伯氏。敏悟過人。從慈勝法師受唯識之旨。尤通因明論。又依長歲和尚學華嚴宗。又就弘法大師習密法。雄欲創伽藍未得勝地。一夕夢山州乙訓郡木上山境致佳麗。翌日到其所果如夢中。奏起營搆。官給工粮。合一十院名曰海印寺。置華嚴教焉。年度二人。于今不絕。嘉祥三年任僧都。仁壽元年六月卒。

釋安慧。姓狛氏。內州大縣郡人。母夢吞明星有孕。延曆十三年生。及四五歲聰敏超軼。七齡事州之小野寺廣智俗之號菩薩者也。智異其才器携付台嶺傳教。時年十三。教寂。從慈覺受毗盧遮那。孔雀等經。天長四年試大日經業得度。紀年之間修三部念誦。四種三昧。承和十一年為羽州講師。時管內皆學唯識不知台教。自慧開講州人棄相歸性。上創定心院置十禪師。撰得九人闕一人。得慧滿數焉。貞觀八年六月尚書省牒以真言止觀兼明者補座主為永式于時慧中選。十年四月三日卒。年七十四。經宿左手與願右手寶印共不散云。

贊曰。業精于勤。是負笈之事也。四師異宗。其精勤者同矣。加之操之靈也。命之辯也。雄之興也。慧之博也。豈夫邊幅乎。

釋義真。相州人。從傳教大師入唐。為譯語沙彌。貞元二十年十二月七日於台州國清寺受戒為大僧。又同教入曉闍梨灌頂壇弘仁十四年四月十四日於根本中堂始行大乘菩薩戒羯磨。真為和上。時受者一十四人。上詔諸宗述奧旨。護命作研心章褒相宗。空海著十住心論贊密教。真造天台義集。世皆傳之。天長元年詔任延曆寺座主。座主之職始於真。九年為維摩講師。台徒之預也真為初。十年七月四日寂。壽五十三。

贊曰。為人之後者不失家法是為嗣嫡矣。真公居叡山第二世而孳孳勤勗。故承明王之崇恩始領座主之高職。可謂不忝家業乎。及柄圓戒之法事。豈國清親受之異熟與。思其從事於羯磨不多違錯而已。

釋圓澄。姓王生氏。武州崎玉郡人。母夢偃臥屋上身映日光忽腹生白蓮華覺後有孕。寶龜二年生。甫七歲新羅法玄摩頂曰。汝必為人師。十八事道忠菩薩。忠者鑒真之神足也。使令左右晨昏無倦。間即誦習。忠愍其懇誠授菩薩戒名為法鏡行者。延曆十七年上叡山從傳教落髮。教改今名。時歲二十七。二十三年教奉詔入唐。澄其年四月就唐僧泰信受具足戒。明年教歸。勅於紫宸殿修五佛頂法。撰諸名德受灌頂。澄預數焉。是宮中密灌之始也。大同元年十一月二十三日教於止觀院藥師像前率數百人授圓頓菩薩大戒。澄又預焉。是傳大戒之始也。弘仁八年三月教授圓教三身蓮華因果常寂光土等義曰。我大唐傳來台宗奧旨既入汝心。宜挑流傳之燈永永不絕。十三年六月四日臨終先授止觀三德之義。止觀必要是也。澄悲喜交合。初大同二年二月一日教始修法華長講。擇七碩德各配一卷為講師。第一卷教自講。第二卷以澄領之。三年三月八日修金光明長講。又以澄當講師。是本朝二經長講之始也。澄勸淳和大后製衲伽梨施國清寺眾。蓋厚本也。天長十年為天台座主。承和四年十月二十六日告弟子慧亮曰。先師往年語曰。我歸朝之時白國清寺座主大眾曰。歸本國後。常遣請益留學二僧請決圓教深旨。我滅後汝宜撰

人跨海。我承遺命顧門屬未得其人。唯楞嚴院禪師可充此任。故我勸此人入唐請益。我命在今夜不待此人為深恨耳。今以請益大德所置三十餘條疑問并傳法記草雜書等託汝。須彼禪師歸朝必受諮決。是我懇志也。便於寂光道場其夜三更奄然卒。壽六十六。臘三十四。楞嚴院師者慈覺也。

贊曰。傳教攻苦食淡之時諸子之執役者不少矣。獨澄預於三始可謂榮焉乎。託六赤之孤寄百里之命。澄其人與澄其人與。

元亨釋書卷第二　終

元亨釋書卷第三

濟北沙門　師錬撰

慧解二之二

守印法師
東寺實慧
興福寺明福
延祥法師
長訓法師
實敏法師
源仁法師
叡山光定
高尾峯真濟
延暦寺圓仁
法琳寺常曉
禪林寺宗睿
法輪寺道昌
貞觀寺真雅
隆海法師
元慶寺遍昭
延暦寺圓珍

釋守印。姓土師氏。泉州人也。早從勝虞法師學。性聰鋭。耳目之所觸長記不忘。精法相兼善俱舍。議論之場重席之手也。印鼻根甚利。一時適出。客有來而不遇去者。印歸問曰。誰來此。門人告所由。又問。何以知之。印曰。聞香知之。承和十年十二月卒。壽六十一。

釋實慧。姓佐伯氏。讚州人。初事大安寺泰基學唯識。後從弘法大師稟兩部密法。法稱告曰。我法之興汝之力也。付以東寺。天長四年建内州觀心寺。承和十年奏於東寺灌頂院修春秋結緣灌頂。初三年勅為東寺長者。此任自慧始。弘仁天長二帝崇信過流輩。十四年十一月十三日滅。年六十三。

釋明福。姓津氏。京兆人。師事賢憬法師。性聰晤學不倦。延暦十年得度。粹于唯識。適維摩講師俄有疾告辭。法會將廢眾議推福充座主。福昇座辯義泉涌邁前時焉。一會稱嘆悅伏。承和之間擢僧都。嘉祥元年八月終興福寺。壽七十一。福不畜嚫物。只巾鉢而已。

釋延祥。姓槻氏。近州野洲郡人。幼師護命法師。命察其敏慧加意教誘。一日問曰。汝有夢乎。祥曰。夢臥七層塔上時三日竝出光照吾身。命曰。吉兆也慎勿語人。天長七年春於大極殿講最勝王經論難蜂起。祥折以無碍辯。官僚緇徒母不嘆伏。仁壽元年任僧正。三年九月卒。年八十五。臘六十八。
釋長訓。姓錦氏。近州滋賀郡人。早為玄憐法師之徒。延曆中受具足戒。大極殿最勝經會慧辯快利。仁壽三年為僧正。齊衡二年九月卒。年八十二。訓固持毗尼。世稱慈行。
釋實敏。姓物氏。尾州愛智郡人。母夢室中建三層塔覺而有孕。延曆七年生。目有重瞳耳孔相通。年十三從伯父中安法師入京。安以敏幼聰付玄叡法師。叡稱其法器摩頂誨誘。又隨入唐沙門永忠益智解。甫二十受具足戒。弘仁十年預維摩講席。儕輩嘆其竪義。承和八年於大極殿講最勝王經帝賞辯捷擢僧都。齊衡三年九月卒。歲六十九。臘五十。敏音聲雅麗聽其說法者皆歔悅。或至淚流云。
釋源仁。初從護命僧正學相宗。後謁實慧受密教。兼依真雅。宗叡二師益臻閫奧。當時推其密乘之博衍。益信。聖寶。二傑所由而出也。仁和三年十一月二十二日滅。
贊曰。學者之慧之耕也。慧者學之獲也。耕弗獲是曰儉歲焉。耕而獲是大有年也。七師者緇田之大有年乎。釋光定。姓贄氏。豫州風早郡人。弱冠喪父母。眼闕割塵網。大同之初入京師。聞睿嶽澄師之風傾意依付。五年春正月宮中齊會奉詔得度。台嶺宮度從定始。弘仁三年四月東大寺戒壇受具足戒。五年與興福寺義延抗論宗義。人優稱定。初睿山大乘戒壇南眾沮之。傳教卒後得建。定之力居多焉。弘仁帝好文。定有外學常陪文宴。以故與帝狎。及睿壇立定抱戒疏草乞宸書。帝笑而書。嘉祥四年奉詔建四王院。弘仁上皇聞定之齋厨屢缺賜一囊。御書曰。光定乞食袋。其後囊中無所容。天安二年定歲八十。上以賀禮賜度者八人及縑八十純布八十端綿八十斤錢八十緡米八十斛。台徒榮之。此年八月卒。臘四十七。
贊曰。明王之至化不可得而測知乎。
弘仁聖皇贍定師窶乏。豈封給之不足充之哉。　勑署一橐又深矣乎。蓋分衛者行等慈也。用玉管之微署引環海之均施。奚夫粹于斯邪。又可想見
當宸之治矣。定師之承　渥遇也台嶺之光暉乎。
釋真濟。姓紀氏。洛陽人。朝議郎御國之子也。母夢室中建三級塔因而妊。延曆十九年生。幼齡出家學大小乘兼綜外學。又從弘法大師受密法。法喜其氣宇加提髀。早授兩部大法為傳法阿闍梨。時年二十五。後入高尾峯不出十二年。承和初奉勑入唐。洋中舶破。濟駕片木隨浪蕩漾者二十三日。如濟者三十餘人皆盡餓死。只濟及真

然二人得活。南島人遙望海上每夜有光。怪而尋之得濟然焉。嶋民哀恤得返本朝。嘗於高尾神護寺建寶塔安五大虛空藏像。春秋設大法會鎮護國家。初一紀練行。時弘仁上皇聞其苦修為內供奉十禪師。仁壽帝勑為僧正。濟抗表讓先師弘法。此時海公未有追贈。帝義濟贈海以僧正。濟便受勑。天安二年八月天皇寢病。濟侍看護。昇遐後失志隱居。鄉與慧亮法師抗驗而不勝。至此益怏怏。貞觀二年二月二十五日逝。年六十一。

贊曰。世言。真濟惑色而成魅焉。當彼不平亡聊之時偷眼於靡曼失所守而有被伺乎。夫皇王之興衰者雖系法力之資持。其間有數而自歸矣。吾徒之有為也。唯直道而已。豈煩靈臺邪。惜乎濟之短於斯乎。然而濟之才又魁奇也。貽祝於吾皇讓名於其師其功烈偉也乎哉。

釋圓仁。姓壬生氏。野之下州都賀郡人也。昔崇神天皇第一皇子豐城入彥節察東壤其次子留為鄉人。仁其胤也。延曆十三年生焉。是日紫雲覆產屋。同郡大慈寺僧廣智德行兼優。俗號廣智菩薩者也。適見祥雲出尋起所。乃檀越壬氏之宅也。智問。舍裏有何事。主人答曰。家婦產兒。智中心恠喜而不言其瑞。蓋恐父母拘兒於塵中也。其後智至家曰。此兒長成必與我焉。仁幼喪父。九歲隨其兄學經史。性聰明貌溫雅。雖在少年志慕佛理。漸荒世典輒耽竺墳。母見兒操履兼思昔語遂付智焉。兒夢沙門長六尺許儀容俊偉。心懷尊重瞻仰作禮。沙門含笑語話。傍人告曰。汝知之乎睿山大師也。寤告于智。智將仁登睿嶽與傳教。教悅納焉。仁視教之風儀與夢中無異。而不說人矣。時年十五大同三歲也。教見其器宇彌加鍾愛。教以止觀大定妙慧亦誡曰。吾常弘傳二諦不生不滅之旨。而世人解真諦不生滅之理未解世諦不生滅之義汝以此法流傳世弘通圓教利益有情又指授止觀文義之骨髓。領知一藏經論之關鍵教嘗撰聰明年少十人各習學止觀。九子窒塞而中息。只仁一人得卒業。若有請止觀者令仁講授。教居傍聽證。率為常焉。弘仁四年歲二十逢官試得第。明年正月金光明會受度持沙彌戒。七年於東大寺受具足戒。教在下野時擇十人授灌頂。仁預數焉。爾後往來諸處稍張講席。承和二年夢教枕膝語曰。吾使汝入唐求法。但恐漂泛險浪之上勞劬危舫之中。我甚思之。翌日朝廷賜入唐請益之詔。其冬又夢教告曰。汝入大唐索大法。密教之中先詢天部台宗之中先問中道。五年六月二十二日從大使尚書右丞藤常嗣上第一舶。七月二日著唐國揚州海陵縣。則文宗開成三年也。十月藤尚書赴長安。仁猶留府。有一僧從上都來。號宗叡通悉曇。仁從之習梵學。又有全雅能解密教。就受灌頂得兩部曼陀羅。諸尊壇軌。佛舍利等。四年大使促歸不得辭。逆風俄吹還海州界。仁以為我逾溟渤求教法未充初志逼促歸國。今

風濤作虞。海神其有意乎。便陳所由請抽身下舶止海州東海縣濱沙上。洲渚日暮征帆已隱。海門茫茫不知所之。忽十餘賊來威形可怖。仁謂。我今瀕死不如捨資全命。至衣服皆脫與之。賊思。此人不惜財亦可貴也。便惻隱曰。和尚欲行何處。仁曰。我願至人里。二賊將仁送村落而逃去。漸至府。時刺史押付本朝第二舶。解纜五六日。逆颱又起返登州界。仁又以為幸也。潛下船寓州之赤山法華院。匿屏過冬明年巡觀州縣禪剎隣差。乃詣赤山神祠立誓曰。正法難逢真師益難。山神願加冥助。我歸本土當建禪宇弘傳心印。其夜夢一人提囊來。似販者。然不言而去。又返。往來三回。仁問曰。汝何人。對曰。商人。隣舍僧聞之曰。所持何物。商曰。不是閻梨可買物。仁便問之。商曰。是量三千大千世界之秤子也。和尚買取量此地看。仁買秤懸大地。和身亦在秤上。時仁夢中通曉豁如也。覺而端坐思忖。我必得妙法權衡此道拔濟羣情。亦是赤山神援也。不幾縣帖至。曰。日本國僧任性巡禮。初不許參訪。至此亦以為神加之一端也。又得州牒往青州府見節度及副使判官。舘龍興寺。判官入寺慰問。明朝使使延私宅讓自牀坐仁供珍味。判官姓蕭。名慶中。明佛心宗得禪門祖付之印。仁從而參尋。蕭公許可證明。又得衙牒禮五臺。於普通院逢志遠法師。年八十。台教之穎也。就受摩訶止觀。兼寫台宗諸書。夏在大華嚴寺八月末到長安。謁左街功德使儀同三司仇士良。勅居資聖寺。屢往大興善寺翻經院。見元政阿闍梨學金剛界大法。受五瓶灌頂。夢澄公喜告曰。善哉善哉汝圖寫將來。次年詣青龍寺義真阿闍梨入胎藏灌頂場。學毗盧遮那經中真言印契。并受微細儀軌。及蘇悉地大法。圖胎藏大曼陀羅。夢人來曰。五臺山和尚問訊日本國和尚今圖曼荼羅。我深歡喜。便授刀子曰。是北臺和尚所送也。覺後知文殊感應也。又受玄法寺法全阿闍梨胎藏儀軌。南天竺寶月三藏悉曇章。右街醴泉寺宗穎止觀。穎者智者八代之高弟也。大安國寺侃阿闍梨。淨影寺惟謹。共器許授付。凡住長安六年。多得念誦經書道具等五百五十九卷二十一種。會昌五年武宗毀佛法。六年崩殂。明年宣宗即位而大廢之後緇伍艱屯。仁愁遭此時。夢澄公語曰。我敢護汝莫抱驚怖。不幾而軍牒至。曰。日本沙門宜歸本邦。仁出帝京歷鄭密二州到登州押新羅使張詠宅。初漂著登州時。詠以嘗來日本受國恩待仁甚厚。至此又能慰勞。又夢達磨大師。寶誌和尚。南嶽。天台。六祖慧能。及本國聖德太子。行基菩薩。并澄公俱來語曰。我等護汝令歸故國。言了圍繞向東相送。夢覺獨自負焉。其年春唐商船從越州赴日本。風濤漂逸返登州界。至秋又發。適聞仁歸國艤舟而待。仁遭此遇以為夢中眾聖之感護也。九月着大宰府今歲唐大中元年本朝承和十四年丁卯也。仁表進所得經書道具等。降勅勞問。唐客四十餘輩。官給衣

粮且賞將仁來也。明年春隨詔入京。本山闔眾乞求灌頂。仁乃以聞。尚書省劄為國修灌頂法。給一千僧供。尚書左大丞伴善男監護法事。仁壽元年以五臺山念佛三昧法授諸徒修常行三昧。齊衡三年三月二十一日帝於冷泉院南殿受兩部灌頂。貞觀元年上受菩薩戒二年淳和大后受菩薩戒。法號良祚。三年太皇太后藤順子受三摩耶灌頂。初天長十年年四十。身疲眼昏思命不久。於睿山北磵結草菴屏居。三年修練待溘然。夜夢天人與藥其形似瓜割食半片其味如蜜。有一人告曰。是忉利天妙藥也。覺而口中有餘味。然後羸形更健昏眸益明。於是以石墨草筆書妙法華。且修四種三昧。以所書經藏小塔置一菴名如法堂。其菴今之首楞嚴院也。天下則之書法華號如法經。國俗至今傳此儀為精行。仁禮五臺。初至中臺。臺上池中有文殊石像。拜已向西臺相去二十許里。又向北臺距中臺三十里。雲霧滿山徑路難尋。已而漸霽。前途有一師子形甚威獰。踟躕感驚而進。良久師子不現。遂至普通院院有一房。房中現五色圓光。仁儻獨見餘伴不眛。時五色雲覆仁頂上。又禮南臺。黃昏忽見聖燈。一點之光普照五臺。心中思言。若穩返國必建文殊閣至心持念作禮而退。嘉祥三年上崩。太子即位。仁壽帝是也。勑修新傳密法。仁奏曰。除災致福熾盛光佛頂為最。是以唐朝街東街西諸內供奉恒修此法鎮護國家。今須建持念道場為陛下修供。蓋大唐青龍寺裏立皇帝本命道場。是其儀也。便降勑就延曆寺建摠持院。擇二七僧修持誦。貞觀二年創文殊樓。仁禮五臺時收其靈石及師子腳迹土歸。逮營樓埋靈石於五方基趾。填靈土於師子四脚下。仁在揚州時節度使李德裕慰遠遊施絹十餘疋。仁不受。德裕固請。仁察誠受之。即分開元寺眾僧。仁又受一分。仁辭長安。中散大夫楊敬之。國子祭酒李元佐。及眾官皆曰。我國教法隨和尚東矣。斯方志道者後當入日本國。元佐送護四十里。日晚同宿。臨分袂曰。和尚衲衣願施與我。時時頂戴以慰離緒。仁脫衣與之。初嘉祥元年七月為內供奉。仁壽四年四月任延曆寺座主。貞觀六年正月十三日避諸弟子獨召常濟入內床。口誦真言手結印契授與曰。是名密印灌頂。濟不任感喜。仁房近中堂。至十四日夜曰。清淨靈場側我不可取死。乃移慈叡房念阿彌陀。令諸門人同唱。至子時手結印口誦呪北首右脇而逝。年七十一。臘四十九。遣言曰。我在唐時立二誓創禪院造文殊樓。文殊樓已成。禪院未營。是我患也。且禪院者為赤山明神所誓也。我求法無礙歸國不艱皆神之賜也。我誓未果。甚慙於神。諸法友及徒弟等願替我造之。遣誡十數條。皆護法徵徒之微旨也。其著作金剛頂。蘇悉地二經疏共七卷。顯揚大戒論八卷。天長太上皇欲營菩薩戒壇。論者助發聖意也。三書依勑流行。八年七月賜謚慈覺大師。諸友徒依顧命建禪院并神祠於叡山之西麓。

贊曰。古云。草創難矣。或云。守文難矣。二難未決矣。予謂夫備儀法於一時貽德澤於後世者守文之任也。然者是難矣哉。何者若漢無文帝之儉約雖高祖啟基而不饗四百之曆。唐無太宗之勤政雖神堯創業不傳三百之運。承以孝惠之仁弱。繼以高宗之昏荒。而更歲華之延長者二文之賸膏殘芳也。傳教權輿睿嶽日不暇給。慈覺因夢寐之誨誘涉溟渤之渺瀰。遭龍象之十哲見狻猊於五臺。歸帆無恙故土有依。祝皇王之萬年奏建摠持之院。授弟子於三昧謀營常行之堂。顯綱密紀此時具張。加之託禪宇於顧命授密印於臨行。造次顛沛於此露呈。方今台嶺之支派或三觀或三密莫不統於覺矣。睿峰若容太常之議。願我早贈太宗之謚。

釋常曉。山州小栗栖路傍棄子也。稍長師事元興寺豐安。承和元年甲寅入唐。到淮南廣陵舘遇栖靈寺文[王*密]稟密教。乃文宗大和八年也。[王*密]者不空三藏弟子慧應之徒。妙明經律深通祕藏。又謁花林寺三教講誦大德元照請益密奧。照授以阿闍梨位。從受太元帥祕法。此法彼國不出都下。幾外諸州不許修供。照喜曉之才器潛授焉。明年歸申 官於小栗栖故里法琳寺修元帥法。齊衡之間天下大旱。勅於神仙苑修太元法。白龍現幡上大雨普灑。貞觀七年十一月晦逝。傳來經書六十卷。

釋宗睿。姓池氏。平安城人。年十四出家。從載鎮法師學經論。天長八年受具足戒。乃肄相宗廣崗寺義演。聞台教睿山義真。并受菩薩戒。又於園城寺受兩部密法于智證大師。更趨東寺稟實慧金剛界。真紹阿闍梨位灌頂。貞觀三年入唐請益。乃懿宗咸通三年也。謁汴州玄慶得金剛灌頂。青龍寺法全胎藏灌頂。(【考】此一句中文字恐可有錯落)全便付金剛杵及儀軌。又隨慈恩寺造玄。興善寺智慧輪等阿闍梨研究祕密。又到洛陽聖善寺。善無畏三藏之舊院也。門人以三藏所持寶杵(并)梵夾儀軌等與之。又登天台山精究教觀已而返明州望海鎮。會李延孝赴日本睿共泛舶。凡三日夜着大宰府。九年丁亥也。帝大悅。恩渥倍前。本朝宿學請新法。即於東寺啟灌頂壇。四來退沓。十六年上受金剛界三摩地法。十八年上遜之清和院。常召睿講演法義。睿勸帝聽華嚴。涅槃等諸大乘經。初山王明神託曰。汝修學無比吾常擁護。遠行雙烏相從。暗夜炬火自照。以是為驗。無何詣越州白山。二烏飛隨不散。入夜赴山路雲霧增暗。忽火炬耀徑。行客驚怪。睿感神之不浪言焉。其登五臺之時。西臺維摩石上見五色雲。東臺那羅延窟側見聖燈及吉祥鳥。又聞聖鐘。初貞觀十六年奏於宮中造持念修法院。帝在儲宮以選講侍。及即祚崇寵益厚。其阿闍梨位灌頂時官給供資年七十六終于禪林寺。睿性精勤。寢不脫衣手不離念珠。元慶三年夏上皇出家召睿受三摩耶祕

密戒。降御衣服玩珍寶車乘為嘅。睿分捨東大延曆等寺。一毫不久已。將來經書一百三十四部。
贊曰。諸師之西游猶眾商之著寶洲。金銀珠璧耀心眩眸。信手采取歸家襲收。多寡之不侔也蓋力資之所繇與。雖然不侔售用不遒矣。曉睿之二師其多寡者我不得而見。寧不遒者邪。
釋道昌。姓秦氏。讚州香河人。幼歲離家學三論。弘仁七年秋試經得度。九年於東大寺受具足戒。漫遊講肆錯綜諸宗又從神護寺空海阿闍梨登灌頂壇。天長七年召為佛名懺悔導師。上問曰。帝王臣庶庖宰之罪何重。昌奏曰。王重臣輕。左右侍臣皆寒心。謂昌齒少不知忌諱。輒發言耳。帝又嘿然良久曰。帝王罪重有說乎。奏曰。昌竊見庖氏之供御者割鮮數十以薦一膳。山澤飛走動受過戮所羞少而所屠多。以是見之王者為重。臣庶不然。山海有禁弋釣不縱。間有所獲纔資口腹。其罹殃豈不輕乎。上善其奏緩虞禁省庖供。昌一日宴坐。虛空藏菩薩現衣袖上。昌乃截袖圖之安法輪寺。貞觀元年為三會講師初承和中大井河溢。昌董防遏眾人子來。不日成。故老拭淚曰。不料今復見行基菩薩。貞觀十六年為僧都。十七年春二月卒。壽七十八。昌講法華五百七十座
釋真雅。弘法大師之弟也。九歲離本鄉入洛。事兄稟密學。十九受具足戒。貞觀帝降誕之初入宮加持。相國忠仁公與雅謀建精舍安尊像祝寶祚也。後勅名貞觀寺。置年度三人。雅奏止攝奧州往貢。勅從之。嘗侍宮中誦三十七尊密呪。其音清亮如鳴環珮聽者忘倦。帝又愛重。貞觀六年為僧正聽輦車。十六年盈七十。秋七月上表解僧正。優詔不許。表三上皆不許。元慶三年春正月三日化。年七十五。
釋隆海。姓清海氏。攝州人。家河上業漁捕。年數歲釣水邊。本州講師藥圓見而異之。携歸付三論碩德願曉。講習有名。冠歲預年度之試。時監司相議。令諸生徒互相問難。取其拔萃立為得第。時海詞辯英發。試官擢置甲科承和二年受具足戒。後聞中繼法師法相。稟真如阿闍梨密灌。十六年為維摩講師。諸家論難鋒起。海隨方辯折無礙。仁和二年七月患風疾。二十二日告門弟子曰。我今時至。乃沐浴唱本宗所誦龍樹菩薩羅什三藏讚。又誦彌陀讚。結定印端坐。氣絕而音止。門人積薪焚之。身灰而印不壞。年七十二。生平述作。二諦義。方言義各一卷。四諦義。二智義。比量義。因明九句義各二卷。
釋遍昭。門下侍郎良安世之子也。累葉冠纓早翔羽林。俗名宗貞。承和帝加近侍寵遇日渥。嘉祥三年三月上崩。不堪哀慕。登睿山薙髮。於慈覺之室學亘台密又勅於摠持院受三部灌頂于座主圓珍。講靈聞朝野。嘗詫曰。慈覺之資安然之師人品可知。元慶三年為僧

正。仁和帝重昭德望二年賜封百戶。又為元慶寺座主。寬平二年正月十九日化。年七十四。

贊曰。昌公仰酬御問。吾法中折檻之手也。海公母陀羅臂粲于烈火也。生平所養可見矣。雅昭二師受渥遇。亦其道術之所覃乎。

釋圓珍。姓和氏。讚州那珂郡人。父宅成。母佐氏。弘法之姪也。其家巨富鄉閭推重。佐氏夢乘舟浮海。仰見朝曦其光赫熾將擧手把之俄飛入口中。覺而語于夫。夫曰吉徵也。必生貴子。則有孕。弘仁六年誕焉。形嶷仡性警敏。兩眼重瞳。頂骨隆起如覆盆。雖幼稚有老成之量。見者異之。甫八歲啟父曰。內典之中應有因果經。願使我誦習。父聞斯言驚異。即尋得付之。珍朝夕讀誦未嘗輟。十歲讀毛詩。論語。漢書。文選。十四辭家入洛十五師事延曆寺座主義真。真嘉其才。天長十年試毗盧舍那經中甲第。受菩薩戒為大僧。時年十九。依例棲山一紀。薰修精練名達輦下。承和天子親降綸綍加慰問。官給資粮寵遇隆盛。十四年預大極殿吉祥齋會。詞辯入微。官僚聳聽又與南京明詮決擇大義。詮者相宗之義虎也。珍問難激揚懸河馳電。詮答對拙澁詞理共屈。自是名播朝野。嘉祥三年春夢山王明神告曰。入唐求法勿為留滯。珍夢中曰。比來入唐請益闍梨仁公精研顯密已歸本山。我何汲汲於航海乎。神曰。世人薙髮為僧者多矣。子昔日何汲汲於薙髮乎。蓋珍躁甚於度也。四年春又夢山王語曰。求法忘身必有冥助。今是利涉之秋也。珍夢中許諾。乃勒兩夢抗表以聞。上感激制可。仁壽三年秋儻唐商欽良暉發舶。珍共之泛海。八月十五日著唐之嶺南福州境。即宣宗大中七年也。刺史韋公。軍將林師準。加安慰寓居開元寺。適中天竺那闌陀寺三藏般若怛羅在焉。就學梵字悉曇章。兼授金剛界大悲胎藏大日佛印。七俱知曼素室利印法。梵筴經等。即於此寺兼聽存式講嘉祥。慈恩法華疏。華嚴。涅槃疏。及律。俱舍義至溫州開元寺得宋本楞伽疏及四分新疏。如台州上天台山到禪林寺。乃陳朝修禪寺智者傳法之所。所謂銀地道場也。寺東南有石象。古來相傳智者修三昧時。普賢菩薩降道場摩頂安慰。其所乘之六牙白象化為石留此。身形牙鼻宛如真。象之南有石窟。窟中有石鼓。智者說法搥之集眾。智者滅後擊之無聲。珍試以小石打之聲震山谷。諸僧無不駭嘆。寺北行數十里至最高峰號華頂。智者降魔感神僧之地也。苫竹森立茶樹作林。下華頂傍溪行至石橋。橋如虹梁跨深谷。其下萬丈水聲如雷。珍於國清寺聞物外講止觀。就而寫教文三百卷。外者遂師之法孫也。至越州開元寺。智者九世孫良諝講授台教。珍又寓止。九年六月入長安謁青龍寺傳教和尚長生殿持念大德法全受瑜伽密旨。七月共圓載入胎藏灌頂壇。十月入金剛界大曼荼羅。及稟蘇悉地大法。十一月請傳法阿闍梨位灌頂。全有難色。初承和七年夏末不動明王

授密軌。其旨深祕。珍對全呈一二。全驚曰。此事密乘祕蹟。子自何得乎。珍說所由。全大感嗟。以故全之所蘊倒底完付。及人定時授三摩耶戒。平旦付阿闍梨位灌頂曰。汝蒙大毗盧遮那般若母加持遊步阿字法性之大空。傳一切如來最上乘教畢。珍不任喜幸。此日捨財供寺眾。又見興善寺三藏智慧輪承兩部大曼荼羅祕旨。兼授新譯持念經法。輪者不空之三世也。十二年夏乘商人李延孝舶至肥州松浦縣。即天安二年戊寅也。太師藤良房大悅使使勞迎。冬入帝都。表上所得台宗密藏及諸宗經書千餘卷。貞觀六年秋七月有旨於仁壽殿結大悲胎藏灌頂壇。上親入壇。藤僕射良相及搢紳之預者三十餘人。八年賜真言止觀弘傳之公驗。勅於宮中講大毗盧遮那經。上預聽。元慶元年即位初例講百座仁王般若經珍為御前講師。仁和元年例講珍為仁壽殿講主元慶寺最圓問曰。多臘比丘或隨少臘稟學。少戒已在師位多戒當從弟子列。若爾羯磨戒位似違定制。不知為犯不。對曰。大唐有圓忠。志遠二師。遠下於忠三十夏。而忠。從遠稟受。爾後忠必居下。又帝者以少戒之智德為國師之時。高臘耆年皆就而受學悉位下。唐國法位類之耳。若固守臘豈師資之謂哉。初珍泛洋。北風俄起漂流求國。遙見數十人持戈矛立濱坻。良暉悲泣謂珍曰。我等當為流求所噬。為之如何。蓋流求者海島之啖人國也。珍乃合掌閉目念不動尊。時金色人忽立于舳。舟中人皆悉見。須臾東南風來帆幅飽飛。翌日著福州。先是承和五年冬珍禪坐石龕。怳惚之間倏金色人現形曰。汝圖我歸命。珍問曰。為誰。答曰。我不動明王也。我念法器故擁護汝。宜勵志操為苦海之舡筏。珍熟見其形魁偉奇妙威焰熾盛。手把劒足踏虛。珍便頂禮。覺後命畫工圖所夢像。是以風濤危害索救明王。今之現形果金色也。元慶元年冬入唐沙門智聰歸。珍先語門人曰。入唐留學圓載沒滄波。悲哉不歸骸父母之國。已葬身鯨鮫之腹。是命也。語已涕泗連如也。門人惑焉。及聰之至曰。智聰俱圓載駕李延孝船過海。俄夜遭猛風舳艫異處。載公延孝等一時溺死。智聰亦沒。幸值破舟之一板而乘之。須臾東風迅來浮查西飛。至曉漂著大唐溫州之境然後乘他船來朝。以聰之語逆計之。正是語門人之日也。都下傳聞無不敬嘆。元慶之間在睿山一時流淚曰。大唐國清寺元璋大德昨日入滅。數日又流淚曰。清觀大德亦殂。數亡法兄不堪毒慟。後一年又哭曰。我大唐請益師良諝大和尚遷化。須修追福通門志。乃捨布帛於延曆寺講堂修薦。七年唐商桓志貞至大宰府。國清寺諸僧寄書言璋觀之事。又越州諝和尚之訃至。其喪亡日與哭泣時無違。唐地莫逆之中觀璋二子尤深。商舡來往音問相繼。貞觀中觀有詩寄珍曰。睿山新月冷。台嶠古風清。時詩伯菅諫議至此一聯擊節稱賞。仁和二年秋上不豫。勅下山入宮持念看侍。一宿便愈。上悅賜年度二人。珍回資

山王明神。珍詣紀州熊野。適風雨晦冥迷失路。俄大烏飛來為前導已而至祠。衣上之蓑不遑解。便講法華。神排殿戶。自此熊山一乘八講雖晴天置蓑講師座下。以為式。珍睿山房有山王明神座。或曰。山王受戒時坐。此故人呼珍房曰山王院。初珍赴唐。藤太師寄五十金修智者塔及國清大殿。珍又捨三十金於國清寺。建止觀堂為長講之所。令比丘清觀充主事。鄉貢進士沈權記于石。貞觀八年奏建持念壇于冷泉院祝聖也。十年六月尚書省箚以近州三井園城寺為傳法灌頂道場。賜珍安置唐地傳來佛像經籍。四至山野禁俗輩侵掠。始珍以將來經書置尚書省。新羅明神曰。此日域有靈場我已預占。後新羅山王二神與珍同到三井。檀越大友氏付寺。至此賜省符事在寺像志。初傳教於睿山構三字。北置多聞天王像號毗舍門護世堂。南庋經律論名一切經藏。中安藥師佛像曰一乘止觀院。以其居中稱中堂。久稍朽壞。珍合三宇為一堂。今之中堂也。尚存昔號。或曰不乖本乎。對曰。始之三宇者三諦也。今之一堂者一諦也。三諦即一我豈戾祖意乎。初珍次台州。太守工部郎中李肇慰諭敬供與公驗。貞觀九年唐婺州人詹景金寄付法藏圖。自釋迦迦葉至慧能三十四像真儀莊麗。共二幀子。各闊四丈。珍在唐時景金傾讚仰之誠。携離歲久。通此好信。蓋其德被異域如之。十年六月為延曆寺座主。寬平二年任僧都。四月二十九日謂門人曰。如來以法為身比丘以慧為命。法慧苟傳有何死乎汝等宜知之。其日齋供如常。黃昏結定印端坐念佛。五更乞水嗽口取伽黎戴之。右脇而逝。頂戴之衣即為枕。年七十八臘五十九。其曉滿山聞天樂。經二日將舉喪。弟子跪請衣枕。其頭自擧。取之乃葬睿山南峯東埀。珍自驅烏至蛻蟬涉獵經典游泳禪觀。當其修習之時雖徹曉無假寐。齡隣八十耳目聰明。食啖之物不擇精麁。貞觀之末。法師濟詮。將入唐來告別。且問西唐之風俗乞學唐言。珍默不答。詮蓄憤而起。珍謂門人曰。詮雖有才辯未曉空觀。異域請益似邀名聞。若抱一毫之浮心爭超萬里之嶮浪乎。所以是我不答也。其後唐舶來往不聽詮事。料知漂泊海中。珍之先識機鑑類此。受阿闍梨位者一百餘人。手剃髮為大比丘者五百餘人。延長五年冬十二月賜謚智證大師。

贊曰。生而知上也。學而知次也。予讀智證之記也。當齠齔亂之呪噦索因果之經籍。豈非生知之上才乎。山王之勸勵開元之聽習者蓋見跡也。故能擊智者鼓雷動支那。瀉青龍瓶雨澤日域。又豈次知之所跂及哉。若夫見圓載沒垂涕泗而洩哀。知良諝殂捨布帛而薦福。與彼斯多之痛五道。跋陀之見五舶何以異乎。天元之間閱墻禍起。爭亂逐日而繁。怨毒與歲其積。燬敗漫至輪奐隨復。證之遺風餘烈。豈所謂涅而不緇磨而不磷者乎。

元亨釋書卷第三　終

元亨釋書卷第四

濟北沙門　師錬撰

慧解二之三

圓成寺益信
醍醐寺聖寶
遍照寺寬朝
醍醐寺仁海
築波山德一
睿山藥智
睿山安然
睿山玄昭
興福寺增利
醍醐寺延敞
興福寺壹和
睿山禪喜
延曆寺良源
興福寺仲算
東大寺法藏
金龍寺千觀
興福寺真義
園城寺勸修
慧心院源信
檀那院覺運
睿山覺超
園城寺慶祚
睿山實因
延曆寺院源
園城寺明尊
高野山明算
三井慶耀

釋益信。姓品治氏。備之後州人。武內大臣之裔。行教和尚之弟也。始學相宗于大安寺。後從源仁闍梨受灌頂密旨。昌泰二年太上皇禮信落髮受戒。延喜元年上皇就而稟密灌。初信住東山椿峯。尚侍藤淑子有病延信持念。疾便愈。尚侍乃舍山莊為伽藍。圓成寺是

也。仁和二年賜傳法阿闍梨位。昌泰三年為僧正。延喜六年三月七日滅。年八十。
釋聖寶。讚州人。光仁帝之後也。年十六投真雅法師得度。學三論于元興寺願曉。及圓宗唯識于東大寺平仁。華嚴于同寺玄榮。又謁金剛峯寺真然稟密教。復從源仁益得奧祕。寶應興福寺維摩講請立賢聖義及二空比量義三論之家賢聖之義從此始。初東大寺東坊有鬼祟。眾懼不居。寶請而住焉。鬼現形爭拒。寶不屈。鬼移佗所。爾後此宇無嬈害。一夕燈下讀書於此傍淪茶盞備昏睡也。中夜大虵自梁間下。影見盞中。寶仰而叱。蛇忽不見。庭上有巖石。世曰。寶從金峯山負來而其大非人力所耐也。寶好修練經歷名山靈地。金峯之嶮徑役君之後榛塞無行路。寶援葛藟而踏開。自是苦行之者相繼不絕。貞觀之末闢醍醐寺而演顯密二教。又建南京東南院講三論之宗。凡造丈六大像二十餘[骨*區]。又勤悲濟。置衛役于金峯山。設渡舟于吉野河。行人賴之。仁和三年勅賜傳法阿闍梨位。寬平二年為貞觀寺座主。自延喜之初受月俸于太倉。二年為僧正。九年賜醍醐為官寺。寶周遊南北二京。其管攝之所。東西二寺。醍醐。東大。興福寺等也。延喜九年四月於普明寺寢病。太上皇幸問。七月六日逝。年七十八。寶有所持如意。背刻五師子。面雕三鈷杵。表顯密竝學也。寶沒歷世傳授在東大寺東南院。興福寺維摩講師必執此如意應演唱。兩寺有事東大寺不出如意。若無如意措講會。至是朝廷宣東大寺出如意行法事。其祕重如此。
釋寬朝。吏部尚書敦實王第二子。寬平上皇孫也。從寬空闍梨稟密旨。永祚二年天祿上皇禮朝受密灌。朝粹密學。居遍照寺啟密肆。世稱廣澤密派。永觀元年為圓融寺落慶導師。勅給封一百戶。寬和二年為大僧正。長德四年六月十二日化。朝善聲明。般若理趣分作音調誦之。密學之者傳其韻弄。
釋仁海。事元杲闍梨稟密學。博錯綜眾流。醍醐之側小野之地。海啟密講之席。四來受業之者多。世號小野密派。寬仁二年六月旱。勅於神泉苑修請雨經法。大雨下三日夜。長元之五。長久之四。凡詔雩九度皆降雨。以先長曆二年為僧正。時人呼雨僧正其長久之賞聽輦車。賜封七十戶。永承元年五月十六日滅。年九十二。
贊曰。道貴渾厚。分則薄矣。不得已而分。其分之始又厚矣。曷為厚有合也。南山數傳而分為信。寶。又數傳而列為朝海。今之東密稱小野。廣澤者朝海也。信寶者野澤之小祖也。四師者分而厚者邪。
釋德一。學相宗于修圓嘗依本宗作新疏難破傳教大師。相徒稱之。一闢常州築波山寺。門葉益茂。而嫉沙門莊侈麁食弊衣恬然自怡。終慧日寺。全身不壞。

釋藥智。幼事睿山皇慶。早有稚穎譽。當內論義智預焉。時年八歲。其敵長年然避講席坐問座。智了角居主位。問師詰以深義。智答釋渙然。一會稱贊。延久帝在藩時語座主勝範曰。佛學者乏儒書以故言語卑陋。台徒中有兼乎。範曰。當披砂耳。還山薦智。智入宮。帝先問止觀深旨。智酬答明哲。次及密乘。智答如台。次經史子集。智始釋外義後融真諦。辯詞敏博。君臣聳聽。帝大悅託以寶祚。逮帝即位召智。智不幸短命而死。帝大慟詔其徒賜僧官。

贊曰。大道無畛畦矣。綴鉢以來畛畦見焉。或順而判。或逆而峙。皆所以扶樹道也。因茲而言。一者逆扶也。智者順樹也。咸吾道之一畛乎。而智之酬御也。蓋欲漫畛畦耳。嗚乎有顏之譽者必有顏之患矣。命乎痛哉。

釋安然。傳教大師之系族也。母夢明星入懷。因而有孕。及生聰敏邁人。早登睿山樞衣於慈覺之室。顯密奧祕無餘蘊矣。又就花山遍昭重受胎藏法。凡涉獵經論馳騁百家。其所述作輔弼大教。所謂教時問答。菩提心義。悉曇藏。大悉曇章等也。其教時問答者立一佛一時一處一教判攝三世十方一切佛教。錯綜顯密泛濫諸宗。台密之者取法焉。其悉曇章深得梵學之奧旨。時人曰。以東垂之唇舌通西天之音韻。然之才宏淵哉。都率超曰。然師者顯密之博士也。又曰。然公若不入我門祕教可墜地。其為英賢被推如此。元慶八年勅充元慶寺傳法阿闍梨。

釋玄昭。從慈覺學金剛頂諸經及台宗章疏。又就長意座主受三部密法。瑜伽諸軌莫不究通。元慶上皇賀皇太后五十算。召名德六十人四日講論諸宗妙旨。勅令昭與勢範對論因明義。昭問難鋒穎。範箝口不言。仁和寺聖寶稱云。世謂昭為護摩王。今亦可謂因明王。宮中以為美談。延喜十一年秋大內有鷺恠焉。勅昭於豐樂殿修熾盛光佛頂法。過三日其妖止。十五年二月三日結彌陀定印奄然而寂。年七十二。

釋增利。姓伴氏。山州人。事興福寺豐載及空操學唯識。天安元年受戒東大寺。又從大安寺真然稟密學。延喜五年維摩會場。大安之觀算竪三論大義。問者杜口合莚閫爾。于時利出眾詰算詞義壯博。算伏膺。南眾以聞。勅為諸宗竪義精問。連歲無酬對者。初三年為維摩講師。十六年為僧都。延長六年七月十三日滅。歲七十二。

贊曰。密墳顯典充棟汗牛。一猶難通況得貫二乎。如三子之兼之我不得而優劣矣。而覃思之美者然公其人乎。

釋延敏。習三論於東大寺。學三密于醍醐寺。聖寶法師嘆為法器。又稟密灌于寬平上皇。初從寶入宮。上皇奇其才欲授綱位。敏不受。寶曰。上皇恩志子何固辭。對曰。經三會講昇一綱位國之憲章

也。我豈叨恩私乎。聞者感伏。其承最勝講師詔時適在宮中壇所。不歸房乃赴會云。延長六年十二月十三日卒。年七十三。
釋壹和。止興福寺有才譽。與祥延齊名。而延少於和。天曆三年勑祥延為維摩講師。和抱憤廢所業隱尾州熱田神祠。有巫言人禍福吉凶無不中。一日以米與眾人時和在焉獨不豫也。眾人怪之。和又自疑。巫曰。彼比丘本寺之神猶能管顧。弗吾所庇也。故不與米耳。於是旅人亡馬。此馬沛艾。人不得近。和聞巫言怪喜。私念實如巫言我捉此馬不傷於囓踏。便赴馬。馬又柔馴而不迕。眾人疑嘆。巫又大言曰。春日明神今降來也。又向和曰。我未棄汝。汝何自棄哉。汝不知乎。天帝玉簡夙記維摩講師。祥延在先壹和次之。和聞之悔咎歸南京。四年果承維摩之詔。
贊曰。才識難全乎又或全矣。儆也赴講席自宮場者才也。辭　皇恩之綱位者識也。豈非全乎惜和之有才而缺識也。賭榮於少學蓄怨於後時世途猶隘之況我門乎。是所謂難全也。然此方神覆廕我徒者厚矣。彼寡識尚如此況全者哉。嗚乎能護佛勑乎。
釋禪喜。姓藤氏。洛城人也。幼時夢睿山頂有佛舉手招我。甫七歲上台嶺詣中堂見藥師像。與前夢佛無少差。雖孩稚心感悟。十六出家受戒。依例一紀屏居。性聰明涉經論。延長中加宮講。天曆九年六月九日身無疾令門人唱彌陀號又自稱念而逝。年八十二。嘗啟講席一千餘座。性至孝。其母命終雕像置室傍。茶果飯蔬先獻而後嘗。
贊曰。吾佛之設教也戒為地矣。其法本云。孝名為戒。與仲尼之問於曾參皆是也。二教聖人未嘗不於此焉。然卓犖不羈之士間有反常而合道。水潦涸之類不察所由。而効瞶者可以絕倒矣。喜公博辯之資慣丁蘭氏之木狀。豈不壞世相而見實相乎。
釋良源。姓木津氏。近州淺井郡人也。母物氏。夢坐海中向天上日光來入懷中。覺而孕。延喜十二年九月三日生焉。九歲戲遊田中。時國老越州司馬雲貞行祭田而行。見一童兒當頂空中有雲蓋。雲司馬問之即源也。語其父曰。莫輕此兒定非凡也。後隨母詣梵釋寺。覺闍梨見曰。此兒豈可居鄉井乎。十二上睿山師事理仙。延長六年禮尊意登壇受戒。周旋喜慶。相應。覺慧。雲晴之間稟顯密祕奧。早得博學名。承平五年赴維摩會。義昭者南都之義龍也。眾議令源與昭對論。昭曰。我德應共出於源者遠矣。彼之少年豈我偶乎。時仁敷有宿望曰。源雖少俊才英特。何齒齡之云乎。推為偶講。平城六群之徒路曰。昭公此方偉器汝何堪配。若詞理不明加杖於頭必也。是語又壓源也。其日源辭氣雄吐義旨深宏。六群之黨投杖叉手悔耻前言。應和三年秋八月於清涼殿啟法華講五日。召二十名德分朝夕二座。南北互為講問。至第二日夕座南京法藏為導師。睿山覺

慶為問者。藏立定性二乘不成佛之義辭辯其銳。慶窒礙不辨。源者第三之朝導也。聞慶屈咬齒而出代慶演眾生皆成佛之旨。問難往反已入昏夜。藏曰。決擇坐久稍至更深。明日朝座必抉理窟。翌日源居導座。問者平州也。而源代昨夕問又義未竟故。藏為問者平州無分矣。君臣清耳而待。源詞義邁前日。藏鉗口不言。源曰。昨有抉窟之言。今何默爾。藏曰。子之才辯似富樓那。我之詘昧豈可當乎。合會嘆伏。一時誦梵網戒品。至數句光出於口。諸徒多見。文殊樓者覺慈之所建也。覺昔於五臺感師子。收其足跡之土而歸。及創樓以其土置師子足下。樓已灰基趾頹圮。靈土漫不可分矣。源於虛空藏峯造文殊樓。然無靈塊。偶開故篋得一紙裏。書曰。臺山師子跡土。源喜以其土置猊足下。天慶九年藤僕射師輔於楞嚴院營法華三昧堂。集眾擊火燧而誓曰。若因三昧力光榮家族所擊之火不過三。便擊之。應手火星迸出不至于再僕射便手以此火點長明燈。于今不滅。乃以此宇屬源之法葉矣。爾來藤葉益昌。康保三年八月補天台座主領山務者二十年。山上堂宇敗焚之者多。源之管中皆復舊觀天元四年為大僧正。兼法務。聽輦車永觀三年正月三日唱彌陀而滅。年七十四。時紫雲垂庭橘漸上散去。藤僕射有三沙門尤所信鄉。或夢三僧者三光天子也。義昭法藏及源三人共正月三日寂。又可恠。昭藏二師已為源屈。世言源者日天乎。源道貌雄毅。自把鏡寫照曰。置我像之所必辟邪魅。從茲模印天下爭傳。方今人屋間架戶扉之問黏貼殆徧賜諡慈慧。

贊曰。慈慧雄才崇功能令家業光大焉。亦得人者多矣。學者之道山家者以慧為中興焉。而天元之時慧為貫首矣。其德威可鎮爭亂。然漫而不省焉。豈黨法義乎。

釋仲算。不知何許人。空晴法師適過興福寺北門逢小兒。年可六七歲。其髮甚赤。晴見其氣宇不凡問從來。兒曰。我只遊戲此耳。何從來之有。晴携歸房。聰穎絕倫。漸長博綜內外。尤邃論義。南都學徒推為楚才。然性不喜僧官。每選讓佗。三膺維摩詔皆不受。應和之宮會。仁賀圓藝。臨時告辭。講員已缺。算以兼才譽代之。第五之日睿山壽肇為朝講。聖救夕講。算共為論者詞義贍粹。君臣嘉賞。安和二年於熊野山那智瀧下講般若心經。忽現千手千眼之像。講已昇岩上。自此不見。或曰。入慈恩寺山而後不出。唯遺草鞋云。

釋法藏。從寬救稟唯識之旨。又學三論於延敞。受密灌于定助。應和之宮講為第二夕座講師。勅居東大寺西室。不倦講授兼有藝術。一日黃昏經行殿陛。忽衣冠偉人授狀。藏啟緘天帝之札也。曰。屈師慶讚紺瑠璃觀自在菩薩像。藏對使者曰。我聞喜見城者居須彌八萬由膳那之頂遙隔七金山。我未得通何自至乎。使者曰。師只閉目

挂手於我肩可速達耳。藏如言。須臾到忉利天喜見宮南門。天帝及三十二天(【考】二天當作三天眾三字)護國四王天子天女羅列森如。宮殿嚴飾殆不可言也。中安琉璃大悲像。藏登天高座讚演詳精。天眾傾聽。講已憍支迦禮於藏乃盛天金珠珍。賜藏。藏曰。卑詞蕪說汙瀆天聞。下土沙門不容辭耳。又世財金玉久志避棄。法儀檀貶深領天恩。然今茲薄伎若恕天意我有小願。願伸積抱。帝釋默許。藏曰。所生之母去閻浮久。不知報生為何處乎。天威嚴尊柄持此權。乞令貧道詳得見知言已潛然。於是天帝勑一天子將藏往燄王宮。燄王受天勑撿罪簿。藏之母在燒熱地獄。乃付冥使令藏至獄所。四旁燄煙叫呼音不堪聞。獄卒開一鐵扉。猛火迸出不可嚮邇。獄卒以鐵鉾探釜底罥一物而出。宛似炭頭。置藏前曰。是師之母也。藏心神奪褫不能正視。熟看似人。藏白母言。生平何殃受此極苦。對曰。只是生育兒孩癡愛之故耳。藏曰。修何拔濟。對曰。冥中資粮無過法華。願子為我一日寫之。母子相語之間。獄卒曰。獄中無閑時。今已移刻。何其久乎。便捉引母。母把藏袖大叫。獄卒強牽。以鉾貫母擲釜中。藏見之放身投地悶絕而臥。冥使曰。是師母自作非佗所為。早歸閻浮促拯濟方。天使又把藏手置肩。須臾在東大寺西室。凡藏經由天地過四十九日歸。藏乃一日內寫妙法華回母冥資。其夜夢莊服之天告曰。我因經功已出苦輪生忉利宮。是人命終當生忉利。言不食乎哉。藏講最勝王經。青衣人常預聽不知從來。人多怪。講竟青衣返憩道傍。人伺之蛇也。蓋龍之法眠即為蛇。如是數矣。藏又知之。適天下大旱。藏謂青衣曰。行雨不。對曰。雨者非龍之有也。天神使之也。今承命盍効力乎。然我必受譴。願垂救護。又雨下之時其誅自見矣。語已昇天。須臾雨大霪。遂血與雨[雨/貝]。藏悲淚而修冥福。天德四年為維摩講師。安和二年正月三日卒。

贊曰。應和之問相台交攻。二師者南紀之爪牙也。其泝那智瀧冲喜見宮者。二子之緒餘土苴邪。

釋千觀。姓橘氏。父母無子祈觀音千手像。母夢得蓮華一莖。因而有妊。及生名千觀。入園城寺學顯密教。為人慈順面無嗔色。應和二年夏旱。朝議勑觀祈雨。觀時居攝州箕面山。撰法華三宗相對釋文。中使到菴宣旨。菴之後三里有大瀧。瀧上大柳樹偃蹇亘瀧口。觀將宣使至瀧所。上柳樹手擎香爐啟白持念。于時爐煙聳騰滿山谷。黑雲相和甘雨大灑。觀及官使霑衣而歸。初觀止三井旁修淨土。園城之背西峯巍峩不便日觀。乃遠覓勝地至攝州。有山出金色雲。觀思靈區而卜居。今之金龍寺也。池有龍故名焉。觀多抄台宗奧旨。方今三井竪義學者取則焉。嘗以八誓十願導利四部。臨終時安詳寂。

贊曰。感應者須久修而得。多尅七日矣。或五焉或三焉。又為速焉。不則七日之者于二于三。世由託應而不殛。觀公隱草莽承華軺。奔赴湍瀧指揮蜿蜒。至于手靄香煙為雲而上。頭蒙衣袖當蓑而歸。不知渠何修而疾効如茲邪。蓋是猶觀公之末邪。其本者我不得而見矣。然以見者而推不見之者。又深矣乎哉。

釋真義。姓平氏。勢州多氣郡人也。學相宗于興福寺空晴。適詣紀州那智山。歸時脚大腫不能行。入坊即差。又發亦腫。諸苦行皆曰。恐神駐公行耳。公盍獻法施。義乃到瀧下講般若心經。私念神若歆講乞見祥異。于時瀧水逆流。眾人無不感嘆。天延三年為維摩講師。正曆二年為僧正。長保元年二月七日逝。

釋勸修。姓紀氏。父母禱佛神求子。母夢星光入懷。覺而孕。自稚孩不食肉不戲劇。家人戲以海月入口。兒乃病數日生瘡。其形宛如海月。父母驚歎誓曰。此瘡速差奉兒於三寶言已而痊。年十一從台山靜祐為童。前一日祐夢沙門數輩負白木觀音像安房某處。明旦兒至居像處。祐以為吉徵。自爾學業早成名震朝市。就餘慶僧正受密灌又於勢祐處益增所業。長德三年四月宋國送新書五部彼土台徒之述也。所謂法華示珠指二卷。龍女成佛義一卷。十六觀經記二卷。佛國莊嚴論一卷。心印銘一卷。附而乞台教遺失書六部。此方學者有議新書者。因茲朝廷詔慈覺。智證兩徒加毀破。法花示珠指上實因破之。下修預焉。初永延元年羽林中郎將藤道長陰語曰。我不得法力難受大拜。願師加意焉。修諾之。二年藤公遷黃門侍郎。正曆二年御史太夫。三年特進。長德元年五月十一日以羽林大將軍為同中書門下平章事。六月右僕射。二年左僕射平章事如元。不滿十年據鼎鉉。皆修之力也。術家白藤府言。某日家內有恠。至期相國閉門謝客。晡時有叩者。問之對曰。和州之瓜使也。開門納之。于時修在座。大史安晴明。大豎重雅預焉。相國顧安大史曰。家裏有齋祓。不知此瓜可嘗不。晴明曰。瓜中有毒不可輒啖也。相國語修曰。許多瓜子何為毒乎。修誦呪加持。忽一瓜宛轉騰躍。一座驚恠。重雅乃袖出一針針瓜。其動便止。割見中有毒蛇針中其眼。蓋術家之言是也。都下嘆三子之精其術矣。實因法師乞法性寺座主位。永延帝藐其器而不任。含怒而死。其靈惱帝人不知也。醫巫無効。詔修加持。靈託曰。我實因也。雖深望帝今被明王縛我又去矣。修曰。實因生平粹於台宗今尚記乎。答曰。名字觀行隔生即忘況理即忘況理即之身乎。君臣聞之嘆敬。上病乃愈。長德三年補園城長吏。寬弘二年藤相國建淨妙寺屬修之門葉。酬持念之德也。五年七月八日寂。年六十四。謚智靜。

贊曰。義者應和角論之徒也。修者長德正述之儔也。其學見于二事矣。加之能躍夏瓜逆流瀧水者二子之不器乎。

釋源信。姓卜氏。唐州葛木郡人也。父名正親。母清氏。父母詣郡之高尾寺求子。母夢一僧以一顆玉與之。即有妊。信幼時夢高尾寺有藏。藏中有數鏡。或大或小或明或暗。一沙門取暗小鏡付信。信曰。此小暗鏡有何用欲得大明者。沙門曰。只以此鏡至橫川瑩磨。覺而大恠。又不知橫川何處。後上睿山事慈慧。始思夢事勵精修學。天性聰明究顯密教。五種法師四種三昧無不薰練。過壯歲忌榮名屏居橫川。專以著述為己任。所謂一乘要訣。往生要集。阿彌陀經疏。大乘對俱舍抄。因明相違注釋等也。台嶺教法此時為盛。負笈承業者多。時號慧心院僧都信作台宗二十七疑問宋國南湖知禮法師。禮得問書嗟嘆曰。東域有深解之人乎。乃造答釋返之。風舶來往音問相繼。其一乘要訣者。顯眾生成佛之義。斥定性無性之執也。時夢西天馬鳴。龍樹摩頂讚歎。傳教大師合掌告曰。我山教法今屬汝焉。往生要集者備西方之勸發也。又夢觀世音微笑而授金蓮華。毗沙門天王捧蓋而從。佗時深夜獨坐思惟法義。欲見證典殘燈已灺。忽有自然火現槃上。諸異應匿而不語。寬仁元年六月十日集門弟子曰。今生謁晤只在今日。若教義中有疑取決焉。後不可又。諸徒且問且泣。信一一剖析明白。漸氣息速麁。麾去門人唯留上足慶祐曰。我以一乘善根廻極樂勝業。上品下生我當取之。今二天童下來曰。慈氏天尊遣我二人為師迎接。又有數萬天翼從。我語童曰。兜率之生彌勒之謁我且嚮之然我生平有願欲覲彌陀。往安養之後必詣慈尊。願為我致此意焉。二童昇去。頃刻觀自在菩薩來現。素志不失汝其知之。慶祐聞已流淚隨喜。便結定印端坐遷化。壽七十六。于時天樂響空奇香四散。山中草木皆盡靡西。傳聞趙宋皇帝聞信道譽建塔廟置影像

釋覺運。洛城人也。事睿山慈慧與源信法師為匹敵。世曰慧心。檀那者也。每預講席常居勝義。諸宗章疏多所暗誦。後隨皇慶受密灌。運長於慶。人稱其不耻下問矣。慶赴西州辭相府。運待于門伺慶之出取笠授之。君子多運之有禮焉。

釋覺超。姓巨勢氏泉州大鳥郡人。幼上睿山。有奇相出舌過鼻。慈慧見之大驚曰。聰明之相也。必為國寶。納而為上足。儕輩年少嫉慧言謔呼號國寶以故人皆稱之。以慈慧門人兼兄事源信法師。顯密之奧一山推之。昔慈覺造二經疏。安然法師踵而勤撰述焉。超雖後出追則二師。所謂東西曼荼羅抄。三密抄。兩界生起。仁王護國鈔等皆為學者珍祕。慧語徒曰。凡睿峯學者初習顯教後當受密乘。是以超力究祕藏。嘗修月輪觀其胷常冷如水。皇后有產難勅超持念。超不起。重詔侍臣藤公公上橫川宣嚴旨且曰。師若不下山我又不歸宮。超不得已。藤公請同駕。超不聽。徒步入宮。產誕即平。帝大

悅加僧都。超不受。速出宮。官司逐背後讀詔牒。自是有僧都之名。
贊曰。慈慧以中興之資立於睿岫也。信運為之左右也。至今言台道者以慧心。檀那為稱首。超公介二子之間從事於述製。此三者所謂以文字揭示第一義諦者邪。
釋慶祚。門下錄事中師元之子也。遂顯密正曆四年兩門相孽。祚率徒移大雲寺。不幾又遷園城寺。園城寺雖智證興建徒眾尚寡。及祚之來學者四方塵至。三井之道此時為熾徒屬益繁。長德三年四月宋國送新書五部其文膚淺。朝廷勑慈覺。智證兩家質破。其內龍女成佛義一卷祚預焉。增賀法師有疾。祚往而問之。曰。公之病三諦中何患乎。賀曰。空諦無病。中諦亦有亦無。今我所患假諦耳。祚曰。公之所觀似隔歷也。即說圓融三諦及止觀病患境。賀聞垂淚。病又尋愈。寬仁元年十月修法華十講二十九日者智證之忌也。先五日創講席。其日丞相左僕射藤公率官僚預聽。忽山鹿走來。緇素驚恠。鹿跳上堂。僕射怪恐。祚曰。昔如來初轉法輪於鹿苑。今日園城之寺始結法輪瑞獸格止。可謂嘉會。況鹿是轉法輪菩薩之三摩耶。又春日大神之使獸也。僕射光賁神或歆乎。因茲而言。豈非世出世之佳祥乎。一會聳聽。祚之居號龍雲房。隣宅失火煙炎鬱逼。祚結印灑水。其火自滅。隣宇半存。橫川寬印。三井定基。為睿山內論義之匠。印者源信法師之徒也。信語印曰。內論者雖家事而新學之發軫也。子有意乎。印曰。入學之初知有此事豈可始愕乎。信曰。子之言壯也。然彼有慶祚恐潤色基子不可緩也。寬仁三年十二月二十二日滅。年六十五。
釋實因。少年離家為睿山弘延弟子。性聰慧誦憶少雙。儀容挺特志氣強健。耐飢寒勤苦學。膏油繼晷溥資博物。議論之場重其席。每逢講說聞者垂涕而感喜。又稟密教行供修。晚移小松寺凝觀心誦法華。夢有七寶塔釋迦多寶竝座放光。空中有聲曰。汝依觀心誦經之力見二如來。西方迎接不生疑慮。後數年誦提婆品結印而即世矣。
釋院源。姓平氏。奧州刺史元平之子也。早上台嶺事慈慧兼稟覺慶。治安二年法成寺成。大相國藤公命源為落慶導師。音吐流暢。藤公及王臣莫不嗟伏。皇帝賜封五十戶。源善唱演聞者感泣。源滿仲累葉武略勇俠蓋世。聽源之唱導即座祝髮拜為戒師。從官數十人同時剃落。初寬仁三年任延曆寺座主治安三年為僧正兼法務。萬壽二年聽輦車。長元元年五月二十六日滅。
釋明尊。武庫令野奉時之子。道風之孫。篁之曾孫也。遊智辯慶祚之門學業早成。長曆二年九月延曆寺座主慶命卒。朝議以尊任之。於時慈覺之徒沮之。語在黜爭志。因茲兩門相軋。園城沙彌不得上睿壇。三年尊上書乞建戒壇於三井。凡五上。長久二年五月宣問園

城戒壇立不於諸宗。於是乎相· 律· 三論· 華嚴· 真言· 皆贊可。只台徒固執不允。永承七年九月始行新羅祭祀神託和歌驩納。初寬德二年為園城長吏。永承三年八月遂任天台座主。數日而解印。天喜五年賜封戶。康平三年十一月儀同三司藤賴通於白河別業設法會賀尊之九十之算。公卿大臣多集其席。六年六月二十六日卒。年九十三。

釋明算。姓佐藤氏。紀州神崎人。年十一登高野山。翌歲薙染隨成尊法師學祕密法。初金剛峰寺自從營構之始至此已二百餘歲。院宇廢頹密學踈荒。算慨念持明之宗依正俱替。苦修勵學度邁倫儔。未終十年兩部職位諸尊軌儀無不貫穿。南嶺密乘再興者世推力於算嘉承元年十一月十一日寂。年八十六。

釋慶耀。和州人也。初三井慶暹法師有一弟子。適至和州宿一家。家有兒。年可十二三。儀操俊偉。語父母曰。此兒不凡。定成法器。我師園城之暹公也。乞託此兒。尺瀆尋溝我為兒惜之。父母許諾。已而告時。父曰。我有深知在多武峯。不欲兒之佗州。向雖許師今我耻季布耳。比丘曰。已聞我師。今卻違諾。我乃獨來恐師妄我。於是乎兒忽悶絕而死。父母抱持悲慟。比丘亦怪泣。良久而蘇曰。我是新羅明神之屬宿王菩薩也。當入園城之門者。明神令我擁護先契已定今何反乎。父母叩頭懼謝。乃付比丘。自此暹加意諭導。果播佳名。康和三年冬十一月承保上皇於鳥羽離宮啟講場。耀尚少擢應遴選。耀善筆翰梵漢共通。延久五年成尋法師入宋。索耀寫梵字曼荼羅。又多書楷字。於時有天竺三藏法師見耀梵書大加稱賞。又有慧詢。定照二沙門。見楷法亦能嗟嘆。於此耀之名振宋地。

贊曰。祚者辯也。因者論也。源者感也。尊也扶傾矣。算也起廢矣。耀之名者異界乎。

元亨釋書卷第四　終

元亨釋書卷第五

濟北沙門　師錬撰

慧解二之四
睿山安海
興福寺主恩
睿山桓舜
禪林寺永觀
睿山寬印
睿山皇慶
醍醐寺延殷
觀勝寺大圓
三井宗範
延義法師
興福寺永緣
傳法院覺鋐
大谷寺源空
高野山明遍
笠置山貞慶
栂尾寺高辨

釋安海。學睿山興良尤精台教。當竪義偶于黑谷禪愉。愉難海才潛如金龍寺千觀所語曰。安海竪義降之何如。觀曰。海學宏深待與子議。愉信宿。觀告曰。海之議論不可以台乘屈也。彼粗于密宗。以悉曇章蓮華手種子字義抵之可沮耳。愉受其策而歸。至期始出台題。辯鋒不可也。次出種子義海曰。悉曇非素也。愉曰。已號博涉盍學乎。海曰。公之論納鑿也。每海竪義其配以佗學軋之凡六度。海不伏曰。直我道而已。當時源信覺運為台門兩輪。海常曰。慧心淺廣揭厲可渡。檀那深狹不過踰跨信法師作二十七疑問宋之知禮法師。海見問目是等膚義豈湏遠問。乃作上中下三答曰。宋國答釋不出我三種而已。及禮答來海已死。台徒曰。禮之決釋多海之中下義也。海之徒使持宋答及海釋如墓讀祭。時人曰。海骨放光。
釋主恩。居興福寺。學相宗有義學名。于時睿山寬印負俊才。不屑南北學徒。獨言天下只有主恩當我顧眄耳。恩以麁語忤朝旨在築之博多。寬印又竄東州。印曰。恩貶西海印在東地。日本宗乘已為凹字。

釋桓舜。學延曆寺慶圓有譽當時。貞圓。日助。遍救。及舜。世為睿山四傑。舜甚窶。浪遊豆州說法溫泉神祠。其夜夢神告曰。師早還本山必昇顯位。舜如神言果為法性寺座主。天喜五年九月十日化。年八十。舜少患貧。乃詣山王神祠祈福。經年無應。又如稻荷神祠。其求如山王。第七之夜夢婦人莊麗開殿戶來舜前手持片紙長二寸餘。排舜懷貼胷而歸。舜見其紙有二字曰千石。舜夢中大喜。適大賓入來。儀衛甚都。向婦人又自殿出接客曰。高駕難動。尊儀何事。對曰。桓舜有祈諸。婦人曰。法施七日懇到甚矣。妾不得已已足其意。客曰。我為舜來也。舜曩求我尤切。我豈不堪與舜哉。然不者其又有說矣。媚縱惠舜正須奪焉。婦人驚曰。妾不辨也。早酬懇祈妾之過也。然彼人尚在。即趨舜所剝胸紙而去。舜夢中以為。此客必山王明神也。我頃年精祈。神猶蒼也。今卻妨佗乎。大怨焉。婦人白客曰。奚為拒舜。對曰。舜師終此生當出陰界。若受富樂恐為縛礙。故我令彼窮耳。舜覺後歎山王云。

釋永觀。姓源氏。投東大寺有慶學三論。兼聞諸宗。晚歸洛東禪林故居。謝絕交往偏慕安養。作七寶塔安佛舍利二粒。乃誓曰。我若生清泰舍利必增數。明年成倍。又於藥王院造丈六彌陀像當淨業。嘗以南京眾選申 官領東大寺務。雖司鈴鍵不受寺供。私畜齋粮以為日食。性慈仁。當往獄問飢寒。又多病氣力微弱。而修學不弛。嘗言病者善知識也。我因病苦堅進修。天永二年秋疾語徒曰。昔世尊八十涅槃。我今歲同壽。不踰年取滅足也。十一月二日沐浴而念佛。異香芬郁。中夜頭北面西而寂。紫雲垂房壁。

贊曰。才與不才猶如驥駘矣。驥也雖神駿人苦囓踶焉。若夫駑駘者妥帖如也。然囓踶者豈驥之罪哉。亦在調御之熟粗而已。海之輕二師。恩之出麁語也驥之囓踶乎。顧調御如何耳。舜之患貧。觀之辭榮。道已同不相謀何哉。

釋寬印。事楞嚴院源信學業早成。時宋人朱仁聰在越之敦賀津。信欲見聰。拉印而往。仁聰出接之。壁間有畫像。聰指曰。是婆那婆演底守夜神也。為資渡海厄所歸也。師知此神乎。信憶華嚴經中善財讚嘆偈以筆題像上曰。見女清淨身。相好超世間。呼印曰。子書次句。印把筆寫曰。如文殊師利亦如寶山王。仁聰見之感嗟曰。大藏者皆二師之腸胃 也。乃設二椅延之。印後行。頭陀法至丹州。寺院側有大池。里民結網尅日捕之印禁之不可。印夜到池畔振錫持念而去。翌朝下網不得一鱗。印每夜誦法華。臨終時手執香爐向西念彌陀而寂。

贊曰。信印之二師者禦侮之才與。彼仁聰雖嚮信之德義指夜神而為言也。異域之人亦嘗此方之學徒也。二師若不記殆貽邦之辱焉。於是信寫前句。印繼後語。二師之強記亦快乎。夫二師者台宗之徒

也。至他家者雖委宗趣文句不熟者學者之常也。況雜華之浩瀚乎。見二師之博通。聰之大藏腸胃之言不為過耳矣。

釋皇慶。姓橘氏。黃門侍郎廣相之曾孫。性空法師之姪也。母孕時惡葷腥。或食之應時嘔。甫七歲登睿山。近山下有柿樹。絕不結子俗名其地曰不實柿兒到其處問。此地何號。人答以其名。時餘樹有果。兒曰。見今何有實乎。至翠微有舘亭。降陟之人憩息焉。故置藥湯而備渴乏。俗呼為水飲。兒又問之。答者曰。水飲也。兒曰。何飲湯乎。上嶽頂小竹叢生。兒復問之。答曰。大嶽也。兒曰。何有小竹乎。(嶽竹和語相近)。其幼敏機辯類此從東塔院靜真學祕密宗。至護摩灌頂梵字悉曇莫不研究。昔慈覺大師以瑜伽法授長意。意授玄昭。昭授智淵。淵授明靜。靜授靜真。世以慶為慈覺七代家嗣。慶游鎮西。有景雲阿闍梨。東寺密傳之魁也。就探焉。雲器之悉付祕奧。并授弘法大師寶瓶以為傳契之信也。慶有入宋之志。共沙門寂照上舶。時鳩數千羽集于檣。逐之不起。船師曰。恐異人乘舡。乃下眾人鳩尚不散。逮慶離舶皆飛去。人多曰。八幡大神留慶也。(國俗呼鳩為八幡使島)慶夏於背振山。有延殷者顯密之英也。事慶為師。慶與殷修法。慶誦驚發地神偈印手按地。地大震。顧誡殷曰。慎勿語人。慶病。頻那夜迦天現形手捧盃而曰。師疾篤非酒難治。每朝願受一盞不可局禁也。吾為護神不暫離。天帝令我獻盃耳。其器大可半升。一日於池上菴禮舍利。舍利放光盈室。詣四天王寺禮舍利。本是三粒分為八粒。薄暮童子來。身體偉壯。慶怪而問。汝何人。對曰。多時侍書寫空上人。會役偷上人上供。我不耐忿以拳加頭。其人即死。上人愍厲驅我去。故投師焉。慶與飲食。童拱曰。願加印呪易受耳。慶使童數百里外。不半時復命。或令滌衣。憑虛暴之不用桁竿。靈異甚多。一時諸役列坐戲謔以拳打輔車。逐次相授。巡至童。童辭曰。恐及大故。諸列強之。童纔下拳吐血殆殂。慶聞擯去。童泣曰。背振山地動者堅牢善女天出現之時也。我親見之。故感德來也。今遭麾斥悲哉。萬壽中在波州。刺史章任祝朝令修十臂毗沙門法。天子威靈夢賜僧官。慶為法興院十禪師。有同業覺運。長慶者數十歲。真病時啟曰。師若不起令我依誰。真曰。少年慶汝之師也。運蹤其言就稟密法竭禮敬。長曆中有兩門之諍。朝廷以慶之德望蓋一山寓譴於慶。慶曰。官事若急可宥乙童。時人以為慶之護法之言也。永承四年七月二十六日滅。壽七十三。慶性好斗藪。奧域靈區莫不歷涉。頃在波州。夢山王明神曰。何不歸本山。便割其背出血三所。因茲返睿山而寂。其三血者表三派密傳也。果門人長宴。院尊。安慶。各立門戶云。

贊曰。智證者弘法之姪也。慶公又性空之姪也。豈法種亦有胤與。奚夫叔姪之相似而烜赫也。至山王明神指示血脈者。曷寤寐之隔

乎。豈又慶之所得邪。
釋延殷。姓橘氏。但州人。年十六上台嶺禮慈仁受戒。從靜照學山家法。長保二年寂照入唐。殷共之赴西海。朝廷有議留殷惜偉器也。後於景雲闍梨處偕皇慶受兩部密法。寬仁末厭憒閙居多武峯三學該練。居數歲明快法師誘歸本山。又入大原山與覺尋同房。黃門侍郎源顯基投殷落髮。乃與源沙彌上楞嚴院結茆同廬。長曆二年春慈覺智證兩徒爭座主位。殷厭之移住醍醐寺。
釋大圓。居洛東觀勝寺。縛小庵靜坐觀行。諸徒在別房。一時隣坊童兒被酒打狗。狗悲吠甚。圓之徒叱童。童醉狂益熾。止拍狗擊坊戶戶扉皆壞。諸徒詣圓訴曰。此童兒狂戾。乞聞官治之。此度若恕而聽之後日不可測也。圓曰。子等在此學佛。羞我訓之不逮也。且我法以平等待有情。一切含類自性清淨。而無明酒所醉煩惱鬼所亂狂醉不度。我輩逢此宜發慈哀調訓彼暴。然子等見是獷癡卻益嗔忿。不亦重狂醉乎。子等豈不聞乎。我門以六度之將攻六弊之賊。施將亡慳賊。戒將亡犯賊忍將亡恚賊。進將亡懈賊禪將亡散賊。智將亡癡賊。子等任慈忍之將嗔怨之賊不擊而自潰。豈外假世俗官法乎。子等在此稱修學。是等愚頑不堪共居也。諸徒杜口而退。後數日童主詣圓曰。愚童狂醉撓師清眾。我初不知今日聞之。乞聽指揮嚴加譴罰。圓笑曰。稚兒戲劇家之常耳。我徒恚之添我不德耳。於兒何患乎。童主以圓為長者益加敬。
釋宗範。薩州刺史久任之子也。從三井永範習學有名。承曆三年為大乘會講師。四年最勝會講師。凡宮院講論。範多豫焉。故有博涉之譽。一日異比丘來謁。範問。何許人。對曰。遙聞名德趨自遐陬屢抱小疑願賜解惑。範唯唯。適赴小飡不久而歸。異僧不見。怪看外庭片雲在門上。雲中現金光。髣髴見師子形。諸徒驚望。雲影已沒。範以為文殊師利之應現也。應德元年七月卒。
釋延義。止南京有講學譽。一日天地院啟講肆。七大寺皆會集。義為講師。時七寺眾皆學于義。以故講場無詰義者。俄有一老翁鬢髮皓如也。出眾立三番論義。其語巧敏。眾人異之。義一一答析。翁曰。三種論義一答已成一答未決一答不成。然初果之位頗為佳耳我是文殊也。言已忽然不現。凡義感文殊三回。
贊曰。靖退者吾黨之美也。殷圓其庶幾乎。辯乎圓之訓乎。範義之感吉祥也慧乎進乎。
釋永緣。姓藤氏。吏部郎中永相之子也。母遠州刺史江公資之女。緣九歲喪父。母携赴南京憩柞森。于時興福慈善受維摩講師詔赴賀於洛都。儀衛甚盛。母語兒曰。汝父已亡。我寡不能字。故將汝隸業于南寺。安得如此僧都。汝其勗乎。然我已老又不能見矣。言已撫髮潛然。已而師事一乘院賴真性甚聰穎習學日新。應德元年稟維

摩講詔。時年三十七。母歿而久矣。遂赴賀於柞森忽念母昔訓感泣不進僕促行。緣曰。汝等不知昔我九齡伴母氏息此地先妣誨勵能成我也。林木如舊昔人非。我豈可堪乎。宜乎遲遲吾行也。僕隸皆反袂。後勾當七大寺。道福益賑乘輦入宮天眷優渥。天治二年四月五日亡。歲七十八。

贊曰。下苗於沃壤。西收可待矣。若夫磽确尚奚望哉。緣公者緇田之沃壤乎。然其母邁于孟母也矣。何也纔一遷而已耳。

釋覺銲。姓平氏。肥之前州人。將門之屬胤也。累代武略。其父負勇名鄉黨敬畏。銲兒稚以為我父天下之豪貴也。一日官吏促租到家喧呼放戾。父居屏處不出。家有比丘。兒問曰。今何人乎辱我尊丈。尊丈又盍似平時之勇壯哉。比丘曰。官吏課租。汝父豈可忤乎。兒曰誰為之。比丘曰。刺史也。凡州界無不聽刺史之令者。汝父亦刺史之有耳。兒曰。我始謂天下之貴人靡如我父猶有刺史。乎比丘曰。刺史不自貴承于宰臣。宰臣不自貴承于天子。天子者四海之至尊也。汝之稚孩何父之謂哉。兒良久曰。有至尊之過天子者乎。比丘曰。有神道有天界。人主者皆承制也。兒曰。有踰神天乎。比丘曰。有。兒曰。誰乎。比丘曰。佛也。兒曰有邁佛者乎。比丘曰。無過斯。故曰無上世尊。兒曰。可得聞乎。比丘曰。佛有三身法報化也。其訓有二顯密也。三身之中法身為最也。二訓之內密乘為奧也。若夫三身二訓者非小兒之所宜聽矣。兒曰。世人有登佛位者乎。比丘曰。方今剃染之者皆彼徒也。其間勤修精敏之者必得其位。兒曰。其人何在。我就而尋求焉。比丘曰。紀州高野山者弘法大師定隱之地也。彼有定尊阿闍梨粹于密學。子其往焉。自是志遊學。會親知携入京授仁和寺。昔弘法誡其徒。金剛乘者兼學相宗。依之其師先令銲往興福寺從慧曉習唯識。一夕夢貴婦人抱銲居膝上摩頂曰。汝雖大法器恨非我寺寶。汝於佗山必恢密教。而我又可擁護汝。我是春日明神也。保安二年回仁和禀密灌。其夜場室有光香。又隨覺獻僧正受三井祕密灌頂。其餘密學支法無不研究。銲幼聞在耳。便上高野親定尊益極祕奧。銲於高野建傳法院。欲以幹事聞王庭。先躊躇宮門。初天仁上皇不豫。私祈弘法大師。上皇夢一沙門自南方來。手執柳枝灑香水。覺後病差。適旰宮門見銲儀狀宛如夢僧。宣問從來。敬崇日熾。上皇捨莊田充學供。又上皇詔銲入宮。先夢白蓮華生殿中某所。銲應詔來必坐蓮所。常常如此。因茲益渥睿信。銲因幹事將赴西州。先詣稻荷神祠持念加護。忽一女託曰。明神傳語上人。莫遠行只早歸紀州。吉野河側必得所求。果於古野得石平莊契券。銲一日往藤相國忠通第。相國下庭迎拜。銲問故。相國曰。弟子今夜夢大唐國慧果阿闍梨到此宅。今師至恐後身乎。銲曰。我自少年誓弘密乘凡聖雖異志趣惟同。如相國夢闍梨

納愚衷乎。鋐在專寺入堂。一時真然僧正(弘法之徒)於院東北角現形曰。吾託子興專寺盛密教。於時鋐徒聖順親見之。鋐在密嚴院告弟子曰。狂狗入傳法院殿汝其驅追。其徒奔至傳法院果然。鋐始在高野也永尋法師語曰。此山大師定後廢圮相仍。祈親。維範。明算之輩補苴罅漏不能復元。今子器宇宏偉必任此責盍負贔乎。以故鋐勤興建。傳法密嚴二宇跨越先矩雄博壯麗。康治二年十二月十二日卒。年四十九。

贊曰。世言。鋐營傳法新院贏于本寺。寺徒嗛之。覃鋐之入定欲擯之。蓋嫉配始祖也。鋐元持不動尊。寺徒鼓噪入鋐房不見鋐。只不動之二像在焉。胥議曰。其一像必鋐也。百計攻治遂受狼狽。今考鋐事無之。豈其徒諱而不書邪。殊不知是鋐之奇事也。惜乎鋐也能入佛界不能入魔界也。然中世以來如鋐之比鮮矣。可謂觀成闍梨乎哉。

釋源空。姓漆氏。作州稻崗人也。父時國母秦氏。父母無子祈佛神。母夢吞剃刀。覺語于夫。夫曰。汝其有身乎。恐薙染之人矣。因而孕。母不茹葷腥長承二年四月七日生。頭圩而稜。眼黃而光。宗族異之。至四五歲擧止動向西。九歲父被寇害一家噪逃。空自屏處偵之。以小弓矢射寇。中其眉間。寇者源長明。寬治帝之銜曹也。為其額瘡可證發遂隱而終身。時呼空為小矢兒。郡之菩提寺觀覺聞之乞為弟子。性善習學。覺嘆曰。此器兒何可居草澤乎。送與延曆寺源光。光曰。此童駿驥也非吾朽索之所羈也。即投功德院皇圓剃落受戒。時年十五。三脊之間通受台教。又從黑谷睿空稟密乘及大乘律。凡大藏經律論佗宗章疏靡不撿閱。空於教義有自得處。欲質其所蘊。謁藏俊述唯識。詣慶雅演雜華。二師皆嘆踰於師承也。因是俊贈供物。雅寓章疏。空自詫曰。我讀書三遍其義自彰。不勞苦而已。又曰。八宗之外涉佛心宗。於九教相粗得幽致。晚見信師往生要集。乃棄所業倡淨土專念之宗。承安四年出黑谷居洛東吉水盛說專修及圓頓菩薩大戒。緇白靡然向風。嘉應帝召入宮受戒。藤相國兼實延問淨土之事。空述選擇集呈之。專修之徒取為祕要。顯真。靜嚴。明逼。證真。公胤。皆緇林之翹楚也。從空問專念之道。空修法華三昧白象現道場。又讀華嚴几案下有異小蛇。其徒信空怖之捕去。次日蛇又在焉又避之。其夜蛇夢空曰。我是華嚴之護神也莫畏也。其後蛇猶蟠几下。空又不怕。經竟蛇不來矣。皇太后於上西門院請空一七日說戒。門屏上有一蛇。七日之間屈盤不動。每說時有側耳勢。至散日而斃。其頭裂為二。其中髣髴似人形。空謁藤相國于月輪。談話而出。相國下庭拜。背後語左右曰。空公頭上現金圓光子等見乎。對曰。不見。自此相國益加敬。空念修久勤屢感勝相。手筆自記曰。建久九年正月一日修一七日念佛。

第二日水想觀成。第七日地想觀中瑠璃地現。二月一七修之間水想地想寶樹寶地宮殿等現。正治二年二月之修地想等五觀隨意顯現。元久三年正月四日彌陀觀自在大勢至三像現室中。五日三像又見。建永二年春二月竄讚州。居五稔。空曰。吾不因謫爭布專修之道於海裔乎。亦我一化之幸也。建曆元年詔追赴都城。二年正月居大谷染疾。其徒安彌陀像於床頭。且為臨終助標。空曰。此像外汝等有所見乎。諸弟子曰。無。空曰。我十餘年來荐視極樂界相及佛菩薩真身。今又佛來也。二十五日朝高唱佛號。諸徒助和。久而皆聲嗄。空獨不衰。而至午時。其後著傳持之慈覺僧伽梨頭北面西誦光明遍照偈而寂。年八十。臘六十六。空亡之前二三日紫雲降垂坊上。

贊曰。修多羅有一相一行二三昧專勤精修之謂也。空公之倡專修於稱號也資于此乎。夫多岐亡途兀兀皆是。專修之言又孔韙矣。然廢勝業斥佗宗雖贋徒之執弊恐空之訓有不盡乎。蓋廢有二種自佗之異也。自廢無咎佗廢受殃。昔者[illegible]通曰。臣唯獨知韓信非知陛下也。故置漢高之亨。里克曰。不有廢也君何以興。故受晉惠之誅。澆季濫叨不啻專徒。諸家末流浸浸競趨。是以我剖二廢之別諗于後學。釋明遍。藤給事通憲之季子也。才氣貫諸哥。給事死已十三年一家緇素欲相會修八講。蓋國俗逢亡者十三迴之歲營追薦者十二支終而始。迎先支而寓追慕也。給事多子皆英特也緇林尤茂。所謂靜賢。澄憲。勝覺。覺憲及遍也。諸子相議以覺為啟白師。充遍散道師。於時遍鄉棲紀州高野山。蓋疾名緇之官榮也。諸兄使使告事。遍對使者曰。我已逃世隱約此地。雖追孝不堪出也。使者復命。諸兄相語曰。遍才智被世。我等不若也。故胥議為散師也。今言逃世之人不與法孝。豈遁世之士忘孝思乎。重使使者徵詰促歸。遍又曰。我非忘孝也。只怕入諸兄之隊耳。所以者何。夫遯世者吾棄世世又棄吾。然而眾人不齒。是其遯之全者也。而世棄我我不棄世者丐人也。我棄世世不棄我者今之諸名德也。二者未為真遯也。諸兄咸南北二都之高德也。我廁其間効薄伎慣狐鳴已失隱約之素也。又朝庭聞吾出召我我無地辭矣。我非忘孝思也。便以友慧智代法事入京。諸兄相語曰。遍弟稚時議論屈我等。我等今又受屈耳。輦下相傳為真遯之美談焉。臨亡之時祥瑞尤多。

論曰。甚矣士之不耳道也。苟耳於道遍不發斯言矣。諸哥又不服矣。世復不為美談矣。三者咸弗耳道之愆也。請揚摧而陳之焉。夫遍及諸兄何為者乎。皆緇徒也。緇徒者何為者乎。逃世之士也。其逃世之標者禿其頭也。緇其服也。練若其居也。多羅其器也。豈非遯之標乎。是以世貴其儀相以為福田。故歸而事敬而饗。王公之者寵以僧官。祿以封戶。皆福田也。吾徒正當是時應以法相交而不移

心矣。然澆代人漓焉。受茲渥遇換易本法。不見我身之緇禿。與搢紳相比竝。覬覦苟容搖尾乞憐。嗟乎吾道衰者尚矣。是緇侶之所以有遯言也。遍愚則我不遑誅矣。已稟高譽曷例庸緇而容易發遁之言邪。又父母者天也。不受形已。受即不可廢也。孝子之於親也甚於水火矣。遍縱不緇而為巢許之行。於此時不得一不出山也。況我徒乎。我佛設道也先立孝矣。故修多羅曰。孝順父母。又夫吾門超卓之士父母之在也。或有逃逸而迮命者。然拒追修者未聞矣。何也逸逃者反常而合道也。若夫追修者曷反之有。遍何為者乎。始闡大逆乎。蓋遍絆於名而暗於道乎。假令遍聞諸兄請出山追薦而速歸者出入為有小體焉。而釣高名怠孝思卻造語而言。朝廷召我無地辭者皆賣名之言矣。夫公私者事之差也。今遍赴父追修者私事也。奚假於公矯於　朝乎。遍之昧於理也至於此矣。蓋遍不以道為標而以遯為標也。故標其父以遯也。標其　君以遯也。標其兄又以遯也。標其世人又以遯也。痛乎為遯所覆而終不耳道乎。夫真遯者與遯共忘矣。若懷遯於心猶利之在心者。又一遯利也。隱人之為遯溺也譬如世人之為利溺矣。若有所溺利之與遯同。又人之心有移者必忘矣。思天而忘地矣。思東而忘西矣。遍思遯而忘孝。然不忘者妄也。世人造而忘者有之矣。不知而忘者有之矣。遍者不知而忘者也。為人子者孝思不可須臾離矣。況於忌乎。不可言遠近於其間矣。又思有厚薄其薄者忘之萌也。今遍心移於遯薄於孝。豈不漸於妄乎。君子防微。遍不知之。而言不忘者不知之妄也。今民間悖戾之者。猶遭親喪痛哭深慟。一朝而息。是邇而厚。遐而薄者也。君子不然終身不忘。若忘者非所謂罔極之謂也。又遍算父之忌自出山與諸兄營法事者是遍之常也。然迎忌受請而出已晚矣。重造不遜詞而誣諸哥惑世人。遍之責不恕矣。吾故曰三者弗耳道之愆也矣。

釋貞慶。藤給事之孫。尚書左丞貞憲之子也。母夢高僧來宅。自稱曰貞慶言已入懷。自是而孕。母記而藏之。薙染後奉書於母。署曰。貞慶。母依之期慶以累世之比丘也。投興福寺出家。有才譽。應最勝講詔。慶居貧乏資借乘僕於人。以故後於會。官使催之逢于路。相捉入宮。會眾先坐堂上。莊服嚴麗。慶弊衣而至。官僚緇伍皆匿笑。慶謂正今釋子不率法儀。只競浮誇。我不可與此徒為等伍。宮講五日猶患其久如也。講已不還南京止山州笠置窟。高名籍甚。元曆上皇好揚柞遊能射鹿。暮年悔懺營佛宇薦鹿福聞慶德望召為落慶導師。慶徒步揹笻破笠在肩入宮。以杖笠置階側便上殿陛意氣自若。上皇以下貴其朴素。既而登座。詞辯婉暢因譬莊嚴。交以鹿苑事。君臣無不感嗟。慶詣春日神祠。群鹿皆折前足云。

贊曰。爵祿者世事也。吾黨蔑視焉。然贋浮圖動絆縶於此矣。今見慶師之憤激也可謂烈士乎。

釋高辨。姓平氏。紀州在田郡人。父重國嘗為嘉應帝衛兵曹。二親各詣佛祠求子。母夢有人授柑子。其妹適竝枕臥。覺而語之。妹曰。我又夢人與我大柑二顆。姊曰。我當得便被奪妹之所夢不徒耳。尋而有孕焉。承安三年正月生。形貌端麗。甫四歲重國戲以烏帽安頭曰。如是美兒安得早長成加冠巾登仕途。時兒私念。我慕僧儀不覩官屬。若以容質拘之不如毀膚。即自投庭下。傍人以為失脚奔忙救抱。兒不果志。畜憤不霽。亦近火爐欲以火箸爇其面。先試著左臂。熱痛不可忍也。即止而泣。稚孩勵操多類此。九歲父母繼亡離宅。從高尾山上覺讀俱舍頌。不旬日便能誦。一日與群兒游戲。忽猛省曰。我父母不知生何處。若墮三塗思彼劇苦我何逞戲笑乎。若在天界天眼無礙定見於我。生平呵責今豈有異。熟憶二事吾何戲劇。縱人不言我不愧哉。爾來益勤所業。十許歲早事游學。聞密乘於尊實。習雜華於景雅。有尊印者善悉曇章。附而學。印屢煩徵詰。兒又有歉然之思。一夕夢梵僧授深義。覺而質于印。皆印之未聞之者也。印感怪焉。年十三自念言。諸佛因修不惜身命。救鴿飼虎古規可式。我已稍長。豈憚苦行。夜潛往屍陀林。骨肉散零豺狼縱橫。兒雖寒心忍而止宿。徹曙無傷害。又歸文殊師利日持五字呪。誓曰。願依大聖加被得如實智救濟有情。十六就上覺剃落。於東大寺戒壇受具。寺有聖詮者善賢首宗。請益日新。十九從興然阿闍梨稟兩部密法。自爾止北山栂尾盛唱賢首宗。戶部尚書長房語曰。弟子頃讀金師子章未明其旨。願公加詮釋。辨乃撰光顯抄二卷付之。嘗曰。我國慧學之者多而定修之人希矣。以故學者闕證道之門焉。是我之大患澆季之弊也。便於北峯嵓窟構一宇禪宴思惟。五門禪要‧達磨多羅禪經等以為心術。又依華嚴宗義撰坐禪次第并入解脫義二卷。常修佛眼明妃法。一時初夜供已出堂外行道念誦。忽見西方群猪行東。其先者背負大星。其數五光明爛然。其夜甚黑因星光群猪皆見。或時佛眼尊現其身。又夢明妃告曰。明日授汝般若理趣分。習日午供壇上有誦理趣之音。其聲妙細。供竟采筆記之。忽忘經句。瞑目乞指授。又有誦聲其韵如先。又修不動法。其場忽成花苑寶萼彌敷奇香薰郁。網幢幡鈴寶飾具足。其寶鈴右遶辨身。梵僧三十餘人手執香爐歌唄讚歎。又修供之間呼侍者良詮曰。一虫落桶裏。汝早救之。詮見堂外水桶果一峰落浮。又修法中告詮曰。竹林中小鳥為鷹擊。汝其濟之。詮入篁果如言。一日截耳供佛眼。其血灑像壇及供器。其色不變今尚在。其夜夢沙門具梵相告曰。三世諸佛身肉布施。子其庶幾乎。讀華嚴至第二十五如來在他化自在天宮說十地法門之句。天莊嚴相顯現目前。舉眼瞻仰。文殊大士乘金毛師子在空中長三尺許光明赫熾。辨不耐感幸起立作禮。辨病夢梵僧盛一杯羹與之。覺後餘味在口。即時疾愈。栂尾者古練若之地

廢圮久矣。辨居此復院宇。承元二年還紀州。於內崎山創伽藍。四年又歸栂尾。寬喜四年正月十五日夜對彌勒像禪坐入觀。傍人看之如無氣息。於時尊像寶座左角寶珠忽出香煙。漸上如雲。其像譬若在天雲中。於是辨又口中放白光。移刻出定告諸徒曰。我期已近。便宣臨終法儀十九朝廣說修學始卒竟。右脇而臥。又舉聲唱曰。南無彌勒菩薩。即寂爾閉目。面有微笑貌。年六十。喪斂之間容色不變。奇馥弗竭。

贊曰。中世以來賢首之宗不振矣。辨公以純誠之質立鑽仰之志。故毗盧華藏之海迴倒瀾。普賢毛孔之剎復侵疆。見其稚操之激勵宜乎中興之才器也。豫章從小有梁棟者辨之謂乎。

元亨釋書卷第五　終

元亨釋書卷第六

濟北沙門　師錬撰

淨禪三之一
唐國義空
睿山覺阿
永平寺道元
長樂寺榮朝
松島寺法心
鷲峯覺心
宋國道隆
宋國普寧
淨妙寺了然
東福寺普門
南禪寺德儉

釋義空。唐國人。事鹽官齊安國師。室中推為上首。初慧萼法師跨海覓法。吾皇太后橘氏欽唐地之禪化委金幣於萼扣聘有道尊宿。萼到杭州靈池院參于國師。且通太后之幣。國師感嗟納之。萼曰。我國信根純熟教法甚盛。然最上禪宗未有傳也。願得師之一枝佛法為吾土宗門之根柢不亦宜乎。國師令空充其請。空便共萼泛海著大宰府。萼先馳奏。勅迎空館于京師東寺之西院。皇帝賚錫甚渥。太后創檀林寺居焉。時時問道。官僚得指受者多。中散大夫藤公兄弟其選也。萼再入支那乞蘇州開元寺沙門契元勒事刻琬琰。題曰日本國首傳禪宗記附舶寄來。故老傳曰。碑峙于羅城門側。門楹之倒也碑又碎。見今在東寺講堂東南之隅。
贊曰。予求碑刻而無矣。乃如東寺親摸印之。其碑破而存者四片。大者徑二尺餘。小者或不盈尺。額之左右蟠龍偉如也。雖頭角不完鱗甲燦然也。其文殘缺句讀不成。而其字畫之存者亦甚鮮明。雖非妙筆頗為楷正。予便印四片者而歸。上之下之左之右之百計剽閱少可明也。世言橘后問密法於弘法。法盛稱之。后曰。更有法之邁之者乎。法曰。太唐有佛心宗是達磨之所傳來也。熾行彼地。空海又雖少聞之未暇究之耳。因茲后使萼扣問靈池。今碑雖文句不成斑斑或見焉。世之所傳不徒然也。昔六一居士有集古錄一千篇。周秦之碑刻多載之。況隋唐乎。惜乎此方乏好古之君子。今猶不見碑之全文乎。因修此書見殘碑。予之贊詞不得不似跋尾耳矣。

釋覺阿。世姓藤氏。幼上睿山。習學有聲傍親文墨善梵漢書。嘗聞商客稱宋地禪道之盛奮然志遠游。遂以承安元年共弟金慶踰溟達于杭都。乃孝宗乾道七年也。時佛海遠禪師踞靈隱。道價高輦下。阿至其室遠問我國風。阿未通語音。便書曰。國主無姓氏號金輪王。一種系授未有移革。僧無進納而講義高者賜度。風俗和順奉佛歸僧。然無禪法只講五宗經論。風聞德義特詣函丈。願傳心印以度迷津。且如心佛及眾生是三無差別離相離言假言顯之。禪師乞垂開示。遠曰。眾生虛妄見見佛見世界。阿又書曰。無明因何而有。海便打。阿即請遠陞座決疑。明年秋游金陵抵長蘆江聞鼓聲忽然穎悟。始知佛海垂手之旨趣。返靈鷲述五偈呈所見。其一曰。求真滅妄元非妙。即妄明真都是錯。堪笑靈山老古錐。當陽拋下破木杓。海印其所證。阿辭。海書偈贈行。阿歸朝後安元之始附舶便通信于海。水晶數珠綵扇等二十事貯以寶函 。海喜而受之。壬寅夏通嗣書。海已寂矣。或曰。嘉應帝聞阿禪行召問宗要阿橫一笛吹之應制。時機未稔君臣莫測。惜哉化行不聞乎。

釋道元。姓源氏。京兆人。紳纓之胤也。始謁建仁明菴。庵為法器。後乘商舶入宋地見天童如淨禪師。淨付以曹洞宗旨。歸來闢法于城南深草。平副帥時賴招以名藍不就。乃如越州構精舍而居。名曰永平禪寺。叢規一則太白。建長五年八月二十八日告眾書偈化。壽五十四。

贊曰。阿元之二師者參遊之選也。阿之契於冷泉。元之稟於太白。見其自大方而來不亦悅乎。阿之迹不多見可惜而已。然猶見取雷菴列於四燈不為大息焉。元之化播北地不及中土不能無遺意矣。

釋榮朝。粹密學。從建仁西公稟宗門要旨。居上野之長樂禪苑。盛揚真化。東方道俗趨化如歸。寶治元年九月二十六日戌時滅。于時寺內甚明。徒眾相語曰。昏夜之明豈有是等之煥赫乎。采筆記事過于炬燭。寺傍民家望寺以為失火。急奔入寺。見朝之坐丈室而化。壽福朗譽。東福圓爾。皆朝之徒也。

釋法心。過壯歲出家。不知文墨。聞衲子之稱宋地禪行。駕商舶。入臨安。徑登徑山見佛鑑禪師。鑑於圓相中書丁字示之。心止席下單提研究。性堅硬耐禪坐。骨臀腫爛而不撓者九年。初持丁相。於萬物中現丁字。心不屑。漸經歲序始得平穩。歸朝居奧州松島。臨終先七日謂徒曰。某日當取滅。然心無恙。侍僧不信。到期齋罷坐禪床。侍僧乞遺偈。心元不克書。即唱曰。來時明明。去時明明。是箇何物。止而不言後句。侍僧曰。猶一句望足之。心應聲喝一喝泊然而化。

釋覺心。性常澄氏。信州神林縣人。母祈戶藏山佛求子。一夕夢佛以燈手授。覺有娠焉。少小無塵累之操。年十五投神官寺讀佛書。

十九薙染受具于東大寺。乃上高野山染指於三密也。因而謁金剛三昧院行勇。於是乎志慕教外之旨。易服親炙。勇遷相之龜峯。心主紀綱。又稟金剛乘於三輪道。得菩薩戒於深草元。遂入上都見勝林順。順者入宋之望也。益深南詢之志。建長之初泛舶蹈宋域。直趨雙徑禮癡絕冲。寓一單於廣眾。簡堂外之步屧。而機語不契。乃事徧遊參荊叟于道場。拜應真于天台。育王之寺。大梅之塔。浙東靈區足跡皆遍。適值本邦同參源心者。問曰。我周旋諸老之間者久矣。而以吾眼之不明也。暗于知人焉。雖吾之暗庶幾見人之明乎。子已熟於地矣。又不有聞邪。對曰。我之暗猶子之暗。而我之聞寔不似子之聞也。是子之所謂熟者乎。靈洞護國佛眼師我所熟聞也。乃相將至護國。佛眼問曰。汝名什麼。對曰。覺心。眼乃示以偈。曰。心即是佛。佛即是心。心佛如如。亘古亘今。又徵詰數四即受印可。寶祐二年春告別。佛眼以月林語對御錄無門關等付之。又授偈曰。心即是佛佛即心。心佛元同亘古今。覺悟古今心是佛。不須向外別追尋。又寫照贊曰。用迷子訣飛紅爐雪。一喝當鋒崖崩石裂。化死蛇作活龍。點黃金為生鐵。去縛解粘。抽釘拔楔。更將佛祖不傳機此界佗方俱漏泄。心辭而出。發于明著博多。乃建長六歲也。隱高野之故居。明年出世于金剛三昧咤。瓣香供佛眼。踰歲通嗣書慰答切至。弘安四年文應上皇詔居城東勝林寺。至化難逃勤老入都。奏對愜旨。聲振輦下。然以帝里繁喧忤于禪宴。不幾潛回紀之舊院。永仁三年諸徒出衣資建壽搭于都城之西北。扁庵曰歲寒。乞心睠遊。心不得已又入天邑。上皇優禮迎請咨詢禪要。心雖老奏對詳精。上皇益欽歎。錙素軿闐禮謁。又願心之終焉此居。心亦潛歸紀州。初心自宋歸。海風俄起波濤怒鼓。一船震慴。心安坐不動。忽月輪現檣上。頃刻風波恬如也。鷲峯元多妖魅。有涉境者必遭惑亂。心居于此屢見怪異。心一一降攝。或授戒法。自爾魅事息。心登熊野妙法山。青天忽星祥雲下覆。正應四年晴空大雷墜鷲峯之東嶂。聲聞四十里。諸徒恠至雷所。有一顆寶珠。心乃埋珠鎮山門。始心遊鷲峯。樂其絕勝營構梵宇名曰西方寺。棲此四十餘歲化被南紀。詣熊野者取路鷲峯必志禮謁。不則為虛行。西方之寺產業寡而往來數千指。心以寺窶頗拒之。或有贏粮而至縛茅樹下時時乞諮參者。庚申歲佛眼以書寄法衣一領。七葉圖一鋪。月林體道銘。并賜對段錦。誨語諄諄。心又每舶便音問不缺。一時寄水精數珠。眼以偈報曰。百八摩尼顆顆圓。遼天鼻孔一齊穿。恒河沙數佛菩薩。日日呼來跳一圈。其同風可占也。永仁六年四月十一日示微恙。緇白省問相繼。已而輕安。十月十三日道俗酬酢如常。入夜神色有異。諸徒怪乞辭偈。心笑曰。我生平屏文墨。今何特地乎。徒曰。師今斂儀端坐。恐告終與。對曰。諾。乃蛻然而逝。龕留八日

氣貌如生。荼毗得五色設利。壽九十二。臘七十四。分塔于都紀。心嘗以趙州狗子話舉示學者。或曰。念起是病不續是藥。或曰一切善惡都莫思量。四來之扣請只舉單提之要。於時指鷲峯為禪窟。敕謚法燈禪師。

贊曰。道不在夷夏焉。吾見朝心二師身居東鄙名塞寰宇。善哉心之末後句子以一喝蔽四句。其高妙之格所謂不經人道之者乎。法燈荐承　宸衷動迴舊隱。吾謂三子者居夷德夏者也矣。

釋道隆。宋國西蜀涪江人也。姓冉氏。年十三薙髮於成都大慈寺。遊學講肆。棄而理峽棹。入浙見範無準。冲癡絕。簡北磵諸大老。皆無所契。漸屆陽山依無明性禪師性室中舉東山牛過窻櫺話。隆聞有省。嘗聽東僧之盛稱國光及禪門之草昧常志游化。遂以淳祐六年乘商舶著宰府本朝寬元四年丙午也。乃入都城寓泉涌寺之來迎院。又杖錫赴相陽。時了心踞龜谷山。隆掛錫於席下。副元帥平時賴聞隆之來化延居常樂寺。軍務之暇命駕問道。平帥乃啟巨福之基趾構大禪苑。請隆開山說法。東關學徒奔湊佇聽。一日示眾曰。參學人日用中雖履踐這一片妙湛靈明田地。然於其中不識祖翁者多。若識得祖翁我且問你。契券今在何處。得契券之後。此一片田地任汝操持。今時人全身在裏許而不知裏許事者病在於何。蓋不了目前便有許多萬緣萬境。入汝眼內入汝耳中。眼又不會收視耳亦不能返聽。未免只隨聲色所轉無自由分。此乃非佗所障。是汝自障。自障者何。不會卻物。只管逐佗。所以道却物為上。逐物為下。冬日示眾曰。諸兄弟究此一段大事。如三冬之內向寒爐中埋火一般。常令煖氣不斷。忽然通身上下徹骨氷寒。開口不得時須假佗力。雖然箇是引導之門在瀟洒衲僧分上。須是向冷颼颼中搜討。清淡淡處體究。挨得路通。著得眼活然後傲雪欺霜呵風詬雨。摠不由別人。收也在我。放也非佗。未到此田地須是自信自修自悟始得。信者信佛祖有無傳而傳之妙。修者修自家欲達未達之場。悟者悟現今迷頭認影之所。此猶是大槩之辭。若據實而說。做工夫時各各陡頓精神莫隨境轉。虛靈自照動靜返窮。窮至無窮終有倒斷時節。居十三年遷平安城之建仁。都下緇素欽挹禪化。逢開山千光忌。上堂曰。蜀地雲高。扶桑水快。前身後身。一彩兩賽。昔年今日。死而不亡。今日斯晨。在而不在。諸人還知落處麼。良久曰。香風吹。委花。更雨。新好者。自此寺眾加畏愛。焉。寬元上皇聞隆道譽召見宮中。隆奏一偈曰。夙緣深厚到扶桑。忝主精藍十五霜。大國八宗今鼎盛。建禪門廢仰賢王。上皇嚮隆之護宗之志。經三歲返建長。福山寢室之後有池。池側有松其樹條直。一日斜偃向室。眾僧怪之。隆曰。偉服之人居松上與我語。我問住何處。對曰。山之左鶴崗也。語已不見。以其人之居故松偃耳。諸徒曰。鶴崗者八幡大神之祠所

也。恐神來此耳。自此其徒欄楯其樹名曰靈松。徒屬中有流言者。因此為甲州之行。北地之胥吏氓黎幸隆之竄謫。隆亦曰。我為法跨海入此國只周旋皇畿侯服而已。不遑誘導遠陬也。偶罹于讒誣而狎于羯獠。是我弘道之素也。天龍豈有意於此乎。甲之居猶洛之數。又還相主龜谷山。六群之徒謗吻未合。再成甲行。又還壽福。弘安元年孟夏歸于福山。秋七月示微疾。至二十四日書偈辭眾而寂。闍維得五色舍利。其煙觸樹葉纍然皆綴舍利。門人自遠方至者歷數十日。到葬所搜索林木多得舍利。隆有所持鏡。沒後其徒收之。或夢其鏡留隆儀貌。告徒乞見。髣髴似觀自在像。諸徒傳看異之。平帥聞之請入府。疑其晻曖令工磨治。其鏡初幽隱。經一磨鮮明嚴好大悲之相皆悉備足。平帥悔謝作禮。後寧一山為記。今在鹿阜。府奏乞諡賜大覺禪師。本朝禪師之號始于隆也。

贊曰。儉約翁應　詔于龍山。予舊好往來無間。一日問曰。大覺之行有狀乎。翁曰。吾師之道徧天下。人人之口處處之碑奚用區區之狀乎。予曰。不然。物之磨物也無若歲月。金石之堅久或消泐。翁之所謂口碑者猶其幾而已。綿時邈歲口碑亦磨。吾恐盛業大德之晚進者或不耳也。予之步屧於福嵩薰炙翁之仲季也猶有未委之處乎。翁曰。子之好古也尚有之矣。況佗人乎。余之前言過也。佗日誌歲時令侍僧送付予之編修焉。

釋普寧。號兀菴。宋國西蜀人也。幼年祝髮負笈於唯識之講肆。歷數歲捨去出峽而南詢遍歷諸老。到建康之蔣山值癡絕冲上堂。冲舉覆船僧到雪峯之話。寧聞之忽然認得本來面目。尋登四明之阿育王山。住持無準範陶鑄四來。寧又遇上堂側聞。準舉僧問古德。深山巖崖還有佛法也無。德云。有。如何是深山嵓崖佛法。德云。石頭大底大。小底小。寧言下如夢覺。爾後每逢入室捷機無礙。準被旨上徑山。寧侍往。一日準語曰。昔演祖請益白雲端和尚。端云。近有數僧自盧山來。教佗說禪也說得。下語也得。批判也得。祖云。和尚如何。端云我向伊道直是未在。祖聽此語七日忘食味。方諭厥旨。寧聞已無言可對。只向未在處做工夫。自是入室也不下語。有時準把住曰。尋常口嘮舌沸如何不下語。打一竹篦寧當下打破漆桶。禮拜已退。徐通所悟。準曰。汝徹也。只是得道易守道難。須默默守之。久久自然感驗也。自是如癡似兀而度日。準書兀菴二大字遺之。因以為號焉。寧欲以啟蒙於癡絕歸省於蔣山。準書法語為介。昔紹興中應菴華踞鍾阜大慧杲據雙徑。天下指二老以為二甘露門。端嘉之間二師道譽相配。居處偶同。江湖以甘露之稱呼二老之門。寧往來徑鍾之間。飫見厭聞。從茲聲名籍甚。靈隱天童皆居第一座。適象山靈巖虛席。諸山公舉府帖儻來。寧不得辭。嗣香供佛鑑。鑑寄法衣信書慰諭切當。次遷常州無錫。兩所住持不失家法。

其在象山。逢結夏示眾曰。諸方安居結制。靈巖結制安居雖是一般規矩。於中大有差殊。作麼生趙州東壁掛葫蘆。在無錫。徑山偃溪訪及。寧撾鼓上堂曰。東澗水清旦泚。源遠流長。波騰鼎沸。從這裏入。不知其幾是則是只。如國一禪師經過梁溪。驀將泗州大聖鼻孔一捏。直得無處出氣。為復壓良為賤。為復神通遊戲。(良久云)君子可入。寧提唱斬絕。諸方稱之。時宋地北虜橫放。雖寺院輒受虐。偶本朝道舊講五峯之法義。屢附商舶時時聘招。景定二年庚申泛滄海。順帆不艱速達博多。寓聖福寺。即文應元年也。尋至帝都。東福聖一迎接掃客位延之。待遇甚渥。京師緇素奔波瞻仰。副元帥平時賴聞寧道價迓歸相陽。寓止巨福山。住持蘭溪隆者寧之蔣山舊友也。相見喜慰勞問。副帥信嚮日煽。漸命令正位於函丈。寧進十五偈力辭。副帥益堅。不得已即真。禪規整齊號令稹密。東方叢社指為法窟。副帥軍務之暇常入山問道。不幾契悟。寧以偈印曰。老僧初到與三拳。埋恨胸中結此冤。痛恨忽消開正眼。方知吾不妄宣傳。經歲學徒益盛。海眾之中黨法義者。以違境撼之。寧急率不羈。勇退鳴鼓告眾曰無心遊此國。有心復宋國有心無心中通天路頭活。舉杖云。拄杖頭邊挑日月。合國勸留堅執不允。寧初赴本朝。海龍現檣上捧七大寶珠。舉眾仰視嘆未曾 有。寧未來朝之前二年。平副帥夢一僧慈相嚴順。教曰。公勤參禪。覺後繪所夢像供養。及見寧與夢像無少差。是以敬嚮無比。逮退歸其子時宗領副帥差部從送到西府。文永二年也。風帆無恙達明州無何省剳主婺之雙林。兵艱之餘院宇毀頓厨庫索然。寧分衛賑眾。不久捨去漫游江浙。晚住溫州江心龍翔寺。至元十三年十一月二十四日寂。有嗣法大夢和尚。法孫遍閩楚。寧為侍讀提史端明尤煓所知。木石先生者也。煓晚宋名儒觀大慧語脫然契證。與我門諸師語意冥符。宋季諸老語錄多所題跋。書寧之語尾曰。叢林傑出正續真傳云。

贊曰。兀菴周旋徑蔣之間解悟真正。抱此偉器遊化上邦。我國俗渴聞甘露者久矣。仰密雲希沛注者不鮮矣。故副元帥平公軍國公勢之劇早飫飲而取足而已。然遇六群之猖獗作一錫之返飛。雖斯方之不幸又彼真率之所為也。昔曇摩出東迦夜歸西。竺乾之良匠猶不能無維桑之思。當困阨憶家卿又人情之常乎。嗚呼佛果住雲居。猶有圓悟高菴之黨焉。況澆季乎。而夷險共容不涉于懷者至人之量也。庵也曷易動乎哉。

釋了然。號月峯。京兆人也。始仕進為大學博士。有名于黌庠。俄拋冠幘棲心真乘。適聞大覺道譽肩錫東往。謁于福山。親炙者久。覺稱其純精命以板首正嘉之元住相之極樂寺(今改淨妙)上堂曰。在耳曰聞。在眼曰見。一點靈光。萬化千變。靜則月印寒潭。動則波生水面。佛性與精魂。不隔一條線。諸人還鼎省麼。從來濁富不若清

貧。解夏曰。九旬法制已圓成。借問寒山作麼生。皎潔直饒同滿月。更須撒手暗中行。臘八值雪曰。今朝臘八好時節。不見明星惟見雪。露地白牛在目前。象王行處狐蹤絕。說迷說悟孰區分。旦喜來年蠶麥熟。這裏有人猶未惺。釋迦老子若為說。臨終偈曰。七十一年。夜夢紛然。一旦覺來有何事。水在澄潭月在天。有携其語入宋地者南屏衍石帆。乳竇曇希叟。著語稱讚云。

釋普門。號無關。信州人。始游講席後至慧日機語投契。又踰海依附淨慈倫斷橋。歸朝居北土。弘安四年照東山退慧峯。藤丞相招門補席。嗣香供聖一正應之間文應上皇在龍山之離宮。宮恠荐作嬪妃遭魅惑。年少冠纓或亦魘之朝議紛紜。或曰。此地妖怪自古而有。非佛居不可。時南京睿尊有戒行譽。勅棲宮闈率二十沙門晝夜誦密呪而妖魅不止。尊辭而避之。或白門德望。召對下宮。宣以宮怪。又曰。師能居之乎。門奏曰。妖不勝德。世書尚有之。況釋氏乎。釋子之居何怪之有。上皇壯其言門乃挈衲子而居。只禪坐而已。又孔淡矣。然妖魅沮。上皇自是傾心宗門。勅為開山祖。便禮門受伽梨鉢多。四年冬門病東福。上皇入寺問疾。門老病八十。諸醫皆言。者回不作。上皇私念。宮怪銷伏或恐禪家之通効也。不必獨門之有也。我見寂迹定門之德業。兼探心宗之云為耳。以故日夕幸寢室。綺紈與壞衲相交。十二月十二日書偈安祥而坐化。上皇益心禪門。賜謚佛心禪師。

釋德儉。相州人也。始其母棄鎌倉縣之路傍。或收育福山之側。稍長與群兒入寺虞游。大覺見之器許。乃就家乞之納為弟子。自此倫輩推重。又入宋地周游吳越。一時名宿多所親附。歸來省覺益增智證。永仁三年府帖領本郡長勝寺。乳香報于覺也。次移東勝。淨妙。禪興。建仁。建長。文保元年南禪寧一山寂。建治上皇勅元帥府召儉。二年冬來堇山務。上皇渥禮遇。其數剎提唱學者傳誦。據室曰。正令全提佛祖斫額抑下威光有禮有樂。正旦上堂曰。昨日萬物咸舊。今朝萬物咸新。細看迎新送舊。元來無疏無親。(起拈主丈云。)木上座莫有墮新舊遷變去也無。(卓一下。)千古黑粼皴。萬年一般春。上堂曰。向上一路千聖不傳。誰家竈裏無煙。向上一路千聖不然。脚下地頭上天。無孔鐵鎚當面擲。元來不直半文錢。(擲拂子。)下座。元應二年五月十九日書偈辭眾化。年七十六。病中賜號佛燈國師。

贊曰。建長正嘉之間此方禪語未醇矣。月峯於是時提唱可見。蓋有德者必有言之謂乎。無關也枯禪自如。宮怪自沮。奏對之言信哉。約翁者其大覺之遺愛乎。

元亨釋書卷第六　終

元亨釋書卷第七

濟北沙門　師錬撰

淨禪三之二

慧日山辯圓

釋辯圓。字圓爾。以字行。姓平氏。駿州藁科人母税氏。夢舉手採明星光。因而孕。其後常夢青衣之女相隨從。母疑怪。詣郡之久能山堯辯法師欲決所疑。先見壁間有畫像。與夢女無少異。則問曰。此像何神。辯曰。大辯才天女也。母曰。妾有身而夢此天女常相隨何。辯曰。胞中恐聖子乎。蓋天女侍衛耳。母喜而曰。產若無恙願投師。不敢置塵中也。至九月胎中有聲。建仁二年十月十五。日出時生。金光照室。適新雪鋪庭。明年冬天雪。兒指雪問母。是何。母曰雪也。兒曰。我誕時有此雪。五歲母蹈死言入辯之室。過十齡早學台教。一日廁止觀講席。至故四諦外別立法性之句。講師滯澁。兒進前解釋。詞義渙然。講師嘆曰。是處前哲猶病。童稚機辯殆乎宿習與。時年十五。次歲終三大部。十八薙髮於園城寺。登東大寺戒壇。又入洛都潛聽外學。一日猛省曰。我居講肆雖研究大小權實。徒算沙而已。乃出三井往野州長樂寺。從榮朝問別傳之道。朝者建仁西公之上足也。初西得敞虛室禪門大戒之圖。爾就而受之。兼瑜伽三部之灌頂。經年而歸久能山有見西闍梨。蘊密宗之秘印。見爾欣然而全付焉。益臻祕奧。爾游相陽寓壽福寺。住持行勇建仁之徒也。爾講叔姪之禮。勇請待甚渥。有了心者。其徒之彥也。精首楞嚴。啟講於客位。爾預聽。屢加難問。心煩解答。爾思念。今其東方學者以心為魁。而淺易如此。我其誰寄哉。不若入宋地。自是企遐涉之志。鶴崗八幡神祠開八講席。講眾以爾之深教乘延為證義。有賴憲僧正園城之義虎也。時稱三井大鏡。與爾徵詰。憲屈。爾笑而曰。久嚮大鏡。是鏡非鐵者恐瓦乎。一會作色。憲顧眾曰。莫訝也是智人之言。又指我痕瑕也。爾看大藏四更涼燠嘉禎元年泛海。十寅夕而着宋明州界。即理宗端平二年也。先寓城之景福律院。聽月宗主之開遮。不幾入天童山禮癡絕冲。漸違都下。跨天竺寺月栢庭門。質性具之旨。栢庭證前學即授台宗相承之。并付自撰楞嚴楞伽圓覺金剛四經疏鈔。於時笑翁堪領淨慈。石田薰主靈隱爾往來二開士之門。適寧退耕典北山之賓與爾善。語曰。輩下諸名宿子已參遍。然天下第一等宗師只無準範耳。子何不承顧眄乎。依是登徑山。佛鑑一見器許。未浹旬侍巾瓶。晨昏參請優柔飫厭。會中皆大龍象也。保寧覺即菴掛牌開室曰東山慧西巖為兩板首。爾

周旋三老而請益。倫斷橋。智別山。一環溪。敬簡翁。源靈叟。坼方菴。寧兀菴。曇希叟之儔。預辨眾事。爾咸莫逆。頗受磋磨之功。五峯煨餘。佛鑑坐瓦礫場轉大法輪。然天下指凌霄為甘露之正門。蓋又得人之多矣。敬叟簡棲飛來之北磵。望高一時。爾往謁北磵曰。徑山執不立文字之柄拂儞知解之塵。吾猶何言乎。延為上賓。佛鑑從容語曰。女學海浩渺。比來我竹篦下一時乾枯。佗日歸本國必於無涓滴處。橫起波瀾。竪無勝幢。發揮吾道。須踵從上乃祖遺芳永利未來際。淳祐元年四月辭佛鑑。鑑出密庵師祖法衣并自贊頂相與之。諸友送至山下。特湘絕岸。欽雪巖。二人眷眷來行在。仲夏發四明。孟秋著博多。本朝仁治二年辛丑也。居崇福承天兩寺。盛倡祖道。大宰府有勝藍名觀世音寺。歲首行驅儺。其日捕寺之四傍路人。頭蒙鬼面身披彩服。名為儺鬼。引過殿庭。此夜闔府男女入寺打是鬼。為驅儺。鬼甚困極。國俗自古有之。以故觀世音寺四畔此日無行人。佗州旅客往往來此就捉。府之橫嶽山有湛慧。明顯密多異迹。適過是境。僕曰。今日觀音寺驅儺也。師恐遭追捕。乞從別路。慧曰。戒德之士豈有之哉。果執慧行鬼事。初大相國藤道家為天福帝外祖。德望重。當時。三子皆登宰輔。其第二子良實時持鉤軸。奉佛甚勤。元聞慧名。其徒勸慧赴藤府訴鬼事。藤相驩慧來諮詢宗教。酬酢詳明。宗門顯密出入泛濫。藤相大喜白大相國。大相國延見。果如藤相言。大相國問曰。上人師誰得此智辯。對曰。我師圓爾。頃者入宋得徑山佛鑑禪師佛心宗正印。見今住崇福承天兩剎唱直指之道。相國猶稱我。況我師乎。大相國乃使使招爾。二月入京師。大相國於光明峰別墅延爾問道。恨相知之晚也。就而受禪門大戒兼祕密灌頂。正嘉元年。寬元上皇於龜山宮受禪門菩薩戒。留宮七日。敷宣法要。上皇自持黃金扇與爾。帝者之手授古來寡儔也。文永九年。上皇不豫。勑爾侍病。陪宮逾旬。十年冬天子勑藤丞相(寶經大相國第三子。圓明寺)召爾受禪門菩薩戒。建治元年文應上皇於龜山宮談三教微旨二年。寶治上皇受菩薩戒。文應上皇又入宮問禪要。藤相國兼經屈爾講宗鏡錄。多會性相碩師為聽徒。圓憲。回心。守真。理圓。皆一時之英髦也。輦下指為未曾有勝集。近衛藤相國受菩薩戒。堀河源太師詢三教大旨。爾述三教要略呈之。菅諫議為長。世業偉才為時儒宗。嘗曰三教之於震旦也。隨時陟降。此土儒學不及釋之遠矣。是搢紳之恥也。常奮之。聞爾之粹於釋門。頗志杭衡。大相國聽菅之言。欲見其能為。異日與爾道話莊嚴藏院。諫議來謁。大相國為地也。寒溫已大相國曰。菅公本朝大儒。常銜釋壓儒。今兩雄相遇。輸贏可占耳。爾曰。承聞菅公從事儒術是不。諫議色莊而曰。然。爾曰。我法之中。佛佛授手祖祖相傳。不因師授為虛設焉。以故某自世尊五十五世。達磨

以來二十七葉。強弩之窮矢。雖不穿魯縞。猶以系受稱釋子。以釋例儒。恐亦當然。不知公於孔子幾世乎。諫議箝口而退。謂人曰。我欲與爾師角道義。彼以世系為言也。而我已陷重圍中耳。爾赴相州舘龜谷山。副元帥平時賴延府裏受禪門菩薩戒。平帥問曰。今諸方說法各別。或曰。妄心緣起而有生滅。真心不動不生不滅。或曰。大疑下有大悟。或曰。學者須看念起。謂之回光返照。未審那箇親那箇踈。對曰。這裏何所在。說踈說親。帥曰。豈無方便。爾曰。說似一物即不中。帥頷之而已。又乞衣曰。願莫忘弟子之外護。文應元年。寧兀菴入朝。平帥於菴有所得。寄書於爾曰。弟子見兀菴始知師之鉗鎚妙密也。延曆寺座主大僧正慈源。時時問顯密奧祕。睿山靜明聞爾善台教。諮四種三昧。兼探別傳之旨。爾之剖析皆明之所未聞也。明聳聽。爾曰。子未精教觀。況我佛祖單傳之正宗。豈義學之所跂及哉。明伏膺甚。自此來往無間。佗時至論相絕二待。爾示以宗門關棙。明疑情頓釋起而作禮垂淚曰。若不來見和尚安得窺佛祖玄樞。從今世世願不失針芥。相宗之尤者良遍。稟爾解銓撰真心要訣三卷。就乞跋語。三論之首。回心問二諦之義。以爾答為準。初宋淳祐辛丑三月一日五鼓。佛鑑召圻爾二侍者燒香而語曰。今夜廣澤龍王(徑山土地)告。汝等二人化導時至。龍王定不食言矣。圻女近日必有專使。不得拒辭。爾女早歸本土提唱祖道。便授親書宗派圖曰。是為傳法之信。其圖畫世尊拈花像於上。左右西天四七東土二三。其下南嶽以降迄無準五十四世。不括橫枝。的的繫列。系其終署曰。久能爾禪師并付法衣竹杖。翌日方菴果得定慧之請。是以山中諸友固爾之本邦化行。又嘆神龍之不徒也。爾泛海風浪蕩漾漂泛洋中。發五月朔至六月晦。著高麗國耽沒羅阿私山下。近岸猛風俄起。共發者三舶。二船已沒。爾所乘舡忽有一女人。怪之。爾問曰。宋舶元無婦人。自何來。女曰。我是八幡大菩薩也。擁護師耳。言已即隱。故無敗。佛鑑臨別自書勅賜萬年崇福禪寺八大字。囑而曰。女最初住院以是為額爾受已白言。佗時若庇身茆廬。或揭崇福名。勅賜二字豈我之有哉。鑑曰。女氣宇必為王公欽崇。女只將去。不得避遜也。爾携而歸。先是湛慧就橫嶽山建精舍。聞爾歸即日來請。入院開堂仍以佛鑑所囑崇福為寺號。至此合徑山神龍之言也。爾通嗣書於雙徑。佛鑑答書略曰。嘗聞日本教律甚盛。而禪宗未振。今長老既能竪立此宗。當一一依從上佛祖法式。又錄到上堂語要。甚愜老懷。肥州有榮尊者。與爾跨海游宋地。尊三歲而歸。領水上山寺。及爾還改禪林。請爾開山。自居板頭。仁治三年秋。謝國明於博多東偏創承天寺。與爾領之。佛鑑聞新寺事。書承天禪寺及諸堂額諸牌等大字寄之。佛鑑書法妙絕。故有此送。宰府有智山寺者西州之大講肆也。嫉爾之禪化。欲毀承天

新寺。執事者聞于朝。寬元元年。勅賜承天崇福二剎為官寺。而息有智山之濫寇。爾乃高揭佛鑑所書勅賜大字。又協鑑之遠識也。爾已入京。大相國嚮於城東創大伽藍。宏構鉅材為都下之冠。嘗曰我亞洪基於東大。取盛業於興福。故名東福寺。俗呼新大佛。未成先署爾住持。立為禪剎。寬元四年。大相國以東福洪營晚成。先立普門寺開堂。令爾居。建長七年。東福開堂。正嘉元年平副帥再招爾入相。白皇子征夷大將軍領洛之建仁。二年。權之建仁火後諸堂索然。爾復佛殿雲堂函丈舊觀。文永八年。總州別駕源氏。建實相寺參州。延爾為第一祖。初大相國迎爾問法。崇禮優異。親書聖一和尚四字授之。于時國政自吾出。故與此號。蓋擬唐代宗賜徑山法欽國一之例也。夫人准后(本朝貴婦人賜佳后號。蓋位比皇后之佳稱也。)亦聞法要自稱女弟子。寬元二年秋。還長樂并故里。覲省本師及母氏。大相國差備中刺史行範為宿衛。夫人脫羅綺珍服。充母之貺。至長樂禮本師榮朝。朝拒而不受曰。公已傳龍淵正派。我豈堪拜哉。只喜長壽再得相見。龜谷山榮西創之。禪規未全。爾之重入相陽。平副帥命行叢矩。於是住持處偏室。爾南面而行事。鐘鼓魚板一時改響。蓋以爾之遍歷臨安諸剎。諳熟儀法也。文永六年。勅領東大寺幹事。曩正嘉始有是授。辭不受。至此朝旨嚴切而不得已東大之幹。以周州允其費。州務瞻饒。庸緇管之視利怠功。故撰名宿當此任。亦國法也。以爾之道望朝廷強授。及主尊勝天王法成等寺化。皆德廣所覃也。弘安三年春。示微疾。入夏重。移常樂庵。文應上皇遣官醫眙病。圓明丞相入山問疾。輒經信宿秋少差。眾皆喜。爾曰。霜葉暫休零。豈久之乎。十月朔。鳴法鼓集眾於庵。祝聖畢宣出世始卒。詞激切。終召大眾曰。卻後十五日望。返本寺法堂寶華王座上。說末後句入大涅槃。便下座。十四日晚。命侍僧舁歸寺。俊顯等曰。和尚老病淹羸。舉動風冷。恐不便身。相議而不許。望日兩序耆舊詣菴問訊。爾曰。我今朝欲於法堂入涅槃。而俊顯等不聽。公等願輿我歸寺板首以下同顯議。至暮普門。慧曉。爾性。三弟子乞灌頂。授之。十六日曰。灑掃房宇。晚間客來黃昏果越後之無傳至。爾之徒住者也。聽爾病馳省。爾披安陀會而坐。傳燒香作禮。爾曰最後相見。致九拜。傳還位。爾曰。相別二十年與。傳曰。十九年耳。爾微笑曰。子未知滿數也。又曰。我去望還本寺法堂。欲唱涅槃。諸徒不可。以到乎今也。與子相見且幸矣。然我不出今夜而已。又馳使圓明丞相告辭。久之又曰。今幾時。侍僧曰。嚮雞唱。爾乃上禪倚。諸徒乞遺偈。便書曰。利生方便七十九年。欲知端的佛祖不傳。投筆而逝。壙之後林竹變白。桐樹自枯。爾心豁如而性諧調。雖沙彌童行。相爾汝。可見悲接之一端矣。當其演唱。嚴毅不可犯。宏辯無礙性相講師來探別傳。爾先詰其所業。彼

早屈。爾曰。子未委教乘。豈堪聞直指乎。以故伏人者多。而禪化成。不然講徒蠹蛀殆乎不建焉。嘗舉倡理致機關向上三宗旨。故臨亡夜為無傳語之。其道契大相國之深矣。故其嗣圓明丞相又如父焉。其疾病時。丞相自作告文禱光明峯廟。延爾命。其契密如此。秋初病少愈者丞相之懇誠乎。文曆初。高麗國王聽爾道譽附貢舡齎書幣求法語。爾書宗教之大旨以答之。爾商船來往必信於雙徑。佛鑑慰答審切。其在徑山。雖居侍位。佛鑑不稱侍者。只呼爾老。徑山後火。佛鑑作疏索援。爾白圓明丞相通巨材珍貨。寶治之初承天寺火。爾之鎮西。國明驩爾來一日中建十八宇。凡檀信嚮應類之。正和始賜諡國師。國師之號始于爾矣。

贊曰。余昔陪文應上皇。御几上堆巨編。跪而閱之宗鏡錄全篇也。其終有寬元帝寶墨。曰。朕得爾師之此錄見性已了。宸奎爛然。時余尚幼。以為慧日之於　帝者也拳拳矣。逮修此書見其侍　病之事。益欽睿翰之不謾矣。建久之間。西公導黃龍之一派。只濫觴而已。建長之中隆師諭唱東壤。尚薄于帝鄉。慧日道協　君相。化洽畿疆。禦外侮而立正宗。整教綱而提禪綱。蓋得祖道之時者乎。

論曰。或言爾師辭佛鑑。鑑付大明錄曰。宗門大事備此書。子歸本土以是為準。爾携而歸。故平副帥屢聞于爾。今此書不收此事。恐遺漏與。曰。是傳者之妄也。蓋爾師歸時將來經籍數千卷。見今普門之書庫。內外之書充棟焉。其中有佛法大明錄二十篇。是以世人託言耳。予見其書謬妄之甚不可言矣。故我通衡之中。掇其尤者非之凡數十條。又夫佛鑑老人楊岐中興。正眼洞明。寧有斯言乎。只其爾師屢閱群書。其間或采大明之相似處。資談柄耳。後學不委。輒加佛鑑付授之言也。今我舉通衡之一二。學者擇焉。

入理章曰。有真空。有頑空。空劫以前無相有覺虛明寂照為天地之宗。此真空也。衡曰。夫一大劫有成住壞空四事。空劫者四之一也。空刼之稱於是立焉。蓋我教之中。世界成壞循環無端。前劫之末後劫之初也。後劫之終次劫之始也。是以前亦末也。終亦始也。指定何時為空劫以前乎。只其外墳之內有混沌未分天地未闢等語。吾門諸師取語於彼。儲義於此寓言假談之類。元無定制。圭堂立空劫以前為真空者。豈迷是而發言乎。夫我門指一念未生時。或曰空劫以前。或曰威音那畔。堂若取之又大惑也。蓋真空者如來藏之稱也。故楞嚴曰。如來藏中性覺真空性空真覺。堂分頑空真空者善。然指空劫以前而為真空者非也。堂以謂。空劫以前冥漠無相。足以名真空也。殊不知。真空者萬像森列不相妨碍不啻空劫。成住壞劫。常恒不變。乃至眾生日用現行。皆是真空裏頭之事也。唯其不能無不知二字耳。堂之言也乖戾甚矣。工夫上曰。自狗子話入。如覺帖帖寧順。便可以歸乎止觀。又曰。自狗子以歸乎止觀。乃至行

持自有序。要須節節高去。衡曰。吾笑圭堂之言禪不知禪矣。夫吾門狗子話幾級何階乎。有何階級。高止觀而卑狗話哉。蓋堂未委止觀乎。我以其言視焉。堂自曰。初不知有止觀之法。後讀文粹得之。於何發言之淺略哉。堂不學台教。只見文粹所載之言。寧能盡止觀乎。以之而言。堂昏於止觀必矣。尚未知止觀。何其言階級於狗話哉。夫止觀者。智者之資以見其行門者也。精緻妙密實可稱焉。然與我鐵橛子之狗話不相似乎何也。彼止觀各析三焉。所謂三止三觀也。是即精妙之謂也。可以為教門觀修之至要。如狗子話何所析焉乎。何所觀焉乎。請審析之焉。觀之焉。若可析可觀者。即非狗子話矣。非鐵橛子矣。又非教外之謂矣。若夫台宗之者不窺吾藩籬。只崇自宗而發斯言。我猶恕焉。堂已言大明吾宗於世。而昧於斯事筆削何哉。或言。子之書引天台止觀。圭峯修證儀為言也。子何痛槌提乎。曰。彼止觀修證之言者。行相及治病之相也。凡諸三摩提皆一例也。若夫提撕之一事。吾猶分諸家之涇渭。況所得之鴻溝乎。雜記曰。楞嚴有大佛二字。廣大洞明若此。而後之宗師。但言諸佛何哉。故是書言。真空寂照空劫無相。最始之佛則稱大佛。衡曰。圭堂以前處處稱大佛事。至此證成焉。嗚呼惜哉。宋地諸師不辨此書乎。若聽其橫行魔黨益熾。然則此書間有可采皆魔說也。予撿楞嚴經之大佛者。第九卷曰。又善男子受陰虛妙不遭邪慮圓定發明。三摩地中心愛緜溜澄其精思貪求契合。爾時天魔候得其便。飛精附人。口說經法。其人實不覺知魔著。乃至口中好言。佛有大小。某佛先佛。某佛後佛。其中亦有真佛假佛。男佛女佛。菩薩亦然。其人見故洗滌本心。易入邪悟。此名魅鬼。年老成魔。乃至迷惑不知。墮無間獄。是堂之立為大佛之文也。嗚呼堂何見經疏闊乎。此大小真假男女佛者。修行之者遭魔魅之語也。末代學者恐逢此惑。故如來深悲。楞嚴會場欲罷法座。廻紫金山。再告大眾說五陰魔事凡五十條。堂不見經。已見到此。豈不辨魔境邪。何其立以為大佛惑後學乎。蓋堂之書欲立次位設階級。件件昇騰。故構大佛之言。然無修多羅證文。見至楞嚴纔得數句。欲為自證不辨真偽。不考法義。惟文惟視。取為證實耳。夫取經文不容易也。正宗正說之中。猶有真假二法者吾佛之微旨。所謂其義深遠其語巧妙也。況大小佛之言。如來已為魔事。為阿難及未來學佛之警式。堂取之為證何乎。又不知已自墮昏坑。還難諸師曰。後之宗師但言諸佛何哉。是立大佛之定實之言也。豈所謂迷而不反者與。又堂之大佛之義。猶如大自在天生世間及一切有情之計。殊不知一切有情纔歸真覺。也無大小。也無真假。況男女哉。至此同一佛也。誰為大孰為小乎。若有小大非真佛也。非大覺也。堂強立一物。置空劫前為最始尊。是一計也。寧不屬外道乎。功行章曰。如真空一卷。何

嘗有二乘鄙俚之語。自古迄今學者惟習。聞二乘境界久矣。今須一振耳目之濡可也。自註曰。正法眼藏之書。方是二乘境界。七百年來方發明二乘事。此書大用卷。尚未離二乘氣習。衡曰。予讀此書初怪笑。至此大懼。圭堂之狂妄至於此也。彼堂何為者乎。著書發明何事哉。自謂。見佛果語有所得。而指大慧正法眼藏。為二乘境界何乎。佛果之於妙喜也無遺漏矣。其正法眼藏者上憲章從上諸祖。中露自證。下垂後世范模耳。故字之曰正法眼藏。堂斥為二乘者。佛果亦是二乘境界也。欲高我書而不知卑其所謂師者乎。我恐受糟粕者。尚未幾於二乘哉。然造言曰。七百年來方發明二乘事。其七百年者指普通而言也。我愍堂之三寸耐幾許犁拔乎。嗚呼堂之稱發明者禪門之旨也。而指祖師西來七百年諸師。為二乘堂從何而聞禪乎。恐非達磨之所傳與七百年。二乘事之言。何憑據乎。吾法佛佛授手。祖祖相傳。不知前言自誰而得乎。堂已言得於圓悟語。是無師承之欵也。是以狂妄臆度。品藻吾宗。世少正見者矣。此書繡梓流傳者。皆吾門之罪人也。度人章。摠明四句曰。第一二句權法也。小乘也。第三四句實法也。大乘也。便言而曰。五家宗派。為仰獨未幾而無後。迄今天下疑其故。蓋為仰之大機圓相。每以後二句為重。則初學如之何承當哉。此其所以未幾而遽絕。臨際無陀。獨能以前二句為急耳。如便棒便喝奪人奪境。至臨遷化猶曰。誰知吾正法眼藏向這瞎驢邊滅。終始惟急於前二句。學者之見効也。速自以為盡其骨髓矣。而後二句事則未與之知。夫是以一宗亘天下而獨盛。衡曰。嗚呼嚮之笑懼至此團為大愍傷。此等之儔世幾乎。痛哉狂愚之如是膠固也。夫以臨濟為小乘邊事而不知大乘。亦以其宗派繁衍為巴人下里天下和多以為仰早泯為陽春白雪唱高和寡者。皆無擇法眼之為也。昔吾鼻祖有言。我見赤縣神州。有大乘氣象。故逾海得得來。如堂之言。臨濟一宗說小乘事。天下尤盛者臨濟也。達磨何錯見而徒來哉。吾亦思。弊魔化堂附吾法。而作此語。欲毀壞乎。不然何如是甚矣哉。堂之所謂甚深之法皆早亡滅。淺易之宗長垂萬世。豈如來之意而護法諸天受勅之謂乎。堂以謂臨濟之人境奪。瞎驢滅等語。皆遮掃之句也。可憐堂之昧於吾宗乎。醍醐上味卻為毒藥者。堂之謂乎。夫宗教之傳遠也。其又有說矣。世俗之起家者。必有勤苦而後其胄繁矣。我佛門雖出世之道而流化之迹不得不然矣。是以吾法福智相資雙行耳。其福或亦為悲。悲福一事而兩用也。蓋我道之為智也。得悲益成。故有悲而後智明。有智而後悲通。二者相合所以吾道流衍也。三世大士修福起悲也。所以滋智也。古來諸祖孰缺二事。其間殊特者為稱耳。是以臨濟獨受茲稱焉。昔百丈再參馬祖遭一喝。三日耳聾。是臨濟宗之兆乎。大雄接黃檗為山。二子雖同稟。黃檗獨有吐舌之作矣。臨濟得六十烏

藤為破夏之歸省。是為仰父子及諸家之所無也。四海百世。所以臨濟之布濩者。不其然乎。而為仰父子當其契證之時。非有孑遺矣。只其涵養不密耳。是所以數世而絕也。譬富家子。受財於父其分者同矣。只其珍藏護惜者饗無窮之利。散漫放縱者不久而資竭。是為仰臨濟之異也。而其護惜者非慳悋之謂也。散放者非分施之謂也。豈堂之所謂前後大小之謂乎。昔禹稷契立舜朝。當時賢聖之質未見優劣也。及其遺胤建國。夏商不如周長者。稷播百穀之勤効也。臨濟之後又有楊岐黃龍二派。黃龍一時之昌也。楊岐似不逮矣。數世之後黃龍寢微而楊岐益盛者何。其主金穀之所覃也。堂之暗識漫言法崇庳。不足取矣。或曰。禹鑿九河建九州。其功非契之比。然夏曆短於殷何哉。子之勤劬之談有戾乎。曰。禹躬受功報登極位。故短於商矣。禹若不自有而貽後嗣。其系授之遠非姬周之比矣。而禹以人臣一旦陟大寶。而亘四百載血食者。豈非過家門而不入。竭力溝洫之大功大勞哉。我博見三世佛記。其正像末法者。不過壽命之二三倍蓰而已。唯我能仁氏。正像二法逾壽者十數倍。若其末法者。及來世六萬歲時矣。比其命不啻千萬倍焉。是我牟尼老子。奚受福之長久哉。蓋三世諸佛因修六度。各有所長。特吾世尊精進苦修。餘佛之所不及也。其事見悲華矣。法華亦曰。三千大千世界無有如芥子許。非是捨身命處。是末法被六萬歲時之故也。三世諸佛平等一智。其間不容差降。只其悲福不能無別。又是因地之願修也。故吾言。流化之遐邇者悲福也。凡為法檀度者。知悲福之所因。不有最後斷佛種之患矣。吾因徵圭堂。汎論此事以諗後學。或曰。楞伽有四等。子悲福之論恐不合也。曰。不也。今之談者化迹也。不言四等矣。又堂以道書竝吾法而言。其錯多矣。吾通衡中彈擊不寡。文繁不錄。庶幾君子染指於此焉。

元亨釋書卷第七　終

予奏釋書。或曰。子以圭堂楞嚴大佛事載書有諸。曰。爾。曰。子論與堂乖矣。曰何。曰堂之謂大佛者非第九卷云者也。題首之二字耳。曰。初予疑。恐是乎。又思。堂雖淺易豈其然乎。而今又有斯言焉。不得不辨矣。夫題首二字。不可破句。三字為句也。蓋密部有諸尊。佛頂其一也。其佛頂都有二十。略有五。謂輪蓋光高勝也。大字優稱也。施諸佛頂。今首楞嚴呪者光聚佛頂也。故於經題云大佛頂。其言於灌頂部錄出者是也。堂豈不知之而破句取大佛二字乎。然單見寡聞世不鮮。故贅于此矣。

元亨釋書卷第八

濟北沙門　師錬撰

淨禪三之三

宋國祖元
宋正念
宋子曇
宋一寧
三聖寺湛照
禪興寺道海
圓覺寺昭元
東福寺慧曉
東福寺順空
南禪寺祖圓

釋祖元。宋國慶元府人。姓許氏。高曽 皆衣冠。母陳氏夢一沙門抱嬰兒與之。乃娠。母思煩苛欲壞胎。一夕又夢白衣婦人告曰。汝所孕者佳丈夫也。好自保育。其詞懇至。母雖夢中而左右侍女又聞此言。寶慶二年(本朝嘉祿二歲)三月十八日生。時白光照室。至于試周之日(宋俗迎兒產暮日行試業。猶如本朝三歲試問。)父母列儒釋墳籍及百玩好作具見兒自為。兒微笑而取佛書。甫六七歲就家塾。記聞應酬穎脫群兒。性沈重偉雄。雖兄弟婢妾不敢狎弄。食遭葷羶必避之。或見屠宰切于己。十三喪父。乃勵志投杭之南屏山。禮堂頭北磵簡薙髮。當年受具。十四趨雙徑拜佛鑑。鑑一見許參堂。迨于十七誓不出雲堂提撕狗子話。一夜四更聞首座寮板忽爾啟蒙。便作偈曰。一槌打破精靈窟。突出那吒鐵面皮。兩耳如聾口如啞。等閑觸著火星飛。呈于鑑。鑑更舉香嚴擊竹頌徵之。元澁應對。鑑遷化。下凌霄謁月石溪於靈隱。聞偃溪於玉几。後寓飛來。時愚虛堂棲鷲峰菴。元常往來。一日堂示禪海波瀾。元溟涬然。適石帆。石林。橫川三名衲之天台。堂以偈送之。有相送當門有脩竹為君葉葉起清風之句。元入來。堂舉示元。元曰。和尚此頌只是閑語。中間無些子巴鼻。堂拈起頌子曰。這箇鼈。元欲進語。堂劈面一揮。元自是得句語三昧。觀物初主大慈。元與觀有世系。又兄事南山。思講舊義往而依之。發意持淨者二載。江湖高其趣操。一時躡井樓打水牽動轆轤。忽然得無礙機用。於是乎向佛鑑所示狗子無佛性話。及香嚴擊竹頌。又無餘蘊矣。始識得佛鑑妙手之深密。時年三十六。翌年里人萍鄉宰羅季莊以東湖白雲菴延元。元編蒲而居。經七歲母亡。歸

靈隱寧退耕席下居第二座。大傅賈似道聞元道譽劄于台之真如。開堂演法爇香酬佛鑑之法乳。居七歲北虜兵戈系擾寺剎。乃潛過溫之瓯蕩丙子之歲兵壓溫境舉眾逃竄。元獨兀坐堂裏。虜酋將加刃頸。元不動述一偈曰。乾坤無地卓孤笻喜得人空法亦空。珍重大元三尺劒。電光影裏斬春風。群虜感悔作禮而去。明年復四明。天童一環溪請歸第一座。己卯之年吾建長虛席。副元帥平時宗具疏幣航海聘名宿。明牧以元充遐招。環溪授佛鑑法衣。元拈起曰。師兄世尊傳金襴外別傳何物。咄過在汝殃及我。乃披衣。五月離太白。六月著太宰府。乃弘安二年也。八月到相陽。平帥執弟子禮邀入福山。待遇日渥。五年冬圓覺寺成。命元為開山第一祖。開堂之日群鹿臨筵。元為吉徵即名山以瑞鹿。示眾曰。參禪須是打併胷中淨潔去卻情識中所重。單單只將自己參取。自己如何參取。自己既是自己。因甚參自己。蓋緣儞被知見解會日夜差排日夜纏縛。不能得解脫。不能得出頭。此是第一種牢獄。儞若去得許多知見解會。空蕩蕩處參。虛豁豁處行。不是大徹大悟也。是一箇無依倚衲子。只者無依倚處。是諸佛放身捨命處。又曰。奉勸兄弟。若已得些子柄杷入手者。於祖師公案言教中透教淨潔。主賓回互處。先用後照處。權實相待處。敲唱俱行處。須是玲瓏八面始得。既得玲瓏八面了。須是一時打疊教淨盡始得。若不如此墮在毒海。正旦上堂曰。新頒鳳曆下堯庭。山嶽齊呼萬歲聲。主丈不知見甚麼。也來趁隊賀新正。卻道我雖栗栗枳枳棱棱層層。要與你東拄西拄橫撐竪撐。撐撐拄拄跳出窮坑。五湖煙浪裏。別有好商量。元偈句俊偉有作者之風。其鎖口訣句法步驟似寶鏡三昧。近世諸老此作鮮矣。其詞曰。諸佛妙門。列祖的旨。繼繼繩繩。貴在密契。尺圍鑰合。綱紐沈細。綿密無縫。隱括幽祕遠兮非遙。近兮非邇。錯無所遺。舉無不備。橫亘十方。竪窮三際。理外無事。事外無理。具一切相。合一切義。啟無所開。闔無所閉。出無所從。入無所詣。二兮非一。一兮非二。用則雙用。置則雙置。隨處即宗。如身影爾。世尊拈花。達磨分髓。曹溪南嶽。百丈臨際。楊岐白雲。圓悟妙喜。洎至應菴。五十一世。或開或遮。或權或體。或順或逆。或淨或穢。或明或暗。或行異類。激揚鏗鏘。波流嶽逝。如師子筋。如象王鼻。如天鼓聲。如鴆鳥尾百千機緣。河沙妙偈。出沒卷舒。三昧游戲。深慈痛悲。布無緣施絕見絕聞。絕情絕謂。曰放曰收。控惡馬轡曰錯曰綜。奪魔王幟。箭擲空鳴。風行塵起。龍蛇天淵。迷悟金屎。不入此宗。徒勞擬議。禮應菴塔偈曰。悞入桃源深處路。灼然流水隔天涯。一聲雞唱千年後。老卻劉郎幾度花。冷泉聽猿曰。萬里吳江萬里天。盡將客恨送歸舡。一聲分作三聲了。誰在巴山暮雨前。禮密菴塔曰。謾說砂盆重似山。不施三拜也應難。黃金不鑄黃金像。松竹相

爭夜夜寒。與老母守歲曰。風攪長林雪滿牀。寒藤無葉倚空桑。誰知戶破家殘處。添得黃梁客夢長。題虎圖曰。獨坐枯木嵓。一嘯風悄悄。眾生界未空。我心終不飽。元謂徒曰。我初不欲來此土。而有些子因緣故至焉。我在宋。禪定中嘗見神人。峩冠偉服手執圭貌挺特。告曰。願和尚降我國。如是者數矣。我不省何事。然每神人至先一金龍來入袖中。亦有群鴿子。或青白之者。或飛啄之態。或上予膝上。亦不測由。及入此國一時有人語曰。當境有明神曰八幡大菩薩。威靈甚新。師已棲斯界盍詣祠燒香一遭。予因此至八幡宮。視殿梁上有數箇木鴿子。問之。對者曰。此神之使鳥耳。故偶焉。予即知定中之峩冠此神也。老僧到此不偶然耳。汝等造老僧陋質膝上安鴿子及金龍以應往年之讖。又曰。吾又夢先師說法徑山法堂上。我俱眾預聽。忽座前西北隅蠟燭爆火落拜席。東南角其光甚熾照耀四方。老僧夢中成一頌曰。百丈當年捲起時。今朝欻地自騰輝。火星迸出新羅外。不在東風著意吹。覺後無所測。及來此國太守一日寄與達磨像。老僧讀其贊先師手澤也末句曰。不在東風著意吹初省先夢耳。四年春正月平帥來謁。元采筆書呈帥曰。莫煩惱。帥曰。莫煩惱何事。元曰。春夏之間博多擾騷。而一風纔起萬艦掃蕩。願公不為慮也。果虜百萬寇鎮西。風浪俄來一時破沒。初元在鴈山。定中觀音大士現形曰。我將舡來取汝。乃示日月二字。元起詣像前卜籤。亦得日月二字。此日爇香作鎖口訣執筆而成。文不加點。就床宴息。有一人語曰。百萬虜寇天兵助順豈不勝耶。元夢中問曰。何為有此語。對曰。佗日自見。元覺後把筆於鎖口訣中。加八字。曰。箭擲空鳴風行塵起。先三年平帥攜緘紙乞法語。元書鎖口訣預讖。帥不委也。寇平後帥問曰。海寇風蕩和尚自何先知乎。元笑曰。更過兩年說與太守。然又鎖口訣中已寫呈了。後三年平帥卒。九年八月元語首座照無象曰。吾有一事辦在季秋。照曰。何事。元笑而不答。月末示疾。九月三日親書遺書別太守及諸方亡慮數通。晚以偈示眾曰。諸佛凡夫同是幻。若求實相眼中埃。老僧舍利包天地。莫向空山撥冷灰。亥時更衣端坐。索筆書曰。來亦不前。去亦不後。百億毛頭師子現。百億毛頭師子吼。置筆而逝。年六十一。臘四十九。元貌俊麗。顧眄可法。平居不卸衣。而又一被上綴伽梨供夜分。其精進類此。諡佛光禪師。

贊曰。昔百里奚在虞虞亡入秦秦興。用與不用之異也。佛光生衰宋狼狽之時其道不振矣。所據只邊疆蕞爾之剎。又或旅于人矣。平帥居桓文之位藩翰吾道。是以厚聘珍幣非二三羖皮之比也。於是乎高踞。上藍盛倡真宗見風濤之幾兆諭康平於元戎。嗚呼二國之興亡者用舍之一翁乎。

釋正念。宋國永嘉郡人也。自號大休。初參光東谷。聞谷舉張拙秀才問長沙百千諸佛但聞其名未審居何國土話有省。述偈呈谷曰。右軍王義之。草聖最為奇。淡書千佛榜。濃寫四賢詩後謁月石谿。溪間。達磨葬熊耳。因甚隻履西歸。對曰。眼觀東南意在西北。溪打一拂子。念當下知解冰釋。咸淳六年夏乘商舶入此土。文永六歲也。至相陽。建長隆蘭溪待以高賓。副元帥平時宗鄉道望命主禪興精藍。燒香證石溪之法乳。次移建長。壽福。圓覺。上堂曰。禪禪。無聲無臭。非方非圓。遠在河沙國近則口皮邊。不可口授。只要心傳。翻憶普通年遠事。祖師元不離西天。福山提綱曰。無心應物。風行水上自成文。匪念應機。箭在的中非爾力。而況寒巖枯木迥絕餘息。報緣虛幻豈可強為。蓋以時緣逼迫直得迴避無門。是知祖祖傳心。燈燈續焰。佛法平等。了無高下。譬如春入化機。萬卉千葩。高低向背。各各不同。隨見取舍。互有得失。然衲僧家。或卷或舒。或出或沒。自知時節。不落情量。諸聖著眼不及。魔外擬心即差。雖然新長老到這裏。只得鐵作面皮。大開笑口。且道笑箇甚麼。良久云。堪笑白雲無定度。披風吹去又吹來。示眾曰。從上諸大宗匠開甘露門垂示機語。截鐵斬釘除疑破執。如盤走明珠。不住中邊擊塗毒鼓遠近俱喪。所以道宗乘一唱三藏絕詮。機輪轉處作者猶迷。此吾宗本分事。非權立漸次階梯也。蓋緣此方緇白素尚教理。十常八九。於達磨直指之道未深信受。間有入此宗根本不明沿襲過謬多生異見。摠謂教門有所據。宗門無所依。遂乃廣尋文義意識分別。如水中捉月鏡裏求形。卻將諸祖覿面提持超情離見底機要隨語生解。穿鑿理路。遞相印證。更有一等執平實無事擬心待悟者。況諸聖大解脫門。唯過量人乃能徹證。要須玄路絕聖量盡。如冲天丹鳳翱翔碧漢出海獰龍興騰雲雨。若不爾者皆依他作解。記問傳習認目前光影。隨逐聲色墮斷常坑塹。互入邪途。念住禪興。夢觀音大士告曰。逢強則止。念覺莫測。後十年由建長移龜谷。仰見額有金剛字。始明聖讖。則鑿西南一巖刱壽塔刻補陀像酬指方。正應二年冬寢病于鹿阜。十一月益革遷正觀寺。二十九日集眾入室。晦執筆書曰。拈起須彌槌。擊碎虛空鼓。藏身沒影跡。日輪正當午。放筆而化。荼毘得設利。諸徒收龜谷塔。謚佛源禪師。釋子曇。宋之台州人。徧游叢社普參名宿適於石帆衍公處止奔馳。文永之間觀光上邦。慧峯之爾。福山之隆。闢敞軒以待之。經數祀而歸。正安元年與寧一山同舟重來。平副帥貞時待以師禮迎居圓覺大伽藍。叢規嚴肅衲子勇奮。移董建長。德治元年十一月二十八日滅。謚大通禪師。

釋一寧。號一山。宋之台州胡氏之子也。幼投郡之鴻福寺融無等席下。不久去聽律于應真。學台于延慶。已而嫌義學上天童質疑堂頭

敬簡翁。又依鄧之珍藏叟。珍移而愷東叟來。及照寂窻。彌頑極。互相移來。寧奉事四師。而欽彌之好開誘。一日從容酬酢。至我無一法與人倏爾投契。又謁環溪橫川諸耆宿益深造詣。覃北元革宋闡法祖印寺。香供識頑極也。居十歲移補陀山。永仁六年我商舶達明境。初辛巳之夏元國樓船偵我西鄙。神靈戮力風波破蕩。元主秦心不止奇謀百計。以我卿浮屠諭寧藩撫。寧逼不得已駕舶著大宰府。正安元年也。副元帥平貞時激怒編管豆州。或稱寧道譽。副帥元重祖道。此冬延主巨福之席。尋移圓覺。淨智正和二年夏圓規菴化龍山。初建治太上皇聞寧德望屢欲召見。於是勑元帥府促寧赴上都。秋入寺。上皇幸山問道眷遇隆渥。其住寶陀指山門曰。海濤澎湃。鐘鼓鏗鏘。莫是入理之門麼。(喝)提綱曰。一向恁麼去煙水連天。一向與麼來塵埃滿面。直得去來不以象。動靜不以心。猶是普請邊事未出常情。山僧昨日十字街頭高提祖師心印。世出世間萬法一印印定。直是法法無差。今朝白花巖前敷揚古佛家風。從聞思修入三摩地盡底揭翻。便見頭頭不昧一十二面鼻直眼橫。三十二身東倒西擂。與麼會得皇恩佛恩一時報畢。(良久云。)天人群生類。皆承此恩力。再住福山謝兩序耆舊曰。普化成褫臨濟珍重下去。楊岐輔佐慈明時出憃語。是皆碔砆之質。豈為瑚璉之材。福山者裏。左眄則冰清玉潔。右顧則虎驟龍馳。機鋒閃星電。號令鼓風雷。山僧贏得放憨癡。閑看峰雲自去來。雖然莫便是福山為人處麼。(良久云。)妙舞莫誇迴雪手。三臺須是大家催。文保元年十月寢疾。上皇時時問候。二十五日上表告辭。又書偈別眾曰。橫行一世。佛祖吞氣。箭已離絃。虛空落地。奄然化。年七十一。上皇幸寢室嗟慟。便蘸宸奎贈國師之號。

贊曰。念也悟解純真。曇也號令嚴毅。寧也波瀾浩澣。三師者宋地之彥而此方之英。又吾道之所因也矣。

釋湛照。號東山。備之中州人。浮遊講肆。聞慧日之熾化更衣謁之。日許入室。弘安三年日歸寂。顧命領東福。照避于諸徒。四年藤丞相以日之託懇請照不得已為第二世。然勇退纔圓法歲而已。照鄉開三聖之禪苑乃移焉。正應帝詔入宮問道。照權萬壽帝賜寺產。四年秋八月入盜伺籌室委順而化。闍維收骨。第七之朝其徒有乞分骨者。開爾舍利粲然不可數也。初念大休訃至。或曰大休火浴流舍利奇哉。照曰。然我又他時費子之奇哉一詞耳。至此世欽照之先知焉。塔于圓通寺。賜謚寶覺禪師。

釋道海。號桑田播州人。初習教部。屬蘭溪之煽化改服而謁。依附者久。已而應世相之東勝中間或隱或顯。又起蓮淨智。禪興大都懶于領眾。動去舍去。晚屏居龜山菴。延慶二年正月八日滅。荼毗得舍利百餘粒。大如菽者數顆。小者如粟。諸徒塔福山西來菴側。

釋昭元。號無為洛城人也。早摳衣於聖一之室。又優游大覺。佛光之門。初瑞世筑之承天。瓣香記初友也。繼移都之三聖東福相之瑞鹿。應長元年春仲因病辭圓覺寓寶滿寺。五月十六日書偈化。闍維收骨。灰中舍利數粒。諸徒驚嘆。其中磪誠者曰。諸方舍利取侮者有諸。況此小數恐例浮矯不可聞也。後數日分骨於城之塔所。揭蓋五色燦爛着骨片猶濕粟黏器。諸孤相顧嘆異。至此不得匿也。初拾骨時諸徒取之者數十人。皆各襲藏。於是乎啟緘亦咸作舍利。或全骨如琉璃者有之。其上皆黏舍利。或數寸半骨半珠短長片屑逢形為玉。又綴舍利。皆能分散增益。元之徒慧泉蘊骨。及諸徒開見泉亦披之無舍利。諸徒笑曰。子之矯傲也我師身後尚有意乎。泉大愧即對骨燒香禮懺。經數日為舍利。府屬婦人有惡死者。聞元之舍利感異欲見之。然拘忌諱未果也。屢稔傳聞自耻癡惑。乃令比丘善梁取來。梁捧至。骨片鮮瑩。婦人生難遭思親手把玩。掌中忽落一兩顆舍利。婦人起立作禮悔見之晚矣。鹿峯門側有老嫗。就元徒得一粒。刳蓮實盛之。聽分增之事思念。我舍利亦益乎。便開見。蓮殼坼裂為數十粒。相陽管內傳為奇事。

贊曰。舍利者孔老之書無聞。唯浮屠氏而已。講徒寡而禪者多矣。我國上古希而今世滋矣。我聞舍利者戒定慧之所薰也。宜乎孔老氏之無之乎。而講寡禪多古希今滋何乎。近世舍利或有竊議者。三師余之所親見而不容偽也。或問。經曰輪王死貯舍利置四衢道。人民盡來供養。輪王只說世教。孔老又說世教。何其輪王有舍利而孔老無乎。對曰。輪王之教博而孔老之化狹矣。舍利之有無者教化之博狹乎。

釋慧(【考】慧當作惠)曉。讚州人。幼上睿山學台教。更衣聽律於泉涌。不幾謁爾公於慧日。服勤者數稔矣。又泛舶入宋周旋二浙。晚依曇希叟於瑞岩。一日室中舉百丈撥火公案。言下有省適附商舶而歸。痛自韜埋。學徒從空閑寂漠之濱者多。正應五年承大丞相鈞旨主東福。一香記爾師之乳也。其冬夜小參曰。胡地抽石笋。京師出大黃。達磨失巴鼻。衲僧沒商量。吽吽當頭霜夜月。任運落前溪。謝秉拂上堂。(拈主丈云。)貓有歃血之功。虎有起屍之用。且問主丈子。有什麼功用。(卓一下云。)我有四種妙用。其第一節。節放大光明。顯示無上道。甚深微妙超有無。不住中道第一義。其第二節。節現大神變。宣說摩訶衍法。離四句絕百非。言語不可思議。其第三節。節具大手段。把須彌筆劈虛空紙寫一篇章文質彬彬。其第四節。節出廣長舌。轉無盡藏法輪。左轉右轉橫轉竪轉。自由自在全無巴鼻。便召大眾云。要識取主丈子麼。(擲下云)吾無隱于爾。初曉在杭州。北虜入境。曉罹虐燄。一心念觀音。忽大悲印像在肩上。曉心負焉。以故免刑。携歸奉持。見今在塔所。其居東福一冬無

帽。侍僧曰。師盍買帽。曉曰。無貲。僧曰。乞報知事。曉曰。一帽幾直。僧曰。半千。曉曰。半千者可助我香積四分之一不可。永仁五年十二月二十五日化栗棘菴。書偈別眾曰。來也如是。去也如是。更問如何。如是如是。諡佛照禪師。

贊曰。予讀曉師挽希叟頌軸。月坡明公書跋尾載撥火事署曰己卯之歲。因此而言。曉之於希叟不為無得也。然嗣香供慧日何哉。大抵師資之間不可容議者古多在焉。丹霞雲門之類是也。曉亦或有似乎。近世執道柄者潭居華服受譏塵寰。曉也甘拈淡又可稱矣。其辟帽者我與漢文之露臺竝按焉。

釋順空。姓源氏。號藏山。初父夢沙門語曰寓宿得否。父拒之。沙門懇乞。問名。對曰寂照。覺後不委何人。自是妻藤氏有孕。適父發鎮西赴都船次備藝之海澨。空生舟中。天福元年正月一日也。國俗兒生三朞試問先身。多有言也。父母問空。對曰圓通大師。父謂此名違昔夢。彼此徒爾耳。經旬聞倡妓歌曰。寂照入炎宋號圓通大師。於是乎其父始信夢語之不虛焉。早投水上山榮尊。尊者東福之徒也。尊會省福。攜空而行。白福曰。此子非吾泥中物也。願泝于龍門。福笑而納之。服侍三歲。聞蘭溪之道譽欲一瞻禮。乃辭慧日之相陽。溪一夕夢得蒼鷹。詰旦謂徒曰。今日俊衲至。空果告謁。溪以為青華嚴之兆也。命領紀綱平副帥勸空游宋國。時聞偃溪據徑山接單位於海眾。明年溪寂。玨荊叟自靈隱來居主席。踰年而化。肇淮海來。又如荊叟之去就空歷三老參請不倦。又振錫訪用斷溪於越之東山。寧退耕於明之萬壽。慧西巖住太白峯。道價高東浙。空遷而附。巖老而倦誨策。以思溪之鞏石林五峯之師友如而依焉。空周旋吳越者久。本鄉舶便至辭林。林送偈曰。十載中原一棹還。碧琉璃外更無山。扣舷三下知誰會。自作吳音唱月彎。風帆無恙再覲慧日。日職以記室。文永七年開高城基趾而居。乳香供慧日。尋而移承天。正安二年鈞命主東福大道場。居五歲。解印浮游京甸。其上堂曰。山房夜雨曉來晴。風葉飄零自接聲。夢破小窻室生白。不須雞唱報天明(良久云。)直饒恁麼會。猶是較半程。又(拈主丈云。)唯此一事實。餘二則非真。(靠丈云。)主丈依前黑漫皴中秋曰。吾心似秋月。碧潭清皎潔。(拈丈云。)良哉老瞿曇。止止不須說。(卓一下云。)打刀須是邡州鐵。延慶元年五月九日書偈化於雙輪之菴居。壽七十六。諡圓鑑禪師。

贊曰。曩予侍圓鑑於慧日。從容問曰。師游宋地謁諸名宿。不知其中誰為最乎。對曰偃谿西巖我只仰望而已。未遑知高低。荊叟退耕就而日淺。唯石林老友於淩霄主於思溪。其禪海波瀾吾雖不得而盡。偏洲滂渚儻打浮泳。我昔辭林。林告曰。小參雖家訓又自有家法。子歸故里敲唱宗乘。妙叶之一路不可亂做也。即與二篇。今猶

不失。乃出一紙曰。子自擇焉。予披之石林之親書也。冬至曰。擬著即錯。鐵牛掣斷。黃金索不擬猶乖。撒手還同萬仞崖。這裏一咬便斷。如花開鐵樹。似笋迸石頭。無陰陽地儘自寬閑。爭奈東山山前一片松根竹腳未曾踏著在。(驀拈主丈一畫云。)不得侵疆越界。徐夜曰。似地擎山不知山之孤峻。鳳縈金網趨霄漢。以何期如石含玉。不知玉之無瑕。蛇護神珠蘊風雷而未化。設使翱翔霄漢鼓蕩風雷。聞者震驚見者眩惑也。只間間地可可地。豈不見僧問洞山。年窮歲盡時如何。山云。家家門底野狐兒。(拍牀云。)鯨吞海水盡。露出珊瑚枝。予誦二篇者久。欽法格之峻整。今書于此為學者之標準。又見偈及小參知林之期鑑之不泛泛也矣。

釋祖圓。信州人也。號規菴。幼歲投相之淨妙寺。出家屬佛光之熾化于福鹿。往而依焉。光器許侍內記。弘安九年光寂。圓卷裓入洛都。謁佛心於慧日。初副元帥平時宗見圓曰。子他時必行法檀度。而不有財檀。不成教乘名句豈非法財乎。子之禪檀不可不貨殖。于時心挾講譽故就焉。心主龍山拉圓行。屢稱於文應上皇。正應四年冬心沒。上皇召圓繼席。時圓在巨福。踰年入寺。歲三十一。嗣香記佛光之乳也。冬至上堂曰。烏兔奔忙不改舊時光彩。乾坤寂爾猶涉造化斡旋。(竪拂)獨有這箇。戢玄機於未兆。藏冥蓮於即化。還委悉麼。(擊禪床下座。)謝頭首秉拂。(拈主丈曰。)冷匣秋波凝不流。幾人來結死怨讎。(靠丈)贏來依舊掛虛壁。一任寒光射斗牛。臘八曰。六年睡熟雪花堆。透骨寒來夢始回。滿握夜光耀天地。何須按劒立空階。圓妙年英邁。上皇晨昏參請。一夕源僕射有房寢。中心動。忽起思惟。我豈有之乎。恐宸衷有虞乎。乃馳入時上皇在龍山之下宮。有房有急劇之貌。上皇兀坐如思。問曰。鄉何中夜而至乎。有房奏事。上皇笑曰。今日與圓舉論宗門。圓徵詰抑逼不少假也。朕旗靡陣披。是以胷懷梗塞未能寐也。如鄉之忠襟與朕通乎。有此感來也。有房扣頭曰。陛下夙受佛記善聞思修。然陛下聞思因圓師激發也。臣之愚忠又因陛下感發耳。上皇首肯。初佛心領龍山。宮殿樓臺未有梵製。及圓一新。大殿。法堂。雲堂。庫院。山門。檀林。凡叢林當有者具體而成。正和二年暮春寢病。四月二日辭世偈曰。一躍躍翻黃鶴樓。一拳拳倒鸚鵡洲。臨行一著元無別。黃鶴樓前鸚鵡洲。圓丈室之東偏手植篁竹。臨亡之時竹葉委白。經二三日復青云。

贊曰。祖道之被日域也五傳不續矣。千光之後多間出焉。然化洽相將宁屐薄矣。覃佛心闢龍山雖傾宸衷未艾矣。圓公以英妙之姿當咫尺之　威。豢馴蛟龍指撝鵷鷺。宗門之光晃煜雲衢假如圓也。庸才諛識取侮於講儒。祖道殆廢于草澤矣。因之而言。圓其祖道之益乎。

元亨釋書卷第八　終

元亨釋書卷第九

濟北沙門　師錬撰

感進四之一

百濟國義覺
百濟道寧
百濟道藏
多武峯定慧
藥師寺祚蓮
東大寺實忠
吉野山報恩
湯川寺玄賓
大安寺慧勝
天王寺道公
睿山法勢
貞崇法師
寬忠法師
勝尾寺證如
智泉法師
清水寺延鎮
成尊法師
延曆寺源心
金剛山滿米
東寺日藏
鞍馬寺峯延
白山藏緣
睿山成意
興福寺安願
睿山長圓
心譽法師
三井覺助
平願法師
睿山真遠
金勝寺光空
石山寺妙尊
三井珍蓮
雲淨法師

信誓法師
恩融法師
比良山靜安
藥師寺慧達
延曆寺延昌
延曆寺尋禪
延曆寺源泉
松島寺見佛

釋義覺。百濟國人也。本朝征彼國時伴軍士來。身長七尺。博究佛乘居難波百濟寺。一夕誦摩訶般若心經。同寺慧義夜半見覺室光曜赫如。義恠自窻隙窺之。覺誦經光從口出。明朝義告眾。眾大驚嘆。覺語徒曰。我閉目誦經百許遍。開目視室四壁空洞庭外皆見。起而觸之室戶盡關。歸座誦經通洞如先。是般若不思議之力也。此事齊明帝之時也。
釋道寧。百濟人。白鳳十二年秋八月天下大旱。勅寧法雩。効雨大注。帝加優賞。
釋道藏。百濟人。持統二年七月旱。詔藏祈雨不崇朝普澍天下。養老五年詔曰。沙門道藏法門領袖釋家棟梁云云。崇禮甚盛。年逾八十取滅。
贊曰。覺寧藏三師者皆藩濟人也。此方東漸之始異域英行遊化。恐傳法慧解之才也。大率延曆前諸師時遠而跡沒。纔留感應而見蠹簡殘編也。惜乎止于此焉。
釋定慧。大織冠之長子也。初孝德帝有妃孕已六月。大織冠寵遇厚。賜妃為夫人。約曰。所生兒若男為鄉子。女為朕子。既而生慧。故名以鎌足之子。投沙門慧隱出家。白雉四年隨遣唐使浮海乃到長安城。高宗永徽四年也。師慧日寺神泰習學殆十歲。調露元年伴百濟使而至。白鳳七年九月也。慧在唐大織冠已薨。慧問弟丞相不比等曰。先墳何處。對曰。攝州阿威山。慧曰。先公昔潛語曰。和州談岑(今曰多武峯)靈勝之區不下大唐五臺。我若墓彼子孫益昌。我在臺山也夢我身居談岑先公告曰。吾已生天。汝於此地營寺塔修佛乘。吾亦降此擁護後昆。時己巳歲十月十六夜二更也。丞相聞已涕泣曰。先君之薨實某年月日也。師夢不徒也。慧與徒屬上阿威山取遺骸改葬談岑。就上搆十三層塔。其材慧在唐時皆悉辨備。及歸載材於舶。舶窄餘一層。其塔模清涼山寶池院塔也。既而營建只十二層。慧怨一層之留唐而造式不全。一夕奔雷飛電風雨震山。黎明天晴。遺餘塔材宛然飛來。又無羸缺。僕射州民莫不感嘆。僕射又刻文殊師利像安塔中。慧和銅七年化。

釋祚蓮。白鳳八年十一月皇后病。勅建樂師寺祈冥救。時不知營搆之規。蓮入定見龍宮之伽藍出定錄奏造式。帝大悅。以故藥師寺宏壯麗妙云。

贊曰。感通者吾門以為常矣。世間以為非常矣。方今世人之有役也驢駄馬載有行也。出入憐里又常也耳。蓋奔雷飛電者慧之驢馬也。龍宮虬闕者蓮之隣里也。然常非常之間者又難矣哉。

釋實忠。良辨之徒也。嘗神遊都率内宮見四十九重摩尼殿。有一所榜曰常念觀音院。見其修法儀心甚信慕。便乞聖眾而得軌。覺後欲修法而無尊像。常持念祈求。一日游歷攝州難波津。忽見閼伽器浮浪來。近視則十一面大悲像駕于器也。忠喜而取之銅像也。其長七寸暖如人膚。朝廷聞之。於東大寺建羂索院安之。忠每歲二月朔對像修兜率軌者二七日。始天平勝寶四年至大同四年五十八歲未嘗有缺。俗號修二月法。至今不絕。諸寺多則之。又自天平寶字五年至弘仁六年五十五歲二月十五修涅槃會又不闕也。初忠修二月懺。初夜時請眾神讀名簿供之。若州有遠敷明神威靈甚。豫此會聞忠懺生渴仰託曰。願獻閼伽水。忽黑白二鵜穿石地而出。飛上傍樹。其二迹湧甘泉。忠甃石為閼伽井。旱歲井涸。二月修中缺閼伽。其眾集井邊遙向若州持念。須臾其水盈滿。二月十二日夜也。其若之神祠前有河。此時絕流無音。州民大恠。蓋神送河流通閼伽井也。爾後州人聞此事名其河曰無音河。有病者飲閼伽井多愈焉。忠容貌端麗。初皇后光明子詣講堂。堂有地藏像妙斲也。后拜像私念。安得如此端正沙門潛令宮人覓美沙門。或曰實忠法師踰於像也。后賜浴且欲觀其體忠入溫室肌膚鮮明。后偷眼不暫捨忽然假寐。夢與忠交。寤見忠頂戴十一面觀音儀相自若。后出拜合掌懺謝曰。凡女癡慾輒縻愛見。聖師真慈恕我觸忤。

贊曰。昔則天供安秀二老。於宮中一日命溫室使宮人去垢。唯嵩嶽恬然不動。后嘆曰。不因入水爭見長人。吾太后光明子興建崇奉之跡則天未知其伯仲也。然則天之淫放亦孔醜矣。光明子者我未聞焉。特覬覦之私發於忠公。豈夫忠之威靈所以因而見乎。

釋報恩。十五歲離家。三十入吉野山持觀世音呪。四五載間早得靈感。天平勝寶四年上不豫。勅恩加持。帝疾乃癒。時恩為沙彌。勅得度賜名報恩。辭反本山勤修益甚。桓武帝在長崗宮嬰沈痾。腹結如纏繩眼暗似隔穀。巫醫萬方皆不効。帝誓曰。佛法力痊朕疾。朕願勤弘傳。不然者佛法無驗在國何益。聽者震恐。恩應詔入宮閉目持根本呪五十遍。宮中大動。大悲菩薩顯形殿上。上疾立痊。上感激宣問曰。法師蘊何行業。對曰。久居深山誦觀自在根本呪。上起禮恩給賞甚渥。不幾潛反山上。遣内臣舁鳳輦追迎于路。恩謝而不乘徒步返宮。初天平寶字四年三月恩於和州高市郡子嶋神祠畔建伽

藍。安一丈八尺觀自在菩薩像及四大天王像。號曰子嶋寺。覃承桓武帝遇勑親族賜官祿。恩又受封戶。延曆十四年六月寂。
釋玄賓。姓弓削氏。內州人。稟唯識興福寺宣教。性厭囂塵銳行勤業。嘗患緇侶營僧官。又疾族人道鏡媚稱德帝。潛入伯州之山。桓武帝有病遠詔山中乞冥助。至化難遁乃負鉢囊而入都。上疾愈。辭歸山。大同帝詔返輦下。聞僧官勑下潛遁去往備中州湯川寺。弘仁帝貴其操履。詔問不絕。每年贈布。亦賜宸書曰。賓上人晦跡煙雲凝思練若。春向覺花而獨坐。夏蔭提樹而閑眠。持戒之光能耀昏暗。護念之力自濟黎庶。比來炎暑禪居何如。朕機務之暇不忘寤寐。地遠心近。一念即到。羅綺錦繡想在斥逐。白布一束聊備法資。願師領之。約文申 意。又勑誓多郡賓上人在世彼郡免米租只貢鐵蓋勞賓之供養也。弘仁九年六月卒。年八十餘。
贊曰。人之有道也吾不得而計矣。王者者天下之至尊也。沙門者天下之至貧也。然龍腰者曲于恩矣。奎畫者屈于賓矣。以斯而言貴不必貴也。賤不必賤矣。皆有道乎大哉道乎。今何鮮矣哉。
釋慧勝。居大安寺。寶龜之間游方至近州御上嶺陀我神祠側宿一舍。夢人語曰。為我當讀法華。覺而恠之。明日小白猿來。語勝曰。我昔為東天竺國王。彼國時有沙門數千。我下勑括比丘私度。我當時不廢佛法只禁多徒。而受報為猿神。師願住此看讀脫我苦趣。勝曰。此地無供不能久居。神曰。勿慮也。我伸供養。又淺井郡有諸淨眾願勸彼同讀。勝赴彼說此事。時山階寺滿預法師在焉。曰。是事難信。諸比丘皆曰。然。忽童子走來曰。堂上有小白猿。眾僧出見之。其堂九間宏構大材俄倒辟。諸眾知猴神所為。始信勝言。往彼同讀法華。
釋道公。居天王寺。持法華有年矣。嘗詣熊野安居。夏終還本寺。暮過一村無居宅。宿大樹下。夜半有騎馬者三十餘人。至樹下。一人呼曰。翁在乎。答曰。在。曰何不前去。答曰。馬足損不任乘。齡又衰老不能徒步。諸騎過去。明旦公恠巡見樹下有小神祠。其像朽弊前有片板上圖馬形。前足之處其板破裂。公便以絲繫補欲試神言。次夜猶宿樹下。中夜前騎又來呼翁。乘馬而出。向曉更翁歸來。謝曰。承師賜治馬脚不堪幸也。乃出甘饍餉公。公曰。數騎何人。翁曰行疫神也。神巡管內我為前驅若不出必受笞罵。今蒙師惠喜慶深矣。而我猶有望於師焉。公曰。何乎。翁曰。我今此身蕞品神靈。輒受驅罰受苦無量。願師就樹下三日三夜誦妙法華。轉我劣報得淨妙身。公憐之。三日誦經。第四日神出頭面作禮曰。依師慈力生補陀洛迦山得為觀世音眷屬。願師縛柴草為舡載我木像浮海上。知我言之不妄也。公如教。海波妥帖微風不起。其舟指南而

馳。疾如飛。其夜村里耆老夢樹神成菩薩。身相金色光明照耀南方飛去。公歸寺而語。聞者嘆嗟。

釋法勢。睿山義真之徒也。承和八年過近州比良山下和邇村宿民家。家婦俄病。狂言曰。師讀觀音普門品我欲聽之。勢素持普門品。然思狂病之言不足聞。便曰。我無經本故不能也。婦人曰。師臂橐見經在焉。勢不得已出經讀之。婦人合掌曰。我比良明神也。勢曰。我聞神皆有通又長壽。昔釋迦文出世西天未審見知不。婦人曰。我不往印度。然千數百年前諸天多西飛去。豈迦文出世時乎。

釋貞崇。稟密灌於聖寶。延長之末上不豫。宣崇加護。崇一夕於宮中與人語。上恠令侍臣見。侍臣自隙伺之無人。只崇一人而已。復奏。上召崇問之。崇奏曰。稻荷明神適來耳。又言。帝之不起矣。不幾上崩。天慶七年七月二十六日滅。年七十九。

釋寬忠。行業清純。嘗修千日護摩。數百日後護法神裝香火云。

贊曰。神者求有諸。爾曷為求。求吾法也吾見于數子矣。而稻荷之語于崇公也。崇之求諸。稻荷之求諸。

釋證如。姓時氏。攝州豐嶋郡吏佐通之子也。母藤氏嘗愁無嗣。每月望詣佛塔求子。經三歲未曾 怠也。天應元年產一子乃如也。如甫七歲母年三十三語其夫曰。我兒已長成矣亦無慮焉。願許我為尼。夫曰。我志亦爾。兒聞父母出家悲泣甚切。父母慰誘未決。翌日有比丘到家。夫婦說本志。比丘曰。二人皆壯齡也。然言剃落。真火中之蓮也。兒在側聞比丘語亦索薙髮。夫婦并兒同日出家。仍留比丘三人者朝夕勤修。三年後比丘失所在。兒年十五仲春十八日。父母沐浴淨衣中夜一時而逝。如乃投郡之彌勒寺(後勅改勝尾)證道學顯密之教。性耐修練。住山五十年。或時別構草菴絕言語。謝人事。專精練行。一夕天樂響空。如怪聞之。忽有人叩戶。如忌言故鳴磬令思。戶外人曰。我是播州賀古郡驛北居民沙彌教信也。今往極樂。明年今日上人又可如我。故共聖眾來告耳。語已而去。微光入廬斯須便滅。如明旦出廬語弟子勝鑑。令其往播州決真偽。鑑至彼驛北果有竹扉。庭下一屍群犬已狼藉之。茅舍有一嫗一童兒相對而哭。鑑曰。何為哭。嫗曰。死人是我夫也。名教信常念彌陀。我老而別不能無懷。又貧而不舉喪。已為烏犬所得。我欲不哭而可得乎。便指兒曰。此童乃信之子也。鑑歸語此事。如曰。我絕言語勤修練不如信之念佛也。自此巡聚落讚說佛乘勸誘念佛。貞觀八年八月一日辭諸徒屏草廬。十五日出室沐浴告門人曰。去年教信之告今相當也。各乞努力莫怠勤修。乃入室閉戶。中夜金光耀煜香氣普薰。天曉門弟子等開戶手結定印端坐而寂。年八十七。徒弟不堪戀慕延葬三七日。其間室無臭氣。闍維後手印不壞。諸徒造石塔藏印手并靈骨。如精進絕倫。一旬二飯。一月六食。斷語二十歲。行常

不輕行十六萬七千六百餘家。其所過之宅必留異香。常閉室而坐。弟子猶不見面者數日。行道之時異僧常相隨云。
釋智泉。弘法大師之姪也。性至孝。母死哀毀甚。乃祈諸聖曰。願知母氏之報。數歲後感夢曰。汝母墮地獄。泉益悲泣。啟法曰。所生母在地獄。以何方便出彼苦趣。法曰。修破地獄法必可拔矣。泉曰。願受焉。法即授地藏軌。泉精修無比。一夕夢母莊嚴美服告曰。我依汝救護今生天上矣。
贊曰。孟子云。不孝有三。無後為大。世人之求嗣也皆是與。其問託箕裘者有之。寄薦脫者有之。吾思如之恃怙者薦脫之專乎。不然何得孝子而不幾夫婦薙染之速哉。至二人吉祥而一時逝去者求而三歲不倦得而七年早進之明効也。由斯觀之雖世諦之有求直道而精者早合真諦之無為耳。如之精苦報罔極而無媿。我并智泉為吾黨孝順之士焉。
釋延鎮。報恩法師之徒也。居清水寺與坂將軍田村遇。因為親友。將軍奉勅伐奥州逆賊高丸。語鎮曰。我承皇詔征夷賊。若不假法力爭得不辱命。公其加意焉。鎮諾。高丸已陷駿州次清見關。聞將軍出師退保奥州。官師與賊交鋒。官軍矢盡。于時小比丘及小男子拾矢與將軍。將軍異之。已而將軍親射高丸而斃於神樂崗。獻首帝城。將軍先詣鎮曰。因師護念已誅逆寇。不知師之所修何法哉。鎮曰。我法中有勝軍地藏。勝敵毗舍門。我造二像供修耳。將軍便說二人拾矢事。乃入殿見像。矢瘢刀痕被其體。又泥土塗脚也。將軍大驚奏事。帝加敬焉。
釋成尊。仁海法師僕隸之子也。海見其稚孩知為法器收鞠。及長俊才日新。延久帝在儲位久。以尊為法友託以運祚。一日尊入宮。帝拔白髮數莖貯硯蓋賜尊。尊無語而出。歸坊修愛染王供。其像冠師子噴血濺爐壇。不幾帝即位。尊之遇渥矣。延久六年正月七日卒。
釋源心。不詳氏族。事睿山寶幢院覺慶為弟子。初書寫性空裝法華一部。且曰。此經待靈山同聞眾來須慶讚。一旦曰。今日法華慶讚人當來也。其日心謁空。空曰此人也。心于時尚少。而不辭演讚流暢。聞者信伏。空嘲菩提子念珠。然其數九十八。藤相國道長聞之乞念珠。心便與之。心出洛城雨大下。有走者顧視一婦人顏甚雅髮長垂。心見其好不欲近急趨而過。婦人增奔。相近又泣。心問何為泣。對曰。我羅剎女也。鬼長差我每日覓人捉來為飡。若其不得乃欲食我。今日不得我當失命。願師法力薦我冥福。不信我言願趁我蹤必有信焉。心問。追薦何事。女曰。顧講法華。造像寫經皆不及也。心恠而逐跡。日已暮。女人法性寺後山中。路甚昏。女顧語曰。師居此。莫近焉。恐暴鬼或擬。師亦恬寂無音。心屏息而聽不遠。而女扣戶。一鬼可畏聲應門。便開扉赤光迸出。心望之眾鬼羅

列責女無獲。便拔手足分啖。心身毛皆竪。且甚悲。歸坊次日講法華一座。其夜夢鄉女離地三尺許。空中而立。裝服甚麗面有喜氣。語曰。因師講經力脫鬼趣生天上。故來謝耳。永承三年任天台座主。八年十月十一日滅。年八十三。

贊曰。大矣哉。吾道之利乎無所不至矣。或保國祚或殲國寇皆深矣乎。心也為鷲嶺聽徒。宜乎利之及鬼魅乎。

釋滿米。居和州金剛山寺。(俗號矢田寺。)戒行純淑名被朝野。名臣野諫議篁展弟子禮。篁又不測人也。身列朝班而神遊琰宮。琰王一時嘆曰。澆季有情罪障至渥。我雖精直頗罹餘殃。是我夙作之不純也。故我得雙王之名也。為之如何。琰臣議曰。乞大王受菩薩戒。琰王曰。爭奈陰府無戒師何。于時篁奏曰。臣有師友戒業純淨在閻浮利日本國可屈耳。琰王悅曰。卿早喚來。篁詣寺告事。米便伴篁赴地府。琰王請米昇師子座。受菩薩大戒。琰王曰。戒德至重何以表嶷。米曰。我欲見地獄苦報。願大王見聽許。王便將米往阿鼻城。鐵門銅釜火聚刀山諸苦具殆不可言。至一所熾焰迸騰。一比丘隨焰上下。米問琰王曰。彼沙門為誰何等極報在此火中。王曰。師自問彼米待隨煙下忍熱近比丘所問之。比丘對曰。我是地藏菩薩也。汝來此界說戒法。地獄有情離苦者多。我又隨喜。我得牟尼親屬不惶猛火。大悲代苦化諸眾生。我雖行等慈無緣眾生不得濟度。汝反人間告四眾歸投我。亦言苦相。米已辭地府。琰王令冥使擎一漆篋嶷于米。米啟篋白粳米也。隨取隨滿竟齡不竭。米素持地藏尊。自陰府歸招良工刻獄中地藏相安于寺。其像今尚在。長五尺。或曰。米本名滿慶。得琰米後。時人改今名。

釋日藏。洛城人。延喜十六年二月入金峯山椿山寺薙髮。時年十二。絕鹽穀精修六歲。聞母氏沉痾始出山歸洛省覲。居東寺學密教而往來金峯。天慶四年秋於金峯山尅三七日絕飡不語修密供。八月一日午時修法之間忽舌燥氣塞。欲呼人相救。又思已稱不言豈得出聲。如是思惟氣息既絕。怳至一窟前。窟中有沙門。手執金鉼傾出瓶水與藏飲。其味甘美。沙門曰。我是執金剛神也。常住此窟護釋迦遺法。我感上人勤修故。忽往雪山取八德水救師渴耳。又有數十天童子以種種餚饍盛蓮葉捧持侍立。沙門曰。此諸童者二十八部眾也。與藏食。食已。一大德和尚來伸左手執藏手上西岩。其岩積雪數千丈。漸至山頂。一切世界皆在下面。山頂平坦純金為地光明照映。北方有金山。山中有七寶高座。和尚坐其座。和尚曰。我是牟尼應化藏王菩薩也。此處曰。金峯山淨土。汝餘算無幾。早競修善。藏白言。我不愛命但求佛道。然創一道場未成。以此為念耳。不知安有增延乎。和尚取短札書八字賜之。其文曰。日藏九九年月王護。和尚曰。汝在山谷勤修練得延命。居里閈必短促。日藏者所

修尊法也。依法故可改汝名。九九者餘命也。年月者長短也。王護者加護也。汝亦以護法菩薩為師重受淨戒。又覲大政威德天。語在北野事中。藏問大政天曰。金峯菩薩賜短札八字。又少承註釋而未委。願天解之。天曰。日者大日也。藏者胎藏也。九九者八十一也。年者八十一年也。月者八十一月也。王者藏王也。護者守護也。言歸命大日如來修胎藏法者。延命八十一歲。即蒙藏王加護耳。又如說修行延為九九年。無懺懈怠促成九九月。是菩薩所謂長短也。急替本名可協尊旨。始名道賢。因此改今名。金峯菩薩令藏又見地獄。看一鐵窟。中有四人。其形如炭。一人衣覆肩。三人裸裎蹲赤灰上。獄卒告曰。是汝本土之君臣也。時有衣人招藏曰。我是大日本國主金剛覺大王之子也。受此鐵窟之苦。彼太政天神以怨心燒佛寺害有情。其所作罪報我皆受之。彼太政天者菅丞相也。宿世福力今為大威德天神。乃自說五罪曰。我受苦無量。汝歸本國奏國主及宰輔。造一萬率都婆拔我苦厄。藏凡過十三日蘇息。後移室生龍門寺。靈應甚多。適堀土得鈴杵。便知前身所持之道具。嘗詣松尾神祠。持念祈知權本。及三七日暴風雷雨四方杳冥。祠殿中有聲言毘婆尸佛。藏感敬而出。至衰老顏有孺子色。歸寂後無屍。人怪之。

贊曰。借冥矯眾不受惑者鮮矣。是士君子智權識衡為用之秋也。予見滿慶之入地府法藏之上天界。非矯眾之儔矣。日藏之神遊者吾焉廋哉吾焉廋哉。

釋峰延。東寺十禪師也。一日望北山有紫雲。延出寺向北行。尋雲起處至鞍馬寺。日已暮。敲燧焚木禪坐。居數日。一夜女鬼來向火。延起入堂後朽木中鬼逐至怒目動唇。延念毘舍門。忽朽木自倒打殺鬼。翌日大中大夫藤伊勢人入山見延臥。問曰。師何人。何故臥乎。對曰。我來此已五日而不食。故臥耳。大夫便洗粳米飲白漿。漸薦膳。延語來此事及婦鬼死。大夫便署延為寺主。夏五月延修護摩。日中大蛇自北嶺來。目如電舌若火。延誦毘沙門呪。蛇俄自斬為段段。三日後大夫來見段蛇歸闕以聞。勅發役夫五十人棄蛇靜原山。俗呼其地為大蟲峰。延延喜中逝。

釋藏緣。神融法師之徒也。形短小又甚醜。徐步却疾。人走不及。專唱地藏號無別業。游化北土不移佗方。毀譽不遷。好行施利。人問年齒。對曰。八十。然其貌如四十許。感通如響。縛鬼降神。白山立山為修練場。晚縛菴白山笥笠而居。臨終夜高唱地藏號。院中眾僧聞之。謂緣勤持念。詰朝至菴見之。向西端坐合掌化。

釋成意。久居睿山。性潔白無染著。常嘗哺食。弟子白言。山上皆持齋師何不耶。答曰。我清白厨饌不給。時日闕違故晚飡耳。又直心取菩提不繫食也。弟子杜口而退。晚年一朝命徒曰。今日飯加常

時。如教進供。意以飯分諸弟子曰。自今而後汝等又不得我食。食退語一子曰。汝往無動寺相應師所傳我言曰。意今詣極樂。謁晤在彼界。又至千光院增命公所如先言。弟子曰。此言似妄恐人誕吾。亦師無恙邪。意曰。我若不往為我狂。於汝何忌乎。弟子赴兩所。未歸向西而寂。

贊曰。進者多方矣。延之誅妖蛇也緣之降鬼神也皆原于專精矣。意之使于二公也何其從容乎。

釋安願。居興福寺精修勤勵。時人號安願菩薩。承和二年秋赴但州。暴風俄來願船將覆。願不動。心念觀自在尊。于時海上空中忽起白雲當願之頂垂下。一舡怪看。雲中現金色大悲像。長六尺許。願及眾人瞻仰嗟嘆。於此乎猛風即止怒濤自恬。舟人無艱穩到彼岸。

釋長圓。鎮西人。少年出家居睿山。常持法華修不動法。後入葛木山三七日絕食誦經修法。夢八金剛童子以鈴杵劒等為服飾。異口同音合掌讚嘆曰。勤苦修行者猶如婆伽梵。得上三摩地與諸菩薩俱。一時到河邊。寒氷徧鎖不知淺深。忽有大牛從山出渡河。往反數回牛乃隱。圓因而得渡。自熊野山入大峰。詣金峰山迷不知路。一心誦經。時一童子唱曰。天諸童子以為給使勿愁也。然而得正道焉。長久中卒。

釋心譽。金吾衛將軍重輔之子也。黃門侍郎隆家其室患瘡。百醫不愈。乞法救。譽持念加持。忽其瘡自拔躍衝藻井然而即愈。侍郎大喜。有兒。始七歲捨為給使。後名隆明。有盛譽至大僧正。

釋覺助。右僕射道隆之孫。為園城心譽弟子。門下侍郎經長妻有病。延諸沙門修五壇法。助預焉。中夜妻死。諸沙門皆破壇而去。助獨不去精祈益堅。至次日日入時其妻蘇。左丞相賴通聞之奏加僧官。蓋其妻者左相之女也。康平六年十一月十一卒。

釋平願。播州人也。事性空法師持法華無佗業。屏深山讀經。一日暴風吹倒廬。願被壓專心念經。忽神人來從破隙引出願摩頂慰誘曰。夙殃故遭此禍。經王力得全身不生惱恨。益勤持念必生清泰。今之壓是轉輕受也。願從此持誦彌堅。便捨衣盂書法華圖佛像。於河壖開無遮會。作誓曰。我若依此善業當生安養。願於此地必得奇瑞。明日河邊生白蓮花千餘莖。香氣馥郁。聞見莫不嗟嘆。

釋真遠。參州人。居睿山西塔院。持法華。疾舌捷誦日三四十部兼學密教。歸本邦住一寺。適乘馬出里閈。路逢刺史。遠不避。刺史嗔曰。州中我管內。遠雖出家豈非我民乎。何為無禮。推馬墜。令官吏繫廐。遠專意誦經。其夜刺史夢。普賢菩薩乘白象繫廐舍。門外又有普賢乘象入來。外普賢問內普賢所繫之事。刺史夢覺。夜中

解縛延之上座問曰。上人蘊何業。遠曰。持法華。刺史驚嘆說夢事求哀懺謝。創別舘四事供給。
釋光空。近州人。居金勝寺誦法華。其音清雅聽者不倦。有兵部郎中平公。逆臣將門之族也。勇悍武夫。而歸空延家內居數年。有惡空者語兵部曰。空與室通。兵部大恚將空至山縛樹下令僕射。空謂以讒遭害又宿殃也。乃以高貴聲誦妙經。僕放三五箭皆曲折而不入膚。兵部自射摧折如前。凡二十九矢皆悉折。兵部驚懼投弓乞謝。歸家厚遇踰先時也。其夜兵部夢。金色普賢菩薩駕白象而至。其腹數矢。兵部問。菩薩何故受多矢。普賢曰。汝依讒射持經者。我代受耳。夢覺大恐向空益悔過。乃逐讒人。空二三日後思射事夜中逃去。其夜兵部又夢普賢告曰。年來供我當相引接。爭奈無罪害我。我不忍居今其去矣。兵部覺後尋空不知所之。
釋妙尊。住近州石山寺。誦法華有年矣。適赴波州。途有病難徒步以賃馬入洛。憩祇園寺側。忽一男子見馬曰。是我去歲所亡之馬也。此沙門盜去耳。加笞箠繫屋柱。尊遭橫逆思夙債。專心誦經。其夜祇園寺耆宿兩三輩同夢。一男縛普賢菩薩而鞭笞。夢寤相語。各加巡撿至尊之所。耆宿便會大眾解其縛。明旦數十人追盜過此舍。舍主劇出又追賊。賊拔一箭射眾人。會中斯男而斃。時人皆曰縛持經者之現報也。
釋珍蓮。奧州人也。投三井明尊為弟子。志勤愿持法華。適從奧州赴京。途逢野燒。煙焰迅飛來無廻避處。奴僕悲泣。馬又嘶走。蓮專心誦經。去蓮不遠疾煙自止。僕主相持得全軀命
釋雲淨。持法華樂閑靜。自熊野到志州。志州者海岸之國也。淨愛其境。居一岩洞。其上多大樹。溪流潺湲峰巒峭峙。一夕其地腥臭。淨極怖畏。一心誦經。夜半暴風鳴樹臭煙逼身。一大毒蛇開口欲吞。淨誦經不輟。蛇聞經忽起慈心收毒閉口暫聽還去。須臾暴雨降澍溪壑漲流。良久雨晴。忽朝服之人來作禮曰。我是岩洞主。受暴獰身啖食人畜已及萬數。今聞妙經惡報殄滅。今夜大雨不是天雨。聞法滅罪之感淚也。以此雨淚應知身形長大。自今以後不作惡業。言已形隱。
釋信誓。姓高氏。學密教兼誦法華。其父嘗領房州刺史。隨父赴任。國務富繁。誓以為。久留此恐纏世累。逃去背父。不如速死。即服毒無恙。又啗毒耳而不醉。一朝旰臥。夢普賢菩薩勗勉曰。時不可失早興誦經。自此益篤。天下時疾。誓及父母染病。夢五色鬼神驅逐而去。一冥使曰。誓持誦人也。不可將去。覺病差。還見父母膚體已冷。誓悲泣誦經訴曰。三人一病共赴死門。我今得蘇父母何亡。二人長往我生何為。願憑法力蘇我恃怙。誦經一日夜。困夢

之中法華第六卷從空而下。背有文曰。孝子誦經還父母命。覺見二屍吐氣蘇起。
釋恩融。有至行。常持十一面觀自在菩薩呪。有童子備給使。一日童營晨粥過朝不來。融如童所見之。童已殂。融撫屍誦十一面陀羅尼灑水其面。良久童蘇。言之曰。有鬼長三尺許。捉我而行。其身漸大。過近州湖其水不踰膝。其頭與比良山齊。當師之誦呪。此鬼似不堪聞也。灑水之時大雨俄下。其滴著鬼頭。其身漸促。已面如初長。將我歸本所。今則蘇也。
贊曰。吾道者慈也。凡百施為無不慈矣。然有逆順自佗之異焉。世只知順之為慈也不知逆又慈矣。不則我佛降魔之相猶一秦項耳。今此諸師解倒懸拯塗炭。亦有自佗順逆。乞學者擇焉。
釋靜安。從西大寺常騰學法相。嘗居比良山讀十二佛名經。禮拜修懺其聲聞帝闕諸州間有聞者。因茲勅賜僧官。承和五年奏置宮中季冬佛名懺。
釋慧達。姓秦氏。美州人。事藥師寺仲繼學法相。嘗上比良山修練者久。仁壽帝不豫召達加護。達出山入宮。帝疾即差。元慶二年八月二日滅。年八十三。達於藥師寺每歲修萬燈會。始自行年三十八至終歲。年數反復亦可恠云。
釋延昌。姓洿御氏。加州人。早登睿山學顯密教。昌居補陀落寺。寺乏水。昌誦尊勝呪加之。忽冷泉迸涌。天慶四年補天台座主。天德二年為僧正。嘗為承平天曆二帝師。語徒曰。我命終前三七日修不斷念佛。其終之日我之滅時也。應和三年十二月二十四日命門弟子唱念佛。四年正月十五日沐浴淨衣持念珠結定印而化。年八十五諡慈念。
釋尋禪。右僕射藤師輔第十子也。睿山慈慧與僕射道契尤深。故以愛子與慧。慧又異顧。性聰明學涉顯密。安和帝不豫。連年不差。勅禪加持。禪侍御座側。帝狂嗔拔劒欲擊。禪避之。衣篋尚在堂上。護神守篋。帝於篋傍自縛倒。蓋護神為之。帝病即愈。自是名顯。天延二年勅為一身阿闍梨。台徒此任從禪始。永觀三年補座主永延三年九月二十八日寂。諡慈忍。
釋源泉。播州人也。長久四年為最勝講師至四天王品四王現形。唯帝獨見。餘不看。爾來最勝講場設四天座勅為永式。天喜元年為延曆寺座主。三年三月滅。歲七十九。
釋見佛。居奥州松島。其地東溟之濱小嶼十百數。曲洲環浦奇峯異石天下之絕境也。其尤者曰千松島。佛結茆而居。精勤苦練一十二年。其間誦法華滿六萬部。其後不計數。專壹持誦。世曰既淨六根。役使鬼物屢顯靈應。天仁帝聞道譽賜佛像寶器而以旌異之。依

茲土人改千松曰御島。蓋境得人而顯。又人因境而傳也。年八十二寂。

贊曰。昔牟尼老人付吾法于帝者。故吾徒有為之者必託于皇王焉。其間雖德行之厚薄皆有為之者也。韙乎吾王之順于佛勑乎。

元亨釋書卷第九　終

元亨釋書卷第十

濟北沙門　師錬撰

感進四之二

無動寺相應
大安寺行教
教圓法師
義照法師
勝尾寺行巡
醍醐寺觀賢
仁和寺成典
延曆寺增命
延曆寺尊意
泰舜法師
睿山明達
雲居寺淨藏
睿山修入
圓賀法師
三井公伊
藥師寺濟源
延曆寺陽生
多武峯增賀
仁和寺寬空
範俊法師
信覺法師
醍醐寺勝覺

釋相應。姓橾氏。近州淺井郡人。其先孝德帝之裔。母夢吞劒而娠。天長八年生。十五登台嶺。十七剃落。事其師。外採花獻慈覺坊。不必面授。經六七歲。一日不缺。覺含其誠實。齊衡初覺謂曰。見汝勤愿可稱良器。朝廷賜度者必得汝焉。不幾覃恩降山。其夜應宿中堂。傍有沙彌五體投地垂淚切祈。應見之覺之徒求度者也。次日覺呼應與牒。應以前夜事白覺曰。願先賜此人我未晚耳。覺語諸徒曰。此少年先佗後己。陰德陽報豈徒之哉。二年二月藤公良相與書覺曰。雖戴冠纓志在薙染。皇眷優渥不能遂心。願得俊才代吾奏度。覺召應告曰。藤公索度者。是汝良緣之相應也。今名汝以相應。蓋取藤公一字也。乃覆書上名得度。依例屏居十二年矣。

仁授不動別儀護摩法。應修練克勤。天安二年藤妃(良相女)嬰狂病。萬方不愈。藤公延應。應曰。一紀未滿恐違祖規。覺召應曰。八福田中看病第一。諸朋友內外護無雙。況閤下度汝替我身也。若不赴失素志。又似背恩。汝其往諸。不可拘禁。應入宮。妃隔屏而臥。應持呪不久。神擲妃於屏外。飛而至應前。擧聲叫呼。應曰。可還本所。妃騰飛入帳中。頃刻靈託妃陳謝。狂疾速息。藤公以為所託過望也。貞觀三年勅於宮中修阿比舍法。呪縛二童子。應問曰。何人。童曰。我是松尾明神也。上怪之。令源僕射問睿情所疑之事。童決數事皆愜上意。時典侍藤氏侍側問以佗事。童不答。少時典侍病。扶出私宅。經四日死。勅給度者并御衣。謙辭不受。此年藤妃又病。藤公又召應。應加之便愈。藤公大悅與巴子國寶劒。是藤公之深友從唐國所送。時為奇寶者也。寬平二年秋上有齒病。勅應加持。應誦理趣分。五更時上夢。高僧八輩與應同聲相加。上覺後所患之齒落而不知所在。上以夢告應。應奏曰。五鼓誦理趣般若。此經有八大菩薩。即八十俱胝菩薩之上首也。彼八大士擁護聖躬邪。上感之久矣。應歸山見經篋上有一齒。急附近侍奉御齒。上嘉歎曰。應師非凡也。授以僧官兼賜度者。應受度牒而辭僧官。五年藤皇后(染殿)受狂疾。經數月。諸德拱手。后託言曰。自非諸佛出世誰降我乎。余者猶不能知我名也。勅召應。應入掖庭二日不能降。應還本山懇訴明王。時明王像背而向西。應逐而坐西持念。像又南而北。應皆隨坐。流淚稽首而言。以不二心。久固歸敬。有何觸忤相背如此。願垂慈愍明示誨誘。合眼而記本誓。于時非夢非覺怳惚之間明王告曰一持以後生生加護。大誓不忘故有斯背。我今顯說本緣。昔真濟持我明呪亦如汝今時。以微動念誤墮鬼趣。本修功力惱逼皇后。我以本誓護彼靈故且背汝耳。汝之堅誠我不能已。示汝祕方。汝至宮掖密語彼靈。爾豈非真濟之靈邪。彼聞之必低頭耻澁。爾時以大威德明加之。定得降伏。汝但持我明不能降。何以故。彼此同明故。我亦大慈善巧回彼邪心令入正道。應感喜徹髓頭面禮足。次日返宮。如教諭之旨降遣彼靈。后疾即愈。延喜三年玄昭法師病厚。左僕射藤時平請應於昭房。一七日修不動法。第六日毗盧遮那并不動尊現爐壇猛焰之上。應與昭共見。餘不見。昭疾立愈。初貞觀五年應等身長刻不動像。六年創一宇安置。號無動寺。八年上表曰。南嶽天台皆有勅號。先師圓仁願賜大師之諡。時議曰。最澄法師未有此稱。師資之道自有次序。何超其師獨褒弟子。應重奏曰。祖澄父仁如龍如象。各赴西唐之域共傳東漸之燈。弘法之功不易優劣。然先仁者系嗣也。聖恩若降於二諡祝慶併歸於兩宮。依是諡傳教。慈覺二大師之號。本朝大師號始于此焉。延喜十五年應啟明王曰。願示來世所居。夢中明王擎應坐須彌頂盤石之上。普見十

方淨土都率安養如掌中菴羅果。明王曰。隨意取生。十八年十一月二日向西唱彌陀右脇而逝。壽八十八。其日大津浦民聞睿山南方有天樂。各出宅望之。慶雲彌布峯頂。應性精勤苦行。斷穀食棄鹽味。落飛鳥止霪雨。行植大樹自相交纏。暴漲流水還令逆流。矜伽羅。制多迦二使者常侍左右云。

贊曰。沙彌之求度也猶俗子之求冠禮矣。只恐其後時焉。亦人情之常耳。應公遜度牒於同列。蓋以己測人而用德於讓乎。故得明師之褒贊。承賢公之崇嚮。豈徒然邪。世曰。應公薙染後不味油酒。不服綿帛。飯粥同時過中不食。是以東西南北逐明王而坐隨。怳惚杳冥如親師之口授。麾斥邪魅救護　王后。其感應之跡灼灼而茂也矣。至貴其父而霑及其祖者。為人之嗣者之所當扶樹也。始本朝之大號建釋門之偉矩。其所彌縫豈小補哉。昔行言禪師盛化於江南。李國主嚮之署導師之號。言以其師大法眼未有是名謙而不受。李主乃諡法眼大智藏大導師。賜言以玄覺導師。嗚呼雖殊域異時。君子之有為也合而不違矣。然而言猶受署焉。應也無稱焉。吾與應矣。

釋行教。武內大臣之裔也。居大安寺。貞觀元年詣豐之宇佐八幡神祠。一夏九旬。晝讀諸大乘經。夜誦密呪。法歲已滿。夢大神曰。久受法施不欲離師。師廻王城。我又隨行。居王城側當護皇祚耳。教漸著山崎。其夜又夢大神曰。師見我所居。俄覺便起。見東南男山鴿峰上現大光。凌晨至光處實靈區也。教便錄二事表奏。帝詔橘工部准宇佐祠置建新宮。世言。教祈見大神本身。於是彌陀觀音勢至三像現袈裟上。因是殿內安三像。

釋教圓。勢州大守藤孝忠第二子也。寬和帝遜位入道。圓師事受業。又遊諸師門得通貫。能誦唯識論。一日誦自第一終于十。時房側松樹有異人作舞。或問奚為舞。對曰。喜聞師誦徹唯識論。何樂如之故舞耳。問者曰。汝何人。對曰。春日大神也。言已不見。長曆二年成大僧都。永承二年六月十日滅。歲七十。

釋義照。南京之英也。一檀信就藥師寺設八講席。多屈平城碩德輪講。照為講師。衣冠年少儀服甚鮮傾聽照講。講已進禮照而去。餘時不來。照私恠輪番講師自有次序。一日照謂檀主曰。今日講主非吾有也。然吾有所思。居我唱導可乎。檀信曰。菲供講筵甚勞名德。每逢講主深痛恥衷。然師躐等自請。又弟子之幸也。俄報定講而代照。人不知也。照已昇座。少年冠人又來。講已又禮照而出。次日佗講冠人不來。照又越講。冠人又在。照先語徒曰。今日若冠人來潛趁歸蹤。講後冠人又拜歸。其徒如教。冠人入東山數里有深溪。溪傍有大穴。水自穴出。冠人入穴中。徒反告事。照曰。始我恠此冠人。故屢踰講歷試。神龍果有通。知吾講來聽耳。自此世重照之講。安和二年正月三日卒。年五十。

贊曰。神也何。善赴感者也。曷為赴。正直也。今見八幡之隨於教。春日之舞於圓證我言之實也。照之格于蜿蜒者其亞乎。

釋行巡。為勝尾寺第六座主。貞觀中帝不豫。求法驗諸名藍。乃勅巡赴都。巡不赴。宣使金吾校尉藤佐道曰。我聞。率土之濱無不王臣。師雖在方外豈不居王地乎。願速起謝恩。巡便卓杖於地敷草座而坐曰。我不坐王地。金吾曰。杖下豈非王土邪。巡便坐騰空高丈餘。凝然而住。金吾驚異歸奏。巡尚不下一日夜。帝聞奏渴仰。重勅曰。雖不入宮願垂覆護。巡獻法衣一領。念珠一串。宮使擎二物上京。中途衣珠自飛入雲。宮使奏此事。然而衣珠先來在帝枕上。帝聞慨異之間見枕上二物起立作禮。帝病乃愈。上大悅捨莊田永為寺產。初此寺名彌勒寺。巡不應詔而承帝眷。以疋夫勝天子。故勅改賜額勝尾寺。(山麓云尾。)後帝辟位幸勝尾寺。而巡已歸寂。徒弟稱光華云。

贊曰。感通者二事耳。持誦之者或一尊或一明專精堅實能行靈異。皆感也。通者不然。定熟而得。不可率易。堅精而致也。巡公坐杖上騰空中而不下者一日夜。豈所謂身如意乎。若其報得者我不議也。

釋觀賢。姓秦氏。讚州人。為聖寶上足延喜二十一年上夢弘法大師奏曰。我衣弊朽。願忝宸惠。覺後勅擇法之徒尤者送紫衣一襲於野山。賢中選入山。啟定扉如隔雲霧不看儀容。賢作禮曰。少年修道梵行無瑕。況奉遺法累歲月乎。默訢須臾真儀漸見。猶如霧斂月彰。賢頂禮瞻仰。鬚髮甚長。便剃落而換衣。諸眾不能見。時淳祐為童侍。賢問曰。見乎。對曰不見。賢執祐手摸定軀。祐纔觸膝乃覺暖柔。其手甚香。經歲薰不竭。賢謂眾曰。我猶見難矣。況下我者哉。後世浮矯者不容易見。恐致疑謗。胥議重石固封焉。賢開和州般若寺。初延喜十九年任醍醐寺座主。茲職自賢始。延長三年為僧正。此歲六月十一日化。

釋成典。居仁和寺學密教。一時魔魅伺之。典誦理趣般若。魅鬼斃于階下。萬壽十年朝廷尊其德賜封戶七十二。長曆二年為僧正。長久五年十月二十四日卒。年八十四。仁海法師供弘法大師像有年。誓曰。竊聞大師入金剛定。恐有分身不必孤坐。願知其人。一夕夢大師告曰。僧正成典其一也。海夢中問。以何為驗。答曰。彼左腳下有墨子。海走典所見腳。果有墨子。海下地拜之。典問之。海告所由。典色不動曰。長和皇子出剎利種智行兼全。是大師之後身。汝其禮之。長和皇子性信法師也。

贊曰。隱顯有道者聖賢之事也。弘法顯諸賢藏諸祐。二子之降殺而法之道也。典之有墨子者為信之無乎。

釋增命。京兆人。朝散大夫桑安峯之子也。額有奇理。齊衡二年登睿山師延最。三年降勑八宗選苗秀之者。于時山田春興才智博洽。亦蘊風鑑之術。承詔行諸寺見驅烏少學之者。春興看命驚曰。聖主降旨為道擇人。適得此子。實豫章之才也。已而登試席。姿音安暢文義渙放。緇素稱之。時年十四。經二歲受戒於東大寺。又反台嶺稟大戒。仁和元年從圓珍座主得三部灌頂。寬平三年夏坐西塔釋迦院北菴。南峰側有大巖。其形如蛇口舌皆備。其勢似吞。故老相傳。學徒居此多夭亡者被此巖吞。命對岩持念一七日。其終之日午時震雷俄擊岩碎。後亦無夭者。延喜二年秋齋宮公主有病。詔無動寺相應祈念。十日無効。更召命持誦。公主疾愈。十三年三月右僕射源光薨。年六十八。僕射昔年夢一人告曰。汝以五十九為命限。須修延年法。覺後請命修觀自在軌。僕射夢有男子長五寸許。以羽覆面。語曰。我能留欲逝之人。我是施無畏者也。汝知乎。施無畏者者睿山座主增命也。汝命已延六年。因此僕射語人曰。命公者觀音之應化也。六年後僕射又令命修前法。源公又夢比丘告曰。汝壽復加三年。至此源公薨。皆如其夢。十五年秋天下疱瘡。上又患之。詔命入宮。宣曰。頭痛身熱殆不可忍也。命合眼持念。聖躬安泰。延長元年菅靈奮激宮城擾動。春三月太子俄薨。上大恐。詔命陪宮中凡百餘日。侍臣多夢神兵列宮闈。三年上患瘧。勑命加持。上疾即愈。時堪譽法師亦在宮。白日見鬼下殿去。初延喜二年長公主迎命於六條院出家受戒。又受灌頂。五年四月寬平上皇幸睿山受密灌于命。十一月於摠持院受蘇悉地法。十年九月幸千光院受阿闍梨位。上皇手以唐衲袈裟。香爐。數珠并御衣授之。初延喜六年為座主。延長元年為僧正。管法務。台徒法務命為始。延長五年十二月十一日滅。年八十五。命受戒後未曽臥。客來不別尊卑皆送迎之。有宿疾者食命鉢裏飯莫不愈。智證之追諡命之遺奏也。十二月勑諡靜觀。

贊曰。予早逸遊從事於竺墳。以故瞽之國史矣。偶因修僧史少見皇家之治迹焉。而李唐之代懿趙宋之真仁之所不逮也。至仁壽聖皇差名大夫鑑選吾徒之稚雛者。永平以來未聞是等盛擧焉。蓋帝者之於佛乘也機餘之介事耳。其見微細者如彼。況大者乎。嗚呼梵學猶若彼。況國學乎。國學者藝術也。況廟堂乎。其於吾門也雛道猶若彼。況耆德乎。耆德者福田也。況龍象乎。又想朝廷也下大夫之才識猶若彼。況公卿乎。公卿者股肱也。況元首乎。命公屈元龍膝捧付衣珠。露瘧鬼身驅逐殿閣。不負大夫之品藻。不虛皇王之蒐剔者與。

釋尊意。姓丹生氏。平安城人。其先應神天皇之胤也。甫六七歲好讀書不嘗肉葷不害羽鮮。隣僧思其梵種授大悲神呪。意能持誦。城

之北山有度賀尾寺。意於彼道場日夜誦呪。不歸家者三年。元慶三年上台山習學有聲。十七落髮。二十一禮座主圓珍受戒。一紀之間究台教。又稟兩部密法于增全。蘇悉地于玄昭。凡三部諸尊祕軌各各密語無多少皆誦一萬反。以故皆能通習。亦為成就先行修法各一千座。如是修練屢得奇夢。觀音。文殊金剛薩埵。不動明王。各加慰誘。延長三年夏旱。宣於延曆寺修祈雨法。意率六僧修佛頂尊勝法。四日雨降。舉朝嘉歎。尊勝祕法嚮於朝自意始。四年五月皇后產難。勑修不動法。天使藤元方宣曰。若母子難全獨救護后。意奏曰。能生所生皆悉安穩。明王本誓何疑乎。明旦皇子平誕。七年春三月京畿多疫。詔曰。傳聞密教中有除疫法。早勤修供速攘災癘。意伴三十沙門於豐樂院七日修不動法。時菑消熄。勑賜度者三十人。八年六月戶部尚書藤清貫。尚書右中丞平希世二人。於清涼殿逢雷震死。皇帝惶怖玉體不豫。乃移常寧殿召意宿禁中持念。初意在睿山。一日菅丞相化來語曰。我已得梵釋許與欲償夙懟。願師道力勿拒我也。意曰然然率土者皆王民也。我若承皇詔何所辟乎。菅作色。適薦柘榴。菅吐哺而起。化作焰坊戶煙騰。意結瀉水印擬之。其火即滅。燒痕尚在焉。已而雷雨浹旬。鴨河大漲人馬不通。於是乎詔意赴宮。意車到河濱。激浪止流水不濕輪。意入宮持誦。帝夢不動明王炎燄熾然。厲聲誦呪加持聖躬。夢覺餘音在耳。即意之誦聲也。帝謂左右曰。意者聖者也。承平四年春弘徽殿庭柿樹烏成巢。詔意持念。烏日日移巢。七日盡去。天慶二年夏旱。七月於延命院勑修尊勝法。雨澤沛然。賜度者二十二人。初延長四年五月任延曆寺座主。天慶三年二月二十三日沐浴淨髮語弟子恒昭曰。我日者欲生極樂。今改昇兜率。閻毗之後不可厚葬。只於墳所造一石柱為標。令來見者結覩史之因。又我弟子七七之忌不得追修。各於自房益勤修學。若有思我砥勵所業。是報恩也。二十四日無疾而逝。年七十五。瞑目之後烏百餘集房悲鳴。見人不避。移時飛去。蓋生平分食施鳥。以木叩板群烏飛來。及此感慕如是。

贊曰。世之學佛者以忌薦託諸子。其尤者纔黏痾茵課持誦乞延命。豈塵表之舉止邪。意公以追薦換勤業而為囑。昔漢文避祝千歲不續。今見於意何其達哉。

釋泰舜。姓藤氏。京兆人。稟蓮舟闍梨密法。天慶三年平將門反。詔舜修大元帥供。舜行劒輪法。彼軌有六印當結其印壇上獨鈷杵忽半折而去。將門此日伏誅。其折杵至今門學傳付。天曆三年十二月三日滅。年七十四。

釋明達。姓土師氏攝州住吉縣人。十二歲隨藥師寺勝雲出家。初名真仁。寬平元年十月二日栖原寺勢春夢。嚴尊一翁告曰。住吉真仁再來人也。昔生此國。以選入唐稟儒學。唐帝愛其才賜姓韓名衡。

仕至諫官仍不歸而死。報緣未盡又生此方。今出家必為明師。化緣畢亦生彼土。我是坂本翁也。(松尾明神。)十五就天王寺尋仙受摩訶止觀。又上睿山謁尊意得顯密之奧旨。天慶三年正月於美州山南神宮寺修四天王法。降平賊將門。二月十三日午時赤雲自東來入爐壇。須臾臭氣滿場。十四日將門伏誅。十一月於住吉神宮院降藤純友修毗沙門法。明年五月伏誅。天曆九年九月二十二日滅。年七十九。

贊曰。昔天寶安西之寇。大廣智一呪而五國皆潰。我天慶之逆。非安西之比矣。二子可謂善繼祖業焉。加之流鏑之聲鳴而去。金剛之像隱而出。此方何其多人乎。

釋淨藏。洛城人。諫議大夫殿中監善清行之第八子也。母弘仁帝孫女。夢天人入臥內。因而娠。寬平三年生。聰敏無雙。四歲讀千字文聞一知二。七歲求出家。殿中戲曰。汝欲墮三寶數當作一靈應。不然不可失先業也。兒曰。嚴命豈可止諸。時春初庭梅盛發。兒出戶外召神人令折一枝來而以獻。殿中感怪而不言。以故不能拘也。兒因而詣諸勝地事修練。或棲稻荷山令神童執花水。或渡熊野河遇洪水得異舟。歲十二自松尾神祠還。寬平上皇幸西郊。中路見藏喜而為弟子。勅上睿山登壇受戒。宣玄昭法師稟密教。又從大慧法師學悉曇章。慧者安然之上足也。藏元通絲竹。故於悉曇深究淵奧。藏夏橫川如法堂。一夕旋庭。俄有異人自西方來。藏問。誰。答曰。我是賀茂明神也。昔慈覺大師令京畿二百餘神番護此經今日我之直也。庭下有穢我欲責之。而師之所為也。我不能如何。便召神人穿去其地方五尺餘。延喜九年左僕射藤時平受菅靈之誅沉痾彌留。請藏持念。白晝二龍青色從僕射左右耳出頭諗善諫議曰。我告天帝報讒怨。而貴子藏公法力抑我。乞加嚴誡。諫議令藏潛去。纔出門僕射即薨。沙門長秀從波斯國猛風迅漂來。秀有胸病醫治不效。白增命僧正索法救。命曰。我國靈感之者十人。淨藏第三也。遣之。藏誦藥師呪百八遍。秀疾立癒。秀感伏曰。我國隣印度未有如是異人。今見此師豈有一二乎。天慶三年正月勅於橫川修大威德法。降逆賊平將門。于時將門帶弓矢立燈燄上。伴僧皆見。須臾流鏑聲指東而去。朝庭又修仁王會厭逆寇。藏為待賢門講師。其日輦下俄傳平賊入都。朝野擾動。藏奏曰。不是其身只頭而已。果驛傳賊首至京師。天曆中藏寓八坂寺。時搢紳多集。見塔曰。塔之傾斜也其方有凶。今是塔傾向王城為之若何。藏曰。我又思之早可修治。群公以為捨財也。其夜藏坐露地向塔持念。已還房。弟子仁瑨偶出庭。微風自西北來。塔婆少搖寶鐸作聲。朝見之塔婆端直。都人走睹隨喜嘆嗟。藏在此寺時。中夜賊數十人來。藏厲聲叱之。群盜支體不動猶枯木。蓋呪縛也。天明藏解縛。群賊作禮而去。南院

皇子令人修除病法。過三日皇子薨。哀訴于藏。藏以火界呪加之。皇子蘇息。正服而禮藏。藏出語人曰。皇子命盡矣。我只呪力令暫蘇耳。四日遂薨。醍醐公主有腰疾起居不便。召藏持誦。藏日中出壇呼曰。公主病癒。侍女驚見。公主起行。或嘲袈裟。藏披之口出火燒之。內衣不焦。或問所由。血穢婦人之剪裁也。天德中神人告終。藏誦金剛般若經祈延命。俄患風數日而痊。蓋轉業輕受也。應和三年八月空也法師於六波羅密寺慶讚金字大般若經。多會名德。時乞丐者夥焉。其中有比丘形者。藏見之大驚延之上座。是人不辭。又不言。藏以一盂飯與之。飯可四斗。食之皆盡。藏又薦飯。又盡之。眾人怪比丘多食。悉見之飡已。藏揖而送之。去後所與之飯如元不散。或問之。藏曰。文殊師利之應化也。一會歎伏。康保元年十一月二十一日化雲居寺。壽七十四。藏博物。顯密。悉曇。天文。易筮。醫卜。絃歌。文章。技藝莫不貫攝。而皆拔萃。昌泰帝修佛名會。勅藏為梵唄。沙門平塞潛嘲之。會已。上詔侍中藤公忠宣塞曰。藏之音韻非凡調。汝等學之應後會。塞愧恐。承平太上皇有病。藏筮曰。上皇疾易差。而明年宮中有栢梁之災。果如言。嘗曰。我一生間受三奇拜。寬平上皇始者四海日域之主。後者三密月輪之尊。又我本師也。昔更衣妃受狂病靨巫拱手。奉勅入宮。護法神先我降縛。妃疾即愈。我尋而入。上皇起而拜我一也。故殿中監者朝廷才臣儒林望士亦我嚴父也。我詣熊野。殿中薨背。中途聞訃而馳歸。已經五日待我未窆。我動冥眾加持蘇息。殿中著位袍而拜我。後七日而永逝二也。玄昭法師者顯密偉德朝野碩望復我阿闍梨也。於亭子院修法。真濟之靈為鵲來現。昭投爐壇燒之。因而結怨化異小僧自空降來。昭見之心身惱逼。我加持之降伏彼靈。昭披法服而拜我三也。此三拜於我已邁。餘何言乎。

贊曰。薰練而致感通是曰修得焉。藏兒稚之時令神人折庭梅恐是報得乎。故燒穢婦之裁製。知文殊之應現。皆報得先識之見者也。其稱三拜者豈居敬而行簡乎。加之藝術精粹學業彌滿。世只取于靈應者吾為藏赧之。

釋修入。睿山朗善之徒也。有神異。初台徒每歲七月望。精修之者會法幢院角異。天曆六年法歲將滿。其夜又角于院。台眾令入配淨藏。已而入藏出。二人有聲。萬眾拭目。藏呪縛石。其石自上下宛轉。猶伎兒弄毬。一會生希有想。入叱曰。此物甚鬧。蓋恬靜乎。語已縛石不動。二人持念益切。於是乎縛石中分為兩片。自躍到二人前。合場嗟嘆曰。像季之時豈有此等事乎。

釋圓賀。共陽生座主謁藤相國。相國曰。承聞佛家有角異事。俗子若見必增淨信。二師乞不惜神用。二人不得已便各以所持三股金剛杵置棊局上持念。須臾二杵自起以鈷為脚。相趯如鬬雞。已而生杵

趯賀杵墜局下。生杵欲登賀杵上。賀杵拒避。生杵馳逐盤旋局下數匝。相府合家欽嘆不已。二人自起各執杵子。
釋公伊。都督伊房之子也。投園城寺賴豪學顯密教。一日修北斗法於宮中。此時伊被酒醉甚。及入宮酩酊不醒嘔吐殿上。王臣皆嫌其不軌。然業已應請不卒改也。其夜帝夢衣冠之人數輩剝北斗壇宮瓦。帝驚令人問冠人曰。今夜伊公供北斗。北斗當降壇。先令我等闢路耳。帝覺後敬伊。壇信請伊供毗那夜迦天。伊諾焉。而不修也。數日後壇越來曰。因師之修供某事已濟矣。故來謝耳。對曰。我又精修。于時場壇中有細微之音曰。我無供焉。檀返。伊入壇取天像拋溪谷曰。汝辱我。我又辱汝。而伊無恙。長承三年十二月十八日滅。
贊曰。傀儡者愚童之所樂。而非丈人之所駭也。角異者其我法之傀儡乎。然呈安居之効。啟公相之信。不為不益矣。善戲劇兮不為謔。我法有之矣。伊公之不羈者繩墨之軼宕乎。
釋濟源。學三論于藥師寺延義。兼修念佛三昧。康保元年四月五日以米五石捨藥師寺看讀經文。謂徒曰。天慶七年我被旨主藥師寺務者六年。其間我用常住者五石而已。今日當終故償之耳。既而異香奇樂響天滿室須臾而滅。
釋陽生。姓伊豆氏。豆州北條人。少年登睿山勤講習。而性多病不耐苦學。以是為恨。一苦行告曰。勿苦勵也。常飡軟飯糜粥保養性命悠久修習。又自貫首一山。生聞行者言少弛習學專誦法華。知命時移居竹林寺益事清修。會朝命任天台座主。生便詣山王神祠怨訴曰。我精勤修練亦無佗矣。安養之生菩提之果我深志也。又冀神之冥助耳。何例常輩而置我於座主位乎。聞者讚美。平居燕雀就手而啄猪鹿多馴從。豫告死期吉祥而終。年八十七。正曆四年也。
釋增賀。平安城人。諫議大夫橘恒平之子也。誕質後數月父母赴東州。於馬上搆擧座令乳母坐抱兒。一朝早發。乳母抱兒坐馬上。餘睡未寤放兒落馬。過數里而覺不見兒。乳母悲泣。父母聞之舉聲哭曰。若干馬牛定踏殺我兒乎。雖遺骸吾尚欲見。馳歸兒所。狹路中泥土上兒含笑仰臥。泥水不汙又無少疵。父母急收嘆希有焉。其夜母夢鄉泥土上有寶床敷天衣。兒臥其上。四天童立四隅合掌曰。佛口所生子我等加衛護。覺後益珍育。四歲時初向父母曰。願上睿山學一乘。作是語已又無餘詞。父母驚曰。嬰孩何作是言。恐是鬼神託言與。母又夢一時抱兒在懷。忽長大成壯年比丘。手持經卷傍有人曰。莫恠驚宿因當作僧。十歲父母以初語及夢事送睿山與慈慧。性聰穎操履潔。學綜顯密。尤邃止觀。而惡利名絕交謁。安和上皇勅為供奉。佯狂垢汙而逃去。太皇太后敬事為師而延宮中。便於采女中出麁語又罷去。慈慧任僧正入宮賀謝。翼從甚盛。賀帶乾魚為

劒。乘瘦牸牛交先驅之列。諸徒叱而去之。賀厲聲曰。僧正之前馳去我誰乎。聽者笑而伏。天曆二年八月夢至一所。山川明媚阿練若僧徒在焉。西南隅有坦地見一老翁。首戴青冠身被赤裘。左手持經右手携杖。天童神女左右圍繞。賀問誰乎。對曰。毗耶離城居士也。住此千餘歲。止此地者多得佛智。汝盍居乎。覺後不知何許。應和三年如覺法師勸上談岑。山川風物宛如昔夢。因是居焉。四序各修三七日懺。夢南嶽天台諸祖師摩頂曰。善哉佛子能勤修行。
釋迦普賢加護攝受。常有異人晤語。言涉朝野。以故雖山中諳悉京畿之事。州人多來訪問。賀能應不舛。長保五年六月九日集徒曰。西方佳期今其不遠。即設講筵談論深旨。又令弟子念佛。自入靜室坐繩牀誦法華。結金剛印而滅。年八十七。臨終語徒曰。吾沒不須闍毗。只要窆埋。過三年開壙見之。弟子依顧命作大桶輿殯寺後。後三年十一月春秀等啟壙。全身不壞趺坐儼如也。但衣已朽弊。秀等禮拜讚嘆。
贊曰。浮屠何急乎清修而已。利源一闢靡處不至焉。故吾黨貴寡欲矣。源公償五石之費。生師患一山之長。賀老卻供奉之列。三子者吾門清介之士也。今反之。求而不耻用而不度痛哉。且夫延曆園城之卻自座主位始。生也同時。彼三千之徒何不視一生公乎哉。
釋寬空。姓文室氏。內州人。事神日為弟子。又稟寬平上皇密灌。兼得圓堂院事。天曆帝勑修祈雨法。過期不雨。君臣潛笑。空乃著法服捧香爐入宮庭立。焚香誦呪密觀須臾。于時陰雲忽起大雨暴降。然宮城而已不到佗所。時人奇之。康保元年為僧正。天祿三年二月六日化。年八十九。
釋範俊。事東寺成尊與義範齊名。尊病革。延久帝遣中使問病。且宣曰。俊與範孰愈。尊奏曰。二子無優劣。帝三問。尊答如初。中使復命。帝曰。尊之言爾。然有思儀乎。中使曰。臣臨尊室諸徒看養。範俊在枕頭。義範在腳後。臣宣詔旨。尊答了舉首見範俊而已。無餘事。帝以為尊意在于俊也。永保二年四月至七月不雨十六日。詔俊於神泉池修請雨經法。義範長於俊也。不承詔。因茲懷怨忿。便入醍醐山修寶樓閣法礙俊之供。王城之上黑雲油然彌覆。城中皆謂必雨。時醍醐山頂暴風俄起吹散雲氣。修中二七日風雲數度。城中童謠曰。範俊雲又馳。義範風復吹。過二七不雨。俊耻潛逃那智山。屬王畿之恠孽帝愁之。一夕夢或告曰。竹人攘災。覺後問群臣。無委者。江都督匡房奏曰。範俊也。帝曰何也。都督曰。範俊從竹人。帝感悟。詔俊反都為僧正。
釋信覺。有密學。永保二年旱。範俊無應。乃勑覺法雩。覺於東寺修孔雀明王法。又期二七。第十之日甘雨連日。上大悅聽輦車。

釋勝覺。左僕射源俊房子也。禮醍醐寺定賢受祕教奧旨。又就範俊義範二師益究源底。道福賑衍門學如市。天永三年六月旱。勅於神泉苑修請雨法。過三日大雨降注。帝宣尚書右丞藤顯隆加褒賞。僕射大喜延覺於府第設宴。于時府裏少兒善歌舞。僕射令兒唱。兒乃歌曰。阿耨池水通神泉湜。摩尼峯風吹一味雨。其音雅婉。僕射曰。善乎。歌乎。應時協節。誰教汝哉。對曰。曉更夢老翁告曰。今日府中有客宴。子必呈倡伎。以此詩為曲。苦口付授。故我歌之。合家感恠。摩尼峯高野峯名也。永久四年夏旱。又勅覺雩於神泉。期以七日。第四日小蛇出池入爐壇下。此日陰雲垂布。明旦甘雨普洽。率土抃躍。大治四年三月染微疾。二十八日孔雀一雙周匝座傍。余人多不見。見者或髣髴而彩羽不鮮。四月一日光雲覆房。覺便逝。

贊曰。旱澇者邦家之大事也。我方外之民又資於晟負矣。天長之間海敏之二師自發軫於神泉此地宜於此焉。然海碍於敏而贏矣。俊礙於範而輸矣。二子之差降可見焉。後時竹人之夢俊或有加乎。空公施于難用力者多矣。二覺之雨無礙而然。然授歌之兒又一奇也。

元亨釋書卷第十　終

元亨釋書卷第十一

濟北沙門　師錬撰

感進四之三

理滿法師
睿山睿桓
子嶋寺真興
延曆寺慶圓
延曆寺餘慶
睿實法師
一乘院定照
書寫山性空
睿山平忍
睿山蓮防
勝林院寂源
修學院勝算
三井行圓
大原山良忍
石塔寺寂禪
行空法師
蓮長法師
楞嚴院以圓
睿山教真
小田原經源
兔原慶日
覺勝法師
國上山佛蓮
高野山維範
安部山暹覺
高野山琳賀
賢林寺戒深
南星峯圓久
行仙法師
仁和寺性信
仁和寺覺法
基燈法師
睿山叡好

愛太子山仁鏡
蘚嶽良算
雪彥山玄常
超勝寺清海
鞍馬寺重怡

釋理滿。內州人。師事吉野日藏有節操。往醫家服陰委藥。自此於色境永絕想。專誦法華。靈瑞甚多隱而不語。滿在一檀信家讀經數歲。一日宅主從戶隙見。滿讀經一軸了置几上。又取一軸而讀。先軸自踊高尺餘。自卷至標紙而居几次餘軸皆然。宅主生希有心。見了奔出合掌曰。甚希經卷踊上自卷。非師之靈感焉至此乎。滿誡主曰。是幻化耳不可語佗。若屬流布我與子絕。宅主守約不言。滿沒後始傳。滿好利濟。於渡口設一小舟自掉度人。或入病宅施藥物。不視親疏不望報謝。嘗曰。吾若因經王力當生安養。願二月十五同世尊之滅度。暮年有小疾。果佛涅槃日誦寶塔品。至是名持戒行頭陀者即為疾得無上佛道句而寂。釋睿桓。居台嶺學教觀兼持法華。嘗作思惟。初發若僻萬行徒施。當發圓教大心修實相妙行。誘引六道眾生。悟入一實知見。我見近來行人。或營外相苦行不作內心觀念。或施依報資財無正報信慧。徒感人天果報無階三乘位次是以率身戒律午後厨不起煙。科義定心相應誦經。纔涉散念雖誦捨數。如是精誦一萬餘部。釋迦放光照室。普賢摩頂慰誘。如是奇瑞多藏不語。鳥獸掌中受食。鬼神隨侍供給。臨終手執香爐誦法華端坐而逝。
贊曰。凡持誦者逢一勝相。身心欣悅不自持。矜語眾人衒異誇奇。滿公戒檀信以絕交之語。豈其萬頃之量陂乎。桓師科義相應捨散取定。又為宜也。其不語瑞相似同矣。二子者持誦之準規乎。
釋真興。興福寺仲算之徒也。精因明。世曰。成唯識觀嘗昇兜率天覲慈氏。藤亟相教通聞之常欽慕。興於所居道場現覩史宮令丞相瞻禮。興之所居曰子嶋。一日出歸子嶋。鬼魅百餘輩伺路行列似侵忤。興問僕曰。汝等何所見乎。對曰無見。興入唯識觀群魅皆仆。仆後僕人得見。長保五年為維摩講師。相國藤道長尤加優禮。勅赴最勝會。講已。懷出草屨自著。不歸南京棲子嶋。後人貴之不字呼子嶋先德。
釋慶圓。姓藤氏。播州大守尹文之子也。登叡山師事三昧喜慶粹于密教。一時修北斗法。設供物於壇上。團欒而繞之。至召請印明七星降壇。各著圓供之列。蓋本軌者方壇也。圓壇始于圓也。長和二年為僧正。其冬轉大。又領座主。寬仁三年七月二十一日卒。歲七十五。

贊曰。大哉吾佛之設化也。或密或顯其則不遠。濁世五濁之下土。空居遊空之上界。漫沒畛畦矣。自佗視率陀。方圓換曼荼。二子者善執柯乎。

釋餘慶。筑州早良人也。遊一山谷遙聞鐘聲尋至其所。禪房幽邃。一比丘讀法華。年三十許。慶相羊庭隅。比丘停經揖慶上堂晤話。慶問曰。年幾乎。對曰一百余。慶勸其終。比丘乃誦至安樂行品天諸童子以為給使之句二童忽降。一人持供。一人把蓋。比丘分供為二。一分自喫。一分與慶。慶嘗之。其味甚美非人間有也。已而告辭。比丘曰。此地常人不至。今日欵語為幸甚。慶曰。失路多幸到於聖境。欲傳此事以何為驗。經傍曲几願見頒焉。比丘有悋色。忽十童兒出護几。慶元歸不動尊持念。須臾忽大聖明王現形奪之。十童拒之。其几中分為二。一半在比丘處。一半至慶前。慶携而歸。慶謁藤太師。忽空也法師入來。也臂不便。慶問所以患。對曰。我稚孩時父母相[娟- 口+日]。母恚捉我投地。自爾左臂不順。久聞蘊法驗乞見惠乎。慶諾。於是乎相家子弟奔集見之。慶瞑目持誦。乃執也臂引之。爆然聲出。屈伸如右。也作禮三拜。太師以下莫不嘆伏。時人曰彌陀之病明王之醫。天元二年補園城長吏。四年任法性寺座主。慈覺之徒訴朝喧爭。語在黜爭志。永祚之始為延暦寺座主。正暦二年閏二月十八日化。年七十三。諡智辯。慶有四神足。勸修。勝算。慶祚。穆算也。

釋睿實。專持法華。嘗居愛太子山。大雪不霽。數日無餐。取竈土食之。其味甘美。一夕誦經白象來現。口吐光照草庵。晩往鎮西營世務蠶桑耕穫。人不測之。或啜酒肉。或擐弓矢。一朝向燒魚誦經。魚則蘇息。赴水放之游泳而去。又負弓矢而出。傍人見之蓮花數莖。怪近熟看弓矢也。肥州刺史謗實掠家財。實不拒。後日妻有病而狂。醫巫不効。家人曰。實師誦經必有威應。願屈之。守嗔曰。彼比丘破戒在家豈得感驗乎。左右荐乞。守曰。汝等自呼。我不敢也。家人來請。實曰。我不知佛法何延我邪。家人志堅。實不得已而來。病婦隔屏而臥。實誦法華未終一軸。神人投婦於屏外實前鞭撻數十。見者寒心。神人隱去。婦起坐身心輕安。刺史頂禮悔謝返所奪財。實不受。實有慈行。寒冬脫衣與凍者。自無服。乃啟大箱充木葉蹲其中。持誦如常。或途中有沉痾者屎尿塗漫臭穢難近。行人閉目掩鼻而過。實看養而誦經。病人多愈焉。天祿帝有狂病。勅實持念。與宮使同車入宮。路傍有痼疾之人悶絕宛轉。實下車看候。宮使責曰。已奉詔旨何滯此乎。實曰。我尊卑平等隨緣救濟。又萬乘之主有恙。何山何寺名師碩德不應詔邪。無告病人非我難看。不忍過也。遂止其所不赴宮。

釋定照。姓藤氏。京師人學法相仁敷。受密灌寬空。自少年無色空嘗曰。少時一指觸女身。我此形骸一指為染。餘無不清淨。即以指為蠋。供養三寶發露懺悔。照住山階寺一乘院。有橘樹自然枯瘁。寺眾欲斬去照誦大佛頂呪加之。其日生萌芽。過數日枝葉滋茂漸生花果倍前時。其橘樹今猶在焉。常誦法華。適從南京赴上都到淀河。暴風俄來波濤怒鼓。舟人曰。舡當漂覆照不恐。時天童十人自河中出。手捧照舟不泛水波。漸著岸上十童即沒。河兩岸見者嘆未曾有。照曰。十童者十羅剎女也。又供不動尊。尊屢現形語話。照賑道福。東寺興福之長務皆所歷任也。永觀元年三月二十一日臨寂誦藥王品。至於此命終即往安樂世界乃至眼根見七百萬二千億那由佗恒河沙等諸佛如來句三誦已語門人曰。我屍莫燒。縱為枯骨猶誦法華饒益一切。語畢結定印端坐而滅。門人隨遺命。其墓果有誦經聲。又聞振鈴云。

釋性空。平安城人。大中大夫橘善根之子也。母源氏。諸兄皆產難。孕空時母欲食毒藥壞胎。而及誕殆不覺。出胎之時拳右手而不開。父母強啟之。有一枚針。生三日忽失所在。父母愁求。在庭花叢中安坐。從幼至老面有微笑姿。絕不麁言。十歲持妙法華。年三十六出家。尋人跡不至鳥音不聞之深山。乃往日州霧嶋結廬而居。或隔數日而食。或不倉而歷旬。或夢中受美膳。覺後肚裏能飽。余味在口。或從經卷內忽爾精白粳迸散。或煖餅出。其味非常比。或夢人送餐。覺必有餽。是以雖苦行絕食。身體肥滑光彩過人。或寒夜弊衣皮膚如冰。忍寒誦經。忽從菴上垂綿覆身。居四歲移住筑前州背振山。一日誦法華。兒童數人年可十五六來左右同誦。容貌奇麗音韵清雅。空在書寫。一夕夢金剛薩埵授兩部密教。覺能記持。適睿嶽篤上人來山。空說夢事。篤公聞已流淚曰。兩界印明不違一事。但有一印異予之軌。然夢授甚詳恐軌之誤乎。先是空未聞密法。人傳為異。增賀法師在多武峯求上紙。空送之。賀歎曰。空公者其淨六根與。神童二人一曰乙一曰若侍左右。凡有使令先意能辨。乙童擊同役而斃。空呵驅去。童雖悲泣悔訴遂不許。初永延二年化人來告曰。播州有山曰書寫。是鷲嶺之一峯也。居此者發菩提心得六根淨。空至彼山結菴西洞。茅薦為席紙楮為衣。山禽野獸無機自馴。漸創精藍號圓教寺。空於山中每歲三九月轉妙經為州民之福。偶因事二年闕典。春三月空如廁。長尾靈禽居傍樹鳴曰。春秋訝缺二年會。讀誦還勤一乘經。空書鳥吟告眾復會。天祿上皇使華入山。堅臥不起。長保四年寬和上皇入山幸廬。勅延源闍梨圖空像。并記行業。下彩筆時山動地震。上皇大驚扈從皆畏。空曰。勿恐也貌貪道故有地動。像成亦當震。畫畢山川大震。上皇下地禮空。寬弘四年三月十三日誦法華而寂。年八十。空身無蟣虱。胸間

雕彌陀像能知佗心。所止之處緇白成市。施利如雲。見形聞聲之輩皆作遭佛想。檀信送食使者。或觸之能知而不飡。或善人來謁預設牀坐。不善人至先逃山壑。異迹甚多。不遑備載。

釋平忍者。尊意之徒也。性潔白不染俗。瓦器為鉢。麻衣外無餘服。專持法華無佗業。年八十餘。一日白意曰。今日往兜率內院。故來告辭。言已起去。意謂弟子信賢曰。忍之言可怪。恐有病乎。送藥石訊之。使者復命曰。忍已逝。意公嘆異。臨終告門人曰。大虛之中有妓樂汝等聞否。兜率天迎我也。言已氣絕。天慶元年也。

釋蓮防。睿山慈念之門人也。性素潔清苦勤勵。有密學持法華。修法靈感人被勝利。結夏於江文山。張大笠為場。拂平石為床。晝夜不臥。數日不食。或只菜蔬。又去鹽味。專誦法華修懺悔。夢普賢乘白象對立。毗沙門天善言慰諭。沒時手把經卷而逝。

釋寂源。左僕射雅信之子也。俗名時信。以門業早上羽林。俄厭世相從池上皇慶學顯密之教。長和二年入太原山創勝林院。六時行道。一日毗沙門天執蓋隨後。其天降之室今猶存。臨終之時紫雲垂布床上云。

贊曰。慶實照空者可謂神異無方矣。然實之下車也。照之然指也。誰敢嬰其慈進之鋒哉。源防之感天神。忍師之昇內宮者機軸同矣。

釋勝算。姓滋野氏。洛城人。十四出家學台教。一日宮中與橫川源信對論。算屢滯澁。返睿山白其師曰。願捨顯入密。師諾之。修練精苦早得靈應。永延帝不豫膳職已廢。時窮冬。帝求梅子。天下競索而不得。算居修學院庭有梅樹。夜向樹持念。翌旦告人曰。汝看庭梅有實乎。使者到梅邊。適大雪覆埋枝條皆沒。歸報事。算曰。拂雪見之。使者如教。果一枝纍然宛如初夏。折枝獻宮。君臣嘆嗟。帝嘗一兩顆病立差。皇后(上東門院)狂疾。召算加持。神人於寢上梁間縛靈。靈叫呼聲震宮中。后乃愈。公主娟子長曆帝女下嫁源僕射俊房。有狂病。微服詣房乞加護。中夜呼曰。救我救我。有龍加劒我頂。童又以繩縛我。侍女驚懼。翌晨狂息。藤相國道長長子賴通病狂。相國令如修學院求法救。中途氣絕。猶舁入院。相國尋駕來哀懇甚切。算以自膝為屍枕持誦。須臾忽蘇息。相國大悅起禮三拜。源信之妹安養尼狂病頓殂。信轝屍乞法救。算持念護身。尼便蘇。信不任感喜三起拜算。算笑曰。昔年宮論之恨今已消矣。信又笑謝。播州刺史佐公行微時從算游。一日語曰。我得一牧足矣。恨無由也。算曰。待之不晚耳。不幾得播。依是佐氏建修學院報焉。永延帝上為官寺。正曆三年補園城寺長吏。寬弘八年十月二十九日滅。年七十三。病中賜號智觀。

贊曰。學者之稟業也慎所擇耳。不然勞而功寡矣。智觀可謂好擇矣。若不擇豈屈信公之膝邪。將又以憤激乎。昧者遭加己者懷毒害

焉。不即屈焉。觀也因一踣擇而激。後學之式也。予遊修學院。一厖眉指庭樹曰。是靈梅也。予附而見。苔痕封裹從根至枝。時冬仲無葉不辨何樹。剔苔爪枝始知焉。其地睿山西麓沍陰甚。諸樹又封苔。會微雪霏霏點綴枝枝。因而憶埋條之事。眷眷繞樹如對算師。人去而境留。境亦人也。況梅之靈乎。

釋行圓。姓源氏。通議大夫國舉之子也。初圓已冠為進士。名國輔。隨父赴州。有嬖妾留在都下。國輔繫戀央央。一日潛歸問女。或曰近聞其人病無看養。不知已終不。國輔尋求往野。其屍脹爛不可見也。國輔不還家。即入園城寺剃落。遊智靜心譽之二門。以故精修學。修如意輪觀自在供。大悲尊現身放光。常與山王明神清談。明神曰。我名山王。公委之乎。表三諦即一也。山字竪三畫者空假中也。橫一畫是即一也。王字橫三畫者三諦也。竪一畫又一也。二字三畫而有一貫之象。故我立為號也。一心三觀一念三千亦復如是。是以我護持台教。鎮覆國家。我身外無名。名外無身。即身而名。即名而身。名外無法。法外無名。即名而法。即法而名。身與名法無二無三。是名一乘。我名義也。

釋良忍。尾州富田人也。登睿山聞台教於良賀。稟密灌于永意。承德之始隱棲大原山。創來迎院夷基趾作結界法。鬼魁相語曰。師之法力雖驅逐我等。法末之時我等當又歸止。時忍親聞焉。待賢皇后宮人有問道於忍者常常來院。一日未通謁先憩殿陛。自思言。我是婦人屢入精藍。惡少之者恐貽疑謗。不利吾師。我雖慕道切不亦來矣。忍在殿內開扉告曰。姊之先思又無妨。只願固志於此不亦美乎。宮人自茲思忍之不凡。就而薙染。法名法性。忍修八字文殊法。庭上大石變為師子迴旋哮吼。一日異人來謁言曰。師盍唱融通念佛乎。忍曰。何謂。對曰。廻我所唱融會眾人。眾人之唱又通于我。是融通念佛也。其功踰獨稱不可勝計。何以故。眾生無邊故。師願以此事勸誘四海。我又廣倡天神地祇耳。忍曰。公誰乎。對曰。鞍馬寺毗沙門天也。語已不見。忍自此常唱融通念佛。又作疏博勸四眾。天仁二年來迎院成。忍於此地唱顯密。又闢聲明梵唄。天承二年二月一日亡。年六十一。忍建一字庋大藏經律論。名曰如來藏。所持彌陀經時時放光。其徒收之置藏中。

贊曰。妙于萬物陰陽不測。是世書之所謂神也。吾教受佛敕護我法。然未聞演出真理之如山王天王之精微矣。此方多言有應化之神恐其然乎。又是二子精修之感發也。或曰。融通之說有據乎。余曰。般若有隨喜一品。龍勝菩薩剖析於智度中。化人之言相似同矣。

釋寂禪。姓官野氏。平安城人。筑州刺史文信之子也。仕官至工部員外郎。而不樂冠簪荐乞薙染父不聽。長和四年年三十上台嶺禮座

主慶圓受戒。從慶祚阿闍梨受三部密法後居近州蒲生郡石塔寺。阿育王八萬四千舍利塔之一區也。治曆三年八月初患風痺至望愈。其後日日沐浴二十日。命門弟子曰。明日浴湯辨于鷄鳴。弟子從之。便澡浴了跏趺繩床念佛而坐。黎明異香滿室。弟子窺之。如寢而逝。荼毗四遠薰郁。舊庵及闍維地三日薰不滅。

釋行空。世稱一宿上人。所居不經兩夜。以故五畿七道無不行遍。隨身之資具三衣猶不全。況其餘乎。只法華一部而已。晝讀六部夜亦爾。行旅之間或迷路天童示之。渴乏時天女與水。若病苦天藥自至。缺供甘露現前。年九十歿鎮西臨終天衣自纏身。蓮華承雙足。普賢文殊降現摩頂云。生平所誦三十餘萬部。

釋蓮長。長延法師之畏友也。天性精勤持妙經。非沐浴不解帶。晝夜不臥。床無枕。金峰熊野。志賀。長谷。凡日域之中所有名區無不跡。各寓其地。誦經千部。唇舌迅疾。一月終千部。臨終時手把不時蓮華一莖。鮮白薰烈。傍人問。此花從何得。答曰。是則妙法蓮華也。言已而寂。手中蓮華忽然不見。

釋以圓。博士江以言之子也。居楞嚴院。學顯密得敏悟之譽。少壯之年有小病。病中一七日暗記法華。天喜中數月臥病。興福寺圓緣與圓厚。時緣在法成寺。夢圓被袈裟來前。緣問。比來沉痾已愈乎。圓曰。今往安養。舊好不忘來辭耳。語已西飛去。翌早緣遣慰問。門人曰。此曉已寂。緣不任悲感。

釋教真。居延曆寺。業義學兼修念佛三昧。臨終夜蓮華降其室繽紛散亂。見者八人。餘不能看。荼毗之地異香不竭者七日。

釋經源。洛京人也。居興福寺。學相宗。移住小田原練若。修密法。暮年染微疾。一日語門弟子曰。三日後我當往。即索沐浴。次日又浴。至三日被自製紙服。蓋源預裁為臨終衣也。向彌陀像端坐念佛而逝。經三日合掌手不傾。容貌如生。而口右角汁液出。弟子以布拭之。其香薰烈沈檀不可比。扃輿至荼毗所。其體不傾。已而闍維時西方喧聲念佛。其響如三十計人。徒眾聞之見近地無一人。其香液薰布今尚在舊房。年八十四。永久年中也。

釋慶日。平安城人。居睿山。勤講學。涉顯密內外之典。晚出本山住攝州菟原郡。誦法華修密供。方丈草庵之外無別舘。經論花器之外無餘具持齋不缺。亦不食油酒或雨夜出行前有持炬人。後有擎笠者。遠人望之走近見之無炬笠而日獨行。遠避炬笠如先。或搢紳車馬之客到菴駢闐。村人近見又無人馬。遠聞喧雜之聲如故。溘然之時無病。誦法華。結定印而逝。忽有百千人音悲號嗚咽。村民往菴所而見。雖聞哭聲不見其形。時人皆曰。炬笠搢紳及哭泣之人。皆是天神諸聖之冥感也。

釋覺勝。作州人也。居越州坂南阿彌陀院。修密教兼明戒律。嬰病七日。六時修彌陀法未嘗缺。謂弟子曰。我去後荼毗時聖僧群集。應知我生極樂也。語已入壇場修供。久不出。弟子怪伺之。端坐入滅。闍維日果客僧七十餘員不知來處。群集會喪。眾人嘆異勝之言不徒矣。

釋佛蓮。居安祥寺。後移越後之古志郡國上山。三時沐浴誦法華。供使者倦三湯而逃去。一時二童來曰。我等二人能任使令。自稱一名黑齒一名華齒。強力勇健。負薪汲水三時湯未嘗缺。又拾果設食供給尤勤。以故蓮不知世務離諸緣。一心誦經。終時安祥而逝。二童過七七日而去。

釋維範。京兆人。涉顯密晚入高野山居南院。嘉保三年二月三日沐浴淨衣結定印唱彌陀而寂。年八十六。遺命曰。我死不須荼毗。待小祥啟棺見之。門人如命殯小廟室。至期諸徒開棺。支體儼然爪髮俱長。初有信明亦居高野。常閉菴門專修禪觀。範入寂日。室中有聲曰。南院範公取滅度明遣人問之。果然。

釋暹覺。姓王生氏。豐之後州人。性悍勇少為草賊承保二年幡然自改。祝髮為沙門。承曆三年結菴和州安部山。痛悔前非勤修苦懺。以故午盂一濕纔接氣而已。麁布綴衲蔽體便足。學窺顯密儀精篇聚。安部之峯為精修之區者。覺之力居多。保延六年春受微恙。率眾僧唱佛號。瞻仰彌陀目不暫捨。端居氣絕。後二十七日印手不亂面色無變。遺言埋佛堂下。肉身不壞至今見存。年九十一。臘六十六。

釋琳賀。紀州那賀郡人。始止興福寺學法相。精因明。後上高野山從良禪闍梨稟密學禪者明算之神足也。賀修學之餘勤于營構。伽藍塔婆多復輪奐。久安六年八月十四日入寂定。預造室宇泊然宴坐。全身不散。建永之間元曆上皇幸山聞賀之定化。枉駕廟室親見定軀。鄉大夫之預扈從者皆合掌感嗟。時去賀殆六十歲。或曰。賀祈雨善女龍王現形云。

釋戒深。尾州賢林寺住侶也。五十年餘不出寺門。日夜讀法華。又感求舍利。一日庭上現舍利。有音如雷色明白。深試以鐵鎚擊鐵砧上。砧鎚俱陷而不碎。又投水不沈。深歡喜供養。刻佛像安其中。命終時向此像端坐。結印稱彌陀而寂。數日後身不爛壞趺坐儼然。州人哀惜建廟閟之。

釋圓久。台山西塔院聖久之門人也。九歲登睿峯勤習學。移居楞嚴院。誦法華。音聲和雅聞者感激。晚入愛太子山住南星峯修無緣三昧行六時懺終焉日誦經而逝。斂其屍幽谷。每至黃昏。有誦經音。平時之聲不少改。四十九日後不聞。

釋行仙。從靜道法師學密教。旁修念佛三昧。不必念號專凝想觀。居上野之山上。性不莊飾。或請唱導。會薪山中便腰鉞斧赴檀家。人貴其樸素。凡嚫物不取。又不辭。只隨處恣人受用。弘安元年秋受微恙。端坐如入定而化。時慶雲挂菴前竹。宛如曝紫衣。又奇樂異香充滿天外。闍毗後得舍利。其灰色紫而香。仙先年預書。臨終月日潛置篋底。其徒滅後勘行李始得其書。相顧益戀遺德
贊曰。死不容偽矣。我法切於此也。然宕密偏念之者曰。入三摩耶而已。負願力而已。雖狂叫顛死而無害矣。是怠慢戒緩之言也。豈吾佛之教哉。今此十數師無慢緩之弊而不容偽者其已昭著矣。就中留肉身感異人者清廟之瑟朱絃疏越乎。
釋性信。長和帝第四子。母羽林大將軍濟時之女也。皇后夢。梵僧來曰。我託宿后胎。而後有身。懷孕之間口絕葷膻。寬弘二年八月一日生。時神光盈空。處幼稚仡如巨人。長和六年帝昇遐。哀毀超禮。寬仁二年年十四師仁和寺濟信出家。乃往東大寺受具足戒。治安三年年十九入觀音院傳法灌頂壇弘法大師九世之嫡孫也。信性敏穎。密乘支學至梵字悉曇無不洞曉。又耐勤苦。或辟穀而度日。或不解帶經年。延久四年皇太子患疱瘡。愈後面有瘢。太子甚耻。令信修藥師法。太子夢一沙門從仁和寺來以香水灑顏。覺無面痕。承曆二年修大乘會于法勝寺。上迴翠華。其儀至今不絕。初萬壽二年信為灌頂阿闍梨。軌支嚴肅。濟信法師不耐喜躍。自起執寶蓋隨後。密灌之時師為弟子擎蓋自此始。承曆元年十二月十八日法勝寺成。撰名德為落慶導師。信中選。又詔主寺務。永保三年於別宮修乳雀經法。勅信加特進。僧階始於信。應德二年九月二十七日唱彌陀端居而化。年八十一。荼毗帶不灰。信神異多。得法衣片段預念珠顆數者止痼痾醒狂瘧。又以生食與狂病者皆得差。
釋覺法。承保帝之子也。初法母為宮人。已有身後適富家相國。及法之生奏之。帝曰。未知尚誰也。少長岐嶷。帝收為王子。乃賜仁和寺寬助稟密法。習學有名。帝一日宣助曰。將小比丘來。助即伴法入宮。帝出密乘一祕尊像幀曰。朕求小比丘慶讚耳。助作色。法自若。乃昇座演讚詞音流暢。群臣嘆伏。帝曰。始朕疑法今信真子也。又欽助之提誨耳。一時如金剛峯寺次紀州。或新構旅舍延法入中。請待甚厚。法怪問之。舍主垂淚曰。遠聞德風近佇來儀。我有小兒。死已三日不堪悲哀。忝望法救。不知得不。即袖出小屍嗚咽而慟。法曰。直饒小恙尚不能焉。況逝經日乎。舍主告懇。法不得已持念者久。其兒忽吐氣而蘇。朝野相傳嗟異。仁平三年十二月六日化。
贊曰。富貴學道難。金口之吐演也。故東阿竟陵之英不出塵域而已。吾門鮮矣。纔摠持龍湖耳。然一者婦人也。才之難如彼矣。獨

我國也如寂擅美於先。信法揭德於後。相次間出多矣。其不難者何哉。嗚呼剎利之種又或有差乎。
釋基燈。周州大嶋郡人。苦修練行持戒慈悲。誦法華每日三十餘部。眼耳通利見聞數十里。世曰得六根淨。死時年一百四十餘歲。顏貌如三十許人云。
釋叡好。三昧和尚之門人也。與橫川勝行結友。游歷諸勝地。到肥前之肥御崎此地日域西南之隅。奇石異木邁佗所。古老傳曰。觀音地藏來應之區也。好行暫駐錫。一夕端正童女至語話。其音清麗。久而不見所去。又清晨一沙門來。亦不知從來。自茲二人絕鹽穀精修過七日已。第八之朝小艇泛海面。漸近管絃齊作。好行怪之。熟聞其絃歌皆偈讚也。好惑嗟聽受。行聞絲竹不聞偈。
釋仁鏡。南京人。父母祈伽藍神曰。若得男子捨為佛子。即有胎。九歲投東大寺習教法。長精戒律。午盂不重沾。一時夏深山練行。香火滅。忽有持火人雖見手臂不見全體。或深夜灌嗽。瓶無水。欲掬溪谷瓶水自盈如是之事九旬數十。晚年尋求勝地。聞愛太子山者地藏龍樹攝化之地不下唐之五臺峨嵋。往居大鷲峰。晝夜讀妙經。六時修懺。紙衣葛裘恬度寒燠。一粥動經三四日。或煮茶之外又無饌苦修積功勝相現前。師子白象來馴。護法神顯形侍奉。年一百二十七歲。
釋良算。東關人也。性勇健。薙染後永絕穀鹽只食淡菜。誦法華無佗業。常居深山絕壑不往來聚落。荷葉木皮為上衣。塚間樹下充勝場。常言身是水沫命如朝露。若愛護之甚為至愚。況五陰假舍。四倒惡鬼常居其中。欺誑我心能作眾罪。我何為邪鬼保祐乎。是故不惜身命苦修精練。又上金峯山住葰嶽數十年。持法華。鬼神始現可畏形。算不怖。後以果蓏為供。猛獸毒蛇皆悉馴伏。一時天女端嚴殊好遶算三匝。頭面作禮而去。算與人語。口尚誦經。雖瞑目眠經音不絕。臨修時面有喜氣。或問。上人頃毀譽不動。今何見乎。答曰。生平孤露今受榮爵不亦說乎。問者曰。榮爵何。答曰。捨塵勞垢穢之體昇金剛妙淨之階。豈非榮爵乎。語已而逝。
釋玄常。姓平氏。上都人也。出家於睿山持法華兼有慧解。後移播州雪彥山。紙楮木皮以充衣。雨降日照不著笠。雖遠遊不著鞋。持齋不缺。或時時絕食。不解衣帶。不設臥具。遇人必拜。見鳥獸屈膝。或日喫一栗子。經一百日。或以柚百顆為一冬粮。能知佗心。吉凶禍福豫言皆中。臨終先別諸友曰。今日以後淨剎相見。乃歸山中。誦法華而終。
釋清海。身長七尺餘。少好武材力過人。後棄弓矢居興福寺。一時徒有戰爭。海已擐甲。又自思言。我昔從事於此。中捐之入佛家。

今我又復先業。豈我素乎。便入超勝寺精勤苦練。一日香煙之中彌陀像現。其長五六寸。海不耐感喜。便取像奉安。今尚在焉。
釋重怡。伯州人也。住台嶺學顯密。後移鞍馬寺。寺後有宇安丈六彌陀像。怡占居於此。行年五十不出山門。修兩界供者六年矣。又自大治二年三月至保延六年八月十四年以小豆為算。唱彌陀號二百八十七斛六斗。又以一筥貯蓮子木槵子置佛前。勸來詣人稱佛號。傍設几案筆硯自記其數。凡三千五百五十七斛。九月有小恙預知命期。沐浴新衣與弟子等問答演法左手持五鈷杵。右手持念珠。向西命終。年六十六。
贊曰。苦修者除障之媒也。吾門尤加意焉。故先佛雪山六歲單麻隻麥頂巢膝蘆貽規於我也。六子者殆庶乎。如怡之槵豆也世之持念者雖優波尼殺曇分不及其一邪。
元亨釋書卷第十一　終

元亨釋書卷第十二

濟北沙門　師錬撰

感進四之四
園城寺行尊
最福寺延朗
安部山慶圓
三輪山常觀
性蓮法師
三井寺齊遠
海部峰廣恩
蓮藏法師
持法法師
法蓮法師
忍行五
興福寺賢憬
仁耀法師
睿山慧亮
三井證空
戶隱山長明
釋迦院文豪
慈光寺延救
無動寺仙命
楞嚴院信敬
蓮照法師
那智山應照
春朝法師
修禪寺永助
三井叡効

釋行尊。諫議大夫源基平之子也。年十二投三井明行出家。性好頭陀。十七潛出園城涉跋名山靈區。適行山路。日晚獨臥嵓間。於時一童子俄來與枕。又到河岸無舡不得渡。童子忽撐舟來。已著岸。童舟共失。麗景殿妃長曆帝之嬖尊之養母也。染邪疾。尊呪柑一顆獻之。妃嘗之病立愈。櫃口齋宮公主延久帝之女。受妖病。勅尊加之。尊裝少女令移魅焉。公主即痊。而失魅女。大索五日遂不得。尊持念焉。偶宮殿藻井之上有嘘聲。尊曰怪也。便令護法神取之。

藻井破罅纔寸餘。魅女自罅隙出下。君臣怪嗟。永久元年九月上患腰起居不便。宣尊持念。尊侍傍讀千手大悲經已。奏曰。試授御手。帝垂臂。尊持之扶起。玉體無恙。有官人被妖魅斷其髮。上勑尊加持。尊又飾幼婦持念。其女懷中出小刀曰。或令我執此刀切彼髮耳。蓋宮人相妬為巫蠱也。尊曰。續髮焉。女曰。難矣。尊曰。汝已能斷豈不能續乎。威怒甚厲。少女以手結髮莖莖如元。無復瑕纇。又才人藤氏有狂疾。其魅託稚女喫故紙數十幅。宛如羊焉。或試以尊之墨跡與之。女縮手惶怖。野州刺史平師季妻邪疾不愈經年乞憐於尊。尊送袈裟曰。病時覆體如教病愈。而左右手不持。尊呪桃子令啖。其手尋差。永久四年補園城長吏。保安四年任延曆寺座主。長承三年勑為眾僧上座。尊居三井平等院。初至越海之濱宿一家。家女有病適亡。父母就尊乞命。尊坐屍側護身。亡女忽蘇。父母大悅嘲尊以其地。越之厨浦是也。見今尚為院莊焉。

釋延朗。姓源氏。但州養父郡人。大將軍義家四世之孫也。父義信。母平氏。生有奇相。頂尖出似肉髻。目有重瞳。父鍾愛焉。累世珍甲祕仗皆委焉。兒雖受重寄無居俗志。自喪二親潛往郡之比曾寺讀釋典。年十四投園城永證學台教。翌歲出家十八歸比曾 之舊院專讀法華。二十九歲從睿山東塔山王院觀嚴受兩部灌頂。又就養全阿闍梨稟密印灌頂。平治元年大僕卿源義朝與金吾大將軍藤信賴取官誅。於時都督長吏平清盛率官軍圍朗坊曰。師與源寇為近屬又相黨乎。實聞源家器仗皆委朗欲奪之。便放兵掠捕。朗欲不免一心誦法華。於時端正天童自空降來曰。我令諸兵士皆熟睡師早逃去。朗奔出。官兵數百眠而不知。自茲歷諸靈區到奧州松嶋宿一古寺。廢頹甚。又無人。清旦里人捧珍膳而至。問其故。對曰。今夜夢或告曰。貴人寓廢寺。子等盍餉焉。故我獻供耳。丹州官吏盛則渾家染時疾。二女已死。徒僕皆臥。相語曰。非朗公加持我等不起。懇乞。朗曰。我聞子之屬好畋獵。以故受癘苦耳。汝等若止狩捕我可施微効。盛則則作誓付朗。朗以香水灑生飯與之。諸病人啜之皆愈。二女已亡三日。灑香水而蘇。語曰。羅剎二人追姉妹過嶮山至一所。宮殿高廣。從樓門入庭上。繫數百罪人。時一童子白冥司曰。閻浮提日本國延朗上人加此二女。願赦還本土。於是玉冠之人低頭曰。日本國持妙蓮華者延朗師之事。不可違也。童子率我二女出曠野。告曰。汝等罪障深便來此。而朗師德威令汝等早歸耳。汝等返本國歸佛乘奉朗公。我等二人向野南行而蘇。松尾神主相賴患眼病。已而盲。訴朗曰。我罹宿累已失兩明。然歸師者久。豈無方便。朗曰。汝若隨我言試効微應。神主曰。我已鄉言歸者久矣。況師之言豈有戾乎。朗曰。子之五鷹一時放去乎。神主便命其子賴康韝五鷹來石室前皆盡放去。朗持念者須臾。應時舍利出現朗便令賴

康藏神殿。乃語神主曰。儞目早愈。神主兩眼見物如故。建久七年七月雷拆松尾祠後大杉。其木覆神殿。欲斬之其材大難制。恐壓神殿。若不伐異時小風雨又自壓倒。神官與朗議。朗曰。莫慮早伐。又杉中有寄事耳。已而加斧。其杉如相避仆殿側。於是乎杉中忽迸出一漆塔。其內又有銅塔盛舍利。神官見之益信朗言。便於祠之南建三層塔安之。池側有大石。白髮老人常坐其上。朗問。何人屢來此。對曰。松尾明神也。擁護師法。又聽師誦法華故數來耳。又我奉師給使者二人以是為信。言已不見。朗謂徒曰。二鳥來馴子等莫恠。果如神言。其石今尚在焉。爾來二鳥外餘羽不入寺。石室之前有一竿竹。朗常愛洗。都人有與朗善者。適見之不知朗之所愛乃斬之。朗尋而見曰。夫竹者虛心而便空觀也。故我約為歲寒友誰夭之乎。其日斬竹者携兒來也。兒游戲池亭。俄仆氣絕。舁詣朗所。朗持念。兒稍蘇謂曰。童子自石室出。手執杖曰。汝父斬上人竹故我罰汝耳。以杖打我。我故死也。今受師救護亦活也。丹州海濱有神祠。巫祝事釣漁。一時大祝有病俄亡。聞朗之感應諸祝來乞法護。朗持念加持。大祝便蘇於是乎闔家相謀曰。朗師於世財無取我等將如何。朗聞之曰。有一事聽我乎。祝曰。師之靈恩豈有乖乎。朗曰。願祠前海壖數里禁釣屠。此事雖吾願。又汝等之福田也。巫祝聽。朗立四至而放生。朗又報神創三十講法會每歲修之。其後一州助喜為大會。於今轉盛。安元二年移松尾山南最福寺。朗穿大池建殿其上。檀信四來荷鍬钁施巧力。朗語曰鑿三尺靈寶出。得之者子孫富。檀越源康俊聞之信受。加力掘焉。果得一面古鏡。康俊及眾人嚮朗言之不食也。康俊遂累巨萬。一日癩人來啟曰。夙障重受奇疾。願師道力救我困厄。朗起慈心便於浴室傍親自洗濯。數日後眉毛漸生膚體鮮滑。源廷尉義經以波州篠村莊為朗衣盂資。朗拒焉。廷尉強之。不得已而受。然不課稅。先免三年租。後或有輸者。朗曰。眾民之中若唱一萬彌陀之號免一石之租。以故民家殷富。戴躬恩惠轉後州有平資長。將軍維茂之胤也。家世雄武亦自負焉。一日謁朗。令僕持大弓長矢。朗心怪疑語曰。壯哉之器伏也。試彎架看。資長乃引弓。其矢餘一握。(圖俗量箭以手握為準。蓋一握者四指也。)朗指其餘曰。是處誰箭乎。資長靦然不言逡巡而出。朗語人曰。資長矯侈僭其器仗恐有不終耳。壽永之間源義仲舉義兵應官軍。資長黨平氏拒義仲。中夜空中有聲曰。資長與逆賊罪不赦。資長聞之身體不能動。至曉而亡。朗之機鑑類之。承元元年冬謂門弟子曰。我當與世尊同歲。今年七十八來年其歸寂乎。我滅後山西高峯光明出。其所我墓也。汝等知之。至除日入道場閉戶斷食轉經念誦。明年正月四日五更啟扉出。告諸徒曰。我住世只八九日而已。十二日

夜端坐向西結八字印唱三佛號吉祥而逝。天樂妙花瑞雲奇香。石室內外薰靄散響。西峯果有光。諸徒立塔其地焉。

釋慶圓。鎮西人也。初止和州安部練若。適亡一徒。見九相變固心真諦。自此事抖擻。晚居吉野龍門寺親書大般若。華嚴。大集。大品。法華。涅槃等經。并台教玄義。止觀。文句。及真言諸儀軌等多武峯有方等法師。數月狂疾不差。迎圓加護。圓已入房。等努目瞰圓。乃取火箸燒爐中手弄之。圓軟語慰誘授菩薩戒。等微笑曰。我燒火筋且欲爇師耳。聞師誦戒我心已降。圓曰。公誰乎。等曰我是覺錢也。此等法師誣我曰。即身成佛之印言者錢也始作之。殊不知三國相承兩部祕奧之印明也。我只欲言此事屢託等耳。非鬼魅之類矣。圓曰。幸甚今逢名德得聞未聞。清談良久等病即痊。圓詣八幡神祠。近祠一女立家門悲泣歔欷。圓憐問之。答曰去夜我母逝。我寡不能舉喪。是以泣耳。圓愍女言中夜負屍葬于野。又謂神忌穢不可近也。其夜宿馬場小舍持念回施。五更一男子來曰。無緣悲葬我歎之厚。有何忌諱。速來晤語。圓大異。乃與男子至祠前。於時天未曙人人皆眠。圓思男子異人溥諮法義。男子一一答釋明白。又曰。我本身者釋迦文佛也。言已不見。後圓見弘法大師親畫神體始定神感。圓屏居室生山一千日。還過河橋。忽貴婦人至。儀服甚靚。而不露面。啟曰。願授即身成佛印明。圓曰。姊誰人乎。授受之間必稱名字。我思聞之。女即稱曰。善女龍也。圓付印明。女曰。過去七佛傳受皆然。亦無違錯。圓曰。我欲見女顏。答曰。我形可畏人不可見。而尊旨難忤豈可已哉。便騰空中出右手小指。其爪長丈餘。放五色光倏忽隱沒。圓供舍利一千日。散日壇上及花瓶皆出舍利凡千餘粒。諸徒分持焉。貞應二年正月二十七日結印誦呪曰。我口中甚甘如含甘露言已寂。年八十四。預三日言死期。荼毗後其地有光大如蓋。徒眾不知以為光恠。其明松葉可數。明朝相尋識荼毗之所。初和州有堯信者受狂疾。凡有加持慢罵揮斥。其父屈圓乞救。圓到彼。信恭敬作禮曰。比來陋比丘賤巫覡厲聲呼號。故我行慢罵耳。今值高德又幸也。願辟左右通我夙志。圓去看病者。信曰。我先世欲灌頂不遂而亡。餘執不竭受生鬼趣。而法力所感尚有神威。亦無苦報。願垂悲救受與密灌。圓曰。公何人乎。名字為誰。信憮然有恥容。圓曰。已乞授受豈忌名乎。信良久曰。我是中院僧都某也。圓乃授灌頂。信歡喜合掌曰。宿望已足不久居此。不知深恩以何酬乎。圓曰。我世心已灰。餘何言乎。而有一於此。自古碩師宿德臨終或遭魔撓。子稱威神有意乎。信曰。我徒神力者三百有餘。伺人死作嬈害。我誡其不敢為也。言已信病愈。圓臨亡無少撓。豈信之靈受言與。圓耐勤修。一日之課五六人相分作之而不及也。其護摩者至臨終先日云。

贊曰。慧難知矣。進易見矣。難何。解也。易何。感也。是以慧者不必無感焉。進者不必無解焉。今之所傳者易者乎。其難者諸師之蘊也。學者思之乎。

釋常觀。止和州三輪縣。修密教。有慈行。嘗詣吉野神祠。路有稚子兩三輩。相對而泣。觀見其幼而哀慟。怪問。其尤長者女子年十二三許。答曰。我等新喪母。父遠去未歸。母病時疾。里人懼諱而不弔。我幼婦人諸弟益弱。不知所以喪。故聚哭耳。觀聞之悲。謂我今業詣神祠神甚諱死穢。然我寧廢此行。不忍避此喪也。吉野之詣其又可改創未晚耳。便葬近野欲還三輪。然身俄強梗不能動。乃自思而言。我已約神。中途犯穢而歸。神其尤我乎。又思我行悲救不邪倦也。神豈多忤哉。試向吉野而進。體無妨矣。復思我已無恙乎。猶赴三輪身如前。不得已行吉野。既而近神祠。尚不敢邇。憩一樹下而持念。時有巫狂舞而出。遙看觀曰。彼比丘來此乎。觀聞之以為。我觸忌而來。神又知之耳。悚慄悔來。巫漸近曰。奉待者久何暮乎。我不忌諱只貴師慈濟耳。巫乃扶袖引到殿前。觀感泣而歸。

釋性蓮。有至孝。國俗以亡人骨窆高野山。蓋伴弘法大師龍華三會之大定也。蓮携母骨赴高野。路次尾州熱田神祠。神官多忌諱。蓮不得宿。便寓神祠南門側。蓮知神忌觸故又不敢近祠也。其夜大祝夢。神官偉儀告曰。神寄語於祝。我今有高賓。乞君致珍饗。詰且使使者檢祠中無人。門側只蓮一人而已。祝延蓮。蓮告觸事。祝曰。我夢受神託。知神之不忌師也。乃供盛饌。送著紀州。

贊曰。淫祀多忌諱矣。巫祝之者或矯大神焉。而大神又或有之。蓋令斯民潔肅三業矣。夫塵世之人紛紛擾擾無須臾階于道矣。庶使嚮我之間少有復焉。是所以大神忌諱之立也。豈尋常淫祠之謂哉。今見觀蓮之事益證我言之不削矣。戲乎神也達乎。

釋齊遠。周州人。居東寺。後歸故國。住玖河郡三井寺。其地觀世音靈場也。遠誦法華供香花有年矣。一冬大雪不晴。人迹已滅過十數日。遠耐飢寒誦供不輟。會一狼來庭殺鹿而去。遠煮鹿喫誦供如先。雪霽。里人來訪思遠飢死。尚能熟烹。揭鍋見之柏葉耳。里人問何煎柏葉。遠見肉變拍得未曾 有。具說本事。里人嘆曰。觀音慈力妙經威力并師修力有此靈應。然後見觀音像腰股受切削。乃知猪鹿皆大悲變化之作用也。遠近聞見皆生淨信。

釋廣恩。居吉野山。海部峯寺。志意精勤晝夜誦經王。暮年沉痾疲極不能起。弟子勸曰。師病甚重。不治恐入死門。如來許病比丘食肉。願得藥魚充治膳。恩不聽。弟子乞甚勤。恩不能拒。便令童子行市買八尾魚。中路逢俗輩。見童知是恩之役問曰。櫃中何物。童保恩故俄答曰。妙法華也。俗見櫃外魚汁流出又有臭氣。語童曰。

汝所荷者魚耳。何言妙經。童曰。已是妙經何曰魚乎。俗思童偽相議稠人中開櫃辱之。既而擬櫃。童子中心誓曰。我師多歲淨業今罹困病。為藥買魚非耽味也。俗輩若見魚非貽師羞恐得謗罪。況妙法華我師之所持也。願魚變成經令避恥過。俗輩啟櫃妙經八軸而已。相顧棄去。獨作疑地者趁童子跡屏寺院伺聽。童向恩述此事。恩生希有心不食其魚。俗側聞跳出恩前五體投地悔謝曰。雖是實魚依師道力變作經卷。然我愚癡故起疑猜。自今厚結檀信之交矣。

贊曰。心之有慕也猶舌之有嗜。嗜慕雙忘真解脫也。我復恩遠之事。栢葉者無味也。蓮華者法味也。豈二子之差次乎。世只取于靈感者淺而已矣。

釋蓮藏。居大安寺。持法華。有法嚴者住同寺。持華嚴。二人移雲州。相去不遠。各占庵所。持二經者二十年。法嚴日食不給。常患之。神人語曰。我為師每日送供。願不為慮也。嚴悅。自茲日日食時神捧美饌而至。嚴以為藏不如也。一日語神曰。明日送二分。我餉藏師。神承命而退。翌朝呼藏曰。我有美食思分子。藏至。食時供神不來。二人相待至晡。不得已藏歸房。神乃擎供而至。嚴嗔曰。何晚。神曰。我早臨此。會梵釋四王大威德神護藏師故。是庵上四方空中圍繞充滿。我小神不得近傍。今諸天已去故我持來。嚴聽神言。自擎神供詣藏。語之懺說先志。

釋持法。專持法華。故立為名也。亦有誦金剛般若者。自號持金。二人住一山相去半里。子結草廬守戒律。勤持誦。持金比丘不待乞求齋食自然。晨糜午飯菜蔬茶果悉皆備足。持法比丘齋厨不給。干檀越事分衛。持金起憍誇心而作是念。我持誦專注經法又優。故諸天善神送供不乏。彼持法者持念散怠經法又劣。是所以汲汲行丐也。一時法之童子來。金誇以天供事。又曰。汝師如何。童曰。我師無感依人作活耳。童歸白師。法笑而已。次日持金天供不至。乃至二三日。金作大驚怪。於般若須菩提屢生惋恨。夢白眉清癯一僧謂金曰。汝雖誦金剛未足得法利。何橫生怨恨乎。金白曰。多時送供為誰。僧曰。持法比丘憐汝。故使十羅剎女每日送生耳。汝不知之。返生憍慠於法耶。金覺後知老僧是須菩提也。抱大慚恥。乃詣法庵禮拜悔謝說夢事。又曰。多時見惠甚為大賜。而數日不送何邪。法笑曰。比來適忘出生耳。自今後不敢忘也。翌朝金之供如前日。金益傾伏云。

贊曰。予見慈恩南山之事與此相似。雖佗方異人亦相竝比何哉。蓋介勝負彼我於懷者動有此等之怪恥。是又神靈矯其操履也。非經法之崇庳矣。

釋法蓮。奧州人居興福寺。後歸鄉持法華。同郡人有光勝者住元興寺。業最勝王經。勝亦反里持經益勤。二居密邇道交和睦。勝語蓮

曰。兄捨法華持最勝。所以者何。此經一切經中最為第一。故題云最勝王。是以朝廷建御齋會。講論此經護持國家乃至諸州往往講說此經以為勝業。所謂藥師寺最勝會等是也。一人所崇萬民所仰理趣深妙効感迅疾。兄早棄彼就此。蓮曰。一佛所說那典不貴。久持妙經不忍唐捐。勝默而止。然時時挑之蓮不介焉。春時勝語蓮曰。我等各有齋田。今歲田中不下種子不須耕耘。以經威靈能令豐稔。臨西收時視穀多少取經優劣。兄若不如願改所業。蓮許諾。乃分田畝相齊而誓。經春入夏勝之田苗秀滋茂。蓮之畝草菜繁蕪牛馬徑踐。未有一莖秧也。村里皆輕蓮重勝。孟秋之始蓮畝中生一莖瓠。枝蔓布濩盡田之畦畛。過三二日乃花乃實。一一瓢大如罌。纍纍倒偃充塞田中。蓮破一瓢盈中純是白粳粒米精長。以斗量之過五及六。蓮先供經王。次施隣里緇徒。又送于勝。勝信伏嘆愧。趨蓮處作禮悔過。蓮告境內普施瓢米。遠近競取。隨取隨長。至窮蠟而歇。聞見傳語稱為異迹。

贊曰。蓮勝之事迹偉特也。而世以經言優劣者大惑也。昔宋國持涅槃。金剛者二人俄亡。閻王嚴飾金座坐金剛之持者。又以銀坐居涅槃者。二人在世又相善。涅槃者思而言。大經四十軸我日課必終之。金剛者一小經彼誦不過數卷。閻王待人亦有偏乎。王知之曰。持誦貴專心不在多寡。師讀大經貪多不精。彼誦金剛卷少易專。是以座自分金銀耳。今二子之事相似而同矣。勝以感應視經持而不醇者乎。況畜輸贏于其胸乎。是所以其不如蓮也。不必經之尊卑矣。蓮之不介者其吞勝而不蒂芥乎。以故一匏終歲四來不計。嗚呼無作之妙用與。

忍行五

釋賢憬。(【考】憬一作璟)世姓荒田氏。尾州人也。妙年出家。受唯識于興福寺宣教。天平勝寶七年東大寺戒壇成。鑑真行羯磨法。憬為受者。是本朝登壇受戒之始也。性耐苦勵勤修不倦。剝皮然指。兼有才識。延曆十二年朝廷議遷都。勅憬見新都平安城地。是歲十一月寂。壽八十九。

釋仁耀。姓石寸氏。和州葛木上郡人。幼歲薙染。姿儀卑矮取侮路人。而不以介懷。性慈愍餧身蚤虱蚊蝱。忍可苦辱遊心真乘。延曆十五年二月卒。歲七十五。

釋慧亮。睿山圓澄之徒也。兼稟慈覺。初仁壽帝二皇子爭儲位。帝令二皇子鬬藝。勝者得立。兄惟喬弟惟仁藝敵不決。乃賭力士相撲。於是乎惟仁有羽林郎將善雄。惟喬武衛將軍那都羅。羅膂力過善雄。惟仁付亮乞法救。亮乃修大威德護摩法。惟喬又請真濟闍梨

修密供都下皆知二沙門加二皇子也。期日二人角力。那都羅身體壯大。善雄不及。群臣以為惟仁失也。于時惟仁馳使告亮。亮即執獨鈷杵鑿破頭惱投爐火而供。持念須臾。忽大威德尊所騎青牛大吼一聲。此時宮中善雄得勝。惟仁立為太子。貞觀帝是也。

釋證空。事三井智興。興有病醫治不効。時膳部郎中安晴明究陰陽術權死生柄。其徒乞救。晴明曰。法師病不起。而我有祕符。若以人相貿其方可試。初興之徒患興之疾者多矣。皆曰。我等若有命之可代者亦不辟焉。及聞此事蹇縮而不應。空謂為法捨身大士之常。況貸師死我何遜乎。便報安氏。同侶無不嘆伏。空曰。我尚有一母年甚老矣。若不往辭恐懷愁恨。我又欲一見赴死耳。乃往母所陳事。母曰。我老命在旦暮。唯憑汝。汝其先我乎。然思汝生替師。雖死不遺妾於地下矣。如汝勇勤我欽歎人。空歸房。安氏施方興疾立愈。空早受病身心惱逼。空生平持不動尊。此日非夢非覺明王告曰。汝已代師取死。我豈不換持者乎。空感喜禮像。熟見其像似有病質淚滴在眸。應時空疾即痊。都下傳為奇事。其畫像淚痕如新。後又不滅。世號泣不動尊。門屬祕授今尚存焉。

釋長明。居信州戶隱山。年二十五絕言話誦法華。亦三歲不偃臥。一日語人曰。我是一切眾生喜見菩薩也。來此所燒身已三回。今命盡上兜率。便積薪入內自焚。康保年中也。

釋文豪。居洛城四條坊釋迦院。治曆二年五月十五日於鳥部野積柴燒身。傾都瞻禮嘆嗟。

釋延救。武州慈光寺賴算之徒也。性堪勤苦。嘗修千日護摩時時絕食。至散日本師賴真設飯食與之。救辭曰。我自今不飡欲知絕食之命期。又願回此苦修施六趣之渴乏眾人勸解而不許。語弟子勝命曰。我今斷語飡而自居。非吾呼不來告。自爾不通謁。過旬呼命曰我今命竟。汝速往房言此事。命走算所告之。相去一里許。算馳來開戶見之。手結定印跏趺而化。異瑞甚多。壽七十。治曆年中也。

釋仙命。波州人也。幼上台山無動寺。習止觀兼念彌陀。額鏤三寶字。背黵圖彌陀像。嘗詣四天王寺於聖靈堂對尊像然一指。時青龍現形。(太子手印記曰。池有青龍。護伽藍佛法。)指燈竭龍形隱。又往往詣靈場燭手足指。或空中有聲讚嘆。或夢裏人告往生期。嘉保中普告山中向西而終。年八十三。

釋信敬。楞嚴院之學徒也。常誦法華。嘗曰。我斬剝皮骨供養佛法。先截手指供不動明王。次斬左脚骨刻釋迦像。然脛骨漸愈行步如故。次剝手皮圖彌陀三尊像。次以手指骨刻觀自在。大勢至二像。天承二年六月染時疾病苦劇甚。弟子恐訝。臨終念彌陀安祥而逝。

釋蓮照。持法華。有至行。寒冬脫衣與凍人。飢朝讓食於餓者。好服弊衣。餧蚤虱。又裸入汙池食膚於蜡蛭。一時入山唼身蚊虻。體大脹受大苦。友人告曰。此脹處蚊子也。炙藥交治乃愈。照曰。若治脹處殺多蚊蝱。豈害多生活一身乎。寧取命終不忍為也。忍苦誦法華。夢聞僧讚曰。善哉沙門憐愍有情。慈悲室深忍辱衣厚。以手摩挲脹處。夢覺痛息。忽脹肉破裂無數蚊蝱飛空而去。其瘡自合亦無痕。

釋應照。居紀州那智山。誦法華。每至藥王品隨喜追慕。一時絕穀鹽膳松葉。久為燒身之具。至期著新紙法服手執香爐跏趺薪上。向西方勸請諸佛。發願曰。我以心獻妙法蓮華經。以頂獻上方一切諸佛。以脚獻下方一切諸佛。以背獻東方一切諸佛。以胷獻西方一切諸佛。以左右臂獻南北二方一切諸佛。以五藏獻五智如來。以六腑與六道眾生。回此善根向無上道速得菩提。言已自把火燒薪。手結定印口誦妙經。煙焰上騰經音不亂。煙薰郁勝如沉檀。火滅後餘光曜映山谷明朗。無數異鳥和鳴飛翔。其聲如寶鈴。遠近聞見莫不敬嘆。

釋春朝。音韵和雅巧誦法華。聽者忘倦。嘗見囹圄悲嘆曰。此惡輩已依惡作來此。今受嚴刑。思想皆惡只益惡報。以何方便令種佛種。乃發大誓曰。吾當七返入獄。令諸囚黨聞法華。便往貴家盜銀器。家人捕之付獄吏。適皇子知朝者下令於廷尉曰。春朝者善人也。不加刑。朝已下獄誦法華。其聲雅麗。罪人聞之合掌淚下。廷尉夢。白象群獄所諸天無數下來。大理卿又夢。普賢乘白象手捧鉢飯立獄門。人問所由。菩薩曰。供春朝。大理驚告廷尉出朝。廷尉又說夢相顧嗟異。如是出入五六度。廷尉議曰。朝之罪狀非一二。虛靈免刑。恣心作盜。且准輕刖二足止後犯。獄吏追朝往北野欲行刖。朝舉聲誦法華。其音哀婉。官吏感泣而捨去。其夜廷尉夢。天童告曰。朝上人為救囚徒七回入獄。是亦菩薩大悲方便也。朝後散死北野。髑髏每夜誦法華。有一僧取髑髏收山中。

釋永助。甲州人也。移豆州修禪寺。暮年限一期修念佛。期終積薪焚身。其煙遙騰成紫雲。邑人哀感敬嘆。

釋叡効。早入園城寺學教法。後聞石間寺觀世音靈感往彼。晝絕佗語讀法華三千部。夜禮像各三千拜。六時修法華密供。過三歲已回此淨業為安養資。便上道場西南大葛樹投身。時神人以袖受効不下地置別處。効又投。神又受。如是三度。効思時之不至歸三井。朝廷聞之授僧官。此像泰澄法師之所刻。葛樹者像林之餘枡也。

贊曰。梵網曰。剝皮為紙刺血為墨折骨為筆書寫佛戒。楞嚴曰。其有比丘。發心決定能於如來形像之前身然一燈。燒一指節。及於身上爇一香炷。我說是人無始宿債一時酬畢。乃至若不為捨身微因。

縱成無為必還生人酬其宿債。法華曰。若欲得菩提者。能燃手足一指供養佛塔。勝三千大千珍寶供養。諸修多羅此類多矣。故先佛救鴿飼虎。七處受刃。千瘡然燈。不勝枚舉焉。是大士忍悲交發之見者也。不然爭知吾堅志確操乎。又夫烈士之赴難也。猶遊戲娛嬉者何。彼蹈義而不移耳。嗚呼義者道之一岐也。彼尚奮勵感激者若斯。況與道為期乎。宜哉諸子萬苦千楚不磷不緇乎。蓋與道為期也。是以刻佛斬骨圖像剝皮。入獄陽盜取死自飢。頭腦碎而偶牛吼。力士倒而潛龍飛。委命也尊像淚滴。投身也神人袖披。身薪指燈分光輝於六趣。蚊餐蛭膳貯資糧於三祇。善哉佛子健忍深悲者乎。

元亨釋書卷第十二　終

開板幹緣比丘單況命工刊行

(大日本國延文庚子六月有　旨入毘盧大藏海藏禪院寓居比丘單況等謹募眾緣恭為今上皇帝祝延　聖壽文武官僚資崇　祿位國泰民安命工鏤梓與大藏經印板共行一部計三十卷㫆貞治三年甲辰正月　日謹題)

元亨釋書卷第十三

濟北沙門　師錬撰

明戒六

東大寺普照
唐國法進
唐如寶
道忠法師
豐安法師
東大寺明祐
中川寺實範
泉涌寺俊芿
西大寺睿尊
極樂寺忍性

釋普照。共榮睿入唐留學。照思本朝戒學未備。勸福先寺道璿東遊。又誘楊州鑑真來朝。真泛東溟凡五度。風濤之難數返數赴。其天寶七歲漂日南國之時。榮睿沒海。照遂以天平勝寶六年共鑑真乘遣唐副使大伴胡舶而來歸。勅居東大寺。

釋法進。唐國人。姓王氏。天平勝寶六年伴鑑真來。聖武帝同真寵遇。七年築壇于東大寺為國受戒。真為戒師進為和上。寶龜九年寂。

釋如寶。唐人。與鑑真至。戒行清白。當代貴之。延曆二十三年正月奏開律講于招提寺。弘仁五年正月化。

釋道忠。事鑑真稟戒學。真稱持戒第一。嘗為東州導師好行利濟。民俗呼菩薩。

贊曰。佛教之為利也先他後己。不唯己為利。又令佗為利。是釋氏之綱紀也。照帥勸璿伴真有意於此乎。睿雖沒獠鄉名不亡矣。我尋真之徒不得。纔得二三子立為戒之稱首焉。

釋豐安。參州人。招提寺如寶之徒也。大同帝貴為師。

釋明祐。賀州人。精戒律兼稟華嚴于觀宿。以選為東大寺戒壇和尚。每夜宿大殿不寢房舍。應和元年二月病。先死三兩日飲食不進。徒弟白曰。不飡久乞羞糜饘。對曰。齋時已過況期又邇。生平無之今豈破齋乎。及晚念佛而化。實十八日也。年八十四。

贊曰。律學中微。我求而不得矣。纔一二而已。豈其中世少人乎惜哉。

釋實範。姓藤氏。諫議大夫顯實第四子也。初投興福寺學相宗。又如醍醐寺稟密法于嚴覺。先一日覺夢青龍出庭池矯首噴清水。翌日語徒曰。今日當有受法人。汝等灑掃道場。果範來。由是傾底而付。又之橫川明賢所問台教。範博搜索諸宗。而嘆律幢之傾頹。乃加心披尋。乃念言。戒貴傳授。我雖精究爭奈無師承何。一夕夢自招提寺以銅筧通清水于中川。覺以謂是好相也。明曉赴招提。招提蓋真後數世院宇廢替僧眾不居。庭廡之間半為田疇。範入寺不見比丘。傍有禿丁鞭牛耕田。範問曰。真公影堂何在。禿丁指某所。範亦曰。此寺無比丘乎。對曰。我雖不全儀相。曩少聽四分戒本。範生難遭想。就乞禿丁。便脫犁放牛洗手畎水。將範向影堂中親授範。已得戒傳。即歸中川寺開律講行羯磨。自此戒法亦興。初範在忍辱山。採花至中川山見地勝形。申官建伽藍。名曰成身院。後移居光明山而終。嘗大經要義七卷。貞慶法師稱之。

贊曰。予見支那本邦之律法相似同矣。蓋絕而又興。興而又絕。其興絕之間世有人乎。今考範師之事有人之謂也。善哉銅筧之好相也。吾佛亦或言之矣。

釋俊芿。字不可棄。肥之後州飽田郡人。母藤氏。生而數日母棄樹下。經三日無禽獸之害。阿姊往見之以為祥兒抱歸付母乳養。以故芿自字焉。或問所由。曰。十八部主中有大不可棄者。生棄池中。魚鼈戴浮三日不死。然後收育。予生似之。故自名云。四歲時母氏與其舅池邊寺珍曉。童稚而有老成之量。七歲讀佛書。纔終即誦。又暗書焉。九歲州之味木縣吏源憑見其幼敏而無父養而為子。名曰自然。一日憑延飯田山寺僧讀大般若經。憑以芿聰慧雖稚而加僧員。諸比丘讀至奇字試問芿。芿應對詳悉。諸僧相顧歎異。共字之曰音義。十歲讀妙法華。六日而終焉。十四從飯田之真俊學顯密之教。俊者台嶺座主忠尋之上足也。芿苦學精勤邁於倫輩。十八落髮。十九於大宰府觀世音寺受具戒。一日忽喟歎曰。三學之中戒惟為地。若不精持豈為佛儀乎。便脫蠶衣著褐衫。負笈出西關。往來南北二京扣諸名宿。於大小戒律篇聚開遮不通之者多矣。建久九年欲入宋。謂諸徒曰。我思赴異域求勝法。若不精勵豈堪傳授。我又自見志操。始十月十六尅一百日絕眠精坐。以徒三十人結為六番。置一杖子約。各更持待睡昏時以杖撞醒。歷期無怠眠。所命禪杖屋角塵深。百日之間晝乃開講夜伴番眾。身無少惱。目精又不有患。十年四月率秀賀二弟。附商舶泛滄溟。五月初著宋之江陰軍。即寧宗慶元五年也。遊歷兩浙名剎登天台蹊石橋。蒸餅峯左麓供茶於五百應真。又到雪竇中嵓咨受禪要。入臨安登徑山見蒙菴聰禪師。明

年春還四明。依景福寺如庵了宏律師習律部之三年矣。持犯開遮宿滯氷泮。嘉泰二年冬離明州。又之台州居赤城寺。明春禮智者塔。安居佛隴大慈寺。所謂銀地者也。偶有浙西僧盛稱北峯之道譽。芿激慕蘭之志徑到秀州華亭縣超果教院。印開室湔拂歷八歲天台教觀精習無遺。印或時召門人十輩。試問曰。四明兩重能所之義不用繁詞。以乃祖疏記之文加判釋否。時諸子各呈句解。芿預數焉。答曰。知陰即是而能成觀。(此輔行記句剽略而答。)印顧諸徒曰。和芿得之矣。又就台教觀出五試問。唯以芿答為最也。台教中至有律義印避解於芿。儕輩因而受諮決者多矣。印嘗謂曰。傳聞日東盛行密教。恨此土一廢不起。子已通串盍廻既倒之瀾乎。開禧虜寇。印薦奏芿欲習李唐不空三藏安西結壇例。然時論骫靡而不果為可惜而已。芿就律部出五十三問。時之律匠皆為難答。而莫不把翫誦憶。臨安府不空教院了然。芝嵓淨懷。淨梵妙音。會稽極樂院智瑞。各送答釋。皆不合芿意。歸朝後。日山寺守一作答釋寄送。嘉定三年秋往四明問鄉舶。其歲又如溫州。依德廣律師學七滅諍。四年春二月反明州乘蘇長六船駕溟波。著長州安武郡。乃建曆改元辛未歲也。其傳來者佛舍利三粒。律宗經書三百二十七卷。天台章疏七百一十六卷。華嚴章疏百七十五卷。儒書二百五十六卷。雜書四百六十三卷。凡二千一百三卷。其餘圖畫碑帖器物等甚多。榮西禪師聞芿來歸。馳至博多慰問曰。早入京師。四月至建仁寺。西公率眾迎接。請待甚厚。二年冬移崇福寺。寺有銅支提。俗呼曰金塔者也。貞應三年十月依肥州刺史平家連請入相州。時武州刺史平泰時領天下兵馬副元帥。德威兼重。聞芿入境。屈鎌倉營受菩薩戒。故大將軍源公夫人特進平氏法諱如實請受戒法。嘉祿元年十月於泉涌寺建重閣講堂。明年之春華構落成。即結安居并啟講席。二儀皆式宋土法制。軌則肅如也。台律二宗指泉涌為中興。元曆上皇於賀陽宮受菩薩戒。妃嬪公卿蹙渴請木叉者多矣。建曆帝亦受菩薩戒。有貞慶法師者相宗之穎也。常嘆律幢之頹壞。及芿之歸自抱事鈔取決焉。而喜宿霧之有披也。然至戒業二疏集義鈔等未暇置喙也。芿盛唱四書兼講諸部。初肥州官吏秦氏有女。年十九臥病彌留。醫巫拱手殆屬纊。輿至寺邊。蓋秦氏與芿有檀契。女若不起託拯濟也。已而溘然。父壻悲慟而失度。母氏泣啟曰。我女平居常志剃落。而父壻及妾不聽。不幸早夭。不啻不果素志。亦妾等之遺殃也。縱雖屍髮願賜薙墮。又救拯之一端也。芿愍而剃髮而授戒。母又哽噎重啟曰。既遂夙志。恨女之不知也。豈無法力之得片時蘇息乎。願師加慈驗令我女知本志焉。芿憐焉即課密法。及後夜女身暖回。到明相吐氣眼開。禺中時言語如常。父母歡甚。問女曰。汝陰中有何事。女曰。我唯詣上人灌頂之室聽法事覺身爽朗忽如夢醒不知死也。父母

携歸家。遠近聞見莫不嘆敬。宋開禧三年春秀州華亭縣章氏白北峯曰。男蓋銳臥病已三年。願受法救。縱不起猶得飡一匙又足而已。印曰。日本苅智行兼備。我不如。子其索彼焉。章氏哀懇。苅修不動使者法期七日。至第四日壇上東北角燭無故自滅。苅啟印曰。密壇有軌。息灾壇燈燭自滅悉地不成。請不終期即破壇。印曰。章志可憐乞勿破壇。專凝丹誠祆豈勝德。苅不得已訴本尊曰。密乘軌則此方已絕。只我本域獨能煽傳。我在異境適修供法。若失感應非唯貽本邦之耻。何不激此土之一感悔乎。精修益堅。至第七日蓋銳起坐飡啜。合家悅懌歎未曾 有。章氏嘲服用九種。印迎苅喜曰。章氏之子無恙乎。苅曰不也。印曰。何起食如常哉。苅曰。密法中不動深悲之尊猶回定業者十八旬。章氏之事是也。願師有重啟莫再命也。後三月蓋銳果殂。又同州周氏妻產數子。每產甚艱殆入死地而其兒皆夭。又孕焉。已經三年未誕。劇苦不可言也。醫巫無驗。周氏詣超果乞救於印。印語周曰。苅法師蘊密教祕軌。吾聞彼法鎖宿殃祛重苦。子其乞渠焉。周氏來訴。苅拒之不許。周氏借命於印。苅到周家修七佛藥師法順軌建續命神幡。時暴風俄來破屋折樹。苅誓曰。法若成就願幡旒不為風壞果如誓。第七夜孺人夢童子來揖曰。我是母家之夙仇也。入汝胎擬汝命者數矣。這回已決焉。而日本苅師修法威神轉我怨懟還得昇脫。自今以後不有慘毒。覺後身體爽健。召姆探胎。姆曰無孕事何乎。孺人告夢合家嘆異。孺人乃以三千緡買眾香熏染綵縷者三年矣。沐浴潔齋著淨衣。繡彌陀觀音勢至像報苅。綵緻莊麗光曜奪目。開展之間奇香發越。苅携歸與建仁西公。西獻元曆上皇。苅歸時寓四明律寺。待鄉便先以佛像經書載於舡。一夜大風暴起諸舡皆碎。其數八十餘。故老皆曰。自古未有如是迅颺。而苅之載經之舶無少損。沿海吏民寓感異於苅。明年泛洋。猛風俄來浪嶮舡危。舟中震慄。苅端坐不動。默誓曰。去歲四明之風波寓經舡猶無恙。況今日乎。天龍豈其舍諸。時大星降檣上。光大如車輪。一船仰見且怪且負焉。星隱後風立息。初苅倦遊歸本邦棲遲筒嶽。伐松芟荊創一伽藍。號正法寺。當夷基趾往往有礎石。苅以古基偶合為勝地。宴居於此。或授密灌或宣戒法。往來緇徒常百餘員。建保六年夏和州刺史朝散大夫中信房以仙遊寺與苅居此寺。齊衡三年左僕射緒嗣之所建也。初名法輪。後改仙遊。苅又改泉涌。洛東之勝區也。寺經數百歲廢頹尤甚。苅便作化疏奏元曆上皇。上皇降施甚渥。貞應三年七月勅黃門侍郎源通方上為官寺。初建久六年苅在筒嶽正法寺。味木縣人辨慶夢入一山寺。空中忽有神僧告曰。筒嶽之苅師者五百生修道之人也。汝蓋拜之。覺後感喜詣寺禮謁欵密。苅自二十七歲絕璽衣襁襯布褐者十餘年。一日北峯語曰。若欲弘道長養色身。風冷相侵恐廢利濟。已稱瀉瓶莫忘

傳燈。咨爾形骸宜慎保護。即以帛被度與芿。自此釋褐焉。印常對眾稱賞。故公卿士庶踵北峯之閫域者先訪訊芿焉。印以芿之妙得宗旨授法語并唯心淨土之記。嘉定初遊上都寓靈隱之下天竺。與輦寺三宗諸名宿商擢法義。公卿大臣聞名歆艷者。史丞相錢相公樓參政楊中良等皆廊廟柱石儒林英華也。臨安府菩提律院住持遷化。諸寺律學者會議欲擇偉器應官奏。時律眾議曰。不用別揀智行。唯以能答日本芿法師難問者可充其選。會稽瑞律師畫芿像入祖堂。題贊上曰。稽首天人大導師。家住海東大宰府。秋中片月為肺肝。雪後諸峰作眉宇。來杭一萬里慈航。歸降七十州法雨。斯何人也斯何人。日本傳律第一祖。芿在宋感應甚多。故超果院善明之書略曰。日本芿法師戒行道德。華亭士庶尊敬如佛。祈禱持呪驅惡攘災皆有靈應。蓋古之聖僧之儔乎。又山陰義銛述不可剎那無此君贈芿。銛號朴翁。內外兼明禪教竝通。所謂會稽名士葛天民字無懷者也。銛又寫南山靈芝二師像倩四明樓鑰述贊其上以送。蓋樓公為當時父宗也。迂齋先生者即參政也。諸方名宿各著書偈嘆美德義。靈芝志隱開元道源等也。芿將來十八羅漢像者開化寺比丘尼正大師之所施也。正語曰。見師之相貌宛似第十七慶友尊者。恐公非凡故貶此圖。願歸本土令人瞻焉。芿携到明州。時翠岩主者來見曰。此像者唐禪月大師所畫也。我昔一見後亦不遇。子得之可謂靈珍。昔國主固藏宮禁人不容易見況入手哉。今只其第二傳寫在育王山。猶為祕蓄。此像之貴不可言也。持返故國。不啻子之靈貨。而又海東之幸也。又有秦里封國貝多葉及赤布一段。斯乃彼國獻象於宋主。彼王差官使并三沙門共象來。三沙門者修多羅僧毗尼僧阿毗曇僧也。彼國天竺邊地。宋梵異音言語多泥。意緒難達。芿素善悉曇試以梵字書師子奮迅三昧名問之。秦里封僧有通解色而不能言。時有狗臥傍。彼僧酌水灑之。狗俄起奮身而去。梵僧笑而指之示芿。梵僧又書梵字授諸宋僧。皆無知者。亦呈諸芿。芿曰是乞鉢盂之詞也。宋僧出鉢付梵僧。梵僧大喜以為逢著知音也。即以貝葉赤布與芿。時宋人嘆芿之通梵書焉。建保二年夏下竺粹古雲託沙門良祐寄北峰真愔。蓋粹者同門昆弟講法義之禮也。延曆寺座主慈圓教門之領袖也。從芿請益。名卿鉅公欽風者多矣。左僕射藤公甚厚。每年正五九月各一七日寓寺聽講。臨啟手足先約芿來眎。芿至。以伽梨授僕射。僕射便起坐合掌向西而薨。其生死契厚如是。太相國藤道家天福帝之外祖也。累葉宰輔一世冠冕。常招名德宣揚經論厚遇芿。芿著佛法宗旨論。念佛三昧方法。坐禪事儀各一卷。三千義備檢二卷獻相國。又授唯心居士之號。嘉祿三年春寢病。相國駕來問疾。即割讚州二村鄉以充寺供。芿報以宋本經王一部。且為終賮。相國答書略曰。和尚傳來圓宗本經一部敬領遺意。雖為唯一無二之談且有

彼此傳授之義者乎。閏三月七日集大眾自起燒香告辭。苦口遺囑大眾嗚咽。良久曰。法界一念謂之空。一念法界謂之假。念界融絕謂之中。絕念了當超佛地。八日夜書偈曰。生來偏學經律論教。一時打拼寂然無窖。寫了。向彌陀像合掌。頭北面西右脇而逝。年六十二。臘四十四。苅性淡泊不事浮華。所有施利偏充修營。弘法持律寤寐於此。又涉外學有文藻。頗善筆翰。在宋時寧宗皇帝勑書如意輪呪。秀州人周冕及錢氏等皆蓄其書。碑銘記讚干求者填閩云。
贊曰。予讀唐宋之策。載此方之諸師者多矣。其間雖崇德偉器大率似慳詞焉。豈以異域乎。獨其釋門正統者繫苅而列粹古靈之上也。豈有抑而不得已者與。簡北磵又稱苅者屢見其集焉。今考其事迹誠一代之魁才也。
釋叡尊。歲十一離家師事醍醐山睿賢。十七落髮學密乘。初唐鑑真天平勝寶六年傳持律藏流衍上邦。年代悠久其學寢微。尊常痛律幢之摧圮。嘉禎二年與同志者四人依大乘三聚通受法自誓受戒。自爾居南京西大寺盛弘戒法。四律五論三大五部無不研究。寬元三年於泉州家原寺又行別受法。此歲授法華寺文篋沙彌尼戒。建長元年於法華寺授慈善等大比丘尼戒。至此七眾皆備。戒學再興成于尊也。文應上皇聞尊之戒行。詔入宮受菩薩大戒。后妃公侯望塵稟受者多矣。正應三年八月二十五日終西大寺。年九十。尊內持密教外興律宗。旁涉唯識。以故講論可聞。徒屬振振德威震四遠。密灌者七十餘人。道俗受戒者數萬人。置放生於諸州一千三百五十六所。永仁中賜謚興正菩薩。
贊曰。吾嘗患士之不自樹立矣。偶見興正師之起律派於既倒之後。益固我前言焉何也。招提數世之後使人人如興正之志。豈有今日寢微之患乎。繇此視之興正之出中人者宜矣。加之興福放生幽明賴之。今世其家者皆勤於此矣。於戲其塵垢粃糠猶或陶鑄善人乎。
釋忍性。姓伴氏。和州磯城嶋人也。歲十一投信貴山。十三誓不食肉。十七登東大寺戒壇。延應之間有四律匠于南京。圓淨。誘賢。覺盛。叡尊。性就尊受篇聚之學。兼聽盛之持犯。建長四年語同學曰。正今南畿毗尼屬我尊丈也。東州未有人矣。我雖未得頗欲先度耳。是我輩之志也。乃如常州宅清涼院闢律學。弘長之始入相陽止清涼寺。平副帥時賴鄉道譽。創光泉寺而居。武州刺史平長時欽性律行新極樂寺延之。性移焉熾唱開遮。東方之民靡然偃風。初正嘉中有沙門營一宇安丈六彌陀像。名曰極樂寺。未落而亡。武州之父重時遷其宇于今地為齋場。至此武州與其弟業時勠力修營成巨剎。性戒講之餘切于興福。募眾緣造丈六文殊太士。今般若寺之像是也。寬元初集王畿癩人萬餘施食。授一日夜八關齋戒。薦母氏之諱也。奈良坂有癩者。手足繚戾難于行丐。以故數日不飡之有矣。時

性在西大寺憐之曉至坂宅負癩置酈市。夕負歸舊舍。如此者數祀。隔日而往。雖風雨寒暑不缺焉。癩者臨亡誓曰。我必又生此間為師役酬師德。而面留一瘡為信耳。果性之徒中有瘡于顏者善供給。人呼為癩之後身。性詣四天王寺聞豐聰太子四院(施藥療病悲田敬田)事志慕焉。自此處處構療病悲田之院。其桑谷療病所二十歲間痊者四萬六千八百人。死者一萬四百五十人。已而活者踰五之四也。是役也平副帥時宗發之。性輔成之。故以土州大忍莊充其費。遠至龍華也。永仁二年奉勅管天王之主務。捨俸餘益悲敬二院。此寺大門之外有衡門(俗曰鳥居。)鉅木宏材歲久朽頹。性出新意以石新之。高二丈五尺堅確瑩滑。國人拭目。嘉元元年六月病。七月十二逝。府官以降受戒者連屬。壽八十七。性修營伽藍八十三所。塔婆二十基。大藏經一十四藏。諸州河橋一百八十九所。

贊曰。予考性師之事利濟之迹可見矣。蓋又世其家焉。抑不知戒之挾檀乎檀之挾戒乎。

元亨釋書卷第十三　終

(大日本國延文庚于六月有　旨入毘盧大藏海藏禪院寓居比丘單況等謹募眾緣恭為今上皇帝祝延　聖壽文武官僚讚崇　祿位國泰民安命工鏤梓與大藏經印板共行一部計三十卷旹貞治三年甲辰正月　日謹題)

元亨釋書卷第十四

濟北沙門　師錬撰

擅興七

- 菅原寺行基
- 愛宕山慶俊
- 禪林寺真紹
- 觀喜法師
- 最仙法師
- 補陀落寺勝道
- 恒寂法師
- 高野山真然
- 高野山祈親
- 蓮入法師
- 眉間寺道寂
- 谷汲寺豐然
- 相應寺壹演
- 山崎寺慈信
- 行願寺行圓
- 良峯寺源算
- 六波羅蜜寺光勝
- 神護寺文覺
- 東大寺重源

釋行基。世姓高志氏。泉州大鳥郡人。百濟國王之胤也。天智七年生。及出胎胞衣裹纏。母忌之棄懸樹枝。經宿往見出胞能言。父母大悅收而鞠育。童稚之時與兒輩遊。動讚佛乘。村里牧豎之兒捨牛馬而從者數百人。其主或覓兒童馬牛到基所。聞其讚說不問兒畜。感泣而忘歸。基之說誨頃牛馬散諸所。主各以為已失也。說已基上高處呼牛馬。應聲而來。各主牽去。率以為常十五出家居藥師寺。學瑜伽唯識等論於新羅慧基。又從義淵益智證。二十四受具足戒於德光法師。基事行化道俗追隨之者以千百數。所過遇嶮難架橋修路。指某地之可耕墾。點某水之可潴灌。穿渠池築堤塘計畫功績不日而成。州民至今賴之。王畿之內建精舍四十九所。諸州往往而在

焉。基嘗行化返故里。里人捕魚而宴池邊。基過其地。年少戲以膾薦基。基喫之須臾臨池吐出。皆為小魚游泳去。見者驚伏。基私度沙彌。勅禁圄。身在獄中而出遊里閈。獄吏以聞。詔赦之。聖武帝甚敬重之。天平十七年為大僧正。此任始于基。時智光法師者有辯慧。嘗疏盂蘭盆。般若心等經。聞基榮授曰。我才智宏淵。行基只營小行耳。朝庭棄我取彼何乎。抱嫉恨隱山谷。光一夕俄死。其徒以忽殂未葬十日而蘇。語諸弟子曰。冥使驅我而行。路有金殿高廣光耀。我問使者此所何。冥使曰。汝稱智人何不知之。行基僧正受生之處也。又進行。望見煙焰滿空。問之。答曰。汝當墮之地獄也。既而到閻王所。王呵曰。汝於閻浮提日本國有謗嫉行基僧正之心。今所以召汝者治其罪也。非命終也。即令抱火銅柱。我肉鎔骨融而後放還。言已馳謝基。基時在攝州造難波橋。遙見光來而微笑。光伏地作禮悔謝說夢事。二十一年正月皇帝受菩薩戒。及皇太后皇后。乃賜號大菩薩。二月二日於菅原寺東南院右脇而寂。年八十二。基之所過耕夫捨耒耜織婦投機杼奔波禮謁。村閭闐咽而不容易往來。云。

贊曰。佛法入日域而二十歲。豐聰皇子在襁褓而讚佛乘居儲貳而宣真諦。其後五十年基公出焉。伴孩癡而顯異。受皇王之大賜。欲揚教法先營剎寺。畿甸半百諸服相次。韙乎基之為名也。我道之地乎。

釋慶俊。姓藤井氏。內州人。事道慈學空宗。居大安。法華等寺。嘗開愛宕山為第一世。天應元年為僧都。性懷悲愍好施貧病。

釋真紹。幼事弘法大師。長受灌頂于實慧。齊衡之間建禪林寺。貞觀十五年七月七日滅。

釋觀喜。和州人也。行住坐臥唱彌勒號。好修古塔廢寺。自曳材運土。或乞路人加助。常撾鼓唱彌勒上生兜率天四十九重摩尼殿等偈而勸發人心。歸寂時異香盈室。

釋最仙。嘗任常州講師。戒行備足四眾歸崇。性抱利濟。修寺院掃堂宇。夷嶮途架絕梁。走急救危切於己。

逢旱澇不待延請祈求修法。屢有感應。問疾餉餓存活之者多。俗號悲增大士。

贊曰。吾法有莊嚴佛土之句。是大心士之事業也。諸師營新宇修廢寺夷嶮塗架絕橋皆是也。佳乎彼莊嚴者此莊嚴也矣。

釋勝道。姓若田氏。野之下州芳賀郡人。早出塵累鑽仰勝業。州有補陀落山峯巒峻峙。振古未有陟躋者。道以神護景雲元年四月企跋涉。路險雪深雲霧晦暝不能登。止山腹凡經三七日而還。天應元年孟夏又興先志。亦屈而退。延曆之始季春之月發大誓致勤修。且曰。者回不到山頂亦不至菩提。漸達于頂。眾峯環峙四湖碧深。奇

花異木殆非人境。道堅誓所遂悅目喜心。乃結蝸舍於西南隅修懺又三七日。道雖究山區未盡湖曲。三年之夏造小舡浮東湖。西南北湖備極游蕩。就其勝處建伽藍曰神宮寺。居四載道行與靈境並傳。桓武帝聞之勑任上野講師。又於都賀郡創華嚴精舍。大同二年州界大旱。刺史令道祈雨。道上補陀山行法雩。甘雨速降百穀皆登。

釋恒寂。天長帝第二子也。姿儀端雅好讀經史綴文辭。承和帝冊為皇太子。監撫之暇志慕佛乘。常辭儲位事逃逸。帝不許。承和七年天長上皇崩。九年弘仁大上皇崩。太子廢為金紫光祿大夫。謂左右曰。元志逃佚今是時哉。乃隱淳和院東亭子。俗曰亭子皇子。嘉祥二年薙髮受沙彌戒。時年二十五。貞觀二年受具足戒。勑從真如阿闍梨稟兩部密法。晚以莊田資產捨大學寺。大學寺者弘仁帝之故宮也。天長大后改為佛寺。寂造丈六彌陀像。又庋諸經論等。寺供僧額皆寂之所置也。仁和元年九月二十日浣沐淨衣入室禪坐。翌日禪扉不開。弟子恠之啟戶見之向西跏趺。近而觸之膚體已冷。年六十。有二兒才操似父。寂出家日二子同剃落。寂善草隸。弘仁天長二皇世稱二妙。然論者言。弘仁勁筋乏肉。天長豐肉軟筋。筋肉均平肥瘦適宜者只亭子皇子也。

釋真然。姓佐伯氏。讚州人。弘法大師之甥也。就而學密乘。又受真雅之灌頂。法臨入定語然曰。我以此山付汝。汝其勵志營構為鎮護之靈區真言之教場。汝其勗乎。蓋金剛峯寺此時未成故有此遺訓。然盡心於營造。以故高野之峯為然之門院。寬平二年為僧正。三年九月十一日滅。

釋祈親。七歲喪父。十三投興福寺學相宗。有聰慧譽。偶省母疾落髮。母尋死。自此持法華薦二親。時稱持經者。以故名焉。行年六十忽自念言。二親之間我只一子偏專愛憐。報生苦樂恬不省。豈孝子之情乎。便詣長谷寺期一七日索知恃怙生處。第三日夜夢或告曰。西南有山曰高野金剛峯。汝其往彼必得感知。乃以指指西南。其指端放一光。金剛峯寺山川殿宇灼灼在目。翌日赴紀州。已而至高野。此山弘法定後距今八十余年。廢毀尤甚荊棘塞路。親披榛莽到塔所。祈求如長谷。一日忽淨眼根見覩史內宮。庭上有三莖蓮華。菩薩各坐二花。一花未開。親問曰。是菩薩為誰。對者曰。此二大士汝父母也。是汝法華讀誦之感報也。其不開之者汝當坐耳。親見野山之廢委身修營。不幾榛棘復輪奐。金剛峯之再興者實親之力也。

釋蓮入。居伯耆大山寺勤精修。寬弘之間詣長谷寺。期七日誓曰。願大悲者示我來世所居。第七夜夢一比丘從殿帳出曰。自此西南九里有勝地。汝止彼修練必生兜率內宮。覺感喜即至彼。東西山高地形邃闃而無堂宇又絕人蹤。入偏憑夢事居一樹下。其夜西方有光。

入以謂魅怪也。夜夜如是。然無嬈害。一朝往光所。有大巖上置石板。敗葉埋積苔蘚固封。入去蘚葉立板拂拭石面。雕彌勒三尊像。其刻畫奇妙殆非人工也。入作奇想益固前夢。普告四來勸建精舍。經年終于此。臨亡果有祥瑞。

釋道寂。未出家時貪營家產。不為佛事。一旦播然志剃染。便思忖。我塵垢甚厚。豈容易發菩提心乎。當祈佛祠。乃詣長谷寺。一七日夜精修欣求。夢老僧語曰。菩提心無體相。即如是心名菩提心。覺而猛省。便出家浮遊名山靈區。後居元興寺坐禪念佛。夕陽時必向西觀想。又移住眉間寺。其主者有舊好。嘗誓作一揆手半觀音像一千軀。功未竟。寂戮力勉勵。不久而成。寂修福業。鑄洪鐘三捨東大。長谷。金峯三寺。久安三年十二月小疾。唱彌陀而終。年八十餘。

贊曰。予見諸子之有為也不徒爾矣。道之興者勇也。寂之興者業也。然者承託也。親者依孝也。慎終者入也。輔舊者寂也。皆各有旨乎哉。

釋豐然。欲營勝藍安觀自在像。延曆中相攸至美州谷汲構精舍。當平基鑿一巖忽石中油出。然生希有心。誓曰。我於此地安大悲像。若博利來世願此油益多。言已湧如泉。然大喜便安十一面觀音像。長七尺五寸。自是靈感溢傳。延喜中朝廷聞其瑞應。賜額華嚴寺。其油漸微今猶足殿前常燈云。

釋壹演。姓大中臣氏。洛城人。父備州刺史治知也。演少翔仕途。二兄相繼亡。因而厭世幻拋冠纓。師藥師寺戒明出家。承和二年受具戒。常持金剛般若。真如闍梨見為法器。授以密教。演居止不定。或宿市鄽。或住水邊。適至河內。一老嫗讓宅曰。此地商賈之巷魚鹽之津。非師深悲誰諭愚頑邪。願居此宇成精藍焉。演平基趾。土中得古朽佛像。支體不全。人傳為異。漸達天聽。勑將作監監營構。賜額曰相應寺。演運黑土築方丈壇安尊像。壇變白恰似塗粉。見者奇之。又建感應寺事在寺像志。皇太后不豫延演持念。病即愈。貞觀七年太師藤良房寢疾。百方不効。屈演加之。所患立差。上大悅擢僧正。演抗表辭之。上不許。九年七月十二日乘小舟浮水奄然遷化。年七十五。謚慈濟。

釋慈信。有神異。常飛鉢乞食。故世號空鉢上人。初攝州中山有十一面觀音像。昔上宮太子令百濟佛工刻之。像成時時放光。古老傳像放光照巖。其崛成金色。延喜中信對像啟曰。我此日域何地為靈區乎。我願殫力於營幹。其夜夢像告曰。我平等慈悲無剎不現。然山州山崎其民緣熟。信乃移像於彼。又飛鉢求營造。邪輩多作侮慢。此類咸受疾。邪眾悔過歸像。疾盡愈。一日信採花而出。還見無像。旁尋四旁。去房半里。像在草裏而立。信已到此。像語曰。

我非厭子而去。此地來世多吉祥。故我來此。子只歸院安居。信以像言書側石。四來聞見傾伏。營構不日而成。
釋行圓。鎮西人。寬弘二年遊帝城。頭戴寶冠身披革服。都下呼為革上人。圓持千手大悲陀羅尼。又欲得好材刻其像。一夕夢沙門來告曰。明日送爾異材。翌朝果一僧至。語曰。賀茂神祠側有一槻木。莓苔纏封不知幾千百歲。其外似朽內甚堅實。每至六齋日槻畔有誦千手神呪音。近見任物遠聞有聲。自古名為異木。是子之所求材也。古老傳言。昔城北出雲路有小女。臨鴨河浣衣。一箭沿流而來。女取見之鴨羽加筈。女携還家插簷牙。自此女娠。已而生男兒。父母問其夫。女曰無。父母以為匿也。兒三歲父母議曰。世豈無父而有兒乎。思此里人乎。宜具酒膳大宴里夫令此兒持杯試告言。以此杯置汝父所。其得杯之人便兒之父也。議已多會鄉人。數爵之後令兒送杯。時兒取杯穿眾人出堂而置簷上鴨箭所。父母及諸胥怪之。相議曰。是箭屬鴨羽。宜姓此兒為賀茂氏。(鴨和訓賀茂也。)於是兒化成雷上天。母又同時登天而去。今之賀茂中祠昔為田中。時田主已播秧數畝。其苗俄變成槻樹。母氏降樹下為神。今賀茂中宮是也。兒又降為神。賀茂上宮是也。其像歲久偃仆。世貴為靈木不厄樵材故至於今也。子乞神官刻菩薩像。圓喜而詣神主告事。神主不靳不日而成。像長八尺。營行願寺安之。以衣革俗呼行願寺為革堂。後仁弘法師得餘材又造八尺像安良峰寺。
源算。因州人。母娠時勞苦異常。及誕以為不祥子棄之路傍。牛馬不踐鳥獸不害。三日無少傷。隣人怪之收而育之。及總角上睿山。經年剃落受戒。壯歲還俗丁母喪不任哀毀。返本山登壇重受。時年四十五。後至西山良峯枕石[口*敕]流清修自適。欲創道場基址不平。岩石磊砢難施畚鍤。算愁之。一夕夢異僧告曰。上人莫愁我助健夫。次夜野猪數千鑿岩負土。翌旦見之基地坦衍。乃創蘭若。良峯有牛鳴之地者自算始。算持佛舍利三粒。一朝失一粒。算常憂之。寬治五年九月啟法華講會供舍利。席上得舍利一顆。即所失之者也。算悅之甚。始失舍利後左肩生疣已數年矣。及舍利返疣自愈。乃知舍利包在疣中。聞見異之。自入良峯七十餘年不踐紅塵。長臥白雲。京師邊地慕風奔赴。漸成寶坊徒眾益繁。算厭諠鬧。去寺不遠別構草菴閉門宴坐。動經時日。七十年來不破齋。或數日斷飡。衣無蟣虱身無疥癬。池蛙閧爾庭鳥相馴。承德三年暮春結定印端坐而逝。經日容貌不變。其徒閟全身年一百一十七歲。
贊曰。或言。古之興建必有感何。對曰。神靈助發也。曷為然。有道也。蓋膏油非石礫之生也。豚猪豈使役之類乎。朽佛出地中。靈像立菴裏。終古苔枡一旦就斲。寧非神助乎。因此而言。五子者有道而感者歟。

釋光勝。不言姓氏。為沙彌時自稱空也。人又不諱言空也。少好佚遊天下殆遍。所過道塗多為利濟。荷鋤鏟嶮拾石鋪濕。架破橋修廢寺無水之地多穿井。井必甘冷。以其常唱彌陀號俗名彌陀井。往往而在焉。荒原曠野每逢遺骸。捃聚一處念彌陀名。灌油而燒過。弱冠於尾州國分寺薙髮為沙彌。天慶元年入王城。於市鄽唱彌陀勸化人。人呼為市上人。天曆二年四月上天台山從座主延昌得度。五年京畿疫。死屍相枕也。憐之自刻十一面大悲像祈之。像成疫止。其長一丈。於洛東勸四眾創一藍。號六波羅蜜寺奉安像焉也。居播州揖穗郡峯合寺看大藏。有不通處夢金人來說。阿州海中有島曰湯嶋。觀自在感應之地也。也焚香臂上七日夜不動不睡。願見大悲真身。其像放光。也在雲林院。一日入城。有老翁倚城垣。其貌甚寒齒牙相戰。也曰。尊老凜寒何立此乎。對曰。我是松尾明神也。頃受般若法昧未上白牛綩緧之車。以故貪癡之風逼我膚。師善法華願有意乎。也脫衣度與曰。我著此衣讀法華者四十年。其妙香薰皆染是衣。今獻之可乎。神悅受之。便披身相溫如無復寒氣。老鍛工禮也白。日暮道遠如生死何。也教曰。只專念彌陀。工辭還。中路逢賊。工潛念彌陀。賊見工曰。空也上人也。捨去。應和三年八月延名德六百人。於六波羅蜜寺慶讚金書大般若經。此日文殊大士現比丘身受供。語在淨藏事中。始也寫經。欲以水精為軸。其玉凡一千二百顆不可容易而得。也詣長谷寺。歸途次勝部寺。一比丘問也。此行何乎。也說軸事。比丘曰。是寺昔有沙門。發君願而未書經。先貯軸珠。不幸而命終。誓曰。我來世必竟功。莫令玉散失。乃造石函埋在地中。今聞君言恐再誕乎。便將也穿地。果得軸珠奧羽二州夷狄之地。佛化少至。也負像經往彼說法。二州順化者多。和州別駕伴典職妻年老為尼。常詣也聽受。天祿三年九月。也送破衲尼所合其綴十一日尼補緝已馳婢曰。我師期近。汝走速獻。婢及復曰上人入滅。尼不驚也。臨亡時著淨衣執香爐端坐語門人曰。無量聖眾來迎滿空。語已氣絕。而手中香爐不傾。時香氣滿空音樂響天。年七十。臘二十五。

贊曰。天慶之前念佛之人希矣。也公出此時鼓黔首之民倡市廛之佛事。其後信空師挾性具而和之。方今孩嬰稚兒戲謔娛悲靡不以彌陀為口號者。也化之遺也。噫乎也之檀興者不在彼而在斯與。

釋文覺。姓藤氏。親衛校尉持遠之子也。覺俗名盛遠。以家業早備宮掖衛兵曹。年十八誤斬婦首。因茲薙髮修歷靈區。後回上都至城北高雄山寺。院宇朽頹榛莽埋路。覺以謂。昔弘法大師與八幡大神親於此地唱和密乘。況寶字神護之間國祚有虞。故大神託和清。建精舍。是以光仁帝號神願寺。天長帝改今名。近世王室艱厄恐此寺圮廢之所由乎。我雖居方外皆王民也。斯地之廢二諦之亡也。於是

乎發憤竭力於修營。乃作化疏普于諸檀。一時入保元上皇宮奏幹事。適宮宴絲竹迭起。羣臣歌舞不遑以聞。覺性強直以為侍臣阻沮也。便近宮闈捧疏呼稱。覺聲麁大絃歌錯紊。上皇大怒付廷尉獄。又竄豆州。始武衛將軍源賴朝自永曆貶屏此邦。逐客放臣羈旅艱窘。聞覺新謫逃虛足音猶得一跫。況故都名僧鄉情可攄。就而謁。且曰。父祖受官誅。身錮遠黜。願以我髮煩師手可哉。覺熟視曰。公必領天下兵馬之權不可失也。自此益狎。治承之末源公奉詔伐平族。至文治始盡殪。元曆帝賜元帥之任果如覺言。以故與源帥善。神護之構復不久而成。源眷日渥道福倍盛。又修東寺。二寺之修營覺之力居多。覺耐苦行他人不及。嘗在那智山發大誓七日立瀧下。時臘月頭髮皆凍。瀧水觸之其聲琤然。過三四日膚躰通冴氣息已絕。而身不傾。忽一童兒來以手摩覺自頭至脚。其手甚暖。覺乃蘇。問曰。何人。對曰。不動尊使我保護師耳。言已上天。覺益勇健。謂明王加我我豈慮命。從今增日盈三七。然其後瀧水煙如湯。又無寒苦。覺受瀧水竟三七日。其責豆州誓曰。我若成神護之修。波上舟中至豆州不言久近。不敢飲食而命不終。或又溘焉營復之不成也。營復之不成也。生何如死。經三旬著州上。遂無飲食云。
釋重源。黑谷源空之徒也。仁安二年跨海入宋。適與明菴西公遇于四明。相伴上台山拜蒸餅峰阿羅漢。又返明州見鄮嶺舍利瑞光。三年秋偕明菴歸。治承四年東大寺罹寇火。朝廷令源領幹事。源以為。昔聖武大帝舉斯役。以王者之威福猶募幹緣于天下。蓋分勝利于萬姓也。故聖疏曰。一針一草各人各佛。況近世王室多故。非官司之獨有也。我盍贔屭而裨官造乎。源有巧思乃作一輪車。大可容身。車之左貼詔書右幹疏。巡行州縣勸勵萬民。其巨楹碩梁長二百尺大數十圍。源巧畫妙計運轉如神。梓人皆附而乞指授。十餘歲。建久六年春三月落慶。上太上皇從百司幸寺。大將軍源賴朝監護宿衛。法事之壯觀也。源沒置遺像于寺。予遊東大寺。眾人聚一所。予怪而往。古屐舊杖人爭頂戴。予問故。對者曰。源上人之遺具也。詣寺者必先捧戴摩捋。予熟見其杖屐光瑩如也。蓋把玩之為也。是以知源之遺愛矣耳。
贊曰。昔者禹竭力溝洫。後世稱禹以大功者是也。然禹之德亦廣矣。方今言覺源者。只稱其功而不稱其德。我恐二子亦有禹之廣者乎。蓋功亦德也。夫功者德之顯者也。德者功之隱者也。隱顯不齊所以為德者一也。學者思之。
元亨釋書卷第十四　終

(大日本國延文庚子六月有　旨入毘盧大藏海藏禪院寓居比丘單況等謹募眾緣恭為今上皇帝祝延　聖壽文武官僚資崇　祿位國泰民安命工鏤梓與大藏經印板共行一部計三十卷旹貞治三年甲辰正月　　日謹題)

元亨釋書卷第十五

濟北沙門　師錬撰

方應八
聖德太子
役小角
越知山泰澄
南天竺菩提
林邑國佛哲
伏見翁
勝尾山善仲
彌勒寺開成
園城寺教待

聖德太子者。用明帝第一子也。母后夢金色比丘語曰。我有救世願願託后胎。后問。誰乎。對曰。我是救世菩薩家在西方。后曰。妾腹垢穢豈當聖居。對曰。吾不厭穢。唯欲拯濟。言已躍入口中。覺後喉裏若吞物而後娠。及八月胎中而言聲聞于外。敏達二年癸巳正月朔后虞遊至厩閑。不覺而誕。時赤黃之光自西來照宮中。至此已十二月焉。嬪御驚抱上殿。四月而乃言。能知人舉止。軀體甚香。懷抱之人奇馥染衣數月不滅。六年冬十月百濟國貢佛經論等。太子奏曰。欲披閱。帝驚而問之。對曰。昔在陳國住南嶽粗見斯文。帝恠喜焉。推古三年夏五月高麗沙門慧慈來。號為博物。勑慈為太子師。太子語曰。法華某句闕一字。公知之乎。慈曰。我本國經亦無此字。太子曰。昔吾所持經有此字。慈曰。經在何處。太子微笑曰。隋國衡山寺。十五年秋七月差野妹子如隋國。令曰。我先身所持妙法華在衡山般若臺。汝之彼取來。彼山吾法友只三僧在焉。乃以三法衣付妹子曰。此信衣施三僧。妹子承命入隋登南嶽。果遇三沙門。陳太子之旨與三闍黎。三僧驚怪感喜。乃取一漆經函付之。十六年妹子得經而歸獻太子。太子曰。此經非我所持。老僧耄寄耳。斑鳩宮有淨殿號夢殿。每入必沐浴。太子製諸經疏。若有滯疑即入此殿。金人必自東方來。諭以深義。秋九月太子入夢殿。閉戶不出一七日。宮中大恠。慧慈曰。太子入三昧矣。八日之晨玉几上有一經卷。太子告慈曰。是我先身所持之本耳。一部複一卷也。妹

子取來之者我弟子之經也。吾定中取來也。乃以落字之所示慈。慈大奇之。太子薨後山背大兄王得此經。六時禮拜。一時失經不知所在。世傳法隆寺妙經是也。或曰。妹子取來本。十七年秋九月隋使來曰。去秋皇太子駕青龍車取南嶽舊坊經凌虛而去。二十一年冬十二月遊片崗逢菩提達磨。初十二年夏四月太子製憲章一十七條。國人賴之。十四年秋七月帝請太子講勝鬘經。太子披袈裟握麈尾坐師子座。儀則如沙門。講已。天雨蓮華大三尺。帝大喜即其地建伽藍。今橘寺是也。冬十月勑講法華於崗本宮。帝嘅播州莊田一千畝。太子即納法隆寺。十七年製勝鬘經疏。二十年春正月製維摩經疏。二十二年秋八月蘇馬子病。太子勸出家親授具戒。此歲製法華疏。初敏達七年奏曰。白黑月初八十四五是為六齋。此日諸天檢國政。乞天下止殺。制可。用明二年太子年十五秋七月帥官師討物守屋。取白膠木刻四天王像乞冥助。大連亡。於攝州玉造岸上建梵剎安天王四像。推古元年移於難波荒陵東。二十五年太子入定見皇統。出奏曰。後代帝王多災害。非佛法力難固寶祚。願建精舍鎮皇圖。帝從之。乃創寺於熊凝村。初敏達十二年百濟日羅來。身放光神異不測。太子微服從諸童子入館見之。羅指太子曰。是神人也。太子走去易衣而出。羅再拜跪地曰。敬禮救世觀世音。傳燈東方粟散國。太子從容而謝之。羅放光。太子亦眉間出光謂左右曰。我在陳彼為弟子。常禮日天故有光耀。推古元年夏四月立為儲貳。萬機委之。七年夏四月百濟王子阿佐說偈禮太子。語在資治表。十六年秋八月隋使來。太子微行伺之隋使指太子之所曰。彼有真人氣。二十六年冬十月語妃氏曰。我在南嶽承達磨勸誘生此土。我今只世緣二朞耳。二十八年太子寢病。帝慰問曰。太子有所思乎。朕乞不迚。對曰。臣以不佞居儲位久柄機務。聖恩未酬餘何索邪。唯恨熊凝精舍規模甚小。願上改造。亦是宏壯帝基耳。帝許之。今大安寺也。春二月五日語膳氏曰。我昔在震旦持法華。今為日域副貳。流傳佛法弘宣一乘。吾能事畢矣。不樂久居五濁。妃反袂嗚咽。又曰。我今夕去矣。子可伴也。乃沐浴新衣。妃亦然。二人共入寢。翌朝日上。太子及妃不起。侍嬪惟二人長逝。太子年四十九。其夜天地變瑞甚多。四海萬姓如喪考妣。哀號之聲盈衢路。喪斂之夕太子并妃容貌如生。身體薰郁兩屍輕。只其衣之重而已。太子有驪馬。甲州所獻。常駕此馬。科長廟葬日驪自負鞍從車。殯已向廟大嘶高躍而斃。過七七。一鳥飛來集墳上。鳥鳶有來此鳥拒去。時人號守墓鳥。三年後不見。慧慈在高麗聽太子訃慟哭曰。太子大聖人也。我雖異域心在金蘭。哲人亡矣。我獨何存。來歲二月取滅必與太子同時日。至期果然。太子有六名。誕廐邊故曰廐戶。用明帝愛敬居宮南上殿故曰上宮。八人奏事一時善聽故曰八耳。睿明仁恕故

曰聖德。豐聰耳聰者。八耳之同稱也。太子造九伽藍。四天王寺。法隆寺。元興寺。中宮寺。橘寺。蜂崗寺。池後寺。葛城寺。日向寺。

贊曰。昔者婆伽梵楞嚴會上有大警句。賢聖應化不泄密因。只除臨終之遺付也。蓋誡像季之枉誤耳。太子生吾國醇厚之時。孩孺神靈不慎本質。鼓此癡朴之民鄉彼玄妙之法。感應指撝疑恠自絕。亦太士之善權其唐棣之萼乎。不然者斯民不易覺也。況勝海之囂頑。守屋之暴梟。其時猶有跋扈狂趫乎。政令三十載。憲章十七條。宣傳真教翼贊聖朝。微太子吾道殆弗昭昭矣。嗚呼南嶽導化之末標者。東域佛法之根苗乎。

論曰。上宮太子神異無方。實應化之選也。然此書以釋史名焉。方應之傳太子居首。雖有實名不協矣。曰不然此書專用摩訶衍。今夫貴薙染賤冠巾者小乘之儀也。修多羅有心出家身出家。大乘主心不言相矣。太子豈冠纓之所絆乎。況方應之科不滯相也。今之布置順科意耳。曰諸經之有序列也先比丘後菩薩。至此不倫寧有據乎。曰阿闍世王經有文殊迦葉讓坐位。已而文殊所將二千在家在前而住。迦葉等五百聲聞在後而坐是也。子若固執比丘相者德光論師不拜慈氏之謂乎。曰思大陳大建九年滅。太子敏達二年誕。以曆考之太子五歲時思公化。豈有未死而受生於佗方哉。曰阿含口解十二因緣經曰。人年老少識多忘者識轉稍向後生處。夫塵累之人尚存此身赴佗界。況救世之大士分身百億。何容疑於其間乎。曰太子古傳曰。太子四十七歲冬語妃曰。昔我在南嶽修道。名曰慧思。有婆羅門僧達磨者。後魏文帝大和八年丁未十月入支那遊歷衡山。於是達磨結草菴六時行道。時思問曰。公修道幾年。對曰。二十餘歲。思曰得感應乎。對曰無。達磨良久曰。禪定易厭濁世難離。今遭素交我意足矣。子何更數生居此山不移餘方。惜哉化之不博乎。海東有國願子生彼。彼地三毒雖厚聖化可宣。子其思之乎。思曰。公誰人乎。對曰我是虛空也。言已東去。思大尋又六時行道。年方五十。後魏皇始元年庚申長逝。然則聖言不虛故我生此國。安撫百姓興隆三寶。又捨此身生賤種。出家修道誓度有情。是我本願也。妃流淚曰。殿下之言非妾所知。哀哉舍我而去。太子曰。我只世緣二歲耳。古傳又曰。太子曰。我昔生支那為賤人。聞比丘說法華。遁家事比丘為沙彌。修法華三十年終衡山。當東晉之季也。又為韓氏子出家修道居衡山五十年。宋文帝世捨命。又為劉氏子出家修道四十餘年終于衡山。又為高氏子修于衡山六十年終焉。又生梁相家出家上衡山修練經七十年。從陳國生此土流通佛法。此等奇迹子盍備載。今只二十六年纔數語何其迂闊哉。曰史法正歲時。不即為瞽焉。我謂作古傳者不熟南北史耳。其事可取其年不可取。故我摘數語繫于年耳。

吾今詳語汝。吾祖之入梁。傳燈作孝武普通八年丁未。過魏作孝明大和十年。然嵩明教著正宗記曰。普通元年庚子魏明帝正光元年也。我考南北史及諸禪冊嵩文為正也。古傳之錯少似于傳燈。今古傳曰。後魏文帝大和八年丁未十月。蓋并傳燈之魏年號梁甲子而言。一謬也。我祖之在支那也九歲。諸書無異說。今曰二十餘歲。二謬也。又曰思大遷化年為後魏皇始元年庚申。是大不然。南嶽願文曰。歲在乙未生魏國。蓋魏宣武延昌四年梁孝武天監十四年也。若夫皇始者太祖道武之年號也。況皇始之元丙申也非庚申。先延昌一百二十年。三謬也。而作古傳者不必因傳燈。而相似者贋本多同耳。古傳又言思大先世不多乖時。只其思公本傳有一生岩。二生塔。三生藏。今曰五生。雖不合支那太子詳說無妨耳。今曰上衡山修練七十年。從陳國生此土。本傳曰。陳大建九年逝。壽六十三。不多違也。然則傳燈等諸書皆曰。思大生和國。鑑真又有言。古傳之文雖錯歲時不無其事。婉文記事春秋之法也。子議吾乎。

役小角者。賀茂役公氏今之高賀茂者也。和州葛木上郡茆原村人。少敏悟博學兼鄉佛乘。年三十二棄家入葛木山。居巖窟者三十餘歲。藤葛為衣松果充食。持孔雀明王呪駕五色雲優遊仙府。驅逐鬼神以為使令。日域靈區修歷殆徧。一日告山神曰。自葛木嶺蹊金峯山。其間危嶮雖苦行者猶或艱。汝等架石橋通行路眾神受命夜夜運嵓石督營構。小角呵神曰。何不早成。對曰。葛城峰一言主神其形甚醜。難晝役待夜出。以故遲耳。小角促一言主。一言主不肯。小角怒呪縛繫之深谷。一言主託宮人曰。我是管逆寇之神也。竊見役小角潛窺國家。不急治殆乎危。宮人以聞。文武帝下勅召小角。小角騰空飛去。不得追捕。官吏設計略收其母。小角不得已自來就囚。便配豆州大嶋。居三年晝守禁而居。夜必登富士山。行道踏海而走猶行陸。其疾飛鳥不可及也。黎明歸嶋。大寶元年放廻。近京師凌虛飛去。小角嘗在攝州箕面山。山有瀧。小角夢入瀧口謁龍樹大士。覺後構伽藍。自此號箕面寺為龍樹淨剎。世曰小角自坐草座。載母於鉢泛海入唐。

贊曰。道德全者鬼神不得而窺矣。役君神異可謂不測者焉。然遭神誣受竄譴。豈呪力有未充之處與。古記曰。道昭師在唐時。五百群虎共來作禮。一虎人語曰。新羅山中眾虎之所伏也。願師赴山導我暴獰。昭默受請。乃至彼講法華。群虎側聽。其中有和語者進曰。我是日本國役小角也。昭愕然問曰。何在此。對曰。本國神曲諂。是以我遁去化異類耳。然或又有往矣。亦可以為善應無方之一端矣。而此事年代少乖。故我不系本章。疑又役之放逐古史有誤乎。方今攀大峰之嶮巇撥葛嶺之深邃者皆祖述于役。不以形服而易懷也。嗚呼役之化迹盛乎哉。

論曰。冶容粉黛者惑我肉眼也不得不容好醜於其間矣。鬼神不然。具分天眼。豈言媸惡于形貌哉。一言主神豈其然乎。曰渭中有鼉神。曾與魯班語。班令其出。神曰。我貌醜。卿善圖物容不出。班於是拱手與語曰。出頭見我。神乃出首。班以腳畫地忖。神覺之便沒水。故置其象於水上。唯有腰以上。又秦始皇將於海中作石橋。或云非人巧所建。於是海神為之竪柱。始皇感其惠。乃通敬於神求與相見。神曰。我形醜約莫圖我。始皇乃從石橋入三十里與神相見。帝左右有巧者。潛以脚畫神形。神怒曰。帝負約可速去。始皇即轉馬纔上前腳其跡地即沒。僅登岸。是等事又異域之神耻醜者也。夫鬼神多類。豈言好醜之有似吾輩乎。以渭海而言。一言主曷其不然邪。

釋泰澄。姓三神氏。越之前州麻生津人父安角。母伊野氏。夢白玉入懷。而有孕。白鳳十一年六月十一日生時白雪降落庭宇皚皚。產屋之上積寸餘。及五六歲不交兒輩。不遊闠闐。百戲喧巷衢來曾出見。唯以泥土作佛像。以草木構堂宇。或采花水合掌供獻率當戲娛。持統六年道昭和尚遊化北地。適投三神氏。忽見小童頭現圓光覆以寶蓋。昭獨見餘不能見。昭驚告父母曰。此兒神童也。加敬育焉。時澄十一歲。十四時夢身坐蓮臺。傍有沙門語曰。汝知否我是汝本師也。住在西方。汝所坐蓮者觀世音所持之花也。汝可以比丘形施十一面利生普照之德。覺而怪喜。慎不語人。其歲冬父見兒夜夜失之。怪語兄安方曰。季兒每夜潛出。汝應所止。安方承教竊伺出時。匿身踵跡到越知峰巖洞中。弟入內禮拜數百。高唱曰。南無十一面觀世音神變不思議者。言已出洞登峰頂。嵓巒峭峙安方不能昇返宿洞中。遲明歸家報父。未脫履弟兒歸。後棲遲此峰苦修練行。自薙髮為比丘。衣藤皮食松葉修懺年。發得智解自然感悟密乘。大寶二年有小沙彌自能登島來謁。澄含笑曰。相需者久矣。汝其來也宜為給使。便付鉢多羅令守護焉。澄不言晝夜風雨。長時行道禮讚。其苦勤殆非人力之所能。而此沙彌如影不暫離。常臥雪裏澄名為臥行者。客比丘來寓語沙彌曰。勵勸進趣是名為行。臥者怠倦之儀也。何稱行者乎。時沙彌又臥也舉首答曰。行有二種一身行。二心行。子之所論者身行也。予之所修者心行也。當八苦之寒風臥罪障之積雪。仰阿字之大空見大日之光照。淨菩提心觀慧相應念念增進。豈非心行之微趣乎。客聞之感歎伏膺。此沙彌元無學業忽吐深旨。人以為異。沙彌逢北海稅船飛鉢乞供。率以為常。和銅五年羽州官租馳船而過。沙彌又飛鉢乞米。舡師神部淨定曰。此官米有定數不足充供。沙彌還山。時船中斛米如鴈相連飛來峰頂。淨定嘆未曾有。入峰禮澄曰。卑心多貪恪師淨供。而是官租願還供餘。澄笑曰。非我所知。小沙彌之為也。汝向彼謝之。淨定如教。

沙彌曰。只留小供餘盡還汝。淨定曰。今此峰巒崎嶇摺疊。許多米斛爭可運移。澄曰。汝只歸海濱艤舟而待。此沙彌能可返移。淨定返舡所。其米如前飛還。淨定見之感激轉深。輸官畢不歸本邦。入山事澄。採果拾薪百役不倦。澄名為淨定行者。澄語客曰。沙彌心行者也。淨定身行者也。養老六年秋上不豫醫巫不効。上語侍臣曰。朕聞越大德神異不測。朕病恐待渠乎。宣澄赴都。在行只淨定一人而已。澄及晡入宮。顧定曰。吾三鈷杵在白山室。急採來。定還山採杵黃昏授澄。王公以下莫不嘆伏。皆曰。澄不可言也。定又奇矣。澄近錦宸手把三鈷杵口誦忿怒明。時定屏息清涼殿陛。形甚醜如老猿。起居不靜宛類其貌。年少簪纓嘲笑之。定怒觸柱。宮殿大震如地動。群臣慴怕上病益甚。澄以杵擬玉體。上即愈。天平八年天下疱瘡。王公士庶死者不可勝計。上勅澄修十一面觀音法攘之。不數日而疱息。古志郡國上山寺一檀信造塔婆。至落成日雷電擊破。檀信改造。雷亦擊之。凡三造三壞之。檀志不屈。然求所以雷之不擊。澄聞之往語檀信曰。不得為慮。速作寶塔。我加助汝。既而塔成。澄坐塔傍誦法華。俄雲雨降灑雷電鳴輝。檀信懼曰。是亦擊塔之相也。先時皆爾為之如何。澄曰。莫愁也諷誦如故。忽一童男從雲中落。年可十五六。頭髮蓬亂形貌可畏。被五處縛。流淚曰。聖者慈悲赦吾暴惡更不擊塔。澄問。緣何擊塔。童曰。此山地神與我盟厚。語我曰。塔立此地我無住所。願為我擊之。以故我屢壞之。今依妙法力地主移去。我亦受譴。今只仰法師之慈救耳。澄曰。若聽惡友屢壞寶塔。亦孔之醜。然此寺無水遠勞擔汲。若出甘泉供佛僧我解汝縛。不爾不能拯也。又雷者此地之妖也。此寺東西南北各四十里不可作雷聲。二事若能否。神童跪曰。出水甚易。四方四十里吾亦不來矣。言已縛解。即仰掌承瓶水一滴以指[殴-勺+(穫-禾)]鑿石巖。電光閃爍上空而去。應時巖穴中清泉迸出。其水夏冷冬溫。一寺穿渠縈流。熯滂無異。又山中四十里雖夏天暴雨不聞雷霆。二事至今不替。澄在越知峰常望白山曰。彼雪嶽必有神靈。我登見之。養老元年到彼果感妙理大菩薩。事在神仙傳中。澄居此嶺苦修益勤神異彌著。居三年臥淨定二行者相隨。餘無人。四年苦行之輩相尋來。漸成多眾。天平寶字二年歸越知山居大谷仙崛。其山似三鈷杵。以為靈域。初大寶二年文武帝勅伴安以澄為鎮護國家法師。養老之法効擢為供奉。賜號神融禪師。授以禪師位。天平之効授大和尚位。改號泰證。澄奏曰。願以證作澄。蓋不忘父諱也。(澄訓)上聞之龍顏潛然。乃賜號泰澄和尚。澄自落髮未暇名。俗呼為越大德。至此以泰澄為名。先神龜二年行基法師登白山。基見澄微笑如舊識。基問白山靈應。澄詳語之。基感嗟曰。元正皇帝號公神融。良有以乎哉。又公託生三神氏。宜乎顯三聖之應

迹也。予歲已五十七。末路多艱不憚嶮絕來蹈勝地。幸聞神化吾心足矣。再遇在西土願勿忘盟。欵密而去。神護景雲元年二月以書與僕射吉備公辭帝曰。吾將還西方。願留睿情於佛乘。僕射以聞。帝哀歎親灑宸筆答澄。澄得御墨誡其徒曰。聖筆寶札置之高架莫忽諸。三月十八日結跏趺坐定印而化。年八十六。頂放神光。山谷變金天雨蓮華。門人閟遺骨于石函。澄生平時時頭上現金光。人有見乃隱。宿疾者飡鉢飯靡不痊。驅役鬼神使令鳥獸。嘗入葛嶺。鄉役小角以石索呪縛一言主神纏繞七匝。澄欲解縛持念作法。其縛三匝已解。忽空中有聲叱之。澄乃息。縛如元。

贊曰。予修此書廣索諸記。得澄師之事者多。其間恠誕不寡。有弊朽一軸。題後云。天德二年淨藏門人神興受口授作傳。藏公靈應博究思興之所聞不妄矣。今之撰纂者采諸興傳焉。

論曰。或言。泰澄感悟密乘。豈其然諸。何也李唐開元四年善無畏始至。七年金剛智繼來。二師初傳密教。先垂拱三年菩提流志入唐雖譯密經不立宗趣。支那有密乘者。畏智為倡。本朝此時未聞密教之名矣。澄公雖神異無方豈有之乎。蓋南人不夢駝。北人不夢舟。未有名字尚何感之有哉。對曰。無故而感。感之靈者也。有故而感者想而淺矣。又其澄與畏智何先。曰異域同時。予曰。予不見春和之著草木乎。廣苑大林邃谷幽嵓有根殖者皆悉抽芽吐葩。苟無花根即已。有皆抽吐矣。我覺皇之遺化播于東裔也又然。支那者園林也。此方者嵓谷也。當其化時至。或傳而來。或感而得。感一也。猶何疑哉。曰然者澄師何無系葉。而後世澄海二師支派漫衍乎。予曰。夫佛乘貴授受。睿峰南山宜乎漫衍也。蓋感得者表先馳耳。暇恤系葉哉。曰如子之言騰蘭入漢本朝不感。踰四百八十五年從旁域而傳來哉。佛化比春和而有偏與。予曰。鄉不云乎無花根即已。有皆抽吐焉。漢之時此方爭奈無花木何。當盛唐纔澄師一株而已。漸至貞元澄桃海李敷榮蔭森。子何疑乎。

釋菩提。南天竺國婆羅門種也。遙聞支那五臺山文殊師利靈應。發本國駕小舟入唐。即登五臺。山中逢一老翁。問曰。法師何之。提曰。山頂拜文殊。翁曰。文殊不在也。見託生日本國。語已翁不見。提乃赴本朝。天平八年七月行基法師奏曰。當迎聖僧。聖武帝詔禮部鴻臚雅樂三僚向難波津。基率一百沙門共官僚於海濱調音樂莊儀仗待之。須臾西海波面小舟泛泛漸近。有二梵僧。基迎笑。執提手共語如舊識。始梵言基能應。後和語提亦和。甚欵密。勅舘大安寺東坊。十月賜時服。天平勝寶元年東大寺銅像成。詔提為開眼導師。三年四月為僧正。時號婆羅門僧正。天平寶字四年二月二十五日化。

釋佛哲。林邑國人也。有大慈愍眾生貧乏。欲入海索如意珠行賑濟。便乘舟泛南海。以呪力召龍王。龍王出波上乃呪縛索珠。龍解髻珠欲授哲。哲右手結劒印舒左手受之。龍紿曰。昔娑竭女獻寶珠釋迦世尊。世尊合掌受之。痛哉像末弟子隻手受之。哲聞已解印合掌乃欲受珠。龍見印解而縛脫。乃沒海。哲空手舟又破。時婆羅門僧菩提適赴震旦。海中逢之。哲語此事。伴菩提來。天平八年七月也。本朝樂部中有菩薩拔頭等舞及林邑樂者哲之所傳也。

伏見翁者。不知何許人。或曰。從竺土來。翁臥和州平城菅原寺側崗三年不起又不言。人呼為啞者。時時舉首見東方。天平八年行基法師迎婆羅門僧菩提歸於菅原寺設供。二人甚歡。乃執箸為拍板二比丘互舞。于時翁俄起入寺。又作舞而歌曰。時哉時哉緣熟哉。三人相共舞如故舊。蓋頃年作啞態者為發此言也。時時攅頭望東者見東大寺營構也。其臥所自從翁之居名臥見崗。因而名翁焉。

贊曰。聖師之赴感也其所赴異而所以感者同矣。吾謂菩提之求曼殊也未必在五臺。佛哲之索寶珠也未必在南海。皆吾聖武大帝睿明之感發也。不然伏翁何以三歲不起不言一旦起舞唱時哉之句乎。好哉聖境一場之倡和。我雖後出不得不擊節矣。

釋善仲。善算。攝州刺史藤致房之雙兒也。母源氏。紀州刺史懷位之第八女。慶雲四年正月十五日夜夢蓮華二莖從空飛入口中。覺後胸中如吞物而有娠。母以夢故懷胎之間不嘗葷腥。常對佛像跪坐。和銅元年正月十五日平旦誕之。母無痛苦而室有異香。一胞之中二兒相對。不啼哭常含笑。在孩稚聰慧過群孺。九歲師事天王寺榮湛。十七剃髮受菩薩戒。甫冠歲學通內外。人皆曰夙智開發。二人常並頭相語而流淚。人無測也。曾 欲以其居隣塵寰白其師遁山谷。湛不許。神龜四年春二人潛逃入山。遙見一峰紫雲靉靆。思必靈地。縛草庵宴居清修。今勝尾山也。經行之地苔蘚痕分。禪榻之畔鳥獸成羣。常共嘆曰。願不捨此身必往淨剎。神護景雲二年二月十五日仲乘草座忽飛去。年六十一。爾後算不語禪坐。三年七月十五沖天而沒西。歲準仲而知云。

贊曰。古德之示化坐立臥倒各呈善權。而全身飛昇而去者鮮矣。二子草座沖天。非乘願力而來者奚能然乎。其後九十年李唐鎮州城有普化和尚。於城之北門飛去。鈴鐸之響隱隱於雲煙。豈異世之琨逖乎。爭奈遲一鞭焉。

釋開成。光仁帝子桓武之兄也。幼敏穎而志佛乘。上甚鍾愛。天平神護元年正月一日潛出宮入勝尾山。疊石為塔禪宴其側。二月十五日仲算二師經行山中。適見問曰。神彩麗靚又孔稚矣。深山孤閒何為居此。皇子告素志。二師驚曰。已四旬餘以何為飡。對曰。二鳥銜物置石塔上。我等嘗之不知何味而又甘美。日日如是。爾來雨露

又不霑。二人相顧嘆嗟。延歸菴所。即日就二師剃落受戒。一日二師與成鼎坐相語嗚咽涕泣。傍人聳聽不知何事。良久二師避席揖成曰。證本有五智震法雷五趣。只此二句眾人聞知。餘語不能曉。二公授經帋并讓菴而佗之。初二師發願寫大般若經。啟白日黑雲俄起雷落地。二師以其地為靈所覓置般若。今最勝峰是也。人又夢黃牛行道其地。二公乃種楮於此地。上張羅網不令鳥下。傍設欄榱亦拒獸踐。已而紙成。以書事託成而去。成居山為第二世。又業寫般若。欲得淨金水祈求勝相。限以七日。滿夜夢一人容儀端嚴衣冠莊麗。手持青錦苞。立房側石上曰。我以此金與師為泥墨。成受之。便問公為誰。彼人以偈答曰。得道以來不動性。自八正道垂權跡。能得解脫苦眾生故號八幡大菩薩。覺見几上有金鋌徑三寸長七寸。成感喜交集。其所立石今尚存焉。又祈水一日。夜夢一人自北方飛來。形如夜叉。曰八幡大神令我取天竺白鷺池水來充師之經滴也。成問誰乎。答曰信州諏方南宮也。寤而見之清水盈閼伽器。成得金水乃棲桂窟(大桂腹朽自然如洞窟在山中)寫般若經。寶龜三年二月夢八面八臂鬼長丈餘率百千眷屬各取經紙投散山谷。夢覺知魔障欲慰供之而不委軌則。忽二烏飛來落二札。祭文儀軌也。成依軌供祭焉。又無事矣。世傳其軌。所謂荒神供也。經六寒暑而功畢。金水亦無剩闕。就雷墮之地建道場而安經遠期龍華之會。故號彌勒寺。成藏經時誓曰。願以此淨業回六趣四生。更冀天子黎庶福壽康寧。誓已五體投地。時四方山木皆悉偃僂。食頃而條直。只西方一松樹獨猶傴。然後三百年寬治末年自朽倒。初寶龜始光仁帝聞金水之事捨官租建如法堂移桂窟之居。及彌勒寺成納田數百畝為寺產。天應元年十月四日手執香爐向西低頭而寂。壽五十八。成平時自刻藥師像奉事焉。趨化時其像淚滴至花座。後門弟子以像庋經堂。其像今猶在。淚痕如新濕。

釋教待。不知何許人。久居園城寺。天安二年圓珍法師與新羅山王二神相勝區到園城寺。待見珍如故舊。時有檀越大友氏謂珍曰。待師日者嘗曰。當寺主者已生焉。有時曰。入唐焉。又曰來何暮。今朝曰寺主來也。然則我奉待者久矣。乃與待以寺券付珍。及三尾神饗饗新羅神待來賀之。然後形隱不見。珍問新羅神老待沒而不見何。神曰彌勒菩薩之應化也。今已得師又何存乎。珍還寺問大友氏。待公本貫何所。生平行業何如。大友氏曰。不知何人。居此寺已百餘歲。平居不赴堂齋有時往湖濱取魚鼈乾串當饌率為常。今聞已隱痛哉。乃共大眾詣其房見殘乾魚。皆悉何藕蓮之類無佗種。眾皆嘆異。年一百六十二歲。待嘗與清水寺行睿居士善。其來清水著木屐欵話終日云。

贊曰。善應無方者至人之化也。何之不可哉。而成公被待于仲算。待公待珍師。是吾法因緣之所生。而時處之成就者乎。然則因緣之與時處者吾佛之大訓矣哉。

元亨釋書卷第十五　終

(大日本國延文庚子六月有　旨入毘盧大藏濟北禪庵住持比丘單況等謹募眾緣恭為今上皇帝祝延　聖壽文武官僚資崇　祿位國泰民安命工鏤梓與大藏經印板共行一部計三十卷皆應安元年戊申十二月　　日謹題)

元亨釋書卷第十六

濟北沙門　師錬撰

力遊九
百濟國曇慧
高麗國慧便
百濟慧聰
高麗慧慈
百濟觀勒
高麗僧隆
百濟慧彌
高麗曇徵
吳國福亮
唐國神睿
唐道璿
唐道榮
慧濟法師
僧旻法師
慧隱法師
智通法師
智鳳法師
淨達法師
行善法師
興福寺玄昉
行賀法師
梵釋寺永忠
靈巖寺圓行
安祥寺慧運
唐補陀落寺慧萼
真如法師
脩然法師
宋吳門寺寂昭
宋傳法院成尋
願雜十之一

古德一
豐國
德齊
德積
慧妙
道顯
道信
法員
弘曜
慧忠
行表
仁秀
澄睿
慈恒
壽遠
守寵
道詮
承俊
良真

釋曇慧。百濟人。欽明十五年二月共道深本國貢來。
釋慧(【考】慧下文或作惠)便。高麗國人。敏達十三年蘇馬子奏取百濟彌勒石像。於石川宅側創殿安置。時無奉香火者使梁人司馬達等四方尋求沙門。於播州得似比丘者問之。對曰。此方不敬沙門故我混俗耳。乃便也。馬子貴為師。
釋慧聰。百濟人。崇峻元年三月貢來。聰有戒學。蘇馬子受問戒法。
釋慧慈。高麗人。推古三年五月貢來。皇太子豐聰師之。與百濟慧聰同弘佛教。四年冬法興寺成勅慈及聰同居。二十三年歸本邦。
釋觀勒。百濟人。推古十年十月貢來。有學術獻曆本及天文地理方術之書。太子耳聰曰。吾在衡山勒為弟子。好星宿度數山河利害事。我呵其涉藝術雜真乘。夙因不竭追我而來。猶言星曆。三十二年四月有沙門殺祖父者。朝廷初置僧正撿挍僧尼。勒當遴選為僧正。
釋僧隆。高麗人。推古十年十月共沙門雲聰來。
釋慧彌。推古十七年四月百濟人赴吳國。其舡漂流至肥後州。州吏告大宰府。府以聞。勅令其舟人送本邦。時彌沙門道欣等慕國化上表請留。詔居元興寺。

釋曇微。推古十八年三月高麗國貢來。沙門法定共之。微涉外學善五經。又有伎藝。造碾磑工彩畫。
贊曰。昔者　神功聖后神武震海外。三韓共為遠藩。而貢献相續。八師或偕計吏或觀國光。想咸傳法之才也。年祀寢遠化迹不詳。故予於是併繫綴焉。然慧慈摳上宮之衣。觀勒始僧碧之任。不為無得矣。嗚呼曇慧道深者此方之騰蘭也。惜哉古記闕焉。
釋福亮。吳國人。受三論于嘉祥。齊明四年內臣鎌子於陶原家精舍請亮講維摩詰經。
釋神睿。唐國人。居元興寺講唯識。世言得虛空藏菩薩靈感。靈龜三年勅曰。沙門神睿。學達三空。智周二諦。戒珠光潔。慧海波深。宜施食封五十戶。天平九年化。
釋道璿。唐國人。居東都大福先寺。留學普照榮睿諭誘赴東。天平七年來。勅館大安寺西唐院。璿善禪律。于時本朝乏戒學。朝廷請為戒師。不倦授受。嘗曰。所以成聖必由持戒。常誦梵網。其音清亮如出金石。聞者感動。十五年同寺行表年七十三臘五十二於興福寺北倉院就璿重受戒法。璿曰。此老比丘為法忘身。心無貢高又可貴也。乃告曰。篇聚者被身而已。我有心法曰如來禪。昔三藏菩提達磨自天竺來付此法于慧可。僧璨。道信。弘忍。神秀。七傳至我師普寂。我師始在嵩山傳唱禪法。道譽聞帝宸。詔入東都居華嚴禪苑。故世曰華嚴尊者。我從華嚴得。以付汝。便廣說法要。表忻然領受。晚老病退居比蘇寺。四序季月修禮懺供。乃著發願文。璿與僕射吉備真備善。滅後僕射纂行實云。
釋道榮。唐人。尤善梵唄。
贊曰。法水之注扶桑也。濫觴於百濟。沃日於大唐。此土學佛之流靡以支那不為本鄉。四師事遊化。可欽餘烈遺芳也況又產本鄉乎。
釋慧(【考】慧下文或作惠。)濟。共沙門慧先入唐留學。推古三十一年七月從新羅大使智洗爾來歸。初同志十數人。歸朝只濟先二人而已。或留唐或夭殂。本朝之遠游濟等為始焉。
釋僧旻。入唐留學。舒明四年八月從唐使高表仁共沙門靈雲來歸。孝德帝即祚。以才勅為國博士。大化六年二月穴戶獻白雉。宣問群臣。又問旻。旻奏曰。休祥也。語涉經史博物詳正。因此改元白雉。四年五月旻病。帝幸房問病。口勅恩旨。六月寂。帝使官使弔賻。太后太子皆弔喪。
釋慧隱。入唐留學。舒明十一年九月從新羅使來歸。白雉三年於宮中講無量壽經。沙門慧資為問者。
釋智通。齊明四年七月共沙門智達入唐。謁三藏法師玄奘學唯識。白鳳元年三月為僧正。
釋智鳳。大寶三年入唐學唯識。僧正義淵鳳之徒也。

釋淨達。入新羅求法。慶雲四年五月來歸。和銅二年十月右僕射不比等就補槻道場延達修維摩會。
釋行善。入高麗求法。養老二年來歸。善在高麗行逢洚水橋絕無舟。立斷橋上潛念觀音。須臾老翁棹舟而來載善行。著岸之後老翁俄隱。舟又不見。善知觀自在應現發誓刻像日夜敬禮。彼國稱善為河邊菩薩。歸朝時懷像而返。安興福寺。一日其像俄失。不知所在。
贊曰。震旦之求法者。曹魏甘露中朱士行始到于闐而歸。東晉義熙之始法顯達於中印度。爾來諸子憧憧絡繹。濟先二師者本朝之行顯乎。旻公優才補博士非釋門之幸。而梁武帝充慧超壽光殿學士。唐太宗封智威朝散大夫之類又多在是。吾人之不得已也。隱達二公對君相而講論。不為不遇矣。行善入高麗。淨達赴新羅。惜乎止於士行也。
釋玄昉。姓阿刀氏。從義淵學唯識。靈龜二年奉勅入唐。謁智周法師稟相宗深旨。唐帝賜紫衣。天平七年伴大使多治廣成歸以傳來經論章疏五千餘卷及佛像等獻尚書省。八年賜封一百戶田一百畝及扶翼童子八人。九年八月為僧正。十八年六月築紫觀世音寺成。昉為慶導師。乘輿入殿。忽空中捉提昉。昉騰不見。後日昉頭落興福寺唐院。蓋藤廣繼之靈為之也。其靈今之松浦明神也。昉之傳來經籍勅藏興福寺。
贊曰。夫人雖有才行不治者不為丈夫也。昉以俊才事遠遊。傳來經書數千卷。受　聖皇渥遇豈不偉乎。世言昉通花鳥使于藤室。故與藤氏有隙。今見遭捉身首異處。恐其然乎。不爾者即是傳法之一高僧耳。誰敢間然。又豈有夭乎。故吾曰行不可不治矣悲哉。
釋行賀。姓上毛氏。和州廣瀨郡人。十五出家。二十受具足戒。二十五奉勅入唐留學。學唯識台教兩宗。在唐七年。傳來經疏五百餘卷。詔付少學。三十人稟其業。又勅明一法師試所學。一誥問二教。稍有窒礙。一呵曰。久經歲華學植膚淺。何乖朝寄哉。賀大愧垂淚。於時朝議曰。長途一躓何妨千里之行。大樹折枝豈忘百畝之蔭。賀著法華疏弘贊略贊唯識議等四十餘卷。(【考】此句中文字恐可有錯落)延曆二十二年二月卒。歲七十五。
贊曰。王虧數敗廉頗而頗不害為良將。長途大樹闕於朝議。賀公不多違朝寄哉。
釋永忠。京兆人。姓秋篠氏。寶龜之初入唐留學。延曆之季隨使歸。涉經論解音律。善攝威儀齋戒無缺。桓武帝勅主梵釋寺。弘仁七年四月滅。歲七十四。遺表上唐所得律呂旋宮圖。日月圖各二卷。律管十二枚。塤一枚。

釋圓行。果隣法師之徒也。入唐從青龍寺義真和尚受兩部密教。承和六年歸。居靈嵓寺。傳來經書六十九部一百三十三卷。
釋慧運。洛城人東寺實慧之徒也。承和五年共圓仁師同舟入唐。十四年歸。為安祥寺第一世。貞觀十三年九月卒。年七十四。
贊曰。誰言震旦萬里海鹹。問津諸子舳艫相銜。忠歸。行往。運又馳帆。孳孳吾黨。今我古監。
釋慧萼。齊衡初應橘太后詔齎幣入唐。著登萊界。抵雁門上五臺。漸屆杭州鹽官縣靈池寺。謁齊安禪師通橘后之聘。得義空長老而歸。又入支那重登五臺適於臺嶺感觀世音像。遂以大中十二年抱像道四明歸本邦。舶過補陀之海濱附著石上不得進。舟人思載物重屢上諸物。舶著如元。及像出舶能泛。萼度像止此地不忍棄去。哀慕而留。結廬海嶠以奉像漸成寶坊。號補陀落山寺。今為禪剎之名藍。以萼為開山祖云。
贊曰。萼公者行止可謂合道矣。奉橘而行。空共而歸。我不見掖庭不知靈池。唯道而已。抱像而發。舶黏而止。我弗怕異域弗憶故里。唯道而已。蔽芾白花萼師所芟。百世之下佛閱祖閱於戲道之合者乎。
釋真如。大同帝第三子也。大同四年皇太弟(弘仁帝)受禪即祚。尊大同帝為太上皇。立高岳皇子為皇太子。即如也。尚侍藤藥子及兄仲成勸上皇為變。事發覺。上皇薙髮。藥子仲成伏誅。乃廢太子。太子元有出塵之志。為沙門居東大寺性聰敏志氣宏邁。學涉內外。習三論於道詮。稟密教於空海。既而得阿闍梨位。勤於教授。嘗言密乘奧祕此方未盡。當入大唐質所疑。彼地若此土遠踰葱嶺焉。貞觀三年上表奏事。四年泛海入唐。遍詢名德不充如意。遂杖錫西邁。翩翩孤影流離絕域。元慶五年在唐留學沙門中瑾寄書來曰。如皇子過流沙。傳聞到羅越國逆旅遷化。
贊曰。丈夫貴氣志不言功業也。有氣志者功業自備。蓋功業者天也。氣志者德也。苟有德者豈言功業之成否於其間哉。夫海師居東場。仁公坐北壇。當是時密學之盛也西唐不如矣。如公眇視東北直跨滄波。睥睨支那橫截流沙。其志鋒不可觸也。猶湛盧豪曹。雖弭淨而不多讓矣。自推古至今七百歲。學者之事西遊也以千百數。而跂印度者只如一人而已。吾以如為求法之魁者是也。
釋裔然。居東大寺。學三論。又受密乘于元杲。永觀元年秋入宋。東大寺送書青龍寺。比睿山寄信天台山。然持二書著宋地。太宗太平興國八年也。巡禮勝地歷觀明師。遂於汴都西華門外啟聖禪院禮優填第二模像。乃雇佛工張榮模刻而得之。太宗詔問我皇系曆祚。然答詞祥備。君臣稱嘆賜紫衣。辭上五臺。雍熙三年上台州鄭仁德

舡歸。永延元年也。然得大藏五千四十八卷。及十六羅漢畫像。其優填模像見今在嵯峨清涼院。長和五年卒。
釋寂昭。諫議大夫江齊光之子也。俗名定基仕官至參州刺史。會失配。以愛厚緩喪。因觀九相深生厭離。乃割冠纓投睿山源信之室。早名講學。長保二年信作台宗問目二十七條。付昭寄南湖知禮法師。禮延昭為上客。丞相丁晉公欽昭德義。禮答釋成。昭欲持歸本土。晉公思留之啚以姑蘇山水之美。昭愛其奇秀止于吳門寺。令其徒送禮答釋。晉公披襟厚遇。昭有黑金水瓶。與晉公以詩曰。提携三五載。日用不曾 離。曉井斟殘月。塞爐釋碎漸。鄱銀難免侈。萊石易成虧。此器堅還實。寄公應可知。初景德元年昭上進無量壽佛像。本朝名刻也。真宗大悅。賜紫方袍。
贊曰。然昭二師稱于宋地。也見宋諸書焉。二師恐有本乎。如昭師源信主法智友晉公。可謂善擇焉。瓶詩予得楊文公談苑。昭之緒餘尚又被採文公。況其本乎哉。
釋成尋。姓藤氏。簪紱之胄也。事石藏文慶稟密教。延久四年三月乘宋商孫忠船著蘇州界。神宗熙寧五年也。登天台遊五臺。西臺見五色雲。東臺見圓光。光照尋身。光中現群菩薩。其數一萬許。南臺見金色世界。返入汴京。神宗召見延和殿賜紫衣絹帛。勅舘太平興國寺傳法院。時西天譯經三藏朝散太夫試鴻臚卿宣梵大師賜紫日稱奉勅從事翻譯。稱者中天竺人。東來已二十六年。同預者朝散大夫試鴻臚小卿宣祕大師賜紫慧賢。梵才大師賜紫慧詢二人宋人。證梵義西天廣梵大師賜紫天吉祥中印度人。又筆受綴文證義等皆悉備足。尋與梵宋碩師親炙遊處。六年天下大旱。神宗聞尋有密學。勅於瑤津亭修祈雨密法。尋謂本邦宿德遊此方名尤顯者十數人。未有承詔旨也。今我攘宋地之灾沴又為本國之光華。便修法華法。至第三日夜雷電閃鳴大雨徹旦。神宗遣使賀慰。宣曰乞延修七日霑洽率土。尋依勅。霖雨三日。神宗幸壇所燒香。翌日歸傳法院。勅送茶果達嚫若干。後十餘日賜號善慧大師。又勅加譯場監事。張太保問曰。日本國又有靈如闍梨者乎。對曰。我國密乘甚盛感應如響。我之儔豈得齒乎。太保嘆曰。西天日照三藏祈雨五日而得。中天慧遠慧寂七日而應。未有如闍梨三日之速矣。此歲有本朝舶便。尋奏取新譯經三百餘卷寄來。尋在大雲寺時常讀法華。一日青衣童子來屋上聞經。眾人皆見。童忽隱。大雲之寶塔院東南有大槻樹。尋誦經中夜無風其枝自折。侵曉童來諗曰。伊勢太神宮傳語。闍梨誦經聲極梵天。我雖不離本宮常來聞之。今夜又率眷屬來。諸神多居樹上故枝折耳。願師莫訝也。語已不見。或時修不動供。本像搖舌語話。護摩時尊像現爐煙中。尋臨終頂上放光三日不滅。漆全身安傳法院云。

贊曰。予遊大雲寺問尋事。主事出像示之。容質渾厚實有德之儀也。上有贊曰。稟粹日天。為釋之賢。分燈智者。接踵裔然。觀國之光。蒙帝之澤。聿遘良工。遽傳高格。慈相克肖。乾城妄瞻。滄浪萬里。秋空一蟾。遐寄歸舸。眾仰無厭。署曰。譯經證義文慧大師智普述。熙寧六年癸丑孟夏初五日記。亦有十八羅漢及僧伽像。其畫妙細良絕筆也。主事曰。宋后嘲尋。尋共肖像寄來。予見像贊及名畫等信尋之立宋地之不妄矣。

願雜十之一

古德一

予讀日本紀。欽明之後沙門之見國史者斑斑在焉。又古記遺編每每得之。只其事迹略焉。今掇片事隻蹟繫於此。庶幾不隕昔賢之名也。昔太史公立仲尼弟子傳。太半姓名而已。今之片隻者不為僭越矣。

釋豐國。用明二年四月上語群臣曰。朕欲歸三寶卿等議之。時守屋勝海等皆沮之。蘇馬子奏曰。聖勑詎有異謀乎。於是乎皇弟穴穗王子引豐國法師入內。

釋德齊。梁人司馬達等之子也。崇峻三年與漢人善聰等八人同出家。

釋德積。推古三十二年始置僧都。積當選任之。

釋慧妙。大化元年孝德帝救為百濟寺主。白鳳八年病。帝遣草壁皇子訊疾。明日寂。詔三皇子弔之。

釋道顯。天智元年三月唐人新羅人伐高麗。高麗時為吾西藩乞救。上發兵赴海外。四月鼠產閑馬尾。朝廷恠恐。顯奏曰。高麗屬我乎。果然。

贊曰。予讀唐書。高宗龍朔二年者當吾天智即位之歲也。龍朔元年三道伐高麗。二年圍平城不克。以國史考之。宜乎不克也。又以證唐史之實矣。昔我神功聖后征新羅時。百濟高麗震恐附庸。其後或叛亦征。朝貢相繼為我藩國。吾思其間或叛者隋唐之伐與。至此名援於吾者以附庸之久而王化之順與。顯師以方推術。可謂博物矣。

釋道信。蝦夷人。持統三年奏求出家。與自得奉勑得度。此歲新羅獻彌陀金像。朝廷責失禮還貢獻物。新羅恐。得奏求其像。許而賜之。

釋法員。持統十年近州益須郡醴泉出。詔員及善往真義等至彼試嘗。

釋弘曜。居藥師寺。究經論決疑難。年八十六滅。

釋慧忠。山州人。姓秦氏。論義入微。時號智者。又事遊化。晚歸本邦終。年七十餘。
釋行表。和州葛上郡人。為近州講師。嘗受道璿禪師禪要付上足最澄。延曆十六年化。歲一百四十。
釋仁秀。豫州人。姓物氏。學業超邁而操行不精。大同三年三月卒。
釋澄睿。京兆人。姓崗屋氏。粹經論。弘仁八年三月寂。
釋慈恒。京兆人。姓茨田氏。學唯識。尤善因明。才多而少行。人或言之。天長四年二月卒。年六十五。
釋壽遠。武州人。姓橘氏。學三論于安證法師。又善因明。承和五年十二月逝。年六十八。
釋守寵。讚州人。姓佐伯氏。從護命法師學相宗。長論辯。承和八年十二月寂。年五十八。
釋道詮。武州人。居法隆寺。學三論。世言於和州福貴寺修求聞持法得自然慧。貞觀十八年逝。
釋承俊。居東大寺。學唯識兼真言。嘗建勸修寺。
釋良真。姓源氏。永長元年三月承保帝幸西京禪房。真以所傳南天竺國龍智阿闍梨五鈷杵獻於帝。帝大悅。
贊曰。諸師者我不得已而列之也。又近世負時名者講律之中有焉。禪門尤多。所謂雲山叟。圓鏡堂。悟桃溪。明南浦慧癡兀。日高峰之儔吾欲盡采收。或使人尋覓。或就其徒乞求。三四回七八到而皆不得焉。蓋我國朴質不事記述自古而然。故大賢大德竇沒不聞。今之世又是也。而余已掘修之泥。揚撰纂之波。庶可畏之君子餔續補之糟。拾遺之醨乎。
元亨釋書卷第十六　終

(大日本國延文庚子六月有　旨入毘盧大藏濟北禪庵寓居比丘單況謹募眾緣刊行)

元亨釋書卷第十七

濟北沙門　師錬撰

願雜十之二

王臣二

聖武皇帝
貞觀皇帝
寬平皇帝
寬和皇帝
蘇稻目
蘇馬子
司馬達等
大織冠鎌足
尚書右丞和真綱
右僕射藤良相
讚州刺史高公輔
羽林次將藤義孝
殿中監高良臣
黃門侍郎源顯基
將軍平維茂
別駕射親元
中散大夫橘守輔
房州刺史源親元
尚書右丞平時範
左僕射源俊房
算博士善為康
吏部侍郎藤敦光
諫議大夫平實親
羽林中郎源雅通
越中太守藤仲遠
越後太守紀躬高
副元帥平時賴

士庶三

藥延
感世
尋寂

乘蓮
惟高
藤井久任
野敦末
秦武元
願西
源傳
清信俊
江親通
西音
王良門
修覺

修多羅曰。富貴學道難。士大夫猶病諸。況王公乎。我國家聖君賢臣相次間出。皆能欽歆我法。予博見印度支那之諸籍。未有此方之醇淑也。何者神世一百七十九萬二千四百七十餘歲人皇二千年。一剎利種系聯禪讓未嘗移革。相胤亦然。閻浮界裏豈有如是至治之域乎。以故佛乘繁茂率土和洽。君臣崇奉歲曆綿邈。亦我真宗之助化與。予取居世相而契實相者作王臣篇。
聖武皇帝者。文武之太子也。養老八年二月即位饗國二十五年。流王澤崇佛乘。異域聖賢鄉風來應。所謂西域菩提。佛哲。東震道璿。鑑真也。本朝英傑亦多遝沓。行基。良辨。道慈泰澄等也。又創東大寺改大官寺。凡百勝業見資治表。天平二十一年就行基法師受菩薩戒。七月二日禪位太子。年五十出家修道。法諱勝滿。天平勝寶八年五月二日崩。聖壽五十八。
貞觀皇帝者。仁壽第四子也。天安二年十一月即位。饗國十九年海內安寧。貞觀十八年十一月遜位太子。幸水尾山寺。營佛宇當寢陵。帝風儀端嚴邈如神仙。好經史耽釋典。鷹犬玩好棄而不御。嘗以真雅。宗睿為法友。出宮之後在清和院。御膳只菜蔬而已。屢幸名藍勝地。所謂山州貞觀寺。和州東大寺。香山神野。攝州勝尾寺。凡畿甸靈區巡幸殆遍。或留止重日浹旬。自海印寺還水尾。或兩三日一齋六時苦修一心禪念。元慶四年十二月四日崩圓覺寺。聖壽三十一。隣大漸勑侍僧誦金輪陀羅尼。向西跏趺定印。此夜地動五六震。宸儀不傾。儼如如在。遺詔不建山陵。茶毗中野。
寬平皇帝者。仁和第七子也。仁和三年十一月即位亨國十年。寬平九年七月遜位太子。帝幼不御腥羶。志慕三寶。卯歲上睿山游觀。耽樂僧儀而忘歸。常遊歷諸寺歲十七白母后求出家。后曰。汝志可貴也。然大屋寺有應俊法師者。精修之士也。汝先事彼出家未晚

耳。又以前志白仁和帝。帝曰。善哉善哉墮三寶數。且見世相漸成梵儀。時仁和在諸藩。後數月登寶位。難犯天威不暇復奏。踰三歲繼帝祚。咨天曆數不容逃乎。昌泰二年十月十四日從益信法師出家。法諱空理。即奉書辭太上天皇尊號。昌泰帝懇授。遜讓益固。不得已而隨之。十一月受戒於東大寺。延喜元年十二月於東寺受灌頂于益信。營御室於仁和寺側精修禪宴。四年三月建圓堂安置金剛界會三摩耶形。即立誓曰。昔為人君萬姓作惡皆歸我今成佛子。一身修善普利佗。又幸睿山謂增命法師曰。昔少年登臨此山志求出家。中間萬機。瞬息十祀今果本志。不任喜幸。願從師受菩薩大戒及瑜伽深旨。便亦勑作御室於千光院。五年四月十四日於睿山戒壇院受大戒於命。時壇上現紫金光。七月辭封戶。昌泰帝手詔不許。十年九月就命受灌頂阿闍梨位。上聞上皇灌頂事。詔羽林次將藤俊蔭授命以法眼和尚位。上皇手擎冊文付命。及數珠香爐磨衲等。自爾屢啟密席稟灌頂者多。承平元年七月十九日崩。睿算六十五。
寬和皇帝者。安和之長子也。永觀二年十月十日即位。寬和二年六月二十二日夜排貞觀殿玉闥自躍下地潛出宮。扈從二人。供奉沙門嚴久。侍中藤道兼也。雖嬪嬙不知也。路過安晴明宅。安氏適避暑經行庭下。忽仰見大驚曰。天象呈變。天子避位。何其怪哉。帝聞斯言笑而走。安氏便入宮奏事。帝不在焉。帝如花山寺薙髮。法諱入覺。睿算一十九。初帝亡弘徽殿妃。自此厭世相。故當妙齡脫屣金輪寶位。又不受太上皇尊號。偏奉僧儀修密法。王畿靈區多所游歷又入紀州那智山不出三歲。其勵苦精修苦行之者皆取法。一日神龍降獻如意珠一顆。水精念珠一串。海貝一枚。帝置寶珠於嵓屋念珠於千手院以為地鎮。苦行上首傳持祕授至如今。其海貝穴沈瀧下。俗曰食九穴貝者長年不老。蓋帝令飲瀧水者得延齡也。承保帝聞貝事。召弄潮者入瀧底搜看。潮人出波奏曰。貝猶在徑三尺許。自帝修練此地。苦行者六十人。至今不絕。回都在花山寺。闢密學受灌頂者多矣。寬弘五年二月八日崩。聖壽四十一。
蘇稻目者。欽明帝之宰臣也。十三年十月百濟國貢獻釋迦金像。群臣沮之。稻目奏曰。西藩諸國皆悉信嚮。若佛不祥彼豈備貢。已為附庸何懷欺罔。帝以像賜之稻目。乃捨向原宅為寺。安佛像加崇敬。
蘇馬子者。稻目之子也。與厩戶皇子戮力興佛事。敏達十三年九月百濟麻深臣有彌勒石像。馬子乞之於宅東營殿安之。請慧便法師師事之。推古二十二年病。八月上宮太子勸出家。拜太子受具戒而薨。
司馬達等。南梁人。繼躰十六年來朝。于時此方未有佛法。達等於和州高市坂田原結草堂奉佛。世未知佛。號曰異域神。屬馬子鄉佛

乘。達等翼贊之。敏達十三年馬子供石彌勒像設齋會。達等預焉。忽於齋飯上得佛舍利。乃獻馬子。馬子以鐵砧鎚試之。砧鎚共陷舍利不壞。又投水不沉。馬子依茲益固信敬。達等之子作比丘名德齊。女為比丘尼名善信。時人指家族為佛種。

大織冠鎌足。和州高市郡人。其先天兒屋根命之裔也。世掌天地之祭祀。在胎聲聞外。孕十二月而誕。性仁孝。博學玄鑑風姿挺特。本姓大中臣。賜藤氏柄宰權奉佛法。天智八年十月十六日薨。先數日剃除鬚髮。臨薨帝賜純金香爐曰。已聞出家。可持法具。卿執此爐。從天仙後。昇兜率天。到慈氏前。證真如法。勅公卿百辟皆赴喪。自古宰輔之遇未有如是之盛矣。

大中大夫尚書右丞和真綱者。戶部尚書清之第五子也。性敦厚忠孝。少游大學。頗讀群書。與兄廣世歸佛乘。好聽講論。承和十三年謝事隱屏。專勤淨業。年六十四無病而薨。

贊曰。昔者智者之倡台教也徐陵和之而顯如矣。荊溪之記教觀也梁肅述之而爛然矣。真綱遊睿阜而精教乘。豈徐梁之流亞與。延曆弘仁之間台密傳此方煽行宮闕者真綱及兄廣世之力也。二公者其駕願力而來者乎。

右僕射藤良相者。太師冬嗣第五子。皇太后及太師忠仁公同母弟也。童稚有遠識。弱冠游大學。承和元年擢陪侍。齊衡二年遷右僕射。貞觀六年受灌頂于智證大師。年四十亡配江氏。爾後無娶。性慈仁輕財重法。耽竺典究密教。勸學院南建延命院。收養藤氏無家產者。東京別業置崇親院。保育族女寡窶者。二字割封戶納莊田。常延文學士惠寒苦人某年十月初於直廬得疾。十日告諸子曰。今日者興福寺維摩會也。我以此日取死豈非因緣乎。諸子聞已哽咽。乃向西結彌陀根本印奄爾薨。年五十五。顧命薄葬棺覆單衾。

贊曰。初予讀范文正公義田記以為獨恣美於千古無對也。今見藤公延命崇親二字恨知之晚矣。況先於范乎哉。豈仁人之舉不期而自合與。范文有匹矣。蓋二公自吾法之中而得也。

讚州刺史高公輔。幼薙髮於慈覺之室。法名湛慶。有義學名。然倦戒檢反俗。仕到于侯牧。俗號高大夫。于時都城多恠。勅太史卜。奏曰。王城東南古寺佛像亂階故有此怪。宮使物色東山。安祥寺大殿安兩界諸尊。歲久傾斜差舛。詔公輔整理。公輔向寺入殿。坐一席以白杖指揮曰。其像移某處。諸像自起隨杖居各位。無少錯悞。輦下嘆舊感之不失。

羽林次將藤義孝者。太師謙德公第四子也。朝事隙誦法華。永絕腥葷。天延二年秋染病。誦方便品而逝。異香滿室。亞相藤高遠平居友善。義孝卒不幾夢。在宮中與義孝娛遊。義孝哦一聯曰昔約蓬萊宮裏月。今居極樂界中花。高遠覺後哀嘆。

殿中監高良臣。少應進士舉。才名冠時。中年歸佛乘。讀法華念彌陀。天元三年嬰沉痾。七月初三其疾自瘳。乃剃頭受戒。五日趺坐合掌唱佛而薨。香氣滿室。空中有天樂之響。殘暑猶熾。數日身不壞。儼然如生。

黃門侍郎源顯基者。亞相俊賢之子也。兒稚好學荐翔臺省。常志梵苑。寬仁上皇升遐。顯基未過卒哭而出家。愛族留不住。上睿山首楞嚴院事延殷法師。後入大原山閱經論助修練。晚患疽。良豎乞治。答曰。我聞萬病之中心不亂而赴寂者唯癰而已。我適患之何其幸哉。謝豎念佛安祥而薨。

贊曰。視死而如歸者吾黨之人尚鮮矣。況塵中乎。源公發背為幸。平居所養見於此賢也乎哉。

鎮守府將軍平維茂者。前將軍貞盛之姪也。以有勇材養為子。字之曰餘五。數策戰勳爵至將軍。故俗呼曰餘五將軍。被堅執銳而廻於佛乘。以故精確。嘗謁慧心院源信聞止觀圓妙之旨。兼承往生之要義約曰。我殆于溘然願得來勸。至老病革遣使於信責約。信會有事不赴。以安養迎接圖付使曰。汝只言將軍對此像修攝身心。信亦往不可加也。使者復命。將軍得圖而喜。便合掌對像奄爾逝。年八十。

越州別駕射水親元。身嬰國務心鄉佛乘。休退之暇修法華會。寫大般若經。六齋十齋必事勤修。康平之年春初罹疾。謂曰。我雖粘病席念佛六萬聲未嘗缺。只願二月半同世尊取滅。至二月既望扶兒孫沐浴。著新衣。十五日朝謂家人曰。今日死期多時所望也。至午時令人念佛。又自唱。日之昳或思勞困勸漿粥。辭曰。我頃者以此日或持齋或絕食。何于今破齋戒乎。遂不受寂爾而逝。

中散大夫橘守輔。京兆人。年向八十人未見其歸三寶晚刺豫州。永長元年六月二十四日退衙之晚身無病向西唱彌陀端居而逝。奇香異樂瑞應甚多。或恠之問其妻曰。大守生平無所修。然臨終吉祥殆無比也。不知日來密行何如。妻曰。如君言。頃年未有修善。只每日晚暮不言淨穢洗手漱口。向西讀一紙書。讀已恭敬。作是事十數年未嘗缺耳。問者曰。採來其紙。妻披紙發願疏也。曰。弟子某敬白三世諸佛十方聖眾。弟子自強仕始口唱彌陀心歸法華。不論淨穢只整衣服洗口手。向西合掌唱彌陀寶號稱法華題名。若臨命終時病痾失心不能念佛。以此勝業當彼資粮。又誦法華壽量品偈十反。此等微善自今以往雖急劇永無缺。願以此功德普及於一切。我等與眾生往生安樂國。年月日弟子某發願敬白。眾見之無不嘆伏。

房州刺史源親元。家世武臣。延久帝潛藩時備警衛為金吾。移廷尉司獄而行陰德。笞杖減數刑罰緩法。年過四十務佛事。於洛東作一宇安彌陀像。華麗耀煜。俗號光堂。嘉保三年守房州。以俸餘建精

舍。又勸吏民官務之暇唱念佛。淨信之者適犯法逢勘鞫必弛其刑。以故州民多歸佛乘。秩滿廻京。庶民庶路泣留如離父母。不入洛徑往園城寺薙髮。長治二年十一月七日頭北面西右脇而逝。年六十八。家人不知屋上有祥雲。驚而入見合掌之手不解。顏色如生。
通議大夫尚書右丞平時範者。尾州刺史定家之子也。天仁元年冬辭鸞臺入佛家。法號定慧。來問者皆曰。未至耳順致仕何速乎。答曰。我昔心中立約。年五十六必割世網。今行年五十五羸痾荐侵。何必待來歲。故爾耳。次年正月謂人曰。仲春我去。至二月五日修彌陀護摩法華懺。又圖黃金色不動尊像。十日病革。扶起念彌陀寂然薨。年五十六。
儀同三司左僕射源俊房者。後中書王之嫡孫也。明政事善文學又有臨池之妙。朝事暇務佛學。近寢營佛宇安彌陀像為持念之證。保安二年挂冠。三年二月潛剃鬚髮自號寂俊。乃上台嶺受戒。十一月染小惱。令人要雲居寺瞻西。西至。共念佛號。又執筆書華嚴經題名已奄然薨。年八十七。時堂上三間祥靄充塞。加州刺史高盛業出庭見屋上。雲中白光再現。
算學博士善為康者。越之中州射水郡人。治曆二年年十八入洛師事算博士善為長。所業外肄進士明經二科。寬治帝以其精算術抽為博士。遂至朝議大夫。少年愛佛教。能持如意輪大呪。承德元年以來每日誦金剛般若經三卷。乃著驗記一篇。康和元年以來絕色欲修念佛。亦著拾遺往生傳。永久四年以來每日誦般若心經三百卷。為臨亡除魔障資。保安元年以來永絕肉味。大治三年秋書如法法華經爾來禁酒。凡日課金剛心經如上。并彌陀經九卷。如意輪大呪一千反。念佛一萬反。終身不缺。及諸禁無弛。保延五年六月病。謂左右曰。仲秋是我溘焉之期也。于時猶子行康問曰。出家持戒淨土之勝業乎。對曰。爾也有之堅信而已。念佛功成不必出家。十即十生百即百生。八月四日後夜手擎願文向西而卒。年九十一。後三日身體尚暖異香郁然。
吏部侍郎藤敦光者。世稱大儒。平生製作詩文盈二十篋笥。佳句多在人口。天仁帝召為侍讀。天養元年四月依病剃髮謂子弟曰。吏部侍郎通議大夫我亦足矣。一日謂曰。焰王召我為文臣。而因出家得遁也。十月二十八日延沙門受戒。結定印唱彌陀而薨。年八十二。
諫議大夫尚書右丞平實親。才名文學顯著于時。性慈仁常以飲食施獄囚。於園城寺建一宇給夏臈供。又白河營精舍往來禮懺。暮年除鬚髮持戒精修。久安二年二月薨。移時蘇息。語其子曰。我雖生兜率非素志也。不往安養頗背夙望。為我修善早薦超昇。言已長往。
羽林中郎將源雅通。性好畋獵。動隨鷹犬。而直心純至誦法華提婆品日十二遍。常以淨心信敬不生疑惑者不墮地獄餓鬼畜生乃至在於

佛前蓮華化生之句為口實。臨終時乃誦提婆品。至此句而卒。時有比丘與雅通善。夢五色雲覆源宅。妓樂列空光明耀雲。異香薰烈奇葩紛紜。其雲指西而去。夢寤思忖中郎恐死乎。平旦往問。家人曰。今夜已往。比丘語夢合家哀慕。臺慧闍梨其夜有夢與比丘同。都下盛傳。時京兆尹藤道雅不信此事曰。中郎生平田獵漁捕安得安養邪。中郎若生極樂求往生人當好殺生。尹適詣六波羅密寺聽講。講遲憩廡下。有三老尼相語。一曰。身貧年老難作善根。浪度此生恐入三途。熟思身後祈求三寶。昨夜夢一老僧告曰。汝莫愁也。純誠直意取生安養。有相眾善不必為要。豈不聞乎中郎雅通以直心生極樂。平居修善只法華一小品耳。尹側聞尼語頓解疑謗。

越中太守藤仲遠。天性慈順。雖在仕官常志山林。車中馬上口唱經呪。其日課。法華經。般若理趣分。普賢十願。尊勝。隨求。彌陀大呪等未有缺也。一生之間讀法華萬餘部。聽法華講千餘座。造佛像寫經典不可勝記。臨終時天樂天香充塞家室。合掌曰。我今生兜率。言已而逝。

越後州刺史紀躬高。粹佛事。以俸餘寫法華千部。初州之三島郡乙寺有比丘持法華。一日雙猿來庭樹終日聞經。朝來暮去凡百餘日。未曾闕。比丘近猿邊曰。汝常常來不怠又可恠憐也。汝欲讀誦乎。我為汝切誦。猿振頭不受。比丘曰欲書寫乎。猿聞此言垂淚下樹頂禮而去。五六日後百餘猿皆負駄來。比丘見之諸樹柔薄皮。蓋為寫經紙也。比丘生希有心。取木皮書妙法華經。二猿採諸果蔬供比丘。日日如是。書到第五卷一日二猿不來。比丘以為獼猴亦倦供給也。次日又不見。比丘謂二猿雖畜又甚謹慤。豈廢二日哉。恐有夭邪。乃出寺巡見山林。去寺一里深谷之間二猿傍置山藥數枚入頭於穴中而死。比丘悲泣哀愍收其二屍讀經而埋之。以其木皮經雕柱藏之。後四十餘歲躬高領此州大守。下車不問民事。夫婦徑向乙寺問僧。此寺有未書終之妙經王耶。諸僧皆曰無。時有老僧年八十餘。語太守曰。昔二猿倩予寫經恐是與。躬高大悅曰。然二猿者我夫婦也。依聞師經發菩提心。仍請師寫經。我等為供師鑿磽确力盡而殞。經王力故今得冠帶身。思師在世受任此州。願畢書寫令滿夙志。是非小緣照我懇誠。老比丘聞守語流淚而許。四座潛然。乃破柱出經。躬高并婦嗚咽頂戴。老比丘竟書功。

贊曰。宋張文定公方平前身為書楞伽僧。未終而亡。方平任滁州。遊僧寺自梁間取經書補。嗚呼文定前身比丘也。能記先事。雖可怪而又不可怪也。躬高前身獼猴。尚能記焉。是可怪耳。台教曰。名字觀行隔生即忘。猿豈過之。經王功勳不可測乎。

高元帥平時賴者。家世將種。初右將軍源賴朝文治之間領天下兵馬之權。時賴之祖為其元佐。而屬姻婭。爾來世主兵權。皇考王父皆

居副帥之任。累代奉佛。至時賴益勤。寶治之始隆蘭溪遊化本朝。時賴延見加禮。乃創巨福山奉隆為開山祖。文應元年寧兀菴入相陽。迎請寓建長寺。便懷香參禮進前曰。弟子在大宋曾 禮拜和尚。今者多幸再拜慈顏。寧見其語異即握起拳曰。吾雖老拳頭硬在。進曰。弟子兩年前夢一僧教曰參禪。惺後圖所夢像供養。今見尊儀與像無異。寧曰。且莫說夢。又問。和尚年多少。寧曰。六十三。進曰。弟子不問這箇年。寧竪拳曰。莫是這箇年麼。時賴擬議。寧乃[祝/土]三拳。時賴忻然曰。蒙和尚老拳歡喜無量。寧曰不得作拳頭會。從茲公務之暇為法喜之遊。弘長二年十月入山啟曰。弟子近日見得非斷非常底。寧曰。參禪只圖見性。若得見性千了百當。時賴曰。和尚方便指示。寧曰。天下無二道。聖人無兩心若識得聖人之心即是自己本源自性。乃指面前蠟燭巧喻妙說。良久曰。見麼。時賴曰。森羅萬像山河大地與自己無二無別。寧曰。青青翠竹盡是真如。鬱鬱黃花無非般若。時賴言下忽然契悟。通身汗流。便曰。弟子二十一年旦暮望之。今一時已滿足。起禮九拜。寧於佛前燒香與之印可。將法衣一頂付之曰。公不易到箇田地。宜善護持。為說偈曰。我無佛法一字說。子亦無心無所得。無說無得無心中。釋迦親見燃燈佛。又以五偈贈之。時賴亦出夢像與寧。寧書讚其上并付。其後雖不完梵相薙髮齋居。法號道崇。又國俗也。弘長三年十一月二十二日書偈而逝。其福山起願文曰。我子孫能奉佛心宗系胤益昌。蓋家門與禪門為盛衰云。

贊曰。宗門入此土七十餘歲王畿未徧早播東裔。建長之間。平帥握閫外之威權蘊閫外之體裁。故能與名師酬酢瞥脫造詣。昔者齊桓晉文藩王室而不全。李昇錢俶奉祖道而不契。兼二美而全者其唯平帥與。

論曰。或言子謂此土為大乘之國且從之。而又言閻浮界至治域恐亦有黨乎。余曰。韙哉。子之問乎。是余之公言之秋也。君子之言豈苟哉。若涉阿黨為經世乎。若又不經不如默矣。夫物之自然也天下皆貴之。其造作也世未重之矣。吾讀國史。邦家之基根於自然也。支那之諸國未嘗有矣。所以是吾稱吾國也。其所謂自然者三神器也。三器者神鏡也神劒也神璽也。此三皆出自然天成也。初天照太神在天宮也召其孫瓊杵尊曰。葦原中者吾孫胤統御之地也。寶祚之隆當與天壤無窮。即以八咫鏡。八坂瓊。草薙劒授之。及天兒屋根命等五神為陪從。告曰。咨爾從三器五神降下土照臨斯民。今爾離索故付此鏡。此鏡是吾照面具也。我面常在中焉。咨爾持此鏡常面我也。未嘗須臾離矣。今我付汝汝其置斯鏡汝居焉。斯鏡又能鎮汝國祚。其劒之與瓊皆然。汝其往矣慎之哉。以是言之我國雖東方海極之域。其統御之靈也與天地開闢同兆乎。不然三般神器何出於鑄

刻之先而降於天乎。是我國運之自然者也。彼支那者葱嶺之東數十之邦。咸取法度推稱中國。又言文物國。然五帝之世猶無傳國之信器。況三皇乎。又況邃古乎。至夏禹始鑄九鼎立為國器。殷周相傳遷移寶之。及秦奪周鼎沒泗水故。始皇刻卞璧以為國璽。漢又以高祖斬白蛇劒為傳國寶。爾來劒璽為二國器。魏晉以來至趙宋承傳之耳。故唐李白詩曰。一朝讓寶位。劒璽傳無窮。彼支那號大邦者雖土地曠遠。而受命之符皆人工也。非天造也。我國雖小開基之神也傳器之靈也不可同日而語矣。又劒璽之事兩朝不相待而偶合者何。寧天子運彼此相同乎。然支那雖傳劒璽更十數姓者豈其寶器所以為人工乎。我國一種系連綿邈無窮者。天造自然之器之所致乎。因是而言雖千萬世後不有擾奪之虞矣。豈其天造神器者佗氏異胄之所玩弄乎。又支那之三皇五帝三代者我鷸草一神之季世也。視天日神夐古遼邈不可為比也。昌哉我國皇裔。五十餘世年曆二百萬載。一種遞代四夷無擾。其間或有戎羯之覬[門@俞]。皆盡糜爛於西鄙。無乃近帝畿乎。夫有國以來不嬰蠻夷之攘奪者。未有如吾國之純全矣。余閱大藏柰女耆域經曰。摩竭陀國頻婆娑羅王承制遠夷而遣耆域。故有八千里疾象之事。如來在世尚如斯。況滅後乎。奘三藏在印度有戒日王者。而非剎利種。只是雄武信賢之主也。其餘僭奪率見西方諸籍。天竺者閻浮之本邦也。猶有此等篡亂。況諸夷乎。又見虞夏之書殷周之詩。有獫狁獯粥之厄。自漢以降尤甚矣。吾今粗擧歷代之夷虞。春秋之時趙簡子起長城備胡。七國之世燕秦亦築長城。至始皇益遠。漢高帝之威武也尚受平城之艱。故婁敬建和議歲輸美女金帛。猶諸侯稅天子。賈誼疏曰。匈奴侵掠歲致金綵。張瑨書曰。高祖窘平城之圍。太宗屈供奉之恥。魏晉之間羌狄跋扈不堪言也。揚隋一統南北。然北虜轉輸過於漢魏矣。李唐武德九年頡利自將十萬騎進至渭水。房玄齡等六騎隔水語。斬白馬與盟便橋上。故太宗踐祚李靖取定襄。太宗曰。足澡我渭水之恥矣。代宗朝吐蕃陷京師。唐書突厥傳曰。漢至昭宣猶襲奉春之過傾府藏給西北。歲二億七十萬。皇室淑女嬪於穹廬。掖庭良人降於沙漠。夫貢子女方物臣妾之職也。中國異蠻夷者有父子男女之別也。婉冶之容毀節異類。垢辱甚矣。漢之君臣莫之恥也。魏晉羌狄居塞垣資奉踰昔。百人之酋。千口之長。賜金印紫綬。食王侯之俸。牧馬之童。乘羊之隸。齎毳氈邀利者相錯於路。耒耨之利絲枲所生散於數萬里之外。胡夷歲驕華夏日蹙。病則受養疆則內攻。中國為羌胡服役且千載。可不悲哉。迄五代石晉出帝為耶律德光所禽。后妃親戚多被係累。趙宋時益邁前代。靖康之役二帝附虜。讀其史者含淚而不終卷。南渡之後割地服事。漸至德祐覆滅無遺。我見竺支之事。如我國之渾

厚者未有之矣。是區域之靈勝。祖宗之聖武。而亦吾佛乘之資輔也。我言至治之域者其不然乎。

士庶三

周分四民而布王化。我國家王澤流行民無事矣。不怠所業崇奉佛法。今撰甚尤者作士庶篇。

沙彌藥延。美州人。家在路傍。適無動寺一比丘遊方宿此舍。見延中夜沐浴淨衣入屋後齋室。初修懺後誦法華。至天明終一部。語比丘曰。沙彌藥延在纏放逸。而以誦法華為業。生平勤修如今夜又未有闕也。某年月日必生安養。師適至此不為無緣。願至期見我所為。比丘歸睿山。雖承延約不生堅信。思謂其人絆塵累豈如言乎。以故又忘期之年月。一夕紫雲靄房上。雲中有聲曰。沙彌藥延今往安養。先歲之言為信耳。比丘悔謝禮雲中。此事承平之年也。

工感世者。以造佛像為活。餘暇讀法華或一兩卷或一二品。多少隨工之隙。又誦普門品三十三遍為日課。波州桑田郡有宇治宮成命世刻觀自在像。已而成。宮成厚償其價。世受錢帛歸洛城。宮成忽念而言。我與工價者多。不如殺於路奪之。佗人亦不可知也。則追及大江山殺世奪財而歸。宮成後拜新像。肩上割切。從其瘡血流凝地。宮成恠怖曰。我斬工像何有之耶。便使使者馳都見世。世無恙。使者復命。宮成驚恢而急詣工家。返奪財備言所以。世曰。我於大江山逢賊被掠財。潛逃歸家耳。今聞君言。大悲尊代吾受刑也。二人執手感嘆。自此宮成與世盟親友。于時應和二年。(其像今在菩提寺。俗曰穴穗寺。)

睿嶽有攝圓法師者。赴加州。逆旅舘一舍。家婦憐圓疲極具飡勞問。入夜家主來歸。見沙門而喜命婦厚遇。婦告已餔之。家主謝婦。圓見家主而禿丁也。中夜沐浴入齋宇。修懺已誦法華。迨曉竟全。朝語圓曰。我本比丘名尋寂。倦戒法而退。見有妻孥。然生死可怖。猶勤修懺。生平不懈。譬如昨夜。吾今亦死期不久矣。願暫止證我溘焉。圓不忍去。同寂三七日修六時懺誦法華。過三七已。寂語圓曰。今夜往西方。沐浴更衣手執香爐誦法華向西端坐而滅。其夜隣里人人皆夢尋寂坐蓮臺紫雲妓樂昇空而去。圓歸本山說此事。康保年中也。

沙彌乘蓮者。豫州刺史高明順之子也。仕永延帝從吏部郎中出任筑前太守。秩滿歸京。除鬚髮為在家沙彌。(國俗剃髮不全梵儀有妻子者在家稱沙彌。)於居宅側構佛宇。屈南北碩德創長日講論者八年矣。道俗雲集讚歎伏膺。又自少年讀法華持彌陀大呪。暮年嬰病臥聽長講。臨終尚聽講。唱彌陀而氣絕。人夢坐華臺凌雲霞而昇。

周州玉祖神宮司惟高者。累世神宮也。而歸心佛乘唱地藏號。長德四年四月寢病。過六日俄爾氣絕。忽赴曠野迷不知路。於時六沙門儀相嚴好徐徐而來。一人持香爐。一人合掌。一人持寶珠。一人持錫杖。一人持華筥。一人持念珠。其中執爐人告曰。汝知我等不。惟高啟曰。不知。曰我等六地藏也。為救六趣眾生現六種身。汝雖巫屬久歸我也。是以令汝還本土。汝必造我像致恭敬。我居其在南方。言已如夢覺而蘇。已經三日也。便構一宇刻地藏六像瞻禮供養。見聞無不隨喜。年七十餘。唱地藏號向西而化。

藤井久任者。備中州吉備津宮神官也。平居事祭礿業漁釣。寬治四年二月剃髮。法名戒寂。專念彌陀。謝絕妻子而不忌酒葷。八月往大祝賀陽貞政謂曰。我欲啗鮮故來也。貞政盛具腥羶。寂食已曰。我近燒身謁君無日。貞政為戲也。乃於撫阿鄉柴津崗積薪於地上至期妻子親族盡來集。寂以家貲分付妻子曰。汝等早歸故居。又莫悲戀。日午時白眾僧曰。為我修懺。懺了入薪中自放火。煙靄裏念佛聲不亂。年六十餘。後三日貞政聞之曰。我繫祭法忌喪事。而追慕尤甚。不顧祀式。遂往薪所哽咽曰。北邙之煙纔殘遺燼。西方之月願承餘光。慟哭而歸。

親衛挍尉野敦末者。家世僕御。敦末好佛事不慳財。造堂像寫經論。又修念佛三昧。永長二年閏正月染疾。至十五日誡子孫曰。汝等莫相近也。乃向佛像趺坐。晡時一光從西南隅飛來射胸間。人恠之見戶外無日影。時陰雲而已。入夜合掌而氣絕。後數日光明照觸之衣其處作金色遂不改。見者嘆美頂戴。

秦武元者。家世僕御。髫齔事仁和寺沙門為童役。其師入高野山。一百日修護摩。童平旦[奭*斗]閼伽水一日不怠。及冠其父授家業。嘗為太上皇御。性好田獵。一旦棄所好歸佛乘。上皇幸高野。武元陪所業。夜夢高僧捏身垢為丸授武元。武元展手受之曰師為誰乎。答曰。我是弘法大師也。昔日汝給閼伽水其意勤篤。以故我憐汝耳。覺後手中有一顆玉武元不堪感激。上皇還都。則奏此事薙髮修道。又建堂宇安丈六阿彌陀像。朝昏禮供。兼設講席。承德二年八月嬰小恙。臨終斥妻子伴比丘跏趺念佛趨寂。

興福寺莊嚴院實覺法師。有僕童。及壯年白覺曰。我雖賤隸志求佛法。願免役專勤修覺許諾。便薙髮。法名願西。於飛鳥寺側結草廬而居。嘗唱彌陀不持念珠以小豆數升畜淨器充數。誓曰。以一千斛為期。經十數年。或問曰。汝唱幾斛。乎答曰。已過七百石。天承元年七月朔有小病。至十五日求沐浴。諸子拒曰。老病日久。豈容浴乎。西曰。我今日赴淨剎。此身垢穢故求浴耳。諸子聞之不逆具湯沐。浴了著淨紙服端坐。語諸子曰。我死後三日不得葬斂。三日不壞應知生安養。言已向西結定印如寢而寂。三日後身不傾印不

解。又無臭氣。第四日諸子以大桶盛屍置宅後閑地。十餘日。高野山沙門四人來曰。我等因夢事來。願見其屍。諸子思爛壞不欲開之。四僧曰。我等不遠數百里而來。縱雖敗壞豈嫌惡乎。乞益切。諸子不得已而執桶蓋見之。身體不變儀相如生。鬚髮長寸餘。四比丘拜禮而去。年七十五。

源傳者。攝州渡邊郡人也。家世弓馬。自少年慕佛法。而藏信士之儀故人不知有淨業。暮年患風痺飲食已絕。臨終時謂妻子曰。我壯歲以來有親友沙門授弘法大師袈裟。我今瀕死欲披之。則出衣著之。又曰。往年一比丘教曰。南無一心敬禮西方極樂教主三十六萬億一十一萬九千五百同名阿彌陀佛。如是唱禮。汝罪早滅即生淨界。我傳衣受號以來至今三十年。每日一千遍內心稱念。不令人知。今已時至始露此事。言已向西安祥逝。年六十。長承三年也。

清信俊者。累代名儒也。當世學者多出其門。少壯奉三寶。嘗於大原山寺每日供十一僧者十年矣。一日不缺。又令十一僧書如法法花經三十部。又寫法華一千五百部。置名山大寺備講讀流演也。自讀法華二千餘部。令人轉讀三十萬部。久安元年十月二日卒。年六十九。臨終唱彌陀。聲漸消氣乃絕。奇香滿室。經數日喪北山。收斂之間其馥不竭。

江親通者。文士之秀者也。亦能草書。少家產恬淡自守。居塵中讚佛乘。嘗曰。娑羅花周旃檀薪盡以來。歲重千祀境隔萬里。當此時纔得舍利豈非見如來乎。以故起堅誓求舍利。經論之中言涉舍利所有文句皆悉集之。又天竺支那及日域舍利靈感莫不纂錄。合三十卷名曰駄都抄。一日開書函中有六顆珠。光彩炳焉大如小豆。持示人。人不知。然頗珍異。或見曰。佛舍利也。欲知虛實乃安佛前供香花漸經日月。其數增多光色益鮮。親通知不虛加信敬。有求者與之。而數不下六粒。隨取隨生。纍纍如線貫珠。神奇變化彌久彌多。時尹黃門女為尼梵行清修。保安年中室中壇上舍利出現。尼感嘆供養。翌夕夢有人曰。早令親通流傳感現。覺問人無知者。普訪四來。尼自來江家語夢事便以舍利付親通。親通勸四眾作二尺五寸釋迦文像。安舍利像中蓋擬真身也。聞見隨喜瞻仰。暮年出家淨戒精進。仁平元年十月十五日卒。白日紫雲垂屋。

沙彌西音者。元曆帝之西面也。帝好武召勇士置宮中西偏備宿衛西面之名始於此。承久之季帝狩隱州。音自此薙髮專修淨業。除日倩人與一緘書曰。來朝元旦子擎此札來。我問從來。子報曰。極樂世界彌陀佛宣觀自在菩薩召汝。是省箚也。便延使者與膳財。每歲如是。常謂人曰。世言元日多忌諱其語必中。我每年元朝承彌陀詔旨。于今未死何乎。晚歲吉祥而逝。

王良門。奧州人。累代控絃。駿馬獵犬以為友。騎射畋漁以為娛。有沙門空照。為良門所知。語曰。人身難得易失。三途難出易入。子盍捨放逸修淨業耶。良門乃止殺生改邪事。以金泥書法華。又造佛像稽首供養。又發大誓曰。我生前金書妙經千部。乃口絕羶葷歷數十年竟泥經。此間時時奇瑞屢現。或鮮白蓮華散經堂庭。天樂響經堂內。或天童子捧花而來倏忽便隱。靈禽聲如鈴而鳴。或護世四王合掌出現。臨終時洗手漱口告左右曰。天女數千作妓樂乘雲而至。我伴彼昇兜率天。言訖而逝。

沙彌修覺。長州阿武郡人。其家豪富殺生放縱。臨老病索延命。故集比丘讀法華。既而死。諸僧皆去。一比丘為修薦對屍讀經。至第八卷覺蘇息。合掌謂曰。惡鬼驅我而去。君誦經之聲猶在我耳。時天童來曰。聞法信人不可追去。早還人間令卒淨業。是以而蘇。即發道意除鬚髮。爾後持法花一心精進。臨終會比丘讀經。又自讀而逝傍僧夢覺威儀庠序告諸沙門曰。依妙法力生兜率天。

元亨釋書卷第十七　終

元亨釋書卷第十八

濟北沙門　師錬撰

願雜十之三

尼女四

善信
法明
都藍
皇后光明子
舍利
如意
如藏
皇后歡子
高敦遠妻
藤敦光女
藤經實妻
釋妙
願西
妙法
藤兼澄女

神仙五

皇太神宮
白山明神
丹生明神
新羅明神
天滿大自在天神
法道
久米
陽勝
窺仙
都良香
藤太主
生馬仙
法空

尼女四

以色事人者色衰而愛弛。置色事佛者愛絕而道美。今之撰述者其於此乎。或曰。尼亦具解脫服何其下邪。予曰。史傳以類而聚。上之諸科皆爾也。不必以先後為尊鄙。又茲書之製也。只以男女之別繫於是焉。

善信尼。司馬達等之女也。敏達十三年十月從慧便出家。同伴二女共薙髮。一禪藏。梁人夜善之女。二慧善。錦織壺之女。大臣蘇馬子營精舍迎三尼供養。用明二年信白馬子曰。出家之人以戒為地。願赴百濟受戒學。崇峻元年馬子付信百濟使求法發遣。三年春信等三尼自百濟歸。住櫻井寺。

贊曰。東漢阿潘只受三歸而為震旦尼之始。至劉宋鐵索羅自師子國來。慧果尼初全戒相焉。信等為本朝之阿潘羯磨過之學師子之鐵索。跨越慣之。以婉柔之姿奮決烈之志。又不止劉穎之所記而已。

法明尼。百濟人。齊明二年內臣鎌子連寢病。百方不瘳。明奏曰。維摩詰經因問疾說大法。試為鎌子連讀之。帝詔讀之。未終卷病即愈。王臣大悅。

贊曰。東晉有尼道馨說維摩經。聽者如市。然者尼之有講者尚矣。而明一讀未畢沉痾早差。其為効豈不愈哉。爾後淡海公於植槻場創維摩會移興福寺。于今轉盛。豈明之餘烈乎。

都藍尼者。和州人也。精修佛法兼學仙術。居吉野山麓。世傳。金峰山者黃金之地。金剛藏王菩薩護之不容婦人涉竟。藍言而曰。我雖女身淨戒靈感。豈凡婦之比哉。乃登金峯。忽雷電晦暝迷不知路。棄所持杖。其杖自殖漸成大樹。藍又呪龍乘之昇山。纔到泉源不能進。藍嗔踏嵓巒。皆盡崩裂。其養龍之池在嵓下。二跡今尚存。世言得長生之道不知所終。

天平應真皇太后光明子者。淡海公第二女也。聖武帝儲貳時納為妃。天平元年八月冊為皇后。體貌姝麗似有光耀故名焉。生孝謙帝及皇太子。而太子夭薨。六年正月薦先妣橘氏於興福寺。建西金堂安釋迦十弟子等像莊麗妙絕。聖武帝造國分寺。東大寺。皆后之勸發也。又置悲田。施藥二院恤天下餓恙。及東大寺成后以謂大像大殿皆已備足。帝勗于外我營于內。勝功鉅德不可加也。且有詫意。一夕閤裏空中有聲曰。后莫誇也。妙觸宣明浴室滌濯其功不可言而已。后恆喜。乃建溫室令貴賤取浴。后又誓曰。我親去千人垢。君臣憚之。后壯志不可沮也。既而竟九百九十九人。最後有一人。徧體疥癩臭氣充室。后難去垢。又自思而言。今滿千數豈避之哉。忍而揩背。病人言。我受惡病患此瘡者久。適有良醫教曰。使人吸膿必得除愈。而世上無深悲者故我沉痼至于此。今后行無遮悲濟又孔貴之。願后有意乎。后不得已吸瘡吐膿自頂至踵皆遍。后語病人曰。我吮汝瘡慎勿語人。于時病人放大光明告曰。后去阿閦佛垢又

慎勿語人。后驚而視之。妙相端嚴光耀馥郁忽然不見。后驚喜無量。就其地構伽藍號阿閦寺。寶字二年受尊號。四年六月崩。年六十。

贊曰。或言。光明后去千垢。可謂光前絕後乎。余曰。設溫室者可也。去垢者。不可也。曰若不去垢爭感阿閦佛乎。曰阿閦者生于堅誠也。苟有堅誠造次顛沛皆見阿閦。何必區區去垢吸膿始為得乎。又夫君君臣臣夫夫婦婦人倫之大常也。我光明子婦德陰教奉佛崇法古來寡儔也。然去垢之者失當也矣。曰然則后者可舍諸。曰柳下惠者百世之師也。然其德可學。其迹我有不可學焉。我謂光明子者婦人之柳下也。後世婦女善學之乎。

舍利尼者。肥之後州八代郡人也。勝寶三年十一月十五日其母生一肉團。猶如明月。夫妻共懼盛箱捨山谷。七日後往見之若卵。破中有女子。父母大悅收育。里閭聞之歎未曾 有。覃八月身俄壯大長三尺五寸。顏貌端正而無女根。纔尿道在焉。具自然智言詞巧妙。七歲誦法華。華嚴二經。出家成比丘尼。勤行精進晝夜誦經。其音清雅聽者忘倦。世人皆言聖者。肥前州佐賀氏設安居會。請大安寺戒明講華嚴。舍利日日預聽。一日明呵曰。尼身何預廣眾耶。答曰。佛慈平等廣度群生。法界一相寧別男女。儻抱小疑久陪大德。適承顧問欣幸無量。便誦華嚴偈廣設問難。明蹔答釋。時講筵諸德聞之驚歎。各出深義試問舍利。舍利一一分析無礙。道俗尊重號舍利菩薩。肥後州國分寺沙門并豐州宇佐神宮寺僧二人誹謗舍利。時空中垂長臂不見身抓裂二比丘頭面。二人不幾俱死云。

如意尼者。天長帝之次妃也。丹州餘佐鄉人。居無常處相羊山水之間。十歲入王都。常詣如意輪觀自在菩薩靈場。或眾人闐咽未有見妃面者。弘仁十三年帝在儲宮。春初得靈夢。遣華使於頂法寺。物色而得妃。妃入宮儀容端麗婦德柔順。帝敬嬖焉。性慈仁盤撤肉味好行檀施。不沐浴體無垢。天香自然不用薰染。持如意輪呪為日課。帝又奉如意輪像。一時帝修如意輪法。期七日願見真身。第六夜夢天童子白言。陛下欲見大悲真身第四妃即是也。(第四妃意也)覺後益加敬重。妃雖專寵榮志在山林。適一七日修如意輪供。第七後夜持誦時閉目。怳然空中有妙音告曰。攝州有寶山號如意輪摩尼峰。昔神功皇后征新羅而還埋如意珠及金甲冑弓箭寶劒衣服等故亦曰武庫。汝盍居彼。妃聞言開目。端正天女乘白龍擁白雲向西南飛去。妃怪喜焉。蓋天女者大辨才天也。白龍變石像。今猶在此地。又是役小角之舊趾也。天長五年二月十八日夜妃以夢事共宮女二人潛出宮赴攝州。金吾校尉橘親守為後從。到南河畔欲乘舟。舟人看妃嬪莊麗恠恐不艤舡欲逃去。而舟不動不得已而載之。明日著攝州南宮浦。妃下舟詣南宮神祠。神啟殿戶與妃晤語。而二女得見餘不

知。此日又詣廣田神祠。神又開戶宛如南宮。次日入山。山西北有池。池中出五色光。池邊皆白石似玉。摩尼山前有小峯逢大蛾於此。進而登摩尼峯。紫雲來覆有一美女來曰。此山曰究竟摩尼靈場。四神相應之勝區也。我藏珍寶於此地。每日禺中我降此地。宜立道場。言已如下山而不見。是廣田神之化現也。妃大喜營構梵宇。合郡官吏及富民等不期自來傾財勠力。三十三日而落成。妃及二女於是精修誦如意輪陀羅尼。晝夜無間。山西一峯有大鷲鳥。黑雲常覆峯。時時出焰。一時炎燄飛來逼堂宇。妃以香水灑之。其火自退。又黑雲中異神降來。其體八面臂甚可怖畏。欲毀道場。於時妃身心不動。漸供化之。妃出宮後帝尋之不得。便勅尚書右丞真王嚴加搜索。入山宣帝緒。妃語真王曰。妾自侍宮掖夙志山野。幸遂素情。豈駕歸輦。又帝頃歸如意輪尊。妾亦此地修此法。不多乖睿情乎。真王還宮奏。上潸然。妃在宮時恩寵無比。雖逃於此荐賜存問。諸后妃懷妬忌謀燒山房。上知此事勅真王佯燒山下茆屋。諸妃遙見煙以為焚真房。妬心乃止。今其燒地俗曰燒寺。此歲十一月妃請空海僧都入山。一七日修如意輪法。第三之夜月輪徑三尺乘紫雲入場壇。六年正月妃入壇灌頂。七年二月十八日受祕密灌頂。三月十八日妃欲造如意輪像。山行相木至山頂。有大櫻樹放光。妃喜怪交集。即延海闍梨到木所。海就櫻所持誦。中夜地大震。須臾櫻木移山南。海即其地刻像。取妃身量為準。凡經日三十而加三。其間日夜妃持如意輪呪未曾暫斷禮拜。又日夜各三千已而像成。海刻像時以偈讚曰。敬禮救世如意輪。理智不二微妙體。不捨造惡諸眾生。三世有情同利濟。于時像樸點頭。妃一日語海曰。此山西峯有一鬼號麁亂神。(前八面臂者。)常作法障為之如何。海曰。東谷有大石。就上供神無事也。妃從教。爾後神不為障也。妃又問曰。常住佛法守護為何天。海曰。大辨才天女是也。妃即受天女法修之。第七夜天女率十五輩童子降臨。時前峯俄起黑雲三障碍神現雲中。妃又設祭供神乃隱。是摩尼山前大蛾也。其後海師修如意寶珠法。辨才天女又降居西北大石上誓曰。我住此山為一切貧乏眾生施財寶。八年十月十八日妃屈海師落慶大殿。海唱偈曰。峰有摩尼如意寶。大聖為利諸眾生。普雨一切珍財具。入此地者得豐榮。妃又合掌曰。自性阿字不二門中有大寶。名如意。吾獻大悲菩薩前。歡喜納受施一切。此日妃自截髮束為三分。一獻大悲像。一奉宮中。一施海師。就海剃落受具戒。法諱如意。二女同時薙染。一曰如一。二曰如圓。三尼爾來持誦益勤。故號此所名神呪寺。承和二年正月帝幸山中。如意對御演說。皇情大悅。扈從甚盛。大中大夫和真綱在焉。如一者真綱之女也。出宮後未相見。到此父子始遇。悲喜交合云。三月二十日五更時如意向南方趺坐。誦如意輪呪合掌而化。年

三十三。妃嘗蓄一篋。人不得見裏面世曰天長元年大旱。守敏空海後先相競法雩。海得妃篋修祕奧。以故雨澤洽天下。妃之同閭有水江浦島子者。先妃數百年久棲仙鄉。所謂蓬萊者也。天長二年還故里。浦島子曰。妃所持篋曰紫雲篋。海刻櫻像時妃藏篋像中。
論曰。或言。浦島子稱妃篋名。夫妃篋恐非神仙之器。乃是密乘之祕蹟也。故弘法大師得此能降天長之旱雨。浦島子只是蓬瀛之一賓耳。何容易而知之乎。予曰。梁僧傳曰。史宗者世號麻衣道士。後一道人嘗投海鹽令請一小兒將去。倏忽之間至一山上。屋中有三道人。相見共語。小兒不解。屋中人作書付小兒與麻衣。小兒還後。令問所經。兒曰。道人令我捉杖飄然而去。或聞足下波浪且并說寄書事。令開看。都不解。乃令小兒送書與史宗。宗披書大驚曰。汝那得蓬萊道人書耶。由是而言。蓬萊又有比丘耳。浦島子縱不委篋中而知其名。不為過而已。
如藏尼者。平將門第三之女也。有姿色。諸家通聘。女不許也。及將門伏誅遁走到奧州。女元薄世情。於慧日寺傍縛菴寡居。一日受病氣絕至炎宮。庭上繫無數罪人。時小比丘持錫至。諸冥使皆避席曰。地藏菩薩又來也。女聞地藏名趨向啟曰。大士救我。菩薩即將女赴應所告曰。此女堅信之夫人也。雖受女形不為欲事　此度歸本土。不可繫此也。炎王曰。謹受命。菩薩便送女出門。又告曰。汝受持我言否。女曰。大慈濟我豈有違戾。菩薩唱曰。人身難受佛教難遭。一心精修不惜身命。女聞已蘇息。便屈沙門出家。法名如藏。專心持地藏號。世稱地藏尼。年八十餘。端坐而滅。
皇太后歡子者。太師藤教通第三之女。永承帝之皇后也。年十四就兄淨圓法師讀法華等諸經。自爾以法華為日課。十六選入宮。永承七年立為皇妃。治曆四年四月冊為皇后。其夜帝崩。因是固心佛乘益厭塵寰。日讀法華等諸大乘經。嘗於離宮書最勝王經。一日暴雨俄起雷入殿中。后雖恐悚手不釋筆。瞑目危坐。雷上而後開眼見經。白紙皆燒只餘墨字。衣服雖焦身無傷損。承曆元年薙髮。以台嶺座主良真為戒師。乃隱小野離宮。後改宮為常壽院。延慶曜法師聞真言止觀。又親寫五部大乘經。一夕夢。比丘擎香爐來告曰。往生淨業造大佛像為最。覺而怪喜便作丈六彌陀佛像。康和四年八月十八日作五色幡繫像臂。右手執旒左手把爐向西跏趺奄然而崩。年八十二。此夜慶曜夢。無量聖眾乘雲奏樂。傍人語曰。小野太后今往安養。翌早馳常壽院而問之。侍人曰。今宵太后入寂。
野州刺史高敦遠之妻藤氏者。讚州太守行家之女也。性柔和有婦德。歲覃二十歸佛乘讀法華造彌陀像。乃立誓曰。願先知死期。一夕夢沙門與一串青珠曰是汝命數也。藤氏夢中算珠有四十五顆。天永二年年四十六謂人曰。我已盡串珠豈過今歲哉。我聞太后歡子造

丈六佛像得生安養。妾甚慕之。即作丈六無量壽像七月一日沐浴淨衣對像而逝。奇雲覆天異香滿地。雖行人染其薰云。

女藤氏者。吏部侍郎敦光之女也。九歲讀大乘經若干卷。至齋日絕肉味。雖戲劇不妄語。珍玩好具人或求之必與之。漸長尚坐臥父母傍。每聞聘禮堅拒不納。父母語曰。汝是女人。身已長成。何相隨如小兒而不欲佗之乎。答曰。我在父母傍以十八為期豈久乎。父母問曰。何期十八哉。女笑而不言。常願詣精舍。日課經呪妙法華等皆悉誦之。大治五年有心腹病。自熊野歸所患除愈。時年十八。明年秋舊痾亦發。至仲冬求出家。父母不許。只受禁戒。近屬纊懇請薙髮。便披袈裟念佛而逝。歷數日容貌不變身甚輕。

特進藤經實妻者。儀同贈大師藤實季女也。未加笄珈早慕真乘。年二十餘忽嬰重病。母氏告曰。為除病延命造七佛藥師像。藤氏曰。吾病不起。願改七藥師像作六地藏像。母氏泣而隨之。即屈睿山靜算鳴磬啟白。時紫雲垂窻奇香盈室。合掌向西念佛而殂。算師袈裟薰氣不滅。算以其衣藏篋笥為臨終服。尋常不披云。

釋妙尼者。睿桓法師之母也。除粧飾後堅持戒律。汙手不執瓶。臥足不踏西。大小便利皆避西方。未嘗無衣而出佛前。讀法華唱彌陀。常夢木佛語曰。我是彌陀護念汝。正曆三年端居而滅。讀法華三千餘部。

願西尼者。源信法師之姉也。薙染以來精持禁戒。讀法華粗解深義。衣僅蔽身食可接氣。所受施利普與孤獨。嘗見普賢菩薩降室。又得觀自在摩頂。山鳥野狐常來捧果供。寬弘年中入寂。讀法華數萬部。

妙法尼者。都督長史高成章長女也。生豪富不事花飾。年二十父母告嫁。固辭不從。明年謀奪歸人。至期潛斷髮擲帳外。父母不能若何或曰。豈不闕孝乎。答曰妾聞歸三寶者逆二親而不為不孝也。遂具戒精進無比。誦法華六萬部。又修密法。每日閼伽水必自掬。臨終唱彌陀而終。異香薰人衣。年八十一。

加州刺史藤兼澄女性。聰明持法華。一時受疾而殂。經一宵而蘇曰。冥使四五輩驅我而去。到一大寺。堂閣嚴麗聖眾來往。吾乃思念極樂世界乎兜率天上乎。不然無是等嚴飾。時一僧曰。彼善女人爭早到此。法華功未充運年未來耳。我見一堂置數千部妙經。僧曰。是汝頃者所轉也。由是善力當生是處。我聞之心生歡喜。又見高廣之宇。金色大佛光明熾然以袈裟覆面。舉妙音告曰。善女汝轉法華故。令汝見我身聞我聲。而不讀無量義。觀普賢二經故。不令我面見。汝還本土加二經益轉法華。我又不藏面。汝知乎我是釋迦牟尼佛也。時二天童子相送出門。我乃蘇息。說此事已病便愈。爾後加二經讀法華。

神仙五

陰陽不測曰神。軀壽堅久曰仙。世教之見焉。我佛書明八神十仙。漢劉向列仙傳一百四十六人。梁劉孝標曰。七十四人見佛經。然則神仙之歸我者尚矣。此方純淑大乘之域。雖異道皆奉佛。蓋亦多自吾出焉。故繫於雜傳。

伊勢皇太神宮者。天照大神之廟也。初聖武皇帝欲創東大寺。即思念。我國家歷代奉神。今營佛宇不知戾神意不。欲試機宜。天平十三年勅行基法師。授佛舍利一粒。詣勢州獻皇太神宮。基於內宮南門大杉下縛廬而居。期七日持念告上旨。第七之夜神殿自開。大聲唱曰。實相真如之日輪照却生死之長夜。本有常住之月輪爍破煩惱之迷雲。我今逢難遭大願如渡得船。又受難得寶珠如暗得炬。師其持舍利藏埋飯高鄉。以賴邦家。基捧舍利藏彼所。反都奏事。皇情大悅。上又謂朕以行基為廟使。恐不協朝儀。十一月三日重勅特進右僕射橘公詣勢州。十五日僕射復奏。其夜上夢皇太神宮告曰。日輪是毗盧遮那也。帝得此意為營興。言已現日輪相。其光赫如也。帝覺感激。以故東大寺大像高一十六丈。蓋擬毗盧也。非分身丈六之量也。神宮之降迹備太常國史。今只戴因佛之一事云。

贊曰。異矣哉　神之為言也。學乎不學乎。毗盧遮那經疏曰毗盧遮那此曰日。蓋天地之間日光皆遍。我毗盧世尊大覺圓照無所不至。假借世相取日寓名。故摩訶毗盧遮那佛翻名大日如來也。　皇太神宮自何得。而聞我　聖武帝而啟微旨乎。嗚呼不測之不測者與。

論曰。予詣勢州神祠。高山環峙清河繞流。杉林森矗。大數十圍高百餘尺。一鳥不鳴幽邃閒爾。殿製朴古蓋茅茨無雕刻。行人屏息蹐足入中。心已肅如也。漸進殿前。一覩呵曰。此神不愛沙門莫近也。遮止一大樹下。予以謂昔牟尼婆伽梵說大集經。勅四天王驅十方一切鬼神赴會。受佛囑護正法。今此神本朝太祖也。若後世尊便已。先世尊百萬余歲。豈當時不受佛囑乎。已受佛囑而豈嫌比丘乎。況此方大乘醇化之域。此神為宗廟。烏有之邪。恐巫祝矯而嚇吾徒乎。歸後博尋神事。適得一書名神宮雜事。見聖武帝創東大寺事。則決巫祝之誣妄矣。蓋神若嫌沙門豈對基公宣言乎。又安用夢帝贊毗盧而演祕誨哉。況此事不出佗書出神宮雜事乎。巫祝之妄無疑矣。或曰。子排神之忌佛矣。子不聞乎。昔此日域地未成大海渺瀰。於時　神宮在天上下見海底有大日如來印文。　神宮怪之下鉾搜印文。其鉾滴如露迸散。於是魔王波旬遙見曰。此滴露成地來世必興佛法。我欲壞此乃自天而降。神宮逆波旬語曰。此地我之有也。我忌三寶不敢崇敬。願大天莫慮也。波旬便還。依茲神宮內歸佛乘外拒釋眾。蓋信于波旬也。殊不知我國佛法繁傳者神宮之內助

也。今其忌沙門者賣波旬也。非真乎。予聞已長吁言。人可欺而神不可欺也。愚可誣而智不可誣也。子之言皆妖巫之詞耳。若夫神託者豈有是等謬妄乎。我詳告子矣。我按大藏起世阿含等諸經。成劫之始大雨湛至三禪。隨藍風鼓之作漚先作諸天宮殿。乃至須彌大地其殘餘之水聚為大海也。然則四洲之地一時俱成。不有先後別造矣。只其增劫海減四洲通塗。減劫海溢嶋渚各區。今我國在海中者減劫之時也。而其下地與印度支那諸國同一連屬。豈彼鉾滴之露始為地乎。是狹智之者託巫而矯言也。若實神靈博通睿聖。豈不知乎。又魔王波旬天眼透徹。見欲界猶掌中。寧承神宮賣枉愕然不省乎。若以波旬為昧者初見鉾滴已辨佛兆。今盛行而猶不知乎。又神宮不欲失信於波旬。詐忌比丘者我先言之。大集會上已承佛勅。與魔何重乎。豈固信于魔而乖勅于佛乎。若黨魔而戾佛者邪神也。非正神也。豈　我大神宮淫祀之謂乎。此等之事皆以凡意料天事痛乎。巫祝矯神而出不經之言也。世人闇佛書。信而實之。我當此時不得不解誣神之言辨誑世之說矣。凡曰　神宮事者假密教而立言也。蓋蕩密之者承巫祝矯古德為之也。我欲一一辨折文繁而不敢焉。

白山明神者。伊奘諾尊也。初泰澄法師棲越前州越知峯。常望白山曰。彼雪嶺必有靈神。我當登彼乞顯應。靈龜二年夢天女瓔珞嚴身出紫雲中曰。靈感時至。蚤可戾止。養老元年四月一日澄往白山麓大野隈筥河東伊野原。乃專心持誦。時前所夢天女現身曰。此地大德之母產穢之所。非結界之地。此東林泉吾所遊止也。帥移彼。言已形隱。澄到彼持念如前。天女又來曰。我雖在天嶺恒遊此林。此林為我中居。上護一人下撫萬民。大德諦聽。日本秋津島本是神國也。國常立尊乃神代最初國主也。次國狹槌尊。次豐斟渟尊。次泥火瓊尊。沙土瓊尊。次大戸之道尊。(大苫邊尊。次面垂尊。)惶根尊。次伊奘諾尊。伊奘冊尊。謂之天神七代。吾是伊奘諾尊也。今號妙理大菩薩。此神岳白嶺者我主國之時都城也。我乃日域男女之元神也。天照大神者我子也。天忍穗耳尊我孫也。其子天津彦彦火瓊瓊杵尊受祖天照太神勅降治此國。始為地居。饗國三十一萬八千五百四十二年。生彦火火出見尊。饗國六十三萬七千八百九十二年。生彦波瀲武鸕

草葺不合尊。饗國八十三萬六千四十二年。是名地神五代人皇第一國主神武天皇者鸕鷀草尊第四子也。在位七十六歲。天皇年四十六始登皇位。辛酉之歲也。云云。吾真身在彼天嶺。大德往見之。言已天女乃隱。澄乃登白山天嶺絕頂居綠碧池側持誦專注。忽九頭龍出池面。澄曰。是方便現躰非本地真身。持念彌確。頃刻十一面觀自在菩薩妙相端嚴光彩赫熾。澄稽首禮足白言。像末眾生願垂救

拯。于時菩薩搖金冠瞬蓮眼而許之。拜不畢三妙體已隱。澄又渡左澗上孤峯值一偉丈夫。手握金箭肩橫銀弓含笑曰。我是妙理大菩薩之輔也。名曰小白山大行事。大德當知聖觀自在之變身也。言已乃隱。澄又昇右峯見一奇服老翁。神宇閑雅。語曰。我是妙理大菩薩之弼也。名曰大已貴。西剎主也。言已又隱。自此靈感益顯著也。澄嘗語人曰。妙理菩薩曰。我山中一草一木無不我眷屬之所居。一萬眷屬妙德降迹。十萬金剛童子遍吉垂化。五萬八千采女堅牢女天之變作也。

贊曰。或言。妙理菩薩已言。天照太神者我子也。子今後白山何予。曰　伊勢神宮朝廷立為宗廟。白山雖。伊奘諾尊顯應在後。我又且從朝禮也。然以下不視神次。唯因吾法之先後為排差耳。

紀州丹生明神者。弘仁七年空海師遊紀州求勝地。漸上高野山。岩巒嶟崒林木榛蕪不知所之。時婦人出來曰。妾者山神也。夙負殺罪苦處幽陰。思歸真乘未逢其人。今師到此妾之幸也。此山方數百里。願施師懺罪。乃導海至山中平坦所曰。是福地也。營構於此。初唐元和元年八月海將歸朝泛舶之日。手執三鈷杵祈願曰。密教入日域久屬流傳者。願此杵先占 靈區。便向本邦擲之。其杵飛入雲中。到此其杵懸松枝。於是知神女之言不虛也。便奏建金剛峯寺安寶塔。高一十六丈。為密乘興繁之勝場。神女者丹生明神也。

新羅明神者。天安二年圓珍師泛舶自唐歸。洋中忽有老翁現船舷曰。我是新羅國之神也。誓護持師教法至慈氏下生。語已不見。珍入京將傳來教籍藏尚書省。時海上翁來曰。此所不堪置經書。是日域中有一勝地。我已先相攸。師聞官建院宇庋此典籍。我鎮加護。又佛法是王法之治具也。佛法若衰王法亦衰。語已形隱。珍歸睿山至山王院。時山王明神現形曰。傳來經書宜藏此所。新羅明神又出曰。此地來世必有喧爭不可置也　南行數里是為勝處。珍乃與新羅山王二神及二比丘到滋賀郡園城寺。寺僧教待說寺事。既而山王廻睿阜。新羅明神語珍曰。我卜居寺之北野。時百千眷屬倏來圍繞。唯珍獨見佗人不知。於是有乘輿人儀衛甚多。以美饍饗新羅。教待來賀。而後乘輿人形隱不見。珍問明神。執轡者為誰。新羅曰。三尾明神也。(祠今在寺南。)自此新羅明神威靈益顯。

北野天滿大自在天神者。菅丞相之靈也。昌泰四年因左僕射藤時平之讒左遷大宰府都督而薨。未死之先自裁疏訴天帝。故其靈奮激為威德天神也。天慶四年八月有沙門道賢。借冥見金峯山金剛藏王菩薩。時五色光照金峯山賢白曰。此光何祥。藏王曰。今大政威德天來也。須臾之間西方空中千萬人至。儀衛偉如也。宛似王者之郊禮也。其眾奇形異貌。或如金剛力士。或如雷電神夜叉羅剎。甚可怖類。各持器仗弓矢矛戟。大政天與藏王語已而欲歸去。顧賢曰。將

此人見我居何如。藏王許之。使賢乘一白馬行數百里。疾如風。至一大池。池中有大島。廣百餘里。中有方壇。壇中有蓮華臺。臺上有寶塔。塔中安妙法蓮華經。塔東西壁懸兩部大曼陀羅。其塔嚴麗不可言也。北有大城。城門禁衛甚嚴又多。大政天語賢曰。我是上人本國菅丞相也。忉利天帝字我呼日本大政威德天。我讒配時非不動心。我主國土一切疾病災難事。我欲惱君臣傷人民。又思以我生前悲泣之淚化為大雨。浸本國為水海。經八十四年成立國土為我住城。然此國普賢龍猛流傳密教之地也。又應化諸聖以悲願力借名明神游住諸處覆護眾生。彼諸名神常慰諭我。我又愛重佛教故不成巨害。但我十六萬八千諸眷屬暴惡鬼神等隨處興災。我尚難禁。我受神慰味法樂故。昔日怨懟少息耳賢曰。我國人民俱稱火雷神尊重禮敬猶如世尊。何有怨乎。大政天曰。國俗以我為仇讎。誰敢尊敬。又火雷神者我第三使者火雷氣毒王者也。非我名也。我在世時所歷官位。有人居之我起害意。是昔怨之甚也。而今立一誓遺本邦。上人傳之普屬流布。若人作我形稱我名慇勤尊重我必擁護。若人聞上人言信受崇奉我亦不為如上之害。賢反金峰陳上事。藏王曰。我令汝向彼城者使知世間災難之根本也。又有滿德天。語賢曰。彼大政天十六萬八千眷屬作毒害者。天下善神不能遮止。延長八年夏藤清貫平希世逢雷震而死者。彼火雷氣毒王之為也。亦崇福。法隆。延曆。檀林等諸大寺。及大內之燒災。皆是第三使者之所作也。如是諸惡神滅法害生。皆昌泰帝獨受其殃。譬如眾流之宗海耳。乃至暴風疾雨疫癘時行逆寇間起。竝是彼眷屬惡神之所發也。然金峰八幡及我滿德天。堅執不許故不自恣。天慶三年七月十六日託右京七條坊婢父子欲捿右近馬場。其女甚賤不能營構纔祠家側。天曆元年六月九日始移北野。其製猶卑。九年三月近州比良神官良種兒年七歲託曰。我昔任僕射先夢松生我軀而便折。是以我知上三公又逢貶竄。以故我所居之地必當生松。不幾一夜間數千株松生北野。於是朝日寺沙門最珍與右京婢文子勠力造靈祠。天德三年右丞相藤師輔改規大廈。自爾靈威日新。世曰十一面觀自在靈應。

法道仙人者。天竺人也。初靈鷲山中有仙苑。五百持明仙修金剛摩尼法皆能得道。須臾遊十方剎便還本處。神力如是。壽無量歲導利人天。道者其一也。一時乘紫雲出仙苑。經支那過百濟入吾日域下播州印南郡法華山。其山八朵故為號也。于時溪谷出五色光。道見為靈區居焉。常誦法華修密觀。所持道具千手大悲銅像佛舍利寶鉢而已。餘無長物。一日多聞天王駕雲來語道曰。大仙久棲此。我當擁護正法鎮撫邦國。又牛頭天神現形西峯曰。我願任除災之役。道得千手寶鉢法。天龍鬼神來往奉事。常飛鉢受供。州人稱空鉢仙人。生石大神請置鉢于石上奉供。其地今尚號空鉢塚。在神祠西

南。大化元年秋八月船師藤井載官租而過。道飛鉢乞供。藤井曰。御厨精粳不遑私情。鉢便飛去。於是乎舡中群米隨鉢飛連。猶如鴈陣入山中。藤井大驚。奔到庵所悔謝乞憐。道笑而諾。言已米石如前飛歸。其米千石無有遺失。只其一俵落南河上。自茲此地富人多矣。俗號米墮村。又曰米田。藤井入都奏事。孝德皇帝大加感歎。五年五月上不豫。診治弗瘳。乃宣左僕射阿倍倉內召道加護。道入宮持念。玉體平復。六宮羅拜。止宮七日弘演釋門奧旨。君臣嘆美。因之設無遮會。道歸山。此年勑於山中建大殿安所持觀自在銅像及佛舍利寶鉢。白雉元年九月落成。上幸寺。始本朝重神輕佛。屬道之唱真乘。天下翕然反之。二年三月宮中大藏會。三年季冬僧尼宮齋皆道之諭化也。道居山數十祀。一日告眾曰。我本棲耆崛之仙園也。暫來此誘導耳。今當歸。乃說偈曰。我化有情來此地。留下像鉢舍利羅。一涉斯境所求得。永出三途見佛陀。即放大光飛入雲中。道多營精舍。諸州往往而在。今存者稱道遺德。

久米仙者。和州上郡人。入深山學仙法。食松葉服薜荔。一旦騰空飛過故里。會婦人以足踏浣衣其脛甚白。忽生染心即時墜落。漸喫煙火復塵寰。然鄉黨契券當署其名皆書前仙某。今舊券之中往往猶有手澤。悉然。嘗於高市郡營精舍。鑄丈六藥師金像并二菩薩像。所謂久米寺也。後又修仙凌空飛去。又有大伴仙安曇仙二人。與久米相後先。兩仙菴基今猶在和州。

釋陽勝。姓紀氏。能州人。母夢吞日有娠。元慶三年登睿山師空日。時年十一。性聰明一聞不忘。學止觀兼受瑜伽密教。誦法華勤密供。性慈愍。逢裸者脫與衣。見飢人讓己食。蟣虱蚊虻餧身飽止。常厭喧囂修禪定。勇猛精進脇不印席。後居和州夏入金峰山。冬下牟田寺。習仙方。初辟穀食菜蔬。次去菜食果蓏漸止飲食。或日食粟一粒衣薜蘿躡雲煙。延喜元年秋永謝世境。所披袈裟掛松枝書曰。讓與堂原寺延命。命見是悲泣。尋求山谷無蹤跡。勝父病瀕九死。乃歎曰。我有多子所愛者只陽勝而已。傳聞得仙。若有仙通知我意願一見之。勝聞此事飛至舍上誦法華。父曰誰乎。經音絕似陽勝。家人出見不睹其形。只聞其聲。勝白父曰。我離父宅永去人寰。孝思不違故來誦經。又曰。每月十八燒香散花願待我。我尋香煙而來。誦經說法報罔極矣。語已經音絕。後於金峰山逢東大寺故舊語曰。余住此山五十餘歲。行年八十餘。我修仙法得身自在。昇天入地飛行無碍妙法華力。得心自在化世間利有情。又於吉野山與練行息真遇。身生兩翼飛遊空中。語曰。我身中無血肉。遍體生奇毛。言已過去。又熊野山松本嶺逢睿山舊友談話而去。又有苦行比丘。居笙石室數日無食。而誦法華不輟。忽青衣童子持白物來與比丘食。其味甘美。比丘問所由。童子曰。我本睿嶽千光院延濟和尚

之童也。薰練年深得仙。近來事陽勝仙。此食又是勝公所命也。童便飛去。
贊曰。昔婬女誓曰。我不跨一角仙頸不出山。果然。久米見白脛而墜有以矣哉。於戲色之毀人也可不慎乎。秦皇宮人飡芝而得仙。遍體生青軟毛。故世云毛女。陽勝之奇毛恐是與。二人挾吾道而練形。非山澤者之倫也。
釋窺仙。居宇治山持密呪。兼求長生。辟穀服餌。一旦乘雲而去。
都良香者。京兆人也。文才冠世。仕到著作郎。菅丞相又良香之諸生也。菅公階爵日加。良香不及。怒棄官入山修練。不知所終。後百餘年或見大峯山窟中。顏色不衰云。
藤太主。源太主二人。居和州吉野郊。布衣烏帽辟穀而持密呪。淨藏法師欲渡吉野河。會瀑漲無舟。搘笻而躊躇。時二人飛來曰。待我試呪力。藤太主持念。須臾神人伐大木載藏。源君又令神人牽其木著河岸。二仙謂藏曰。非師爭感我二人哉。言已飛去。
生馬仙者。攝州住吉縣人。入河內高安縣東山住深谷中。寬平九年沙門明達持頭陀行至東山絕頂。見深谷有草菴。下到菴所。有優婆塞。顏色似黃粟。頭戴白帽身著白衣。達近問曰。為誰。對曰。我是生馬仙也。便以五瓜與達曰。是此地之產也。可以充飢。達嘗之甘美不可言。達曰。在此為何。曰吾入山以來未見山腳。只求菩提耳。達出山傳此事。
釋法空。野之下州人。居法隆寺學顯密教。讀法華晝夜各三部。後返本邦。游歷勝地適至一洞。生五色苔門戶障隔及牀座自然天成。又以彩苔悉皆嚴飾。空見此心生歡喜。入中居止永離塵境。乃綴五色苔為衣服甚軟煖。果蓏充飡鳥獸馴傍。十羅剎女現形給使。荏苒歲月又不記也。有比丘良賢巡禮靈區。迷路至洞。見空生希有想。宿數日見羅剎女端嚴生染心。女白空曰。是破戒無愧人錯至淨境。我當損害身命。空曰。莫作是說加護送人間。女復本形甚可怖畏。提賢凌空而飛。須臾至村落投棄而去。賢身心喪亡纔有氣息。良久蘇。逢人語此又自悔耻。
元亨釋書卷第十八　終

元亨釋書卷第十九

濟北沙門　師鍊撰

願雜十之四
靈恠六
轉乘
海蓮
慧增
賴真
春命
蓮尊
明蓮
妙達
道命
源尊
常照
阿清
藏滿
圓能
道乘
圓善
安珍
無空
講仙
度摠論

吾佛之化明冥俱濟。大經曰。戒緩乘急者處三途而見佛。況轉報之餘習陰夢之感激乎。苟預化者采掇焉。故繫願之六矣。
釋轉乘。和州人。住金峯山寺。性多嗔。勇猛勤勵持法華。誦六卷七八兩卷不能通。乃發奮激志。讀二卷三萬遍。遂不記。詣藏王菩薩九旬。獻六時香花夜禮三千拜。乞救助。夏末夢夜叉形人以龍為冠天衣瓔珞手執金剛杵足踏花告曰。昔播州赤穗郡山驛屋梁上有毒蛇。長丈餘。適一比丘宿驛舍。蛇念曰。我今飢渴。欲吞比丘。比丘不知洗手漱口誦法華。其音和雅。蛇聞之毒害心止通宵側耳誦至第六天明。比丘乃發去。蛇聞法力故轉畜為人。汝身是也。持法華者宿薰故。不誦七八者不聞故。汝性嗔猛者毒蛇之習氣耳。自今堅心即通二卷。必得出纏。乘寤感喜無量。果得通誦。嘉祥二年寂。

釋海蓮。越之中州人。持法華。二十五品諷誦通利。後三品不能誦。勤力勵志久如不通。乃上郡之立山及諸靈區。難行苦行祈求誦憶。夢一菩薩語曰。汝先身為蟋蟀。在僧房壁。其比丘誦法華。蟋蟀聽之。普門品了僧疲勞。放身靠壁。蟀遭壓死。聞法力故轉得人身。而讀法華不聞三品故不能誦。覺後益勉漸通三品。天德元年逝。

釋慧增。居醍醐寺持法華。佗經呪一字不讀。而經王八軸皆能誦徹。只方便品終偈中二字不能誦。多年勵志誦二字終不通。乃自思忖。我誦一部皆能通利。只此二字不能記。況勤策已度歲乎。恐是宿殃。乃詣和州長谷寺祈誦二字。過七日一尼眉僧出殿告曰。汝前身播州賀茂郡人也。前世亦讀法華。一時寒冬向火讀經。火星迸散燒經偈二字。汝不書補而命終。因是故雖誦經二字不通。今彼地經尚在。汝先父母亦現在。汝速往播補經覲親。夢覺二字明了。又無忘失。即赴播州宿一家。家主出見增曰。何似吾亡子哉。聞音曰。聲又不異。夫妻相列熟見。增言來意。父母悲喜相并。乃出經函。果二字燒穿。增頂戴感嘆書補二字。增前後二世父母四人慈孝和睦云。

釋賴真。近州人。年九歲至郡之金勝寺。聞比丘讀法華便能憶持諷誦。兼解文義。真性靜默少語常動口齒而哨囋。人或笑之。真又自恥不能止。即上睿山中堂。期七晝夜訴誠曰。我有何惡報作此牛呵。願大毉王明示前因。至第六夜夢聞其音不見其形告真曰。汝前身在近州緣智郡為特牛。郡人以妙法華經并供養具駄此牛往伽藍。依負經功脫畜為人。亦能習誦。習氣未盡作呵哨耳。真夢後精進剋責持誦益勤。年七十誦六萬部。

釋春命。住睿山西塔院誦法華。無佗業。足跡不入鄉里。專屏山中。一時曉更誦經安坐。如睡如覺一天女現半身。其聲清雅。告曰。汝先身為野干。在法峯堂梁間常聞人讀經王。以法力故轉得人身。前緣相牽作此住侶。人身難遇宜加策勵速度苦海言已形隱。命聞夙生彌勤持誦。六萬部後不記數。臨終誦經而逝。

釋蓮尊。作州人。居元興寺。持法華。二十七品明了諷誦。餘勸發不能誦倍加精進讀此一品數萬遍。終不通。大愧作。乃對普賢像九旬精祈。言而曰。忘失句偈還令通利菩薩豈欺我乎。苦修精勤盡一夏至自恣夜夢。天童告曰。普賢大士令我說汝宿因。汝先世為雛狗。母狗適在持經者床下臥。雛狗來乳。持經法師誦經王。從序品迄嚴王品雛狗得聞。至勸發品母狗起去。雛狗隨之。由是不聞。汝聞法力今得人身。又誦法華。不聽勸發故雖讀不能誦。只固志力必得全誦。寤後加專勤。最後一品又能通利。

釋明蓮。居法隆寺。讀法華。誦徹七卷第八之卷不能誦。積歲月懇溫復。終不記。詣稻荷神祠祈求夙報。過百日無感。又往長谷寺。金峯山各尅一夏讀經祈報而不得感。蓮不屈登熊野山又祈百日。神託夢曰。我於此事力所不及。乞求住吉明神。蓮返攝州寓住吉一百日。神又夢曰。我又不知。祈伯耆大山神。蓮便詣大山安居精求。夏滿夢神告曰。作州人登此山。以粮負牛。其人詣神祠牛繫僧房。房中比丘夜誦法華。牛聞之生慈善心至第七卷天色漸曙。牛主早發。是以其牛不聞第八卷。彼牛者汝前身也。聞法力故今得比丘形而持法華。不誦第八者不聞之故。自今勤策來生覩史。夢寤感幸。乃一心合掌白神言。癡牛聞法尚得人身。何況人身如說修行。今聞夙因。神貺難報。生生世世誓持法華廻施群有證大菩提。誓已辭神而去。

贊曰。或問曰。蓮之祈報也初神不逮次後乎。對曰不也。夫宿障厚者得靈感之遲矣。屢罄勞劬漸泯餘殃。殃障已盡感應乃彰。是我佛教報理之常也。世人不知。纔効小功怨神讞佛。憃愚之甚也。蓮歷五六之寺祠。累百十之歲時其志益固。固可貴也。而其間稻荷長谷闕而不告者障尚厚矣。熊野住吉不知不及者漸薄而勉激也。逗到大山始償本志。宜乎又其為根地也。鄉之功用萃於此。是諸神之巧方也。非不能焉。

釋妙達。羽州田川郡人。住龍華寺。以誦法花為業。天曆九年無病手持經卷俄爾氣絕。乃往閻王宮。王見達下座作禮曰。師非命盡而來。我欲有啟耳。我見師持妙法華。內外清淨實為澆季正法人。我今為師說日本國中眾生所作諸業。師能憶持還本土。勸善誡惡廣行利生。因而委說四眾罪狀。達經七日蘇息具語冥事。聞者信伏修善遠惡。

釋道命。藤亞相道綱第一之男也。少登睿山事慈慧。誦法華無佗業而志專篤。初一歲誦一卷。八年終全部。蓋簡散心也。其聲微妙自合律呂 。清濁輕重韵節和雅。眾人側耳久聽不足。居城西法輪寺常勤諷誦。一僧夢冠纓人充塞四傍。僧問。誰人。答曰。金峰藏王。熊野明神。住吉。松尾諸神也。其住吉明神者曰。日本國中諸持經人此道命師最為第一。我雖居遠境每夜詣此聞諷音耳。松尾明神者曰。如是如是卿言爾也。我居密邇晝夜來聽。僧覺聞之。命適誦壽量品。僧乃作禮說夢。又有寡婦病狂。託曰。所託者婦夫也。無心惱婦也。眾人且聞我言。我生平放逸無惡不作。當墮阿鼻。只有一善得輕報。我主人詣法輪寺時我亦從之。道命師誦法華其音清雅。我聞隨喜。因茲微善輕轉無間。今得蛇身。若重聞彼經脫蛇趣生善處。眾人能將我就命師聞經法。我無寄處且寓本婦。汝等家人恤我哉。家僕便羣婦人詣法輪寺聞命經。靈又託曰。善哉善哉婦能詣此

得聞誦經。既脫畜報當生天上。婦人歸家病如洗。命寂後有親友念而言。命公誦經多歲。不知生淨土否。若生樂邦定知我心。願於夢中審示生處。如是念願兩三年。夢大河側有蓮池。四種寶花芬馥盛開。池中有誦經聲似命。此人下車立池畔。見命乘舟手把經卷而讀。其音倍平時。語曰。我在世雖出家不慎三業。多犯禁戒其管四天王寺犯用僧祇物。如是眾罪不得淨土。然依經王力不墮惡趣。住此蓮池誦法華。過三二年當生兜率。夙契不忘思我可喜故來告耳。夢覺感泣。

釋源尊。少年出家讀法華。日課不怠。未得誦。壯年受病數日而死。乃赴閻王宮。冥眾數人或冠冕縫掖。或甲冑戈鉾。簡牒註記種種異狀。側有聖僧。手持錫杖執經篋。謂閻王曰。沙門源尊讀法華經。歲序已久。又可貴。乃延高座聞篋授經經法華也。尊喜懼交合。高聲披讀。冥眾合掌傾聽。經已僧曰。汝還本土。尊顧僧乃觀世音也。尊經一日夜而蘇。其後全部誦徹。臨終無少惱誦法華而逝。

釋常照。幼時戲自刻一比丘像。稱地藏尊安古寺壇畔。率群童採花致供。後入園城寺習教法。年及而立染疾不久而亡。勇士二人捕照過黑山麓。有大穴勇夫推照陷穴。照上足下頭如石落而降。其間疾風撲目痛不可言也。照以兩手覆雙眸已墮在焰王廳。顧眄四傍罪人無數。其苦狀萬端。時一沙門端嚴親莊。語照曰。我是汝稚歲所造供者也。自爾以來日夜護爾不暫捨也。故今又來此救汝。汝歸本土益加精修。照蘇息後精勤無廢云。

釋阿清。姓百濟氏。備之中州窪屋郡人。性耐苦行。歷涉勝地。適染時疾六日而亡。又經二日而蘇。語人曰。我往曠野。西北角有門樓。入中宛如廳衙。庭上坐數千人決罪狀。見已毛竪。時一比丘持錫杖從兩美童。手以文書向官使。似有訟。曰此阿清苦修精勤。此度返本土。便授牒官使曰。是清之行業記也。乞詳見之。官使等披牒曰。實如記。宜放赦。又況師之言乎。語已敬比丘。清問童子。此比丘為誰童曰地藏菩薩也。清聞已感敬交集。故得蘇生。見聞無不嗟嘆矣。

釋藏滿。東大寺義藏之徒也。適值相者通照。照曰。子雖精學不至立年。不如棄本業勤精修。滿乃入山州笠置窟。苦練如救頭然。兼詰旦必持地藏號。年三十恙中風。經日而死。青衣之人驅逐而行。滿語使者曰。我生年歸地藏尊。今至於此太士豈誕哉。於時一比丘忽然而來。儀狀端莊。須臾六沙門至。相次三十餘輩行列群集。於是乎冥使等曰。比丘之言誠實也。故南方菩薩降臨耳。我等於比丘無分。不如棄去。言已分散。端莊沙門謂滿曰。我是汝每朝稱念之

者也。我護汝猶目精。以故今來也。汝返閻浮益加策勵。滿已蘇息。此間經一日夜。滿自此精修益深。年九十餘安祥而逝。

釋圓能。和州添上郡伏見鄉人也。年十八上信貴山習學。性暗鈍不善教授。而志操純至常念彌陀。伏見有一寺號弘文院。安丈六藥師像。能期一百日詣像日日三千拜。誓曰。我願見真身。能自所居赴彼寺路過曠野。至九十六日藥師真身現于野。漸大殆滿虛空。又阿彌陀真身三十尊文殊菩薩同共顯現。能心身感喜頭面禮拜。行年五十七。三月晦寢中俄亡。其徒以頓死未殯喪。相對而護。心胸又暖。歷二七日猶不蘇。舁置野中。鳥獸不傷人多怪之。至五月八日蘇息。初言語不詳。後三歲語曰。我先年夢中六比丘來呼我。我隨六比丘昇空而去。我問曰。何處去。答曰。向燄王宮去。我白比丘曰。久唱彌陀欲生極樂今何用往燄宮。從此辭。比丘曰。汝只先往閻所見有情業苦。次須詣極樂未晚耳。我猶不肯。比丘曰。然者先見淨土後見燄宮乎。我諾。便進去到極樂東門。世界光曜莊嚴殊妙。比丘曰。娑婆日月光猶耀煜。況彌陀光明。如百千日故有此眩耀。進入門內見諸宮殿皆在水上。我以為此界宮殿能建水上天工乎。佛力乎。比丘曰非水瑠璃地也。我以手摸地果堅手不濕。我白比丘曰。彌陀所在宮殿可得見乎。比丘曰。待問試。一比丘入殿。須臾歸來將五比丘及我入中。傍有佛像。比丘曰。是誓願寺彌陀如來也。汝三年供養恭敬。故今現此。次見一殿七寶嚴飾。琵琶箜[竺- 二+候]歌唄妙音孔雀鸚鵡伽陵頻伽讚嘆佛德。池中有大寶蓮花。花臺有樓閣。閣上有菩薩聖眾。比丘曰。是最小蓮花下品下生也。一一見之念念恭敬。比丘曰。汝還本土寫五部大乘典必可來此。又問曰。平居有此願乎。我答曰。無。次往燄宮。焰王問曰。汝有五部大乘書寫誓記不。我又答曰不記。時比丘曰。往年有人慶讚五部大乘經。汝在其席心起感喜曰。我安如是人慶是經。汝記之乎。我曰有之。比丘曰。所謂是也。汝返本邦書寫五典必生安養。次見地獄八寒八熱受苦罪狀。殆不可言也。已出獄所六比丘曰。我六地藏也。言已蘇生。爾來勸諭四眾書金字五部大乘經。於金峯山慶讚安置。仁平元年正月二十四日於洛城預告四部。沐浴淨衣跏趺合掌而化。異香薰然。城中道俗走來供養。過十二日葬舟崗山。四眾調音樂送之。道路闐咽結淨緣云。

釋道乘。睿山西塔寶幢院正算之徒也。後移法性寺。自少年持法華晝夜無懈。而性多嗔。常以麁語干諸友。怒罵童僕。恚息則叩頭悔謝。或對佛像向大眾發露陳懺。一時夢出法性寺上睿峯。到柿下遙見山上自翠微至嶽頂金樓銀閣嚴麗殊妙。其中填置無量經典黃卷朱軸金銀泥書。乘見了生希有心。傍有老比丘問曰。此經閣妙絕誰所造。比丘曰。是汝年來所讀也。依此善力當生淨剎。乘聞而悅。忽

有火起經樓盡灰。乘問比丘。因何火起。比丘曰。汝嗔時所持經功多遭燒焚。若息恚持誦安養之生又無疑。乘夢覺懼悔。乃於佛前誓止嗔忿。精懇持經而後取滅。

釋圓善。居睿山東塔院。誦法華。適遊熊野肉背山卒。其後有沙門壹睿。行宿山中。中夜聞誦法華其聲微妙。睿以為先亦有人宿一卷已禮拜懺悔。又讀一卷每卷如是。天明無人。傍有骸骨支體全連。青苔遍鎖似衣服。想久經歲月。髑髏口中有舌如紅蓮。睿見之感悋。欲視所由。次日不去入夜誦經如昨。至曉睿起拜曰。既誦經必有心語。顧聽本事以傳靈感。骨人答曰。我是台嶺東塔院某也。至此而死。生平起堅誓誦法華六萬部。存日纔半數而夭。顧力不拔住此尚誦經耳。今已殆終居此不久。去此當生兜率內院。睿聞了禮骨人而去。翌年又來。不見苔骨。

釋安珍。居鞍馬寺。與一比丘詣熊野山。至牟婁郡宿村舍。舍主寡婦也。出兩三婢二比丘。珍有姿貌。中夜主婦潛至珍所通心緒。初二比丘怪慰勞之密。至此始覺。珍曰。我是緇服豈閨閤之徒乎。寡居餘情溢于非類。又可耻也。婦人大恨傍珍不離。珍不得已軟諭曰。我自遠地赴熊野。宿志畜來久。神甚嫌淫穢。者回不可。歸途必來。婦主姑待之。女喜而歸。曉更珍早前路著神祠即便反。經婦家而不入急奔過。主婦數歸程儲供膳傍門伺路。過期不至。適一僧過。主婦問曰。二比丘某物色熊野及途有相見乎。對曰。如婦言。二比丘我親見。而其沙門去此恐二日前也耳。婦聞大怨瞋。乃入室不出。經宿為蛇長二丈餘。出宅赴途。奔馳而過。路人噪亡。相語曰。如此大蛇何為取路。人人相傳至珍所。珍思女化急馳入一寺。寺名道成。告眾乞救。眾胥議下大鐘置一堂。納珍鐘裏堅閉堂戶。已而大蛇入寺。血目燄口甚可怖畏。眾僧走散。蛇赴堂戶不闢。便以尾擊戶聲如鐵石。戶漸碎蛇入堂。應時四戶皆開。蛇乃蟠圍鐘舉尾敲鐘。火燄迸散。寺眾集看無爭奈何移時蛇去。寺眾倒鐘見中不見珍。又無骨。只灰塵而已。其鐘尚熱不可觸也。數夕一耆宿夢二蛇來前。一蛇曰。我是前日鐘中比丘也。一蛇婦也。我為淫婦害已為其夫。惡趣苦報不易救脫。而我先身持妙法華。未久遭此惡事。微緣不虛尚為拯因。願為我寫壽量品。我等二蛇定出苦道。我等來寺。願垂哀愍。覺後大憐。乃書壽量品。又捨衣資修無遮會薦二蛇。其夜耆宿又夢。一僧一女合掌告曰。我等因師慈惠僧生兜率。女生忉利。語已上天。

釋無空。姓橘氏。居東大寺。學密教。又修念佛少資產。晚年自謂我甚窶。亡後煩遺弟。不如私畜以供喪事。貯萬錢置梁間。人不知也。延喜二十一年空病。六月死。言不及錢。右僕射藤仲平與空善。夢空弊衣垢面形甚枯槁。告曰。我以伏貨受蛇身。願公取其錢

寫法華必脫苦趣。藤公覺而感慨。自往空坊探得梁錢。錢中果有小蛇。見人逃去。藤公乃令比丘書法華營追薦。其夜夢空衣服鮮潔顏色悅澤。手執香爐語曰。我以僕射親薦早出蛇趣今詣安養。語已西飛。

釋講仙。洛東六波羅密寺之徒也。久讀法華兼修懺焉。萬壽中取滅。其後不幾靈託寺眾曰。我是定講師講仙也。平居經業當生極樂。而因小緣受蛇身。我平時庭中殖橘樹。枝葉漸茂開花結果我甚愛翫又眾所知。雖非重罪。愛念纏縛報墮蛇趣。見今醜形住橘下。為我寫妙法華必得昇濟。寺眾聞之皆赴橘所。果有蛇纏繞其根長三尺許。合寺憐之作所告事。其夜寺僧夢。講仙威儀庠序面有喜氣。拜大眾曰。我依眾友哀愍力經王威神力。脫蛇形生淨土。明朝橘根蛇已蛻。

贊曰。愛纏之業亦甚矣哉。仙之養橘猶受蛇質。況貨財乎。又況色欲乎。三子尚以經業託夢寐。又況不有此乎。慎之哉。慎之哉。

度摠論

萬法森列智在其中矣。因而分之度在其中矣。慧禪相推變在其中矣。繫傳焉而位在其中矣。夫度者何為者也。開道成務肩萬生之化如斯而已。昔者聖人之立度也。彌綸聖凡而生教。六分四析而倚數。觀變於智立修。是故度之為道也廣大悉備。有佛道焉。有法道焉。有僧道焉兼三寶而十之。十者非佗也。三寶之道也。道有解脫故曰度。度有多種故十之。十而度者所以廣包也。故心無體而覺無方。一性一相之謂道。繼之者智也。成之者善也。空者見之謂之空。有者見之謂之有。群生日用而不知。故佛之道鮮矣。是故將以順性相之理。是以立佛之道曰智願方。立法之道曰力慧。立僧之道曰禪進忍戒檀。夫度其至矣乎。夫聖人所以明道而廣業也。是故學者所居而安者度之序也。所樂而玩。者度之理也。所履而行者度之事也。古者能仁氏之王法界也。上利四聖下濟六凡。內取性外取相。範圍萬法覆庇兆類。以修以證蓋取諸智。能仁氏沒四依氏作。述經為論。釋論為疏。疏論之訓以教天下。蓋取諸慧上古四八而修。安般而觀。後世聖人易之以直指。蓋取諸淨禪。動天震地使神役鬼以利天下。蓋取諸進感。剝皮寫經斬骨刻像燒身捨命以濟天下。蓋取諸忍。四六為重。六八為輕。五篇七聚能辨開遮。蓋取諸戒。上古塚宿樹居後世聖人易之以寺廬。蓋取諸檀興。出處無常任道而行。不拘形服以衲以纓。蓋取諸方應。跨險蹈遠不撓素履。殊方異域以隣以里。蓋取諸力游。王公而行幽明而化。被于萬物各得其所。蓋取諸願雜。夫道有大覺是生二法。二法生十度。十度生萬

行。萬行定理事。理事備而復大道。是故證悟莫大乎法。修學莫大乎度。利濟莫大乎行。事理功成復乎大道莫大乎聖人聖人有以見天下之縕而象其物宜。是故謂之智。夫智者聖人之所以極深而研幾也。唯深也故通天下之志。唯幾也故成天下之務。聖人之道見乎智。聖人之智見乎傳。智其道之縕乎。傳智成而道來矣。傳智廢則無以見道道不可見則智幾乎息。傳智之興也其於中古乎。昔者瞿曇氏沒結集作。三藏之典有小大二部之眾。分內外。空有性相蔓衍五天矣。結集後一千歲震旦地明王起焉。感夢寐之瑞馳聘求之使。摩騰竺蘭之階聖位也喜聲教東漸之機至矣。躡葱嶺之阻峻涉沙河之艱險。駄經像於白馬諭教法於蒼生。是傳智之所以興也。後二百年士行跂大方之足。法顯縱聖蹤之目。玄奘道北狄而入。義淨泛南溟而達。結集之陳迹譯布乎支那。四海百世欽艷風規者也。我之國極東海隅梵壤不接。是以譯事缺矣。雖缺譯事而智之傳者無異距漢明而殆半千。吾國又明王起焉。海藩之帥貢獻也。是真教之始被也。吾道者夫於明乎。奚兩土二名之相比也。達磨無畏之游斯地也豈傳智之幾乎。灌真踵騰蘭之跡。昭訓趁行顯之躅。亦是此方之所以從事於此也。爾來諸子恐後驅逐。沼視溟渤床居舟舶。覲明師而稟勝法矣。勤劬至而利濟搏矣。弈淨之行焯焯可見矣。其德大而其功遠者乎。夫度之為道也原始要終以為質也。上下無常變動周流不為典要唯變所適。十度相交盤紆綺互。而知者觀其智章則思過半矣。夫知解脫之道者其知度之為乎。度有聖人之道三焉。以思者尚其慧。以定者尚其禪。以禁者尚其戒。度有聖人之道六焉。以行者尚其進以違者尚其忍。以順者尚其檀。餘三如上。十度之興也其於衍乎。立度者其有蓄乎。是故智道之决也。慧道之辨也。禪道之正也。進道之昇也。忍道之任也。戒道之制也。檀道之利也。方道之巧也。力道之強也。願道之敢也。是以智明慧采禪專一也。進行而不止。忍不悔。戒固。檀功而不居。方入諸趣。力有所遂。願混而不失。一與二體同名異。而位有差。八與九十位差而德不差。然有次序者理之順矣。有佛然後教生焉。其教明白。故受之以智。智者知也。物之有知也必有分別。故受之以慧。物之別也必[怡- 台+乇]不可以不靜。故受之以禪。靜至即止。故受之以進。物進遇險則屈。故受之以忍。忍久而心荒。故受之以戒。戒約而少恩。故受之以檀。欲巧便。故受之以方。方多而緩。故受之以力。力強入物者洽。故受之以願而終焉。

元亨釋書卷第十九　終

元亨釋書卷第二十

濟北沙門　師錬撰

資治表一(起欽明至皇極合七君)

昔者仲尼之作春秋也。編年月而繫言焉。覃子長之變聖製而立傳焉。後之修史者皆則遷焉。蓋編年者繫于時也。立傳者繫于類也。繫類之者下愚猶便之看讀矣。繫時之者中才或病諸紛糾矣。是所以史經之有變也。初予修此書欲則春秋。只恐中下之或病諸。其不得已耳矣。然其胸懷猶介然于此也。竊見皇朝之德化。且託佛乘之翼佐也。故予摭其繫吾之實事。以寓素蘊而作資治表既而授二三子。有効凡例於左高赤者今并而錄焉。

欽明皇帝

元年春正月。夏四月。秋七月己丑遷都和州磯城嶋。冬十月

元年庚申 正月不書即位去歲十二月于檜隈宮也。帝繼體第三子。初帝讓山田皇后。后謝曰。蒙恩至渥。溟嶽難比而萬機之務婦女焉預。況皇子仁聖明敏乎。群臣又請勤故不得已也。七月十四都和之山邊磯城島。造宮于金刺故曰磯城島金刺宮。是歲當蕭梁武帝大同六年

二年三年四年五年六年七年八年九年十年十有一年十有二年十有三年春。夏。秋。冬十月百濟國主使大夫西部姬氏貢釋迦佛銅像及經論幡蓋。大殿灾

十三年十月十三百濟國聖明王使西部姬氏達率怒利斯致貢獻釋迦銅像經論幡蓋若干品。上表曰。是法於諸法中最為殊勝。難解難入。周公孔子尚不能知也。是法能生無量無邊福德果報。乃至成辦無上菩提。譬如人懷隨意寶。所須依情。是法寶復然。祈願依意無所乏缺。且夫遠自天竺爰洎三韓順教奉持。無不尊敬。由斯百濟王臣明謹遣倍臣怒利斯致奉傳帝國流通寰宇。又佛之所記我法東流。聖讖不徒天皇知之。帝大悅。詔使者曰。朕從昔以來未曾 聞如是微妙之法。然朕不自決姑待議焉。乃歷問群臣曰。西蕃獻佛其貌偉麗。不知可拜不。大臣蘇稻目奏對曰。海藩諸國一皆禮奉。豐秋日本豈獨否乎。況百濟王世承皇化。若貢妖神曷為忠藩。願陛下勿慮也。大連物尾興中臣鎌子等言。我國家之治天下也。恒以天地社稷一百八十神春夏秋冬祭拜有典。方今改拜蕃神恐致國神之怒。帝曰。卿等言爾也。然聖明之貢不可舍也。誰奉

斯神者。稻目稽首請之。帝賜像蘇氏。稻目安小墾田家。又捨向原宅為寺奉像。此冬疫。尾興鎌子同奏曰。國有災孽妖神之為。不用臣言已罹癘殛。願行棄撤祈受後福。帝依奏。有司投像于難波堀江火伽藍于時天無雲雨。天火焚大殿。初仲哀皇帝八年神託皇后征新羅國。帝疑而不發。九年春二月帝俄爾崩。於是乎皇后神功懼帝不用神言而崩。冬十月浮海到于新羅。新羅王見我旌旗器仗之莊麗曰。傳聞東海有神國名曰日本。恐是其神兵乎。不可敵也。乃素服面縛自持圖籍來于海壖曰。願每歲貢金銀縑帛八十船不敢蚩也。此時高麗百濟二國主聞新羅降於我。密伺軍勢知其不克。又自急馳納欵曰。從今以後永稱西藩不絕朝貢。自茲三韓皆貢于我。當東漢獻帝建安五年也十月曷為不日史失也

十有四年春。夏五月得異材刻佛像。秋。冬。

十四年五月朔內州奏。泉郡茅淳海有奇聲光。其響如雷其耀若日。帝勑溝邊直赴海物色。見樟木浮海光彩煜如也。取而獻。帝命工刻佛像二軀。今見在吉野寺。俗曰放光像。

十有五年春二月百濟國貢沙門曇慧。道深。夏。秋。冬

十五年二月慧深二比丘應百濟貢來。初十四年六月帝勑百濟召易曆毉三博士。至是貢三博士及三書。二比丘附獻焉

十有六年十有七年十有八年十有九年二十年二十有一年二十有二年二十有三年二十有四年二十有五年二十有六年二十有七年二十有八年二十有九年三十年三十有一年春三月甲申 僕射蘇稻目薨。夏。秋。冬建宇佐神祠于豐前州

三十一年三月蘇公薨。書官貴也。是歲豐前州宇佐郡厩岑菱潟池畔民家兒甫三歲託曰。我是第十六主譽田天皇廣幡八幡也。我名護國靈驗威身神大自在王菩薩。諸州諸所垂跡於神明。今顯坐此地耳。因之勑建祠

三十有二年春。夏四月天皇崩。諡欽明。秋。冬

三十二年四月之崩曷為不日。史失之也。

敏達皇帝

元年春正月。夏四月甲戌天皇即位。秋七月。冬十月

元年壬辰四月初三帝即位于百濟大井宮。帝欽明第二子。是歲當陳陳孝宣大建四年也

二年春正月厩戶皇子生。夏。秋。冬

二年正月朔王夫人娛遊至厩閑俄而產焉。以誕近厩戶字其兒焉。王夫人何。用明之后也。曷為不書后。茲時諸王也

三年四年五年六年春。夏。秋。冬十有一月百濟國貢佛經論及禪師。律師。比丘尼。及呪禁師。佛工。寺匠。

六年十月遣百濟使大別王自百濟歸。百濟王附貢經論及禪師等六人。舘難波大別寺。書二及差降也

七年春。夏。秋。冬天下放生月六日

七年每月六齋日放生。因豐聰王子奏也

八年春。夏。秋。冬十月新羅國使枳叱政貢釋迦佛像

八年十月新羅國貢釋迦像。上宮王子奏曰。此像甚靈。崇之則銷災受福。蔑之則招菑縮壽。帝聞之敬崇供養。今見在興福寺東金堂

九年十年十有一年十有二年春。夏。秋。冬百濟日羅說偈拜豐聰王子

十二年百濟日羅來。初日羅名于國。帝遣紀押勝召羅。押勝自百濟歸。奏曰。百濟王愛羅。於是乎復使吉備羽嶋召羅于王。王懼以羅從羽嶋來。王子偷眼於羅。羅指王子曰神人也。具在太子事中

十有三年春。夏。秋月僕射蘇公營殿于石川宅。冬十月度三尼

十三年九月百濟使麻深臣持彌勒石像而來。又佐伯連有佛像。蘇馬子於石川宅構殿安二像。褒馬子之克承先子營佛事。故書官不名。十月馬子令高麗惠便度善信。禪藏。慧善三尼於石宅精舍供給。一日設大齋會。善信之父司馬達等豫焉。於齋饌上得佛舍利獻馬子。其舍利神異不測。馬子益厚淨信

十有四年春二月僕射蘇公起塔于大野丘。三月停佛法。夏六月許蘇公奉佛。秋八月己亥天皇崩。聖壽二十有四。諡敏達。冬

十四年二月十五蘇馬子立塔大野丘北。以去歲所感舍利安塔柱。因設大齋會。三月大疫。物守屋中勝海奏曰。癘災流行專由蘇氏佞佛也。殷監不遠先朝可占。因此停佛法。曷為不言廢而書停。假實之謂也。曷為假當時之志也。於是乎八耳王子曰。痛哉二子之昧也。佛法說因果。亦猶積善慶殃之餘矣。二子殆不免焉。二十八守屋自往大野縱火燒塔殿。收燼餘佛像棄難波堀江。是日又無雲雨。又錮三尼于海石榴市亭。于時帝患瘡。及守屋天下殆徧。死者相枕。其患者皆言。如焚如撻。人人咸曰。焚寺像打淨尼之報也。六月馬子奏曰。比來禁佛事。以故臣疾未愈。非三寶力殆不起。願許復。勑曰。獨許卿餘不可。乃以三尼賜馬子。馬子大悅營精舍供三尼。帝疾彌留不差。八月十五崩。書聖算見崇也。

用明皇帝

元年春正月。夏四月。秋七月。冬十月

元年丙午正月不書即位。去歲九月于雙槻宮也。帝欽明第四子。是歲當揚隋文帝開皇六年也

二年春。夏四月豐國法師入宮。癸丑天皇崩。諡用明。鞍部多須奈建坂田寺。秋七月誅守屋。冬建四天王寺

二年四月帝不豫。語侍臣曰。朕思歸三寶。卿等議之。守屋勝海共言。何背國神奉異域神。先皇以來未之有也。蘇馬子曰。已承睿旨。何異謀之有於是乎。皇弟穴穗王子召豐國法師入內。八耳王子握蘇子手曰。三寶之奧庸人不委。幷黨交進抑蔽聖明。卿不屈邪誣可謂忠直矣。蘇子叩頭曰。賴殿下之明德耳。守屋哂蘇子而怒。王子語左右曰。大連不知因果。其敗可跂而待矣。豐國中選。曷為不族氏。疑則傳疑春秋之法也。曷為疑。或曰。豐國所名且從古史也。帝疾篤。鞍部多須那奏曰。臣乞為陛下出家修道。帝嘉之。初九帝崩。乃建坂田寺命百濟佛工刻丈六佛像安之。六月百濟使來。善信尼謂馬子曰。夫出家者以戒為本。此方戒學粗矣。願如百濟受戒法。七月蘇馬子誘諸王子謀守屋。初守屋欲立皇弟穴穗王子而咀帝。以故帝夭也。又謀誅諸王子成穴穗事。事發。泊瀨王子厩戶王子及馬子群臣帥師到澁河。守屋拒之。其兵甚銳。官師三却。厩戶皇子乃斲白膠木刻四天王像。置頂髮中誓曰。官軍得勝當作護世四王寺。馬子又誓。營寺宇興三寶。於是乎厩戶舍人赤擣放矢曰。是四天之箭。便貫守屋胸而死。物氏殲焉。冬攝州玉造岸上建四天王寺。分守屋田貨為二。一納于寺。一賜赤擣。守屋之誅不系于我。曷為書之。深寇也。寇則寇矣。奈誅之不干何。守屋謀厩戶。厩戶舉伐。厩戶之寇我之寇也。苟我之寇書之無咎。

崇峻皇帝

元年春三月百濟國使思率首信貢佛舍利及沙門慧聰。夏四月求法比丘尼善信赴百濟。秋七月冬十月蘇公建法興寺。

元年戊申正月不書即位。去歲八月于倉橋宮也。帝欽明第十一子。三月百濟貢佛舍利及沙門并畫工瓦工。表略曰。陛下踐祚肇興佛道。漢帝東流之夢。法王西來之猷。於今信矣。伏請陛下照佛日於若木之國。覆慈雲於扶桑之邑。夏善信尼如百濟。遠游非尼女事。書以求法簡貴之也。十月蘇馬子營法興寺。酬澁河役誓也。是歲當開皇八年也

二年三年春三月求法比丘尼善信至自百濟。夏。秋。冬鞍部氏薙髮度三尼

三年三月善信尼自百濟歸。止櫻井寺。是年鞍部多須奈出家。名德齊。同落髮者善聰等八人。得度者多。曷為書鞍氏。褒蹈言也。三尼者善德。善妙。妙光也。曷為書三尼。貴婦人也

四年五年春。夏。秋。冬十有一月乙巳馬子弒天皇。諡崇峻

五年二月帝語上宮皇子曰。蘇馬子外雖崇佛內甚詐譎。其侈縱矯虐卿以為若之何。對曰。蘇氏實可謂奢侈。然陛下願以忍恕覆億兆焉。帝性剛狷雖納上宮言內猶含之。十月或獻山猪。上宮侍焉。帝指猪顧上宮曰。安得如斬猪頸切佞臣頭。上宮私謂禍始於此。乃設內宴饗群臣。上宮語群臣曰。陛下之言公等勿洩也。時有黨蘇氏者告馬子。馬子募勇士漢直駒弒帝。十一月初三駒入天座。馬子賜駒不訾。往來家門出入不問。駒託功不慎。通馬子女。馬子怒縛駒庭樹親射殺。向書馬子皆姓不名。此何名不姓弒君也。

推古皇帝

元年春正月起法興寺塔。夏四月己卯立皇太子。秋七月。冬十月移四天王寺

元年癸丑正月不書即位。去歲十二月于豐浦宮也。帝欽明中女敏達之后。崇峻遭弒群臣謀立。正月營法興寺塔。以佛舍利置柱礎中。四月初十冊厩戶皇子為太子。詔曰。朕婦人也。不解政事。萬機之務皆委太子。百僚悅焉。今茲移四天王寺難波荒陵。是歲當開皇十三年也。

二年春二月詔皇太子興三寶。夏。秋。冬

二年二月勑太子溥弘三寶。群臣構佛宇

三年春。夏四月得異材刻觀自在像。五月高麗沙門慧慈來。秋。冬百濟沙門慧聰來

三年春南海之濱有浮查。夜放光聲如雷。四月著淡州南涯。大一圍長八尺。沿海之民取為薪。其煙遠薰。以獻于朝。太子奏曰。是沈水香木也。產南天竺南海之崖。其實雞舌。其花丁子。其脂薰陸。入水久者為沈水。不久為淺香陛下興佛乘造佛像。天神感之漂送耳。帝悅。勑百濟工刻觀音像。安吉野比蘇寺。時時放光。五月慧慈來。太子師之

四年春。夏。秋。冬十有一月慶法興寺。居沙門慧慈。慧聰。置寺司

四年十一月法興寺成。今之元興寺也。勑設無遮會慶之。于時紫雲如花蓋。降覆塔及殿。變為五色。作龍鳳形。太子語左右曰。天感新寺故有祥雲。勑慈聰二師居寺。以善德臣為寺司

五年春。夏四月百濟王子說偈拜太子。秋。冬

五年四月百濟王子阿佐來朝。見太子作禮曰。敬禮大悲觀音菩薩。妙教流通東方日本。四十九歲傳燈演說。太子眉間放白光。阿佐拜而出。阿佐曷為不名。貴也。曷為貴之。聖人也。何以知。預言太子歲也。

六年七年八年九年十年春。夏。秋。冬十月百濟沙門觀勒來。高麗沙門僧隆。雲聰來

十年十月百濟高麗沙門等來。曷為有二來。異月也。曷為不書月。閏也。曷為不書閏。春秋之法也。書二來見閏也。

十有一年春。夏。秋。冬十月轉安宅經于小墾田宮

十一年十月初四帝遷小墾田宮。太子命諸沙門講安宅經。十一月太子語侍臣曰。我有一像誰能安之。秦川勝進曰。臣願得之。乃建蜂崗寺安像。像阿逸多。今之廣隆寺也

十有二年春。夏四月太子製憲章。秋。冬

十二年四月太子作憲令十七條。其第二曰。篤信三寶。三寶者佛法僧也。四生之終歸。萬化之極宗。何世何國不嚮是法。人鮮尤惡。能教乃化。不歸三寶何以直枉

十有三年春。夏四月詔太子及群臣造銅繡二像。秋。冬

十三年夏帝勑太子群僚鑄丈六釋迦及二菩薩像。用銅二萬三千二百斤。黃金八百兩。高麗王大興聞之貢黃金

十有四年春。夏四月慶銅繡二像。置二孟齋。五月賜鞍作鳥于大仁位。秋七月詔太子講勝鬘經。冬十月講法華經

十四年四月銅繡像成。安元興寺設大齋會。此夕五色雲覆佛殿。銅像放光內外咸明。帝大悅。每歲四月八七月望設齋會立為式。二孟何。孟夏孟秋也。五月勑曰。嗟爾鞍作鳥。先皇歸佛乘求舍利。汝祖司馬達等便獻舍利。用明帝不豫。汝父多須那奏出家祈福。又汝姨島出家為本朝之愛道。今朕欲鑄佛像。不得善模。汝之所獻以為範模。像已成殿戶窄。梓匠將隳戶。汝善巧思畫不壞戶而像得入。夫累世善忠一時巧功朕不得而稱無地讎德。唯枉微爵署大仁位。(今之五位)兼以近州坂田郡二百畝益食邑。島以此田稅作金剛寺。今之南淵坂田尼寺也。七月太子對御講勝鬘經。太子曰。吾昔為勝鬘夫人時。釋迦世尊說此經。故吾能講此經。講已。天雨蓮花大三尺。乃製義疏傳世。十月勑於崗本宮講妙法蓮華經嘲播州田一千畝。太子納于班鳩寺。

十有五年春。夏。秋七月太子遣野妹子于隋國。冬

十五年七月野妹子入隋以三法衣施衡山三僧。事見太子傳中

十有六年春。夏四月野妹子將隋使而歸。秋八月隋使入都。九月太子屏夢殿。冬

十六年八月詔迎隋使裴清于海石榴市街。太子微行見之。清指太子之所曰。彼有真人氣。下馬而過。九月太子入夢殿閉戸一七日。夜出告慧慈曰。我定中往隋國執經來也。乃示慈慈大奇之

十有七年春。夏五月舘百濟沙門道欣。慧彌于元興寺。秋九月野妹子將隋使而歸。冬

十七年四月百濟國遣使於吳國。其船漂流著肥後之葦北津。太宰府奏。五月送舟人于本國。于時沙門欣彌等十一人觀國之光上表請留。勅止元興寺。九月隋使奏曰。去歲秋皇太子駕青龍車。侍從五百取南嶽舊房經冲空而去

十有八年春三月高麗國貢沙門曇微。法定。夏。秋。冬

十八年三月高麗貢微定二比丘。微多才藝。明儒五經。善丹青。造碾磑

十有九年二十年春。夏。秋。冬為須彌山于南庭

二十年異人自百濟來。其面及身斑白。群臣忌其奇體將棄海島。斑人曰。若忌臣者斑駮牛馬不可備御。亦臣有小伎能作山岳之形。容臣而用不為無利。於是乎勅造須彌山于南庭

二十有一年春。夏。秋。冬十有二月庚午太子逢菩提達磨

二十一年十二月朔太子遊片崗見餓人。其人頭大面長目纖耳長。眼有金光。與太子語久。太子與食服。太子歸宮餓者殂。太子親葬。數日使使開墓。不見屍。衣在棺上

二十有二年春。夏。秋八月度一千人。太子授戒于蘇公。冬

二十二年八月蘇馬子疾。勅度比丘比丘尼一千人。祈病也。馬子疾革。太子使其剃髮。自授具戒

二十有三年春。夏。秋。冬十有一月沙門慧慈歸高麗

二十三年

二十有四年春。夏五月太子建伽藍。秋七月新羅國貢黃金佛像。冬

二十四年夏帝不豫。五月太子營精舍祈之帝疾愈。百僚多建寺塔。七月新羅王貢金像長二尺。安蜂崗寺。像時時放光。

二十有五年春。夏。秋。冬建伽藍于熊凝村

二十五年太子入定見皇運。出奏曰。後代皇祚多災害。非佛力不可救。願建一精舍護皇基。帝隨。奏構于熊凝村。今之大安寺也

二十有六年二十有七年二十有八年二十有九年春二月癸巳皇太子豐聰薨于班鳩宮。夏。秋冬

二十九年春太子病。帝慰問曰。有所思乎。太子對以熊凝之侈新。二月五日太子薨。天下萬民如喪考妣。太子厚我亦位尊。何書薨以名。以名書死春秋之法也

三十年三十有一年春。夏。秋七月新羅國使奈未智洗爾貢佛像舍利塔幡。沙門惠濟慧先至自唐。冬

三十一年七月新羅王遣大使奈未智洗爾貢佛像。舍利。金塔。灌頂幡大小十二旒勑安像葛野秦寺。納舍利塔灌頂幡四天王寺。是時濟先二比丘及毉慧日福因從智洗爾來歸。慧日奏曰。唐學沙門等學業已成。早勑召之

三十有二年春。夏四月戊午置僧正。僧都。及法頭。壬戌釋觀勒為僧正。德積僧都。秋九月校寺。冬

三十二年四月初三一比丘執斧毆祖父而死。巷閭嗟吁而曰。太子猶在豈有此逆乎。帝聞之召群臣謂曰。夫出家者歸三寶具戒法。何無慚慎輒作惡逆。乃詔諸寺索惡比丘。於是乎僧尼多逢疑逮。有司將并坐。百濟沙門觀勒上表曰。佛法自西印至東漢經三百歲傳之百濟已一百年矣。吾百濟先主聞日本天皇睿聖敏明而貢上佛僧及經論。今猶未滿八十載。以故僧尼未習法律之者有矣。是所以大逆之生也。今其首醜我門亦不得容。其餘僧尼豈可例刑哉。願質憲章流之仁澤。制可。十三詔曰。夫道人尚犯法。何以誨俗乎。自今以往應置僧正。僧都檢校僧尼十七觀勒任僧正兼法務。德積僧都。又置寺司曰法頭。阿曇連任法頭。不書微也。君子曰。興者衰之初與。僧官者道之弊與。昔羅什入關僧尼麕至。秦主姚興患其濫汙不軌始置僧正而整之。僧碧當其任也。什之入秦者吾法之興也。而弊始於此焉。推古之世者吾法之興而亦衰之始與。蓋夫不得已乎。何地異而事不異也。雖貪嗔之不同所以弊之始者一也。歲寒知松栢。瞻彼碧勒者松耶栢耶。九月校城寺。寺四十六所。比丘八百十六員。尼五百六十九員

三十有三年春正月高麗國貢沙門慧灌。夏釋慧灌擢僧正。秋。冬沙門福亮為僧正

三十三年夏旱。詔慧灌法雩。甘雨大注。帝悅任僧正。擢與為何異。為常也。擢非常也。此歲福亮為僧正。古史失時日也

三十有四年三十有五年三十有六年春三月癸丑天皇崩。謚推古

三十六年三月之崩初七也。

舒明皇帝

元年春正月丙午天皇即位。夏四月。秋七月。冬十月

元年己丑正月初四帝即位。帝敏達之孫彥人王子第二子。是歲當李唐太宗貞觀三年也

二年春。夏。秋。冬十月癸卯遷于崗本宮

二年十月之移宮十二也

三年四年春。夏。秋八月沙門靈雲。僧旻至自唐。冬

四年八月唐使高表仁來。留學雲旻二師從之歸

五年六年春三月起豐浦寺塔。夏。秋。冬
六年
七年八年九年春二月大星流聲如雷。夏。秋。冬
九年二月大星從東流西。其聲如雷。朝無知者。沙門僧旻曰。此星曰天狗。東方恐有亂乎。果蝦夷叛
十年十有一年春。夏。秋七月新百濟大寺。九月沙門慧隱。慧雲。至自唐。冬
十一年正月造宮于十市郡百濟河側。又相勝攸移熊凝精舍。改侈其規。禮也。其地在百濟河側。故曰百濟。規模高宏故曰大寺。分郡民為二。河西民充造宮。東民寺。納邑三百戶田三千畝于寺。春秋法修舊不書。曷為書。大之也。故書曰新。又褒帝之蹈上宮言故書。是時宮寺并營。材不足。乃伐神林。子部大神怒火寺。帝減膳。九月新羅人送留唐隱雲二人而歸
十有二年春。夏五月辛丑釋慧隱講于宮中。秋。冬十月沙門清安至自唐
十二年五月初五宮中設齋會宣慧隱講無量壽經。曷為書。曰宮講始也。隱師何書姓。貴也。曷為貴。始應宮講也。十月新羅使來。留唐清安從之歸
十有三年春。夏。秋。冬十月丁酉天皇崩。謚舒明
十三年十月之崩初九也。

皇極皇帝

元年春正月辛未天皇即位。夏四月。秋七月法雩于諸寺。九月修百濟大寺。冬十有二月壬寅遷于小墾田宮。
元年壬寅正月十五帝即位。帝敏達之曾 孫茅渟王之女舒明之后也。夏不雨。七月村村殺牛馬祭諸神僕射蘇入鹿奏曰。詔諸寺讀佛經必得雨。庚辰宣諸大寺嚴像設。命眾苾芻讀大雲經。蘇公手執香爐行香。辛巳微雨。九月百濟之修舒明十一年神火。至此復營。春秋不書修。今書之者褒也。曷為褒。即位之初克復先業。非厚我然乎。十二月移宮二十一也。是年當貞觀十六年也。
二年三年四年春夏六月庚戌天皇禪位于皇太子。後謚皇極。僧旻為博士。秋八月置十師。冬十有二月癸卯遷都于攝州難波豐碕。
四年六月十四帝禪位太子。太子辟太兄王子。王子曰。已奉聖旨何讓之有。臣素志薙染。辭已解佩刀投地。即往法興寺除鬚髮。太子不得已踐位。以沙門僧旻為才加大學博士。旻已乖本法。故書去氏族。梁齊以來加官爵于我者多矣。何責旻之深。梁齊以來諸師不得逃我誅矣。八月延諸沙門宮中。詔曰。欽明聖皇膺圖

之。十三百濟藩王初貢佛法。是時群臣不輯競皷毀吻。唯蘇稻目能嚮真乘。敏達以降世事崇奉。朕新登大寶思興正教。故以沙門狛大。福亮。慧雲。常安。靈雲。慧至。僧旻。道登。慧隣。慧妙為十師。此十師等宜弘傳釋教教令眾僧。又慧妙法師充百濟寺主。凡諸寺之怠修廢者。有司與寺主檢校助營。又以三輪色夫君為法頭。巡行諸寺。與其寺主勘計寺產給其窶缺。十二月遷都初九也。

元亨釋書卷第二十　終

元亨釋書卷第二十一

濟北沙門　師錬撰

資治表二(起孝德至元明合七君)

孝德皇帝

元年春正月建元大化。夏四月。秋七月。冬十月

元年丙午正月。不書即位去歲六月于難波宮也。帝皇極之弟。舊史繫元於乙巳。曷為今立丙午。春秋之法一年不二君。踰年即位。踰年立元法于春秋也。舊史去七月書建元。今改正月蓋春秋之意也。此歲當貞觀二十年也。

二年三年春二月遣求法沙門于三韓。夏。秋。冬

三年二月求法比丘入于三韓。曷為不入唐而入三韓。三韓者我藩也。

四年春蘇公建山田寺。三月誅宰臣蘇氏。夏。秋。冬

四年三月僕射蘇麻呂 遭讒居百川宅。官使帥師圍宅。蘇公有季子二人為比丘。於是乎將二比丘走。先是使長子興志營山田寺。聞父事馳迎塗。興志曰。家屬可用乞拒官軍。蘇公語山田寺眾及興志曰。夫為人臣者毋構逆於君。我奚捍官師乎。且令汝創此寺者不為門閥祝天祚也。今我見譖及于此也。古賢皆爾也。我何恨焉。我不失愚忠于地下而已矣。然來此者以死盟佛也。言已入殿誓曰。願我來世不寓債於君也。誓已自經而死。妻子自殉者八人。蘇公雖遭讒不失忠故書曰宰臣。而受官誅故書氏

五年春二月甲申改元白雉。夏六月仙人法道入宮。秋。冬十月繡丈六佛像造一千佛像。

五年二月長州穴戶獻白雉。宣問百濟君。對曰。後漢明帝永平十一年或獻白雉。今當聖代瑞禽出焉。為吉徵耳。又問諸沙門。僧旻法師奏曰。是休祥也。伏聞王者德流四表則白雉見。又王者祭祀不相踰宴食衣服有節則白雉至。又周成王時越裳氏獻白雉曰。國之黃耆等曰。無暴風淫雨江海不波溢者三年於茲矣。意中國有聖人乎盍往朝乎。故重三譯而至。又晉武帝咸寧元年白雉見松滋。是等瑞應多載簡冊。自非陛下仁聖何及於此。乞放于禁苑。亦赦天下。因此十五改元。六月法道之事在本傳。十月創丈六繡像及八部等四十六像。又詔漢山口真大口刻千佛像

六年春三月慶繡像。夏。秋。冬十有二月二千沙門轉大藏于宮中。夜然二千燈

六年三月皇祖母延十師。設齋慶繡像。十二月二千讀經及然燈者依法道之化也

七年春。夏四月釋慧隱。慧資。講論宮中。秋。冬十有二月大集僧尼于宮中齋

七年四月詔慧隱於宮中講無量壽經。命慧資為問難。一千沙門豫聽。十二月普會天下僧尼于宮中設齋。此夕燒燈依法道化也

八年春。夏五月沙門道昭。定慧等赴唐。天皇幸沙門僧旻房。六月賻僧旻。秋。冬

八年五月遣唐大使小山長丹發于京。求法沙門道嚴。道通道先。慧施。覺勝。辨正。慧照。僧忍。知聰。道昭。定慧。安達。道觀等從之。副使小乙上掃守連。沙門之從者道福。義向也。旻法師病。帝幸房問之。口勅恩命。六月旻師卒。帝嗟悼。遣中使弔之。并賜賻。皇祖母皇太子弔法師喪

九年春。夏。秋。冬十月壬子天皇崩。謚孝德

九年十月之崩初十也。

齊明皇帝

元年春正月甲戌天皇復位。夏四月。秋七月。冬十月建川原寺

元年乙卯正月初三皇極帝復位于板盖宮。冬遷飛鳥川原宮。故營川原寺。是歲當高宗永徽六年也

二年春。夏。秋。冬比丘尼法明誦維摩詰經

二年內臣鎌子連疾。帝憂之。百濟尼法明奏曰。維摩詰經因問疾說大法。乞試誦之。勅明誦。未終卷疾愈。鎌子感伏。帝大悅

三年春。夏。秋七月設盂蘭盆會作須彌山于飛鳥寺西。冬十月內臣鎌子建山階寺修維摩會

三年十月鎌子於山州陶原家創山階精舍。設維摩齋會。維摩會自此始

四年春。夏。秋七月沙門智通。智達赴唐。冬沙門福亮講維摩經于陶原家

四年七月通達二師奉勅乘新羅舡入唐。受相宗於玄奘三藏。是歲吳僧元興寺福亮赴鎌子請於陶原家講維摩經爾來鎌子延海內碩德。相次講演。凡十二年

五年春三月造須彌山于甘檮丘東。夏。秋七月講盂蘭盆經于諸寺。冬

五年七月詔群臣於都下諸寺勸講盂蘭盆經報七世父母

六年春三月講仁王護國經于宮中。夏五月設仁王會。秋。冬

六年五月造百座百袈裟賜一百沙門設仁王會

七年春。夏五月癸卯遷都于築紫朝倉。秋七月丁巳天皇崩。諡齊明。冬

七年五月初九都築紫之朝倉。造宮于廣庭。七月之崩二十四也。

天智皇帝

元年春三月救高麗。夏四月。秋七月。冬十月

元年壬戌正月。不書即位素服稱制也。帝舒明第二子自築反在長津宮。三月唐人新羅人伐高麗。高麗乞救于我。四月鼠產于宮馬尾。沙門道顯曰。高麗屬我乎。果然。君子曰。博乎顯也。學涉于藝術也。是歲當龍朔二年也

二年三年四年春三月度三百二十人。夏。秋。冬

四年二月間人大后崩。三月三百三十之度薦后也

五年春。夏。秋。冬唐沙門智由獻指南車

五年

六年春三月己卯遷都于近州志賀夏。秋。冬

六年三月十九自和州遷近州志賀大津宮。

七年春正月戊子天皇即位。建建福寺。夏。秋。冬營殿于百濟大寺。天女降殿。新羅道行擬草薙劒

七年正月初三帝即位。曷為緩。孝也。帝創建福寺于志賀都。當平基趾得寶鐸長五尺五寸。又得白石長五寸。夜有光。帝喜奇瑞。斬左手無名指納殿前燈幢石壇中。是歲新百濟寺。又營別殿安丈六釋迦像。莊飾極人工。帝一夜持誦像前。謂左右曰。朕以淨信嚴像設。弗知真容肖不。五更二天女降。容貌端麗衣服光耀香氣甚烈。禮像了白帝曰。我昔靈山親覲真儀。今見此像毫無差迕。此土王臣可謂清信。言已飄然入雲。帝大悅慶讚曰。紫雲下覆天樂遙鳴。昔素盞鳴尊謫雲州。有老公嫗。中坐少女而泣。女甚美。素尊問。何為哭。對曰。我有八兒。其七已為蛇吞。今此一女又無由脫故哭。素尊曰。與女於我可解此愁。父母喜曰諾。素尊問曰。其蛇何形。對曰。八首八尾甚可怖也。素尊乃設八槽盛以醞酒。裝女置山頂。其影沉八槽。大蛇見之以為真女。便矯八頭飲八槽。已而醲醉不寤。素尊拔所佩十握劒斬蛇。至一尾刃少缺。割而見之有寶劒。素尊奉劒於天照太神。太神曰。我屏天巖時落此劒于近州伊布貴山。是我神劒也。太神命其孫瓊杵尊。降此國付三神器為國鎮。劒其一也。累世為國寶。至崇神皇帝恐劒靈威。召良冶模打。獻舊劒于伊勢太神宮。新劒留王宮。景行之世東夷叛。帝以皇子日本武尊為元帥征夷。武尊承詔東征。先詣伊勢太神宮。太神賜此劒赴東。武尊佩劒至駿州浮嶋原。諸夷

謀曰。皇子雄略勇健非我等所伺。當設奇計。乃白言。皇子神威夷族不敢拒命。此地宜游獵。皇子虞遊可乎。武尊諾。已而夷賊縱火于時初冬窮野枯草煙焰迅飛。武尊拔劒揮之。四旁一里草木芟夷。其火自止。初蛇帶此劒。其尾常有雲氣故曰天叢雲劒。至此名草薙劒。武尊自東歸還劒於勢宮。其後以劒藏尾州熱田神祠。新羅沙門道行聞劒靈欲之。乃入神祠持誦一百日。竊取劒裹僧伽梨。携至築紫。赴本邦。忽海風暴起波怒船簸不得去。凡行取劒三回皆不得。始持誦七日取劒而出。俄黑雲一帶自空下奪劒。送到神祠。行益欽劒靈。又持誦五十日取劒至近州蒲生郡。黑雲下奪如先。至此持念百日遠至築紫而遂不得。曷為不族道行。盜也。既是盜曷為不曰盜。沙門也。擬何。不得之謂也

八年春。夏。秋。冬十月大織冠藤鎌足薨

八年十月大織冠病革。先薨數日剃髮。帝賜黃金香爐曰。已聞出家可持法具。薨後詔百僚赴喪事

九年十年春。夏。秋。冬十月慶一百佛像于宮中。獻法衣金鉢香財于法興寺像。太子薙髮入吉野山。十有一月沙門道旻至自唐。十有二月乙丑天皇崩謚天智

十年十月帝不豫。刻百佛像慶讚宮中。又以袈裟。金鉢。象牙。沉水。旃檀香。及諸珍寶供法興寺佛像。帝疾篤。詔太子大海曰。朕病彌留汝其登皇位。對曰。臣元多病難任社稷。請禪位于大后令大友太師攝政。臣願為陛下出家修道。便薙髮于宮中為沙門遂入吉野山。公卿百僚皆送焉。十一月唐使郭務悰來。道旻從之歸。十二月之崩初三也。

天武皇帝

元年春正月。夏四月。秋七月。冬十月

元年壬申 帝在吉野宮。大友皇子令以營山陵聚兵謀帝。因茲帝幸勢州發師相拒。七月戰近州瀨田。大友軍敗自縊。九月帝移和州崗本宮。今茲亂離無遷都儀。帝天智之弟。是歲當咸亨三年也

二年春二月癸未天皇即位。沙門智藏為僧正。夏。秋。冬十有二月紀訶多為造寺司

二年二月二十七帝即位。勅於川原寺寫大藏經。沙門智藏督役。故任僧正。十二月小錦紀訶多為造高市大官寺司。時知事福林告老解職不聽焉。戊申 以義成為僧都。加佐官二比丘。有四佐官自此始。不書微也。此歲慧師。慧輪。智圓。皆為僧正。不書古史失時日也

三年四年春三月沙門智通為僧正。夏四月設齋會于宮中。秋。冬十月求大藏經

四年四月宮中設齋會。延僧尼二千四百人。十月遣使於四方求一切經文。曷為求。是時大藏未備也。王者無求。曷為書求。彼俗也。以俗而言善。此真也。以真而求益善。

五年春。夏旱。秋。冬十有一月講最勝。仁王二經于諸州

五年夏旱。詔僧尼法雩。尋常書雩不書旱。曷為書旱。不書雩不應也。不書雩而書旱令君子思焉

六年春。夏。秋八月轉大藏于飛鳥寺。天皇幸之。大度人。冬

六年八月設齋會于飛鳥寺讀大藏。帝幸南門禮佛。詔諸王公卿。各賜度者一人。因此貴族之中薙髮之者多矣

七年八年春三月施僧尼。夏四月定官寺。秋。冬十月定僧尼服色駕從。聽僧尼老病醫寓

八年三月施綿帛於僧尼。加減有差揀貧乏也。四月檢校諸寺封食而置官寺。十月詔曰。凡諸僧尼常住寺院勤于修練。然老病之者不便看養。自今以降許就親知篤信之宅醫育

九年春。夏四月禁小寺官治。五月講金光明經于宮中。秋七月使皇子弔沙門弘聰喪。冬十月施僧尼。十有一月建藥師寺。后病愈。使皇子問沙門慧妙疾。又弔之。度一百人。天皇疾差

九年四月禁小寺官治止繫掠也。而大寺之係官如飛鳥寺不在此列也。故書曰小寺。蓋有司或因保官寺連掠小寺也。五月施布帛京內二十四寺。讀金光明經于宮中設講席。七月癸巳飛鳥寺弘聰卒。使大津高市二皇子弔之。十月施京寺僧尼惠貧乏也。及京師百姓耆老等各有差。十一月皇后病。創藥師寺度一百人。祈疾而愈。初有司不委寺規。沙門祚蓮入定見龍宮出圖而奏。爾後持統文武二帝繼營。壯麗妙絕。丁亥。沙門慧妙疾。使草壁皇子問之。戊子卒使三皇子弔之

十年春。夏。秋七月皇后設齋會。冬

十年閏七月皇后於京內諸寺設齋講經。閏在于七。而書正者春秋之法也

十有一年春。夏。秋八月度一百四十人。冬

十一年八月高公主病。度百四十人于大官寺。祈愈

十有二年春。夏四月宮中異處居僧尼度三十人。秋八月詔釋道寧法雩。冬新大官大寺。

十二年詔僧尼居宮中。擇淨信者三十人出家。八月旱。百濟道寧法雩得雨。祈而有應故書姓。尊之也。是歲遷百濟寺于高市郡。改曰大官大寺。今之大安寺也

十有三年春。夏四月設齋于宮中。福揚下獄。秋。冬天皇不豫。皇太子祈大官寺愈

十三年四月飛鳥寺沙門福揚下獄。庚戌自刎而死。冬帝病。太子草壁奉勑率百僚詣大官大寺誓曰。皇帝欲開會於寺而營構未畢。聖體不豫。伏丐大悲世尊延睿算成寺會。帝感靈夢病痊

十有四年春三月許天下民宅構佛宇。夏四月宮中異處安居僧尼。五月天皇幸飛鳥寺。沙門觀常。雲觀至自新羅。秋八月天皇幸淨土寺于川原寺。九月轉佛經于三大寺。冬十月沙門常輝賜封戶講金剛般若經于宮中。十有二月施綿帛于大官寺

十四年三月詔諸州家構佛舍安像經供養崇奉。四月宮中安居自此始。五月幸飛鳥寺獻珍寶禮佛。辛未新羅留學常觀二比丘從國使歸。八月幸川原寺施稻於眾僧。九月帝疾。於大官。川原。飛鳥三寺三日轉經。賜稻于三寺。祈病也。十月百濟沙門常輝年百歲受封三十戶。養老也

十有五年春正月俗供供九沙門。夏五月納封戶于大官寺。講藥師經于川原寺。沙門安居宮中。修廢寺。六月伊勢王入飛鳥寺。燈齋于川原寺。沙門法忍。義照。賜封戶。秋七月延沙門懺悔。轉金光明經于宮中。戊午改元朱鳥。九月丙午天皇崩謚天武。冬十月放行心于飛州。十有二月設無遮會于五寺

十五年正月召三綱及大官寺知事佐官并九比丘。以俗供供之。施布帛各有差。非禮也。君子曰。以鳥鳥古之鑑乎。三月羽田真人病。度三僧祈病。不書微也。五月帝病。於川原寺講藥師經。又召沙門安居宮中。又詔修諸寺廢。大赦天下。囹圄已空。皆祈疾也。六月使伊勢王詣飛鳥寺告眾祈疾。此日三綱律師及四方和尚知事現師位等各賜御衣被。祈病也。忍照二比丘賜封戶各三十。養老也。七月召僧正僧都赴宮為帝悔過。一百比丘讀金光明經于宮中。祈病也。和州獻赤雉。因茲改元。九月之崩初九也。十月大津皇子反。新羅沙門行心參謀。事覺不忍加誅比丘。竄于飛驒伽藍。十二月設無遮會于大官。飛鳥。川原。小墾田。坂田五寺。薦大行皇帝也。

持統皇帝

元年春正月。夏四月。秋八月施伽梨于三百沙門。九月設國忌齋于京師諸寺。沙門智隆至自新羅。冬十月

元年丁亥正月。不書即位攝也。帝天智第一女天武之后居后位稱制在藤原城。八月以先皇御衣製三百袈裟施三百沙門。智隆之歸附使也。是歲當武后垂拱三年也

二年春正月設無遮會于藥師寺。二月乙巳置國忌齋。夏。秋七月釋道藏法雩。冬新羅王子金霜林獻佛像及珍寶

二年二月詔曰。每逢國忌設齋立為式。七月詔百濟道藏祈雨。不崇朝雨天下。故書以氏。是歲新羅金霜林獻佛像。書以王子貴之也

三年春正月蝦夷鐵折為沙門。賜蝦夷沙門道信于佛像。夏四月還新羅獻像。沙門明聰。觀智。至自新羅。六月賜明聰。觀智于布帛。秋七月賜蝦夷沙門自得于新羅像。八月置放生所。冬

三年正月蝦夷鐵折等奏乞為沙門。許之。書名貴之也。春秋之法不名為貴。蝦夷曷為書名為貴。公卿有官氏書名為賤。蝦夷無官書名為貴。壬戌賜佛像鉢幡。保惠也。四月新羅王弔先皇喪獻彌陀。觀音。勢至三銅像及珍物。於是召新羅使責其緩而違禮也。乃以獻物還之。新羅使大懼。求法聰智等從新羅使而歸。新羅使乞救於聰智二比丘。奏恕。六月詔大宰府賜布帛于二比丘而勞新羅使。君子曰。有威有恩有禮乎。因此留新羅獻物。適蝦夷自得奏乞新羅像。詔而賜之。八月置放生所三。攝州武庫海一千步。紀州耆野。賀州身野各二萬頃。順佛化也

四年春正月戊寅天皇即位。二月新羅沙門詮吉來。夏五月庚寅置安居講于宮中。秋七月賜施布帛于安居沙門。八月沙門智宗。義德。淨願至自唐。冬

四年帝后位稱制。謙不即真。群臣固請。正月一日即位。百僚賀拜。七月施七寺安居比丘都計三千三百六十三人。又施三寺安居沙門三百二十九人。薦皇太子也。賜施何二事也。何如二賜賞也。施薦也。曷為不別書。安居同。八月留唐三沙門從新羅使而歸

五年春二月諭百僚奉佛。夏六月轉經于京畿諸寺。秋。冬

五年二月詔曰。朕思先皇時。公卿百僚各營佛宇。亦月修六齋。故先皇時時遣使慰問。近來不知不替乎。朕之不詢甚愧于衷。而又曷不聞乎。自今卿等願令朕世如先代。六月詔曰。茲夏霪恐傷稼。朕女主教不明故及於此也。將又卿等號令之邁乎。朕夕惕乾乾思補厥愆。卿等庶省。宴樂酒肉。有意於此乎。其宣京寺沙門。諷讀五日裨朕不逮焉

六年春二月法藏。道基。受銀。夏五月講金光明經于京畿。觀成受綿帛。傳佛教于大隅阿多。秋。冬

六年三月三帝幸伊勢神宮。預令百僚嚴行裝。沙門法藏。道基。以才為陰陽博士。故賜銀備員。仕官非法也。故不書族。莊服非法也。故書受觀成之受帛造鉛粉也。工作非法也。除族書受。西

州大隅極西僻區民未聞真化。詔大宰府帥河內王。遣沙門像經傳唱佛法

七年春正月賜沙門法鏡田。三月賜沙門辨通神睿布帛。夏五月設無遮會于宮中。秋九月設無遮會于宮中冠福喜。冬十月己卯置仁王最勝講于宮中。十有一月沙門法員等嘗醴泉

七年三月通睿二比丘赴新羅。詔賜布帛。九月無遮會薦先皇也。高麗沙門福喜以才詔反俗。十月宮中仁王最勝二經講立為式。十一月近州益須郡醴泉出。刺史奏之。勑法員。善往。真義等試嘗

八年春。夏四月賻沙門道光。五月頒金光明經于天下。秋八月度一百人。冬

八年四月沙門道光卒。詔賜錢帛供喪事。五月以金光明經一百部頒諸州。每年正月上絃轉之祝聖。各當州租充僧嚫。八月百度薦飛鳥公主也

九年十年春。夏。秋。冬十有一月沙門辨通賜封戶

十年十一月。通師之封四十戶也

十有一年春三月設無遮會于春宮。夏六月法雩于京畿諸寺。遣官僚掃京寺。百僚造佛像。秋七月設佛眼會于藥師寺。八月乙丑天皇禪位于皇太子。後謚持統。冬

十一年六月遣官僚五品以上掃灑京寺。見崇敬也。帝不豫。百官刻佛像祈焉。七月像成。於藥師寺設開眼會。八月之讓位初一也。

文武皇帝

元年春三月沙門慧施為僧正。善往為律師。夏四月。秋七月。冬十月藥師寺成。十有一月沙門道眼為大僧都

元年戊戌正月。不書即位去歲八月初一于藤原宮也。帝天武之孫草壁太子第二子。母元明帝也。舊史丁酉紀元。今立戊戌者孝德之例也。律師何。僧官也。往始任。雖微書。十月藥師寺落成。詔諸沙門居。大僧都自眼始故書。凡始者雖微書。是歲當聖曆元年也

二年春。夏五月竄役小角于伊豆嶋。六月起塔于大官寺。度五百人。懸鏡慶佛。秋。冬

二年五月役君貶豆島。朝散大夫韓國連師事小角。已而嫉其能讒以妖惑。故有此配。謫臣曷為書姓。不罪也。初天智帝誓造丈六佛像而崩。帝欲成先志而不得良工。一日幸大官寺合掌誓曰。安得良匠模刻聖容。其夜帝夢一沙彌白言。往歲造此像者化人也。不可重來。又夫良工猶有雕刻之誤。名畫不免丹青之訛。不如以

大鏡懸佛前拜其映像。像者非圖非刻三身自具。何者見其形者應身之體也。窺其影者報身之相也。觀其空者法身之理也。功德勝利莫大焉。帝覺後知如來之感現。即懸大鏡于佛前作禮。延五百沙門設供養

三年春三月弔沙門道昭。夏。秋。冬冠通德。慧俊

三年三月道昭法師寂。帝嗟悼遣中使弔慰。是歲勅德俊二比丘反俗。以其才任朝事也。乃度二人貸之

四年春正月赦役小角。二月沙門道慈赴唐。三月甲午改元大寶。夏。秋八月冠慧耀。冬

大寶元年三月對州貢金。因茲改元。是歲慧耀信成反俗。才任也。度者貸之

五年春正月沙門智淵為僧正。夏。秋。冬十有二月度一百人

大寶二年十二月百度祈持統上皇病也

六年春二月設齋于三十三寺。三月沙門義淵為僧正。夏。秋。冬十月冠隆觀。沙門智鳳赴唐

大寶三年春太上皇七七忌設齋于四天王。山田等三十三寺。沙門隆觀博涉藝術尤善算曆。十月勅反俗。是歲沙門智鳳入唐

七年春五月甲午改元慶雲。秋。冬

慶雲元年五月祥雲見西樓上。初十因此改元

八年春。夏四月轉金光明經于五大寺。秋。冬

慶雲二年四月詔曰。朕以菲薄之躬託于王公之上。不能德感上天仁及黎庶。遂令陰陽錯謬水旱失時年穀不登。民多菜色。每念於此惻怛於心。宜令五大寺讀經救民焉

九年春。夏。秋。冬十月右僕射藤公屈沙門智鳳為維摩講師

慶雲三年十月僕射不比等修維摩會一七日。始初十至十六。蓋十六者大織冠諱。故充散日

十年春。夏五月沙門義法。義基。聰集。慈定。淨達。至自新羅。六月辛巳天皇崩謚文武。秋。冬

慶雲四年五月五師之歸從國使也。六月之崩十五也。

元明皇帝

元年春正月乙巳改元和銅。夏四月。秋七月。冬十月定轉大般若經

和銅元年戊申 正月。不書即位去歲七月十七也。帝天智第四女。武州秩父郡始貢銅。因茲十一改元。十月詔曰。自今年每歲延沙門轉大般若經。其齋嘨左右藏給之。定何。式也。是歲當中宗景龍二年也

二年春二月詔大宰府撿搆觀世音寺。夏。秋。冬十月右僕射藤公修維摩會
　和銅二年二月詔曰。築紫觀世音寺者。淡海大津宮天皇薦後崗本宮天皇所創也。
　累世不竟。朕痛恥焉。大宰府加檢校速修營。十月藤公不比等屈淨達法師。於植槻淨場修維摩會。禮也。此會中微。藤公更修。貴之而書
三年春三月辛酉遷都于和州平城。右僕射藤公建興福寺。夏。秋。冬移大官大寺于平城。
　和銅三年三月從難波遷都奈良。藤公不比等營興福寺大殿。禮也。其像者大織冠誅蘇入鹿時所誓刻之丈六釋迦及二菩薩像也
四年
　和銅四年
五年春。夏。秋。冬十月修維摩會于興福寺。
　和銅五年十月於興福寺修維摩會。先或陶原殖槻數所。及興福之建移焉
六年春。夏四月作諸寺田記。秋。冬
　和銅六年四月勅作諸寺田記二通。一藏有司一頒諸寺
七年春二月冠義法。夏。秋。冬
　和銅七年二月勅沙門義法反俗授朝散大夫。用占術也
八年春。夏。秋九月庚辰天皇禪位于皇太子。後諡元明。冬
　和銅八年九月之禪位初三也。
元亨釋書卷第二十一　終
(大日本國延文庚于六月有旨入毘盧大藏平安城南禪禪寺寓居比丘單況謹募眾緣恭為今上皇帝祝延　聖壽文武官僚資崇　祿位國泰民安命工鏤梓與大藏經印板共行一部計三十卷旹永和二年丙辰八月　　日謹題)

元亨釋書卷第二十二

濟北沙門　師錬撰

資治表三(起元正至廢帝合四君)

元正皇帝

元年春正月改元靈龜。夏五月復知事管寺產。移元興寺于左京。秋八有沙門玄昉赴唐。冬十月

靈龜元年丙辰正月。不書即位去歲九月初三于平城也。帝草壁太子女。母元明帝。即位日左京兆獻白龜因茲改元。舊史系乙卯。今立丙辰者孝德之例也。五月初近州刺史藤武智適遊一寺。殿宇荒頹不見比丘。顧問村人。對曰。檀家管統寺產主事無分故有此廢。不獨此剎餘處多爾。刺史嘖嘖曰。如來設教其旨深妙。天竺支那延及此方。且夫創寺檀信元志植福。何其孫子不思先業。侵三寶物致是朽荒。不啻滯累其身。於曠劫所以虧耗至治於清朝也。乃表奏曰。臣幸浴大化得守上邦。適問民事至一精舍。院宇頓毀緇伍不在。問之知依檀家管寺供也。若不下明詔起此廢。恐滅正法且缺清化。不獨當州餘方或聞。乞下嚴勑復此敗亡。臣不敢專仰待明制。詔曰。傳聞浮屠之法清淨無為。纔有檀興辟功不處。是以射空之矢從空而落。投海之滴與海不竭。今民間謾收冥海之波却受墜空之矢。是不啻貪墨之甚又弗耳真乘之過也。自今以往天下寺院田業資產悉隨僧管。不許檀家係掠。若其資寡廢久之院宇合數寺成一區。眾僧諸檀共振頹綱。若有乖誑刺史檢校以聞。是歲當元宗開元四年也

二年春。夏。秋。冬十有一月癸丑改元養老。沙門道慈至自唐

養老元年十一月美州醴泉出。因此十一改元。慈公是歲自唐歸

三年春。夏。秋。冬十月舉高德精學業。沙門行善至自高麗。三藏善無畏來遊

養老二年十月尚書省箚曰。告諸僧綱。智鑑冠時眾所推讓宜舉其人者。又諸僧徒各有所業。或誦習或禪修。皆守本業慎加勵勤。莫事浮遊倦墮矣。行善之歸事在本傳。無畏不聞所止故書遊。

四年春。夏。秋。冬十有一月沙門神睿道慈賜封戶。

養老三年十一月睿慈二師之封各五十戶

五年春正月與公驗于僧尼夏。秋八月轉經于四十八寺。九月置放生會。冬十有二月正經師。

養老四年正月僧尼公驗始焉。八月勅都下四十八寺一日夜讀藥師經。祈右僕射藤公病也。九月日隅二州亂。朝廷祈宇佐神宮平寇。大神託曰。交鋒之間死傷多矣。我甚憐之。願寇平之後置放生於諸州。八幡放生會自此始焉。十二月詔曰。真詮佛乘化在音聞。唱禮轉經元有規矩。比來僧尼或出私曲妄作別調。後生之輩慣習成俗。若不變正恐壞聲教。自今當式唐沙門道榮及沙門勝曉轉唱。餘皆停之

六年春。夏五月詔天下合修廢寺。度一百人。尚書右丞笠公薙髮。六月優沙門行善。錫道藏。秋冬

養老五年五月詔七道按察使。巡州郡修廢寺。其不堪者合數寺。太上皇病。度淨信男女一百人。祈病也。笠公出家。書官者貴之也。六月詔曰。沙門行善負笈萬里普事遊學。既經七代博積修練天下所過之寺院皆迎待供養。又曰。百濟沙門道藏釋家棟梁法門領袖。年逾八十氣力羸衰。若無束帛之施何寄恤老之志。有司四時頒供綿帛。優錫何。優遇稱譽也。錫賜也。錫賜孰異。賜常也。錫非常也。十二月太上皇崩。

七年春。夏。秋。冬十有一月寫諸經製幡蓋。十有二月設齋于京畿諸寺。安彌勒像于藤原宮。

養老六年十一月勅寫華嚴。大集。涅槃。大菩薩藏經。及觀世音經二百卷。造幡蓋諸法器。薦大行太上皇也。十二月於京畿諸寺齋僧尼二千六百三十八人。及藤原宮安彌勒像者薦天武天皇也

八年春二月遣沙門滿誓撿構觀世音寺。夏。秋。冬建施藥。悲田二院于興福寺

養老七年二月詔滿誓法師造觀世音寺。觀世音寺和銅二年詔大宰府官造。已歷十數年。恐修也。何書構。未竟也。未竟書構無咎。又警有司怠慢也。若曰修未由見怠。滿誓誰。笠右丞也。是歲於興福寺建二院。納封戶五十。及豫州田一千畝。越州稻一十三萬束

九年春二月甲午天皇禪位于皇太子。後諡元正。夏。秋。冬

養老八年二月初四太子受禪。

聖武皇帝

元年春正月改元神龜。轉大般若經于宮中。夏四月諸州放生。秋七月營殿于山階寺。九月度人轉經。冬十月

神龜元年乙丑正月。不書即位去歲二月于平城也。帝文武長子。

養老七年和州貢白龜。因此即位改元。舊史系甲子。今立乙丑者孝德之例也。延沙門六百人于宮中轉大般若。攘災也。夏天下放

生。及七月山階寺營殿安藥師像者祈太上皇病也。九月壬寅詔曰。朕聞。古先哲王君臨寰宇。順兩儀以亭毒。叶四序而齊成。陰陽和而風雨節。災害除而休祥臻。故能騰茂飛英。鬱為稱首。朕以寡薄嗣膺景圖。戰戰兢兢夕惕若厲。懼一物之失所。睠懷生之便安。教命不明誠信無感。天示象變地顯震搖。熟惟災眚責在予躬。昔殷宗修德消雊雉之災。宋景善言弭熒惑之異。遙瞻前軌寧忘後懲。宜令有司擇三十人出家并左右京及和州管內諸寺始今月二十三一七日之間轉經修勵憑茲勝利冀攘災異。此歲當開元十三年也

二年

神龜二年

三年春二月僧尼轉金剛般若經于宮中。夏。秋。冬

神龜三年二月延比丘六百人。比丘尼三百人讀金剛般若。攘災也。元年大般若不書人。今何書。元年比丘而已。言轉般若知有比丘故不書。今二眾并屈故書人。三月和州長谷寺成。行基法師為導師。義暹呪願而慶之。不書私也

四年春。夏。秋。冬十月賻僧正義淵。十有二月頒金光明經于天下

神龜四年十月義淵法師卒。賜布帛。勑禮部監護喪事。褒淵之德望酬皇眷。故書以官。十二月以金光明經六十四部頒下諸州。令比丘諷讀。祝聖也

五年春二月設齋會于元興寺。夏六月置修仁王會于宮中。止合廢寺。秋八月癸亥改元天平。冬新大安大寺

天平元年二月於元興寺設大齋會。左僕射長室皇子為監護。時一沙彌連比丘座捧鉢受飯。僕射以牙笏擊沙彌頭。血流下面。沙彌拭血而哭。忽然不見。經二日或奏此事。帝怒賜僕射死。六月仁王會者一代之會也。立為式。止合廢寺者辟濫并也。左京兆獻靈龜。背有文曰。天王貴平智百年。因茲八月改元。是歲侈新大官寺。禮也。初有司不委寺規。沙門道慈進西明寺圖。帝大悅

六年春三月起東塔于藥師寺。夏四月藤皇后起塔于興福寺。秋。冬十月沙門辨正為僧正。

天平二年四月創興福寺塔。藤皇后及僕射房前率文武官僚曳材夷基

七年春。夏。秋八月度釋行基散徒。冬

天平三年初行基法師善諭導。所至之處耕夫舍鋤織婦投杼隨之而聽。以故隨侍之者多。無賴惰庸輩相慣持鉢寄活於我。八月詔曰。行基法師從侍之士其中優婆塞優婆夷如法精修者男年六十一女年五十五以下咸許出家。余持鉢行路之人有司加撿捕。

八年

天平四年
九年春。夏四月沙門榮睿普照赴唐。秋七月置盂蘭盆供于宮中冬
天平五年七月詔司膳寺備盂蘭盆供。立為式
十年春正月藤皇后構西殿于興福寺。夏。秋。冬十有一月以妙法華。最勝王經為度科
天平六年正月皇后光明子營西金堂于興福寺。安丈六釋迦佛及菩薩。羅漢。神王等像。施衲伽梨沙門四百人。薦先妣橘氏也。十一月尚書省奏。比來度者不考學修。只資官舉。是乖法意又亂聖政。自今不許舉度。只取才器。以妙法華。最勝王二經為科。先背誦屢問數義。中者得第。不中下第。制可
十有一年春。夏四月沙門玄昉至自唐。秋。冬十月定皇子薨薦。唐沙門道璿來
天平七年四月昉師以傳來佛像及經論獻于尚書省。帝悅。九月新田皇子薨。十月詔曰。凡皇子之薨七七之忌供百比丘以薦冥福立為式。是歲唐道璿來。勅舘大安寺西唐院
十有二年春二月沙門玄昉賜封戶及田畝。扶翼童道慈扶翼童。夏秋七月度一百人。冬十月賜沙門道璿。菩提。時服
天平八年二月昉師賜封一百戶。田一百畝。翼侍童八人。慈師童六人也。七月度一百人。都下四大寺行道一七日祈太上皇病也。十月璿提二師賜溫服
十有三年春三月營釋迦像。大般若經。于諸州。夏四月置轉經于大安寺。五月轉大般若經于宮中。秋八月轉大般若最勝王經于宮中。度京師及諸州人。沙門玄昉為僧正。九月施綿帛于京畿僧尼。冬十月講最勝王經于大極殿。十有二月與玄昉綿帛
天平九年三月詔每州造丈六釋迦及菩薩像。并寫大般若經一部六百卷。是國分寺之權輿也。四月沙門道慈奏。大安寺修造以來每歲命百五十比丘轉大般若。以故荐年災害消沮。自今乞轉此經鎮國家。立為永式。以官租為達嚫。制可。五月朔日有食之。延沙門六百人宮中讀大般若經。攘災也。八月於宮中一十五處轉大般若最勝王二經。京師度四百人。諸州一百七十八人。祝聖攘災也。九月兩京五畿比丘比丘尼及沙彌二千三百七十六人賜綿帛各有差。十月於大極殿講最勝王經。百僚皆集。其儀同元日。沙門道慈為講師。堅藏讀師。皇太后藤宮子染沈痾。自誕帝未曾相見。十二月皇后光明子延玄昉法事。帝預聽。此日藤宮子在焉。見昉師洗然病愈。遂與帝晤。母子相喜。百僚皆賀。帝賜綿帛絲布各一千純。書曰與淫朋也。昉師何不書官氏。蠱也
十有四年春三月納封戶于山階寺于法隆寺。夏四月轉最勝王經于天下。秋七月納官租于國分寺。冬月六齋日停漁獵

天平十年三月朔日有食之。納山階寺于封一千戶。法隆寺二百戶。攘災也。四月天下之轉經祝聖也。七月國分之租官稻各二萬束也。是歲詔曰。去年天下諸州營寺宇置像經。今茲風雨順序五穀豐稔。靈貺如響佛事可崇。自今天下諸州每月六齋日不得漁獵殺生。刺史加檢察

十有五年天平十一年十有六年春。夏。秋九月造觀世音像于諸州。冬十有二月丁卯遷都于山州恭仁鄉。

天平十二年九月勑曰。築紫有不軌之臣命軍討伐。願依聖祐欲安百姓。故今州別造大悲像高七尺。不軌臣藤廣嗣也。十二月十五都山州山階恭仁宮

十有七年春正月頒封戶于國分寺三月舉國分寺安四王像。起塔寫頒經納戶田。夏。秋。冬十月橋役賜度

天平十三年正月藤太師遺命返封五千戶。帝割二千戶賜其家。三千戶分納國分寺。充丈六像費也。三月詔曰。朕以薄德忝膺大寶。政化未洽寤寐省慙。頃者年穀不登慚懼交集。是以博求景福覆燾兆庶。去歲令天下造釋迦佛像高一丈六尺。及大般若經數六百卷。爾來風雨順序五穀豐穰。靈貺如響一懼一喜。經云。若有國土講讀此經恭敬供養。我等四王常來擁護。故今令天下諸州安四天王像。及寫金光明最勝王。妙法蓮華二經各一部。朕又寫金字金光明最勝王經一部。每州構七級塔。安之。所冀聖法之感與天地而永流。擁護之恩被幽明而恒滿。其造塔之所又國之華。必擇好處兼期久遠。自今僧寺號金光明四天王護國之寺。擇明德二十人為居者封五十戶。田一百畝。尼寺名法華滅罪之寺。擇淨尼一十人為居者。田一百畝。二寺有缺量才補滿。二寺各月八轉最勝王經。望誦戒羯磨。又六齋日諸州不得漁獵。刺史加撿挍。駕世山東河架橋。始自七月至十月。募畿甸淨信民役之。役竟。得度凡七百五人

十有八年

天平十四年

十有九年春正月轉最勝王經于四十九寺。夏。秋。冬十月創大銅像于紫香樂

天平十五年正月帝作疏曰。天皇敬諮四十九座諸大德。弟子階緣宿殖嗣膺寶命。思欲宣揚正法導御蒸民。故以今年正月十四日勸請出家之眾。於所住四十九寺限七七日轉大乘金光明最勝王經。仍令天下七七日禁殺。又於大養德國金光明寺。設殊勝之會為天下之模。諸德等或一時名輩或萬里嘉賓。屈彼高明隨茲延請。諧慈悲之音暢微妙之旨。仰願梵宇增威。皇家累慶。國土安泰人民康樂。同駕菩薩之乘。共登般若之岸三月遣右僕射橘諸兄。如諸

寺慰眾僧。十月於紫香樂京創毗盧遮那佛銅像。帝製幹疏降尚書省。宣示天下曰。有天下之富者朕也。持天下之勢者又朕也。以此富勢成彼像設不為難矣而已。然亦少有思焉。夫像者金銅一十六丈之毗盧遮那佛也。庇廕是像殿宇又宏。竭國銅而鑄。傾國材而構。度斯巨役也雖寬租賦恐傷氓黎。是以四海為費資。萬姓為助友。一針一草各人各佛。像成之日不獨朕有。以此勝利天下共之。宜以朕意普告天下。帝闢寺基。於是行基法師率徒并勸士庶助役。帝之大構元是良辯法師之所勸也

二十年春二月庚申 遷都于攝州難波。三月轉大般若經于新宮。夏。秋七月殖稻于國分寺。八月度三千八百人。冬十有一月造大像模

天平十六年二月宣左僕射定難波都。三月於難波宮東西樓殿延沙門三百人轉大般若經。七月以稻二萬束賜國分寺。子母計畫收其贏充修造。僧尼兩寺皆遍。殖何。貨殖之謂也。八月帝不豫。自難波歸平城。度三千八百人。病愈。十一月於甲賀寺創大像模。帝親引繩。太常奏樂。勑會四大寺沙門。達嘳有差焉

二十有一年春正月釋行基為大僧正。夏五月問京便于四大寺沙門。戊辰車駕復平城。秋八月移大像于平城。九月度三千八百人。冬十有一月遣玄昉檢構觀世音寺

天平十七年正月行基加大僧正。及賜度者四百人。大僧正自基始。五月遣膳部郎粟栖王於平城藥師寺會四大寺眾宣問。三都何佳。僉曰。平城佳。由是十一還奈良都。八月於和州平城移營大像。帝以衰袖裹土築壇。九月之度祈上疾也。昉師在西府。有惡稱故書不氏官

二十有二年春。夏六月玄昉夭。秋。冬。十月天皇幸金鐘寺然燈

天平十八年六月觀世音寺成。昉師慶之。忽空中捉昉不見其形。後昉頭落興福寺唐院。初大宰府都督司馬藤廣繼妻美。昉通花鳥使。司馬[口*恚]。自此與昉有郤十二年司馬反。大將軍野東人討之。司馬亡而數年矣。其靈及於此也。十月幸金鐘寺。供盧舍那佛。然一萬五千七百燈。沙門數千歌唄讚頌。繞佛三匝。三更還宮

二十有三年春。夏五月講仁王經于南苑。及天下。秋。冬十有一月納田于國分寺。

天平十九年十一月勑國分寺塔婆僧坊皆令修備。因而納田僧寺九百畝尼寺四百畝

二十有四年春。夏。秋七月寫法華一千部。冬十有二月度僧尼各一千

天平二十年七月千部法華薦大行元正上皇也。十二月一千之度薦山陵也

二十有五年春正月天皇受菩薩戒及皇太后皇后。大僧正行基錫號大菩薩。二月丁酉釋行基寂。奧州貢黃金。夏五月納田戶財帛于一十二寺。秋七月甲午天皇禪位于皇太子。後謚聖武。定諸寺莊田。冬十月天子幸智識寺。十有二月天子及太上皇幸于東大寺。八幡大神入寺

天平二十一年正月帝於平城中島宮屈行基受菩薩戒。法諱勝滿。皇后德滿。皇太后萬福。即日賜號大菩薩。書錫褒也。二月初帝鑄大像。欲買黃金于唐國。依宇佐大神託罷唐使。至此奧州刺史百濟王敬福獻小田郡所出黃金九百兩。敬福階銀青光祿大夫。閏五月納五千戶十萬畝于東大寺。又納稻帛于大安。藥師。元興。興福。東大之寺。墾田各一千畝。及法隆。四天王。弘福。崇福。香山。建興。法華之寺。各若干畝。帝著發願文曰。敬憑諸寺眾沙門大藏大小經律論等轉讀講誦。盡未來際永無退轉。故今以茲資產敬納諸寺。所希諸佛菩薩諸天善神隨喜擁護。寶祚延長萬民樂業。法界有情成無上道。七月初二太子即位。勅定諸寺莊田。大安。興福。藥師。法華。諸國分寺各一萬畝。和州國分寺四萬畝。元興寺二萬畝。弘福。法隆。四天王。崇福。新藥師。建興。下野藥師。築紫觀世音寺。各五千畝。諸州法華寺各四千畝。餘定額寺各一千畝。十月八幡大神託向京。甲寅勅諫議大夫石川年足等迎神赴路。衛士百人。所經之州放生。官使等不食酒肉。道路除汙穢。十二月戊寅大神入都。遣官使迎之於宮南梨原宮。造新殿棲神。詔沙門四十輩慶讚。丁亥帝及上皇幸寺。百僚皆從。作種種伎樂拜大像。會五千沙門。又納封四千戶奴婢各一百人于寺。此日八幡大神託社女入寺拜像。王臣大奇之。尋常書天皇。曷為言天子。受禪之歲猶屬舊主。天子之稱理之順矣。

孝謙皇帝

元年春正月改元天平勝寶。二月納封戶于金光明寺。夏四月。秋七月。冬十月

天平勝寶元年庚寅正月。不書即位去歲七月初二也。帝聖武之女。母光明后。去歲奧州貢金。四月丁未改元天平感寶。迄帝即位換勝寶。舊史系己丑。今立庚寅孝德之例也。二月和之金光明寺封三千戶。通前成五千。是歲當天寶九年也

二年春。夏四月沙門菩提為僧正。秋。冬十月修續命法于藥師寺。

勝寶二年四月菩提法師為僧正。世曰婆羅門僧正。十月勅沙門四十九人於新藥師寺行續命法。祈上皇疾也

三年春正月放生天下度一千人。夏四月慶東大寺。天皇太上皇幸之。秋。冬

勝寶三年正月詔曰。今年自孟春至窮臘天下停殺生。沿海之民以漁為活者數戶給米。己丑之度男九百五十人。女五十人。祈上皇疾也。四月初九慶東大寺。上上皇幸寺。百僚皆從儀服甚盛。講師隆尊。讀師延福。延一萬沙門奏一萬伎樂。東西分列歌舞交發。佛法西來齋會之盛未嘗有也

四年春正月點燈于東大寺。夏。秋。冬

勝寶四年正月帝幸東大寺點二萬燈

五年春正月唐沙門鑑真來。夏四月築戒壇于東大寺。傳林邑舞。秋。冬

勝寶五年正月鑑真法師從遣唐使伴胡來。真善律學。四月勅於東大寺建戒壇。上皇登壇受菩薩戒。靈福等舊僧八十人重受。沙門佛哲解音。今茲詔樂部學林邑舞。所謂菩薩舞。拔頭舞也

六年

勝寶六年

七年春二月天皇幸智識寺南宮。兵部尚書橘建世設傳法會于志賀寺。夏五月乙卯聖武太上皇崩。六月賜米鹽于沙門鑑真。法榮。放生天下。設僧齋于大安寺于興福寺。促營東大寺步廊。秋。冬十有二月六十沙門講梵網經

勝寶七年二月上幸智識宮。翌日禮隣寺七佛。五月初二聖武上皇崩。沙門法榮誓侍山陵轉經修薦。勅蠲榮本貫一郡租。六月以上皇御膳米鹽等賜真榮二師。庚寅詔曰。居喪之禮臣子惟同。天下之民誰不預者。天下諸州自今以去放生一朞薦上皇也。丙戌設一千僧齋于大安寺。薦上皇五七忌也。興福寺齋者七七忌也。凡講供有儀曰齋會。諷供不儀曰僧齋。甲辰詔曰。明年國忌當設東大寺步廊。未竟速促營備。課六路諸州督租庸。十二月遣名臣六員于六大寺。屈六十二沙門講梵網經。薦太上皇也

八年春正月度八百人夏五月設僧齋于東大寺。結安居。秋八月丙寅行布薩于諸寺。冬十有一月納田于東大寺。十有二月納田于山階寺。納封戶于法華寺。

勝寶八年五月東大寺一千五百僧齋薦國忌也。今茲國忌。預始四月十五至五月二天下寺院講梵網經。故安居在望。八月詔曰。軌持佛法。無尚木叉。尸羅之制協我禮經自今諸寺勤行布薩。因而每寺納田一百畝。十一月納備州田一千畝于東大寺唐禪院。薦上皇也。十二月山階寺田一千畝給施藥院也。

廢帝

元年春正月改元天平寶字。夏四月。秋八月庚子天皇即位。僧綱菩提上尊號於太上皇。釋鑑真賜號大和尚。沙門延慶授朝散大夫。辭。許之。新羅沙門來。冬十月

天平寶字元年戊戌。去歲八月駿州獻蠶。自成字曰。皇帝命百年。先三月宮中承塵上有天下太平四字。因茲十八改元。今以史法系元正。八月初一帝受禪即位。帝天武之孫舍人親王第七子也。即日菩提僧正率僧綱上表於太上皇。號曰寶字孝謙稱德皇帝。此日授號于鑑真。初為大僧正。真患綱務煩雜。故有此授。延慶法師有時望。授朝散大夫而賜封田。慶辭爵封。帝許爵不許封。君子曰。君臣有禮乎。癸卯新羅沙門三十二人尼二人男十九人女二十一人歸化。勅居武州閑地。於是始置新羅郡。尋常受位年不元。曷為元。折衷也。曷為折衷。丁酉改元戊戌即位。己亥立元恐緩也。戊戌之元者折衷也。是歲當肅宗乾元元年也

二年春。夏六月城外路傍栽果樹。修諸州廢寺。括私度。秋八月大和尚鑑真建招提寺。冬

寶字二年六月東大寺普照法師奏。路傍果樹可輔聖化。行路之人多寓其下。熱則就蔭。飢則啖實。乞城外道兩邊栽果樹。制可。山階寺玄基法師奏。嚴淨國家無過伽藍。攘炎拯難佛力賴之。見今諸州練若廢頹相仍。不加修治恐失基趾。乞降宣刺史諸檀。年加興復。制可。八月鑑真創招提寺。薦聖武帝也。書號尊之也。沙門賢璟寫大藏五千四十八卷而納寺。又薦帝也。君子曰。見義勇為璟之謂乎

三年春二月僧正菩提寂。夏。秋七月置四位十三階。賦東大寺產。冬沙門良辨為僧正

寶字三年七月四位十三階依良辨奏也。詔曰。東大寺封五千戶。其一千戶充修造。二千戶僧供。二千戶官家法事。非禮也

四年春二月大師藤仲移觀音殿于興福寺。夏六月造彌陀像于天下。法華寺納田于山階寺于法華寺。秋。冬十月遷都近州保良。道鏡侍上皇疾

寶字四年二月藤惠美押勝修一宇興福寺。安觀音像。西壁繡補陀落山。東壁極樂界相。精致妙麗。此宇元山階寺東院也。大師叛臣。曷為書官。褒修營也。然則何名。功不全也。六月庚辛皇太后莽忌預構淨土院于法華寺西南隅。安丈六彌陀像。至此日設齋供。天下國分尼寺皆洽。又納田四百畝于山階寺。每國忌講梵網戒經。法華寺田給淨土院。薦太后藤氏也。十月之遷都十三也。沙門道鏡姓弓削氏。義淵之徒也。有梵學。召入內道場修如意輪觀自在供。上皇疾保良。詔鏡看侍。鏡曷為不族。譏也。曷為譏。侍女主也

五年春正月築戒壇于藥師寺于觀世音寺。夏五月辛丑復都平城。六月太上皇祝[髟/米]。秋。冬

寶字五年正月二十一勅曰。東山道下野藥師寺。西海道築紫觀世音寺各立戒壇。充東西戒業也。上皇與帝有隙。因茲五月帝歸平城在中宮院。上皇于法華寺。六月上皇為尼。法諱法基

六年春。夏五月戊申 大和尚鑑真寂。秋。冬納封戶于葛木寺

寶字六年

七年春。夏。秋九月道鏡號大臣禪師。停畋獵

冬十月壬申 天皇狩淡州。十有一月檢保國分寺

寶字七年九月道鏡賜號大臣禪師。鏡媚上皇。故書不族。號名非法不書賜。寶字之政權在上皇。帝只當宁而已。藤太師患鏡之寵。及反以誅鏡為名。壬子仲亡。上皇聞帝知仲事。遣兵圍中宮院。帝懼退位。降為淡路公配淡州。婉文書狩也。十一月詔曰。比聞。諸國分寺郡吏侵掠多致朽荒。僧尼逃散大壞風化。諸州刺史宜加檢察。

元亨釋書卷第二十二　終

元亨釋書卷第二十三

濟北沙門　師錬撰

資治表四(起高野至承和合七君)

高野皇帝

元年春正月癸巳天皇復位。己亥改元天平神護。夏四月。秋七月。冬十月納封戶于弓削寺。道鏡為太師。建西大寺。鑄四天王像

天平神護元年乙巳正月初一孝謙帝復位。去歲九月太師藤仲拒官師于近州高嶋郡。太師敗走。乘扁舟浮湖而逃。大將軍涼大向竹生島誓曰。普天之下莫非王土。率土之濱莫非王民。今名山大川皆各有神鎮護王國。彼竹生島神若有靈乞發神力加助皇威。于時東風俄起吹惠美舟著高嶋濱。遂誅惠美。涼大廻闕奏事。勅授神朝請大夫。正月初七因茲改元。帝建西大寺鑄四天王銅像。一像不成。改鑄六度未成。帝幸治所。誓以玉手攪洋銅像乃成。是歲當代宗永泰元年也

二年春。夏。秋七月造丈六佛像于伊勢大神寺。九月大直足山授朝散大夫。冬十月移隅寺舍利于法華寺。道鏡轉法皇位。天皇感舍利

神護二年九月豫州人足山以私稻七萬七千八百束田百畝納國分寺。帝擢大夫。十月隅寺毗沙門像所現舍利移法華寺供養。幡蓋導從儀服甚麗。此日道鏡受法皇位。曷為書轉。譏。曷為譏。不定也。曷為不定。鏡之位不定也。癸卯詔曰。朕發菩提心感舍利三粒。此歲加律師。不書微也

三年春正月修吉祥懺于天下國分寺。二月天皇答書于泰澄和尚。夏六月凡直伊賀授朝請大夫。秋八月癸巳改元神護景雲。設僧齋于西宮。冬十有二月置法皇宮司

神護景雲元年正月國分寺吉祥懺各一七日祈豐稔也。二月皇書見泰澄事中。六月藝州人伊賀私稻二萬束牛六十頭納西大寺為朝請大夫。八月參州奏慶雲見。齋沙門六百人于西宮而改元。十一月詔曰。傳聞僧尼齋供粗淡。自今宜加鹽梅濃厚。十二月圓興為法臣。基真法諫議

四年春正月修御齋會于大極殿。夏六月造彌勒淨土于西大寺。秋冬十月幸長谷寺。納封戶于西大寺。比丘尼法戒法均賜官。十有二月竄基真于飛州

景雲二年十月幸長谷寺而納田。西大之封二百戶也。戒尼銀青光祿大夫。均尼大中大夫。十二月基真作毗沙門像。密置舍利詐為

像所現。道鏡又偽為己瑞。眩惑眾庶。詐偽已露故有此貶
五年春正月道鏡受朝。夏秋七月戶部尚書和清奉使宇佐神祠。納封戶于土師寺。冬

景雲三年正月初三道鏡居。西宮前殿受百僚朝賀。七月初大宰主神阿曾 矯八幡大神託曰。道鏡登極天下太平。蓋阿曾 諂媚於鏡也。鏡聞之偽喜。於是帝夢八幡大神告曰。我國家開闢以來天日皇緒無移繼統。比來孽臣邪神淫祀妖言。帝其無撼早掃除之。因茲帝勑和清詣宇佐宮祠親聽神令。神託如夢。清重白言。是國家大事也。託夢相合雖無可疑。願見神靈以決餘惑。大神乃現形長可三尺。色若滿月。清心身感動不敢正見。大神曰。神有大小善惡不必一也。善神惡淫祀。惡神受邪幣。道鏡貶邪幣於群邪。行權譎於佞黨。百計千祭貪求天位。於此乎。善惡二神率師交戰。邪強正弱。惡多善少。我已困羸。殆乎難當。仰憑佛力扶護皇運。汝其廻闕須奏造佛像寫大藏。又轉最勝王經一萬部。建一伽藍。邪神銷沮社禝鞏固。汝承我言莫有遺失。清還都具奏之。鏡大怒解清官爵竄隅州。清路宇佐告訴。神曰。勿怖也。託賜綿帛
六年春二月壞西大寺塔礎。夏四月造小塔百萬。秋七月轉大般若經于京寺。停酒肉于天下。八月癸巳天皇崩。竄道鏡。冬

景雲四年西大寺塔礎徑丈餘厚九尺。飯盛山石也。初役夫數千日行數步時時鳴聲。已而加鑿削築基趾。于時巫屬曰。此石靈恐有禍。勑積薪其上焚之。灌以酒三十斛。石碎片片散道傍。不幾帝不豫。卜石為祟。勑拾片石積淨地。今寺之東南隅片塊石是也。四月造三級小塔。高四寸五分。闊三寸五分。凡一百萬。往惠美之逆所誓也。七月轉般若。停肉酒者攘災變也。八月初四帝崩。太子攝政令曰。道鏡師隱慝已形。罪當大辟。然而先皇所厚且從輕恕。任造下野州藥師寺使。

光仁皇帝

元年春正月改元寶龜。公驗復禮部。三月置威儀法師。夏四月。秋八月鑄僧綱及十二大寺印。冬十月

寶龜元年辛亥正月。不書即位去歲十月初一也。帝天智之孫志貴王子第六子也。景雲四年八月肥後州獻靈龜。因茲即位日改元。今之元正者孝德之例也。初天平神護元年以來僧尼度緣用道鏡印。今茲正月復禮部省。三月威儀師依僧綱請也。八月鑄印。其十二寺者。大安。藥師。東大。興福。新藥師。元興。法隆。弘福。四天王。崇福。法華。西隆等寺。各置印於本所。是歲當大曆六年

二年春三月置十禪師。夏。秋。冬

寶龜二年三月詔曰。禪師秀南。廣達。延秀。延慧。首勇。法淨。法義。尊教。承興。光信。或智定可貴。或慈行有名。官賜供給永終其身。時稱為十禪師。其後有闕撰名德補之

三年春正月戊寅立皇太子。三月置內供奉。夏。秋。冬十有一月納田于行基菩薩故院。僧正良辨寂。僧階配官位

寶龜三年正月山部皇子為太子。初金吾將軍百川私語等定法師曰。安得法力加山部親王登帝位。定諾。乃取親王長作梵王帝釋二像供修之。至此擢上儲位。三月六日勅天下諸州擇智行精修比丘為內供奉。割官稅充資粮。十一月詔曰。故大菩薩行基戒行具足智德惟備。其營建之院四十餘處。先朝之日多賜莊田。但其六院未有恩給。和州菩提。登美。生馬。內州石凝。山埼。泉州高渚宜賜田畝。所希真詮祕典永洽東方。金輪寶位恒齊北極。風雨順時年穀豐稔。又勅曰。僧正准從四品。僧都正五品。律師從五品

四年春。夏四月念摩訶般若于天下。秋。冬

寶龜四年四月勅曰。傳聞諸州疫發。朕君臨宇內子育黎元。念此災厲寤寐為勞。夫摩訶般若波羅蜜者諸佛之母也。天子念之則兵戈灾害不入國中。庶人念之則疾疫厲鬼不入家內。憑茲善利救彼短折。宜告天下起坐行出念摩訶般若。

五年

寶龜五年

六年春。夏五月轉大般若經于宮中。納封戶于招提寺。秋。冬

寶龜六年五月召沙門六百人于宮中讀大般若經。攘災也。播州戶五十納招提寺

七年春三月轉大般若經于宮中。夏。秋。冬十有二月轉金剛般若經于國分寺。僧都慈訓寂

寶龜七年三月六百人大般若攘宮怪也。十二月國分寺金剛般若攘井上廢皇后及佗戶皇子母子靈崇也。此歲慈訓僧都卒

八年

寶龜八年

九年春。夏。秋七月納封戶于秋篠寺。冬

寶龜九年九月秋篠寺封百戶也

十年春正月京師數寺災。三月行道于東大寺。雲州獻異像。夏六月納封戶于西隆寺。秋。冬納封戶于妙見寺

寶龜十年三月東夷叛。勅東大寺行道三七日。壓夷也。不幾獻俘八十六人。雲州海濱銅像浮浪來。并香爐諸器。刺史取獻。書曰異像

十有一年春正月辛酉改元天應。夏四月辛卯天皇禪位于皇太子。後謚光仁。六月金紫光祿大夫石宅嗣卒。秋。冬

天應元年正月初一改元。四月初三太子受禪。六月石光祿薨。光祿篤歸佛乘。嘗捨舍為寺。名阿閦寺。因而安像奉焉。寶字中為遣唐大使。謁諸名德歸朝。於寺東南隅營一宇居焉。曰芸亭院。亭東北構方丈室。孤坐一床觀修終日。或有講席必預聞。置外書於芸亭作記。略曰。內外之門元是一道。道衰人下或釋或儒。僕捨家為寺歸心久矣。為助內典加置外書。庶同志者無滯空有。兼忘物我。開編解帙同出塵累不公不書。何書光祿。深我也。

桓武皇帝

元年春正月。夏四月修仁王會。秋八月己巳改元延曆。冬十月納封戶于妙見寺于西大寺。十有二月百僚入于大安寺

延曆元年壬戌正月。不書即位去歲四月初三也。帝光仁長子。諱山部。四月十四仁王會一代之會也。八月改元十九也。十二月百司赴大安寺營上皇周忌齋。是歲當德宗建中三年也

二年春三月右僕射藤田薨。夏五月宇佐大神託名。六月禁私建寺。秋七月藤魚名薨。冬十有一月正梵唄。十有二月禁質寺地。納封戶于璉城寺

延曆二年三月藤僕射薨。僕射歸鑑真久矣。嘗受菩薩戒。五月八幡大神託曰。我無量劫來化生於三有。修善巧方便。濟度諸眾生。我名曰大自在王菩薩。六月勑曰。京畿定額諸寺有定數。自今禁民間私營寺院。有司按察。七月左官右僕射藤魚名薨。嘗於平城建萬葉寺。又於額田寺每年安居行道。奉佛甚勤。以謫不官。以公書薨。又渥我也。十一月勑曰。梵唄讚頌雅音正韻。以則真乘以警俗耳。比來僧尼讚唱。動則哀蕩叫吟曲折万態。似衒伎藝頗近鄭衛。有司往諸寺告戒濫唱。十二月勑曰。比來禁貪民質家地園圃。今聞民間已止僧寺猶盛。乖法貪利蔑官慢令。既為出塵之形還作在纏之舉。有司嚴加撿挍

三年春。夏。秋。冬十有一月戊申 遷都山州長崗城

延曆三年十一月遷都十一也

四年

延曆四年

五年春正月建梵釋寺。夏。秋。冬

延曆五年正月創梵釋寺于近州。此歲律師為六員

六年

延曆六年

七年春。夏四月僧階配官位。五月納封戶于梵釋寺。秋。冬
延曆七年四月禮部牒曰。僧階有五位。入位。住位。滿位。法師位。大法師位。今配官位知階差。無位當八位入七。住六。滿五。法師四。大法師三。三綱其悉焉。五月梵釋之封總越二州各五十戶
八年
延曆八年
九年
延曆九年
十年
延曆十年
十有一年春正月給供于頭陀所。賜度于山背秦氏。夏。秋。冬納田于梵釋寺
延曆十一年正月沙門施曉奏曰。竊以真理無二帝道惟一。敷化之門雖異。覆載之功乃同。故衛護萬邦唯資於佛化。弘隆三寶靡非帝功。又夫沙門釋子三界旅人。離家離鄉無親無族。或坐山林而求道。或蔭松栢而思禪。雖有避世出塵之操。不忘護國利人之行。而粮粒罕得飢餓常切。伏望本州國分之供分給彼所。然則緇徒得不虞而修。聖恩有弗督而化。制可。又奏曰。山背之民秦氏及女某等三十一人。自去寶龜三年迄今。每歲春秋悔過修練其精誠寔可憐。伏願天慈賜度。又旌善之一化也。制可。是歲田一千畝納梵釋寺
十有二年春正月沙門賢璟及宮使相平安城都地。夏。秋。冬
延曆十二年正月詔御史大夫藤小黑。尚書左丞紀古佐美。及賢璟視新城之地。璟師此行我門不屑。曷為書。褒。曷為褒。褒璟師公才也。公才我門何有。公才我門一化也
十有三年春。夏。秋。冬十月辛酉遷都山州平安城
延曆十三年十月遷都二十一也
十有四年春。夏。秋九月置十禪師于梵釋寺而納田戶。冬
延曆十四年九月勅曰。真教有屬。隆其業者人王。法相無邊。闡其要者佛子。朕位膺四大情存億兆。導國齊禮。雖遵有國之規。妙果勝因思弘無上之道。是以披山水之名區草創禪地。盡土木之妙製莊嚴伽藍。名曰梵釋寺。今置禪師十員。三綱在其中。納近州田千畝。越州封五十戶。以充寺供修造之費。所冀運邁馳驟永流正化。時變陵谷恒崇仁祠。以茲良因普覃一切。上奉七廟臨法界而增尊。下及萬邦登壽域而洽慶
十有五年春。夏。秋。冬建東寺
延曆十五年創東寺。大中大夫藤伊勢人為造寺使

十有六年春正月釋善珠擢僧正。夏。秋。冬
延曆十六年初早良太子與黃門侍郎藤種繼有卻。四年八月帝如平城。發齋宮公主赴勢州。種繼為守宮。太子黨人射種繼于燭下斃。事覺。十月太子廢將受弒。太子使使諸寺預修白業。諸寺恐而拒之。獨善珠納焉。謂使者曰。太子夙殃不盡今受嚴譴。此度回債焉又幸也。乞勿結怨矣。委曲示諭。詞旨激切。使者復命。太子喜曰。我聞師言披忍辱衣。以故不怕逆鱗之怒耳。太子幽死。其靈惱逼皇太子。豎巫不効勅珠持念。珠語太子曰。昔聞貧道言曰已披忍辱衣。今何有之乎。乃廣說法要。言未畢太子病愈。正月十六為僧正
十有七年春。夏四月改度科。六月定十大寺。秋。冬
延曆十七年四月勅曰。雙林西縵三乘東流。明譬炬燈慈同舟楫。是以弘道持戒事資真僧。濟世化人貴在高德。而年度者例而勿取童。頗習二經之文未委三學之趣苟避課役纔忝緇徒。還棄戒法頓廢修業。形似入道行同在家。鄭璞成嫌齊竿相濫。言念迷途寔合改轍。自今以後度者宜擇年三十五以上操履已定智行可崇兼習正音堪為僧者充之。每歲十二月以前僧綱有司擇有業者。相對簡試所習經論。摠試太義十條。取通五已上者具狀申官。至期令度。其受戒之日更加審試。通八以上令得受戒。又沙門之行護持戒律。苟乖斯道豈曰佛子。而今不崇勝業。或事生產周旋閭里。無異編戶眾庶。以之輕慢聖教。由此陵替非只黷亂真諦。固亦違戾國典。自今以往如是之輩不得住寺。凡有齋會莫關法莚三綱知而不糺者罪竝按。若有改過修行者聽歸住使夫住法之侶彌篤精進之行。厭道之徒更起慚愧之意。六月定官寺十所。大安。元興。弘興。藥師。四天王。興福。法隆。崇福。東大。西大等也
十有八年
延曆十八年
十有九年
延曆十九年
二十年春。夏四月復度科。秋。冬十月復維摩會于興福寺
延曆二十年四月勅曰。去十七年度者去幼取壯者。然性有敏鈍。成有早晚。局以壯年恐失英彥。自今聽取年二十已上。三綱有司悉之。十月維摩會復興福寺。先或修長崗神足家或平城法華寺故有此勅
二十有一年春正月遣禮部侍郎和入鹿褒沙門最澄講。夏。秋九月詔跨海。冬
延曆二十一年正月國子祭主和弘世屈最澄法師於高尾寺講天台法門。又延十餘名德。帝使和禮部口宣曰。昔者給孤長者降能仁於

祇陀之苑。常啼菩薩聞般若於尋香之城。是以和信士延二六之龍象。設一會之法筵。所以慧日增光。禪河澄流。一乘之玄猷始開區域。三諦之微旨聿被人天。像季傳燈斯創軌躅。隨喜法筵稱嘆功德。九月詔曰。最澄闍梨久居東山。既探法華奧旨。早踰西海宜傳天台教文。唯其往還不得過碁。澄上表曰。晉季法顯度流沙而求法。唐初玄奘踰葱嶺以尋師。竝皆不限年數授受惟期。是以熟習方言博傳法藏。唯最澄此度求法往復有限。又所求法文卷邁數百。歷問諸州希遭其人。况最澄未學唐言。亦暗譯語。忽入異域恐煩述緒。竊見沙彌義真少壯聰悟。頗涉經論。早習漢音粗知唐語。天恩差義真為求法譯語。不啻是行賴之。兼令彼學加諸。制可

二十有二年

延暦二十二年

二十有三年春正月開律講于招提寺。夏五月嚴齋會度。沙門空海赴唐。秋七月沙門最澄赴唐。冬

延暦二十三年正月招提寺沙門如寶奏曰。當寺者天平寶字三年大唐鑑真和尚為聖武皇帝所建也。爾來五十年雖厝律藏未有披講。伏望賜省牒於寺。傳講學于後。制可。五月庚寅詔曰。正月齋會得度之輩。理須舊年試才新歲得度。而有司常致慢闕。迄于會畢其名未定。自今舊年十二月中旬以前試定申 送其狀。簡定之後不聽改替

二十有四年春正月禁貿賣寺。夏五月沙門最澄至自唐。秋八月表進顯密經書。詔石川槻生學于澄師。冬十月度寫經生置諸州講師。賜清水寺于諫議坂田村

延暦二十四年正月詔曰。定額諸寺各書檀越姓名于寺記。近聞檀家貧孫賣寺。浮矯富民買為己寺。不貴佛法恣用田地。非唯蔑佛乘。又還違國憲或聞民間隨其要害。任情貿易寺宇。自今不許貿賣寺院。八月最澄法師表進天台密教經疏五百卷及道具器物等。帝大悅。向有石川槻生二禪師。帝之所崇信長於澄也。帝詔二人受澄學。故其詔詞謙遜。所謂內侍宣也。十月寫大藏經薦崇道天皇。其書生各有賞。慕道者得度。餘敘位。是歲撰諸宗英才補諸州講師。給官封也。坂諫議營清水寺。初二年禁私寺故勅賜之

二十有五年春正月定度科。三月辛巳天皇崩謚桓武。夏四月置安居講于天下寺剎。六月度二百人。秋八月禁官吏掠寺。禁檀家管掠。沙門空海至自唐。冬建八嶋寺而置度

延暦二十五年正月詔曰。年度者各依本業。經疏中問大義十條通五條以上聽度。下之者不得。若闕其數許來歲加員。省僚僧綱詳加嚴察。若恕于緩恐廢其業。是朕之所以深懼也。三月之崩十七

也。四月詔十五大寺及國分寺創安居。講仁王護國經立為式。六月度男一百五十人。女五十人。薦先帝也。八月詔曰。營寺構院大小雖殊種德植功尊卑不異故天下大小寺宇。其始檀越之者皆能納田畝充資產。累世崇敬傳至雲仍。近聞權豪官吏放逐檀胤改換僧職。寺田剎圃恣事侵掠。朕九重深密或缺聽外事。有司有知急奏不匿。聽而不言罪在不赦。又詔曰。近聞天下寺院。其檀越者管收寺產。拒置知事。寺之奴婢役過家僕。寺之樹木斫為薪柴。恣改三綱殆替一寺。自今有一於此。刺史三綱及大眾付有司奏達。知而容隱罪不赦。是歲山階地建八島寺。勅天下分州租入別倉運納八嶋寺。每歲置度者一人。薦崇道天皇也。

大同皇帝

元年春正月改元大同。夏四月。秋七月。冬十月

大同元年丁亥正月。不書即位去歲五月十八也。帝桓武長子。諱安殿。即位日改元。今立丁亥者孝德之例也。是歲當憲宗元和二年也

二年

大同二年

三年春。夏四月丙子天皇禪位于皇太弟。秋。冬

大同三年四月讓位初一也。

弘仁皇帝

元年春正月宮會賜度。夏四月。秋九月。甲子改元弘仁。冬十月

弘仁元年庚寅正月。不書即位去歲四月十三也。帝桓武第二子。諱賀美。宮中金光明會始啟天台年度。光定等八人預焉。九月改元二十七也。是歲當元和五年也

二年

弘仁二年

三年春。夏四月禁僧尼寺男女互入。秋。冬十月僧尼過條順本法

弘仁三年四月勅曰。比來俗輩男女入僧尼院。託于講聽屢有侵忤。外似勝因內汙淨業。自今禁男入尼寺女赴僧寺。十月勅曰。僧尼罪條隨律教不許有司勘掠。因沙門忠芬奏也

四年春正月御齋會置內論義。二月復度緣。夏。秋。冬

弘仁四年二月丙戌禮部省言。古例僧尼出家之日授之度緣。受戒之時給之公驗。勝寶以來受戒之日毀度緣停公驗。只授十師戒牒。今案於事有疑。若不復古制恐致姧偽。伏乞不毀度緣。只其

度緣自今以後僧用尚書省印。尼用有司印。至受戒時尚書省於度緣末注受戒年月。并官僚署名以省印印之。若有身亡或反俗者。其度緣戒牒早上尚書省。省年終申 官毀之。庶令姦人屏跡源流共澄。制可

五年

弘仁五年

六年春。夏四月天皇幸崇福寺于梵釋寺

弘仁六年

七年春。夏。秋冬十月殖稻于靈安寺。

弘仁七年十月勅曰。靈安寺徒有伽藍未修法事。蓋因寺寡產業也。以官稻四千束納寺。自今子母計利充春秋法事及修造

八年

弘仁八年

九年春。夏五月解僧尼寺禁。秋。冬排新羅沙門于諸寺

弘仁九年五月勅許男女入僧尼之院。初三年有禁俗間愁廢勝業。因茲解焉。而令僧網加嚴察。是歲新羅沙門二十六人來。排入諸寺

十年春三月定僧官員。釋最澄請築圓戒壇于睿山。夏。秋。冬

弘仁十年三月澄公上表乞於台山建菩薩戒壇。護命等七師捧表斥之

十有一年春正月釋最澄上顯戒論。夏。秋。冬

十月釋空海賜傳燈大法師位

弘仁十一年

十有二年

弘仁十二年

十有三年春二月釋最澄賜傳燈大法師位。

夏六月癸亥釋最澄寂。國忌置台度。秋冬

弘仁十三年六月尚書省箚曰。傳燈大法師位最澄奏狀言。夫如來制戒機宜不同眾生發心大小各別。所以文殊豆盧上座殊位一師十師羯磨各異。伏乞聖慈天台宗年分度者二人。每年春三月先帝國忌於比叡山依法華經得度受戒。自是一十二歲不聽下山。四種三昧專得修習。然則一乘戒定永傳寰區。山林精勤遠及塵劫。謹以上。奏者。被右僕射宣偁。奉勅宜依奏狀者。省宜承知。依宣行之。符到奉行

十有四年春正月賜東寺于沙門空海。三月尚書右中丞

伴國道登睿山。夏四月戊戌釋義真行大戒于睿山。辛丑天皇禪位于皇太弟。秋。冬十有一月置密眾于東寺

弘仁十四年去歲澄公乞國忌度于台山。故今茲令伴國道入延曆寺試度者。伴公善法事。書官貴也。四月十四沙門義真於中堂行圓戒羯磨。褒真之成先志。故書以姓氏。上之遜位者十七也。十一月初十以東寺為密場。置五十比丘習密三藏。三藏何。大毗盧遮那。金剛頂經等二百卷。密修多羅也。蘇婆呼經。根本部等一百七十卷密毗那耶也。菩提心。摩訶衍論等十一卷密阿毗曇也。自今撰密學者五十員誦習密三藏。無佗宗雜住也。蓋正月賜東寺于海為密寺。至此置密學。依海奏也。

天長皇帝

元年春正月乙卯改元天長。三月釋空海法掌于神泉苑。夏四月。秋七月。冬十月釋義真為延曆寺座主

天長元年甲辰正月。不書即位去歲四月二十八也。帝桓武第三子。諱大伴。初五改元。此春不雨三月二十六沙門守敏空海奉詔修請雨經法于神泉苑。事見空海傳中。上擢海僧都。不書微也。密徒網位自此始此歲義真任天台座主。此職自真始當穆宗長慶四年也

二年

天長二年

三年

天長三年

四年春。夏。秋。冬十有一月沙門護命為僧正

天長四年

五年

天長五年

六年春。夏四月度一百人。秋。冬

天長六年四月詔曰。傳聞比來諸州疫發百姓夭亡。夫出家功德不可思議。宜度百僧弭此凶禍。庶幾納羣生於仁壽。致品物於中和

七年春。夏。秋。冬十有二月修佛名懺禮于宮中

天長七年十二月宮中有佛名懺禮。靜安傳繫承和五。與是何異。是修也。後式也

八年

天長八年

九年

天長九年

十年春二月丙戌天皇禪位于皇太子。夏。秋。冬

天長十年二月受禪二十八也。

承和皇帝

元年春正月乙卯改元承和。置真言院于宮中。夏四月。秋九月僧正護命寂。冬十月經三會講賜僧官

承和元年甲寅正月。不書即位去歲三月初六也。帝弘仁第二子。諱正良。初三改元。真言院後七日修法依空海奏也。此歲詔曰。自今經三會講師始任僧官。三會何。正月宮中御齋會。三月藥師寺最勝會。十月興福寺維摩會也。當文宗大和八年也

二年春正月納功德料二百戶于東寺。置密度。三月丙寅釋空海寂定。夏。秋。冬

承和二年正月沙門空海奏。去弘仁十四年詔令真言僧五十人住東寺學密教。其時院宇未備不遑僧居。今房舍已成。乞東寺官家功德料千戶內二百戶充僧供。為國修法。制可。空海又奏。金剛頂經毗盧遮那經業二人。聲明業一人。置年度精究密學。正月二十二尚書符降

三年春。夏五月置三齋月修于東寺灌頂院。釋實慧為東寺長者。秋。冬

承和三年五月詔曰。每歲三長齋月於東寺灌頂院撰三七比丘修息災增益法鎮護國家。為永式。沙門實慧有密學。勅為東寺長者。此任自慧始

四年春。夏五月置五品寺司。秋。冬

承和四年五月詔曰。傳聞近城諸寺寺規放廢。自今以文武官五品中察直者為寺司促復之

五年春。夏六月沙門慧運。圓仁等赴唐。秋。冬十有二月置佛名懺于宮中

承和五年六月遣唐使藤常嗣發。運仁等從之。十二月佛名懺三日依沙門靜安奏也

六年春。夏。秋七月轉大般若經于紫宸殿。九月沙門常曉獻太元帥像。冬

承和六年七月紫宸轉經沙門六十人。達嚫各有差。大法師位賜度者各一人。法師位以下各授一階

七年春。夏六月賜法琳寺于沙門常曉。秋。冬移修最勝會于大極殿

承和七年六月常曉奏。山州宇治郡法琳寺。地勢閑燥宜修大法。乞以太元帥像安此地。為修法院保護國家。制可。此歲最勝會移大極殿

八年春正月轉藥師經于滿涼殿。夏。秋。冬

承和八年正月清涼殿轉經沙門五十八人。各嚫度者一人

九年

承和九年
十年春。夏。秋冬十有一月沙門泰景為僧正
承和十年
十有一年
承和十一年
十有二年春三月轉大般若經于三殿。夏。秋。冬
承和十二年三月紫宸清涼常寧三殿及真言院轉經沙門一百人。兼修陀羅尼法。各嘲度者一人。攘宮怪也
十有三年春。夏。秋。冬十有二月納官租于定心院
承和十三年初常於台山建定心院。至此以近州租三萬束充佛僧之供
十有四年春。夏。秋九月沙門慧運。圓仁至自唐。冬
承和十四年
十有五年春二月設拔萃度于省中。夏六月辛丑改元嘉祥。秋。冬十有一月置藥師寺講師
嘉祥元年二月於八省試持經持呪拔萃者。於是乎負笈杖錫自四方至者數百人。得第七十餘人。皆以延字為上字。六月豐後州獻白龜。依是十三改元。十一月下野州言。藥師寺者天武皇帝之所創也。院宇巍巍宛如七大寺。資產亦多。東關十州得度者咸萃於此。而無講師。令國講師勾當寺事。求諸故實未覩所由。伏乞准大宰府觀世音寺例。擇戒壇十師之中智行具足為眾所推者任講師。兼為受戒阿闍梨。制可
十有六年
嘉祥二年
十有七年春三月度五百人。丁酉天皇禪位于皇太子。夏五月度七十人。秋。冬
嘉祥三年三月十九太子受禪。五月七十之度薦明神也。故以神字為上字。
元亨釋書卷第二十三　終

元亨釋書卷第二十四

濟北沙門　師錬撰

資治表五(起仁壽至承平合七君)

仁壽皇帝

元年春正月。夏四月庚午改元仁壽。秋七月。冬十月
　仁壽元年辛未正月。不書即位去歲四月也。帝承和長子。諱道康。四月二十八改元。此歲當宣宗大中五年也
二年
　仁壽二年
三年
　仁壽三年
四年春。夏。秋。冬十有一月庚戌改元齊衡
　齊衡元年十一月二十九改
五年春。夏五月置度者于氣多神宮寺。置于氣比神宮寺。秋九月沙門長訓為僧正。冬
　齊衡二年五月能州氣多神宮度者三人。越州氣比神宮度者五人。為年分也
六年春三月天皇灌頂于冷泉院。夏。秋八月設持呪度于神泉苑。冬十月沙門真濟為僧正
　齊衡三年三月帝從圓仁阿闍梨稟灌頂。八月勅召持呪沙彌。於神泉苑試之。有感者賜度。十月真濟之僧正密徒之始也
七年春二月戊子改元天安。夏。秋。冬
　天安元年二月二十改
八年春。夏沙門圓珍至自唐。秋八月乙卯天皇崩。冬
　天安二年八月之崩二十七也。

貞觀皇帝

元年春正月。夏四月辛丑改元貞觀。秋七月。冬十月。八幡大神移男山
　貞觀元年己卯正月不書即位。去歲十一月初七也。帝仁壽第四子。諱惟仁。四月之改元十五也。此歲八幡移鳩嶺。事在行教傳中。當大中十三年也
二年春二月僧正真濟寂。夏。秋。冬

貞觀二年
三年
貞觀三年
四年春。夏。秋七月舉貞觀寺。冬沙門真如宗睿赴唐
貞觀四年七月二十。嘉祥寺西院賜名貞觀寺。舉何。顯也。初混嘉祥。今得別號。顯舉之謂也。此歲如睿二師入唐
五年
貞觀五年
六年春正月辛丑釋圓仁寂。二月定僧階。三月印戒牒。夏。秋七月天皇灌頂于仁壽殿。冬釋真雅聽輦車
貞觀六年二月十六勅曰。國典僧綱元有三階。滿位法師位。大法師位。近來賢愚濫糅似無尊卑。今三階之外更立三位。法橋上人位。法眼和尚位。法印大和尚位。此三位以為三綱階。法印位為僧正階。法眼位僧都階。法橋位律師階者。依真雅奏也。三月戒壇院設印印於戒牒。其印用東大寺印模。依沙門最教奏也。七月上就阿闍梨圓珍灌頂。僕射藤良相等入壇者三十餘人。此歲真雅賜輦車詔。比丘之輦自雅始
七年春三月嚴度戒學。夏。秋九月沙門壹演為僧正。冬十有一月沙門宗叡至自唐
貞觀七年三月僧都慧運奏。謹案舊例。凡得度者先與度緣次令入寺。就中年度者經二年精練沙彌行。臨時度者經三歲然後聽受戒。每歲三月以前僧綱放牒諸寺。令上當年受戒者名。而乃會集綱所禮部鴻臚二官共勘名籍。試法華。最勝。威儀三經。即簡年二十以上六十已下熟前件三經者更牒本寺。三七日修悔過。四月十五日以前定其受戒日。請傳戒大小十師。於東大寺戒壇依教問十三難及十遮。然後登壇受戒。受戒畢。籍戒壇院差教授帥。一夏九旬修學比丘二百五十戒。三千威儀。回茲戒業誓鎮國家。或居本寺請依止師細學律相。若夫年未滿二十。或七十以下。并朝廷不許之人。負債之輩。黃門奴婢之類。非戒器故佛不聽受。頃年之間非唯忘卻舊例。兼復違背佛教。或臨受戒日纔下官符。新剃頭髮初著袈裟。冠幘之痕頭額猶存。或十許歲少年人徒有貪名之外謀。渾無慕道之中誠。未練沙彌之行。況於懺悔之事乎。加以結番之場競上下而鬪亂。登場之次爭先後而拏攫。遂則罵詈有司陵轢十師。濫悖之甚不可言也。夫得表無表戒名曰受戒。於三師七證前殷勤至誠作禮。乞戒之下發得防非止惡之功能名曰表戒。羯磨之下發得非色非心成佛殊勝之功能名曰無表戒。既無至誠禮敬心安得表戒。表戒未得何得無表戒。無表戒已不得何名得戒。登壇已後不學律相故不知持犯。不知持犯。亦不修安居。不

修安居何稱比丘。伏乞依舊例兼遵佛制。然則緇徒感激濫惡自止。戒壇清靜佛法興繁。國土豐樂不期而來內外之災殃不攘而去。制可。九月壹演法師為僧正。凡僧正有三。大正權也。大行基始之。正觀勒始之。權演始之

八年春。夏六月釋安慧為延曆寺座主。秋七月丙申 釋最澄賜謚傳教大師。圓仁慈覺。冬

貞觀八年六月安慧為天台座主。尋常座主不書。曷為書。褒也。曷為褒。事見本傳。七月十四澄仁二公謚大師。大師之號自此始。語在相應傳中

九年春。夏。秋七月僧正壹演賜謚慈濟。冬

貞觀九年七月慈濟之謚號是為始

十年

貞觀十年

十有一年春二月沙門遍昭賜法眼和尚位。夏。秋。冬

貞觀十一年二月遍昭之法眼位台徒綱位之始

十有二年

貞觀十二年

十有三年

貞觀十三年

十有四年春三月度八十人。僧正真雅管法務。夏。秋。冬

貞觀十四年三月詔曰。大相國藤公朕之外祖父也。比來寢瘵。人傳醫巫不効。朕食息不安寧。伏聞內傳之中度人歸法能拯人厄。宜賜度者八十人。初空海師歸朝。奏曰。昔不空三藏為唐國法務。況國家曩設此任。中不繼。乞復。勅置綱所造印鑰。凡僧官進退法事啟散皆能管行。而海公不任印鑰納官。三月十四真雅為法務。先是居此任者五人。推古三十二年觀勒始為僧正。兼主法務。天平十年信行為律師。同日主法務。勝寶八年慈調律師法務。寶字七年鑑真僧正法務。天長四年護命僧正法務。此五人絕而或續。雅之後法務不絕。興福寺延壽任大威儀師。與雅同日主法務。是權也

十有五年

貞觀十五年

十有六年

貞觀十六年

十有七年

貞觀十七年

十有八年春。夏。秋。冬十有一月壬寅天皇禪位于皇太子

貞觀十八年十一月二十九太子受禪。

元慶皇帝

元年春正月乙亥天皇即位。夏四月壬申改元元慶。秋七月冬十有二月舉元慶寺

元慶元年丁酉正月初三帝即位于豐樂殿。帝貞觀長子。諱貞明。四月改元。二十一也。去貞觀十一年建伽藍。十二月配紀元曰元慶寺。置年度三人。此歲當僖宗乾符四年也

二年

元慶二年

三年春正月僧正真雅寂。夏五月太上皇祝髮。度三十人。秋。冬十月沙門宗睿。遍昭。為僧正。太上皇灌頂

元慶三年五月初八太上皇就沙門宗睿落髮受戒。三十之度薦仁壽上皇也。十月遍昭為權僧正。台徒僧正昭為始。此歲太上皇從睿公受兩部灌頂

四年春。夏。秋。冬十有二月貞觀上皇崩。度一百人

元慶四年十二月度薦太上皇也

五年

元慶五年

六年

元慶六年

七年

元慶七年

八年春二月乙未天皇遜位。僧綱賀于東宮。轉大般若經于東宮。修法于仁壽殿。三月僧正宗睿寂。夏五月監修廢寺。六月起塔于嘉祥寺。秋九月置阿闍梨位于元慶寺。冬

元慶八年二月初四帝避位。此日群臣捧傳國寶璽劒等詣吏部王宮。五日王移東宮。六日三綱率諸沙門賀東宮。十三延五十沙門于東宮前殿。轉大般若三日。二十四勑二十沙門修法仁壽殿五日。五月詔曰。天下寺院廢朽相仍宜以各寺田產加修造。來冬仲月降監使檢察。若有弛怠罪不寬。六月以近波二州租造五級塔于嘉祥寺。九月以惟首。安然二師充元慶寺阿闍梨位。教授密乘依遍昭奏也。

仁和皇帝

元年春二月丁未改元仁和。省僚署戒牒。三月充度者于最勝講師。夏四月轉大般若經于五寺。修仁王百座會一百所。秋九月納墾田于元慶寺。加立義于維摩。最勝二會。冬十月饗遍昭于仁壽殿

仁和元年乙巳正月。不書即位去歲二月二十二也。帝承和第三子諱時康甞為吏部尚書。屬元慶帝之避位羣臣固請。帝不得辭。二月改元者二十一也。禮部省言。去六年六月僧正遍昭奏狀偁。頃年受戒輩多不軌。只以戒牒專為公驗。自今受戒日省僚威從共向戒壇子細勘會官符度緣。即令登壇受戒。便取戒牒具注紙後以其本籍姓名省僚共押署以省印印之者。伏乞准度緣三司共署印。制可。閏三月詔曰。每歲正月大極殿齋講是先聖之所遵行也。設齋講之座演最勝之經。其講師者才名拔萃智德高邁。宜給度者一人以代扶老之杖。立為式。四月於延暦寺東西院。崇福。梵釋。元興五寺各請十僧轉大般若五日。賀藤太師五十算也。修百座仁王會於紫宸殿。及諸司十二宮門羅城門東西寺合三十二所并六十六州國分寺兼二嶋也。九月近州高島郡野地納元慶寺墾田凡一千五百畝。興福寺維摩會。藥師寺最勝會。加立義沙門各一人。十月饗僧正遍昭。賀七十算也。三公皆預席夜談至曉。不書官非禮也。此歲當光啟元年也

二年春三月僧正遍昭賜封戶聽輦車。夏。秋。冬十月沙門朗善入宮。釋圓珍護摩于紫宸殿

仁和二年三月十四詔曰。僧正遍昭慈仁為性智德在躬。所以朕之丕膺鴻業撫育兆民者。皆公之潛加冥祐也。況公未入釋門。朕亦在列藩。恩交相結盟約共深。雖逸塵外猶在宮中。故割百戶以充禪供。亦聽輦車。嗚呼至人懸解上德難名。物外浮榮雖知非公之好。人間崇飾聊又寄朕之懷。十月帝不豫。召梵釋寺朗善加持聖躬。又詔延暦寺座主圓珍。於紫宸殿修護摩法五日。帝疾愈。善珍同加上病。何姓珍不姓善。善公加疾不明故族書入宮。珍公有効故書姓貴之

三年春三月加年度于延暦寺。夏。秋八月丙寅天皇崩。冬十月轉大般若經于宮中。修法行嘗行嘗天下耆僧尼

仁和三年三月年分度二人加延暦寺。其一大毗盧遮那經業其一一字佛頂輪王經業。資二神大小比睿。因座主圓珍請也。八月二十五帝崩。十月一百沙門讀大般若于宮中。又十五名德期一七日修法宮中。散日賜親于御前。此歲天下僧尼八十歲以降行嘗。敬老也。

寬平皇帝

元年春正月改元寬平。夏四月。秋八月慶仁和寺。冬十月

寬平元年戊申正月。不書即位去歲十一月十七也。帝仁和第三子。諱定省。古史仁和四年連帝初年改元在己酉四月二十七。今

以即位次年立元。雖與孝德例後先不齊史法同焉。八月仁和寺落成。沙門真然為慶導師。此歲當文德元年也

二年春。夏五月八幡神藏震。秋七月頒盂蘭盆供于諸寺。施燈油于寺祠。冬十有二月獻道具于八幡神祠

寬平二年五月石清水寶藏震。大史筮曰。病在聖躬帝曰。朕雖至愚頗慎言行。況歸三寶旦暮修懺。縱有微恙不至大故。然當咎徵不可逸豫。只夫天地神靈證之耳。而無事。君子曰。宋公善言沴星沒焉。夙慎言行勤修懺。何災之有。自信不疑天皇之謂乎。七月盂蘭盆供。薦先皇也。其納燈油七所。延曆西塔院。神護。圓成。長谷。東西寺。八幡神祠也。十二月石清水大神託曰。欲得菩薩服色道具。勅獻瓔珞香爐念珠等

三年春正月僧正遍昭寂。夏四月灌佛于宮中。秋。冬十月沙門真然為僧正

寬平三年四月設浴佛于宮。皇帝太子公卿皆各灌佛

四年春。夏。秋九月僧正真然寂。冬十月庚子釋圓珍寂

寬平四年

五年

寬平五年

六年

寬平六年

七年春。夏。秋。冬十有二月僧都益信。律師聖寶管法務

寬平七年十二月益信法務正也。聖寶權也。尋常小官不書。曷為書。見法務在僧都及律師不必僧正也

八年

寬平八年

九年春正月天皇幸雲林寺。夏。秋。冬

寬平九年雲林寺幸者閏正月也

十年春。夏。秋七月戊寅天皇禪位于皇太子。九月朔釋聖寶祈日食。冬

寬平十年七月讓位者初五也。九月朔日有食之。詔沙門聖寶祈焉。天晴不虧。勅嘬御衣。

昌泰皇帝

元年春正月。夏四月乙丑改元昌泰。秋七月。冬十有二月修吉祥懺于天下

昌泰元年戊午正月。不書即位去歲七月十三也。帝寬平長子。諱敦仁。四月改元二十六也。此歲當昭宗光化元年也

二年春。夏。秋。冬十月太上皇祝髮。十有一月太上皇受戒于東大寺

昌泰二年十月十四上皇從沙門益信出家。法諱空理。十一月二十四登東大寺戒壇

三年春三月沙門益信為僧正。夏。秋。冬十月道皇幸高野山

昌泰三年十月道皇何。寬平上皇也。曷為道皇。受道上皇也

四年春二月禁私修壇法。夏。秋七月甲子改元延喜。冬十月慶讚大藏經于淨福寺。十有二月道皇灌頂于東寺

延喜元年七月改元十五也。十月太上皇詔沙門增命慶讚淨福寺大藏經。十二月太上皇於東寺從僧正益信灌頂。金剛號金剛覺

五年春三月沙門聖寶為僧正。夏。秋。冬

延喜二年

六年

延喜三年

七年春三月道皇營室于仁和寺。夏。秋。冬營室于睿山。

延喜四年三月上皇構一堂於仁和寺。安金剛界三十七尊及外院天等三摩耶形。上皇禪居側室。俗曰御室。是歲上皇幸睿山千光院造御室。千光院者增命坊也

八年春正月天皇幸仁和寺。夏四月道皇受戒于睿山。秋九月道皇幸金峯山。冬十有二月施綿于平城耆年

延喜五年正月仁和寺幸者覲上皇也。十二月勅僧正聖寶撿平城諸寺比丘年八十已下。上名簿就穀倉院行綿

九年春三月僧正益信寂。夏。秋。冬十月道皇賀沙門增命座主

延喜六年三月十八增命為天台座主。十月上皇上山賀之

十年

延喜七年

十有一年

延喜八年

十有二年春。夏。秋七月僧正聖寶寂。冬

延喜九年

十有三年。春夏四月灌佛于宮中。秋九月道皇灌頂于睿山

延喜十年四月浴佛。觀賢為導師。九月上皇稟灌頂於座主增命。帝聞之授命以法眼和尚位。上皇手捧詔與命。及袈裟數珠香爐等

十有四年

延喜十一年

十有五年

延喜十二年

十有六年

延喜十三年
十有七年
延喜十四年
十有八年春。夏釋增命愈天皇疾。秋。冬
延喜十五年天下疱瘡。帝患之。召命法師加之。乃愈
十有九年春。夏。秋。冬十月釋增命陪宮
延喜十六年宮中有恠。十月召命公陪宮持念。十一月歸山帝賜御衣
二十年
延喜十七年
二十有一年春。夏。秋八月道皇行灌頂于大學寺。冬
延喜十八年八月上皇於大學寺行灌頂事。沙門寬空仁元等七人同稟
二十有二年春。夏。秋。七月天皇受二經于釋增命。冬
延喜十九年七月初五帝召增命座主於仁壽殿西廂受金剛般若經。七日受妙法蓮華經。勅侍臣源公忠。藤在衡預聽。八月初三命歸山。嘽具甚多
二十有三年
延喜二十年
二十有四年春。夏。秋。冬十月釋空海賜謚弘法大師
延喜二十一年十月海公大師謚依觀賢奏也
二十有五年春。夏。秋七月釋增名解座主。冬
延喜二十二年七月命公上表辭座主位帝不許。表凡五度。帝遣羽林次將藤實賴入山賜宸書。有恐違師之素懷無遂朕之本志之句。尋常座主補退不書。曷為故書解。褒也。曷為褒。褒睿懇也
二十有六年春正月丙戌改元延長。三月釋增命陪宮。夏五月命公為僧正法務。秋。冬
延長元年正月改元十一也。三月菅靈奮厲都下震恐。二十一皇太子保明俄薨。帝大懼。召命公加護。侍臣夢神兵衛宮城。五月命公任法務。台徒之始
二十有七年春二月天皇受如意輪軌于釋增命。夏。秋冬。
延長二年二月帝之受法二十一也
二十有八年春三月沙門觀賢為僧正。夏六月釋增命愈天皇瘧。僧正。觀賢寂。秋七月釋尊意法雩于台山。八月修法于勸修寺。冬十月給衣粮于唐僧
延長三年六月初七帝瘧。命公加持乃差。夏旱。七月十六詔尊意法師法雩于延曆寺。意修佛頂尊勝法限以七日。第四日大雨。八

月二十三延一百沙門于勸修寺增命為導師。薦大后也。十月初七賜唐僧平秀衣粮。湛譽智琮粮

二十有九年春。夏五月賜沙門寬建黃金。秋七月轉經于七寺。冬十有二月轉經于十有四寺。行無遮施慶醍醐寺。

延長四年五月興福寺沙門寬建赴唐。帝與黃金一百兩。七月初四太上皇於七寺讀經。薦左僕射源融也初源靈託宮人曰。我生平惡作多故墮苦趣。湯鑊劒林楚痛無量。而我有餘習。以劇苦之隙時時來息河原院耳。勑問曰。修何善脫此苦。對曰。罪根至深難容救拔。然於七寺各修諷讀或免苦趣。故有之。十二月十九上都七大寺南京七大寺各諷經。祝太上皇。也。今茲上皇六十。然不許賀故天子修斯經會。其十四寺施用甚繁。又以穀一千二百石行無遮施。二十八慶醍醐寺。侍中尹甫監法事

三十年春。夏。秋。冬十月傳仁王經于宮中。十有二月釋增命寂。釋圓珍賜諡智證大師。增命號靜觀

延長五年十二月智證靜觀二諡依沙門智祐奏也

三十有一年春。夏五月轉大般若經于紫宸殿。秋。冬

延長六年夏疫。五月二十二延一百沙門于紫宸殿讀大般若。除疫也

三十有二年春三月釋尊意賜度者夏。秋。冬

延長七年春京畿疫。三月詔睿山座主尊意修銷疫法。七日後疫除。賜度者三十二人

三十有三年春。夏六月釋尊意陪常寧殿。秋九月癸未天皇禪位于皇太子。冬

延長八年六月二十一戶部尚書藤清貫。尚書右中丞平希世。於清涼殿為雷震死。帝惶怖遷常寧殿。召座主尊意持念加護。依菅靈激怒也。九月二十三讓位太子。二十九就尊意落髮受戒。法諱金剛寶。

承平皇帝

元年春正月。夏四月甲寅改元承平。秋七月甲辰寬平道皇崩。冬十月

承平元年辛卯正月。不書即位去歲十一月二十一也。帝昌泰第十一子。諱寬明。四月改元二十六也。是歲當五代唐明宗長興二年也

二年

承平二年

三年

承平三年
四年春釋尊意移鳥巢。夏。秋。冬
承平四年春鳥巢弘徽殿前柿樹。宮中以為怪。召尊意修不動法一七日。日日烏將雛去。七日皆盡
五年
承平五年
六年春。夏。秋。冬十有一月行試經度
承平六年十一月試經度法務外而特旨也
七年
承平七年
八年春。夏五月戊辰改元天慶。秋。冬
天慶元年五月二十二改
九年春。夏。秋七月釋尊意法雩。冬
天慶二年夏旱。七月詔意公祈雨。期以七日。第五之日大雨洽
十年春正月釋淨藏明達伏逆臣平將門。夏。秋。冬十有一月釋明達伏藤純友
天慶三年初前將軍平良持之子將門反東州已數年矣。寇虐甚熾。至此詔諸沙門修降伏法。淨藏于延曆寺。明達于美州中山神宮寺。又宮中修仁王會。大元法壇中血出。又東大寺羂索院於執金剛像前修降伏。忽失像。寺眾懼官師不利。過二十餘日像復。天冠衣巾少有缺壞。膚濕如汗。像失之間賊亡之時也。蓋二月十四將門伏誅。平貞盛射之。藤秀鄉得首。十一月二十一勅明達。於住吉神宮寺伏純友。將門之餘孽也
十有一年
天慶四年
十有二年
天慶五年
十有三年
天慶六年
十有四年
天慶七年
十有五年
天慶八年
十有六年春。夏四月癸酉天皇禪位于皇太弟。秋。冬
天慶九年四月讓位十三也。
元亨釋書卷第二十四　終

元亨釋書卷第二十五

濟北沙門　師錬撰

資治表六(起天曆至承保合十一君)

天曆皇帝

元年春正月。夏四月丁丑改元天曆。秋七月。冬十月
　天曆元年丁未正月。不書即位去歲四月二十八也。帝昌泰第十四子。諱成明。四月改元二十二也。此歲當五代漢高祖天福元年也
二年
　天曆二年
三年
　天曆三年
四年
　天曆四年
五年
　天曆五年
六年春三月太上皇祝髮。構法華堂于醍醐寺。夏。秋。冬
　天曆六年三月二十四上皇出家居佛陀寺。醍醐法華之材移清涼殿材也
七年春二月修天下廢寺祠。起塔于雲林寺。夏。秋八月寫大藏經。冬
　天曆七年八月寫藏五千四十八卷。薦上皇也
八年春二月慶法性寺塔。夏。秋。冬十有二月藤僕射師輔宿睿山
　天曆八年十二月初五良源法師延元興寺義昭於延曆寺。修法華八講。四日右僕射登山聽講
九年春正月講法華經于弘徽殿。夏。秋。冬
　天曆九年正月寫金字法華。乃延名德於弘徽殿啟講席。勑親王公卿各捧金玉羅紈繞階昇殿行嘬。薦母皇太后也
十年
　天曆十年
十有一年春。夏。秋。冬十月庚辰改元天德
　天德元年十月二十七改
十有三年春正月沙門延昌為僧正。夏。秋。冬
　天德二年
十有三年

天德三年

十有四年春夏五月轉經于十五大寺。秋七月僧正延昌修法于大日院。九月轉大般若經于清涼殿。昌師修法于仁壽殿。冬

天德四年五月十五大寺讀經除疫也。七月大日院修熾盛光法。攘災也。九月沙門四十人讀經於清涼殿。及仁壽殿熾盛光修。共攘災也

十有五年春二月庚辰改元應和。三月施布帛于三大寺。僧正延昌修無量壽智決定如來法于延曆寺。沙門寬空修孔雀經法于冷泉院。夏四月轉經七大寺及諸國分寺。冬十有一月昌師修安鎮法。供一萬沙門

應和元年二年改元十六也。三月初四東大。興福。延曆三寺施布帛。攘災也四月轉經除疫也。初二月大內火。十一月移新宮。詔延昌修安鎮法

十有六年

應和二年

十有七年春三月慶雲林寺塔。天皇幸之。夏。秋八月沙門良源。法藏。衡講于清涼殿。冬

應和三年三月十九雲林寺塔成。帝幸落慶之席。八月二十一設法華講筵于清涼殿。延南北都名德二十人。五日十座論詮至理。初日朝坐南觀理為導師。北餘慶問者。夕坐南安鏡為導師。北能慧問者。二十二朝導南安秀。問北賀秀。夕導南法藏。問北覺慶。二十三朝導北良源。問南平州。夕導北禪愉。問南千到。二十四朝導北智興。問南真義。夕導南湛然。問此崇壽。二十五朝導北壽肇。夕導北聖救。問共南仲算。二十六散導師觀理也。於是乎第二日法藏立定性二乘不成佛義。覺慶問難不明。源踰次詰徵。相台交鋒法戰夜深。第三之日良源本導法藏新問。平州束手無分。法藏詞屈。于時戶部尚書藤文範以謂。南京者春日明神之管內也。南眾不競是明神之患也。我為其胤盍贔負乎。後二日不可失也。便潛馳赴南。中心私誓。我願於春日祠側必遭英才相將還都。神亦冀冥助果祠側逢沙門仲算。算問宮講。藤公告實咬齒伴來。初仁賀圓藝為第五日朝夕問者。算代賀藝詞義壯麗。藤公以為不徒馳也

十有八年春正月僧正延昌寂。夏。秋七月癸未改元康保。沙門寬空為僧正。冬

康保元年七月初十改

十有九年

康保二年

二十年

康保三年
二十有一年春。夏五月癸丑天皇崩。秋。冬
康保四年五月帝不預。十四出家。法諱覺貞。二十五禪位太子。即日崩。尋常天子出家皆書。曷為不書。臨崩也。何不書禪位。臨崩也。

安和皇帝

元年春正月。夏四月。秋八月癸亥改元安和。冬十月
安和元年戊辰正月。不書即位去歲十一月十一也。帝天曆弟二子。諱憲平。三月十一沙門寬忠為律師。兵部尚書敦固親王第三子寬平之孫也。王孫任僧綱自忠始。不書微也。八月改元十三也。此歲當趙宋太祖開寶元年也
二年春。夏。秋八月戊子天皇禪位于皇太子。冬
安和二年八月受禪十三也。

天祿皇帝

元年春三月丙寅改元天祿。夏四月。秋七月。冬十月
天祿元年庚午正月。不書即位去歲九月二十三也。帝天曆第五子。諱守平。三月之改元二十五也。此歲當開寶三年也
二年
天祿二年
三年春二月僧正寬空寂。夏。秋。冬
天祿三年
四年春二月沙門神鎮禮宗得二州講師。夏。秋。冬十有二月庚子改元天延
天延元年二月藥師寺食堂火。延及講堂。比丘鎮宗二人救火大殿不燒。知事錄奏。差尚書左丞源涉入寺覆覈得事實。勅神鎮為參州講師。禮宗和州。曷為書得。幸得也十二月改元二十也
五年春。夏五月置講經論義于宮中。秋。冬
天延二年五月初七宮中設讀經論義。四時有之。凡五番一運源。勸綜。二仁幹。光休。三脩然。源信。四禪詮。玄明。五賀秀。真義
六年
天延三年
七年春。夏。秋七月戊寅改元貞元。冬
貞元元年七月十三改

八年春。夏。秋七月沙門陽生修安鎮法。冬十月沙門寬靜。良源。為僧正

貞元二年初元年五月大內火。今茲七月移新宮。先令陽生修安鎮法。十月之僧正良源權也

九年春。夏四月丁卯改元天元。秋。冬

天元元年四月十三改

十年

天元二年

十有一年

天元三年

十有二年春。夏。秋八月僧正良源加大。沙門寬朝。尋禪為僧正。冬

天元四年七月帝患瘧。召良源加持愈。故為大僧正。行基之後無大號。經二百年源乃任。同日朝禪為僧正。禪權也

十有三年春正月侍中平恒昌涉睿山徵座主良源。夏。秋。冬十有一月沙門裔然赴宋

天元五年台山有法鬩流言。慈覺徒欲燒千手院。院有智證經藏。朝廷恐法藏灰。故勅平侍中上山告諸耆宿固守經藏。莫令受燼。時良源為座主。或奏源為爭地。故使使徵源。源抗表陳奏。尋常入山皆書上。曷為書涉。撿問使也。良源為大僧正。盍書官。時為座主也。又受讒也。豈讒云乎。純正無疑。于疑受讒。干疑者源之罪也

十有四年春三月慶圓融寺。納封戶于寺。夏四月庚子改元永觀。秋。冬

永觀元年三月二十二寬朝僧正慶圓融寺落。二十五納封一百戶。四月改元十五也

十有五年春。夏。秋八月庚子天皇禪位于皇太子。冬

永觀二年八月二十三太子受禪。今茲八月八僧都元杲兼法務。大僧正良源正。寬朝先管法務。時有三法務。

寬和皇帝

元年春正月大僧正良源寂。二月皇太后建觀音院。夏四月己亥改元寬和。秋八月天祿上皇祝髮。冬十月

寬和元年乙酉正月。不書即位去歲十月初十也。帝安和長子。諱師貞。二月皇太后昌子於台山西麓建觀音院。四月改元二十五也。八月二十九太上皇從寬朝出家。法諱覺如。此歲當太宗雍熙二年也

二年春。夏四月太上皇受戒于東大寺。六月己未天皇祝髮于花山寺。聖算一十有九。秋。冬十有二月僧正寬朝加大。
寬和二年四月天祿上皇受戒。六月二十二中夜帝潛出宮幸花山寺剃髮。法諱入覺。書聖壽貴也。曷為貴。妙齡果決也。

永延皇帝

元年奉二月沙門裔然至自宋。夏四月丁酉改元永延。秋七月。冬十月道皇幸南京諸寺
永延元年丁亥正月不書即位。去歲七月二十二也。帝天祿長子。諱懷仁。四月改元初五也。此歲當雍熙四年也
二年春三月慶圓融寺塔。夏。秋。冬
永延二年
三年春。夏。秋八月丙辰改元永祚。冬十月僧正尋禪賜封戶
永祚元年八月改元初八也。尋禪封一百戶
四年春三月道皇灌頂于東寺。夏。秋。冬十有一月戊子改元正曆
正曆元年三月天祿上皇從大僧正寬朝灌頂。十一月改元初七也
五年春二月辛亥天祿道皇崩。僧正餘慶寂。夏。秋七月沙門真義為僧正。冬
正曆二年二月道皇之崩十二也
六年春。夏。秋。冬慶法住寺
正曆三年
七年
正曆四年
八年春。夏。秋。冬十有一月沙門暹賀為僧正。定僧正正權
正曆五年十一月暹賀任僧正。勅曰。自今僧正正權可依臘次。蓋真義少賀為正故有此詔。此日沙門隆圓直任僧都。年一十五。僕射藤道綱第六子。少年僧綱自此始
九年春二月戊戌改元長德。夏。秋。冬
長德元年二月二十二改
十年
長德二年
十有一年春。夏四月議宋國新書。秋。冬
長德三年四月宋書議在勸修事中
十有二年春。夏六月大僧正寬朝寂。秋八月僧正暹賀寂。冬十有二月沙門勸修為僧正
長德四年
十有三年春正月丁卯改元長保。夏。秋。冬

長保元年正月十三改
十有四年春二月僧正真義寂。三月僧正勸修加大。覺慶為僧正。夏。秋八月沙門寂昭赴宋。冬
長保二年
十有五年春三月修大仁王會。轉壽命經于大極殿。夏。秋冬十月大僧正勸修。沙門明豪。賜封戶。僧正覺慶加大。明豪為僧正
長保三年春天下疫。三月仁王會除疫也。又於大極殿命一千沙門轉壽命經
十有六年春。夏。秋七月僧正明豪加大。沙門雅慶。勝算。為僧正。尋光得律師。八月大僧正明豪寂。冬
長保四年七月慶算二師為僧正。自此不言正權。依正曆五年詔也。是日沙門尋光為律師。尋常律師不書。曷為書。毀也。曷為毀。得覺慶之讓也。讓何。朝廷有賞賜僧官慶啟讓端。故毀書。然何不毀度者。度淺官深。君子言其深不言其淺焉
十有七年春三月沙門聖清得法印大和尚位。夏。秋。冬
長保五年三月聖清任法印。散位之始也
十有八年春。夏。秋七月壬寅改元寬弘。冬
寬弘元年七月二十改
十有九年
寬弘二年
二十年
寬弘三年
二十有一年
寬弘四年
二十有二年春二月己亥寬和道皇崩。夏。秋七月大僧正勸修寂。冬
寬弘五年
二十有三年春。夏六月定講最勝王經于內殿。秋。冬
寬弘六年六月十九延名德宮中講論最勝王經五日。立為式。先代或行或止自今為例故書定
二十有四年春三月慶讚佛像經文。夏。秋。冬
寬弘七年
二十有五年春。夏四月僧正雅慶加大。五月慶讚大藏經于一條院。六月甲子天皇崩。秋冬十月僧正勝算寂
寬弘八年六月十三讓位。二十二帝崩。

長和皇帝

元年春正月。夏四月。秋七月。冬十月大僧正雅慶寂。十有二月戊子改元長和

長和元年壬子正月。不書即位去歲十月十六也。帝安和第二子。諱居貞。十二月改元二十五也。此歲當真宗大中祥符五年也

二年春。夏。秋。冬。十有二月沙門明救擢僧正。慶圓加大

長和二年初帝即位後耳目不明。十一月詔明救修法于仁壽殿。帝夢明救左右耳日月出乃入我双眸。覺後聰明如元。十二月授僧正

三年春。夏。秋。冬十有一月大僧正覺慶寂

長和三年

四年

長和四年

五年春正月甲戌天皇禪位于皇太子。夏。秋。冬

長和五年正月二十九讓位。

寬仁皇帝

元年春正月。夏四月辛卯改元寬仁。秋七月冬十月

寬仁元年丁巳正月。不書即位去歲二月初七也。帝永延第二子。諱敦成。四月改元二十三也。此歲當天禧元年也

二年

寬仁二年

三年春三月太相國藤道長薙髮。夏。秋。九月受戒于東大寺。大僧正慶圓寂。冬十月僧正濟信加大

寬仁三年九月藤相國出家受戒

四年春三月大僧正濟信聽牛車。夏。秋七月僧正明救寂。冬十月道相受戒十于睿山

寬仁四年三月濟信許牛車。沙門牛車自信始。道相何。藤相也。猶寬平稱道皇也

五年春二月丁未改元治安。夏。秋。冬

治安元年二月初二改

六年春。夏。秋七月道相慶法成寺。天皇幸之。定朝得法橋上人位。冬

治安二年七月十四道相落慶法成寺。帝率后妃太子百僚幸寺。定朝何。佛工也。何不族。工也。工何登綱位。朝造法成寺佛像好。道相大悅擢綱位。工人綱位朝為始。君子曰。臧文仲祭爰居三日而死。朝何不遄死乎

七年春。夏。秋。冬十月道相上高野山。十有二月僧正深覺加大

治安三年十月道相詣金剛峯寺。取路南京禮謁七大寺

八年春。夏。秋七月庚戌改元萬壽。冬
　萬壽元年七月二十改
九年
　萬壽二年
十年春正月太皇太后落髮。夏五月釋心譽賜封戶。秋。冬
　萬壽三年正月太后上東門院出家。五月心譽封七十戶也。尋常封戶不姓。曷為書姓。褒也。曷為褒。帝病召譽加持乃愈。帝悅賜封戶。此回非恩惠故書姓而褒
十有一年春。夏。秋。冬十有一月天皇幸法成寺。納封戶。供沙門一萬人。十有二月甲子道相藤道長薨
　萬壽四年冬道相疾於法成寺。帝幸問之。因納五百戶于寺。又供南北二京比丘萬人
十有二年春。夏五月僧正院源寂。秋七月戊午改元長元。冬十有二月釋心譽擢僧正
　長元元年七月改元二十五也。十二月初四心譽為道相朞忌導師。帝感唱演即坐授僧正
十有三年春。夏。秋八月僧正心譽寂。冬十有二月大僧正濟信。深覺。賜封戶
　長元二年十二月二僧正封各七十五戶
十有四年春。夏六月大僧正濟信寂。秋八月太皇太后慶東北院。僧正慶命賜封戶。冬
　長元三年八月二十一太后延僧正慶命落慶東北院。封七十戶。依慶賞也
十有五年春。夏五月釋仁海賜封戶。秋。冬十有二月沙門永圓為僧正
　長元四年五月仁海封七十戶。依雩賞也。書姓見應也
十有六年
　長元五年
十有七年春。夏。秋。冬十有二月沙門明尊為僧正
　長元六年
十有八年春。夏。秋九月沙門教圓為阿闍梨。
　長元七年十二月教圓為阿闍梨。阿闍梨官自圓始
十有九年
　長元八年
二十年春。夏四月乙丑天皇崩。秋。冬
　長元九年四月十七帝崩。

長曆皇帝

元年春正月。夏四月。甲子改元長曆。五月沙門成典賜封戶。秋七月。冬十月

長曆元年丁丑正月。不書即位去歲七月十四也。帝永延第三子。諱敦良。四月改元二十一也。五月成典封七十五戶。此歲當仁宗景祐三年也

二年春夏六月釋仁海沙門成典為僧正。秋。冬

長曆二年六月海。典二師為僧正曷為姓海族典。海擢雨感故書姓。典丁序選故族。

三年春。夏五月太皇太后受戒。秋。冬

長曆三年五月上東門院受戒于僧正明尊

四年春正月僧正永圓。明尊。受封戶。夏秋九月天皇遷幸東北院。冬十有一月壬辰改元長久

長久元年正月圓。尊二師封各七十五戶。遷幸何。九月初十京極離宮火。大內未成故幸東北院。書遷非法事也。十一月改元初十也

五年春。夏五月問園城寺戒壇于諸宗。秋。冬十有二月轉經于宮中

長久二年五月十四日問三井戒壇立不。事在度受志

六年

長久三年

七年春。夏五月釋仁海聽輦車。秋。冬

長久四年夏旱。五月初八仁海法雩於神泉苑。十三大雨。十五許輦車

八年春。夏。秋。冬十月僧正成典寂。供一万沙門十有一月丙成改元寬德

寬德元年十月二十七一万比丘供。祈道后病也。十一月改元二十八也

九年春正月乙亥天皇崩。夏。秋。冬

寬德二年正月十八帝崩。

永承皇帝

元年春正月。夏四月。甲子改元永承。五月僧正仁海寂。秋七月。冬十月

永承元年丙戌正月。不書即位去歲四月初十也。帝長曆長子。諱親仁。四月改元十四也。此歲當慶曆六年也

二年

永承二年

三年

永承三年
四年春。夏。秋。冬十有一月獻佛舍利于天下神祠。十有二月沙門真範為僧正
永承四年十一月諸祠舍利各一粒也
五年
永承五年
六年春三月左僕射藤公慶平等院。宮中置時經會。夏。秋。冬
永承六年三月藤公賴通改宇治別業號平等院落之。二十八時經會沙門延幸為導師。齊朝問者。幸少於朝而為導已講也。時經會何。初宮中四時延沙門讀經。今茲設講論故曰時經會。書宮中于上婉文也
七年春正月轉經于大極殿。夏四月修仁王會于豐樂院慶讚大品般若經于賀茂神祠。六月轉經于大極殿。秋。冬
永承七年正月一千沙門讀觀世音經于大極殿。攘疫也。今茲疫甚。四月仁王會大品經讚四部。及六月大極殿一千比丘讀金剛壽命經。皆除疫也
八年春正月壬子改元天喜。夏。秋。冬
天喜元年正月十一改
九年
天喜二年
十年春。夏。秋。冬十月慶圓乘寺
天喜三年十月二十五圓乘寺落慶。薦長曆帝也。寺在仁和寺
十有一年
天喜四年
十有二年春三月僧正明尊。明快。賜封戶。夏。秋。冬
天喜五年三月二僧正封各七十五戶。尊慶崇福寺新成。快慶法成寺八角堂。二賞也
十有三年春。夏。秋八月辛亥改元康平冬
康平元年八月十三改
十有四年春。夏。秋七月講宸書仁王經。冬
康平二年七月初十帝寫仁王護國經。延名德四日啟講席。慶暹法師為講師
十有五年
康平三年
十有六年春。夏五月轉仁王經于豐樂院。秋。冬
康平四年
十有七年
康平五年

十有八年春。夏六月大僧正明尊寂。秋。冬十月慶睿山實相院。十有二月道后慶一乘寺

康平六年十二月上東門院落慶三井一乘寺。道后何。猶道皇也

十有九年

康平七年

二十年春二月慶讚金光明經于睿山。夏五月轉大般若經于宮中。仁王經于賀茂神祠。孔雀經于神泉苑。六月釋成尊法雩于禪泉苑。秋八月己丑改元治曆。僧正覺源寂。九月慶讚白檀佛像。講宸書妙法華經。冬十月天皇幸法成寺。僧正覺圓加大

治曆元年夏旱。詔台徒於賀茂神祠祈雨。時小蛇出神殿前吐水氣。小雨便灑而不出數里。五月二十三神泉苑讀經三日不雨。六月十五日詔成尊修法于神泉苑一七日。第三日雨。凡修中三雨。八月改元初二也。九月二十五宮中設四日八座講。慶讚宸金書經王及釋迦三尊檀像。薦先皇也。十月十八法成寺復。帝預落慶之會

二十有一年春。夏。秋。冬十有一月復慶大宰府觀世音寺。沙門良尊為律師

治曆二年十一月詔大宰府慶觀世音寺。尋常復寺不書。曷為書。初觀世音寺火。不空羂索像不壞。宰府奏之。特旨復慶。故書。此歲南京七大寺奏。近世不賞三會已講學業似廢。是講徒之大患也。因茲官良尊于律師。尊天喜二年講師也。尊興廢中選。雖微書焉

二十有二年春。夏。秋八月轉仁王經于天下國分寺及諸州神祠。冬十月天皇幸平等院。

治曆三年八月天下諸州仁王會。攘灾也。十月幸宇治。納封三百戶于寺

二十有三年春三月沙門性信修法于宮中。夏四月信師聽牛車。庚申天皇崩。秋八月轉最勝王經于應天門。冬

治曆四月十九帝崩。八月初九應天門轉經。祈造宮也。

延久皇帝

元年春正月夏四月己酉改元延久。五月丞相藤公修大藏會于平等院。秋七月御厨供菜蔬。冬十有二月修仁王會

延久元年己酉正月。不書即位去歲七月二十一也。帝長曆第二子。諱尊仁。四月改元十三也。五月太師藤賴通修一切經會。至今不絕。七月初二詔御厨止羶腥。君子曰。昔梁武供菜蔬。爾來

未聞之矣。古所謂佛心天子者吾皇之謂乎。十二月二十仁王會一代也。此歲當神宗熙寧二年也

三年春三月大僧正明快寂。夏。秋。冬十有一月獻佛舍利于天下神祠。十有二月慶圓宗寺。天皇幸之

延久二年十二月二十六圓宗寺成。帝幸寺親營法事落慶之。寺在仁和寺南。莊麗冠都下

三年春正月轉經于尚書省。夏六月設大會于圓宗寺。天皇幸之。秋七月僧正長信賜封戶。冬

延久三年正月十六延一千沙門讀觀世音經。除疫也。長信之封二十五戶

四年春。夏。秋九月僧正長信寂。冬十月置法華經會于圓宗寺。天皇幸之。十有二月供一萬沙門。壬午天皇禪位于皇太子

延久四年十月二十五帝預圓宗寺法華會。三井賴增為講師。興福賴真問因明義增不答。真曰。已當朝選何缺博涉。增曰。非家學也。況因明唯是破外執。不言勝義諦。雜學駁論勝負云乎。君子曰。有得有失也。十二月初八讓位太子。

承保皇帝

元年春正月改元承保。三月僧正行觀寂。夏五月太上皇祝髮。秋七月。冬十月

承保元年癸丑正月。不書即位去歲十二月二十九也。帝延久長子。諱貞仁。舊史延久六年甲寅八月二十三改元。延久之五連帝之初年也。今以癸丑正月立元者寬平之例也。此歲當熙寧六年也

二年春二月沙門性信受封戶。夏五月僧正靜圓寂。秋冬十有二月沙門勝範。賴信。為僧正

承保二年二月性信之封二十五戶

三年春。夏四月留宋沙門成尋獻方物。秋八月釋性信祈日食。冬

承保三年四月成尋闍梨獻方物。宣有司議納不。八月朔日有食之。信公祈有應。乃上仁和寺北院為官寺。信公居也

四年春。夏六月慶睿山金剛壽院。秋。冬

承保四年六月金剛壽院落。先朝所創至此而成

五年春。夏。秋。冬十有一月甲子改元承曆。十有二月慶法勝寺。天皇幸之

承曆元年十一月改元十七也十二月十八帝幸慶法勝寺

六年春。夏。秋。冬十月修大乘會于法勝寺。天皇幸之

承曆二年十月初六於法勝寺創大乘會。沙門暹斅為講師。帝勅曰。圓宗寺法華會與此合為二會。自今經二會講師當任僧綱

七年春。夏五月沙門義範修孔雀經法。秋。冬十月天皇幸法成寺。十有一月慶金峯山塔

承曆三年皇后妊焉。五月二十七詔義範加護。範修孔雀明王法。逾期無產。範行散事。七月初九皇子平誕。寬治帝是也。散後六日世猶言範效。十月法成之幸慶二塔之復也

八年

承曆四年

九年春二月丁卯改元永保。三月停興福公範寺務。夏六月台徒燒園城寺。秋。冬十月僧都禎範如宇佐

永保元年二月改元初十也。三月初五山階寺眾燒多武峯寺。始多武之奴打興福奴。興福之眾怒帥師入山焚院宇。時公範為主務。朝廷誅其亂統故止寺務。六月初九睿山眾燒三井寺。初正月山奴辱寺奴。二奴皆大津之民分延延曆。園城戶籍。寺奴訟辱于山眾。山眾不納卻告寺眾。寺眾曰。自今莫為山役。至四月比睿神祀民戶不供山役。朝廷誘寺眾不聽。於是山眾大怒發師向三井。寺眾嚴兵而待。山眾不交鋒而頒師。至此大發兵入三井。此回寺眾不支。山眾縱火堂宇皆灰。勅字佐神宮建塔十月成。二十四詔禎範為慶讚師。尋常僧都不書。曷為書。褒範之應朝選。時為僧都故書官貴之。曷為不書釋。釋未也

十年春二月修最勝會于圓宗寺。夏。秋七月僧正信覺延修法雩

永保二年二月十九圓宗寺最勝會明實為講師。勅合前二會新立三會。七月二十八信覺修孔雀經法祈雨。七日不雨。覺奏延修二七。初仁和之性信有傳持孔雀經。覺借經置壇上修後七。第三日八月七大雨降。聽輦車。曷為不書。覺之効雜也

十有一年春二月沙門性信為特進。夏。秋。冬十月慶法勝寺層塔。天皇幸之。

永保三年二月仁和寺性信敘二品。僧位自信始。十月初一法勝塔成。座主良真慶導。尋常書塔無層。今何書簡也。曷為簡。法勝之塔其層九級皇城無比故書層。見簡也

十有二年春二月丙子改元應德。夏。秋九月僧正信覺寂。冬

應德元年二月七日改

十有三年春。夏五月天皇受妙法華經于沙門增譽。秋九月釋性信寂。冬

應德二年五月初十帝召增譽於內寢受法華

十有四年春。夏。秋。冬十有一月庚辰天皇禪位于皇太子

應德三年十一月讓位二十六也。

元亨釋書卷第二十五　終

元亨釋書卷第二十六

濟北沙門　師錬撰

資治表七(起寬治盡建曆合十二君)

寬治皇帝

元年春正月。夏四月戊子改元寬治。秋七月。冬十月
　寬治元年丁卯正月。不書即位去歲十二月十九也。帝承保第二子。諱善仁。四月改元初七也。此歲當哲宗元祐二年也
二年春二月太上皇幸高野山。夏。秋。冬十月幸睿山
　寬治二年二月上皇幸高野。取路南都禮東大。興福寺佛。二十七人金剛峯。以布帛賜寺眾。宣僧都隆明啟白。緇素傾聽。又勅僧郡寬意開弘法影堂作禮供養
三年春夏五月太上皇宿睿山。秋。冬十月藤相國詣長谷寺。十有一月藤僕射師通詣近州彥根山。十有二月太上皇幸彥根山
　寬治三年五月上皇在中堂一七日。十月相國藤公慶長谷寺丈六四天王木像。十一月僕射藤師通頃年耳不聰。聞彥根山觀自在靈感入山祈之。自此殆聞鬪蟻。十二月上皇聞僕射之靈應幸山。又得感應
四年春。夏。秋。冬十月天皇幸清水寺
　寬治四年帝宿清水寺一七日
五年春二月太上皇幸高野山。夏五月大僧正覺圓賜上首。秋。冬
　寬治五年五月大僧正覺圓解印。勅曰。退位且隨之。然宮會不言夏臈猶當居大僧正之上首
六年春。夏。秋七月太上皇幸金峯山。冬
　寬治六年七月上皇幸金峯。勅僧正隆命慶讚宸書金字妙法華經及五部大乘經因而施百袈裟于百沙門
七年
　寬治七年
八年春。夏。秋。冬十有二月壬午改元嘉保
　嘉保元年十二月十五改
九年春。夏。秋八月僧正隆命賜封一戶。冬十有一月賜御車
　嘉保二年八月帝瘧。隆命加愈賞封一戶。十一月帝疾。又加愈。聽輦車。帝賜御車。賀拜之日乘之
十年春正月釋經範奏修觀音供于清涼殿。夏。秋八月太上皇祝髮。冬十月受沙彌戒。十有二月辛酉改元永長

永長元年正月初。承暦四年二月大内火。仁壽殿觀音供絕。寬治六年僧都經範奏法事之絕。帝宣給事中成宗曰。此供曩修仁壽殿。今殿未成何修之有。範對曰。昔我祖弘法大師奏置此供。爾時仁壽為常殿故修于仁壽。近世清涼為常殿。仁壽雖未成清涼為宜。何以故。當近帝居而修此供。因是而言。假令仁壽成未如清涼之近密矣。給事復奏。帝以範言為然。至此修于清涼。于今不絕。俗曰二間供。尋常此供不書。今何書。又定賢奉勅修此供。曷為書範。範有四德故書。復法事一也。明故事二也。辯識三也。功成不居四也。功成不居何。帝令範修于清涼。範舉同門定賢換也。曷為換賢。賢長於範也。書奏見換也。八月上皇出家。十月受沙彌戒于隆命。十二月改元十七也

十有一年春。夏。秋。冬十有一月辛未改元承德

承德元年十一月二十一改

十有二年春。夏四月大僧正覺圓寂。秋七月天皇幸法勝寺拜佛。冬

承德二年七月二十一帝幸法勝寺禮佛。幸拜常也。曷為書。褒也。曷為褒。法勝太上皇承命于延久而所建也。祝贊皇祚輔翼帝業皆是也。譬新主即位先謁廟堂。法勝之寺鎮護之宇新主之拜猶如彼。褒帝之承先志故書。然何暮。士庶暮王者不暮

十有三年春正月沙門覺行為親王。夏。秋八月戊戌改元康和。冬

康和元年正月仁和寺覺行冊親王。行承保之子皇子。出家後為親王自行始。俗曰法親王。八月改元二十八也

十有四年

康和二年

十有五年

康和三年

十有六年春。夏。秋七月慶尊勝寺。天皇幸之。沙門覺行為特進。八月戊子道后歡子崩。冬

康和四年七月二十一尊勝寺成。帝幸慶之。覺行之特進開眼尊師賞也

十有七年春。夏。秋。七月慶讚大藏經于法勝寺。冬

康和五年七月十三慶大藏經金書也

十有八年春二月甲寅改元長治。三月尊勝寺灌頂院成。天皇幸之。夏四月大僧正隆命命聽牛車。秋八月講宸書法華于宮中。九月大僧正隆命寂

長治元年二月改元初十也。三月二十四構灌頂院于尊勝寺。修結緣灌頂。仁和之覺行為大阿闍梨。四月隆命牛車。依加上皇疾也。八月宸書妙經啟八講席

十有九年春二月修八講于鳥羽官。夏六月大僧正增譽聽牛車。秋。冬
　長治二年六月增譽牛車依加帝疾也
二十年春。夏四月庚午改元嘉承。秋。冬
　嘉承元年四月初九改
二十有一年春。夏。秋七月癸卯天皇崩。冬
　嘉承二年七月十九帝崩。

天仁皇帝

元年春正月夏四月。秋八月甲辰改元天仁。冬十月
　天仁元年戊子正月。不書即位去歲十二月初一也。帝寬治長子。
　諱宗仁。八月改元二十七也。此歲當徽宗大觀二年也
二年春正月沙門範俊為僧正。夏。秋。冬
　天仁二年
三年春。夏五月慶讚大藏經于法勝寺。天皇幸之。秋七月庚戌改元天永。冬
　天永元年五月十一上皇慶金書大藏於法勝寺。帝預焉。七月改元
　十三也
四年春。夏五月置三十講于法勝寺。秋。冬
　天永二年五月法勝寺三十講二十一也
五年春。夏四月僧正範俊寂。秋。冬
　天永三年
六年春。夏四月追興福眾群。秋七月己丑改元永久。冬
　永久元年四月睿山與興福爭。相徒悉寺入都。朝廷訝其多眾遣官
　使諭歸。南眾不肯與官使交鋒。不書戰痛也。七月改元十一也
七年
　永久二年
八年
　永久三年
九年春。夏五月沙門行尊為僧正。秋。冬
　永久四年
十年
　永久五年
十有一年春。夏四月丙辰改元元永。秋九月太上皇慶讚大藏經于熊野神祠。冬十有二月慶最勝寺。天皇幸之
　元永元年四月四改。九月初七太上皇幸熊野山慶大藏。上皇幸熊
　野已三回。至此有是慶。十二月十七最勝寺成。帝從六宮百司幸

慶
十有二年
元永二年
十有三年春。夏四月庚辰改元保安。秋。冬
保安元年四月十改
十有四年春。夏。秋。冬十有一月左僕射源俊房薨
保安二年閏五月初二台徒燒園城。不書繁也。公卿之薨多。曷為書。源公深我也
十有五年春。夏。秋。冬十有二月置灌頂院于最勝寺
保安三年十二月十五慶最勝寺灌頂院
十有六年春正月壬午天皇禪位于皇太子。夏。秋。冬
保安四年正月二十八禪位。

天治皇帝

元年春正月。夏四月庚戌改元天治。秋七月。冬十月。太上皇幸高野山
天治元年甲辰正月。不書即位去歲二月十九也。帝天仁長子。諱顯仁。四月改元初三也。此歲當宣和六年也
二年春正月大僧正寬助寂。夏五月僧正行尊加大。秋七月聽牛車。冬天下放生
天治二年
三年春正月戊子改元大治。夏。秋。冬
大治元年正月二十二改
四年春正月沙門覺行為儀同三司。夏。秋。冬十月兩太上皇幸高野山
大治二年正月覺行儀同。太后寶塔慶讚賞也。十月兩上皇承保天仁也
五年春三月慶圓勝寺。夏。秋。冬十月慶讚大藏經于石清水。太上皇幸之
大治三年三月圓勝寺慶十三也。十月大藏慶二十一也
六年春。夏。秋。冬十有一月停興福玄覺主務。
大治四年十一月玄覺停務依眾擾也。
七年春。夏。秋。冬十月慶法金剛院
大治五年十月二十五法金剛院慶導覺行也
八年春二月丙申改元天承。夏。秋七月置八講于法勝寺。冬
天承元年二月二十九改。七月法勝八講。薦承保帝國忌也

九年春三月慶得長壽院。夏。秋八月戊戌改元長承。冬十月慶寶莊嚴院。天皇幸之。太上皇幸高野山

長承元年三月得長壽院慶十三也。八月改元十一也。十月寶莊嚴院慶初七也

十年

長承二年

十有一年春二月太上皇慶讚大藏經于法勝寺

長承三年二月大藏經金書也。常事不書。曷為屢書。慶藏功大也

十有二年春二月大僧正行尊寂。夏四月庚午改元保延。秋。冬

保延元年四月二十七改

十有三年春三月慶勝光明院。天皇幸之。夏。秋。冬

保延二年三月二十三慶鳥羽勝光明院。導師忠尋。呪願覺猷。帝及太上皇六宮百司皆預會。

十有四年春正月沙門定海為僧正。二月沙門玄覺為僧正。夏。秋。冬十月慶安樂壽院

保延三年春海覺二僧正出焉。近世僧正不書。曷為二月二書。異例也。凡僧正有正權。正只一員二師皆正故書。曷為二正。國家皇子或自胎孕或潛簉。咸以沙門神異者祝祚。及龍飛受大賞。號曰御持僧。海為帝御持。正月為正。覺為權在海前。及海超正。興福寺眾七千人入京訟海超授。因茲二月覺為正。時有兩正。南眾奏奪海復一正。朝廷不許優海之功也。正員為二自覺始。十月十九鳥羽安樂壽院覺行為慶導。聽牛車

十有五年春三月秬雨于鳥羽宮。夏。秋九月太上皇宿睿山。冬十月大僧正忠尋寂。十有一月僧正定海加大

保延四年二月二十三四條離宮火。二十四二條宮火。因茲三月十五詔定海修孔雀經法于鳥羽宮。十九朝天雨佢。其色黑。時為法効。七月初十池中生一莖雙華蓮。又為法効。不書史失修者也。九月二十六上皇宿中堂一七日。十一月定海為大僧正。醍醐徒海為初

十有六年春。夏。秋。冬十月慶成勝寺。天皇幸之

保延五年十月二十六成勝寺落

十有七年春。夏。秋。冬

保延六年閏五月二十五台徒燒三井

十有八年春二月慶歡喜光院。三月太上皇祝髮。夏。秋七月丙午改元永治。冬十有二月辛未天皇禪位于皇太弟

永治元年二月二十一歡喜光院落。三月初十上皇出家。法諱空覺。受戒僧正信證。七月改元初十也。十二月讓位初七也。

康治皇帝

元年春正夏四月僧正信證寂。辛卯改元康治。秋七月冬十月
　康治元年壬戌正月。不書即位去歲十二月二十七也。帝天仁第六子。諱體仁。四月改元二十八也。此歲當高宗紹興十二年也
二年春。夏五月天仁太上皇受戒于東大寺于睿山。秋八月慶金剛勝院。冬十月道皇次睿山
　康治二年五月十一上皇受戒東大寺。十二受戒台山。八月初六金剛勝院落。導師覺與。十月初三上皇次中堂次宿何異。次近宿久
三年春正月己亥改元天養。夏。秋。冬
　天養元年二月十八改
四年春。夏六月修仁王會百座于得長壽院。秋七月乙丑改元久安。冬
　久安元年七月二十一改
五年
　久安二年
六年春。夏六月道皇幸睿山。秋八月慶彌陀像于鳥羽宮。冬
　久安三年六月十七天仁天治二上皇幸台山。召座主行玄修七佛藥師法。八月十一營佛宇于鳥羽宮。安彌陀九像慶之
七年春。夏四月大僧正定海寂。六月講宸書法華經于鳥羽宮。秋七月道皇幸法性寺。冬
　久安四年六月十六延名德于鳥羽講上皇親書經王。七月十七上皇幸法性寺。常行不書。曷為書。藤丞相於法性寺延一百沙門慶新宇。上皇預會。褒君臣趨法事也
八年春三月慶延勝寺。天皇幸之。夏。秋。冬
　久安五年三月二十延勝寺成。皇帝上皇從百僚幸。慶導師行慶
九年
　久安六年
十年春正月戊戌改元仁平。夏。秋。冬
　仁平元年正月二十六改
十有一年春三月僧都覺任寂。夏。秋。冬
　仁平二年三月初一覺任逝。小官不書。曷為書。褒也。曷為褒。宮修多也。幾許修法。一萬日唱導六千座故書
十有二年春二月慶讚大藏經于熊野山。夏。秋。冬
　仁平三年二月金書大藏慶者十四也
十有三年春。夏。秋八月慶金剛心院。壬寅改元久壽。冬
　久壽元年八月初九慶金剛心院。改元二十一也。
十有四年春。夏。秋七月戊辰天皇崩。冬

久壽二年七月之崩二十三也。

保元皇帝

元年春正月。夏四月戊戌改元保元。秋七月天仁道皇崩。冬十月
保元元年丙子正月。不書即位去歲十月二十六也帝天仁第四子。
諱雅仁。四月改元二十七也。此歲當紹興二十六年也
二年
保元二年
三年春正月天皇幸法勝寺。夏。秋八月戊戌天皇禪位于皇太子。冬
保元三年八月十一之讓位也。

平治皇帝

元年春正月。夏四月甲辰改元平治。秋七月。冬十月
平治元年己卯正月。不書即位去歲十二月初一也。帝保元長子。
諱守仁。四月改元二十也。此歲當紹興二十九年也
二年春正月己丑改元永曆。二月皇太后落髮。夏。秋。冬
永曆元年正月十改。二月十七上西門院出家于法金剛院
三年春。夏。秋九月甲戌改元應保。冬
應保元年九月初五改
四年
應保二年
五年春三月庚申改元長寬。夏。秋。冬
長寬元年三月二十九改。六月初九台徒燒三井
六年春。夏。秋。冬十月東大寺修萬僧會。十有二月太上皇慶蓮華王院
長寬二年二月二十二興福寺眾於東大寺會一萬沙門讀壽命經。祝
聖也。十二月蓮華王院之慶二十二也。導師尋範
七年春。夏四月太上皇宿睿山。六月壬午改元永萬。醴泉出于蓮華王院。壬寅天皇禪位于皇太子。秋。冬
永萬元年四月二十三上皇宿台山一七日。六月改元初五也。七日
醴泉涌蓮華王院西砌。今尚為甘井。讓位者二十五也。

仁安皇帝

元年春正月。夏四月。秋八月戊戌改元仁安。冬十月

仁安元年丙戌正月。不書即位去歲七月二十六也。帝平治長子。諱順仁。八月改元二十七也。此歲當孝宗乾道二年也

二年春。夏。秋。冬十月沙門明雲為僧正

仁安二年

三年春二月壬子天皇禪位于皇太叔。夏。秋。冬

仁安三年二月十九讓位。

嘉應皇帝

元年春三月保元太上皇幸高野山。夏四月甲午改元嘉應。六月太上皇祝髮。秋七月。冬十月

嘉應元年己丑正月。不書即位去歲三月二十三也。帝保元第三子。諱憲仁。四月改元初八也。六月初七上皇出家。法諱行真。大僧正覺忠為戒師。此歲當乾道五年也

二年春。夏四月太上皇受戒于東大寺。秋。冬

嘉應二年四月上皇受戒二十一也

三年春。夏四月乙丑改元承安。秋九月停七大寺讓受。冬

承安元年四月二十一改九月止七大寺師資讓受。依與福寺眾請也

四年春三月沙門公顯為僧正。夏。秋。冬十月平太師清盛營法華道場

承安二年十月十五平太師營道場于福原。修法華法。道皇為大阿闍梨

五年春。夏。秋。冬十月慶最勝光院。天皇幸之

承安三年十月二十一皇母建春門院慶最勝光院。帝預會。

六年

承安四年

七年春。夏。秋七月丁未改元安元。冬

安元年七月二十八改

八年春。夏四月道皇受戒于睿山。秋。冬

安元二年七月二十七上皇受戒延曆寺

九年春。夏五月僧正明雲配豆州。六月賜赦。秋八月辛未改元治承。冬十有二月天幸蓮華王院

治承元年加州刺史師高其吏與台徒之在郡者有爭。吏治掠酷。其徒訟台山。台眾奏謫師高。官判緩之台眾喧訴。師高之父奏曰。明雲為地。時雲為座主。實不然。上皇怒編管豆州。五月雲發至近江。台眾議曰。雲公無罪。只是加州之讒耳。又夫雲公無咎受譴。豈非吾貽台嶽之恥乎。我等赴湖濱當奪而歸。台眾恐事不就。詣山王神祠告志。且曰。神若容議願見感異。時一童子狂呼

曰。我是明神也。我又患雲師之竄喜大眾之議耳。於是乎耆宿五百餘人擲所持念珠于神前曰。若所託不虛還珠於各主。童子便掇散珠一一付之。不有差悞。因此台眾逐至粟津奪而歸。台眾自山上接粟津。帝又聞雲之無罪。六月賜赦。八月改元初四也。十二月上皇慶蓮華王院塔。帝幸之

十年

治承二年

十有一年

治承三年

十有二年春二月癸卯天皇禪位于皇太子。夏六月遷都于攝州福原。秋。冬十有一月辛未復都。十有二月太師清盛燒南寺

治承四年二月讓位二十一也。六月初二平太師奉幼主遷都。睿山大眾捧狀奏新舊二京利害凡十七條。褒舊貶新。因此乎一月二十三翠華至自福原。六月遷都。曷為不日。都城不成也。寶字四年之遷逾歲曷為不日。雖逾歲不成同。初以仁皇子與源光祿賴政謀伐平太師。事發亡入三井寺。寺眾通書南京興福勠力助義。南寺許。五月皇子以三井地狹赴南京。太師發官軍二萬追擊皇子。皇子薨路。南眾疾太師挾幼主而行虐。屢鼓弄太師。太師大怒又發官師討南眾。南眾不降。官師放火。東大興福遭延燎而燼。書名去姓罪之也。賴政謀太師。我輩助義有道乎。君子曰。楚失也齊未為得矣。我輩聞命矣。太師酷虐源公誅之。何不得之。有君子曰。不善謀將之罪也。

養和皇帝

元年春正月。夏四月。秋七月戊子改元養和。冬十月

養和元年辛丑正月。不書即位去歲三月二十二也。帝嘉應長子。諱言仁。七月改元十四也。此歲當淳熙八年也

二年春。夏四月丁卯改元壽永。秋。冬

壽永元年四月二十七改

三年春。夏。秋七月丙戌天皇如西州。冬

壽永二年七月二十四平族奉帝出都。

元曆皇帝

元年春正月。夏四月甲戌改元元曆。秋七月。冬十月

元曆元年甲辰正月。不書即位去歲七月二十六也。帝嘉應第四子。諱尊成。四月改元十六也。此歲當淳熙十一年也

二年春。夏。秋八月甲子改元文治。冬
　文治元年八月十四改
三年
　文治二年
四年春。夏。秋八月道皇灌頂于天王寺。冬
　文治三年八月二十二上皇從僧正公顯灌頂
五年
　文治四年
六年
　文治五年
七年春。夏四月丁酉改元建久。秋。冬
　建久元年四月十四改
八年春。夏。秋。冬
　建久二年夏沙門榮西至自宋。不書不奉詔也
九年
　建久三年
十年
　建久四年
十有一年
　建久五年
十有二年春三月復慶東大寺。天皇幸之。夏。秋。冬問沙門榮西于相府
　建久六年三月十二東大寺復先。十一帝從百僚幸南京。源將軍賴朝嚴兵衛。導師僧正覺憲。呪願僧正勝憲。常復不書。曷為書。大役也。去歲興福之復亦大役也。曷為不書。君臣之異也。此歲榮西辯相府。言在傳中
十有三年
　建久七年
十有四年
　建久八年
十有五年春正月己酉天皇禪位于皇太子。夏。秋。冬
　建久九年正月十一讓位。

正治皇帝

元年春正月。夏四月戊子改元正治。秋七月。冬十月
　正治元年己未正月。不書即位去歲三月三也。帝元曆長子。諱為仁。四月改元二十一也。此歲當寧宗慶元五年也

二年
　正治二年
三年春二月甲午改元建仁。夏。秋。冬
　建仁元年二月十三改
四年春。夏六月置台密禪于建仁禪寺。秋。冬
　建仁二年六月尚書省劄賜沙門榮西。置三宗建仁寺。教授學者
五年
　建仁三年
六年者二月甲寅改元元久。夏。秋。冬
　元久元年二月二十改
七年春三月監造建仁禪寺。夏。秋。冬
　元久二年京畿風。流言集榮西。榮西。辯拆明切。因是建仁為官
　寺。得監造事在傳中
八年春。夏四月戊寅改元建永。秋。冬
　建永元年四月二十七改
九年春。夏。秋。冬十月丁卯改元承元
　承元元年十月二十五改
十年
　承元二年
十有一年
　承元三年
十有二年春。夏。秋。冬十有一月己酉天皇禪位于皇太弟
　承元四年十一月二十五讓位。

建曆皇帝

元年春三月辛酉改元建曆。夏四月。秋七月。冬十月
　建曆元年辛未正月。不書即位去歲十二月二十八也。帝元曆第三
　子。諱守成。三月改元初九也。此歲春沙門俊芿至自宋。不書不
　奉詔也。當嘉定四年也
二年
　建曆二年
三年春。夏。秋。冬十有二月壬寅改元建保
　建保元年十二月初六改
四年春。夏。秋。冬
　建保二年四月十六台徒燒園城
五年春。夏。秋七月壬戌中使問釋榮西寂。冬

建保三年六月晦西公語眾曰。孟秋初五我當行。都下喧傳。帝聞之。七月五遣中使問之。西對官使曰然。然西無恙。中使歸。未入宮西寂

六年

建保四年

七年

建保五年

八年

建保六年

九年春。夏四月丁丑改元承久。秋。冬

承久元年四月十二改

十年

承久二年

十有一年春。夏四月甲戌天皇禪皇太子懷成。秋。冬。

承久三年四月二十太子受讓。曷為不書位。六月東兵陷都。七月初九廢之。無即位儀。受禪不久而廢。不列皇圖故書名。

元亨釋書卷第二十六　終

元亨釋書卷第二十七

濟北沙門　師鍊撰

志一
　學修
　度受
　諸宗
　會儀
　封職

學修志一

竺乾古皇先生之設學也其要三焉。曰戒焉。曰定焉。曰慧焉。戒之為言也制心矣。定之為言也靜心矣。慧之為言也明心矣。三之者皆心也。故學即心也。心即學也。心之與學未始間隔。八萬之異途自是而出焉。三之者各有事理生養之異而其歸一也。何曰事文字之謂矣。何曰理法義之謂矣。何曰生聽習之謂矣。何曰養思練之謂矣。學又曰修。修者密也。學者麁也。修者延也。學者促也。雖延促麁密之異咸學也。三世之聖人自是而出焉。世之言教者。指羅漢以為無學者為未竭耳矣。吾曰等覺亦有學也。何也。羅漢之者究事生故世曰無學。未極理養故吾為有學焉。既究麁促故世曰無學。未極延密故吾為有學焉。以是視之學學之無也非修學之無矣。以修學而言十地皆未竭故。吾曰等覺亦有學也。何也。理弗窮故。養弗充故。密弗通故。延弗終故。我唯以佛地為無學。其阿羅呵阿羅漢梵音有異者是也。凡厥心之有為皆學修也。心之無為始為無學也。然則世之所謂有為者非吾之所謂有為矣。世之所謂無為者非吾之所謂無為矣。有學之與無學皆是也。或曰生知不學者不也。我古皇能仁氏生知之大者也。猶有之矣。問書選友聞定阿蘭。及窮餓麻麥六載雪山。蓋貽學修于吾人也。其布教鹿苑祇樹也。法句之誦習。頭陀之薰練。咸學修也。降而逮四日四依靡不從事於斯矣。東漸支那。亦皆是也。羅什入關三千負笈。慧遠在廬十八結社。又夫釋氏之為學修者禪門尤為朴略焉。豈直指單傳之法格乎。然古之人尚曰學坐禪學坐佛。又曰修證非無。染汙不得。是學修而醇質者也。又講有義龍律虎。禪有折床枯木。皆優稱也。我本朝則二域可謂季孟之間矣。北嶺撰註記之署。南京立得業之名。珠頭瓜熟而相識成。仁眼麻眯而性具明。皆勵學修之精也。加之定光之宮度見弘仁。增命之雛選在齊衡。皇王之崇勸為不輕耳。詳載本傳此不繁焉。今只舉三

國勤業之端由。為一代設化之標式。以蔽四眾之省察。凡踵釋門之士。未有外茲而入者矣。嗚呼吾黨之人勗之乎哉。

度受志二

實相無相也。豈云形質乎。無相實相也。不礙形質矣。頭而禿。衣而褐。法而戒。令而律。是釋門之表師也。先佛有菩薩聲聞二僧。只吾釋迦法中聲聞僧一而已。故文殊彌勒之高德也猶混聲聞眾。蓋濁世之人尚儀相也。諸大弟子如陳如。身子之儔佛言善來鬚髮自除袈裟著體。逮于慶喜以寶刀剃髮。乃得白四羯磨具足戒。自茲比丘之度儀備矣。尼者大愛道啟端也。而敬有八焉。戒亦倍焉。竝為世之福田。又有優婆塞優婆夷。此云清信男女也。頻婆娑波斯匿君之清信者也。護國給孤臣之清信者也。末利勝鬘夫人之清信者也。庵羅須曼處女之清信者也。是吾佛四部之眾也。如來成道十年樓至菩薩請築壇為比丘受戒。佛於祇園外院東南建壇。是印度之廣度也。永平十年佛法傳漢。十四年司空劉峻後宮陰夫人等出家。是支那之度始也。然唯受三歸而已。曹魏正元元年曇摩迦羅在洛陽立具足戒羯磨。朱士行為受戒之始。東晉建元元年尼淨檢於本法得戒。南宋元嘉十一年求那跋摩於南林寺建戒壇。為僧尼受戒。是震旦戒壇之始也。李唐中宗景龍初詔天下試經度僧。山陰大義誦法華中第一。自爾或五百紙。或百五十紙。經目不定。隨時改變。肅宗遭安史之亂國用罄。至德始宰相裴冕請鬻度牒。謂之香水錢。納百緡得度。度科大隳。富惰之民竝鏽而爭馳。貧進之士繫柅而淹遲。其後暫止即起。至趙宋而益滋。代宗敕大興善寺建方等戒壇由此大乘戒壇起焉。穆宗置泗州。敬宗立兩街。宣宗敕上都荊揚汴益築之。皆大乘壇也。又穆宗長慶元年幽州節度使劉總上表出家。帝不許。總以印付留後自剃髮為僧。以私第為寺。帝從其志賜大覺師號及僧臘五十。五代梁大祖開平四年吳越錢鏐幼子令因為僧。敕賜無相大師加三十臘。本朝之度始於司馬氏男多須柰。名德齊。女島鄉為尼。名善信。天平七年唐道璿來。善戒法。大安寺行表年七十三臘五十二就璿重受。天平勝寶六年鑑真入朝。於東大寺建戒壇。舊僧靈福等八十人重受。新稟甚夥。天平寶字六年敕西觀音。東藥師二寺築戒壇。度受博焉。延曆二十五年置年度科條。弘仁十年最澄法師上表乞睿山大乘戒壇。十四年義真始行羯磨。長曆之間慈覺智證兩徒爭軋。園城沙彌不得昇睿壇。三井明尊奏請戒壇于園城。長久二年五月敕尚書左丞藤經輔宣問園城戒壇立否於我。時法相之首經救。三論之長濟慶。華嚴之英良真。律之師灌昶密之主深覺。咸奉表贊許。唯台徒固執不允。爾後承保帝宣禮部尚書源隆俊賜給綍於園城

建戒壇。而臨行法事台徒燬撤。至今不成。元應之火攻我親視之可謂下策矣。所以歲當末後之五百。時逢乖爭之堅固乎。夫度有二焉。內外也。皆以戒為標。薙染於形戒律於心內度也。初二也。無薙染而受戒外度也。後二也。曰古之言度者前二而已。今并四眾何。亦後二未出塵累。曷度之有哉。曰梵語波羅蜜此云到彼岸。到彼岸者度也。踰生死流到涅槃岸之謂也。亦菩薩戒不言薙剃。而豈不至涅槃哉。吾佛何以曰戒波羅蜜邪。亦耶舍父唯受三歸。亦稱優婆塞。或五戒或菩薩戒通為清信。蓋在家之稱也。以小律儀言。度前二也。以摩訶衍而言。後二亦度也。而我分內外不得不判焉。此方之度潔白精密。案延曆詔十義通五。非震旦誦經之比矣。李唐香水之緇。趙宋清閑之緇。所未嘗聞也。安慧經業醇深而賜度。隆海問難拔萃而中第。中葉以降學業冗散度選弛緩。多孥之族出稚雛而補家產。窶約之民放丁壯而貪寺供。或草賊迫捕逮而來投。或孽子漏舉收而寄歸。佩刀而互剃。褻服而不染。是等之類吾法亡矣。戒又四家。二通。二別。初天下置戒壇三所。筑之觀世音寺西州民稟焉。野之藥師寺東州民稟焉。和之東大寺中州民稟焉。皆天平之間建焉。及睿壇興野壇衰。園城壇未就。正今又只三壇而已。三壇通也。又有三摩耶戒。禪門戒。二戒禪密各別授。不屬汎傳矣。然二家徒盛。二戒隨行。不為不傳焉。又壇戒多弊。動不時不期焉。有常和上恒闍梨哉。孱弱雛道。頭顱圓青右繞未充三匝左語已數十聲。持犯何開遮何。聚如雲散如星。國政雖清度門雖闊我徒不競君子大息。安得返誦經問義之古制。我黨復精業而省濫廁乎。至長慶開平之竊臘漫號者。不唯乖真軌而甚圮世綱。夫王者之動必率禮矣。苟任私欲何所不至之有。故先聖制禮則之。彼唐梁之二主只知寵其臣而不知率其禮矣。梵網曰。不問老少國王奴婢。先受戒者在前坐。後受者次第而坐。二主不委盍問我焉。知而不問與不知不問而行之者皆非禮矣。況吾道有軌。何不問。我老農老圃古之人皆問之乎哉。總因二子辭富貴而投我者善矣。惜乎受竊漫而不遜也。昔周襄王弟叔帶與戎翟謀伐襄王。齊桓公使管仲平戎于周。襄王大悅以上卿禮管仲。仲辭曰。臣賤有司也。有天子之二守國高在。若節春秋來承王命何以禮焉。陪臣敢辭。王曰。舅氏余嘉乃勳。毋逆朕命。仲卒受下卿之禮而還。仲可謂知禮矣。二子曷不若仲乎。曰。仲尼曰。管氏而知禮孰不知禮。子之言恐戾與。曰彼一時也此一時也。孔子亦曰。微管仲。吾夫被髮左衽矣。管仲豈可竟捐乎。上之所舉者三國之始種也。我繫年之者備資治表矣。今揭三朝度戒之緒。示四部受化所從。庶幾學者原始要終。若夫竭磨之法諸家各有軌則而存其人焉。

楞伽曰。一切法不生。菩薩摩訶薩不應立是宗。然者如來在世已有宗分者明矣。滅後瓜裂矣。小乘早拆十八部焉。摩訶衍亦有之。馬鳴龍勝立法性焉。護法清辯爭空有焉。其支派不勝紀矣。至震旦則空相播南北朝。禪性盛東西京。斯方有十宗。皆自竺支帶將來也。傳聞印度宗教殘缺。震旦又或不全。唯我本朝歷世崇奉。其間興衰者理之常也耳。而未嘗泯沒矣。今掇綱要列于後焉。

三論者。諸法蕩滌之深理也。采中。百。門。智之微言。抽龍樹。提婆之玄旨。排成實而立妙義。建法性而演真空。談二諦者包群機也。說八不者顯一性也。羅什之所祖述。生肇之所宣傳。熾于陳隋衰于唐宋。我本朝慧灌諭喝始矣。智藏系授長矣。為兩土之先馳啟四眾之初聽。近世不絕如帶。庶幾見整頹綱。

唯識者。諸法建立之精致也。昔慈氏大士微塵劫前所承稟矣。世親無著夜昇都史而聽。晝降閻浮而說。以三時括一代。以三性含萬法援瑜伽師地而脩飾。挾因明正理而潤色。談識智之轉成而精粹矣。分業報之造受而備足矣。戒賢忍疾而待那爛。玄奘忘苦而受天竺。慈恩弘於彼唐。道昭傳於吾國。昉教以降支派流溢。方今南京之地人神幽贊益煽講習云。

律者。比丘儀相之嘉範也。初世尊在鹿苑也。號令四眾。肅清三業。婁被彈呵。終聞開顯。如來深悲猶慮未來乘急戒緩之蕩。於堅林之夕扶律而談常。蓋五濁之機宜三學之階漸也。滅後優婆離集律藏而下一點。師師相付至僧伽跋陀羅眾聖點記出於弘度矣。而唐南山宣師遠取西天曇無德。前魏曇摩迦羅為祖。深明持犯盛行毗尼。故不同一紀三藏之偏學也。是以經行道陛足跌天人扶持。營立戒壇手築梵僧稱贊。戒業行事之疏鈔。懺悔教誡之儀文。靡不輔翼大道焉。勝寶之間鑑真來朝一模脫印。自此此土此宗昌矣。其後或微或興。天下今不乏其學。

華嚴者。如來始成之高趣也。杜順始之。康藏弘之。長者旁而扶。清涼斷而續。五教章以包一藏。四法界以攝群機。雖設因修專說果德。一一之理窮性命。十十之數表極圓。諸林舌端毗盧性海袞袞。善財腳下普賢毛剎塵塵。指舍利滿慈以為痘聾者。境界異根也。取童子婦人以為知識者。凡聖一性也。非天下之至大至廣。其孰能與於此哉。我本朝慈訓審祥親受賢首。至良辨而大振。今之言雜華者皆承于辨焉。

天台者。如來後融之妙旨也。慧文神悟憲章龍樹。智者倡之。章安輯之。二威緘默而守。荊溪駕說而行。其主也為本為迹。其訓也為權為實。其統也為圓為一。其分也為具為變。取三諦于中論而證瓔

珞。始五時于華嚴而成涅槃。立觀者列十境。發行者羅十乘。彌綸万法者八教也。錯綜十界者六即也。一界各具十界而百界生焉。十如互含百界而千如成焉。配三世間為三千法。分而成三千復而歸一念。即復而分。即分而復。一心之於三觀也亦復如是。非天下之至精至微其孰能與於此哉。最澄法師應乃祖之懸記全受而歸。根殖睿嶽覆蔭寰區。孫枝挺出補撑教門。初會昌之毀黜台文散失。五代攘奪殘闕未復。義寂師求遺文於高麗及我。高麗先送其書猶不備。長保二年(宋咸平二)寂照法師將信公問章入宋地。又持台宗諸書惠彼人。故慈雲南嶽止觀序曰。日本國圓通大師寂照錫背扶桑杯泛諸夏。既登鄮嶺解篋出卷。大矣哉斯文也。始自西傳猶月之生。今復東返猶日之升。照又呈問章於法智。智嗟嘆答釋。自此彼方欽我國台教之盛焉。昔天竺失起信論而久矣。奘三藏譯唐成梵流傳印度。彼高麗之書不全備。宋人慳缺疑半矣。及我書之至始驚邃師之無遺漏。又見問章益嚮此土之有人也。其後法智遣比丘就我多寫。由是視之。慈雲比我日升不惜言乎。

密者。如來事用之正印也。夫聖人用事之機不可得而測也。故以祕密而為言矣。聖人之有應也隨土而殊稱焉。密嚴究竟之域號曰毗盧。堪忍閻浮之地號曰釋迦。自性變化之異耳。未嘗有二矣。亞聖之士曰金剛手。周旋二主全獲祕印。鄭重傳持不輕與人。有龍猛者後而出焉。亦亞聖之才也膺楞伽之懸讖集達磨之大成。南印之地鐵塔之中神人衛護凡庸絕跂。於是龍勝擲芥子之微眇啟金剛之關鍵。是祕教之所以見世矣。龍智闍梨以長壽之質受密藏之訣。真子金剛智唐開元七年遠跨震旦。玄宗舘慈恩寺遷薦福。所至結壇灌頂。初四年善無畏來。又金剛手之孫也。其父達磨毱多年八百歲。玄宗已居西明寺稱為教主。二人傾蓋互相受授。其學益廣。智之徒不空其才跨竈。智臨沒令空見其師龍智。空承顧命駕鯨浪赴師子之國。覲龍智之祖。以故祕密之道大全於空矣。其法分於五摠於三合於二。二者胎金也。三者佛蓮金也。五者加寶羯也。胎建四重。金開九會。赫赫如也濟濟如也。三劫者修時也。六無畏者修位也。月之盈虧者證之階差也。而皆不同諸顯之位次也。護摩獻諸聖供四爐火熾。灌頂授輪王位五瓶水清。印明并持寶車兩輪馳逐。理事俱密金針雙鎖往來。杵鋒利銛干鏌猶鈍。鈴音和雅韶武皆瘖。其為要也主觀。其為修也主供。能供能觀。不換此身即階聖位。非天下之至上至高其孰能與於此哉。延曆之末傳教弘法一時異受。故有台密有東密。台亦有慈覺。智證之再稟。東亦有小野。廣澤之競傳。四派別流千支万帶。泛溢四海不知紀極。震旦之密衰於唐末絕於宋初。唯我日域轉久轉熾。南渡之後學台之清信士鎧庵吳克己撰釋門正統扶樹台教者也。言之曰。華嚴頓施別圓則無俟乎密。鹿苑專說小乘則

未易用密。唯方等般若二時欲轉小成衍及被接入別圓。則如來始於此時有顯密二輪之用。若夫法華開顯無小無大俱入一乘。所謂密者尚何施邪。唐末亂離經疏鎖毀。今其法盛行於日本。予嘗痛世人不學其宗而謾議焉。滔滔者鎧庵皆是也。台徒以鎧菴比雜華之李長者。何其容易發言乎。今見此評宛如衲鑿之不相逗也。豈瑜伽金剛之乘彼鎧庵之所弄觜乎。又以方等般若為密時者。自家五時之管封邪。又華嚴不俟法華何施之言皆不學之過也。殊不知二經共瑜伽之各一會耳。只其學密之者諳悉而已。

禪者。如來心性之玄賾也。昔婆伽梵三乘道徧四眾化盈。猶未得其人。末後金色尊者契證全付。是曰正法眼藏涅槃妙心。所謂教外別傳者也。四七相授至菩提達磨。達磨承西天之正統。創東震之宏基。捧盤歃盟叱六宗於堂下。探懷取物得一臂於雪中。見其辨珠智之發妙年。宜哉携履靈之彰滅後乎。二三稟系為曹溪。曹溪膺受桂蔭之洪業。示寓樵隱之微生。弗爭衣盂手拱重寄山嶽。不學文字舌翻大藏波瀾。曹溪已前此道如元氣氤氳而著人人不省矣。曹溪之後天象爛然率土無不景仰焉。初分而輪如也。次列而緯如也。後加而曜如也。蓋南嶽青原者兩輪也。臨雲溈曹法者五緯也。楊岐黃龍之加五家也。猶大陽大陰之成七曜矣。金雞之粟廬陵之米二輪之煦育也。天下無不取之以生焉。猶何云哉。今粗言緯曜之化成矣。夫玄要句語三之矣。科簡賓主四之矣。頭上雷轟一喝不及掩耳。目前電閃一棒無處轉身者臨濟宗也。納腳睦州門中門閉脚折。封眼靈樹函內函開眼明。三句語揮劒而不痕。一字禪嚼蠟而無味者雲門宗也。正中徧中設五位成三疊。東說西說推一位忌十成。玉顏無看黃閤簾下。寶車不碾紫痕苔生者曹洞宗也。三春回齒頰勝却鶖子之神通。百月列胷懷脫出應真之妙畫。用劒刃之上事行燃燈前機者溈仰宗也。言八識而異慈恩。用六相不類雜華。鼓吹而曲入別調。擬議則箭過新羅者法眼宗也。是緯之五者也。受乳哺於三角虎。見步驟於三脚驢。其道難容受也謂之粟棘蓬。其機難透脫也謂之金剛圈者揚岐也。竭盡[泳- 永+防]潭之死水。皷起智海之洪濤。坐一榻而應四來。立三關而接万衲者黃龍也。是加兩曜而七者也。赤縣之域不承緯曜之照臨者未有之矣。非天下之至純至極其孰能與於此哉。初昭公稟三藏之密付。道璿有行表之別傳。義空得鹽官之正派而來。慈覺受蕭氏之祕授而返。然而四傳不嗣閒爾無聞。後三百年建久之間建仁西公單傳全提。逮于寬寶爾隆二師鼓行東西。此方殿傳。雖恨遲暮百數十歲鬱為強宗。西積翠之裔也。爾隆揚岐之胤也。北地亦有新豐之微派。天下之曰禪者三家矣。方今元國之禪亦此三而已。餘先泯矣。

上之七是此方之名宗者也。又有淨土焉。有成實焉。有俱舍焉。斯三為寓宗。譬國之附庸焉。而各皆有宗矣。七家之者挾而糅用。蓋俱成二宗亦能敘置三寶四諦。攝諸名相而設于理者成實也。界根世業聖智。定破事理兼施者俱舍也。凡三乘之階位。三界之成壞。道法之修證。業惑之伏斷。棊布星列無不畢見矣。故七家之者取焉。昔有學員中世而廢。學者又陋其小徑而不名家也。淨土一宗或大或小依修者而然。無祖宗之定系故也。始韋提希遭逆子之難。如來愍而開十六觀想。是所以淨土之建也。其餘修多羅散見不一焉。東晉慧遠結蓮社於廬阜。支那樂邦之址也。逮李唐善導盛行之廣被緇素。又諸宗碩德參而修之。所謂智者向西而稱贊。杜順歷郡而勸諭。圓照密修。雷峯遊目淨殿。慈覺勸會。普賢入名勝場。雖勤崇奉皆旁資之。是附庸之謂也。本朝空也師倡之。猶導之於唐。源信。源空繼而助之。雖廣行四部而無統系故今為寓宗。宋地又此宗熾無統系者與我同焉。

七家之徒互相毀呰。非三論者曰。幾泯絕矣。非唯識者曰。不用他典。非律者曰。傷束縛矣。非華嚴者曰無伏斷分齊。非天台者曰。權實偏取。非密者曰。緩事而放。非禪者曰。任性而誕。如是之類多矣。夫物咸有弊。弊者迹也。達人大觀而不見迹矣。嗤嗤之者徒而呶呶焉。彼震旦者三論密亡者久矣。唯識賢首殆于絕矣。言佛之者只三家為全耳。國家自始傳來未嘗隤頹。其間有弛衰者其徒之辜也。我謂此土大乘醇淑之疆者不誣而已矣。

會儀志四

易曰。亨者嘉之會也。傳曰。某所亦某都會也。然者會者通聚之謂也。夫物在局必塞。故聖人通之矣。在獨必孤。故聖人聚之矣。會之時義大矣哉。牟尼覺王之御於西印也嘉都之大會也。一說也梵釋聖凡遝沓而聽矣。一餐也菩薩聲緣排列而食矣。是曰二輪。必於會焉。二者相轉屬。所謂食輪法輪也。其轉處或山林僧伽藍。或王宮臣民家。未嘗單說獨食焉。畢食而有說。請說而設食。如來又不忤人情矣。又夫物集而無儀則亂焉。故會必嚴儀矣。吾法三千之儀尚不失於獨屏。況聖凡之大會哉。匿王宮掖之齋。文殊分領聲聞菩薩。力士城林之供。純陀最冠釋梵王臣。是會之有儀而嚴者也。又有般遮于瑟此云無遮會。身毒之風俗常設焉。聖凡上下賢愚通聚而無間。故曰無遮。嘉會之都會而不忌之者也。東漢永平十四年正月南岳道士褚善信率五嶽八山道士六百九十人上表與我角試。十五日明帝幸白馬寺。百官咸會焉設三壇。東壇道士置經子符籙。西壇摩騰安像經舍利。中壇奉饌食奠祀。道士遶壇泣曰。主上信邪玄風失

緒。敢置經籙於壇以火取驗。即縱火悉成燼。道士相顧愧赧。及焚佛經五色光徹天表。薪盡像經儼然。摩騰踊身空中現諸神變。竺法蘭出和雅音敷宣佛法。天雨寶華大眾欣說。上元燒燈起於此焉。東晉元帝大興元年召沙門竺潛入內殿講經。以德重令著屐登殿。劉宋高祖永初元年設齋內殿。令沙門道照說法。嘲金三萬。求那跋摩居祇洹寺講華嚴經。文帝日率公卿集座下傾聞。孝武帝大明六年四月八內殿灌佛齋。蕭梁武帝中大通元年京城大疫。帝於重雲殿為百姓設救苦齋。復幸同泰寺設四部無遮會。陳陳武帝永定三年大內設仁王大齋。文帝天嘉四年於大極殿設無碍大會。後主至德二年召智聚法師。於大極殿講金光明經。李唐懿宗禁中設萬僧齋。帝升座讚唄。長眉沙門來應供凌空而去。趙宋神宗元豐三年正月設千僧齋於大內。施千袈裟。千金剛般若。薦慈聖大后福。震旦之會儀甚多不暇備舉。本朝敏達十三年蘇馬子營殿設大齋會。爾來斯儀尤盛。率見資治表矣。夫宮禁者雲天也。凡庸不可階矣。雖王者無外。爭柰九重深密而多屏闈何。然設無遮會也隸皂步丹墀矣。啟安居講也壞色排玉臺矣。皆吾道之賸烈也。文永之間宋沙門寓洛。見宮中最勝會嘆曰。偉矣哉儀也。至尊之崇佛也宋地未有之矣。銀蕃之秦口恐不得併吞焉。吾國蔑如也已其殆焉。斯方神靈忍坐視哉。德祐二年宋祚果絕。然我文弘之二蕃寇佛神戮力為援焉。戈矛纔交風浪俄激。千艦萬卒一時破溺豈非國家信敬供祀之所由乎。

封職志五

佛者富貴之極備矣。華藏世界其封富矣。果滿妙覺其職貴矣。及應於閻浮尚受剎利之種。當輪王之位。而視若脫屣矣。乞佗而食依人而庇。其旨深矣。夫佛之有為也為他而非自矣。若其自者無為也。無為者實際也。實際無云為也矣。其深旨之者五焉。勢位妨外故避之矣。利祿蠹內故避之矣。銷宿殃故避之矣。期大果不顧小利故避之矣。為世福田故避之矣。斯五者吾佛貽於吾人也。吾人之於五者也始四者自也。後一者佗也。其自者避而又避之矣。其佗者避自而受佗矣。避自故剎種輪位皆脫屣也。受佗故食佗庇人皆福田也。是所以吾人之有封職也。而若自有者雖針草為難消矣。若保他者雖巨萬又恬如矣。屏莎之五百車。須達之百億金。多多益佗我不干矣。初如來置上座。寺主。維那故身子冠鹿苑之座。飲光知鷲嶺之事。又文殊時時主綱紀。和上阿闍梨早見梵網矣。國師。論師。三藏。尊者。共西域之稱也。至震旦益繁衍矣。不唯封給也。加之以職位。可謂渥寵矣。不唯僧官也。重之以俗爵。蓋傷於敬矣。而又吾人之不得已也。又夫喪有賻寂有謚。職以僧正。僧統。僧錄。號以

國師。大師。禪師。是等之類多。今少出其端焉。西晉懷帝永嘉四年天竺佛圖澄至。後趙石季龍傾心事之號大和尚。乘輿升殿。東晉孝武寧康元年詔曰。法師道安以道德照臨天人。宜日食王公祿。所司以時奉給。安帝隆安五年鳩摩羅什居逍遙園。秦主姚興與三千比丘執經諮稟。時長安地僧尼塵至濫猥不軌。秦主令僧碧為國僧正檢校僧尼。秩同侍中給車輿吏力。法欽為僧錄。僧遷為悅眾。斑秩有差。各給親信白從三十人。南宋文帝元嘉十二年勑尼寶賢為尼僧正。二十年沙門慧嚴卒。勑賜錢五萬布五十疋。孝武帝孝建元年勑道猷為新安寺法主。明帝泰始元年勑道猛為綱領。賜月給三萬。令史四人。白簿吏二十人。車及步輿一乘。又詔僧瑾為天下僧主。賜法技一部(鐃磬之類)親信二十人。月給錢三萬。及車輿吏力。順帝昇明元年勑法持為天下僧正。南齊高帝詔法穎為京邑僧主。南梁武帝天監十六年勑沙門慧超為壽光殿學士。召眾僧講解經文。竝居禁中。內道場自此始。普通六年勑法雲為大僧正給吏力。南陳文帝勑寶瓊為京邑大僧統。南岳慧思賜大禪師。北魏明元永興元年封法果為輔國宜城子。神瑞元年加封忠信侯。又加封安城公。卒諡靈公。文成興安元年勑師賢為沙門統。和平元年詔曇曜為昭元都統。西魏文帝大統元年勑道臻為大統。北齊文宣天保元年拜法常為國師。勑曇延為昭元上統。二年詔置昭玄十統。以法上為大統。令史員置五十人。李唐受封爵者滋矣。太宗貞觀中封智威為引駕大師。玄宗開元三年詔一行為天師。代宗勑諡達磨圓覺大師。封不空三藏開府儀同三司肅國公。食邑三千戶。卒贈司空。德宗勑諡二祖慧可大祖禪師。又充圓照內供奉。開成元年勑雲端充左右街僧錄。宣宗大中三年勑知玄充三教首座。五代江南李主有導師號。趙宋初諡天台智者法空寶覺尊者。或有四字六字師號不遑枚舉。高宗遭金虜之連劫乏經費。建炎二年十一月勑賣四字師號價二百千。本朝推古三十二年觀勒始為僧正。德積僧都。爾來官位相次而出。大化元年置十師。白鳳十四年百濟常輝賜封三十戶。持統七年沙門法鏡賜田三十畝。寶龜三年置十禪師。延曆十七年僧階配官位。永保三年沙門性信加持進。凡繫年之者見于資治表。斯不繁焉。昔者孔子罕言利。況我輩乎。而立封職者令斯人知吾佛毫光之餘輝也。又夫聖王之舉不苟矣。大化寶龜之十師者北齊昭元十統之所自乎。僧正僧都皆是也。又趙宋賣號不能無議。嗚呼亂離之主助一時之國用。我尚恕。諸買之沙門為誰哉。比丘之浮虛至於斯矣。我按誅姦諛於既死之刀焉。昔漢武帝伐戎狄而國窶。始鬻爵。史毀之。唐肅宗逢羯獠之寇而販牒。祖述于漢武矣。宋之賣號出于二主乎。補一時之小厄貽萬代之大疵。惜乎三帝之短術也。我國家無是等醜。不特土俗之醇淑也。又奉佛者深之使然乎。

元亨釋書卷第二十七　終

(大日本國延文庚子六月有　旨入毘盧大藏攝州報國禪寺住持比丘單況謹募眾緣恭為今上皇帝祝延　聖壽文武官僚資崇　祿位國泰民安命工鏤梓興大藏經印板共行一部計三十卷旹永和三年丁巳八月　　日謹題)

元亨釋書卷第二十八

濟北沙門　師錬撰

志二

寺像六

向原寺
四天王寺
元興寺
大安寺
頂法寺
禪林寺
犬寺
崇福寺
興福寺
神願寺
長谷寺
東大寺
石山寺
葛木像
鵜田寺
招提寺
西大寺
粉河寺
神護寺
慈氏像
村崗像
勝尾像
鞍馬寺
清水寺
山王像
園城寺
貞觀寺
感應寺
圓教像

蟹滿寺

寺像志六

毗盧覺皇身土不二。遮那智帝珠綱無礙。逮迦文法王之統御忍界也。鬼驅而竹林始焉。外伏而祇園次焉。世尊晩年安居忉利。優填王不耐思慕。刻牛頭奉之。毗舍離者鑄金。僧訶羅者琢玉。印度之寺像寔繁矣。摩騰入漢劉帝創白馬。僧會來吳孫王營建初。漢桓鑄黃金。梁武聘赤檀。仲暉紵像每夜行道。平等石軀終日俯首。支那之寺像不可勝記也。又夫僧伽藍。阿練若。道場。精舍之號不一。而惣言寺何乎。其亦有說焉。永平十年騰蘭西來。明帝舘鴻臚寺。十一年勅雒陽城西雍門外立精舍居之。初以佛倚像。舍利。梵夾載白馬而至。故名白馬寺。蓋鴻臚者典客之官。鴻聲也。臚傳也。傳聲贊導九賓也。寺嗣也。官屬相嗣治事之所也。以沙門之始居立為號也。故比丘所庇皆官宇也。是以宏基鉅構非菴廬之比。梁立光宅。魏造永寧。唐建西明。宋闢慧林。廣壯嚴麗與宮闕角逐者是也。本朝之製二規如彼。稻目元基八耳溥作。皇王資運祚。相將昌家業。靡不繇斯。凡寺像之興廢者國家之盛衰也。像設之靈。基興之異。不成世之福田盪人之情偽者鮮矣。故今采尤著者列于後焉。向原寺者。欽明十三年十月百濟國聖明王貢獻釋迦銅像。天皇宣問群臣。可拜不。物尾興中鎌子等皆沮之。唯蘇稻目贊成焉。天皇賜像于稻目。稻目大悅安小墾田家供養。後捨向原宅為寺置像。是本朝寺院像設之權輿也。

四天王寺者。用明二年八耳皇子率官師討物守屋。官師三却。皇子斬白膠木刻四天王像安髮中發大誓曰。官兵得勝當建護世四天王寺。守屋亡。乃於玉造岸上營寺安四王像。分物氏資產納寺。推古元年移難波荒陵東。故曰荒陵寺。又曰敬田寺。南北一里東西里餘。有池曰荒陵池。青龍沔焉。昔釋迦文佛因地轉法輪於此。爾時皇子為長者聽受供養。故遷此地。寶塔大殿對極樂界東門。皇子拔髻髮六莖。加佛舍利六粒藏塔中柱表救濟六趣也。

元興寺者。上宮太子討守屋時。蘇馬子又誓營寺。故於飛鳥地創之。推古四年成。始曰法興寺後改焉。天皇設無遮會慶之。於是紫雲如蓋降覆殿塔。變為五色。或作龍鳳形。太子曰。天感造寺故有祥雲。

大安寺者。推古二十五年太子豐聰入定見來世皇運。出奏曰。季葉帝統多艱虞。乞建寺鎮之。帝諾。乃營寺熊凝村。二十九年太子疾病。顧言。以熊凝寺侈新。舒明十一年移百濟河側。改號百濟大寺。取材神林。神嗔火寺。皇極元年天智七年屢構修。天武十二年

移高市郡。改曰大官大寺。和銅三年遷平城。天平元年上欲侈新求宏規。沙門道慈獻西明寺圖。上大悅加鉅構。所謂印度祇桓精舍以兜率內院為準。唐西明寺以祇園為準。今大安寺模西明云。

頂法寺者。昔淡州海濱有朽篋。順浪而來。聖德太子適游濱渚見此篋啟之。有如意輪觀自在像。悅而奉持常不離身。爾後營四天王寺采材諸所來此地。偶浴泉水太子脫衣。便解像置槲樹枝間。浴已取像。像重不上。太子恐對像祈求。其夜夢我為汝所持已七世矣。今又緣在此地故爾耳。太子欲構宇安像。時一老嫗至。太子問曰。我思造殿宇。近有材乎。嫗曰。此地傍有大杉。每朝紫雲覆之。恐靈材與。太子翌早伺之。果如嫗言。太子便斬創之。其杉甚大不容他木一株而成。其宇六稜以安像焉。桓武帝定都此州。官司畫城路。是宇當途。官司患之。於是乎黑雲下垂覆宇。乃躍北而避之其遠五丈。故名其路為六角焉。取此宇也。俗又名堂矣。或曰。此像高麗國光明寺像。本國僧統胤令太子迎之。長一尺二寸。

和州禪林寺者。俗號當麻寺。用明帝第四王子麻魯古因兄豐聰王子訓所創也。推古帝舉為官寺。初號萬法藏院。在內州山田鄉。白鳳二年麻魯王子得瑞夢移于當麻。當麻者役小角之家地也。天武帝聞夢事。勅刑部親王諭于小角麻魯王子伴刑部親王至役所。役感靈夢欽皇詔。又喜二王子之來。便捨其地為伽藍。十年春二月寺成。改名禪林寺。落慶導師慧灌僧正也。小角曰。我先高賀茂間賀介及渡都岐有山川數百里。今皆迴施三寶。具如大寶三年六月記。其後天平寶字中僕射藤拱佩有女。性無世染不納聘禮。專志安養。七年六月入寺薙髮。誓曰。我不見彌陀真身不出寺門。其志確乎不拔。數日一比丘尼至。不知從來。儀相麗偉。語曰。我令汝見淨土覲彌陀。須集百駝蓮莖。於是乎新尼奏于朝。詔使送蓮莖。二日而滿數。化尼自折莖取絲。穿新井濯之五色燦然。又數日一女來。容貌端麗。問化尼曰。絲成否。對曰成。化女得絲於殿之西北角織之。機杼軋軋。始于初更終于四更。其幅一丈五尺。以藁三把浸油二升為燭。化女捧授化尼。化尼與新尼。淨土眾相嚴麗備足。新尼大悅。又以無節竹為軸。蓋長竹兩節之間耳。又可怪焉。化女忽然不見。化尼作偈禮圖曰。往昔迦葉說法所。佛事新起又有故。感君懇志我來此。一至是場永離苦。新尼問曰。善哉善知識從何來耶。又向婦人為誰。對曰。我豈異人乎西方教主也。向女觀音太士也。言已凌空而西去。新尼自是精修益勤。寶龜六年三月十四日安坐念佛逝。染井側有精舍。昔天智帝時其地夜夜有光。帝使使見之。三大石形似佛像天使復奏。勅刻三石作彌勒三尊像。其上架殿庇之。俗以近染井號染寺。役小角殿前栽一櫻樹曰。佛法沮櫻樹枯。自爾以來舊枝漸朽新梢萋秀。枝葉鬱茂花果鮮麗。見今存焉。

播州犬寺者。昔蘇入鹿大召兵亡上宮太子之屬。播有枚夫者。從軍。枚夫有妻好。枚夫之僕以間潛通。既而枚夫歸。僕恐事覺受誅語主曰。山中有一所鹿猪之所集人未知我適山行見之。我願與君二人潛往獵之。不令佗人知。若人有知非鎮長君之有矣。枚夫大喜。枚夫善射畋素養二黑狗。便與二犬及僕入山中行數十里。僕上高所彎弓架矢曰。我昔主君。比來匹敵也。此山無獵所。我紿君至此也。此一箭可得君命。不知君有所思乎。我雖奪命能濟君身後。枚夫曰。甚矣我之衰也。我未知此事餘又何言乎。但有一事願子且待須臾。枚夫腰帶畋粮。解包呼二犬分粮為二各與之。便撫二犬曰。我畜汝等者有年。恩意宛如子弟。此飯是我之餐也。今與汝等。我有一言汝等聞之。我今死於此。汝二犬一時囓其屍莫令有遺餘矣。所以然者。我自少壯得雄武之譽。故又逼驅從蘇氏之軍也。耻今為僕隸所紿空死山中。國人競來定見我屍指笑哀愍。是我之大患也。故我欲二狗盡我屍。二犬不啜垂耳而聽。言已一犬高躍囓斷僕之弓絃。一犬又躍嚼僕喉而死。枚夫將二犬而返家。乃逐其妻。又語親屬曰。我因二犬得全命。自今立二狗為我子。我之莊田資財皆是二犬之有也。畜齡短促不幾二犬自斃。枚夫曰。我鄉以二犬為子付資財。今其殂矣。前言不可渝也。便捨田貨建伽藍。安千手大悲像薦冥福。祠二犬為地主神。此像靈感日新。野火四面而來。伽藍無恙凡三度。桓武帝聞之勅為官寺。捨田數頃。

崇福寺者。天智帝初欲創伽藍。求勝地未得。七年二月三日夜夢一沙門奏曰。西北之山有靈區。帝俄覺。于時四更也。便出殿陛望西北火光細騰高十餘丈。明旦勅侍臣物色光所。侍臣反宮奏曰。光所有屋廬傍掛瀑布。有優婆塞經行念誦。臣等問名不言。其容儀以非常人。帝聞之乃幸其地。優婆塞出迎白帝曰。此地古仙靈窟伏藏之處也。言已不見。帝感喜立精舍。

興福寺者。和銅三年三月藤丞相不比等於和州平城建之。其大殿之像大織冠之所造也。初皇極元年十一月蘇入鹿弒山背大兄王子弟。其後奢侈甚篡逆端露。宅曰宮闕子稱王子。中大兄王子(天智帝也)及中臣鎌足愁之。帝與輕皇子(孝德帝)及二人謀誅入鹿而恐事不濟。於是鎌足發大誓。作丈六釋迦像乞援。四年六月刺入鹿於宮中。自是藤氏繁延。是以不比等營寺安斯像。又鎌足之遺意也。弘仁四年諫議大夫藤冬嗣於寺建南圓堂。安不空羂索并四天王像。莊麗姝特。世傳爾時藤氏寢微。大夫營構願榮家族。果大夫登宰輔。藤氏益茂。

若州神願寺者。養老之間州界疫起。連歲旱澇。時比吉神祝屬有私赤者。歸佛乘捿山林。比吉大神化人來告曰。此地是我之有也。我受生鬼神苦報甚多。欲歸三寶出苦趣未由也。故屢行災癘耳。汝能

為我於此地營伽藍安佛像。沴菑自滅年豐民安。赤乃建精舍曰神願寺。後無災害。

長谷寺者。比丘道明沙彌德道(乃法道仙人也)勠力建。其像材者自近州高嶋郡三尾山流出霹靂木也。木之所至有疫災。漸漂流至和州葛下郡神河浦。道明欲取此木刻佛像而無資力。專心禮木祈求。金紫光祿大夫中書侍郎藤房前奏賜和州租稻三千束。乃刻十一面觀音像高二丈六尺。震雷破巖石為座方八尺。佛工稽主勳稽文會作之。或曰。此材者昔辛酉洪水自近州高嶋郡三尾崎流出橋木也。所至之處火災疾疫。和州葛下郡出雲大滿聞木事。思必靈材。發願欲刻十一面像。而此木巨材不可容易動。試繫繩引之。輕如片本。路人驚怪合力扶牽遂至和州城下郡當麻鄉。不幾大滿即世。此材徒歷八十餘年。其村里疫亦起。村民引棄長谷川上。又過三十年有沙彌德蓮。養老四年移置峰頂。蓮欲雕造而無由。朝暮向木悲泣禮拜。時藤房前奉勅與官租辨之。神龜四年成。屈行基僧正落慶。初刻像時。蓮夢神人告曰。此山北峰土中有大巖石。平正無瑕。鑿土立像。覺後往彼穿土。果有大石方八尺。上印足跡與像腳同。如夢言。安像其上。二事少有異。竝記傳疑云。

東大寺者。天平十五年十月十五帝於近州信樂京創之。鑄盧舍那佛銅像。長一十六丈。帝製發願疏普告天下。初有沙門良辯為帝重。勸帝營像宇。一夕帝夢良辯前身為支那比丘。求法赴天竺。到流沙有大河。辯無錢不得渡。淹留數月。帝時為渡子憐辯求法不言傭賃乃渡之。辯先身發誓曰。願爾來世必登王位。因此主日域。覺後帝創此像。十六年十一月於甲賀寺造像模。帝親引其繩。勅大富奏樂。十七年八月移和州添上郡改造郡有寺曰金熟。優婆塞金熟居焉故名之。持一執金剛神像。以繩繫脛捉之。念修晝夜不休。一夜像脛放光照宮。天皇驚恠勅尋光至此。中使以聞。乃召金熟問。欲求何事。奏曰。求得度。勅許之。四事供給。時人號金熟菩薩。帝以此地為勝區遷之。執金剛像今在羂索院。天平勝寶元年十月二十四日大像成。經年三歲。改鑄八度。殿高十五丈六尺。東西二十九丈。南北十七丈。東西兩塔各高二十三丈。十二月丁亥帝及聖武上皇幸寺禮佛。此日八幡大神入寺拜像。

石山寺者。聖武帝創東大寺。鑄一十有六丈遮那銅像。多聚金為薄。此時本朝未有黃金。帝語良辨法師曰。傳聞和州金峰山其地皆黃金也。師祈金剛藏王得金資銅像薄不亦宜乎。辨入金峰山持念。夢藏王告曰。此山黃金不敢自恣也。今示汝別方。近州湖西勢多縣有一山。如意輪觀自在靈應之地也。汝至彼持念必得黃金。辨便赴勢多。時老翁坐大石上釣魚。辨問曰。汝何人。對曰。我是山主比良明神也。此地觀音之靈區。言已不見。辨就其石縛廬。安如意輪

像。持誦不幾奧州始貢黃金。爾後刻丈六大悲像藏先像於中。亦造金剛藏王及執金剛神安左右。其像各八尺。當夷基趾地中得五尺寶鐸。益為靈地。
和州葛木尼寺彌勒銅像者。天平中官使巡城警夜。至寺前聞南原有悲痛聲。尋聲到彼。盜取像毀之。像為聲也。官使鞫勘送寺。
遠州鵜田寺藥師像者。寶字二年三月一沙門渡大井河。水底有聲曰。取我取我。沙門穿聲所而得像。高六尺五寸。左右耳朽闕。命工補之。其後時時像放光。
招提寺者。天平寶字三年八月鑑真法師薦聖武上皇所創也。初以皇子儀同出部王舊宅賜真。逮上皇崩成寶坊。諸公卿及沙門等共營。大殿者唐僧如寶建。安丈六盧舍那像。講堂者捨平城朝集殿而成。彌勒及二菩薩脇士唐法力所造也。食堂者藤仲公捨家屋。經藏者唐義靜造之。納佛舍利半合及佛菩薩像經律論一切寶物。羂索堂者藤清河施屋。安金色不空羂索像并八部神眾。又賢璟法師為國家書大藏四千二百卷庋之。
西大寺者。天平神護元年稱德帝建。鑄四天王銅像。長七尺。三像已成。只增長天王一像不成。改鑄六度。遂不就。至第七度帝親幸冶處。誓言。朕若因是功勳來世轉女身成佛道。手攬熟銅無傷損而像成矣。若不然手爛像不成。便以玉手攪洋銅。御手無傷。像便成。見聞無不嗟嘆。
粉河寺者。寶龜元年建。故老傳言。紀州那賀郡有獵者。姓大伴。名孔子古。常棲山谷屏身樹上。夜窺猪鹿而射。一夕山中有光大如笠。伴氏驚怖疑怪。即下樹欲見光處。進去髣髴無定所。如是現光三四夜。伴氏熟看乃知其地。猛省曰。吾非宿因爭逢瑞光。便就光處結庵。又思安得佛像。營精舍。居未幾有一童子乞宿伴家許之。童悅語曰。家主有何所須。我願加助報宿託恩。伴氏語瑞光事曰我此地思安佛像未得佛工耳。童曰。我是拙工家主若許願効小伎。伴氏大悅曰。我有二願刻像。一為法界有情。二我息任奧州吏途路夐遼。願安穩還鄉。伴氏延童見菴所。童曰。我於此菴中一七日刻像。其中間願莫來見。功畢吾往告。伴氏諾去。童入菴閉戶至第八曉聞叩門聲。伴氏出見無人。乃詣菴金色觀世音像千臂儼如。而不見童。伴氏喜恠自此投弓矢供像精修。其後河內澁河郡有佐大夫者。一子沉痾萬醫拱手。一日童子來舍大夫語病子事。童曰。我試呪之。即誦大悲陀羅尼病立愈。父母大喜賂童。童不受唯取一箸筒而出。大夫送門曰。恩意深不知謝。所住何處屢通音問。答曰。我住紀州那賀郡風市村粉河寺。語已辭去。不幾大夫牽婦子向彼至風市村。無粉河寺者。踟躕顧視。傍有一澗亘東西。沿流而下。河水甚白如粉漿。見林中有一宇。閉戶無人。便思念恐是與。未決偶曰

已沒。體勞疲開戶而入。無火燭。雖不見像以其佛宇採花置几而已。眾人共困睡。中夜像前燈盞自然點火堂內赫奕。大夫驚起見之千手大悲宛然。近看童所取箸筒挂施無畏之臂也。即知童子此像之應化。感嘆敬禮普告四來。於是伊都郡澁田村富家寡婦聞此事。捨住宅改精舍。爾來靈應日新。

高尾神護寺者。光仁帝受八幡大神之託所建也。初沙門道鏡受幸於稱德帝。天平寶字八年太帥慧美仲伏誅。神護元年鏡為太帥。二年授法皇位鏡。誇寵遇有昇大寶之意。屢感激帝情。帝欲禪寶位於鏡。先勅中使和清白八幡大神。神現形告曰。天下善神少而邪神多。善神不受邪幣。邪神貪邪幣。道鏡祭邪神覬寶位。邪神多黨令帝有是讓。然我國家日種相繼膺運。自開闢以來未廁他氏。道鏡豈發迹哉。汝還闕奏我意。又奏建一伽藍保護帝祚。亦絕如是濫窺。汝歸宮道鏡必加誣枉。汝莫恐也。我當助衛。清復神言。帝及道鏡果怒處流刑。清赴配過膽駒山。鏡使刺客伺山路。會雷電晦冥不能加害。四年八月帝崩。清遭赦。重奏神旨。光仁帝乃勅清創寺。初名神願寺。天長二年改號神護國祚寺。

紀州那賀郡慈氏寺大殿中像已成。左右二菩薩妙音法音未漆飾。經年臂落。沙彌信行居寺執役。見像臂墮以絲縛着其頸。寶龜二年七月行在殿內。半夜聞悲吟聲。其音妙細言痛哉痛哉。行巡殿尋求無人。累夕如是。行恠熟聞趁聲所先所縛之像也。乃呼沙門豐慶見之。二人歎異勠力畢工。

和州村崗寺三像者。沙門廣達。總州人。居金峰山。一日過桃花里秋河橋。忽橋下有聲曰。莫踰莫踰。達聞之見橋下無人。踟躕細看只有一木材。達取之作彌陀及觀自在。阿逸多三像。靈異日新。

勝尾寺講堂觀自在像者。寶龜八年堂成。九年九月日州沙門興日語座主開成曰。傳聞講堂已成未有像。我有八尺白檀香木。願捨為像材。成乃遣比丘豐南赴西海迎之。十年夏到寺而未有良工。十一年七月十五日比丘妙觀者來曰。我能刻像得否。成許諾。三日後僧俗童輩摠十八人伴觀來雕像。千臂千目莊麗端嚴。又加四天王像。凡五尊三十日而成。八月十八日妙觀合掌對像而化。所從十八人一時不見。時人曰。刻像之日一十八。像成之日一十八。刻像之人一十八。觀死之日一十八。靈應之數不虛設也。(國俗以十八日為觀自在日。)此像爾來感驗日新。正曆元年庚寅(大宋淳化元)宋商二人來。一台州人周文德。一務州人揚仁紹。二商曰。百濟國后妃有美姿國主愛重。未邁壯齡其髮早白。后愁之服靈藥求法驗。二事無効。王又憂之。一夕后夢日本國勝尾寺千手大悲靈感無比汝其祈之。覺後后悅甚。便向日本國作禮祈求。又夢日本國一山出光照掖庭。夢覺后

髮紺碧過始。以是寄我等二人以閼伽器。金鼓。金鐘等什物。遙獻彼像。不知勝尾寺為何處。大宰府使使者送到寺云。
鞍馬寺者。大中大夫藤伊勢人之所創也。大夫歸佛尤篤。常曰。安得勝地建道場安觀音像。延曆之間夢往城北之山。有翁鬚髮皤皤。告曰。此地甲天下。山似三鈷杵。常出五色雲。汝營練若利益無量。大夫夢中問曰。誰乎。翁曰王城鎮守貴舡明神也。覺而未知何處。大夫有白馬常所騎也。裝鞍語曰。昔摩騰法蘭載舍利像經白馬來震旦。然者白馬者靈畜也。汝定知我夢地。乃放馬從一童子。其馬向城北而去。至一山阿駐茅草中。童還告此事。大夫往見其地宛如夢中。適於茅裏得毗沙門天像。創一宇安像。故號鞍馬寺。大夫以為。我欲安觀音像。今只置天像願未果乎。其夜夢。童子年十五六許。告曰。當知觀音多門名異體同。覺後解疑。大夫後日又營一堂安觀自在像。今寺西觀音院是也。其後峰延法師居此。益傳靈應云。
清水寺者。寶龜九年四月沙彌延鎮(或曰報恩)有夢事泝淀河而行。見一支派有金色流。鎮窮水源至瀧下。側有草菴白衣老翁居焉。鎮問。住此幾年姓名為誰。答曰。吾名行睿隱約此地已二百歲。持千手千眼神呪。我待汝者久。今來也。我有東州之行未果。汝暫替我棲此。此地又好建練若。乃指庭前株柟曰。我以是擬大悲像材。吾若遲歸汝先營之。言已向東而去。過期而不返。鎮出菴尋求不能相見。一日到山科東峰見翁履。鎮取履而歸。思念恐此翁大悲之應現也。遺履者示其迹耳。便欲刻像而無資。荏苒歲月獨自對材。延曆十七年鎮守府將軍坂田村獵鹿來此。因憩庵。鎮語上事。將軍感嗟與妻善高子謀。移自宅為寺。刻像置焉
睿山山王院千手觀音像者。傳教大師之所安也。昔近州有淨信女。欲造觀音像求良材。于時比良山有一木時時放光。女聞之伐其木為材。而未有巧工。偶一老翁來。語女曰。我蘊薄伎能成汝願。女悅奉材。像成翁不見。其長五尺感應無比。教得像安此院。智證大師後居於此。所謂山王院大師者也。
園城寺者。大友與多之所建也。初天智帝勅太帥大友氏。移崇福寺建此地。安丈六彌勒像。天皇有夢。又勅太帥還遷本地。太帥薨。其子與多承顧命奏天武帝創之。亦是太帥之家基也。天安二年圓珍法師以唐國傳來經藉藏尚書省。新羅明神現形曰。是日域中我已占勝地。師聞官建院置此書。既而珍與新羅山王二神及二比丘到寺問經始寺僧。時老比丘來曰。我名教待。年一百六十二。傳聞寺成以來過我壽者殆二十歲。現今有檀家之孫。乞問彼。待即呼彼人來。大友氏具說寺事。又曰。待公日者說師之誕育遊學。今朝言當來我需師者久矣。便以寺之四至契券併授焉。珍問大友氏曰。此寺曰御

井何。答曰。寺之西岩有泉井。天智天武持統三皇降誕時汲此井水為浴湯。俗因而號御井寺。珍聞此事見地勢宛似唐青龍寺。又思新羅明神言規為靈區。乃改御井為三井。曰取三皇浴井之事也。(御三和訓近)又曰。我[奭*斗]此水為三部灌頂之閼伽。至慈氏三會之期。故改三字耳。珍與二僧還詣闕奏三井事。勅造一宇名唐坊。移尚書省經籍置焉。(今曰唐院)又大友太帥所捨四至界畔依勅全歸。且免官租永充寺供焉。

貞觀寺者。貞觀帝降誕之初。大相國忠仁公與真雅法師謀建。護帝祚也。十六年二月二十三日設大齋會落慶。道昌為導師。惠達為呪願。延諸宗碩德一百員以備法儀。先勅王孫公子年少童子四十人習舞樂。至是日兩部童樂更舞迭出。凡樂部之舞支那高麗諸樂。及林邑天人等舞。皆盡奏之。一時盛事都人聳瞻聽。會後一百比丘各賜度者一人。

感應寺者。一演法師嘗持觀世音像。欲得勝地安之。廣求靈區。貞觀中到平安城東北鴨河西岸。于時此地搖震紫雲降垂。蓮花紛亂奇香薰郁。演喜而構伽藍。以故號感應寺。一日老翁持釣竿出河中。語演曰。我此地之主也。自今應為護伽藍神。我有神力能除魔障去疫癘。又結好夫婦調適產育。所謂牛頭天王者也。我好眠一歲三百六十日。只五月五日醒。餘日皆臥。端午之朝初起向天吐氣。其氣或為雲霞。或為雨露。觸萬不同。其所觸或為藥或為毒或為惡瘡或為疾疫。皆是有情之業感也。非我強為也。言已形隱。演錄神言奏朝。勅黃門侍郎藤長良。就其地七日夜行道念誦。以報神德。

書寫山圓教寺如意輪像者。性空法師庵居之初。傍有櫻桃樹。一日天人降來禮樹作偈曰。稽首生木如意輪。能滿有情福壽願。亦滿往生極樂願。一切眾生心所念。空斬其枝就其根株造如意輪大悲像。長一尺五寸。命安鎮行者刻之。於時異鳥翔集。其音似賀。又殿下清泉流出。病者飲之乃愈。

蟹滿寺者。在山州久世郡。有郡民合家慈善奉佛。有女七歲誦法華普門品。數月而終全部。一日出遊。村人捕蟹持去。女問。捕此何為。答曰。充飡。女曰。以蟹惠我。我家有魚相報酬。村人與之。女得放河中。歸家多貯乾魚。其父耕田中。一蛇追蝦蟆而含之。父憐而不意曰。汝捨蝦蟆以汝為壻。蛇聞言舉頭見翁。吐蝦而去。父歸舍思念。誤發言。恐失愛子。懊惱不食。婦及女問曰。翁何有憂色而不食。父告實。女曰。莫慮也。早飡焉。父悅受膳。初夜有叩門人。女曰。是虵也。只言三日後來。父開門。有衣冠人曰。依約來。父隨女語曰。且待三日。冠人去。女語父。擇良材固造小室。室成女入內閉居。三日後冠人果來。見女屏室。生忿恨心乃復本形。長數丈。以身纏室舉尾敲戶。父母大恐不得爭奈。半夜後叩聲

息聞悲鳴聲。頃刻悲聲又止。明旦父見之。大螃蟹百十手足亂離。蛇又被瘡百餘所并皆死。女開室出。顏色不變曰。我聞戶外大小蟹千百夾殺此虵。大蟹多歸小蟹死。今存者皆小蟹耳。然大於尋常。我通夜誦普門品。有一菩薩長尺餘。語我曰。無怖也。我擁護汝。父母大悅便穿土埋眾蟹及蛇。就其地營寺薦冥福。故號蟹滿寺。又曰紙幡寺。

元亨釋書卷第二十八　終

(大日本國延文庚子六月有　旨入毘盧大藏攝州報國禪寺住持比丘單况謹募眾緣恭為今上皇帝祝延　聖壽文武官僚資崇　祿位國泰民安命工鏤梓興大藏經印板共行一部計三十卷旹永和三年丁巳八月　　日謹題)

元亨釋書卷第二十九

濟北沙門　師錬撰

志三

音藝七

經師

聲明

唱導

念佛

拾異八

山背大兄王

榮常

諦鏡

太傅藤永手

大君氏

飛鳥貞成

賀陽良藤

粟田錄事

諾樂京女

大安寺側女

賈盤島

蓼原村盲女

熊野村比丘

總州大守藤時重

江諸世

慧勝

藤常行

仲算童

役夫賀能

德滿

大峯比丘

音藝志七

楞嚴曰。此方真教體清淨在音聞。聲韻之作也有以矣。吾佛六十四種頻伽梵音令人樂聽。豈非攝化之巧便乎。故聲論聲明盛播于竺也。及陳思王感魚山之唄。支那之域音藝起焉。相次而見于傳矣。本朝以音韻鼓吹吾道者四家焉。曰經師焉。曰梵唄焉。曰唱導焉。曰念佛焉。初與三科于梁傳矣。唐宋刪之。今并二四者捃系而得。吾群四者有伎行之異是廢立之所以由生也。盖四者皆行也可立焉。流而為伎不可不廢也。古者四者皆行也豈可不立乎。今者伎也欲不廢不可得矣。然則梁唐之廢立者不得已乎。今之撰者全備吾法之異塗也。又夫移風改俗世樂有之。況法音方便之摠持乎。又四家之徒雖薄毗尼。不得不為法事之一莊飾矣。故我正傳之外于此而出焉。經師者持誦也。亘顯密焉今之稱者資于法本也。昔者諸師皆挾勤焉。梁傳取尤者立科。吾本朝又如彼之初。故養老三年正經師詔曰。須式唐道榮。我勝曉。語在資治表是以光空清雅聞者久不倦。春朝哀婉獄吏泣而捨。然未名家矣。長保寬弘之間道命法師以雅麗之音得感靈之異。其事已載靈怪篇。命之後此業繁焉。然命又承延命。延命承陽勝二世不振。至命而昌。命傳隆圓。圓傳隆命。命傳增譽。譽傳快實。實傳明實。實傳慶忠。忠傳能顯。逮寬元帝鄉真乘最愛諷經。有祐宗者。顯之嗣也。精于家業矣。荐奉天聽名施一時。華夷經徒慕効其法。又有信昌者稟命者十世。與宗齊名天下。諷讀者皆則二子。又王公善此業者比比在焉。門下侍郎藤公任親受命之音調名于時。後授定賴。承保帝召命之四世永覺承音旨。寬治天仁保元四聖系付鳴于臺閣。左僕射藤實定稟于天仁而傳僕射公繼。或曰宗寢病淹。子弟倦看養。臨亡之日諸子暫出。宗忽高唱曰。乘此寶乘直至道場。子弟傍聞曰。翁病少差乎。久無舉唱今偶聞焉快哉其後不繼。子弟曰。何其寡哉。相語共恠乃往父處雙手拱胷上安祥而逝。因茲而言。假名練若之徒又有昇脫乎。豈持誦之効與。惜乎賣伎而不事行乎。庶幾諸諷之人尚至于宗哉。

論曰。諷經之藝非王臣之事矣。君臣之間我不取矣。曰不然。漢孝元。唐明皇。歌曲之譽史稱焉。若又臣者不勝計矣。今夫此方君臣不歸佛乘已。歸即猶何言乎。況世尊之聲教。法師之功德。豈漢唐之游謳戲曲之比乎。我又分行伎之異。君臣之間豈伎云乎。

聲明者。印土之名。五明之一也。支那偏取曰梵唄。曹陳王啟端也。本朝遠取于竺立號焉。考古史。延曆二年有正梵唄之詔。然則古有之未立家也。承和之初弘法奏置聲明之度。其後寬朝善密唄。慈覺之遊赤縣也周旋十師之間。旁傳此業。爾來布護寰宇。覺傳智證。證傳相應。應傳淨藏。藏傳慈慧。慧傳源信。信傳覺超。超傳懷空。空傳寬誓。誓傳良忍。忍事已見感進傳。自居大原山盛唱此業。以為法事之莊儀。忍博索支派統于己。其受尋宴者五世。受瞻

西者四世。顯密聲明諸師音訣皆能括囊。忍深于聲明。一日披唄策畫墨譜。忽策中出光明。自此世推忍之美焉。繼其後者乏忍之感應。只受音韻。因是大原之地成梵唄之場。方今天下言聲明者皆祖于忍焉。

唱道者演說也。昔滿慈子鳴于應真之間焉。自從吾法東傳諸師皆切於諭導矣。而廬山遠公獨擅其美。及大法瓜裂斯道亦分。故梁傳立為科矣。吾國向方之初尚若彼。又無剖判焉。故慶意受先泣之譽。緣賀有後讚之議。而未有閥閱矣。治承養和之間澄憲法師挾給事之家學。據智者之宗綱。台芒射儒林而花鮮。性具出舌端而泉湧。一昇高坐四眾清耳。晚年不慎戒法屢生數子。長嗣聖覺克家業課唱演。自此數世系嗣陋陋。覺生隆承。承生憲實。實生憲基。朝廷韙其諭導。緩于閨房。以故氏族益繁。寬元之間有定圓者。園城之徒也。善唱說。又立一家猶如憲苗種。方今天下言唱演者皆效二家。夫諭揚至理啟迪庶品。鼓千百之眾布聞思之道。其利博如也。其德偉如也。演說之益何術如焉。爭奈何利路纔闢真源即塞。數它死期寄我活業。諂譎交生變態百出。搖身首婉音韻。言貴偶儷理主哀讚每言檀主常加佛德。欲感人心先或自泣。痛哉無上正真之道流為詐偽俳優之伎。願從事于此者三復予言焉。

念佛者持誦之一支也。修多羅中持于佛佛。此方局彌陀焉。或釋迦焉。其始與淨土同出。已具于上矣。元曆文治之間源空法師建專念之宗。遺派末流或資于曲調抑揚頓挫。流暢哀婉。感人性喜人心。士女樂聞雜沓駢闐。可為愚化之一端矣。然流俗益甚。動衒伎戲。交燕宴之末席受盃觴之餘瀝。與瞽史倡妓促膝互唱。痛哉真佛祕號。蕩為鄭衛之末韻。或又擊鐃磬打跳躍不別婦女喧噪街巷。其弊不足言矣。

拾異志八

予修佛史博視古記。其關涉之灼灼者皆綴于十傳焉。其餘斷事缺迹之系吾者又甚異矣。我不忍舍諸。庶幾不墜真化也作拾異志。

皇極二年十一月蘇人鹿率兵圍斑鳩宮攻山背大兄王。王即以獸骨置寢而將子弟竊隱膽駒山。兵燒宮見灰中骨以為王焚死。解圍而去。過六日王出山。左右欲討入鹿。王曰。彼大姓也。恐多殺人。我不忍也。乃與子弟二十三人斑鳩寺塔中誓曰。我等以垢濁身替暴逆臣。昇蒼天之雲。坐淨土之蓮。手捧香爐默然而住。皆各經死。須臾香煙氤氳上通天雲。寺塔之上靉靆垂布。男作天仙女作天女。駕烟雲向西飛去。天花散天樂響。異香郁烈奇光炫燿。時人仰見望雲

禮拜。蝦夷聞之曰。上宮之尊族遭橫逆而死。我家亡不久矣。明年蘇氏皆殲。蝦夷者入鹿之父稻目之弟也。
天平年中山州相樂郡高麗寺有僧榮常持法華。一優婆塞常遊寺。一日常與優婆塞碁。常每下一著曰白衣白衣。優娑塞喎其口。又曰榮常榮常。俄優婆塞口自喎斜。以手拄頤出寺。未到家蹙地而死。
神護中有宇遲王者。天性邪見不信三寶。王從山背赴奈良。時毛野寺沙門諦鏡往山背。中路逢王無迴避庵。傾笠匿面立路側。王見之駐馬令僕打擊。鏡逃走。王追捕。王行不遠叫踊離地三尺許。從者知鏡所為。就鏡求救。鏡不受。三日後王如墨而卒。從者奏曰。諦鏡法師咀宇遲王而死。乞報仇。勑答曰。宇遲自招非諦鏡咎矣。
寶龜元年大傅藤永手薨。其子大中大夫病。醫治不効。乞法救一比丘。比丘燒香持誦。于時大中託曰。我永手也。我生平仆法華寺幢。又或營。八角七層塔。我令其減造四角五級。由此墮地獄。身抱火柱手釘火釘。忽閻王宮大烟充塞。王驚問。傍人曰。日本國藤永手子病。呪師焚香持誦。其烟及此也。王乃赦我歸本土。而我屍已燒。無所寄。屢來告耳。言已病愈。
肥州松浦郡人大君氏忽爾死。至閻王宮。王曰。此度非死期放還。君氏見傍大釜湧。中有如墨株者沸躍浮沈。其浮時急告曰。且待。至弟四浮倚釜口陳言。我是遠州針原人物部古也。我在生時掠奪細民白米。由其罪報受此熱沸。憑君還本土書法華經此罪可脫。君氏蘇錄此事送大宰府。府獻朝。後二十年大中大夫菅真道以記奏桓武帝。帝宣施皎法師曰。地獄苦報經二十年得脫不。皎奏曰。人間一百年為地獄一日夜。二十歲未過。一日耳。帝勑遠州問物部古舊宅。具如記。乃詔百官諸僚書六萬九千三百八十四本妙經。善珠法師為講師。施皎為讀師。於平城野寺設大法會慶讚薦冥福焉。
贊曰。桓武帝者夫仁君乎。昔文王葬枯骨。傳尚稱焉。况六万九千三百八十四本經王乎。古云。王者為民父母。殆乎父母不如也。
仁和中常州飛鳥貞成。其家富贍。篤信三寶。嘗撰能筆翰者百人。於金光明寺書百部法華經。如是十回已成千部。設法會慶讚。延東大寺延喜法師為講師。其日供施亦盛。已而貞成逝。其孫春澤除州之掾到任。驛亭廐中有駮馬。背成文曰。飛鳥貞成。春澤驚見以稻千束買此馬歸宅敬豢。一夕夢貞成曰。我償債為驛馬。春澤夢中問曰。千部妙經其功許多。何至於此。對曰。我生平善惡竝造。善惡之報亦各別受。今先惡報。而我以經力後必生天。我命又不久耳。夢後春澤寫經助貞成薦不旬日其馬自斃廐中。
寬平中備中人賀陽良藤。善貨殖。為州之小掾。八年秩罷居葦守鄉。其妻淫奔入京。良藤鰥居心神狂亂。常執筆諷吟作書艷詞勢。時時有兒女之音。不見其形似聘媒焉。如此數十日。一朝失良藤所

在。舉家尋求遂無得。良藤兄弟悉豪富。皆會其家悲哽懊惱。相謀曰。安得其屍薦冥福。合族發願曰。若得良藤骸當刻十一面觀世音像。即伐栢木等良藤長頂禮誓祈。歷十三日良藤自其宅倉下出來。顏色憔悴如黃病者。其倉無柱。石上疊材營構。其下去地纔三四寸。不可容人身。而良藤從中出。人莫不驚恠。良久醒寤言而曰。我鰥居日久常念女事。時一女子以書著菊花枝來曰。公主寄書。我披讀詞意艷麗心情搖蕩。歌詠書問往來數返。一日寶車迎我。先騎四人。行數十里至一宮。一丈夫門迎曰。僕公主家令也。丈夫導我上殿帳帷綺飾。須臾列珍饌。公主漸出。容貌服色殆不可言也。中夜背燈入帳。合歡情緒愛纏雖死不辭。晝則設宴夜亦同寢。比翼連理歡娛甚密。遂生一男。性聰明貌嬌夭。朝暮抱持未下於膝。常念廢長男忠貞立此兒為嫡。蓋子因母貴也。居三年忽有優婆塞持杖昇殿。公主侍女盡逃散。又以杖突我背。我從隘處出顧視。家倉之下也。時家人舉恠之。乃毀倉視之有狐數十驚馳。倉下土上有良藤坐臥之跡。良藤居倉下纔十三日。而謂經三歲。倉下三四寸而為大廈廣殿。皆是妖狐之魅惑也。非大悲菩薩威應殆乎死狐窟。其後良藤無恙十餘年。年六十一逝。

延喜中仁和寺仁元供奉門人平如。有檀越粟田錄事病死。經一日夜蘇。語曰。冥司驅行到一城門。時一高僧語我曰。閻王若有考問汝報曰。有書法華之願未果。我白比丘曰。生平無此願。又師誰乎。僧曰。汝在生時有人寫法華至方便品汝以滴水加硯。汝記邪。我答曰然。僧曰。汝以此因故但言。有寫法華願。雖似虛妄不為無緣。我是方便品也。語已不見。即赴閻王前。王問。生前修何善。我對曰。有書法華願未果而俄亡。王驚合掌尊重。令冥使考視虛實。冥眾考察曰。無之。王思忖曰。縱雖妄誕言涉經乎。須放還果其業。我不任喜幸便走出。一禿丁立門側問曰。仁由何事放還。我答曰。啟以有寫法華願。是故放還。禿頭亦至王前。王問如先。答亦如先。王亦放還。錄事後與平如同車入市買紙欲書法華。禿丁亦同買紙。錄事見禿丁如舊識。禿丁亦見錄事相恠。二人熟見便知冥事。禿頭言曰。幸依仁言得放還。錄事執手悲喜。市人多聞之無不嗟嘆。禿丁者河內知識寺知事僧也。各歸本所精進書寫。

論曰。閻王聰明正直不可加也。故領萬生生殺之權。苟非至明至直孰能與於此哉。然粟田錄事之事怪中之怪乎。錄事之經願元妄也。閻王不知不明也。至冥使監察曰。無之。王曰縱雖妄言涉經須放還是非刑獄之法也。不直之甚也。又彼方便品者化高僧以妄教錄事。何其法華真文之不典邪。曰此理甚深不為淺識之者易言也。粗揚摧而陳之。夫羣生之廻轉者業障之所使也。業輕者昇。障重者沉。諸聖之於群生也唯欲其昇不欲沉。而業障厚者自沉耳。若毛髮許有拯

濟之由諸聖施力於此。而其業障厚者雖有善諸聖不援何也。業重也。今錄事此累皆竭者也。是諸聖拯濟之乎。而錄事生平又無佗善。纔經書一滴之餘潤耳。當其無餘殃而有微善之時。宜乎經王之詞也。閻王又聖者耳。只恐不免斯民於塗炭。而障厚者不關矣。遭錄事之無障經王之加勸。彼閻王者豈不發寬宥之言耶。蓋閻王神足知錄事之障竭也。若不知者非閻王也。知之是閻王之聰明也。宥之是閻王之正直也。何也聖境無礙也。經王閻王通知也。非區區世間昏犴窒獄之據欵而推勘之謂也。又世只見錄事之無願之為妄也。不知錄事之障盡之是無妄之時也。何也障者妄之所為也。今夙障已盡曷妄之有。以無妄之時發言者雖妄而皆真也。是以經王不妄矣。閻王不妄矣。故錄事又不妄矣。蓋自無妄之中來也。世書猶言無妄之疾勿藥有喜。況解脫之道乎。只其知錄事之障竭是閻王之事也。非凡庸之所及也。又人之暫死入冥而蘇息者。皆非實死之適活也。蓋激感之所發也耳。若定死者不可蘇也。錄事此生雖業盡而緩於為善也。諸聖大悲借冥示此異而激勵善志耳。是以非定死勘鞫之比也。故託微妄也。若定勘者間不容髮。豈有之乎。只是諸聖激錄事令作善因而已。故微妄無咎元是要妄也。或曰。錄事依經滴之微緣預經王之加助。妄而無咎。蓋經王之功力也。曰不然。經王功力施於輕障不能施重障。若錄事有障經王不得施矣。今世人不皆然乎。經王豈黨錄事乎。況禿丁無滴緣乎。只是禿丁又障竭之與錄事同也。二人此時邂逅耳。吾故言障盡。是無妄之時也。或曰。子之障竭之義已聞命矣。不能無微緣乎。曰然。曰錄事之微緣滴水耳。禿丁無之何也。曰禿丁逢錄事。猶錄事之逢經僧也。是禿丁之微緣也。曰錄事之感經僧也滴水耳。禿丁之感錄事也緣何事。曰此蓋禿丁宿生與錄事有緣者也。然此書只託一事而已。不及於此。吾以我教之理推此皆是也。我鄉所謂聖境無礙也。閻王知之也。故禿丁又逢赦而歸耳矣。

諾樂古京殖槻寺側有寡女。父母昔日鑄觀音銅像高二尺五寸。造殿安之。父母死後女貧甚。常對像訴飢寒。隣有鰥夫潛通。一日夫來雨下不歸。其晚女無供。明旦又不爨。乃入殿泣訴。過午叩門啟戶里人送饌。言而曰。聞有容故贈草具耳。女不勝喜。脫裙與使者。次日女入殿禮拜像。裙子挂像肩上。

大安寺側有貧女常詣殿求福。累日祈之。一日詣寺。門橋有錢四緡。簡書曰。大安寺修多羅錢。女入寺告之。知事開庫果失四千。取之納庫。明日女赴寺庭上有緡錢。簡如先。女又送寺。又明日女家閫內又有四緡。簡曰。大安寺成實論宗分錢。女又送寺。寺僧怍問。女曰。我比來詣大殿祈福。眾僧聞之知佛慈濟。返與於女。女得之漸為富人。

大安寺側有商賈。名盤嶋。借寺修多羅分錢三十緡。往越州都魯鹿津貿易。歸路受病下船乘馬至近州高鳥郡。有三人中途相從。至山州宇治橋。島問。公等何往。答曰。閻王使召汝者也。將捉嶋。一鬼使曰。不可取也。是寺錢交易商使也。乃語曰。我飢甚汝有飡乎。嶋曰。有糗與之。鬼食畢曰。汝定應死。然我饗汝飡恩意深。有與汝同年人當相貸。答曰無。三鬼中一鬼曰。率川社畔有一人。與汝同戊寅年也。宜替彼。且我等噉牛鬼也。汝至家必饗之。嶋曰。我宅有斑牛二頭當薦。鬼曰。我等以同歲人替汝。必受重罰。汝呼我等名讀金剛般若一百卷。定脫苦罰。乃稱名曰。一高佐。二中知。三槌。言畢而去。目送之不見。嶋歸宅一牛果斃。便入大安寺請南塔院沙彌仁曜二日讀金剛般若經一百卷。三日朝鬼亦來曰。依大乘力我等免罰。只願每年修之。言已不現。嶋年九十餘終。
諾樂京蓼原村有盲女。生一女子。家甚貧。里中有藥師佛像。母子二人向像敬拜祈開目。一時像臆如桃脂者忽然湧出。女子怪告母。母曰。取來。子取與母。母食之甚甜。傳兩眼即開。
紀州牟婁郡熊野村有永興法師者。智行兼備。有一比丘從興學。其所持之具法華一部。銅瓶一。繩牀一。餘無長物。比丘持法華居歲餘。以床施興曰。我欲越山往勢州。興使二僕送。且與糗為粮。行一日。次日令僕返并授經糗。自持瓶。又携麻繩獨別去。歷二年熊野村人入山伐木。聞誦經音累日不止。村人尋之不見。往語興。興入山深尋有一骸骨。麻繩繫二脚垂巖。傍有瓶。興見悲泣。後三歲猶有誦經聲。興重往收骨。其舌赤鮮。
總州太守藤時重有循吏譽。一日告府屬曰。我有大願轉讀法華一萬部。我繁國務矣。不能自也。今命管內釋眾速讀之。然以米一石充一部供。諸吏告諸釋眾。又頒米焉。於是佗州緇徒傳聞各錄部數來集。一萬之數不幾而足。藤守大悅。冬十月設大會而慶讚。其夜夢一比丘形服端莊執錫來語守曰。汝所修可謂淨業。我甚隨喜。又進把手曰。汝其勗乎。守啟曰。美哉訓也。公誰乎。比丘曰。我是地藏菩薩也。語已不見。夢覺感幸。便造夢中像瞻仰供養。
江諸世者初甚窶。嘗歸吉祥天女。所至之處取木片安高所。合掌低頭言。南無大吉祥天女。經歲不懈。一時過途。前有布囊。見之中盛精粳一斗許。携而歸宅傾出半分供晨炊。晡又欲爨半殘。見囊其米盈貯如先。驚怪而喜。乃炊半分。翌朝囊米又盈如昨。諸世以為吉祥天之惠也。試取諸器傾盛。盛已囊滿如井水。自此諸世便為富人。能施佗家。未嘗窮竭。終諸世世。囊滿如初。
延興寺沙門慧勝主浴室。偶取薪一束與人。已而死。時寺厨牸牛生一犢。此犢駕浴薪車。能任重致遠。餘不知也。故偏充浴車牛。一日異比丘語牛曰。慧勝昔能讀涅槃經。今又好牽車乎。牛聞之垂淚

尋而斃。時浴室役夫捕此比丘奏曰。比丘詛寺牛死。有司見此比丘形貌偉麗便以聞。勑圖寫其像。宛似觀自在大士帝欽敬召見比丘比丘忽然失所在。蓋勝生平持大悲者。讀涅槃經故菩薩救護耳。

藤常行者右僕射良相之季子也。僕射家于西京。常行一夕潛如東京女舍。一馬一僕而已過大內美福門前。路東有秉炬火行者。其眾二三百許人。常行為微行故避之無地。僕曰。神泉苑北門常闢。主其兒進。如教果開。常行屏門內柱下。炬隊自此過。常行偷眼門隙皆鬼也。或隻眼一手三目二頭奇形異類甚可怖也。僕主喘氣。其中或曰。人氣近矣。魁者曰盍執來乎一鬼迫門。僕主以為不可免也。鬼走反曰。不可得也。魁者叱之。又差他鬼。如先。魁者怒自赴。僕主以為這回實不免矣。魁者又反曰。不可若之何諸鬼請魁曰。佛頂尊勝呪在焉。故不得也。言已炬火皆滅鬼隊走散。常行不知所由。然不向女家從此而廻。家人問。中夜不見何所之。常行語事。乳母曰。妾昔日請一沙門。書尊勝呪潛緘衣領。恐是乎。乃綻縫瞻禮。合家無不稱嘆。

南京仲算法師有童兒。初在睿山楞嚴院。後事于算。童常轉法華。算曰。少年之業習學惟競。諷經誦呪未晚耳。童自此逢算顧眄乃為習學。若佗時則動讀法華。一日失童。算驚尋遂不得。童潛入山誦經不食月餘。已而得羽服成神仙。後數月僕薪于山中。遙聞誦經音。漸近則童兒也。童語僕曰。汝還房告師。冀得覲晤。僕告算。算跣足登山與兒逢。兒曰。我已得仙與塵世隔。今偶相見可謂良緣。欵語者久矣。兒將去。告曰。每歲三月十八日近州竹生嶋有神仙之會。我亦預耳。

役夫賀能者。過睿山橫川般若谷。逢雨寄一破宇。中有地藏像。其像漏濕甚。能見像庇不全雨灑被體。脫自小弊笠覆像頂而去。晚年受病而氣絕。能生平無善事。動多惡業。便墮地獄猛火燒身其痛不可言。時有一比丘。以右手提能出鐵釜。其比丘右邊顏肩足及臂皆焦然而告曰。我在贍部洲睿山般若谷。時雨濕不可忍也。汝以一笠蒙我。其志難酬。故我入火聚濟汝不顧自燒耳。言已蘇息。能便詣般若谷拜像。像之燒爛果如獄所見。

土州中村有一宇安地藏像。一時獵者得鹿入此宇。烹宰啖嚼自若。其中一人曰。尊像恐思臭穢乎。一人曰。像若惡之盍躍出避之。時帳中有物飛出。如鳥之過。諸獵怪而趁追。落深草中。近而見之有地藏像。其長六寸。諸獵於是悔咎改懺。遠近來奔恭敬供養。

攝州水田郡沙門德滿。年二十盲。過三歲詣鞍馬寺。祈之無應。又詣長谷寺期一七日祈求。至第七夜夢老比丘告曰。我力不及。汝當如近州彥根山觀音靈場懇請。滿如教。第三日初夜忽眼開見燈。眼根如元。承曆三年也。自此滿居此修練云。

沙門義睿。遊諸名山勝地。欲從熊野山入大峰詣金峰山。迷而失路。陟嶺降谷十數日。適入一林中。僧房修潔庭布白沙。奇花異草及諸果蓏處處開敷。睿見之驩怪。窺一室有比丘年可二十。威儀安庠讀法華。其聲和雅如調琴瑟。讀一卷了置經臺。其經自躍昇空。從終自卷至始。又自結帶而還臺。睿益怪。乃至八卷亦如是。比丘讀已作禮出堂。見睿驚曰。此地凡鳥尚希。況人乎。何以到此。睿告迷路。比丘引睿入房。忽端正童子捧甘饌來。睿嘗之甚美。又見種種希事。問比丘曰。住此幾年。比丘曰已八十年。我本睿山東塔三昧座主弟子也。壯年出本山處處修練。老寓此山耳。睿聞已生難遭之想。又白比丘曰。鄉承人路不通已。見端正童子兩三輩何作妄語。比丘曰。天諸童子以為給使予豈妄哉。睿又曰。雖言老朽面貌少壯何乎。比丘曰。病即消滅不老不死又豈妄哉。比丘漸勸睿歸。睿曰。日勢已晚不辨方隅。又身心疲勞何不保我而排哉。比丘曰。我非厭子。此地潔淨不堪子居故令去耳。若欲止宿身不動搖口無言說。心身寂靜默然而住。睿受教。初夜時異類眾形鬼神禽獸不知其數。各各持香花捧果蔬百味飲食羅列安置。稽首禮拜次第而坐。異眾中或作是言。奇哉有人間氣。或曰。何人至此。比丘誦經。異眾傾聽。至明相現各作禮分散。睿問曰。希有異類何處來耶。比丘曰。子豈不聞若人在空閑我遣天龍王夜叉鬼神等為作聽法眾。睿曰。我欲還不知方所。比丘曰。與子指南。即指瓶曰。隨是去。時瓶自躍進去。睿趁瓶而行。行二時許到金峰山一峰。直下便聚落也。忽瓶昇空飛去。睿著村里語此事。聞者嗟嘆。

元亨釋書卷第二十九　終

元亨釋書卷第三十

濟北沙門　師鍊撰

志四
　黜爭九
　序說十
　　略例(附)
　　智通論(附)

黜爭志九

昔婆伽梵坐菩提樹下。魔王波旬將八十億眾各執器仗致惱。地神現形責魔。魔懼怖而去。夫以世尊無量劫來已具種智。豈受是等障蔽乎。而有之者濁世令之使也。非世尊之咎矣。以故世尊不動一毛。波旬受屈而歸。滅後尤多。或斬菩提樹。或焚貝多葉。或閉伽藍門。或壞阿育塔。罽賓臂墮而死。異見病至而悔。不唯王者之為。梵志譖助而發也。然彼自敗亡。我法自若矣。至于東震益酷。後魏大武太平真君七年焚像經坑沙門者。崔浩誣之也。八年雷擊殿而倒。大武遭壓殆死。不幾為常侍宗愛弒。崔浩腰斬之誅及五族。北周武帝建德二年毀像經冠沙門。宣政元年感癘而殂。唐武宗會昌五年厄佛法。李德裕。趙歸真勸之。六年帝發背疽狂煩而斃。歸真責誅朝堂。德裕貶死崖州。柴周世宗毀我教。手持斧擊大悲銅像鑱胸破。帝後疽發胃而歿。趙宋徽宗宣和元年沮吾法。林靈素諭之。是歲靈素放溫州賜死于道。靖康二年金人破汴京虜徽宗而去。上之五代君臣昏惑生阨於吾。禍敗景從寔可愍矣。我國家君聖臣賢仁恕忠良。自真化覃此七百餘載。上下崇奉輔治保祚。以故君臣世授胤連曆長。只欽明敏達之間有小厄者。我法始至信根未洽又非睿情孽臣矯之也。而守屋之黨菑不旋踵。及于天長天元有鬩墻事。長曆以來虐焰轉煽。永保之始二火亦起。率見資治表。雖台相之一厄頗撼朝堂。然王臣篤奉佛。其始不加劇治。所謂撲滅不息。至于燎原矣。嗚呼我國醇淑而菑自吾出。弊魔嘗誓曰。我來世入汝門衣汝衣食汝食破汝法。魔黨其不可熄乎。今欲全綴此方佛迹。且令人知魔孽之所繇。勸善懲惡。古史之任也。作黜爭志。

欽明十三年百濟國王聖明貢獻釋迦銅像。帝宣問群臣可拜不。物尾興中鎌子等奏曰。古先帝皇之治天下也。常有事於春夏秋冬。祭拜天地社稷一百八十神。方今改拜蕃神恐致國神怒。大臣蘇稻目進言。西蕃諸國一皆拜崇。彼方諸神未聞拒逆。我此日域何慮之有

乎。天皇賜像稻目。稻目大悅捨向原家為寺安置供養。此年天下疫。夭亡多。尾興鎌子等奏曰。陛下不納愚忠作敬蕃神。今癘菑由彼。興乞行棄撤。天皇許之。有司投像於難波堀江燒伽藍。於是天無雲而雨。宮中大殿俄災。

敏達十四年二月蘇馬子起塔大野丘設大齋會。三月物守屋中勝海奏曰。自先代及陛下國多疫矣。豈非蘇氏之佞佛哉。上曰。朕亦不能無疑。守屋自入寺斫塔縱火燔之。又燒藏殿等。既而取燼餘棄難波堀江。是日無雲雨下。守屋又捕馬子所奉善信尼等禁錮海石榴亭。不幾帝并守屋患瘡。天下又多患之死者相枕。患瘡者皆曰。我身如打如燒。人人相謂曰。是燒像塔之殃也。後二年守屋伏誅。

天長十年七月睿山義真寂。以座主位私授圓修。大眾不肯山上鼓噪。真之徒黨修之者五十餘輩。大眾擯之。勅尚書右丞和真綱上山罷圓修座主職。修移和州室生山。承和中入唐。歸住山雲寺。

天元四年十二月勅餘慶法師補法性寺座主。慈覺之徒詣闕奏曰。初太相國貞信公建法性寺。以辨日法師任座主以來。九代相繼而慈覺之門當之。今第十代始以智證門人加之是慈覺之徒失望也。勅答曰。告檀家。檀家報曰。隨勅。相讓而不斷。於是慈覺之徒一百六十人向檀越廉義公家喧訴。相家不聽屢有爭論。天祿帝聞之激怒曰。真信公初創法性寺。不必附慈覺一門。只是撰智行兼備者為座主。適慈覺之門多人故相次領之。今餘慶亦有智行譽而任之。何必守一門乎。況喧爭敗德非淨侶事也。下詔息百六十人者封職焉。自茲兩門不和拒爭日滋。智證之徒出睿山各居別院。餘慶率門人住觀音院。勝算并門人。修學院勸修并門人。解脫寺穆算并門人。一乘寺餘眾百餘人猶在山上千手院。五年正月勅侍中平恒昌登千手院宣耆宿曰。傳聞日者智證大師之徒多散逸。經書祕文恐有紛失。固加衛護。因之置宿衛守經藏。又下勅曰。座主良源欲燒千手院殺餘慶。穆算等。陰謀難匿早止其機後而毋悔。良源上表陳謝。其略曰。放火殺害我法大禁。自作教人波羅夷罪。吾輩於此是道之常。誰達天聽。願決真偽。

永祚元年九月勅餘慶為延曆寺座主。慈覺之徒奏曰。智證門補座主者不可開講堂。便固閉戶。永延帝并大相國藤兼家以為過訟。十月二十九日詔尚書右丞藤有國作告文。登前唐院(慈覺之塔)訴眾徒之暴戾。有師子身中虫之句。

正曆四年八月觀音院成算之徒與睿山眾有卻。慈覺之徒燒千手院。及壞房舍四十餘宇。兩門相爭。於是慈覺之徒擯智證之徒一千人出山。

長曆二年冬朝議。以三井明尊為天台座主。十月二十七日慈覺之徒捧狀沮之。三年廷評已定。二月十七日慈覺之徒盡會法成寺南門。

相議列向相府訴之。相門固閉不入。眾猶蠢蠢不散。相吏開門告眾曰。今日先還明日有議。大眾退。明朝會祇陀林寺。相府使使告眾曰。天台座主位古來重之。故選智行全具者補之。不必局慈覺一門。智證之門亦多有焉。方今明尊僧正德位相宜。慈覺之徒有相若者乎。乞莫拒訴。大眾聞之嗔怨叫馳。乃走赴相府。府門堅關。大眾呼號扣門至穿門柱下地。相大怒使能州刺史平直方率兵射大眾。眾中亦有挑戰者。定勢有膂力。拔大刀擊官兵。官兵眾徒死傷兩多。十九日定勢付獄。以降見資治表。

序說志十

大覺渾然未嘗判矣。瞿曇大聖人剖析而數出矣。其為數也有半焉有滿焉矣。二焉三焉及九焉皆半也。十焉百焉及萬焉皆滿也。半常設小矣。滿常設大矣。然居渾而見數者判而常渾矣。在滿而見數者半而常滿矣。故渾而判。判而渾。滿而半。半而滿。是我圓極之微旨矣。此書有五格焉。傳贊論表志也。傳十也。贊二。而或繫一焉。或綜多焉。論又二。而通別也。通託評焉。別解惑焉。表一也。志又十也。五格者半數也。寓判而非小矣。十傳者所以載其人也。十志者所以記其事也。雙十者滿數也。寓渾而設大矣。一表居中焉。所以通串傳志也。不載空言見之行事。雖采國史實釋氏之通表也。數止一者雙十之統也。蓋一者十之所歸。十者一之所成。天下之數未嘗不一也十也矣。又一者渾也。十者滿也。渾而無不滿故一而之十焉。滿而無不渾故十而反一焉。是自然之理而此書之數也。傳之十者。傳智一。慧解二。淨禪三。感進四。忍行五。明戒六。檀興七。方應八。力遊九。願雜十。表之一者資治也。志之十者為學修。為度受。為諸宗。為會儀。為封職。為寺像。為音藝。為拾異。為黜爭。為序說。維我佛乘智為先導。勸示悟證皆智之操。灌真來唱。昭訓去斁。澄海榮西相繼高蹈。自茲此方競嚮真誥。傳智居初焉。智之與慧名異體同。赫赫諸子惟業惟隆。不唯聞思修勤解通。慧解續焉。攀緣觀察愚夫所行。單傳直指如來禪清。淨禪續焉。慕道之士進其為精進。進不止感應便生。進感續焉。佛道懸曠動有退還。忍之為德不崩不騫。烈士行之曜後揚前。忍行續焉。戒法毗尼如來威儀。不唯固持明之知之。明戒續焉。檀之為事施與營築。原薄有異其歸興福。檀與續焉。古聖深悲周流屢遷。善應無方是名巧便。方應續焉。智用為力有動乘斯萬里游戲尋道訪師。力遊續焉。我有大誓其品萬科。隨類俱作清濁揚波。願雜竟焉。是始之十也。史之為言繫月繫年。我法無曆假渠寓旃。渠亦假我政和祚延。作資治表一焉。人生童昏不學不明。但學浮動修而智成。去斯

二路道無佗行故置於始。惟衡惟程學修志起矣。入道為度。得戒為受。度道之標。戒道之守。度受次矣。吾門殊塗其歸一致。得致知塗不則道毀。諸宗次矣。我法有為會而有儀。君臣夤行人給國治。會儀次矣。道備德盈受封居職。內榮門庭外格多福。封職次矣。獨正無居獨依無主。依正相應有事偶宇。偶宇已作吾門萬覩。寺像次矣。維此世界音作佛事。鐃鳴磬響軌儀全備。音藝次矣。吾佛垂感倜儻不羈。片奇小恆收拾不遺。拾異出矣。治以鑑興亂以鑑衰。背觸來現我以鏡知。黜爭出矣。物必有頭。事又有由。欲詳始卒序說而休矣。初予覃總角而離家。逾志學而遊方。周旋相陽福鹿之門辛勤而歸。因見大藏有僧史之三傳。所謂梁唐宋也。而此三傳不精史文。蓋梁傳者戰國之文病體裁焉。唐傳者敘事艱澁傳論文同。宛似銘辭。宋傳者駁雜[骨*几]骳任古碑碣。絕無筆削。古來聖賢之事業不能顯煥。頗惜之焉。又佛法入斯土以來七百餘歲。高德名賢不為不多。而我國俗醇質。雖大才碩筆未暇斯舉矣。其間別傳小記相次而出。然無通史矣。故予發憤禪餘旁資經史。竊閱國史洽掇諸記。日積月累已有年矣。遠自欽明迄于聖代。補綴裁緝為三十卷僅成一家之言。不讓三傳之文。名曰元亨釋書。古傳者偏傳也。今為全史。故改名焉。又夫古之著述或罹窮愁或求見世。雖仲尼猶然。矧其餘哉。餘塵纏早脫世繳不及。韜晦我常豈冀閑名。只欲明佛祖之法揭聖賢之迹。令可畏之人知所式之塵也耳。此予之志也。曰古科十品三傳承襲。此書何異。曰此書雖變古傳古科皆在其中矣。夫傳智者譯經也。我國無譯事故換號焉。然其傳來者一也。慧解者義解也。淨禪者習禪也。慧之與義。淨之與習。其所名模不啻天淵之隔矣。進感者感通。讀誦一之。古傳瑣碎。以我視之皆進也。故合焉。忍行者遺身也。古傳遺身之目無含蓄也。明戒者明律也。古傳次三學故亞禪焉。今配十度故居忍下。檀興者興福也。福者檀之報也。替名而表本。願雜者雜科也。今分六篇。蓋智不足者駕願而達彼岸。故闢願度攝諸色也。方應力遊古科無之。今詳法義建二焉。梁唐削添一二科。不為無據耳。護法者今鋤之。此土無恭君悖吏何護之有。而志有黜爭者草昧自家之小厄也。非臣廢矣。又古傳無表志。今立之者備史法也。我謂古傳為偏者是也矣。曰春秋三傳不立志。豈不良史乎。曰彼編年也。無志可也。已分傳則史遷曷不全哉。不能逃君子之誅矣。曰子攻古傳者深矣。而宣寧之諸師高德偉才豈可容易而議哉。曰尺有所短寸有所長。三傳之師道博德大而吾之所欽也。然史才者末也矣。昔黃太史見三僧傳患文義鄙淺而欲刪修之。又洪覺範屢議唐宋二傳。非予獨言之矣。曰子之釋書名取諸何。曰漢以來以史名書。所謂漢書晉書唐書等也。曰漢唐者以世以國。故名書而佳矣。今釋者氏族也。世尊取以為名。此書應稱釋

子。蓋孟子莊子之謂也。然諸子不史也。此書史也。僭取乎。曰不然。子知世書之有彼而不知吾教之有此也。我大覺世尊身土不二。世屬土。名屬身。四法不剖。唯一覺也。子何輕議哉。故為其系胤雖有聖凡之異皆一種也。猶世俗之家有賢不肖之子矣。不可以不肖不系其氏族也。故予名之以釋書。又漢晉唐者國而皆姓也。我釋書之稱不多乖乎。曰子廢古科配十度。然者此方之人咸大機與。曰有斯言矣。夫此方視於竺支狹矣。蓋印度闊於震旦。震旦闊於日域。而印度小乘多大乘寡。加以婆羅門九十五種。大乘之於印度也牛毛之雙角也。震旦大乘多小乘寡。加以儒墨老莊。乘時陵我者不少焉。大乘之於支那也鼎鼐之一足也我日域。純大無小其俱舍成實者備于學而已。不立宗焉。有儒而無老莊。老莊之書又備于學而已。不立家焉。只儒有數家焉。而不與我競。蓋雖魔魔民皆護佛法之謂乎。以印度地闊而大乘寡。支那地狹而大乘多而見之。我國小而純全大機者非理之迂矣。蓋我道之機法者不因地之廣狹乎。盛哉吾國東方醇淑大乘之疆乎。命此土者不爭我法無異道也。學我法者不赴小徑無二乘也。是故此書以波羅蜜建十科也。曰如子言此書所列咸菩薩與。曰然。菩薩有二。曰滿。曰分。波羅蜜亦然。譬登山焉。到頂者躋麓者齊稱登山焉何也。躋麓者竟達頂也。階吾道之大機者皆為菩薩何也。自分至滿也。曰子以此方為大乘域。又愛吾廬之謂乎。曰大般若經第三百二曰。我滅度後後五百歲甚深般若於東北方大作佛事。我此日域金口已說。豈始而言之乎。曰彼經說。滅後流傳始東南方巡至東北。子何獨取東北哉。曰不然。雖說八方流布。特稱東北而為最也。故舍利子白佛言。於東北方當有幾許住菩薩乘諸善男女。於此般若書讀修說。佛言。東北方有無量住菩薩乘諸男女等。然經文繁衍恐人不委斯旨。子親熟看亦不疑也。蓋佛讚東北不似餘方。第五百八又見焉。曰如子之言。東北為最。而支那又東北也。何定日域哉。曰支那日本雖隔海而氣候同。何也。此土用唐曆不有差互也。若佗域者夐乖矣。故我言佛說之東北方者。支那日本并之矣。何也氣候同也。見其氣候之同。宜乎吾佛之并言之乎。曰然則支那又大乘之域乎。曰支那者大醇而小疵。日本者醇乎醇者也。曰此書立波羅蜜少有倒逆。又諸師有不留一波羅之者。何混而顛乎。曰序次雖倒意順也。何也。夫十度者五度如次。智度分為五。所謂慧方願力智也。智者摠體也。故置第一。慧者大用也。故次焉。餘三度各用也。智中少互無害。今分智而置初後者。應知雖檀戒又智也。釋論之中一度各具六。應知雖十皆各通具也。以通具見之少互無咎。而又有順理於其中耳。寶雨經曰。菩薩以智為先導。凡菩薩人動作無非智。此書主衍故以十度建十科。又諸修多羅十度以滿位為次序。今之十傳取諸分。故有少倒。譬石砌路焉。大

小曲直者石之質也。方面布置者工之巧也。路不得不整矣。吾以波羅之分滿修菩提之砌路。其間詰諸子之大小曲直者不見吾之大道矣。

略例（附）

桓武之後追諡缺焉。其間一二不備足焉。今以年號呼帝者。
州號古來呼者不醇矣。今以二義質之。所謂上下簡辟也。上下何。凡上字不復出者皆以上字呼之。山州攝州等也。上字復出者以下字呼之。和州賀州等也。簡辟何。凡二字或上字復出。或下字復出。皆能簡辟呼之。若又復出多者始後簡采。美州之采始者簡信作也。波州之采後者簡丹阿也。又上下前後之者加之字而呼。願見此書善簡辟焉。
官位皆以唐宋呼之。古儒已配之矣。非新例矣。
表中孝德寬平前後二例皆史法也。
表中雖立二例。正傳之中諸年曆且從古史。

右五條

智通論（附）

釋書出焉。有儒一生言之曰。我名教立五常。智居四焉。蓋智者聖人之次德也。易曰。仁者見之謂之仁。智者見之謂之智。故君子之道鮮矣。是夫子黜智之言也。又皇帝王霸步驟殊塗。以智為霸者之權也。故漢高祖曰。吾寧鬪智不鬪力。又老子曰。絕聖棄智。然則論大道者斥其智矣。吾聞三教一致聖人無異。此書何先智乎。又我儒不言神恠。此書感進神仙拾異等篇基於此蒙竊惑焉。余曰。善哉問乎。不子今言之。外學之議我也自古而然。我今片言可以解千歲之惑矣。夫吾道一心也。心外無餘。以心為身。以心為土。身土皆心也。況思想作為乎。吾佛以四智應於萬彙。所謂圓鏡一也。平等二也。觀察三也。成作四也。佛心之明淨者鏡智也。佛心之均同者等智也。佛心之知覺者觀智也。佛心之云為者成智也。四者之體曰法界。法界之用者四者也。體用皆心也。蓋因心而見體用者。五之者未嘗有異矣。今其如來一代之說相者觀察之一智也。六般之神足者成作之一智也。以觀察而應機也為大為小為權為實為偏為圓為修多羅為毗奈耶。以成作而應機也為幻為化為明為通為三摩提。是吾佛不思議之智用也。然以鏡智而見觀察。大小偏圓未嘗不明淨也。以等智而見觀察。大小偏圓未嘗不均同也。修多羅毗奈耶亦然。以

鏡智而見。成作幻化明通未嘗不明淨也。以等智而見成作幻化明通未嘗不均同也。三摩提亦然。又以觀察而見成作幻化明通未嘗不智覺也。以成作而見觀察大小偏圓未嘗不云為也。綺錯交互亦然。故吾佛一說也四智備矣。一通也四智全矣。若隔礙者非所謂圓鏡焉平等焉觀察焉成作焉也。豈仲尼伯陽偏談局說之謂乎。譬溟渤焉東西南北一海也。而東方之民曰東溟。西方之民曰西溟。南北亦然。人自名耳。海豈異乎。汀瀅不然。有方所有淺深不得不異。宜乎子之以仁智神怪而議吾乎。又三教一致聖人無異者我智上之詮也。非子之心外教之所知也。彼所謂智者之智者偏智也。非圓智也。彼所謂霸者之智者權智也。非實智也。彼所謂棄智之智者小智也。非大智也。彼所謂神怪者妖孽也。非明通也。又怪力亂神之言出於論也。然諸儒不一也。或作二事。或作四事。異談不少。今且就子之四事之言而辨之。孔子之不語怪力亂神者非絕不言也。慎言也。後儒不明仲尼意絕言於四事者惑之甚也。我粗出其端焉。易曰。陰陽不測曰神。又曰神者妙萬物而為言也。仲尼豈不言神乎。春秋二萬言皆衰周諸侯攘奪之事也。仲尼豈不言亂乎。孔子之勁能扛國門之關。不唯口言也。身自為之乎。季桓子穿井得土羊。仲尼辨以木石水土之怪。豈不言怪乎。凡經傳之中孔子之涉四事之者多。不暇縷舉矣。孔子為名教之祖垂訓於世。思凡庸之溺四事而有此迹也。陋儒迷跡而為孔門之徒。絕言於四事者可笑也。夫四事者味者之所溺也。而又不可無也。君子能辨之。我法悲智交發。神用以利天下。豈同陋儒之局見。古來大賢之感應棄而不齒乎。全宋之時有歐陽脩者修唐書。而舊唐書多載佛氏之神異。脩衒學孔迹而刪去者千餘條。脩之偏識可卑矣。夫良史者褒善而策後世。貶惡而警後世。故善惡并書而不匿。彼脩何為者乎。任吾喜怒一切刪之。蓋脩之意以佛為怪為異道也。縱佛怪異也時君好之。脩何不並書加褒貶垂後世。而例刪之乎。劉煦之文實淺矣。脩文雖加之。而識不如煦乎。脩亦惑論之四語之甚者乎。又吾佛之神用者幻化也。諸聖未為奇也。凡愚以為奇也。蓋欲開凡愚之淨信也。譬傀儡焉。長者未嘗以為奇也。何也。知棚中牽抽也。愚少以為異而戲著追逐。何也。淺識也。今以神怪或斥或嬉齊惑也。何也。為奇故也。君子不然。幻也化也何有於此乎。曰吾議子書。子何引佛蔽之哉。予曰甚矣哉子之難曉乎。昔人有學舜者。蚤夜孳孳去其不如舜者。附其如舜者。故謂之舜之徒焉。吾人豈異哉。只恐蚤夜孳孳不如佛焉。不幸而不肖者學之之不至者也。學者之大志皆是也。今吾學佛者也。此書諸師皆學佛者也。夫學佛之者。繫學佛之人而以佛之事。其不學佛之人。不知佛而罪之。是乎非乎。

元亨釋書卷第三十　終

東福海藏禪院重刊

元亨釋書化疏(有敘)

大日本國平安城濟北大沙門虎關禪師譔元亨釋書者。寔本朝僧傳之權輿也。其書凡三十卷。始於傳智終乎序說。上自推古下至元亨七百餘年間事。若僧尼士庶之傳。若寺宇佛象之志。若　國家君臣資治之表。有一關乎吾釋氏者。靡不登載而收錄焉。至延文庚子六月有　旨入藏頒行。蓋從其徒圜通住持龍泉淬公請也。是書既鏤版行於世。會永惠壬戌二月十六日司烜失職。本院遺火延及書庫。凡歷代三教之書奧編祕帙一夕而燼。則版亦成烏有矣。聞者咸惜焉。茲者　師之上足前南禪性海禪師以其徒請由東菴遷莅院事。未幾百廢俱舉。仍圖重刊茲書。費用不貲。遂命在城等持比丘周信儷詞製疏。巡叩十方諸大檀那貴官長者緇白男女。若見聞者慨然樂施以濟版事。其獲福可量也哉。疏曰。維元亨釋氏之編寔本朝僧史之筆。曰梁曰唐曰宋三傳雖同若皎若宣若寧十科或異。慨茲海藏龍宮之失護。俄驚琅函玉軸之歸空。天道好還。行看印板打就。斯文復作。正好點筆疾書。增濟北之陰涼。壯海東之福地。天子萬歲　宰臣千龝

至德元季甲子六月日疏

(本云)

明德二年(辛未)十一月日

重刊置於海藏院

元亨釋書者近代板行于世者悉皆活字成行故不能無顛倒錯誤而未有鏤于巨板者也而又未有加訓點者也今雇良工張貼海藏院古本於木以彫刻焉且又考諸本之舊點而補寫于其行間并刻之每板一枚面背共四葉板計二百十二枚紙計八百四十七葉都為全板夫是舉者蓋是　本朝三寶之流布而又近代一板之最勝者乎庶幾將行于不朽而傳於無窮哉

寬永元(甲子)年春三月日

洛下小嶋家富跋

元亨釋書人名索引

阿　　行　　あ		
飛鳥貞成	二九· 三五八	222
阿清	一九· 二三二	167

安慧	二· 三三	80
安海	五· 六二	93
安願	九· 一一五	116
安珍	一九· 二三五	168
安澄	二· 三一	79
安然	四· 五一	88
粟田錄事	二九· 三五九	222
以圓	一一· 一四〇	127
生馬仙	一八· 二二七	165
壹演	一四· 一七一	140
一寧	八· 一〇〇	109
壹和	四· 五二	89
院源	四· 六〇	92
射水親元	一七· 二〇一	154
盤島	二九· 三六一	223
雲淨	九· 一一七	117
慧運	一六· 一九二	149
慧隱	一六· 一九〇	149
慧萼	一六· 一九二	149
慧曉	八· 一〇二	110
慧灌	一· 一〇	70
慧濟	一六· 一九〇	148
慧慈	一六· 一八九	148
慧勝	九· 一〇八	113
慧勝	二九· 三六二	224
榮常	二九· 三五七	222

慧聰	一六· 一八九	148
慧增	一九· 二二九	166
慧達	九· 一一八	117
慧忠	一六· 一九六	151
慧便	一六· 一八九	148
慧彌	一六· 一八九	148
慧妙	一六· 一九五	151
慧亮	一二· 一五五	133
永緣	五· 六六	95
永觀	五· 六三	93
永助	一二· 一五七	134
永忠	一六· 一九二	149
睿桓	一一· 一三四	124
叡好	一一· 一四四	128
叡効	一二· 一五七	134
榮西	二· 二二	75
叡實	一一· 一三五	125
睿尊	一三· 一六五	138
榮朝	六· 七六	99
役夫賀能	二九· 三六三	224
役小角	一五· 一八〇	144
延殷	五· 六五	94
延義	五· 六六	94
延救	一二· 一五五	133
延昌	九· 一一八	117
延祥	三· 三六	82

延儆	四· 五二	89
延鎮	九· 一一一	114
延朗	一二· 一四六	130
圓賀	一〇· 一二九	122
圓久	一一· 一四二	128
圓行	一六· 一九二	149
圓善	一九· 二三四	168
圓珍	三· 四五	85
圓澄	二· 三四	80
圓仁	三· 三八	82
圓能	一九· 二三三	167
應照	一二· 一五六	134
小野敦末	一七· 二〇九	157
大江親通	一七· 二一一	158
大江諸世	二九· 三六二	224
大君氏	二九· 三五七	222
大峯比丘	二九· 三六四	225
恩融	九· 一一七	117
加　行　か		
賀陽良藤	二九· 三五八	222
戒深	一一· 一四二	128
開成	一五· 一八六	147
海蓮	一九· 二二九	166
覺阿	六· 七五	98
覺運	四· 五八	91
覺心	六· 七六	99

覺助	九· 一一五	116
覺勝	一一· 一四一	127
覺超	四· 五九	91
覺鍐	五· 六七	95
覺法	一一· 一四四	128
鑑真	一· 一三	71
感世	一七· 二〇八	157
義淵	二· 二七	78
義覺	九· 一〇六	112
義空	六· 七四	98
義真	二· 三四	80
義照	一〇· 一二二	119
祈親	一四· 一六九	139
窺仙	一八· 二二七	165
基燈	一一· 一四四	128
紀躬高	一七· 二〇四	155
行圓	一一· 一三九	126
行圓	一四· 一七一	140
行賀	一六· 一九一	149
行基	一四· 一六七	138
行教	一〇· 一二二	119
行空	一一· 一四〇	127
行巡	一〇· 一二三	119
行仙	一一· 一四三	128
行善	一六· 一九一	149
行尊	一二· 一四六	129

行表	一六· 一九六	151
慶圓	一一· 一三四	124
慶圓	一二· 一四九	131
慶俊	一四· 一六八	139
慶祚	四· 五九	92
慶日	一一· 一四一	127
慶耀	四· 六一	92
教圓	一〇· 一二二	119
教真	一一· 一四一	127
教待	一五· 一八七	147
經源	一一· 一四一	127
清原信俊	一七· 二一一	158
久米	一八· 二二六	164
弘曜	一六· 一九六	151
空海	一· 一九	74
熊野村比丘	二九· 三六一	224
光意	二· 三一	79
光空	九· 一一六	116
光勝	一四· 一七三	141
光定	三· 三七	82
光明皇后	一八· 二一四	159
皇慶	五· 六四	94
皇太神宮	一八· 二二〇	162
廣恩	一二· 一五二	132
寬印	五· 六三	93
寬空	一〇· 一三一	123

寬忠	九· 一一〇	114
寬朝	四· 五〇	88
寬平皇帝	一七· 一九八	152
寬和皇帝	一七· 一九九	152
觀喜	一四· 一六八	139
觀賢	一〇· 一二三	119
觀勒	一六· 一八九	148
歡子皇后	一八· 二一八	161
勸修	四· 五七	90
桓舜	五· 六二	93
願西	一七· 二一〇	157
願西	一八· 二一九	161
玄昭	四· 五二	88
玄常	一一· 一四五	129
玄賓	九· 一〇八	113
玄昉	一六· 一九一	149
源空	五· 六八	95
源算	一四· 一七二	141
源心	九· 一一二	114
源信	四· 五八	91
源泉	九· 一一八	117
源尊	一九· 二三二	167
源仁	三· 三七	82
見佛	九· 一一八	117
賢憬	一二· 一五四	133
護命	二· 三三	80

公伊	一〇· 一二九	122
講仙	一九· 二三六	168
高辨	五· 七二	97
恒寂	一四· 一六九	139
勤操	二· 三二	79
惟高	一七· 二〇九	157
佐　行　さ		
最仙	一四· 一六八	139
最澄	一· 一五	72
齊遠	一二· 一五二	132
濟源	一〇· 一三〇	122
西音	一七· 二一一	158
慈雲	二· 三一	79
慈訓	一· 一三	71
慈垣	一六· 一九六	151
慈信	一四· 一七一	140
慈寶	二· 三〇	79
子曇	八· 九九	109
司馬達等	一七· 一九九	153
實因	四· 六〇	92
實慧	三· 三六	81
實忠	九· 一〇七	112
實範	一三· 一五九	135
實敏	三· 三七	82
真遠	九· 一一六	116
真雅	三· 四四	85

真興	一一· 一三四	124
真紹	一四· 一六八	139
真濟	三· 三七	82
真然	一四· 一六九	139
真如	一六· 一九二	149
信覺	一〇· 一三二	123
真義	四· 五六	90
信敬	一二· 一五六	133
信誓	九· 一一七	117
尋寂	一七· 二〇八	157
尋禪	九· 一一八	117
心譽	九· 一一五	116
神睿	一六· 一九〇	148
新羅明神	一八· 二二三	163
舍利	一八· 二一五	159
寂源	一一· 一三八	126
寂昭	一六· 一九三	150
寂禪	一一· 一四〇	127
釋妙	一八· 二一九	161
守印	三· 三六	81
守寵	一六· 一九六	151
修覺	一七· 二一二	158
修入	一〇· 一二九	122
主恩	五· 六二	93
壽遠	一六· 一九六	151
春朝	一二· 一五七	134

春命	一九· 二三〇	166
順空	八· 一〇三	110
俊芿	一三· 一六〇	135
聖德太子	一五· 一七六	142
聖寶	四· 五〇	87
聖武皇帝	一七· 一九七	152
勝覺	一〇· 一三二	123
勝悟	二· 三一	79
勝算	一一· 一三八	126
勝道	一四· 一六八	139
常曉	三· 四二	84
常觀	一二· 一五一	131
常照	一九· 二三二	167
常騰	二· 三一	79
常樓	二· 三一	79
性空	一一· 一三六	125
性信	一一· 一四三	128
性蓮	一二· 一五一	131
淨藏	一〇· 一二七	121
淨達	一六· 一九一	149
證空	一二· 一五五	133
證如	九· 一一〇	114
正念	八· 九八	108
昭元	八· 一〇一	110
乘蓮	一七· 二〇九	157
承俊	一六· 一九六	151

靜安	九· 一一八	117
成意	九· 一一五	116
成尋	一六· 一九四	150
成尊	九· 一一一	114
成典	一〇· 一二三	119
清海	一一· 一四五	129
善議	二· 三一	79
善信	一八· 二一三	159
善謝	二· 三一	79
善珠	二· 三〇	79
善仲	一五· 一八五	146
善無畏	一· 一二	71
仙命	一二· 一五六	133
千觀	四· 五六	90
禪喜	四· 五三	89
暹覺	一一· 一四二	127
祖圓	八· 一〇四	111
祖元	八· 九五	107
祚蓮	九· 一〇七	112
蘇我稻目	一七· 一九九	153
蘇我馬子	一七· 一九九	153
宗睿	三· 四二	84
宗範	五· 六六	94
增賀	一〇· 一三〇	122
增命	一〇· 一二四	120
增利	四· 五二	88

僧旻	一六· 一九〇	149
僧隆	一六· 一八九	148
藏緣	九· 一一四	116
藏滿	一九· 二三三	167
相應	一〇· 一一九	118
尊意	一〇· 一二五	120
多 行 た		
大安寺側女	二九· 三六一	223
大圓	五· 六五	94
大織冠錄足	一七· 二〇〇	153
泰舜	一〇· 一二六	121
泰澄	一五· 一八一	145
諦鏡	二九· 三五七	222
平維茂	一七· 二〇一	154
平實親	一七· 二〇三	154
平北條時賴	一七· 二〇五	155
平時範	一七· 二〇二	154
高階敦遠妻	一八· 二一八	161
高階公輔	一七· 二〇〇	153
高階良臣	一七· 二〇一	153
橘守輔	一七· 二〇二	154
蓼原村盲女	二九· 三六一	224
湛照	八· 一〇〇	109
智光	二· 二八	78
智泉	九· 一一一	114
智藏	一· 一一	70

智通	一六· 一九一	149
智鳳	一六· 一九一	149
持法	一二· 一五三	132
珍蓮	九· 一一七	117
仲算	四· 五四	90
仲算童	二九· 三六三	224
重怡	一一· 一四五	129
重源	一四· 一七五	142
貞慶	五· 七一	97
貞觀皇帝	一七· 一九八	152
貞崇	九· 一一〇	113
定慧	九· 一〇六	112
定照	一一· 一三六	125
長圓	九· 一一五	116
長訓	三· 三六	82
長明	一二· 一五五	133
脩然	一六· 一九三	150
澄睿	一六· 一九六	151
轉乘	一九· 二二八	165
天滿大自在天神	一八· 二二四	163
都藍	一八· 二一四	159
道榮	一六· 一九〇	148
道雄	二· 三三	80
道海	八· 一〇一	110
道元	六· 七六	99
道顯	一六· 一九五	151

道公	九· 一〇九	113
道慈	二· 二八	78
道信	一六· 一九六	151
道寂	一四· 一七〇	140
道昭	一· 一一	70
道昌	三· 四三	85
道證	二· 三二	79
道乘	一九· 二三四	168
道璿	一六· 一九〇	148
道藏	九· 一〇六	112
道忠	一三· 一五九	135
道寧	九· 一〇六	112
道命	一九· 二三一	166
道隆	六· 七八	100
道詮	一六· 一九六	151
德一	四· 五一	88
德儉	六· 八三	102
德齊	一六· 一九五	151
德積	一六· 一九五	151
德滿	二九· 三六三	225
曇慧	一六· 一八九	148
曇敏	一六· 一八九	148
奈　行　な		
諾樂京女	二九· 三六〇	223
日藏	九· 一一三	115
丹生明神	一八· 二二三	163

仁海	四· 五〇	88
仁鏡	一一· 一四四	128
仁秀	一六· 一九六	151
仁耀	一二· 一五四	133
忍性	一三· 一六五	138
如意	一八· 二一五	160
如藏	一八· 二一八	161
如寶	一三· 一五九	135
波　行　は		
白山明神	一八· 二二二	163
秦武元	一七· 二一〇	157
範俊	一〇· 一三一	123
普照	一三· 一五八	135
普寧	六· 八〇	100
普門	六· 八二	101
福亮	一六· 一九〇	148
伏見翁	一五· 一八五	146
藤井久任	一七· 二〇九	157
藤原敦光	一七· 二〇三	154
藤原敦光女	一八· 二一九	161
藤原兼澄女	一八· 二一九	162
藤原太主	一八· 二二七	165
藤原常行	二九· 三六二	224
藤原經實妻	一八· 二一九	161
藤原時重	二九· 三六二	224
藤原永手	二九· 三五七	222

藤原仲遠	一七· 二〇四	155
藤原義孝	一七· 二〇一	153
藤原良相	一七· 二〇〇	153
佛蓮	一一· 一四一	127
佛哲	一五· 一八五	146
平願	九· 一一六	116
平忍	一一· 一三七	125
辯圓	七· 八四	102
遍昭	三· 四四	85
菩提	一五· 一八四	145
菩提達磨	一· 一〇	70
法員	一六· 一九六	151
法空	一八· 二二七	165
法心	六· 七六	99
法進	一三· 一五八	135
法勢	九· 一〇九	113
法道	一八· 二二五	164
法藏	四· 五五	90
法明	一八· 二一三	159
法蓮	一二· 一五三	132
豐安	一三· 一五九	135
峰延	九· 一一四	115
豐國	一六· 一九五	151
奉實	二· 三二	79
豐然	一四· 一七一	140
報恩	九· 一〇八	113

品慧	二· 三一	79
末　行　ま		
滿米	九· 一一二	115
王生良門	一七· 二一二	158
源顯基	一七· 二〇一	153
源親元	一七· 二〇二	154
源傳	一七· 二一〇	158
源俊房	一七· 二〇二	154
源雅通	一七· 二〇三	154
都良香	一八· 二二七	165
三善為康	一七· 二〇三	155
妙尊	九· 一一六	116
妙達	一九· 二三一	166
妙法	一八· 二一九	161
無空	一九· 二三五	168
明一	二· 三〇	79
明算	四· 六〇	92
明詮	二· 三〇	79
明尊	四· 六〇	92
明達	一〇· 一二七	121
明福	三· 三六	81
明遍	五· 七〇	96
明祐	一三· 一五九	135
明蓮	一九· 二三〇	166
文覺	一四· 一七四	141
文豪	一二· 一五五	133

也　行　せ		
益信	四· 四九	87
藥延	一七· 二〇八	156
藥智	四· 五一	88
山背大兄王	二九· 三五六	221
維範	一一· 一四二	127
餘慶	一一· 一三五	124
陽勝	一八· 二二六	164
陽生	一〇· 一三〇	122
良　行　ら		
賴真	一九· 二二九	166
理滿	一一· 一三四	124
琳賀	一一· 一四二	127
隆海	三· 四四	85
良源	四· 五三	89
良算	一一· 一四五	129
良真	一六· 一九六	151
良忍	一一· 一三九	126
良辨	二· 二九	78
了然	六· 八二	101
蓮照	一二· 一五六	134
蓮藏	一二· 一五二	132
蓮尊	一九· 二三〇	166
蓮長	一一· 一四〇	127
蓮入	一四· 一七〇	140
蓮防	一一· 一三八	125

和　　行　　わ		
和氣真綱	一七· 二〇〇	153

聯絡我們

財團法人
佛教電子佛典基金會（CBETA 基金會）
CBETA Comprehensive Buddhist Electronic Text Archive Foundation

service@cbeta.org
(02)2383-2182 轉分機 12
官網 https://cbeta.org/
CBETA Online https://cbetaonline.dila.edu.tw/
立即贊助 https://cbeta.org/quick-donate/

贊助資訊

CBETA 長年來陸續將歷代重要佛典數位化為「CBETA 電子佛典集成」，不僅收錄了大量的珍貴文獻，更致力於校勘考證用字及增添新式標點，提升佛典的文獻品質及易讀性。「CBETA 電子佛典集成」是大眾廣為運用的公共資源，此成果也獲得國際學界的重視及肯定。

對於一個從事佛法志業的非營利團隊來說，能夠長期埋首理想、踏實耕耘，實屬不易。為了提供更優質的服務，CBETA 基金會擬增聘專業人力，擴大組織規模，懇請大家慷慨解囊、熱情贊助，讓未來有更多更好的電子佛典。

贊助捐款

「水滴雖微，漸盈大器，凡福充滿，從纖纖積。」
—— CBETA 2024.R2, T04, no. 210, p. 565a5-6